講義科目名称：　医療・福祉・教育の基礎　　授業コード：S1000

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一・小林　義信・富澤　一央・塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 医療・福祉・教育に関わる専門職の基礎について学び、専門職者としての素養を身に付けることを目的とする。 的とする。 【到達目標】 ①医療・福祉・教育に関わる法・制度について理解・説明できる。 ②医療・福祉・教育に関わる専門職と、その役割ついて理解・説明できる。 ③ライフステージに応じた対象者の生活支援に関して、各専門職の取り組みを理解・説明できる。 ④対人コミュニケーションや多職種連携の重要性について理解・説明することができる。
授業の概要	人は生まれてから最期を迎えるまで、多様な生活を送る。医療・福祉・教育に関わる支援者の役割は、人々が必要な教育を受け、幸福で健康的な生活を送ることができるようにすることである。本講義では、乳幼児期から老年期にある様々な年代の対象者が、生き生きと生活を送るために、どのような専門職が、どのように治療・指導・援助に関わっているか演習を交えながら学ぶ。 また、治療・指導・援助の際には、対象者や多くの専門職とのコミュニケーション（多職種連携）が必要不可欠である。講義内で行われる、グループワークなどの演習を通し、人とのコミュニケーションの重要性についても理解を深めて欲しい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション／「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」（足立勤一） 【key words】 【授業概要】 本学の建学の精神である「仁」をもとに、「ボランティア活動」と「サービス・ラーニング」の基本について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	「障害について学ぼう」　-共生社会の実現に向けて-（小林義信） 【key words】 【授業概要】 障がいのあるなしにかかわらず、だれもが安心して幸せに生活できる共生社会の実現に向けて、障がいについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第３回	社会福祉士の専門性と連携（富澤一央） 【key words】 【授業概要】 社会福祉士の仕事と多職種と連携する時の情報共有の大切さ、人に伝える難しさを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	子どもの育ちに大切なこと（塚越亜希子） 【key words】 【授業概要】 子どもたちの笑顔と未来を守るために、今、改めて注目されている保育・幼児教育の重要性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	手術を受ける子どもへの関わり方（西山智春） 【key words】 【授業概要】 病院で子どもが医療行為により引き起こされる心理的混乱に対し、プレパレーションを通した説明の仕方を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	高齢者に対するコミュニケーション（剱持貴史） 【key words】 【授業概要】 ユマニチュードなどのコミュニケーション技法を通して、高齢者の心をつかむコミュニケーションについて学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	私の健康、備えあれば患え（うれえ）なし？（橋本いずみ） 【key words】 【授業概要】 自分の健康を守るためにどのようなことに気をつけていますか。健康を守るための仕組みや方法について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	医療者の目線から学ぶ救急止血処置 【key words】 【授業概要】 生体に不可欠な血液の種類と出血のメカニズムについて理解し、救急止血処置を医療者の目線で学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	ひとの身体と臨床における理学療法の役割（小林雄斗） 【key words】 理学療法士、リハビリテーション、役割 【授業概要】 医療、スポーツ、福祉など多岐にわたる領域で、理学療法士が実際にどのようなアプローチを通して現場で活躍しているかを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料　（事前に配布します） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	理学療法における治療テクニックと大学での学び（浅野貞美） 【key words】 骨、コミュニケーション、グループワーク 【授業概要】

	理学療法の基本的な治療テクニックを紹介します。また本学学生の様子を通して基礎科目の重要性を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　作業療法士から見る対象者の生活課題とリハビリテーション　（高坂駿） 【key words】 リハビリテーション、作業、作業療法 【授業概要】 作業療法士がリハビリテーションの中で果たす役割や、人の生活を構造的に捉える視点等について演習を通じてお伝えします。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の典型的な平日を思い出し、どんな活動が、どこで、誰と、どのように行われているか考えてきてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分程度 第１２回　臨床や地域における作業療法の実践　（牛込祐樹） 【key words】 作業療法、治療・支援、実践 【授業概要】 作業療法の概要を学び、作業療法士が対象の方々や社会の抱える課題に対して具体的にどのように取り組み、実践を行っているのかを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本作業療法士協会ホームページのピックアップコンテンツである「TEAM　OT」、「OTのスゴ技（作業療法士）」について、自身の興味のある内容を２つ読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分程度 第１３回　介護という生活支援学のススメ（清水久二雄） 【key words】 【授業概要】 バラエティに富む人の「生活」とそれを支援するために「生活する」ことを考えつつ、介護のエピソードからも学んでいきます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　コード・ブルーから学ぶチーム医療と医療情報（淡島正浩） 【key words】 【授業概要】 メディカルスタッフが連携・協働し,専門スキルを発揮するチーム医療と推進のために大切なことを学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　臨床検査技師の使命（半田正） 【key words】 【授業概要】 検査のスペシャリストとして、どのように医療へ貢献しているのか、学んでみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　臨床工学技士の仕事（秋山康則） 【key words】 【授業概要】 高度医療の現場で活躍する臨床工学の業務と、将来期待される可能性について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・本講義は、高大連携事業の一環で行われ、履修者は主に初学者（高校生）となる。 ・授業形態は、対面またはオンデマンドとなる。オンデマンドの場合は、PC、インターネット環境が必要となる。 ・予習復習をしっかりすること。

	・講義では、学びを深めるグループワークや演習も行うので、積極的にアクティビティに参加すること。 ・各講義の終盤には小テストを実施予定のため、聞き落としたことや質問は授業内にすること。 ・講義は前橋キャンパスを中心に行うが、専門分野についての学びを深めるために、看護学部（藤岡キャンパス）や、リハビリテーション学部（本町キャンパス）での講義も行う。 〔受講のルール〕 ・講義は特別な事情のない限り、欠席のないようにすること。 ・講義内外問わず、積極的に自ら調べたり、質問をすること。 ・講義中の私語など他学生に迷惑となる行為は禁止する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	オムニバス形式の授業のため、その単元の内容に関わるものは単元を担当した教員に、なるべくその場で質問をすること。
授業外時間にかかわる情報	授業を受ける前に必ずシラバスを確認して、授業内容の把握や予習を進めておくこと。 また、分からないことを解決したり、授業で扱った内容の理解を深めるため、自ら調べ学習を進めること。
オフィスアワー	講義時に指示する。
評価方法	各講義終了時の試験を総合して評価する。（100%）
教科書	講義内で適時資料配布する。
参考書	講義内で適時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 哲学　　授業コード：S1015

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
鈴木　利定			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「人間とは何か」　我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。
授業の概要	孔子は人間にいかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近は礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代における礼のあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を説くことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する傾向すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画		
	第１回	科目オリエンテーション / 論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きなる者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について。
	第２回	政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。
	第３回	教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について。
	第４回	大学の道についての孔子の説明。大学辛句（右経一章）　明徳を明らかにするを釈く。民を新に釈く。（右伝の三章、右伝の二章）
	第５回	至善に止まるを釈く。本末を釈く。（右伝の三章、右伝の四章）　心を正しくして身を脩めて、家を斉う。（右伝の七章、右伝の八章）
	第６回	家を斉へて国を治むるを釈く。（右伝の十章）　朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。（中庸章句序）
	第７回	道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。（右章第四章、五章、六章）
	第８回	顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。（右第七、八、九章）

	第９回　国に道あると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。（右第十、十一章） 第１０回　孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。（右第十九章） 第１１回　よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。（右第二十章） 第１２回　孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 第１３回　孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。孟子、荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 第１４回　老荘思想においては、人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 第１５回　老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。
受講生に関わる情報および受講のルール	成績評価は、試験・レポート・出席状況を監み、一度も休みのない者については、成績としては十分な評価を与える。出欠席は重視する。理由なくして欠席、遅刻の多い者（二回以上の者）は成績評価を受ける資格を失う。欠席の虚偽申告（代返等）をした者は単位を認めない。講義中のノート筆記は必ず行い、質問に対して的確な解答ができるよう努める。私語は厳禁。注意を促し、場合によっては退出を命ずる。再試は1回のみ。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストの予習・復習をすること。
オフィスアワー	火曜日 10:30～12:00
評価方法	■筆記試験（□論述 □客観）　■レポート　□口答試験　□実地試験　□その他 評価配分：成績評価は、試験（60%）・レポート（20%）・授業取組み状況（20%）を鑑み、評価を与える。
教科書	鈴木利定著「儒教哲学の研究－修正版」（明治書院）　　咸有一徳（中央法規）
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 道徳教育　　授業コード： S1091

英文科目名称： moral education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会の一員として人は他者と協力し共存しながら生活をしていきます。では、どのようにすれば自他ともによりよい生活を送ることが可能でしょうか。それは人が誰しも心の奥に存在する「人間らしくよりよく生きよう」とする小さな声、つまり道徳心を構築することから始まります。この講義では道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神（儒学の「仁」）と関連しながら解説していきます。また、小・中教員免許の習得を目指す学生のために、どのように道徳の授業を厚生・展開するのかを、テキスト以外にも身近な事例話題をもとに指導案の作成などを通して指導力に育成に当たります。 【到達目標】 ・自覚的に道徳心を養おうとする態度を身につけ、感情ではなく道徳的判断を可能としその道徳的判断を論理的に説明できる。 ・児童・生徒の発達段階に即した道徳の授業を計画し、系統的に授業ができる。
授業の概要	・人はどのような時に道徳心を発揮するのか、テキスト掲載の中国古典を例に学生との議論や解説を通じて考察する。その過程を経ることにより、人としてのあり方・生き方について自ら学び、積極的に社会に参加できる力を養う。 ・児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくかを討論から考察する。 ・道徳や倫理に限らず、考察の根本は先ず「知る」ことです。そして「知る」ための手段が読書です。課題図書や読書に関する発表やレポートを課します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	授業オリエンテーション（講義内容・方法・授業時の留意事項・評価）ハチドリのひとしずく（事象の論説・事実把握・論述すること） 【key words】 受講の際の注意事項　はちどり　自分にできること 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明します。ハチドリのひとしずくをを読み、どのように感じたか書いてもらい、発表をしてもらいます。何人かに発表をしてもらった後に傾向を分析し、人間の道徳的判断の基準について解説していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します 【課題・予習・復習・授業準備指示】 初回は特にないが、遅刻をしないこと。 【予習復習に必要な想定時間】 初回はなし。
	第２回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅰ 【key words】 咸有一徳　仁　習慣 【授業概要】 これから２週にわたり、「若きみなさんへ」を読んでいきます。この訓話はテキスト『咸有一

		徳』及び本学教育方針のエッセンスです。この訓話が理解できれば本学の精神のおおよそは理解できたと言っても過言ではないでしょう。この回では「咸有一徳」の意味と「躾と習慣」についてともに考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１３～Ｐ２６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておくこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第３回	咸有一徳とは　学長訓話「若きみなさんへ」Ⅱ 【key words】 古典　論語　仁　建学の精神 【授業概要】 訓話「若きみなさんへ」の後半です。教養を身に付ける方法はいくつもあるでしょう。しかしその中でも読書、なかんずく古典を読むことは、オーソドックスな身に付け方ではないでしょうか。この回では、本学の建学精神とも関わる、中国の古典『論語』を例に教養について考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２６～Ｐ３７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第４回	「仁」とは何か　「真心」とは何か 【key words】 仁　真心　惻隠の心　四端 【授業概要】 「仁」の意味を一言で述べるのは実に難しいことです。それは『論語』の中で孔子が仁の意味を定義せず、場面場面で違うことを述べているからです。しかし、それでも最大多数的に述べることは可能です。この回では論語に現れた「仁」を分析し、どのような意味が付与されているのか、そして私たちに「仁」は何を要求しているのか。「真心」という言葉とともに考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３９～Ｐ５６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。くこと。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第５回	「至誠」とは何か 【key words】 至誠　尽くす　儒教　儒学 【授業概要】 「至誠」とは「真心」の漢語的表現です。至誠なればこそ人を動かすことが可能なのです。中国古典によれば、人間も本来は善≒至誠なのですが、そのようになれないのは何故なのでしょうか。「至誠」という言葉をキーワードに中国古典の中から考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ５７～Ｐ７０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず参考文献に挙げてある辞書類で調べておいてください。これらの辞書類は図書館に備わっています。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第６回	家庭生活の基本マナー　福祉界が望むマナー（儒学における関係古典文献より考察） 【key words】 家族　あいさつ　服装　ホウレンソウ 【授業概要】 社会は人と人との関係で成り立っています。お互いが快適に生活するための礼儀作法、それがマナーです。マナー違反は罪ではないですが悪にはなります。それは他人をして不愉快にするからです。お互いが快適に生活するためにどのようなマナーを身に付けなくてはならないのか。この回では家庭と多くの学生が就職するであろう福祉界を例に考えていきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ７１～Ｐ８６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第７回	ボランティアにおける品位あるマナー　学校生活における品位あるマナー（中国古典、先達の言葉から考察） 【key words】 ボランティア　礼儀　あいさつ　学校生活　服装　環境美化活動 【授業概要】 私たちはボランティア先で、学ばせてもらう立場の者です。したがって、ボランティア先で失礼な言動や礼儀に欠けた行為をすることは断じて許されません。快く受け入れてもらい、お互いが気持ちよく作業するためのマナーをここでは学びます。また、学校生活におけるマナーについて考えて生きます。「親しき仲にも礼儀あり」ということわざが示すように、友人同士でもマナーは必要です。また先生に対する「礼」というのも重要です。友人や先生にどのように接するべきなのか考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】

		『咸有一徳』P87～P102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 敬語の使い方を高校までに使用した便覧等を用いて復習しておくこと。講義前に教科書の該当部分を必ず読み、意味不明瞭な言葉に当たったら、必ず図書館にある各種辞書類で調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第８回	咸有一徳の振り返り　芥川龍之介「桃太郎」を利用した道徳教育 【key words】 咸有一徳、儒学　仁 【授業概要】 前回までの学んだ内容を復習します。本学では建学の精神とのかかわりから、儒学を教科書『咸有一徳』を通じて学んでいます。教科書に出て来た「仁」を代表とするテクニカルターム（術語）を他者に説明できるようにしてください。次回以降、小中高における道徳について講義していきます。どのように道徳の授業準備をしていくべきなのか、芥川龍之介「桃太郎」を例に講義していきます。 【教科書ページ・参考文献】 最初～Ｐ１０２　芥川龍之介「桃太郎」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで扱った部分を読んでおくこと。青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）に収録されている芥川龍之介「桃太郎」を講義前までに必ず読み、紙にダウンロードしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第９回	小学校・中学校学習指導要領に示された「道徳」－各年代における位置づけ－、明治以降の教育界における道徳教育の変遷 【key words】 修身　道徳　学習指導要領 【授業概要】 この回より５週にわたり、学習指導要領に記されている「道徳」について考察していきます。戦後教育において「道徳」がどのように位置づけされてきたのか。また近代以降の日本の公教育の変遷について概説しますを考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布します。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『学制百年史』（文部科学省のホームページに全文が掲載されています）から日本における公教育変遷の概略を理解しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１０回	小学校・中学校における道徳課題について 【key words】 小学校学習指導要領　中学校学習指導要領　特別の教科　道徳 【授業概要】 小学校では平成３０年度から、中学校では平成３１年度から道徳教育の教科化が始まりました。小学･中学生にはどのような道徳的課題があるのでしょうか。また教師としてどのように日常生活で生徒に接するべきなのか考えてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領の中から関連部分を抜き出したプリントを配布します。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 その日のうちに、講義で触れた学習指導要領の部分を再度読み直し、意味を定着させてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１１回	道徳課題に基づき指導案を作成してみる 【key words】 指導案作成　足袋の季節 【授業概要】 次回以降の模擬授業に備え指導案を作成してもらいます。指導案・模擬授業で使用する題材は、中学校「道徳」の教科書に必ず収録されている「足袋の季節」です。どのようにして生徒み多面的な発想をもたらし、また道徳心を育むか。グループに分かれ指導案を作成し、次週以降の模擬授業に備えてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 「足袋の季節」はプリントを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『学習指導要領』の授業を進める際の注意点をよく読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１２回	模擬授業 【key words】 指導案　模擬授業　足袋の季節 【授業概要】 各班が作成した指導案に基づき「足袋の季節」の模擬授業をしてもらいます。模擬授業を見ている側にも、問題点の指摘や、参考になった点を発表してもらいます。発表･見学ともに積極的に参加して意見を出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１３回	続模擬授業、総括（総括に基づき訂正の上、指導案を提出してもらいます） 【key words】

	指導案　模擬授業　足袋の季節 【授業概要】 前回に続き発表してもらいます。発表済みの班はこの日に訂正を加えた指導案を提出してもらいます。（この日、発表の版は次週に提出）指導案を作成したままでなく、見直し・訂正を加えた上で各班に提出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 前回配布済みの「足袋の季節」を持参してください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各班で計画を立て練習をして、当日の発表に臨んでください。また発表の終えた班は訂正の上、次週提出をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１４回　夏目漱石『坊っちゃん』から、教師のありかたを考える 【key words】 夏目漱石　坊っちゃん　教師のあり方 【授業概要】 教師を題材とした文学作品で有名なものに夏目漱石の『坊っちゃん』が挙げられます。この作品は漱石自身の松山中学での教師生活が下敷きにあります。主人公の坊ちゃんが教師としてなぜ成功しなかったのか。クラス運営等を含め、作品の中から教師のあり方を探っていきます。 【教科書ページ・参考文献】 夏目漱石『坊ちゃん』（新潮文庫・岩波文庫等） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 『坊っちゃん』を授業が始まる前までに必ず読んでおくこと 【予習復習に必要な想定時間】 ２時間～４時間 第１５回　時事問題の考察・発表・解説（人としてのあり方・生き方を考える） 【key words】 時事問題 【授業概要】 最近の入社試験における時事問題は、答えのない時事問題を出す企業が増加しているようです。情報化社会において知りたい情報は直ぐに手に入りますが、手に入れた情報をどう分析し活用するかは、その人の思考力にかかっています。答えが一つでない問いに対し、どのように答えるか。時事問題について考察し提出してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 各自が一週間前後の新聞記事から、気になった話題を選んできてください。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 気になった新聞記事について、相手にどのようにわかりやすく発表するか。家で400字から600字でまとめてきてください。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間～２時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意をしてもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・道徳に関する問題について、毎回受講生に議論と意見を表明してもらいます。道徳は他人の問題でなく、自分の問題です。また学生諸君に課題を出しますので積極的・能動的に取り組むこと。 ・シラバスは講義の進行状況によって変わることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。 ・社会は人間相互の道徳心で成立していることを、新聞・ニュース等を契機として自分の頭で考えること。 ・１年生のうちに文庫本・親書100冊以上を読みこなすという気合を持つこと。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　課題１５％　発表１５％
教科書	鈴木利定・中田勝著『咸有一徳』修訂第３版、中央法規、2020年5月
参考書	『岩波哲学・思想事典』岩波書店、1998年3月『中国文化史大事典』大修館書店、2013年5月『中学校学習指導要領（平成29年告示）』『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』『小学校学習指導要領（平成29年告示）』『小学校学習指導要領解説（平成29年告示）解説　特別の教科 道徳編』夏目漱石『坊っちゃん』（新潮文庫、岩波文庫等）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 健康論　　授業コード：S1111

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、自らの健康観に基づく取り組みを、地域社会の健康施策と連携し、健康生活を実現することを図る。特に、日常生活の心身のを通じて、健康を増進し疾病を予防する「一次予防」に焦点をあて、日常生活に取り入れられるよう、さまざまな工夫と方法を習得する。 【到達目標】 ①個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めることができる。 ②日常的に栄養･休養･運動を積極的に取り入れ、健康生活の向上を図ることができる。 ③生涯を通して自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てることができる。
授業の概要	健康の意義、疾病やその対処法、心の健康とその保持、社会と健康の関わり、健康の自己管理、体力つくりの方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　健康を考える（意識、意義、人間の幸福） 【key words】 WHOの健康の定義 【授業概要】 シラバスの説明、「健康」を考えるをテーマに、健康の社会的マネジメント（健康を社会問題として考える、健康マネジメント施策の歴史と展開、ヘルスプロモーション）を学び、健康を考えることの大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識一　ｐ1-7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ヘルスマネジメント」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	ヘルスマネジメント論（我が国の動向、健康の個人的マネジメント） 【key words】 健康政策　健康管理 【授業概要】 わが国の動向（健康づくり政策、健康増進政策と個人の身体運動との関わり）、健康の個人的マネジメント（運動不足を生む現代的背景、健康と運動、“運動不足病”の始まり、分銅不足がもたらすもの、健康をつくるということ）を学び、健康管理の大切さを習得する。 【教科書ページ・参考文献】

教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 8-p22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「生活習慣」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　疾病予防論（生活習慣病）
【key words】
疾病　生活習慣

【授業概要】
生活習慣病（がん、循環器疾患、高血圧、心血管疾患、脳血管疾患、糖尿病、高脂血症、生活習慣病を予防するライフスタイル：運動、栄養、喫煙、飲酒、休養、・睡眠など）について学び、、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：　「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 23-p34
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「感染症」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　疾病予防論（感染症）
【key words】
疾病　感染症

【授業概要】
感染症（近年の感染症の動向と感染症の発症要因、主な感染症とその対策、かぜ、とインフルエンザ、結核、ＨＩＶ，ＡＩＤＳ、感染経路、話題になった感染症）、について学び、日常生活で予測される疾病を取り上げ、その対処方法について習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 35-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「メンタルヘルス」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　メンタルヘルス論（精神の正常と異常、心身相関、精神障がいの分類）
【key words】
精神衛生　健康管理

【授業概要】
精神の正常と異常（健康と病気、正常と異常、事例性）、心身相関（心身相関の問題、脳と精神現象、精神心理学、ニューロンと精神伝達物質）、精神障害の分類（伝統分類、操作的分類）について学び、心の健康とその保持を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 44-p52
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「青年期の心性と身体」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　メンタルヘルス論（青年期の身体と心性、青年期に多い精神障がいとその治療）
【key words】
精神衛生　健康管理

【授業概要】
青年期の身体と心性（青年期の身体変化、青年期の心性）、青年期に多い精神障害とその治療（青年期の主な精神障害、疾病分類以外の視点からの状態像分類）、精神の健康増進と予防（キャンパス内、大学保健管理センター）について学び、心の健康とその保持について習得する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 53-p70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「体力」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　体力論（体力、体力診断、青少年の体力、青少年の体力、加齢と体力）
【key words】
体力

【授業概要】
体力となにか（体力の概念、体力の分類、体力と健康とのかかわり）、体力診断（意義、歴史、新体力テストの概要）、青少年の体力（発育・発達と体力、体力の性差、体力の年次変化、運動

		習慣と体力）、加齢と体力（加齢の影響、加齢と体力の個人差、暦年齢と体力年齢）を学び、体力の把握とその増進方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 71-p96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「運動のプログラム」など経験したことをまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	運動プログラム論（身体運動プログラムの考え方、運動の実際） 【key words】 運動プログラム 【授業概要】 運動プログラムの考え方（意義、効果的な運動、プロセス、運動プログラムの自由度、運動の自覚的効果）、運動処方の実際（心肺機能を高める運動、筋力と筋持久力を高める運動）、運動処方の現実と課題を学び、具体的な体力増進のための方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 97-p114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「スポーツと健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	スポーツと健康論（スポーツと寿命、スポーツとスキル、運動スキルの学習） 【key words】 運動　スキル 【授業概要】 スポーツと健康をテーマに、スポーツと寿命（アスリートの寿命、運動と寿命）、スポーツとスキル（アスリートのスキル、スキルの個人差）、運動スキルの学習（運動スキルの学習と転移、ゴールデンエイジとシナプスの可塑性、運動システムとミラーシステム）を学び、個々の健康つくりにスポーツの大切さと応用方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー　　p 115-p132 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「運動文化」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	運動文化論（身体運動と文化、運動･スポーツの文化と思想、現代のスポーツ･身体運動） 【key words】 運動　文化 【授業概要】 身体運動と文化（身体運動に対する視線、今日の健康ブームと身体観）、運動・スポーツの文化と思想（古代ギリシャ・ローマ時代の身体運動文化、中世・近世の身体文化、西洋の身体運動文化、日本における身体運動文化、中東の身体運動文化）、現代のスポーツ・身体運動（文化としてのスポーツ・身体運動、レジャーとしてのスポーツ）について学び、運動の持つ文化性に着目し運動の意味を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　一健康･運動･スポーツの基礎知識ー p 133～143 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「生涯スポーツ」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	生涯スポーツ論（スポーツ行政と地域スポーツ） 【key words】 スポーツ基本法　総合型スポーツクラブ 【授業概要】 生涯スポーツと健康生活の推進について、スポーツ基本法の生涯スポーツ振興施策で、種目の多様性、多世代、指導者、会員が集う拠点施設、自主的運営を掲げ、地域に根ざした自主的運営型・複合型スポーツクラブとして「総合型地域スポーツクラブ」を推進していることを学び、これからの健康つくりに地域住民が主体的に運営する生涯スポーツクラブの推進が重要であることを習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）スポーツ基本法　総合型地域スポーツクラブ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「職と健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	食の健康論（食生活の推移、各栄養素の役割、ＰＦＣバランスと健康、スポーツと運動） 【key words】 食　食育　健康　スポーツ 【授業概要】 日本人の食生活推移（食生活の変遷、食品群別摂取量の年次推移、エネルギー産生栄養素の年次推移、食料自給率、和食文化）、各栄養素の役割、食に関する日本の政策（食事摂取基準、食生活指針、食事バランスガイド、日本人の長寿を支える「健康な食事」のあり方）、ＰＦＣバラン

	スと健康（日本型食生活、ＰＦＣバランスと減量効果、糖質制限と健康）、スポーツと栄養（栄養摂取とリカバリー、運動パフォーマンスと栄養摂取）を学び、食生活のスポーツとの関連を習得する 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ーｐ149～169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「職と健康」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の基礎理論と実践） 【key words】 身体運動　リズム　健康 【授業概要】 ラジオ体操皆の体操の基礎理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・皆の体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ラジオ体操」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　健康つくりと運動（ラジオ体操・みんなの体操の応用理論と実践） 【key words】 身体運動　リズム　健康 【授業概要】 ラジオ体操・みんな体操の応用理論と実践を通じて、身体運動の正しい動きの仕組み、運動の組み合わせと実施方法、運動中の留意点等を学び、ラジオ体操・みんなの体操の理解と指導方法を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：（資料）参考文献:　ラジオ体操教則本　日本郵政公社　日本ラジオ体操連盟 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「ラジオ体操、みんなの体操」についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 健康　運動　栄養　休養 【授業概要】 現代の健康つくりに係わる様々な問題を取り上げ、現在あるいは未来に向かって生きていくためにどのように考えていけばよいのか質疑応答をおこなう。個々の健康つくりについて自己評価をおこなう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：「大学生のための健康論」　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー　ｐ176-p183 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身の健康つくりについてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントカードを使用
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	新聞、ニュースなどで最新の健康情報に関することはメモをしておくなど、特に意識するよう習慣づけること。
授業外時間にかかわる情報	講義の初日に周知する　　他の時間の希望時は随時相談。
オフィスアワー	筆記試験（70%）　日常の健康管理や授業への取り組みなどの平常点（30%）　総合評価で60%以上
評価方法	電気通信大学健康・スポーツ科学部会編：　大学生のための「健康」論　ー健康･運動･スポーツの基礎知識ー：　道和書院：　2018
教科書	健康・体力つくり財団：「健康日本21」　2010
参考書	笹川スポーツ財団：「スポーツ白書」2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（学校体育、生涯スポーツ指導）4年、群馬県スポーツ振興事業団健康スポーツ課指導主事（県内市町村の健康スポーツ普及指導）群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐（県内市町村の健康スポーツ指導）2年、群馬県知事部局（障害福祉・社会福祉・保健福祉）、群馬県社会福祉事業団、群馬県立ふれあいスポーツプラザ次長・指導課長5年（高齢者・障がい者の健康・スポーツ指導に当たる）群馬県教育委員会教育長表彰（保健体育）群馬県障がい者スポーツ指導者協議会会長（現在）

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： スポーツ及びレクリエーション実技　　授業コード：S1121　S1122

英文科目名称： Sports and RecreationPractical Skill Training

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」レクリエーションプログラムの習得と企画や運営、指導技術を身につける。学びを通して、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用し、福祉施設、病院、学校教育の現場等で対象者や目的に合わせた支援活動できるようになることを目的とする。 [到達目標] 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	レクリエーションの楽しさを知り、ゲームや歌、集団遊び、スポーツといったアクティビティを効果的に活用したレクリエーション支援の技術を習得する。そのための指導理論、組織論、事業論などの学習を通じ、支援者(指導者)としての実践力を高める。レクリエーションインストラクター資格取得のための科目である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・レクリエーションの理解 【key words】 レクリエーション 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ指定体育着、体育館シューズを着用し装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P4～8 学習課題の概要を確認しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｱｲｽﾌﾞﾚｰｷﾝｸﾞとして相応しい材料を検討しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション活動の習得 レクリエーション支援のためのゲーム 【key words】 アイスブレーキング 【授業概要】 集団の雰囲気を和らげ、無理なく、無駄なく、快く活動が進められるようなアイスブレーキングを実践し、その効果を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P66

【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニケーションゲームを実践したが、どのような効果があったのか確認しておくこと。次回は室内でできるレクリエーションを実践するがどのような活動があるか考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のためのゲーム対象に合わせたアレンジ方法①
【key words】
アレンジ
【授業概要】
対象にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。あわせて「環境の設定」についてその用法を学ぶ。様々な「アレンジ」手法を知るとともに、基本となる「段階的なアレンジ法」を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材・アクティビティの中から段階的なアレンジ法を活用したアレンジに取り組んでみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　段階的に成功体験をしやすくするアレンジの基本と応用
【key words】
アレンジの方法

【授業概要】
アレンジ例を通してもともとの素材・アクティビティを最初の段階と位置付け、それを楽しむことで個人と集団の土台に、効力感を高めやすい付け足していくという原則を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アレンジ方法を用いて中高年向けの健康体操などをアレンジしてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション活動の習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム　　歌
【授業概要】
室内でできるレクリエーションゲーム実践する。歌を歌いながら体を動かす支援の方法及び２重課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象者にとって快適な遊びの提供とは何かを考えておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動　新聞紙を使ったレクリエーションゲーム(実践)
【key words】
アイスブレイク　集団ゲーム
【授業概要】
新聞紙を使った遊びについて理解する。新聞紙を使用するだけで様々なゲーム　遊びができることを確認する。子どもから高齢者まで楽しめるアクティビティについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分にはどんなレクリエーションが提供できるか考えておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第８回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第９回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　(企画案の評価及び好評)
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
アレンジ　キンボール
【授業概要】
対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
アレンジ　キンボール
【授業概要】
対象者にあわせたレクリエーション・ワークの全体像を理解する。様々なアレンジの手法を知ると共に、基本となる「段階的なアレンジ法」を体験して理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。

【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１３回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第１４回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　(企画案の評価及び好評)
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。

【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　前期の振り返り　まとめ
【key words】
レクリエーション支援
【授業概要】
前期の授業の振り返りとレポートについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期レポート指示を確認し振り返りを行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する
【教科書ページ・参考文献】
参考書P25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための歌
【key words】
リズム、地域文化伝承、地域貢献
【授業概要】
前橋だんべえ踊りについて実践する。基本、サンバ、ファンク等のバージョンの一連の流れの確認と地域のおける文化伝承、お祭り、行事等のレクリエーションについて理解を深める。リズムと心の高揚の効果について理解する
【教科書ページ・参考文献】
参考書P25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
積極的な参加を心がけること
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　①あたたかくもてなすという意識と配慮
【key words】
ホスピタリティ、コミュニケーションワーク
【授業概要】
レクリエーションの提供を効果的に行うためには、対象者との良好なコミュニケーションが欠かせないことを理解する必要がある。そのためのホスピタリティについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常の生活の中でホスピタリティについて意識してみる。そこから良好なコミュニケーションの取り方を実践してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　レクリエーション支援の方法　信頼関係づくりの方法・ホスピタリティ　②対象者の気持ちを受け止めていることを伝える技術
【key words】
ラポート　ジョイニング　トラッキング　アコモデーション　マイム
【授業概要】
対象者との良好なコミュニケーションをとるために信頼関係を成立させる必要性やそのための技法をについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日常生活の会話の中で信頼関係が築かれている状態とはどのようなものか。ラポートの成立している状態等について意識してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
ユニバーサルホッケー
【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回も同様の活動を行うので競技ルールの確認を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　レクリエーション活動の習得　モデルプログラムの習得　レクリエーション支援のための様々な活動
【key words】
ユニバーサルホッケー
【授業概要】
ユニバーサルホッケーはいつでも・どこでも・誰でも楽しめるスポーツとして愛好されること知る。このスポーツは、安全生が高く、年齢・性別を越えて幅広くプレイできるのが特徴を理解しながら実践活動を進める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象者が快適に楽しめる工夫について検討しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング
【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２３回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践）
【key words】
レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
参考書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。
【予習復習に必要な想定時間】
2時間

第２４回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　（企画案の評価及び好評）
【key words】

レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング

【授業概要】
レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～206
【課題・予習・復習・授業準備指示】
反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　レクリエーション支援の方法　良好な集団作りの方法・アイスブレーキング　集団がまとまる仕組みを活かすプログラム　アイスブレーキングモデル
【key words】
よりより生の実現
【授業概要】
レクリエーション支援の目的が対象者のよりよい生の実現につながることを理解する。目的に合わせて、レクリエーション支援を展開するイメージを確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70　参考書P274
【課題・予習・復習・授業準備指示】
CASE STUDY の事例を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　レクリエーション支援の方法　自主的、主体的に楽しむ力を高める展開方法　対象者の相互作用を促進するコミュニケーション技法の活用方法（CSSプロセス）
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス

【授業概要】
支援者の願い＝対象者の生活課題の充実に向けて、様々な支援の「素材・アクティビティ」を選択し、展開していく際の原則的な考え方を理解する。併せて、実際の選択時に参考できる既存の

	「素材・アクティビティ」の分類方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P78　参考書　P278～P287 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２７回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-1（制約のある空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第２８回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-2（制約のない空間での支援方法/企画案の発表及び実践） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーション計画の基本的な考え方に基づき、支援実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践活動となるので支援者は参加者に快さ、快適さ、楽しさ等を提供すること。参加者は積極的に参加することを心がけること。 【予習復習に必要な想定時間】 2時間 第２９回　レクリエーション支援の実施　プログラムの実施と評価及び改善①-3　（企画案の評価及び好評） 【key words】 レクリエーション実践活動　支援　ホスピタリティ　アイスブレーキング 【授業概要】 レクリエーションを企画し、実施、運営を行ったことについての評価及び反省会を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 参考書P162～206 【課題・予習・復習・授業準備指示】 反省会での指摘事項は今後の実践活動を行う上で、参考となるのでしっかりとまとめておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　1年間の振り返り　まとめ 【key words】 レクリエーション支援 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 試験に向けて配付したプリントを確認しておくこと 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	・レクリエーション活動(実技)を行う場合は、指定体育着、体育館シューズを着用すること。 ・装飾品や爪など活動時に支障とならないようにすること。 ・積極的に授業に取り組むこと。また支援者として好感のもてる態度、身だしなみを心掛けること ・実技活動、グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。 ・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・日頃からレクリエーションに関する情報を新聞、雑誌、テレビ　インターネット等で収集するよう心がけること。 ・地域で行われているレクリエーション活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	月曜日　5時限　（変更時は掲示する）
評価方法	評価の基準：到達目標の達成度を評価する。 評価の方法：筆記試験50%　ﾚﾎﾟｰﾄ等提出物(活動企画書)20%　実技30%　として総合的に評価す

	る。
教科書	楽しさをとおした心の元気づくり　レクリエーション支援の理論と方法 (財)日本レクリエーション協会
参考書	必要に応じて紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 地域においてスポーツ活動指導の経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　情報処理演習　　授業コード：S1132　S1134

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 演習を中心として、情報リテラシーの理解や情報利活用能力を高め、レポート・論文の作成やプレゼンテーション、データ分析などに生かせるようにすることを目的とする 【到達目標】 ①パソコンの基本的な操作を理解する ②基本的な情報の利活用（収集・分析など）ができる ③Microsoft Wordでレポート等の文章を作成できる ④P検3級の試験を受験できる ④Microsoft Excelでデータの集計や分析を行うことができる ⑤Microsoft PowerPointでプレゼンテーションができる ⑥情報セキュリティや情報モラルについて正しく理解できる
授業の概要	授業を通し、情報リテラシーを理解し、情報利活用能力を高め、レポート・論文などの各種の文書を作成したり、基本的なデータ分析を行ったり、プレゼンテーションを行ったりすることができるようになることを目標とする。 また、パソコン検定の「P検」の3級レベルを受験できる程度の知識と技能を得られうようにする

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　オリエンテーション、パソコンの基本操作 【key words】 情報リテラシー、パソコンの基本 【授業概要】 情報リテラシーの必要性や、情報処理とパソコンの関係などを学習する ・講義のオリエンテーション ・情報リテラシーの必要性 ・情報を利活用する上でのパソコンの役割 ・パソコンの基本操作（キーボードの使い方など） 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・情報リテラシーの基本を復習する ・キーボード入力を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　情報の収集と利用 【key words】 インターネット、検索、図書館 【授業概要】 レポート作成などの元となる情報の収集や利用の方法を学習する ・主な情報源(新聞、書籍、インターネット、etc) ・インターネットの仕組み

・ホームページの検索(Google)
・インターネットの主な情報源(統計データ、WikiPediaなど)
・図書館の蔵書の検索
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・ホームページで各種の情報を検索する
・図書館で必要な蔵書を検索する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　レポート・論文の作成(1)
【key words】
レポート、論文
【授業概要】
レポートや論文を作る基本的な流れを学習する
・レポート・論文の基本(作文との違いなど)
・レポートの構成の立て方(アウトラインを作ってから詳細に進む)
・Wordでの文書作成の基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テーマを立ててレポートの構成を考え、それをWordで入力する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　レポート・論文の作成(2)
【key words】
書式、構成
【授業概要】
レポートや論文を構成する各種の項目と、それをWordで作成する手順を学習する
・基本的な書式の設定(ページ書式、文字書式、段落書式)
・文書の構成を整える(箇条書きなど)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
適切な書式設定を行い、読みやすいレポートを作成する練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　情報の分析や可視化(1)
【key words】
Excel、表、分析、可視化
【授業概要】
情報の分析・可視化のツールとなるExcelの基本を学習する
・情報の分析・可視化とExcelの関係
・Excelでの情報管理の基本(データの入力・整理など)
・Excelでの基本的な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで情報を管理する練習をする(各種のデータの入力や整理など)
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　プレゼンテーション(1)
【key words】
プレゼンテーション、PowerPoint
【授業概要】
プレゼンテーションの一連の流れや、資料作成の基本について学習する
・プレゼンテーションの流れ(準備作業、資料作成、発表など)
・資料作成前の準備(データ収集、構成の検討、会場設備の確認など)
・PowerPointでの資料作成の基本(スライド作成、書式設定など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プレゼンテーションのテーマを立てて、実際にプレゼンテーションすることを想定して準備作業などを行う練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　レポート・論文の作成(3)
【key words】
表
【授業概要】
レポートや論文の中で表を使って情報をまとめる場面は多いので、表の作り方を学数する
・表の作成とデータ入力
・表の操作（行／列の挿入、削除、コピー、セルの結合など操作)
・表の書式設定(罫線、網掛け、文字配置など)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表を作る練習をしてWordやPowerPointでレポートや論文を作る際に活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　レポート・論文の作成(4)
【key words】

		図形、写真、ワードアート、スマートアート 【授業概要】 レポートや論文に図や写真を入れる場面も多いので、それらの扱い方を学習する ・図形の挿入と書式設定 ・図や写真の挿入 ・図等のレイアウト ・ワードアート(特殊なレイアウトの文字の並び)の挿入 ・スマートアート(よく使いそうな図)の挿入 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図形や写真を含む文書を作る練習をしてレポートや論文を作る際に活用する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	レポート・論文の作成(5) 【key words】 改ページ、表紙、ヘッダー、フッター、スタイル、目次 【授業概要】 レポートや論文を仕上げる際に行う作業について学習する ・レポートの推敲(文章を読み直す、誤字脱字のチェック、不備がないかどうかのチェックなど) ・改ページの挿入 ・ヘッダー(上余白)とフッター(下余白)の利用 ・スタイル(書式の組み合わせ)の利用と設定 ・目次の作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 レポートを美しく仕上げる練習をする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	情報の分析や可視化(2) 【key words】 棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ 【授業概要】 多くの情報をグラフで可視化する方法を学習する ・棒グラフの作成 ・グラフ要素の追加軸ラベル、データラベルなど）と書式設定 ・折線、円グラフの作成 ・複合グラフの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グラフの作成を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	情報の分析や可視化(3) 【key words】 計算、集計、分析 【授業概要】 多くの情報を分析する際の基本となる計算や関数の使い方を学ぶ ・Excelでの計算の基本 ・データの集計(合計、最大値、最小値など) ・データ分析の基本(平均、標準偏差など) 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 数式や関数を使った計算を練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	プレゼンテーション(2) 【key words】 アニメーション、動画 【授業概要】 聞き手にとって分かりやすいプレゼンテーションを行うための手法や、それをPowerPointで実現する手順を学ぶ ・動きのあるプレゼンテーションの作成(アニメーション、画面切り替え) ・プレゼンテーション内での動画や音声の利用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 動きのあるプレゼンテーションを作れるように練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	プレゼンテーション(3) 【key words】 発表、練習、アフターフォロー 【授業概要】 プレゼンテーション直前、当日、そして終了後に行うことや、それらに関するPowerPointの機能を学習する ・プレゼンテーション前の準備(発表の練習、発表時間の測定と発表内容の調整など) ・プレゼンテーションでの話し方(視線誘導、ジェスチャーなど) ・アフターフォロー(プレゼンテーション後の資料の配布など) 【教科書ページ・参考文献】

スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際のプレゼンテーションを行えるように練習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　文書等の活用と管理
【key words】
コピー、貼り付け、ドライブ、フォルダ、ファイル
【授業概要】
レポートや論文を作る際に、アプリケーション間でデータをコピーしたりなど、各種の作業が必要となるので、それらについて学習する
・アプリケーション間のコピーと貼り付け
・ドライブ／フォルダ／ファイルの概念
・フォルダ／ファイルの操作（コピー、移動、削除など）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アプリケーション間のデータのやり取りを練習する
ファイル操作に慣れる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　情報セキュリティ・情報モラルと課題説明・作成
【key words】
情報セキュリティ、情報モラル、課題
【授業概要】
情報を利活用する上で知っておくべき情報セキュリティや情報モラルを学習する
また、課題の作成も行う
・情報セキュリティ
・情報モラル
・課題内容の説明
・課題作成実習
・課題を作成して期限までに提出
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
情報セキュリティに留意し、ウィルス感染などの被害を受けないようにする
情報モラルを守り、他の人に迷惑をかけないようにする
課題を作成して期限までに提出する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　レポート・論文の作成(6)
【key words】
脚注、図表番号、テンプレート
【授業概要】
レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する
・脚注の設定(ページ末尾の脚注、文末脚注)
・図表番号の設定(図表番号の入力、図表番号の参照)
・テンプレートの作成
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポートを作る際に目次や脚注等の機能を利用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　レポート・論文の作成(7)
【key words】
セクション、ブックマーク、相互参照、引用文献
【授業概要】
レポートや論文を作る上で便利な機能を学習する
・段組みの設定(2段組み等)
・セクションで文章を複数のブロックに区切る
・ブックマーク(文章内に付ける目印)の挿入
・相互参照(ブックマークの位置のページ番号等の情報を挿入する)
・引用文献の挿入
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
長文作成の際にブックマークや相互参照を活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　情報の分析や可視化(4)
【key words】
スパークライン、条件付き書式
【授業概要】
Excelで情報を可視化する方法を学習する
・スパークラインの作成
・条件付き書式の設定
・各種の条件付き書式（データバー、カラーバー、アイコンセット）
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
スパークラインや条件付き書式を活用してデータを見やすくする
【予習復習に必要な想定時間】

30分

第１９回　情報の分析や可視化(5)

【key words】
データベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル
【授業概要】
多くのデータを元に分析を行う方法を学習する
・データベース用のデータ入力
・データの並べ替え
・データの抽出
・ピボットテーブルを使った集計
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アンケートなどのデータを整理する際にExcelを活用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　情報の分析や可視化(6)

【key words】
相対参照、絶対参照、関数
【授業概要】
情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する
・相対参照と絶対参照
・順位(RANK関数)
・複合条件(AND関数／OR関数)
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Excelで複雑な計算を行う際にこの回で行ったことを利用する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　情報の分析や可視化(7)

【key words】
名前、関数
【授業概要】
情報の分析の際に必要な各種の計算方法を学習する
・セルに名前を付けて数式で利用する
・セルにふりがなを表示する
・日付に関する関数
・文字列に関する関数
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
名前機能や各種の関数の使い方を理解する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　情報の分析や可視化(8)

【key words】
ワークシート、インポート、マクロ
【授業概要】
情報の分析などの際に必要な各種の機能を学習する
・複数のワークシートを使う
・データのインポート
・マクロの基本
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
名前機能や各種の関数の使い方を理解する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　文書の共同作成

【key words】
Googleドキュメント、Googleスプレッドシート
【授業概要】
複数の人で共同して文書を作る方法を学習する
・Googleドキュメントの利用
・Googleスプレッドシートの利用
・文書の共有と同時編集
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Googleドキュメントなどを使って文書を共同で編集できるようになる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　コンピュータの仕組み(1)

【key words】
CPU、入力装置、出力装置
【授業概要】
コンピュータを構成する要素を理解する
・中央演算処理装置(CPU)
・入力装置
・出力装置
【教科書ページ・参考文献】

スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コンピュータの各種構成要素について復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　コンピュータの仕組み(2)
【key words】
記憶装置、ハードディスク
【授業概要】
コンピュータを構成する要素を理解する
・主記憶装置と補助記憶装置
・ハードディスク
・CD／DVD／Blu-ray
・メモリカード／USBメモリ
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各種の記憶装置について復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　コンピュータの仕組み(3)
【key words】
バイト、アナログ、デジタル
【授業概要】
情報をコンピュータで扱う仕組みを理解する
・情報の量の単位
・アナログとデジタルの相互変換
・2進数と10進数
・ファイルの種類と拡張子
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
報をコンピュータで扱う仕組みを復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　コンピュータの仕組み(4)
【key words】
デジタル化、圧縮、データベース
【授業概要】
各種のデータをデジタル化する仕組みを理解する
・文字のデータ化（文字コードなど）
・画像のデータ化
・音声のデータ化
・動画のデータ化
・データベース
・プログラムとフローチャート
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
データをデジタル化する仕組みを復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　情報通信とネットワーク(1)
【key words】
LAN、インターネット
【授業概要】
情報通信やネットワークの基本を理解する
・情報通信システムの基本
・LANの仕組みや必要な機器
・インターネットへの接続
・情報通信システムの利用料金

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
情報通信やネットワークの基本を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　情報通信とネットワーク(2)
【key words】
ホームページ、メール
【授業概要】
ホームページの配信やメールの送受信の仕組みを理解する
・ホームページの配信の仕組み
・ホームページのアドレス（URL）
・ホームページの作成方法
・ホームページを活用した各種のシステム
・メール送受信の仕組み
【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
繰り返しや条件判断を使ったプログラムを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第３０回　トラブルと対処 【key words】 トラブル 【授業概要】 コンピュータでトラブルが起こった時の対処を理解する ・ハードウェアのトラブルへの対処 ・アプリのトラブルへの対処 ・ネットワークのトラブルへの対処 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 トラブルが起こってもあわてないようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 演習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	配布資料を使って復習する
オフィスアワー	授業前後20分
評価方法	・前期 レポート課題による評価 レポートとしてのまとまり(30%)、Wordの各種機能の活用度(50%)、Excelの各種機能の活用度(20%) ・後期 レポート課題（30%） 筆記試験（70%）
教科書	繰り返して慣れる!完全マスターWord　Office365・Office2019対応、NOA出版 繰り返して慣れる!完全マスターExcel　Office365・Office2019対応、NOA出版 ドリルでマスター!PowerPoint&プレゼンテーション、NOA出版
参考書	なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関連雑誌原稿執筆多数 パソコン関連書籍執筆多数 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 授業を毎回録画してYouTubeで配布

講義科目名称： 英語Ⅰ　　授業コード：S1151　S1152　S1154

英文科目名称： English Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期(社福①・社福②・子ども)	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
戸塚　泰聖			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・英語４技能の能力を高め、英語検定２級（準２級）合格レベルの力をつける。
授業の概要	・単語力をつけるため毎回豆テストを実施する。 ・身近な話題について英語でのコミュニケーションができるよう、ペアでの対話練習を通してスピーキング力をつける。 ・英語検定のテキストの長文読解問題を利用し、リーディング力をつける。（要予習） ・英語検定のテキストのリスニング問題を利用し、リスニング力をつける。 ・英語検定のテキストのライティング問題等を利用し、ライティング力をつける。 ・英字新聞記事等を利用し、４技能向上のための学習を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 英語検定２級 英字新聞 ４技能 Self-introduction 【授業概要】 ・英語を学習する意味について考えを深める。 ・講座の進め方・評価方法・予習復習等についての指示 ・Self-introductionをしてもらう。 ・英文読解方法の説明 ・英検２級の説明 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第２回筆記　(A)Trouble with Transporting予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第２回　Trouble with Transporting 【key words】 Transportation 【授業概要】 ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解（Trouble with Transporting） ・リスニング力養成　リスニング問題　ディクテーション ・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.22-23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　(B)The Return of Whales予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　The Return of Whales

【key words】
Whale
Conservation

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Return of Whales）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.24-25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　　Childcare service 予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　Childcare service

【key words】
Childcare service
E-mail

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Childcare service）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.26-27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　３(B)Generations Helping Each Other 1予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　Generations Helping Each Other 1

【key words】
Generation
Retirement home

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Generations Helping Each Other 1）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.28-29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　３(B)Generations Helping Each Other ２予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　Generations Helping Each Other ２

【key words】
Volunteer
Loneliness

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Generations Helping Each Other 2）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.28-29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　３(C)Smart Stickers 1予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　Smart Stickers 1

【key words】
Patient
Electronic device

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Smart Stickers 1）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.30-31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第２回筆記　３(C)Smart Stickers 2予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　Smart Stickers 2

【key words】
Computer
Electronic sticker

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Smart Stickers 2）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第２回筆記　p.30-31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第1回筆記　2(A)The Mysteries of Amber予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　The Mysteries of Amber

【key words】
Amber
Jewelry
Fossil

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Mysteries of Amber）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.48-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第1回筆記　2(B)Changing Slums予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　Changing Slums

【key words】
Slum
U N

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Changing Slums）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.50-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１９年度第1回筆記　３(A)Volunteer writing予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　Volunteer writing

【key words】
Article
Volunteer

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Volunteer writing）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

	【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.52-53 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第1回筆記　３(B)Metal Foam予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第１２回	Metal Foam 1 【key words】 Metal form Traffic accident 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解 (Metal Foam) ・リスニング力養成　リスニング問題 ・英字新聞読解 【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.54-55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第1回筆記　3(B) Metal Foam 2　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第１３回	Metal Foam 2 【key words】 Material Crash 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解 (Metal Foam) ・リスニング力養成　リスニング問題 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.54-55 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第1回筆記　3(C) Counting Every Citizen 1　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第１４回	Counting Every Citizen 1 【key words】 Economic growth Financial support 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解 (Counting Every Citizen) ・リスニング力養成　リスニング問題 ・英字新聞読解 【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.56-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １９年度第1回筆記　3(C) Counting Every Citizen 2　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
第１５回	Counting Every Citizen 2 【key words】 Income Bank account 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解 (Counting Every Citizen) ・リスニング力養成　リスニング問題 ・ライティング力養成 【教科書ページ・参考文献】 英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.56-57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １８年度第３回筆記　2(A) Good job　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業中、指名し英文の意味を発表してもらうので、長文読解問題の英文についてはよく予習をして望むこと

	（予習想定時間は１時間）。※予習方法は講義の中で指示する。 ・スピーキング力をつけるため、ペアで英語での会話をする機会を設けるので、積極的に取り組むこと。 ・英和辞典もしくは電子辞書を必ず持参すること。 ・ファイル・ノートを用意し毎回持参すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	・授業の最後に、コメントカードを配布し、質問や授業の感想を書く時間を設ける。
授業外時間にかかわる情報	・英検を受験する学生は、英検受験に向けて授業以外でも過去問の学習を進めること。 ・英語についての質問や海外研修に関して知りたいことがあれば、高等教育支援センターまで来てください。
オフィスアワー	月曜～木曜まで、高等教育支援センターに在室の時は、いつでも質問に応じます。
評価方法	・単語テスト（10%）・予習状況および授業への参加姿勢（20%）※予習をしてあるかどうかを、授業開始前に毎回チェックします。※授業中、積極的に英語で発言することを評価します。・定期試験（70%）
教科書	2020年度版　英検２級過去６回全問題集　旺文社
参考書	英和辞典もしくは電子辞書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Ｓ５７（４月）～H20（３月）までの管理職になるまでの間、群馬県高等学校外国語（英語）の教諭として教壇に立った。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英語Ⅱ　　授業コード：S1163　S1164　S1165

英文科目名称： EnglishⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期(社福①・社福②・子ども)	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
戸塚　泰聖			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・英語４技能の能力を高め、英語検定２級（準２級）合格レベルの力をつける。 ・小学校での英語の授業で必要となる英語表現等を習得する。（こども専攻） ・社会福祉関係をテーマとした英文に習熟する。（社会福祉専攻）
授業の概要	・単語力をつけるため毎回豆テストを実施する。 ・身近な話題について英語でのコミュニケーションができるよう、ペアでの対話練習を通してスピーキング力をつける。 ・英語検定のテキストの長文読解問題を利用し、リーディング力をつける。（要予習） ・英語検定のテキストのリスニング問題を利用し、リスニング力をつける。 ・英語検定のテキストのライティング問題等を利用し、ライティング力をつける。 ・英字新聞記事等を利用し、４技能向上のための学習を行う。 ・小学校英語授業での英語表現の習熟（こども専攻） ・社会福祉をテーマとした英文の読解（社会福祉）

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 ・小学校での英語授業（こども専攻） ・社会福祉と英語（社会福祉専攻） 【授業概要】 ・小学校での英語授業について ・社会福祉と英語について ・Pair conversation ・英字新聞読解 【教科書ページ・参考文献】 英字新聞 【課題・予習・復習・授業準備指示】 １８年度第３回筆記　2(B)Mystery in the Sky　予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第２回　Mystery in the sky 【key words】 Noctilucent cloud Mesosphere 【授業概要】 ・Vocabulary test ・Pair conversation ・リーディング力養成　英文読解（Mystery in the sky）

・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成
【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１９年度第１回筆記　p.76-77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第３回筆記　3(A) Your recent purchase　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第３回　Your recent purchase
【key words】
Online book
Log in
Delivery

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Your recent purchase）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.78-79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第３回筆記　3(B)A New Type of Chocolate　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　A New Type of Chocolate
【key words】
Chocolate
Ingredient
Flavor

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（A New Type of Chocolate）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.80-81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第３回筆記　3(C) Female Pioneers　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　Female Pioneers
【key words】
Computer programmer
Calculation
Program

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Female Pioneers）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.82-83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　2(A) New Bananas　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　New Bananas
【key words】
Variety
Fungus
Taste

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（New Bananas）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.100-101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　2(B) The Benefits of Touch　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】

１時間

第７回　The Benefits of Touch

【key words】
Sense
Touch
Autoimmune disorder

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Benefits of Touch）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.102-103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(A) Parent volunteer　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　Parent volunteer

【key words】
Volunteer
Advertisement

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Parent volunteer）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.104-105
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(B) A New Way to Use a Computer　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　A New Way to Use a Computer

【key words】
Device
Disabled people
Employment opportunity

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（A New Way to Use a Computer）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.106-107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(C)The Mysterious Mummies 1　予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　The Mysterious Mummies 1

【key words】
Mummies
Preserve

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Mysterious Mummies）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.108-109
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(C)The Mysterious Mummies 2 予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　The Mysterious Mummies ２

【key words】
Analyze
Ancestor
Settler

【授業概要】
・Vocabulary test

・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Mysterious Mummies）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解
【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.108-109
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　2(A) Getting Light Right予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１２回　Getting Light Right
【key words】
Quality of life
Artificial
Adjust

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Getting Light Right）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.108-109
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　2(B) The Symmetry of Speed予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１３回　The Symmetry of Speed
【key words】
Symmetry
Advantage
Research

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Symmetry of Speed）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.128-129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(A)Office repairs予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１４回　Office repairs
【key words】
Repair
Profit
Construction

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（Office repairs）
・リスニング力養成　リスニング問題
・ライティング力養成

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.130-131
【課題・予習・復習・授業準備指示】
１８年度第２回筆記　3(B)The Price of a Song予習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１５回　The Price of a Song
【key words】
Copyright
Expense
Compose

【授業概要】
・Vocabulary test
・Pair conversation
・リーディング力養成　英文読解（The Price of a Song）
・リスニング力養成　リスニング問題
・英字新聞読解

【教科書ページ・参考文献】
英検２級過去６回全問題集　１８年度第３回筆記　p.132-133
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	１８年度第２回筆記　3(C)A Model Tourist Town予習プリント 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業中、指名し英文の意味を発表してもらうので、長文読解問題の英文についてはよく予習をして望むこと （予習想定時間は１時間）。※予習方法は講義の中で指示する。 ・スピーキング力をつけるため、ペアで英語での会話をする機会を設けるので、積極的に取り組むこと。 ・英和辞典もしくは電子辞書を必ず持参すること。 ・ファイル・ノートを用意し毎回持参すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業の最後に、コメントカードを配布し、質問や授業の感想を書く時間を設ける。
授業外時間にかかわる情報	・英検を受験する学生は、英検受験に向けて授業以外でも過去問の学習を進めること。 ・英語についての質問や海外研修に関して知りたいことがあれば、高等教育支援センターまで来てください。
オフィスアワー	月曜～木曜まで、高等教育支援センターに在室の時は、いつでも質問に応じます。
評価方法	・単語テスト（10%）・予習状況および授業への参加姿勢（20%）※予習をしてあるかどうかを、授業開始前に毎回チェックします。※授業中、積極的に英語で発言することを評価します。・定期試験（70%）
教科書	2020年度版　英検２級過去６回全問題集　旺文社
参考書	英和辞典もしくは電子辞書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Ｓ５７（４月）～H20（３月）までの管理職になるまでの間、群馬県高等学校外国語（英語）の教諭として教壇に立った。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 国際文化論　　授業コード：S1301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 国際文化論（intercultural studies）では、国際的な相互依存関係の中で生きていく私達が、自立した個人として生き生きと活躍していくためには、自国の文化に根差した自己の確立や、異なる文化を持った人達をも受け入れ、彼らと繋がっていける能力や態度を身に付けていくことを主眼としている。
授業の概要	世界の諸事情と日本との関係を知り、自らの歩む道について考える。更に、日本と世界（諸外国）の関係がどのように発展したらよいかについても考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	「国際文化論が目指すのは国際平和である。」～特に難民問題と日本の関わりを巡って～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	和の文化（1）～その構造について～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	和の文化（2）～神の文化との比較～ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

６０分
第４回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（1）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第５回　マルティン・ブーバー（Martin Buber）の「関係」の哲学（2）～医療世界への応用～
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第６回　日本外交の原点に位置する聖徳太子
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第７回　日本・韓国・中国の文化の違い（２）
【key words】
日・韓・中の比較文化、歴史問題
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私たちはどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第８回　EU、そして英国（東アジアと比較）
【key words】
西ドイツ・フランス・イタリア、ド・ゴール、東アジア共同体構想
【授業概要】
EUはアメリカニズムに対する危機感から生じたとも言える。しかし、地域統合には独自性と一体性があるから、限界もある。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第９回　日本と中東（１）
【key words】
ムハンマド、共存・共生、斎戒
【授業概要】
「和」を提唱した聖徳太子と「サラーム」（平和）の世界観を紹介したムハンマドが同時代人であったということもあって、日本と中東には共通の観念が多々見られることも紹介し、現代の中東世界の特徴についても言及する。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第１０回　日本と中東（２）
【key words】
ハリーファ、サウジアラビアからヨルダンまで、統合と断絶
【授業概要】
日本史に現れる権威としての天皇と将軍は、イスラーム史におけるハリーファ（カリフ）とスルターンの関係のようである。ところで、中東地域それぞれの国家の統合の柱は、宗教、言語（民族）の視点で見ると分かり易いと思う。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。

	【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１１回　国際ボランティア活動、湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動 【key words】 イラク、国際ボランティア活動、経済制裁 【授業概要】 湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性を明らかにする。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　ダブリン（Dublin）のホスピスの発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて 【key words】 ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure 【授業概要】 医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１３回　「国際平和」実現への第一歩とは（1） 【key words】 旧約・新約聖書、報復、汝の敵を赦す・愛する 【授業概要】 「あなたの目はその人に憐みを掛けてはいけない。命には命、目には目、歯には歯、手には手、足には足をもって償わせなければならない」（申命記１９～２１）とあるが、この旧約の報復の論理を身をもって克服・完成させたのは誰であろうか。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　「国際平和」実現への第一歩とは（２） 【key words】 聖遷、聖家族エジプト避難の旅の実際、積極的な反一抵抗・敵対 【授業概要】 聖遷（ヘジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　国際文化論として考えるリハビリテーション 【key words】 リハビリテーション観・宗教観・障害 【授業概要】 世界をリードする立場にある日本のリハビリテーションであるが、それぞれの国との関係では言語・行政問題以外では、リハビリテーション観・宗教観の違いに注目することが重要である。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本のニュースにも、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の10分間は対応可能です。
評価方法	最終レポート試験（80%）、授業時等のレポート（20%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業時には授業レジュメのほかに、時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： チームケア入門Ⅰ　　授業コード：S1401

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(15)	選択
担当教員			
1年次担任教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] ねらい：「包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する」 目的：他学部・学科との学生間の交流を通して、多職種の連携の必要性について気づくことができる。 [到達目標] 1) 自己の職種について他者に伝えることができる。 2) 他職種の基本的な役割について述べることができる。 3) ケアチームとして一連の取り組みのまとめ、報告、自己の評価ができる。 4) 他職種との連携について関心が持てる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部・短期大学1学科合同チームによる、講義、演習を通して「チームケア」について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 講義概要、チームケア、多職種連携、地域包括ケアシステム 【授業概要】 全8回の講義の進め方や評価方法等のオリエンテーション後、医療・福祉・教育領域において、なぜ今連携なのか、チームケアの目的・意義、背景、多職種の種類とその役割、連携の目的・意義について解説を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：配布資料のみ ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：配布されたワークシートに沿い、自分の所属しているコースで取得が可能な資格／専門職を1つ取り上げ、具体的に、どんな仕事をしているのか」を簡単にまとめてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第２回	チームケアを担う人々を理解する 【key words】 社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師、特別支援学校教諭、中学校・高校教諭 【授業概要】 医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークと解説を通じて理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】

・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートに沿い、自分の選択した専門職について以下の事柄を調べ、まとめること
①根拠法規、②対象者、③活躍の場、④具体的な業の内容、⑤他職種との連携、⑥その他
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　チームケア・チーム医療を担う人々を理解する
【key words】
多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、各自が作成した課題を用いたグループワークを行い、他職を目指す学生にどのように説明することが望ましいかの検討を行う。また、呈示された事例へのチームでの対応の中で自職の担う役割についてグループでの検討を行い、自職の専門性に関する理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：合同演習で使用する自職の紹介についての資料を班ごとに作成し、担任に添削を受けること
課題：配布されたワークシートに沿い、事例内での自職の関わりについて班内で検討を行い、まとめること
【予習復習に必要な想定時間】
60-120分

第４回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議。
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、他学部の学生との間でお互いが作成した資料を用いたグループワークを行い、それぞれの専門職に関する基本的理解について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：自職について調べた資料をグループの人数分、用意・持参すること
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議、報告準備。
【key words】
多職種連携、認知症患者へのチームケア、発達障害を持つ児童へのチームケア
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割について、共通の事例に対するそれぞれのかかわりについて他学部の学生との間でグループワークを行い、それぞれの専門職の専門性について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：自職の事例への関わりについてまとめた資料を持参すること
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会①
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う各専門職の役割に関するこれまでの討議をもとに、多職種が連携することの意義について他学部の学生との間でグループワークを行い、その必要性や求められる姿勢について理解を深める
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：各グループ内で指定された時間の発表ができるよう準備を行なうこと
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　チームケアにおける多職種の役割、連携方法についての合同討議・報告会②
【key words】
多職種連携
【授業概要】
医療・福祉・教育領域においてチームケアを行うことの意義についての討議結果について、演習参加者全員でのシェアリングを行い、多職種連携を行う中での自職の役割や他職との連携方法について考察を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書：なし
・参考資料：講義内で紹介
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：第4回～第7回の合同演習に関する振り返りを指定されたワークシートに行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第８回　学習成果をリフレクションする。一連の学習過程を評価・考察し自己の課題に気付くことができる。
【key words】

	多職種連携 【授業概要】 一連の学習過程について振り返りを行い、医療・福祉・教育領域におけるチームケアを担う専門職を目指す今後の学習に向けた目標設定や課題設定を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書：なし ・参考資料：講義内で紹介 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：指定されたレポート課題 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
受講生に関わる情報および受講のルール	［受講生に関わる情報］ ①予習：指示された事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 ③授業日程：履修者に対して6～7月を目安に掲示板にて8回の日程を提示するため、留意すること。 ［受講のルール］ ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守すること。 ③授業の学びをぽ配布されるポートフォリオ等に記載すること。 ④欠席・遅刻については大学事務局に必ず連絡を行い、後日授業担当教員に対応を確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	学習ポートフォリオ内の感想の記載欄など
授業外時間にかかわる情報	・自分の目指す職種等に関する調べ学習など、各回で課題が提示される予定である。それらに積極的に取り組むこと。 ・課題作成に用いた資料はフラットファイルなどに保管し、合同討議の際、参考にできるようにしておくこと。
オフィスアワー	初回に指示する。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%。 ②ポートフォリオ評価50%。
教科書	各回で資料を配布する。
参考書	1. 鷹野和美著： チームケア論　　ぱる出版，2008. 2. 小松秀樹： 地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、 2015
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 海外語学研修（カナダ）　　授業コード：S1501

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。本プログラムは参加者の英語能力を、面接授業、ワークショップ及びセミナーを通して向上させ、さらにカナダの歴史、文化、伝統等について学んだり、現地でのフィールドワークに携わったりしながら、カナダ独特の文化に触れ英語能力の更なる向上を目指していく。現地の学生やホームスティ先のホストファミリーとの交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに異文化体験の機会を得る。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　カナダ・レジャイナ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい語学学習(英語)に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における11日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。　研修期間　平成31年8月28日～9月7日

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 【key words】 【授業概要】 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	研修先の概要(2)　リジャイナ大学についての概要 【key words】 【授業概要】 リジャイナ大学についての概要 訪問するレジャイナ大学の概要について理解するとともに、レジャイナ大学が提携するESL(English as a Second Language class)プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポートやETA取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページ

を確認して置くこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　カナダ研究(1)　世界とカナダの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について
【key words】

【授業概要】
カナダの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でカナダの文化、歴史等を収集しておくこと。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて
【key words】

【授業概要】
パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと
【key words】

【授業概要】
入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話
機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し
【key words】

【授業概要】
英語で自らの文化、習慣、伝統等を紹介する方法について学ぶ。またレジャイナ大学の学生と交流する機会があるので、レクリエーションプログラム等の計画を立てる。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　英語研修(3)　日常英会話　研修先でのコミュニケーション
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　英語研修(4)　日常英会話　寮、ホームスティ　研修先での注意事項
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　英語研修(5)　日常英会話　危機管理
【key words】

【授業概要】
研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　協定校での授業　会話、課外授業　Meet with Program Team
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　協定校での授業　会話、課外授業　Welcome &Program Orientation
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　協定校での授業　会話、課外授業　Campus Orientation & Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Canada-at-aGlance ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Saskatchewan Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　協定校での授業　会話、課外授業　Language History ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　協定校での授業　会話、課外授業　Farmer,s Market and Regina Down Town Tour
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Culture ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Cu l ture②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of Sa s katoon & Western Development Museum
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Sports ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第24回　協定校での授業　会話、課外授業　Tour of the Royal Canadian Mounted Police & Government House
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第25回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Arts ①
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第26回　協定校での授業　会話、課外授業　Language Arts ②
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第27回　協定校での授業　会話、課外授業　Kayaking on Wascana & Barbeque wiyh U of R students
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第28回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
レジャイナ大学　ESL(English as a Second Language class)プログラムへ参加し英語学習を深める。講義及びフィールドワークを実施する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第29回　協定校での授業　会話、課外授業　Program Closing Ceremony
【key words】

【授業概要】
研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【key words】

【授業概要】
研修成果　報告会　（まとめとふりかえり）
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話 し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥小学校における英語必修化に伴い初等教育コースの学生は履修することが望ましい ⑦本講義は10人以上により開講する
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　16:00～17:30　(変更が生じた場合は適宜指示する)
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。 海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること。
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など 海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 海外医療福祉研修（フィリピン）　　授業コード：S1505

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	1年次～3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦・小林　洋子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	海外研修を通じて国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につける。また国際社会で活躍する医療福祉人材として、海外での様々な体験を通して世界を違う視点から見ることができるようになることを目的とする。このプログラムはフィリピンでの医療福祉事情の理解と臨床現場での実地体験を目的としたプログラムを組み込んでいる。医療・福祉施設（小児がん治療施設・リハビリデイケアセンター・障害者施設・病院)にて実地体験を経験し、国際的な視野、協調性、行動力、自主性といった能力を中心に培いながら、現地の学生との交流により、英語によるコミュニケーション能力並びに医療英語や英会話を含む英語能力の向上や異文化体験の機会をも得ることを目的とする。
授業の概要	研修は、群馬医療福祉大学の協定・提携大学　フィリピン・アレリアノ大学との間に企画された、誰もが参加しやすい医療福祉ボランティア学習に重点を置いたプログラムである。事前学習として訪問先の文化・社会等についての理解を深め、医療英語及び日常英会話についのコミュニケーション能力を高める。その後、本学の協定大学における8日間の研修プログラム(講義又フィールドワーク）を中心に実施し、帰国後、それらの講義、体験をもとに、まとめ・報告会を行う。 研修期間　平成32年3月15日～3月23日

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第1回	研修先の概要(1)オリエンテーション　海外研修プログラムについての概要　申込書などの記入の仕方 グローバル人材海外研修を通じて、国際社会に貢献する意欲を養い、様々な人と出会い交流し、文化や言葉の壁を越えた理解を深めながらコミュニケーション能力を身につけることを理解する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)を熟読しておくこと。
	第2回	研修先の概要(2)　アレリアノ大学についての概要 訪問するアレリアノ大学の概要について理解するとともに、アレリアノ大学が提携する病院、福祉施設訪問プログラムを確認する。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)パスポート取得をスムーズに行うため事前に外務省等のホームページを確認しておくこと。
	第3回	フィリピン研究(1)　世界とフィリピンの関係について　文化、歴史、経済、習慣等について フィリピンの歴史、文化、伝統　自然等について学び、現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につける。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)ネット、情報誌等でフィリピンの文化、歴史等を収集しておくこと。
	第4回	手続きガイダンス(1)　海外渡航に必要となる諸手続きについて パスポート、ETAの申請について 。さらに渡航前の健康管理と安全管理について確認する。また、リスクマネジメントを徹底し、病状悪化などの緊急時用の対応ができるよう安全管理について渡航前から学ぶ。海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)
	第5回	医療福祉研修(1)　ボランティア先での注意事項 海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。レクリエーション企画について事前に自分たちができそうなことを事前に準備しておくこと。
	第6回	医療福祉研修(2)　ボランティア先でのレクリエーション企画について

		海外でボランティアを行う上での心構えや英語でのコミュニケーションまた英語以外でのコミュニケーションの方法等について理解する。レクリエーションの企画立案をグループごとに行う。日本の文化を紹介するにはどのように行ったらよいのかを考えてみる。
	第7回	英語研修(1)　日常英会話　英語圏の生活に必要なこと　　入国審査カードの書き方、入国審査での質問、機内での英会話 機内、出入国で使用する英語について学ぶ。さらに挨拶、日常会話について理解を深める。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第8回	英語研修(2)　日常英会話　自文化を紹介する態度、言い回し 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第9回	英語研修(3)　医療英語　　患者及び施設利用者とのコミュニケーション 研修時の日常で困ったことがないよう基本的なコミュニケーション方法等についてロールプレイを行いながら学ぶ。英単語学習及び日常的な英語フレーズを1つでも多く覚えられるよう努力すること。
	第10回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学　医療福祉研修プログラムへ参加し海外での実践活動・講義及びフィールドワークについて確認する。（プログラムの詳細は現地にて説明）
	第11回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第12回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 アレリアノ大学のキャンパス見学及び概要説明。現地大学生との交流を行う。
	第13回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリング、について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第14回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康診断　栄養管理　予防接種、体重モニタリングについて学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第15回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　健康教育、出産について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第16回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Esperanza Health Center and Lying In Clinicにて　産前産後検診について学ぶフィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第17回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Rehabilitative therapies　リハビリ病院訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第18回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Adult day care services　高齢者デイケア訪問　フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第19回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Kaisaka Caring for persons with disabilities and social rehabilitation　身体障害者施設を訪問し社会復帰プログラムについて理解を深める。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第20回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic Rehabilitation terapiesを訪問し　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。フィリピンの医療、福祉制度について事前に調査・学習しておくこと。
	第21回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第22回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 Arellano University Rehabilitation Clinic　リハビリ療法、成人向けデイケアサービス、障害者のケアと社会復帰に向けた支援について学ぶ。
	第23回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第24回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第25回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 マニラおよび近郊の文化、観光施設 現地でのフィールドワークに活かせるよう知識、教養を身につけておくこと。
	第26回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第27回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第28回	協定校での授業　会話、課外授業、ボランティア体験 CHILD HAUS children`s home,day care centersを訪問し、がんなどの重篤な病気に罹患している子どもたちとの交流活動を行う。子どもたちのプレゼントを事前に用意しておくこと。
	第29回	研修成果　　レポート及び報告会プレゼンテーション準備

	研修事業の成果報告会に向けて発表の準備及び研修前と研修後の意識変化について確認する。 第30回　研修成果　報告会　（まとめとふりかえり） 研修事業の振り返りと研修の成果について確認を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	①研修への参加責任及び費用負担義務の所在が本人及び保護者であることを十分理解し、研修について保護者とよく話し合い、同意を得る。 ②研修予定地の事情をよく調べ、研修機関のサポート内容などを確認しながら研修計画を作成する。 ③旅行保険等の加入など万全の準備をするほか、連絡体制についても明確にし、大学に伝える。 ④担当教員による事前・事後指導も評価の対象となるので、誠実な態度で指導を受ける。 ⑤国際情勢の急な変化によって研修実施が困難となる場合もあることに留意する。 ⑥本講義は10人以上により
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	渡航先の語学や会話を授業で受講しておくこと。また日常から海外のニュースを見聞きし、情報を得ておくことが必要である。旅券の取得、現地通貨などの準備、ツアーや航空券の手配、保険の申請などがある。
オフィスアワー	月曜日　5時限　（変更が生じた場合は適宜指示する）
評価方法	海外研修時において学生個人が定めた目的に対し、十分な学習経験を得ていると認められる活動に対し、単位を認める。 成績は、事前指導、事後指導への参加状況、研修中の活動記録(40%)、研修後報告書の課題(60%)をもとに評価する。原則として以下の条件を満たすこと。 ① 学内におけるガイダンス、事前・事後指導にすべて出席すること。 ② 事前に研修期間を通して学修・研究すべき課題を決め、事前レポートを提出すること。 ③ 滞在期間中に必要な学習活動を行うこと。 ④ 研修期間中の活動記録を提出すること。 ⑤ 帰国後、指定された時期までに報告書などの課題を提出すること
教科書	担当教員が適宜指示する。
参考書	海外渡航学生マニュアル(群馬医療福祉大学作成)　渡航先に関するガイドブック、新聞、海外ニュース、ネットなどによる最新の情報など
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉心理学　　授業コード： S3001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
齊藤　和良			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　高齢者、障害者、乳幼児等の社会的弱者やその福祉現場の仕事に携わる福祉専門職について理解を深め、人道的な支援や受容・共感的態度を身につける。 〔到達目標〕 ①家庭における児童の問題や青少年の問題行動について説明できる。 ②福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 ③福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 ④虐待、認知症に関する必要な支援方法について説明できる。
授業の概要	福祉心理学は、社会福祉の対象となるすべての人々とその支援者のウエルビーイング（well-being）のために、心理学的な手法を用いて支援していくことを探求する学問である。本授業では、発達及び加齢や障害の概念を学習することから始め、当事者と家族の福祉的な問題そして福祉従事者の抱える問題について整理し、これらの福祉心理学的な対応について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（福祉心理学とは　福祉領域の公認心理師－社会福祉の展開と心理支援） 【key words】 社会福祉　ウェルビーイング　ノーマライゼーション 公認心理師　福祉心理学 【授業概要】 社会福祉の展開（福祉の定義、歴史、理念と現在の施策の概要）、心理支援の必要性（福祉心理学の概要と生活支援の重視）について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（福祉心理学　ミネルヴァ書房　序章　福祉領域の概観 p.1 - p.14）、プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.15 - p.27）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「福祉心理学の対象」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	生活を支える心理支援 【key words】 自立支援　就労支援　社会的養護　里親委託　当事者運動　コミュニティ・ケア 【授業概要】 福祉と人々の生活、福祉の制度と心理職、児童福祉（子ども家庭福祉と子育て）、障害を持った人たちの支援、生活困窮者の生活支援、高齢者の生活支援、不登校・ひきこもりの福祉的支援、地域福祉における心理支援及び予防的支援と公認心理師の役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（福祉心理学　第１章　子ども家庭福祉を見渡すー 子どもと家庭がより健全に育まれるためにp.15 - p.27.）、プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.18 - p.22）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「福祉心理学の役割」を記入する。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　暴力被害者への心理支援

【key words】
DV（ドメスティック・バイオレンス）　虐待　被害者支援　トラウマケア　暴力被害
【授業概要】
夫婦間暴力、DVと子どもの虐待、その他の暴力について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　２　児童虐待防止と家庭支援　p.18 - p.22）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.181 --p.186）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「DVについて」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　福祉心理学的心理支援の実際 ― 児童虐待への心理支援の実際

【key words】
児童虐待防止法　児童相談所　ネグレクト　児童福祉施設　児童心理治療施設　PTSD（心的外傷後ストレス障害）
【授業概要】
子どもの虐待相談件数の増大、児童虐待問題における児童相談所の役割、児童相談所における心理診断・支援、児童福祉施設入所や里親委託時の支援及び地域における家族の支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第10章　福祉分野でのその他の取り組み ― 福祉のその先を見据えて４ 児童虐待の予防を目指した地域づくり―ほほえみプロデュース p.181 --p.186）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.69 - p.86）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　子どもと親への心理支援の実際

【key words】
子育て支援　ひとり親家庭　婦人相談所　母子生活支援施設　児童家庭支援センター
【授業概要】
子育て支援、ひとり親家庭等の支援、要保護・要支援ケースへの支援及び社会的養護における子どもと親への支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第４章　子どもの入所施設における支援と課題 ― 傷ついた子どもとその家族に寄り添う　p.69 - p.86）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.173 - p.181）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　生活困窮・貧困者への心理支援

【key words】
貧困　生活保護　ホームレス　子どもの貧困
【授業概要】
生活困窮・貧困の背景と問題、生活困窮・貧困の実態と心理支援、子どもの貧困及び公認心理師の役割と期待について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第10章　福祉分野でのその他の取り組み ― 福祉のその先を見据えて p.173 -　p.181）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.101 - p.113.）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　障害のある人への支援

【key words】
乳幼児検診　発達障害　自閉スペクトラム障害　発達障害者支援法　アウトリーチ
【授業概要】
障害・疾病のある人への福祉的支援と心理支援、事例から見る福祉心理学の実践、本人への発達支援と親子関係の調整及び福祉サービス等の併用と効果について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　（福祉心理学　第６章　知的障害･発達障害･強度行動障害児･者への支援 ― 社会全体を見渡して，一人ひとりに向きあう p.101 - p.113.）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.129 - p.149）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「障害の概念について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　高齢者への心理支援

【key words】
高齢者福祉関連法　地域ケア包括システム　新オレンジプラン　認知症（中核症状・周辺症状）認知機能検査
【授業概要】
高齢者の現状と生活課題、高齢者福祉関連の法律と制度、高齢期の認知症及び高齢者福祉領域に

おける心理的支援の重要性について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第８章　高齢者の在宅支援と施設利用者の支援 ― 利用者と支援者を支えるしくみ p.129 - p.149）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.151 - p.168）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「認知症について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　認知症高齢者の心理支援の実際
【key words】
アルツハイマー型認知症　認知機能障害　グループホーム　ユニットケア
【授業概要】
認知症の定義、認知症における症状の特徴とさまざまな心理問題、認知症高齢者の心理支援の実際について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第９章　高齢者心理へのアプローチの実際 ― よりよきアセスメントとケアに向けて p.151 - p.168）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.169 - p.173）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　ひきこもり・自殺予防の心理支援の実際
【key words】
社会的孤立　家族支援　多様性
【授業概要】
ひきこもりの心理支援及び自殺予防の心理支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第10章　福祉分野でのその他の取り組み ― 福祉のその先を見据えて　1 社会的ひきこもり支援 p.169 - p.173）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習は次回の授業で予定されている精神障害について調べておくこと。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　精神障害者への心理支援の実際
【key words】
精神保健福祉法　障害者総合支援法　障害受容　権利擁護
【授業概要】
精神障害者を支える制度とサービス、精神障害者の困難さの理解、クラブハウス活動、就労に至ったAさんの事例及び公認心理師に必要な基本姿勢について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
プリント資料の配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.129 - p.149）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　家族・職員への心理支援の実際
【key words】
介護負担　家族支援
【授業概要】
福祉対象者の家族への心理支援及び福祉施設職員等への心理支援について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第８章　高齢者の在宅支援と施設利用者の支援 ― 利用者と支援者を支えるしくみ p.129 - p.149）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.87 - p.99）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　福祉・介護分野での多職種協働（IPW）と心理職の位置づけ
【key words】
ケアマネージメント　専門職　多職種協働（IPW）
【授業概要】
多職種協働に関わる専門職とその役割、多職種協働とチームアプローチ及び多職種協働における公認心理師の役割について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書（福祉心理学　第５章　障害児・者の福祉を見渡す ― 多職種連携の一翼を担うために p.87 - p.99）、プリント資料の配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で指摘した重要な項目の復習。　予習として次回の授業で予定されている教科書の範囲（p.129 - p.149）を一読。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　IPW実践事例報告
【key words】

	療養病床　地域包括ケアシステム　ケアプラン　グループケア　情報共有　介護職員　生活の質（QOL） 【授業概要】 療養病床でのIPWの実際と工夫、特別養護老人ホームでのIPWの実際と工夫、児童養護施設でのIPWの実際と工夫、障害者生活介護施設でのIPWの実際と工夫及び母子生活支援施設でのIPWの実際と工夫について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（福祉心理学　第８章　高齢者の在宅支援と施設利用者の支援 ― 利用者と支援者を支えるしくみ p.129 - p.149）、プリント資料の配布。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業で指摘した重要な項目の復習。次回の授業開始時にコメントカードに「今回提示した課題について」を記入する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　福祉心理学のまとめ 【key words】 福祉心理学の対象　虐待　いじめ　認知症　発達　障害の概念 【授業概要】 福祉心理学のまとめと試験対策 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料の配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉心理学全体に対する復習と期末試験の対策 【予習復習に必要な想定時間】 90分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を必ず持参すること。 ・虐待を始めとして、乳幼児、高齢者、障害者に関する問題について、各種メディア（新聞やテレビ、インターネットなど）で日常的に報道されているニュースに対して常に問題意識を持つように、主体的に捉えていく態度を日頃から養うこと。 〔受講のルール〕 ・事後学習として教科書や授業時に配布したプリントを復習し、要点をまとめておくこと。 ・授業には、積極的に参加すること。 ・私語や携帯電話・スマートフォンの使用など他の受講生の迷惑になる行為の厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞、ニュースなどで関連事項があればチェックしておき、各自の意識を高めること。 ・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（70%）と課題への積極的な取り組み（30%）でもって総合的に評価する。課題はコメントカードの記述内容を点数化する。
教科書	川畑隆・笹川宏樹・宮井研治　（編著）公認心理師の基本を学ぶテキスト 17　福祉心理学 ― 福祉分野での心理職の役割　ミネルヴァ書房ISBN: 978-4-623-08718-1
参考書	中島健一編　公認心理師の基礎と実践　第17巻 福祉心理学　：遠見書房（2018/8/19） 適宜、授業時に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉施設（日本盲人職能開発センター）での指導員として勤務した経験をもとに、福祉領域での心理臨床的な関わりの必要性や心理的支援の在り方について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉史　　授業コード：S3011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉の歴史的変遷を見ながら、現代に至るまでの歴史的事実を学ぶ。 【到達目標】 日本および各国の福祉史を見ることで、現在の日本の福祉（社会保障）の問題点を探れるようになる。
授業の概要	日本および主要各国の福祉の歴史的事実、福祉思想の変遷を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	社会福祉のあゆみを学ぶー科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 講義の受け方 【授業概要】 ＜授業概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 必ず教科書を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	貧困問題の発生と旧救貧法 【key words】 ＜key words＞ 封建社会、救貧 ＜授業概要＞ ＜教科書＞ 【授業概要】 中世イギリスの社会的背景から、救貧の芽生えについて概観する 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様

	第３回	旧救貧法の社会思想と新救貧法の成立 【key words】 ＜key words＞ 救貧法、古典派経済学 ＜授業概要＞ ＜教科書＞ 【授業概要】 新救貧法成立までの動きを学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第４回	民間社会福祉部門の役割 【key words】 ＜key words＞ COS,リッチモンド、セツルメント ＜教科書＞ 【授業概要】 民間社会福祉部門の果たした役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第５回	社会主義の台頭と貧困調査の意義 【key words】 ＜key words＞ 社会主義、貧困調査、ブース、ラウントリー 【授業概要】 ＜授業概要＞ 社会主義の台頭が福祉にとってどのような意味があったのかを学び、貧困調査の意義について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第６回	救貧法の廃止と擁護をめぐる対立 【key words】 ＜key words＞ ウェッブ夫妻 【授業概要】 ＜授業概要＞ 救貧法を乗り越えていく過程について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第７回	社会立法の動き 【key words】 ＜key words＞ 自由改良主義、ニューディール政策 【授業概要】 ＜授業概要＞ 福祉国家成立過程について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様
	第８回	ベヴァリッジ体制の確立 【key words】 ＜key words＞ ベヴァリッジ体制、貧困の再発見

【授業概要】
＜授業概要＞
福祉の国家責任についてみていく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第９回　パーソナル・ソーシャル・サービスの形成と展開
【key words】
＜key words＞
パーソナル・ソーシャル・サービス
＜授業概要＞
恤救規則以後の社会保障の変遷を概観する
＜教科書＞
１４－１６

【授業概要】
対人援助サービスの発展過程についてみていく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　近年のイギリスにおける福祉改革と新自由主義
【key words】
＜key words＞
新自由主義、第三の道

【授業概要】
＜授業概要＞
1980年代以降のイギリスの福祉制度改革についてみていく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第１１回　日本の第二次世界大戦前の慈善・社会事業
【key words】
＜key words＞
隣保扶助、恤救規則、慈善事業

【授業概要】
＜授業概要＞
戦前の日本の社会事業についてみていく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第１２回　日本の社会福祉に影響を及ぼした人物①
【key words】
＜key words＞

【授業概要】
＜授業概要＞

【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回同様
【予習復習に必要な想定時間】
前回同様

第１３回　日本の社会福祉に影響を及ぼした人物②
【key words】
＜key words＞

【授業概要】
＜授業概要＞

【教科書ページ・参考文献】

	＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様 第１４回　日本の第二次世界大戦後の社会福祉 【key words】 ＜key words＞ 占領下の社会福祉、高度経済成長、社会福祉基礎構造改革 【授業概要】 ＜授業概要＞ 戦後の日本の社会福祉制度の流れをみる 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回同様 【予習復習に必要な想定時間】 前回同様 第１５回　今日の社会福祉の動きーまとめ 【key words】 【授業概要】 まとめ 質疑応答 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで必要に応じて伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業の中での質問等での参加など取り組み状況等　２０％
教科書	清水・朴　編著「よくわかる社会福祉の歴史」　ミネルヴァ書房
参考書	授業のなかで適宜伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育心理学　　授業コード： S3113

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 【到達目標】 ①発達段階や個人差を前提にした、適切な教育のあり方を理解する。 ②学校や園での教育を中心とした、発達と教育に関する心理学の基礎知識を修得する。 ③学習方法や指導法や教授法、学びや認知の過程の理解を深めることで、よりよい教育の成立のために必要なことについて理解し、説明できる。
授業の概要	発達段階や個人差を心理面からよく理解した上で、一人一人の子どもに対する適切な教育のあり方について、これまでの教育心理学の成果をふまえて考えていく。また、学校を中心とする子どもたちの集団での学びおよびその学びの場で、幼児、児童及び生徒が出会う発達上の課題や教育上の問題について理解する。 　本講義では、学生自身の体験を自ら振り返りながら、よりよい教育的な関わりとはどのようなことなのか、話し合う機会も多く設けたい。また、子どもが体験する具体的な学習項目も挙げながら、幼児、児童及び生徒の学習や認知的プロセスの傾向性を理解し、個に応じた指導や多様な教授法の基本となる考え方を理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	発達と教育科目オリエンテーション：教育心理学を学ぶことの目標 【key words】 獲得と喪失、ナチュラル・ペダゴジー説、促進的教育、発達の再近接領域（ヴィゴツキー）、足場かけ 【授業概要】 科目オリエンテーションとして、発達と教育の関係性を学ぶ。特に、人の営みとしての「教育」がもつ特殊性の理解から、人が集団で社会を形成して生きる道を選んだこと、そこでの教育の可能性をいかに考えるかということが、「教育」の効果を左右する要因となる点などについて理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書2-16ページ（教科書第1章） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ヴィゴツキーという人物について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第２回	認知の発達 【key words】 ピアジェ、シェマ、同化と調節、感覚運動期、前操作期、象徴的思考段階、直観的思考段階、具体的操作期、形式的操作期 【授業概要】 ピアジェが考えた認知発達のプロセスを理解する。子どもがどのように世界と自分を理解し、大

人とどのように異なるのかを考える。また、ピアジェ以後の研究でわかってきたことや、関わり合いの中で子どもを見ることの重要性について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書17-29ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ピアジェの認知発達理論について予習を行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第３回　学習の理論
【key words】
パブロフ、古典的条件付け、スキナー、オペラント条件付け、バンデューラー、観察学習、状況論的アプローチ（ヴィゴツキー）、正統的周辺参加、状況に埋め込まれた学習
【授業概要】
行動論、認知論、状況論という三つの立場から、学習はそれぞれどのようにとらえられるのかについて学ぶ。様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を学びながら、どのようなことが起これば学習が成立したと考えるべきなのかについて検討する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書32-44ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パブロフとスキナーの考え方の違いについてよく理解するために予習をすること。レイヴとウェンガーの「正統的周辺参加」の概念は難しいので、あらかじめ予習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第４回　知識の獲得と問題解決
【key words】
選択的注意、短期記憶、ワーキングメモリー、長期記憶、チャンク、リハーサル、体制化、精緻化、宣言的記憶、非宣言的記憶、意味記憶、エピソード記憶、手続き記憶、問題解決、洞察
【授業概要】
日々の学習は記憶として脳内に保存される。ここでは、子どもの日々の学びがどのようにして記憶として蓄積されるのか。記憶のメカニズムを理解し、子どもの知識獲得や問題解決のプロセスの土台を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書45-51ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記憶は特に重要な部分なので、よく復習をしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第５回　学習への意欲と動機づけ
【key words】
マズロー、ケンリック、内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己調整学習、アンダーマイニング効果、エンハウンシング効果、期待価値論、学習性無力感、達成目標理論
【授業概要】
学習のあり方を左右する要因としての「動機」に注目する。動機の背景に潜む欲求をマズローの欲求階層説をもとに整理する。また、動機づけの代表的分類である内発的動機づけと外発的動機づけについて取り上げる。また学習への動機づけの強さと、個人のコンピテンスや自己効力感、原因帰属との関係についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書52-66ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学習に関する思い出を掘り起こし、「やる気が出た」状況と、「やる気を失った」状況を挙げておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第６回　協働学習
【key words】
協働学習、他者の影響、バズ学習、ジグソー学習、
【授業概要】
学習に関する理論を学んだところで、ここでは他の学習者とともに学ぶことの意義や教室の中でそのような学習が行われる方法について学ぶ。特に、教室の中でグループを作って学ぶ方法の特徴について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書67-73ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ学習などの体験を振り返り、仲間と共に学習をする形態のメリットとデメリットをあらかじめ箇条書きにして、発表できるようにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第７回　授業のタイプ
【key words】
発見学習（ブルーナー）、有意味受容学習、プログラム学習、ICTの利用、反転授業
【授業概要】
教室で行われる授業について、学習過程に注目して分類できることを理解する。特に、学習を有意味なものとしてとらえるのか、機械的なものとしてとらえるのか、また、学習者自身が発見的に取り組むのか、与えられたものを受容するのかということで分類しあり方について理解し、それぞれの特徴を整理する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書74-81ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が受けた授業のタイプを分けて整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　個に応じた学びと指導

【key words】
適正処遇交互作用（クロンバック）、学力の個人差、多重知能理論（ガードナー）、認知カウンセリング
【授業概要】
教室には、性格も学力も生活背景も異なる子どもたちが集まっている。そこでは当然、様々なレベルの「個人差」があることになる。ここでは、そうした個人差を理解し対応をしていくために、個に応じた個別指導と認知カウンセリングについて理解を深め、子どもの学び方に基づいた支援を行うための基礎知識を得る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書82-91ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
87ページの「基本的学習観質問紙」をやっておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第９回　学習観と学習方略
【key words】
学習観、学習方略、自己調整学習（ジマーマン）、ごまかし勉強、
【授業概要】
子どもたちがとっている意識的、無意識的な学習行動を「学習方略」としてとらえ、それらのあり方から学習をどうとらえているかという「学習観」の理解の手掛かりを得ることについて学ぶ。また、自分自身で自己の学習方略を振り返りながら調整をしていく「自己調整学習」という考え方についても理解を深めていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書92-101ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ジマーマンの自己調整学習について、あらかじめネットなどで調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１０回　教室の中の人間関係
【key words】
学級集団、学級風土、教師のリーダーシップ、PM理論、教師期待効果（ピグマリオン効果）、ゴーレム効果、ハロー効果（光背効果）、ソシオメトリック・テスト、社会的促進、社会的抑制

【授業概要】
教育の効果は、理屈以上に教師と児童生徒との人間関係が大きな影響を及ぼす。今回は、教室の中の人間関係について、学級集団や学級風土がいかに作られていくのか、また教師と児童生徒、児童生徒同士の関係性に影響する要因や関係性をいかにとらえることができるかについて、学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書104-117ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書110ページの「教師のリーダーシップを測定する項目」のところをやっておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１１回　不適応への理解と指導
【key words】
不登校、いじめ、非行、連携
【授業概要】
子どもを取り巻く社会状況はめまぐるしく変化している。こうした変化に対応するように、子どもたちが抱え込む問題も多様化し、より深刻さを増してきている。家庭や社会の教育力の低下も指摘される中、教師はどのように彼らの問題を受け止め、どこまで対処をしていけばいいのか。今回は子どもの不適応の理解と指導のあり方の基本について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書118-128ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子どもの不登校者数や自殺者数について調べ、改善するためには何をすべきかについて、一つ、案を出しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１２回　発達障害と特別支援教育
【key words】
自閉スペクトラム症、学習障害、注意欠陥多動性障害、特別支援教育
【授業概要】
現在発達上の障害があると考えられている子どもたちが多く存在する。しかし、発達障害については正しい理解がなかなか進まず、定型発達の子どもたちとの差異が強調されるだけになりがちな現状がある。ここでは、発達障害を概観するとともに、発達障害を持つ児童生徒への支援と特別支援教育の基本的なあり方について考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書129-141ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ASD、LD、AD/HDについて調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習2時間、復習2時間

第１３回　心理アセスメントと心理療法
【key words】
心理アセスメント、知能検査、精神分析、来談者中心療法、認知行動療法
【授業概要】
問題を抱える子どもと出会った時、普通のように見えて、どこかに適応的に生きられない問題があると感じることがある。そうしたとき、感覚や直感ではなく、実際に子どもにとって不適応を引き起こす原因がどこにあるかを調べ、探し、特定していくために、様々なアセスメントや検査の方法が用いられる。ここでは知能検査をはじめとした代表的なアセスメントの方法を知り、基

	本的な児童生徒への対応についても考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書142-152ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 知能検査は大変重要な項目になるので、よく予習復習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習3時間 第１４回　学び合うコミュニティ 【key words】 コミュニティ、資質・能力、教師の成長、校内研修、自主研究会、ALACTモデル、コルトハーヘン 【授業概要】 教育の実践的な場面での教師の資質・能力向上のためのコミュニティの意味とその具体的な役割について学ぶ。教師としての資質や能力を育むには、コミュニティの中で省察と対話を中核とした交流が必要になる。学校の内外で、こうしたつながりの中に身を置き、教師自らが主体的な学習者（アクティブ・ラーナー）として成長するために必要なことについて考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書153-167ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからの時代の教師に求められる「資質」「能力」「人格」とは何か、考えておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１５回　教育における評価 【key words】 測定と評価、評価のタイミング、評価の基準、ルーブリック、ポートフォリオ 【授業概要】 教育の成果をどのように把握するのか。教育における重要テーマである「評価」の方法について学ぶ。単に学期末のテストで教育の成果を測るという狭い意味での評価を越えて、評価を正しく行い、改善に用いることの意義を学ぶ。また、評価に関する新しい考え方や方法についても理解をする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書168-176ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「授業評価アンケート」についてシステム上で実施をすること。実際のテストについての指示をよく確認し、準備をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・教科書を毎回持参すること。授業のスライドなどの資料を毎回配布するため、ファイル等を用いて各自管理をすること。 ・定期的に「まとめ」や「調べ」課題を出す予定。 〔受講のルール〕 ・遅刻、居眠り、飲食等はせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）や指示のない中での情報通信機器の操作はしないこと。 ・勝手な振る舞いなど、講義の妨げになる行為を繰り返す場合、退出を命ずる。この理由での退出は欠席扱いとするので注意すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカードもしくはコメントカード（受講生数により指示）、zoom授業の場合は、スレッドにコメントを挙げること。
授業外時間にかかわる情報	授業概要を参考に、次回の授業に出てくる用語について教科書、心理学辞典、ネットなどであらかじめ調べて授業に臨む努力をすること。 授業時に紹介する資料や図書など、積極的に調べておくこと。
オフィスアワー	高等教育支援センターにて授業後30分、もしくはメールでの相談を随時受け付ける。 hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp
評価方法	①期末に実施する理解度・到達度を見る試験（80%）、②授業時に指示をする「まとめ」もしくは「調べ」課題（レポート課題等）に関する総合評価（20%）、これら①～②を合わせて総合評価を出し60%以上の評価得点のものを単位認定する。レターグレード（S・A・B・C）については、本学基準に沿って算出する。
教科書	魚崎　祐子（2020）『教えと学びを考える　教育心理学』（玉川大学出版会）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ネット上の動画教材を利用し、事前学習や事後学習を促進する。

講義科目名称： 保育原理　　授業コード： S4001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①家庭や地域の現状を踏まえた保育所の役割、保育の意義や目標、原理について総合的に学び、保育の基本を理解する。 ②保育の歴史や多様な保育思想を学び、乳幼児期の保育と価値、現代の保育の現状と課題について考察する。 【到達目標】 ①保育の意義及び目的を理解し、説明できる。 ②保育に関する法令及び制度を理解し、説明できる。 ③保育所保育指針における保育の基本について実践と関連づけて理解できる。 ④保育の思想と歴史的変遷を実践と関連づけて理解できる。 ⑤保育の現状と課題を説明し、現代社会における保育の意義を考察できる。
授業の概要	「保育原理」は、保育所における保育の概要と原理原則を学ぶ科目であり、保育者の共通理解として認識しておくべき保育内容の各領域科目の理解の前提となる基盤的科目である。本講義は、保育所保育指針における保育の基本を理解し、保育者に何が求められているのか、子どもの主体性を尊重しT環境を通して行われる保育とは何かを理解する。そして、より広い視野で保育者としての専門性と実践力の基礎となる学びを深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション・保育とはなにか 【key words】 保育・児童福祉法・養護と教育・子どもの最善の利益 【授業概要】 ①シラバスと授業の全体像、学習の進め方について理解する。 ②保育所保育の場と保育者の全体像を把握する。 ③保育所保育指針における保育の位置づけを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp9-14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：「保育士資格を取得したいと考えた理由」についてノートに400字以内で書いてきて下さい。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第２回	保育所と保育士の社会的役割と責任 【key words】 児童福祉施設・子どもの人権・説明責任・個人情報 【授業概要】 ①児童福祉施設とは ②子どもの人権と人格の尊重 ③地域社会との交流と保護者への説明責任

		④個人情報の適切な取り扱いと保護者の苦情への解決 ★第１章　学びの振り返り 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp14-17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp14-17を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第３回	子ども家庭福祉と保育の関係法令 【key words】 保日本国憲法・児童憲章・児童権利条約・全国保育士会倫理綱領・児童福祉施設の設備及び運営に関する基準 【授業概要】 ①子どもの家庭福祉に関連する法令 ②児童憲章における「児童」の理念 ③児童福祉法 ★第２章　学びの振り返り(1)(2)(3) 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp21-26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp21-26を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第４回	子ども・子育て支援新制度 【key words】 施設型給付・地域型保育給付・地域子ども子育て支援事業 【授業概要】 ①子ども・子育て支援新制度創設の背景と趣旨 ②子ども・子育て支援新制度のポイント ・施設型給付 ・地域型保育給付 ★第２章　学びの振り返り(4) 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp27-29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp27-29を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第５回	保育所保育の目的・内容・方法① 【key words】 保育所保育指針・５領域 【授業概要】 ①保育所保育指針の改定 ②保育所保育指針とはなにか ③保育所の目的と役割 ④保育所保育の目標 ★第３章　学びの振り返り 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp34-40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp34-40を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく ○用意してくるもの：インデックス 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第６回	保育所保育の目的・内容・方法② 【key words】 保育における養護・育みたい資質と能力・１０の姿 【授業概要】 ①養護の理念 ②幼児教育を行う施設として共有すべき事項 ③幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp40-45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp40-45を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第７回	保育所保育の目的・内容・方法③ 【key words】 ねらい・内容・小学校との連携 【授業概要】 ①乳児の保育 ②１歳以上３歳未満児の保育 ③３歳以上児の保育 ④小学校との連携強化 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp45-51 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp45-51を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく 【予習復習に必要な想定時間】

		予習30分
	第８回	保育所保育の方法①　～環境を通して行う保育～ 【key words】 人的環境・物的環境・自然や社会の事象・環境構成 【授業概要】 ①保育の環境の種類 ②環境を通して行う保育の留意点 ★第６章　学びの振り返り(1)(2) 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp79-83 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp79-83を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第９回	保育所保育の方法② 【key words】 保育所保育の方法 【授業概要】 ①保育保育の方法の原理 ★第６章　学びの振り返り(3) 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp84-87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○復習：動画サイト等で保育所や幼稚園の発表会を視聴する 【予習復習に必要な想定時間】 復習30分
	第１０回	保育の計画と評価 【key words】 計画を立てる意味・全体的な計画・指導計画・PDCA 【授業概要】 ①保育の計画 ②保育の計画・実践・評価・改善 ★第７章　学びの振り返り 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp91-105 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp91-105を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第１１回	子ども理解に基づく保育 【key words】 発達過程・個人差・子ども理解 【授業概要】 ①乳児の発達のポイントと保育の原理 ②１歳以上３歳未満児の発達のポイントと保育の原理 ③３歳以上児の発達のポイントと保育の原理 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp109-122 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp109-122を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく ○課題：学びの振り返り(1) 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 課題60分
	第１２回	地域社会で行う子育ての支援 【key words】 子育て支援・関係機関との連携 【授業概要】 ①保育所を利用している保護者に対する子育て支援 ②地域の保護者等に対する子育て支援 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp109-122 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○課題：保育所で行われている子育て支援の実践についてまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 課題：60分
	第１３回	障害のある子どもの保育 【key words】 障害・インクルーシブ保育・保護者への支援・関係機関との連携 【授業概要】 ①障害の種類 ②インクルーシブ保育の実際 ③保護者及び関係機関との連携 ④特別な配慮が必要な子ども ★　学びの振り返り 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp141-151 【課題・予習・復習・授業準備指示】

○予習：教科書pp141-151を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１４回　保育の歴史と思想

【key words】
倉橋総三・東京女子師範学校附属幼稚園・野口幽香・二葉幼稚園
【授業概要】
①幼稚園の歴史
②保育所の歴史
③幼児教育と保育をめぐる動向
④欧米の教育・保育思想
★第１１章　学びの振り返り

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp155-170
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：TEDサイトで保育や幼児教育に関する動画を視聴する
【予習復習に必要な想定時間】
復習30分

第１５回　日本の保育の現状と課題

【key words】
保育者の専門性・キャリアアップ研修・子育て支援・子どもの貧困
【授業概要】
①社会全体で子育てを支援する
②保育所職員の資質・専門性の向上
③保育・育児における情報機器の活用

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp173-180
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp173-180を読み、理解を深めたいと思う箇所に下線を引いておく
○復習：定期テストにむけて復習をしっかりしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分　復習適宜

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・オンライン授業に変更される場合は、学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み替えを行うことがあります。また、 　オンライン授業の際の資料配付及び講義は、ZoomMeeting・Google・PDFファイル・wordファイル・PowerPointファイ 　ル・YouTube等を利用。なお、ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」でリアルタイムの意見交換の機会を設けます。 ・保育士資格必須科目であるため、遅刻、欠席等は大学のルールに則り対応し、無断欠席はしないでください。 ・無許可でのスマートフォンの使用、提出物の遅れ、などは減点となります。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・コロナ禍での新しい生活様式を踏まえて、子どもと関わるボランティアに積極的に参加してください。 ・日頃から子どもに関係する話題に関心を向けることを心がけてください。
オフィスアワー	初回授業で伝達します。
評価方法	群馬医療福祉大学の成績評価基準に基づき評価を行う。 評価は、定期試験60%、課題レポート15%(保育の現状と課題)、授業への参加度と提出物25%。総合評価は定期試験が60%を超えていることが前提となる。
教科書	保育原理　子どもの保育の基本理論の理解　2019　萌文書林
参考書	①幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領　　チャイルド本社 ②厚生労働省「保育所保育指針解説」2018.フレーベル館 ③文部科学省「幼稚園教育要領解説」2018.フレーベル館 ④内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」2018.フレーベル館
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・群馬県立しろがね学園にて障害のある子どもの保育に関する実践および保育所や幼稚園へのコンサルテーションに15年間従事した経験をもとに、インクルーシブ保育を含む現代の新しい保育の考え方や基礎について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育原理　　授業コード：S4011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
関本　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	本科目「教育原理」は、教育職員免許法施行規則第６条付表第３欄の「教育の基礎倫理に関する科目」に含まれる「教育の理論並びに教育に関する歴史及び思想」に該当する。本授業では、教育の理念・思想と歴史を学ぶことにより、現代の「教育」が抱え込んでいるさまざまな問題について知り、「教育」という公共的・社会的問題に対する自分なりの考え方の基礎を確立することを目指す。
授業の概要	教育概念並びに教育に関する歴史的思想に触れ、今日のわが国における教育の根拠となる学習指導要領について学ぶ。具体的には、教育に関する社会的、制度的、または経営的要素を理解する。子どもの発達や教育に貢献した偉大な先人たちの考え方を学習し、大人としての、自立した人間像を探求する。教育問題とは何か。われわれはどのように教育の根本問題を解決できるかについて考察していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス　授業の進め方　「教育原理」の語源　教育の意義・目的及び家庭福祉等の関わりについて理解する
	第２回	教育目的の変遷　古代ギリシア時代　ローマ時代　中世　ルネサンス　実学主義　啓蒙時代　新人文主義　現代
	第３回	教育の場　家庭教育　就学前教育　学校教育　社会教育　生涯教育　乳幼児期の教育の特性　教育と子ども家庭福祉の関連性
	第４回	わが国の学校教育　明治前期の教育　明治後期の教育　大正期の教育　昭和期の教育　平成期の教育
	第５回	教師　人間形成と教師　教育の本質における教師　教育愛　教師の威厳　教職の誕生
	第６回	わが国における教師像の変遷　伝統的教育と聖職者的教師　教育の民主化と教育労働者
	第７回	専門としての教職教育行政と学校制度　教育行政の組織　中央教育行政のしくみ
	第８回	教育課程の役割・機能・意義
	第９回	教育課程の編成の基本原理及び編成方法
	第１０回	カリキュラムマネジメントの意義　カリキュラム評価

	第１１回　　学習指導法の類型　教師中心型　生徒中心型　プロジェクト法　ラボラトリ・メソッド 第１２回　　学習組織　グループ学習　個別学習　一斉学習　横割りクラス編成　縦割りクラス編成 第１３回　　現代の教育諸問題 第１４回　　教育情報　情報化の光と影 第１５回　　ディベイト　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。　6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。　授業中に課題として出されたレポートは必ず期限内に提出すること。　将来教職に携わる人として、授業中は私語を慎む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。
オフィスアワー	金曜・第2時限
評価方法	定期試験（60%）　レポート（20%）　ディベイト（20%）で総合的に判断する。
教科書	岩田朝一編著 『教育学教程』 学苑社
参考書	小学校学習指導要領　幼稚園教育要領　幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 江島正子著 『世界のモンテッソーリ教育』 サンパウロ社　授業中にもそのつど紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 （平成21年4月～平成25年12月）国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現 児童青少年課児童･青少年係）嘱託員[非常勤] （平成26年4月～平成29年3月）公益財団法人 荒川区自治総合研究所　研究員 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の心理学Ⅰ　　授業コード：S4031

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
橋本　広信			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 誕生の瞬間から大人に向かって変化をし続ける子どもの発達のあり方について、全般的なイメージを描くことが出来るようになる事を大きな目的とする。そのために、発達的変化の過程を幅広い視点から学ぶことがその基本となるが、子どもらしい心の特性を多角的に理解する視点を培い、保育者として子どもの行動や問題について発達的な意義を理解し、本人や保護者に助言するための知力を養う。 【到達目標】 ①保育に関わる発達理論など、基礎的な心理学的知識を習得する。 ②学んだ発達心理学的な観点を用いて、子どもの心の状態について、一定程度深く理解することができる。 ③乳幼児期の子どもの学びや認知の特性について理解し、子どもの健全な発達を支える人との関係性や体験、環境のもつ意義を理解する。
授業の概要	主に子どもの発達の様相について、発達心理学で明らかになっていることを中心に幅広く学習する。また、そこから実際の保育場面で生じる出来事に対する捉え方や考え方を提示し、１回の授業ごとに関連するトピックや実際の事例を通しながら、できる限り、学生自身が課題について考えられる授業を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション：子どもの発達をどう見るか？ 【key words】 発達、遺伝、分化と統合、発達の加速現象、生得説、成熟説、環境要因説、輻輳説、環境閾値説、相互作用説、刷り込み、ブロンフェンブレンナー、生態系モデル、トランザクショナル・モデル 【授業概要】 発達そのものに対するとらえ方を学ぶ。発達をどう見るか、という発達観は社会の変化に伴い大きく変化してきた。子どもはどのように発達をし、何が大きな影響を及ぼすのか、などという子どもを見る見方の奥にあるのが発達観である。子どもの教育観にも直結する代表的な発達観を理解することで、人がどのように子どもと子どもの時代をとらえる傾向があるのかを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書14-24ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 基本的な発達観を解説する。新しい用語が多いので、予習（あらかじめ教科書該当部分を読んでおく）をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習2時間
	第２回	子どもの発達と子ども観・保育観の変遷 【key words】 初期経験、アヴェロンの野生児、カマラ、アマラ、ボウルビィ、愛着、臨界期、可塑性、ライフコースとライフサイクル、アリエス、小さな大人、ルソー、エミール、エレン・ケイ、児童の世紀、子どもの権利条約 【授業概要】

		子どもは、一人ではほぼ何もできないような状態で誕生する。そして、急速に言葉を覚えたり身の回りのことができるようになっていく。こうした初期の「発達」のあり方をどう捉えるべきかを「子ども観の移り変わり」に注目しながら学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書28-38ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の子ども時代を思い返し、親から譲り受けたもの（遺伝）の影響を感じるものと、自分の環境が大きく影響をしたと思われるものについて、それぞれ説明できる準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第３回	社会情動的発達①（自己の発達） 【key words】 スターン、自己と自我、ハンドリガード、二項関係、共同注意、三項関係、マークテスト、自己評価、第一次反抗期、自己意識、自己制御、向社会的行動(146ページ) 【授業概要】 人は生まれた時、自分が誰かを考える力を持たない。その状態から、自分を見つめる心の力である「自我」が育ち、同時に「自己」の世界が生まれ育っていくと考えられる。ある意味、本当の人格を持った一人の人としての歩みが始まるのはこうした「自己」の誕生によると考えられる。ここでは、こうした自己の発達に関する心理学理論について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書40-50ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 重要な用語が出てくるので、授業前に教科書をしっかり読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第４回	社会情動的発達②（情動・感情の発達） 【key words】 情動、感情、生理的微笑、社会的微笑、人見知り、一次的情動、二次的情動、情動調整、社会的参照行動、ギブソンの視覚的断崖実験 【授業概要】 人に限らず、動物には広く「快・不快」などの情動（感情）が備わっており、本能的に状況に反応して心が動いていく。こうした情動の面においても発達は見られ、一定の法則性がある。ここでは、人の情動の発達のあり方を学びながら、それがどのように人との関係を結びつけたりするのか、など、情動の機能について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書48-57ページ、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「愛着」と「愛着障害」について事前によく調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習2時間、復習2時間
	第５回	身体機能と運動の発達 【key words】 ポルトマン、生理的早産、二次的留（就）巣性、離巣性、発達の順序と方向、スキャモン、新生児反射、吸啜反射、モロー反射、バビンスキー反射など、馴化－脱馴化法、選好注視法、マザリーズ、粗大運動、微細運動 【授業概要】 ヒトは、自分で移動や姿勢制御もできない状態で誕生してくる。そして、乳幼児期に親の世話を受け数年をかけながら、日々心身の機能を発達させていく。ここでは、比較的規則的に発達する身体機能や運動機能の発達の流れを確認し、それが一人の人として人格を形成していく上で、どのような意味をもつかを考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書58-71ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもが自由に遊んでいる場面をネットや現場で観察し、どのような身体機能や運動機能を使っているかに注目をし、書き出しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第６回	認知の発達①（認知発達理論） 【key words】 シナプス、ニューロン、認知、ピアジェ、認知発達段階論、感覚運動期、前操作期、具体的操作期、形式的操作期、象徴機能、保存、自己中心性、同化と調節、心の理論、誤信念課題 【授業概要】 子どもが物事を捉える認知のあり方は、大人とは異なる面がある。それが「子どもらしさ」を生む一つの原因にもなるが、ここでは、ピアジェの認知発達理論からそうした子どもの認知の特徴や発達の法則性を学び、認知面からの子ども理解の視点を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書72-79ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ピアジェの認知発達理論を予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
	第７回	認知の発達②（学習理論） 【key words】 学習、古典的条件付け（パブロフ）、オペラント条件付け（スキナー）、スモールステップ、観察学習（バンデューラ）、教師期待効果（ピグマリオン効果）、発達の再近接領域（ヴィゴツキー）、動機づけ 【授業概要】 ヒトは誕生時にできることは非常に限られている。すなわち生まれてから学習によって大半のことを獲得する。学習のメカニズムをこれまでに明らかにしてきた代表的な学習理論について学び、子どもが何かを身に着けていくとき、どのようなことに影響をうけるのかを理解し、子どもの内面世界を理解する手掛かりを得る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書80-87ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
高校までに習った、学習理論について振り返り予習をしておくこと。予習3時間、復習1時間
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第８回　言葉の発達とコミュニケーション

【key words】
叫喚発生、クーイング、共鳴動作、マザリーズ、喃語、共同注意、三項関係、表象、象徴機能、一語文、二語文、ヴィゴツキー、内言、外言、発達の最近接領域
【授業概要】
人を他の動物と明快に分ける要素が、言語の獲得であろう。新しく産まれた赤ちゃんは、努力をしてということもなく自然に言語（話し言葉）を獲得していく。人が生きていく上で欠かせない言語の獲得のプロセスを学び、さらに、言語がどのように暮らしに機能していくのかについて学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書88-102ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が生まれてから初めて言葉を出すまでのことを、親にインタビューして記録しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第９回　子どもの発達と臨床的問題①

【key words】
ICIDH、ICF、DSM5、発達障害、アセスメント、知能と知能検査、発達検査

【授業概要】
すべての子どもが健全に育つ基盤を損なうことなく生まれてくるのが理想であるが、実際には一定の確率で、誕生までの間に色々な要因によって何らかの臨床的問題を背負う子どもたちが誕生する。身体的な問題や知的な問題、感覚・情動的な問題、関係性の問題など、それらの問題を検査し、分類する規準や見方が作られている。今回はそうした障害に関する理解の基礎として分類の考え方や実際の検査の種類などを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書104-115ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書115ページにある知能検査と発達検査を調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１０回　子どもの発達と臨床的問題②

【key words】
知的障害、ASD（自閉スペクトラム症）、ADHD（注意欠如・多動症）、LD（学習障害）、虐待による臨床的問題
【授業概要】
保育の現場で出会う可能性のある代表的な臨床的問題である障害群について学び、おおよその特徴を理解する。具体的な事例なども通して、実際にそうした子どもたちに関わる上で求められる理解や態度なども考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書116-121ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知的障害や自閉性の障害、LDなどの診断を受ける子どもたちが、具体的にどのような場面で困ることが起きるか、ネットや本などで調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１１回　乳幼児期の学びに関わる理論①　愛着

【key words】
内的作業モデル、母性剥奪（マターナル・ディプリベーション）、ホスピタリズム、移行対象（ウィニコット）、エインズワース、新奇場面法（ストレンジ・シチュエーション法）、分離不安、愛着障害
【授業概要】
子どもは特定の人との間に強い心の絆を形成することで、生理的・社会的に生きる基盤を得ることができる。この目に見えない心のである愛着の形成がどのようになされていくのかを学ぶ。そして、愛着の発達のプロセスを確かめる方法としての新規場面法を理解し、愛着のタイプが作られていくことを知る。また、愛着形成がうまくいかないとどのような影響が出るのかも事例を通して考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書124-139ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
135ページの愛着に対する援助のポイントのところをしっかり読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

第１２回　乳幼児期の学びに関わる理論②　遊び

【key words】
ホモ・ルーデンス、ピアジェ（機能的遊び、象徴的遊び、ルールのある遊び）、パーテン（何もしない行動、ひとり遊び、平行遊び、連合遊び、協同遊び）、役割行動、自己制御、レジリエンス
【授業概要】
乳幼児期において、「遊ぶこと」の意味や遊びのもつ機能について学ぶ。また、保育場面においていかに遊びを通して子どもの発達を引き出していくかという視点で遊びと発達、学びについて考えていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書157-167ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書にはないので、各自でアフォーダンスについて調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習3時間、復習1時間

	第１３回　乳幼児期の学びに関する理論③　道徳性の発達 【key words】 道徳性、ピアジェ、コールバーグ、ハインツのジレンマ、3水準6段階の道徳性の発達段階論、ごっこ遊び、ファンタジー 【授業概要】 子どもは社会の中でお互いを尊重して生きていくために、社会的な価値観や多くの人と共に暮らすための規範（ルール）を理解し、身に着けていく。つまり、道徳性も発達をする。ここでは、道徳性がどのようにして心の中に生じるかを検討した理論や、コールバーグのジレンマ課題も通しながら、子どもにどのようにして道徳性が生じるのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書148-157ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ハインツのジレンマ課題を調べ、自分がハインツの立場ならどうするかについて整理して答えられるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１４回　乳幼児期の学びの過程と特性 【key words】 非認知能力、アフォーダンス 【授業概要】 実際の子どもたちの遊びの場面はどのように展開・構成されているかを見ながら、その遊びにおいてどのような感覚・感性、能力が培われているかを検討する。また、遊びに限るものではないが、物や場の中にあって人を動かす（アフォードする）要素（アフォーダンス）に関するギブソンのアフォーダンス理論を学び、実際に子どもを遊びにアフォードする身近なものを探してみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書160-171ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 様々な時代の子どもの遊びについて文献やネット等を通して調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間 第１５回　乳幼児期の学びを支える保育 【key words】 養護と教育が一体的に展開する保育、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）、応答的保育、ウィニコット、本当の自己、偽りの自己、保護者への支援 【授業概要】 生きる力を育む学びの基盤は、乳幼児期に作られる。保育の心理学の最後の授業では、まず「養護と教育を一体的に行う保育」について考え、乳幼児期の子どもの学びを支える保育に関する重要な視点や方法を学ぶ。そして、子どもたちの素朴な学びを豊かに引き出すために、具体的にはどのような活動や大人の関わりが必要なのかについて、実際に子どもたちの興味を生き生きと引き出し、伸ばす教育実践を行ってきた教師の実践を学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書172-185ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の理想の保育者像、教師像について考えておくこと。その中に、どんな保育や教育の実践をできるようになりたいか、自分が考える理想のあり方を言葉にしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習3時間、復習1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を自ら高めようと努力すること。 [受講のルール] ・授業には、遅刻、居眠り、忘れ物、私語、スマートフォン（携帯電話）の操作等をせずに、各自目的意識を持ち、集中して臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、化粧、飲食行為等など）はしないこと。 ・授業に関係のない物（スマートフォン・携帯電話等）はカバンの中にしまうこと。各自の諸事情により、机上に出す必要のある物に関しては、あらかじめ担当教員に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード（zoom授業の場合は、スレッドに対するコメントに授業後感想を書きこむこと。）
授業外時間にかかわる情報	・授業で紹介する図書、物語、絵本、映画などに積極的に触れ、子どもに関する豊かな知識や教養を広げていく姿勢を持つこと。 ・授業回数によって適宜調べ学習や発展学習の課題を課す予定。提出物は評価対象になるので必ず出すこと。
オフィスアワー	基本的に授業後30分、高等教育支援センターにて質問を受けつける。その他はメール等での相談を活用すること。 hashimoto@shoken-gakuen.ac.jp
評価方法	①授業時に課す課題（小レポート等）（20%）　②学期末試験（80%）　①～②を総合的に評価する。
教科書	青木　紀久代（編）（2019）『保育の心理学』（シリーズ知のゆりかご）（みらい）
参考書	適宜指示をする
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習)

	■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 zoomでの授業がありうる。

講義科目名称：　子ども家庭支援の心理学　　授業コード：S4033

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
橋本　祐			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「保育の対象の理解に関する科目」として設定されている授業です。保育の対象である子どもたちだけではなく、子どもたちがそこで生まれ人格形成をする場である家族の役割や機能を理解し、実際に保育園等で出会う子どもと家庭の出来事に対応するための知識基盤と感性を育成することを目的とします。 【到達目標】（「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容について（H30.6.24）」）に準じます。 ①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ③子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ④子どもの精神保健とその課題について理解する。
授業の概要	教科書に基づき、毎回表題に掲げているテーマに関して予習を求めます。予習した内容に基づいて、基本的な知識を学び、ディスカッションを行います。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	科目紹介 【key words】 【授業概要】 ・オリエンテーション ・講読票（予習用ワークシート）の書き方 ・アカデミックエッセイの書き方紹介 ・構成的グループエンカウンターの演習 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴 【key words】 基本的信頼感、応答と受容、愛着、共同注意と三項関係、行動範囲の拡大と自我・自己の発達、基本的生活習慣、人生移行と環境移行、小1プロブレム、９，１０歳の節、二次的ことば、有能感と劣等感 【授業概要】 ・乳児期から学童期にかけての大まかな発達の流れを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p1～11 【課題・予習・復習・授業準備指示】

講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第3回　思春期から青年期の発達の特徴およびアイデンティティの形成

【key words】
第二次性徴、心理的離乳（ホリングワース）、ギャンググループ、チャムグループ、ピアグループ、コールバーグの道徳的発達理論、モラトリアム、アイデンティティ、マーシャのアイデンティティ・ステイタス論
【授業概要】
・学校生活と集団活動について振り返る。
・思春期の親子関係について確認する。
・青年期に体験する大きな変化について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p12～24

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第4回　成人期から高齢期の発達の特徴

【key words】
親密性、キャリアと大人にとっての自立、世代と世代のライフサイクル、喪失、流動性知能と結晶性知能、統合　対　絶望、希望
【授業概要】
・子どもを育てる立場となり、親世代の抱える課題について学ぶ。
・祖父母世代におけるサクセスフルエイジングや、危機について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p25～36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第5回　家族システムと家族発達

【key words】
保育環境、家庭環境、システムとしての家族、ＩＰ、コペアレンティングと父性、母性の役割、生態学的システム論、複雑化・多様化、子どもの発達と家族の変容、空の巣症候群、祖父母的世代性
【授業概要】
・家族をシステムとして捉える視点を学ぶ。
・子どもの問題を、家族システム全体から捉える基本的な知識を学ぶ。
・多様な家族と迎える危機について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p37～48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第6回　親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達

【key words】
児童虐待、マルトリートメント、ＨＳＣ（アーロン）、愛着関係を阻害する諸要因、愛着の世代間伝達愛着
【授業概要】
・虐待の要因や、愛着障害について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p49～61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第7回　子育て環境の社会状況的変化

【key words】
アロマザリング、拡大家族と複数養育、家族規模の縮小、ワーク・ワイフ・バランス、パーソナリティ障害、境界性パーソナリティ障害
【授業概要】
・家族の時代的変化を大まかなに学ぶ。
・家族の変化や子育て上の問題について理解をする。
・愛着障害について、発達障害やパーソナリティ障害との関連から学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p62～81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第8回　多様な子育て家庭への支援

【key words】
育児不安をもつ家庭、育児サポート環境のない夫婦共働き家庭等

【授業概要】
・家庭が前提となる現代において、様々な家庭とその支援について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p83-93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第9回　特別な配慮を必要とする家庭への支援
【key words】
貧困家庭、虐待疑いのある家庭、保護者が精神障害等を抱える家庭、外国ルーツの家庭等
【授業概要】
・貧困や精神障害をもつ保護者の家庭と、その支援について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p94-102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第10回　子どもの心と健康
【key words】
不安障害、選択性緘黙症、強迫性障害、チック障害、身体表現性障害等、反抗挑戦性障害
【授業概要】
・子どもにみられる精神障害について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p103-125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第11回　障害のある子ども理解と対応
【key words】
知的障害、発達障害、知能検査

【授業概要】
・知能検査に基づいて、知的障害や発達障害の理解を深めます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p126～135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第12回　遊戯療法と芸術療法
【key words】
遊戯療法、芸術療法、コラージュ療法、臨床の知
【授業概要】
・子どもを対象とした心理療法について学ぶ。
・コラージュ療法の具体的な手順を理解し、実践ができる。
【教科書ページ・参考文献】
副読本p56～70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第13回　コラージュ療法の演習
【key words】

【授業概要】
・コラージュ療法を自分たちで体験する。
・フィードバックを行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の復習をしてくること。
【予習復習に必要な想定時間】

第14回　災害と子ども
【key words】
ＰＴＳＤ、強い衝撃と子どもの回復力、災害と子どもの遊び　等
【授業概要】
・災害時における家族や子育て上の問題に注目して理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p136～146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前に教科書該当部分を読み、ワークシートを埋めておくこと。必要であれば、用語を調べておくこと。授業終了後は復習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第15回　まとめ
【key words】

【授業概要】
これまでの予習用ワークシートでいただいた質問への質疑応答時間とします。

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講生に関わる情報】 ・教科書を毎回持参すること。 ・授業の際には、プリントを配布することもあるので、ファイル等を用いて各自管理すること。 ・レポートや調べ課題を出す予定。 【受講のルール】 ・授業では、遅刻、居眠り、情報通信機器の操作などはせず、集中して受講すること。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語等）はしないこと。講義の妨げになる場合は、退出を命ずることもありうる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	予習用のワークシート（リアクションペーパーを兼ねます）
授業外時間にかかわる情報	毎時間、教科書の指定された単元を読み、予習用のワークシートを埋めてくることを求めます。
オフィスアワー	授業終了後30分
評価方法	・総合評価は、以下の通しての割合で評価。総合得点60～69点：Ｃ　　70～79点：Ｂ　80～89点：Ａ　90点以上：Ｓ・期末試験70％、提出物20％、授業態度10％
教科書	本郷一夫・神谷哲司（編著、2019）『子ども家庭支援の心理学』（建帛社）
参考書	青木久子他（2001）『子ども理解とカウンセリングマインド』（萌文書林）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 行政の教育相談室やスクールカウンセラー等の学校臨床業務。 療育手帳の心理判定業務。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅰ（音楽）　　授業コード：S4071　S4072

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　音楽の基礎知識を理解し、それに伴い音楽的感性を養い乳幼児の音楽表現の指導に生かせるようにする。 【到達目標】 　音楽の基礎的な知識を習得することは、単に教養を身につけるというだけでなく、それが良い演奏や良い指導につながることを理解させたい。楽譜の学習に伴って、ソルフェージュを取り入れ、実習することで演奏及び表現の感覚を養っていきたい。 　また、西洋や日本の音楽史を学習することで、歴史上重要な作曲家の生涯や作品に触れたり、日本の音楽（民謡やわらべ歌）や諸外国の音楽に触れることにより、豊かな音楽感を習得させたい。
授業の概要	①保育者自身の音楽的感性や能力が、そのまま子どもに影響を及ぼすため、音楽の基礎的な知識を習得する。 ②正しいリズム感、即興的音楽活動をとらえる感覚を養うためのソルフェージュの学習や、コードネームの基礎について学習する。 ③移調の学習を通して弾き歌いに対する応用力を身につける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	前期オリエンテーション（授業の進め方・課題・小テスト等の評価方法の説明） 【key words】 シラバス、課題 【授業概要】 ・シラバスの確認と授業計画について ・授業の概要や進め方についての確認 ・音楽的経験についてのアンケート 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキスト　初め～P18まで読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	楽譜の決まり（譜表や記譜について） 【key words】 5線、ト音記号、ヘ音記号 【授業概要】 ・音部記号の種類と音の位置について ・5線上での音符の表記のし方について 【教科書ページ・参考文献】 初～P18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P32～40まで読んでおく

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　音符と休符について
【key words】
音符、休符、付点音符、連符
【授業概要】
・音符、休符の名前と長さについて
・連符の表し方
・次回、確認小テスト
【教科書ページ・参考文献】
P32～40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認テストに向けて復習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　音符の長さとリズムについて（グループ別によるリズム打ち、リズム遊び）
【key words】
音符の長さ、リズム打ち
【授業概要】
・音符、休符混合のリズム打ち
・グループによるリズム打ち
・リズム打ちの課題提示（プリント配布）
【教科書ページ・参考文献】
P32～40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題プリントの練習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　音名について　日本音名・英音名の説明
【key words】
音名、英音名、白鍵、黒鍵
【授業概要】
・音名とは何か
・日本音名と英音名の表記について
・白鍵と黒鍵の表記について
【教科書ページ・参考文献】
P19～23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本音名と英音名を覚える
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　変化記号・調号・異名同音について
【key words】
シャープ、フラット、ナチュラル
【授業概要】
・変化記号の名前と意味について
・変化記号の調号と臨時記号での使い方
・異名同音について
・次回、音名の確認小テスト
【教科書ページ・参考文献】
P23～31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
確認小テストのための復習
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　拍子（単純拍子・複合拍子）・拍子記号について
【key words】
拍子、リズム
【授業概要】
・確認テスト
・拍子の表し方と意味について
・単純拍子と複合拍子について
・拍とリズムについて　練習問題
【教科書ページ・参考文献】
P64～75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
リズム打ちの練習問題
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　強弱記号・発想記号・反復記号について
【key words】
リピート、Ｄ．Ｓ、Ｄ．Ｃ、コーダ
【授業概要】
・反復記号と省略記号の種類と奏法について
・強弱記号と発想記号の種類と意味について
【教科書ページ・参考文献】
P157～168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト中の練習問題を解答しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　音程について①音程の説明と長音程・短音程について
【key words】

		音と音とのへだたり「度」 【授業概要】 ・音程とは何か ・音程の表し方 ・長音程、短音程の違いについて 【教科書ページ・参考文献】 P41～43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P43～54を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	音程について②完全音程の説明と音程のまとめ 【key words】 完全4度、完全5度、増、減 【授業概要】 ・完全音程の種類について ・半音の数の関係による、増減について ・次回、音程の確認の小テスト 【教科書ページ・参考文献】 P43～54 【課題・予習・復習・授業準備指示】 確認テストのための復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	音階と調について①音階の説明と長音程について 【key words】 テトラコード、属音、下属音、導音 【授業概要】 ・音階の音のならびについて ・音階の中の属音、下属音、導音について 【教科書ページ・参考文献】 P76～77 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P76～81を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	音階と調について②調号と主音について 【key words】 ♯系の調号、♭系の調号、主音 【授業概要】 ・調号の書き方の注意点について ・各調における主音の位置について 【教科書ページ・参考文献】 P76～81 【課題・予習・復習・授業準備指示】 調号と主音の位置の確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	音階と調について③短音階の説明　長調と短調の関係について 【key words】 和声的短音階、旋律的短音階 【授業概要】 ・短音階の種類について ・長音階と短音階の関係について ・同名調と同主調について 【教科書ページ・参考文献】 P81～93 【課題・予習・復習・授業準備指示】 短音階が各調で弾けるようにしておく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	日本音階について 【key words】 長音階、短音階、日本音階 【授業概要】 ・日本音階の音列について ・わらべうた、民謡について 【教科書ページ・参考文献】 P85～88　こどものうた200 【課題・予習・復習・授業準備指示】 音列とは何か復習しておく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	前期のまとめ・復習等 【key words】 まとめ 【授業概要】 前期内容の復習 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期試験範囲の確認と復習

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　後期オリエンテーション
【key words】
授業の進め方
【授業概要】
・授業の進め方の確認
・授業内容について
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
各調の調号と主音の確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　転調・移調について
【key words】
調号、主音、「度」
【授業概要】
・転調と移調の意味と違いについて
・移調の必要性について
【教科書ページ・参考文献】
P92～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
調と音程の復習をしておくように
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　移調の方法・練習問題
【key words】
調号、主音、「度」
【授業概要】
・調を変える移調
・音程を移動させる移調
・それぞれの方法の説明
・練習問題の課題
【教科書ページ・参考文献】
P101～103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題問題を次回までに提出する

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　和声について①主要三和音・副三和音について
【key words】
主和音、属和音、下属和音
【授業概要】
・音階上にできる三和音について
【教科書ページ・参考文献】
P114～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
和音の響きの違いを確認しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　和声について②各調における主要三和音と終止形について
【key words】
主要三和音、カデンツ
【授業概要】
・各調における主要三和音の構成音について
・和音の連結について
【教科書ページ・参考文献】
P121～124
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ハ長調のカデンツを左手で練習しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　コードネームについて（種類と表記の説明）
【key words】
英音名
【授業概要】
・英音名の確認
・各調でのⅠ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ7　について
【教科書ページ・参考文献】
P135～136
【課題・予習・復習・授業準備指示】
和音記号の表し方の確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　和音記号とコードネームの関係について
【key words】
和音記号
【授業概要】
和音記号とコードネームの表し方の違いについて
【教科書ページ・参考文献】

		P137～139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 和音記号とコードネームを比較して確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２３回	各調における主要三和音とコードネームの関係について 【key words】 スリーコード 【授業概要】 ・各調（ハ長調、ヘ長調、ト長調）における主要三和音の確認 ・スリーコードについて 【教科書ページ・参考文献】 P137～139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P184を読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２４回	楽式（一部形式、二部形式、三部形式等の説明） 【key words】 楽節、形式 【授業概要】 ・形式の説明と特徴 ・各形式の曲によって説明 【教科書ページ・参考文献】 P184 【課題・予習・復習・授業準備指示】 形式の種類の確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２５回	楽器の種類と奏法について、扱い方の注意点について 【key words】 有音程打楽器、無音程打楽器 【授業概要】 ・打楽器の種類と奏法 ・指導上の留意点 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（楽器の種類） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 楽器（打楽器）の名前を覚える 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２６回	合奏（グループ別による選曲と、分担楽器の練習） 【key words】 合奏、アンサンブル 【授業概要】 ・7～8人のグループによるハンドベル演奏（ドレミのうた） ・グループごとに合奏曲を選び楽器分担をする 【教科書ページ・参考文献】 合奏曲の配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の受けもち楽器の練習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２７回	合奏（グループ別演奏発表） 【key words】 合奏 【授業概要】 ・グループごとに合奏曲の発表 ・年令に適した合奏曲について 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２８回	音楽史（西洋音楽史）鑑賞等 【key words】 バロック、古典派、ロマン派 【授業概要】 ・各年代の音楽の特徴と主な作曲家 ・各作曲家の代表的作品のＣＤ鑑賞 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（作曲家と作品） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 作曲者と作品が一致するように覚える 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２９回	音楽史（日本の音楽、わらべ歌・童謡等について） 【key words】 日本音階、わらべうた 【授業概要】 ・西洋の長音階、短音階と日本音階の違いについて ・わらべうたの伴奏について

	【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（わらべうた） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 わらべうたの伴奏練習 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　後期のまとめ復習 【key words】 後期授業内容のまとめ 【授業概要】 授業内容の復習とまとめ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験のための復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	五線紙を準備すること。予習・復習を行い授業の理解度を高めるようにする。 スマートフォンの電源は切っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内に配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。 毎回講義の復習をし、疑問点等は次回の講義で質問する。 実技等の練習をしておくように。
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	授業内課題（30%）　実技試験（70%）
教科書	わかりやすい楽典　音楽之友社
参考書	-
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅰ（音楽）　　授業コード：S4071　S4072

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	1単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
佃　朋子・峯岸　梓			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「遊び」は幼児にとって重要な学習である。保育や幼児教育の現場に於いて求められている表現活動について理解し、音楽を通して幼児が「遊び」から学ぶ資質・能力を養うことが出来るよう知識や技術を習得する。 【到達目標】 子どもの心身の発達や取り巻く環境等から保育内容を踏まえ、子どもの生活と遊びに於ける体験(身近な自然の音や音色・人の声・音楽等)や保育の日常生活を捉え、具体的展開のための技術を実践的に学ぶ。
授業の概要	（音楽）では、ピアノを使用し、6名前後のグループに分かれ音楽の基本的な知識やピアノ演奏法についてレッスンする。グループ内においては、各学生の進度にあわせて個別にレッスンを行い各自の演奏技能を高められるよう進行する。同時に幼児歌曲の弾き歌いを指定された曲数を演奏し、歌唱及び伴奏・コードを学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 オリエンテーション・クラス分け 学生それぞれの進度に合わせた曲決め・バイエル50番以降＋弾き歌い３曲暗譜＋手遊び3曲 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語 【key words】 正しく練習する習慣を身につける 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】

		20分
	第３回	学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語 【key words】 ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第４回	学生それぞれの進度に応じた内容　（ピアノ基礎）：読譜力・演奏姿勢・指の使い方・音楽の記号・用語 【key words】 弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第５回	学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法 【key words】 暗譜する力をつける 【授業概要】 ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：表現方法・ミス・テンポ・リズム感・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第６回	学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法 【key words】 弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 【授業概要】 ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） 　ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 　弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 　特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 　弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第７回	学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・手遊び・ピアノ演奏法 【key words】 伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練 【授業概要】 ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について） 　ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする 　弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ 特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける 　弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第８回	学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法

【key words】
理論・ソルフェージュを理解しピアノ曲を表現豊かに演奏する技術
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第９回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法
【key words】
課題曲数（バイエル50番まで＋弾き歌い5曲暗譜）のクリアに向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
ソルフェージュ（強弱・テンポ・調性）の知識を学び、表現力のある演奏をする
弾き歌いの歌詞の理解、伝え方、伴奏を学ぶ
特に弾き歌いは暗譜（本を見ないで演奏すること）する力をつける
弾き歌いののびのびとした歌唱とそれを引き立てる伴奏
伴奏が止まっても歌や音楽の流れを止めない訓練
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法
【key words】
リズム、ハーモニー、テンポをきちんと理解して演奏する
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（読譜力・演奏姿勢・指の使い方・歌唱・コード・ピアノ演奏法等について）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１１回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏（コード）・ピアノ演奏法
【key words】
試験曲（バイエル50番以降のピアノ曲を1曲暗譜で仕上げる）を選曲
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
試験曲の練習
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：ソルフェージュ・楽典知識・次の曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１２回　学生それぞれの進度に応じた内容　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏
【key words】
前期試験に向けて：試験曲の決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
試験曲の練習
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１３回　学生それぞれの進度に応じた内容　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏
【key words】
前期試験に向けて：試験曲の暗譜
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００

【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１４回　学生それぞれの進度に応じた内容　　前期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏
【key words】
前期試験に向けて：人前での演奏
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて）
　試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
　個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験のためのリハーサル
【授業概要】
授業内課題をクリアする
　試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲の仕上げ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１６回　科目（後期）オリエンテーション
【key words】
後期授業概要
【授業概要】
前期に引き続きレベルアップを図る
　学生それぞれの進度に合わせた曲決め（バイエル80番以降＋弾き歌い３曲暗譜＋絵描き歌2曲）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：実力に応じた選曲
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１７回　学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１８回　学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１９回　学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・手遊び・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・手遊び・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２０回　学生それぞれの進度に応じた内容　　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い

【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２１回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２２回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・絵描き歌・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・絵描き歌・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２３回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２４回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２５回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育の表現技術の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２６回　学生それぞれの進度に応じた内容　弾き歌い・歌唱・伴奏(コード)・ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
　試験曲選曲（バイエル80番以降のピアノ曲1曲を暗譜）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

	第２７回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の決定 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２８回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の練習 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２９回　学生それぞれの進度に応じた内容　後期試験にむけて：弾き歌い・ピアノ演奏 【key words】 後期試験に向けて・人前での演奏 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 試験曲の仕上げと暗譜・人前での演奏に慣れる 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について／後期のまとめ 【授業概要】 授業内課題をクリアする 試験曲の仕上げ・人前での演奏に慣れる 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲の仕上げ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 五線紙とノートを準備すること。予習・復習を行うこと。子どもの表現活動について常に留意すること。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。授業内で配布した楽譜等はきちんと整理し、授業に持参すること。 〔受講のルール〕 実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜とノートは各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	演奏技術向上のために計画的に練習すること。音楽づくりについて常に留意すること。知識を高め、各自の良い点を認識し、それをどのように活かすかについて研究すること。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験80％・授業内評価20％
教科書	①バイエル『ピアノ教則本』全音楽譜出版社　②小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社 ③小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社
参考書	①田丸信明編『新訂ピアノの森２』GAKKEN　②田丸信明編『新訂ピアノの森３』GAKKEN　③ブルクミュラー『25の練習曲』全音楽譜出版社　④『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　⑤『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅰ（図画工作）　　授業コード：S4081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児が表現を通してイメージを豊かにし感性を養うことができるように、幼児の造形表現指導に必要な知識や技能を身　に付けることを目的とする。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現に関する基礎的な知識が理解できる。 ②幼稚園教育要領の表現のねらい、内容、内容の取扱いが理解できる。 ③造形表現における身近な自然やものなどの様々な素材や教材、用具等に触れ、表現を体験することを通して、その特性を理解し、幼児を想像して造形活動を構想することができる。 ④描画における子どもの発達段階、表現の傾向、類型、支援方法について理解できる。
授業の概要	幼児の造形表現の意義や特質に関する基礎的な知識、幼稚園教育要領、子どもの描画の発達等について学習する。また、現場で用いる多様な素材、用具を用いて教材作りをし、教材開発を試みると同時に、子どもへの支援活動のあり方について模索する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　（授業の概要説明、学習のための準備等の確認）　「表現」の意味の発見 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、表現、造形表現、創造性、感性 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○受講のために準備するもの　○受講のルール　○この講座を通して身に付けてほしいこと（自分自身の表現能力を高める　幼児の指導能力を高める　感性を豊かにする） 【教科書ページ・参考文献】 教科書　Ｐ１～３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　本講座で学びたいこと、要望等をメモしてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２回　子どもの「表現」とは　幼児期と造形表現の特質 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域「表現」、表出 【授業概要】 ○幼児期と表現の特質　○表現の分類　○幼児期と造形表現　○表現と表出 【教科書ページ・参考文献】 参考書　村内哲二　「造形表現の指導」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　トレイのギターのアイデアスケッチを描いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分

第３回　幼稚園教育要領から　　領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱い
【key words】
幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、表現
【授業概要】
○領域「表現」のねらいと内容　　１　ねらい（①豊かな感性　鑑賞力につながるもの　②自己表現を意欲的に楽しむ。　③イメージを豊かに表現を楽しむ、着想、創造性につながるもの）　２　内容　（造形に関するものだけ教科的に扱うのではなく、まだ認識が未分化の総合的に表現活動をすること）　３　内容の取扱い
【教科書ページ・参考文献】
石山哲郎　　「幼稚園教育要領・保育所保育指針」　　チャイルド社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
トレイのギターのアイデアスケッチを描いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第４回　製作　　「トレイのギター」　　（身の回りの材料をつかって）
【key words】
トレイのギター　　ボディー　　ネック　　遊ぶものをつくる
【授業概要】
トレイのギター製作　○幼児の製作のねらい　　楽器づくりを通して、身近な素材に親しみ、作った楽器を工夫して遊ぶ楽しさを味わう。　○製作の手順　①素材の形を選ぶ　②ボディーやネックに絵や模様を描く。③ネックをボディーにとりつける。輪ゴムを取り付ける　④音を鳴らして楽しむ
【教科書ページ・参考文献】
雑誌　「保育とカリキュラム」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「トレイのギター」の改良版を考えてくること（教材開発）
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第５回　製作　　二つ折りの動物　　（紙を二つ折りにして立つ動物をつくる。）
【key words】
二つ折りの動物　　支援の方法
【授業概要】
「二つ折りの動物」　　○幼児の製作のねらい　　・紙を二つにおって立てた形から、思い浮かんだ動物を自分なりに表現してつくり楽しむ。　・皆でつくった動物を持ち寄り、動物園を作り、動物園ごっこをして楽しむ。　　○製作の手順　　絵本などを見て、動物の特徴を思い出し、表現する。
【教科書ページ・参考文献】
「絵画・製作・造形遊び百科」　　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
既成の紙による動物つくりの模倣ではなく、オリジナルの作り方を考案する　（教材開発）
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第６回　製作　　吊るす飾り　　（保育室を飾るもの、七夕飾りをつくる）
【key words】
ちょうちん飾り　　七夕　　折り紙による伝承的な技法
【授業概要】
「吊るす飾り」　ちょうちんかざり　　ねらい　　昔から折り紙で七夕の日に作り続けられているちょうちんかざりの伝統的な技法をマスターし、さらに学生自身の創造性を発揮して、幼児たちがどのように楽しく創造的なちょうちん飾りを作るとよいか新しい感覚の参考作品を作り、指導方法を考える。（教材開発）
【教科書ページ・参考文献】
月刊雑誌　「Ｐｒｉｐｒｉ　６月号」　　世界文化社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　オリジナルの新しく創造的なちょうちん飾りを考案する　　（教材開発）
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第７回　子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、錯画期、象徴期、前図式期）
【key words】
錯画期、スクリブル、象徴期、前図式期、頭足人
【授業概要】
○子どもの造形表現の発達研究から　（チゼックの児童美術教育の実践）　　○錯画期（手指の運動の軌跡、生のリズム）　○象徴期（形に意味づけをする）　　○前図式期（頭足人間）
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ８７～９３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ノートの整理　　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、図式期、擬実期、写実期）
【key words】
図式期、基底線、擬実期、ギャングエイジ、写実表現
【授業概要】
○幼児の造形と心身の発達　　○図式期　（基底線、外界と自分の関係を知るようになる。物と色の関係、大小関係も表せるようになる）　　○擬実期　（部分、全体に写実表現がみられる時期）
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ９４～９６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　ノートの整理　　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　子どもの描画の表現の傾向と類型（表現にあらわれる類型）

【key words】
チゼック、誇張表現、天地空間表現、並列表現、積上表現、展開表現、レントゲン表現、同存表現、時間表現
【授業概要】
○子どもの造形表現の発達研究から　（チゼックの児童美術教育の実践）　○表現にあらわれる類型　（誇張表現、天地空間表現、並列表現、積上表現、展開表現、カタログ表現、レントゲン表現、同存表現、正面表現、時間表現）
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１０１～１０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノートの整理　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　子どもの描画の表現の傾向と類型（傾向と問題点）
【key words】
発想の混乱、統合力の欠如、形や色の固定化、固定観念、心身の解放、情緒の安定、自信回復
【授業概要】
○傾向と問題点　（男女の相違、感動不足、発想の混乱、色や形の固定化、模倣の習慣、環境の影響）　○発達段階とその指導　（環境との接触、子どもの資料作成、教材研究）
【教科書ページ・参考文献】
教科書　長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ９６～１０１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノートの整理　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　紙素材による制作方法について　（紙の様々な加工技術について　直線折り、曲線折り、カーリング、組む、広げる）
【key words】
ペーパースカルプチャー、紙工作の様々な技法、ペーパーアートの起源と歴史
【授業概要】
○紙の様々な加工方法について（直線折り、曲線折り、カーリング、組む等）　○紙の彫刻テーマ「お伽噺の世界」　○子どもたちに夢を与え、造形意欲を高めるような作品を製作し、保育室に設置する。　○製作　紙工作の様々な技法を駆使し、夢のある構成を考えたり、リアル感を追求したりして、創造性豊かな作品を作る。　○試作
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのような紙工作をつくるかアイデアスケッチをしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　製作　物語の中の人物　（アイデアスケッチ、試作、製作）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　○子どもたちに夢を与え、造形意欲を高めるような作品を製作し、保育室に設置する。○製作　紙工作の様々な技法を駆使し、夢のある構成を考えたり、リアル感を追求したりして、創造性豊かな作品を作る。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品の続きをつくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１３回　製作　物語の中の人物　（製作　有効な紙の加工技法を用いて製作）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　製作つづき　効率的で美しく効果的な紙工芸の技法を考え、駆使して製作する。　ていねいで、リアル感ができるだけ出るように、繊細につくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品の続きをつくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　製作　物語の中の人物　（製作　仕上げ、鑑賞）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　製作つづき　効率的で美しく効果的な紙工芸の技法を考え、駆使して製作する。　ていねいで、リアル感ができるだけ出るように、繊細につくる。　作品を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品を完成させる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　色彩の基礎　（色の三属性・混色）

【key words】
色の三属性　色相　明度　彩度　色立体　色環　色光の三原色　混色　純色　補色　濁色　清色
【授業概要】
○色彩の基礎　・色の三属性　・混色　純色　清色、　濁色　・補色　同系色　類似色　反対色　・色光の三原色と混合について学ぶ。
○まとめ　アクティブラーニングを採り入れた造形表現指導，　造形表現活動における支援の方法
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５１～１５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノート、プリント類を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１６回　色彩の基礎　（色面構成と配色練習）
【key words】
色相差を基調とした配色　明度差を基調とした配色　彩度差を基調とした配色
【授業概要】
○色彩の配置と面積との関係は重要な意味を持つこと知り、表現の目的に応じて柔軟に色彩を駆使し、配色効果を上げられるよう実践を通して色彩感覚を育む。
○画面を自由に分割して、構成や配色を考えながら美しく着色する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５４～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノート、プリント類を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１７回　色彩の基礎　（色面構成と配色練習）
【key words】
色相差を基調とした配色　明度差を基調とした配色　彩度差を基調とした配色
【授業概要】
○表現の目的に合わせて、色彩のバランスを考えながら美しく着色する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５４～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
色面構成の作品を仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　形の基礎・構成の形式
【key words】
点による形　線による形　面による形　立体による形　左右対称　均衡　比例　強調　律動　動勢　調和
【授業概要】
○定規やコンパス、様々な線材料や面材料、量材料などを用いて、点、線、面による形態をつくって構成し、その構成のおもしろさを研究する。
○構成の形式とその効果を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５６～１６３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
形の構成の作品を仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　マーブリング（墨流し）の制作
【key words】
版画　平版　マーブリング　墨流し
【授業概要】
○水面に、墨汁や絵の具を浮かし、紙をふせて写しとる，マーブリングの技法を学ぶ。
○墨汁や絵の具が水面に浮いて流動する形の面白さや美しさを味わう。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　マーブリングでできた形から、新しい造形的なイメージを展開させたことをまとめてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２０回　マーブリング（墨流し）の制作　墨流しをした紙を自由な形に切り、構成する
【key words】
マーブリング　墨流し　造形的なイメージ　再構成
【授業概要】
○マーブリングでできた形からイメージをふくらませ、形を切ったり貼り合わせたり、クレヨン等で加筆したりして、新しい造形的なイメージを展開し、作品をつくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　マーブリングの実技で気付いたこと、絵の具の濃さや色の組合せ、流動的な形の工夫などをまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２１回　わたしのランチョンマットの制作（染物）　給食の時間、おやつの時間に使って楽しめるもの
【key words】
凸版　型押しスタンピング　孔版　ステンシル　生活を豊かにする造形表現
【授業概要】

○給食の時間、おやつの時間に使って楽しめるランチョンマットを染め物で制作する。
○ランチョンマットのアイデアを練る。
○型押しスタンピングやステンシルの技法で模様をつくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５、Ｐ１３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
型押しスタンピングの版となる型を探したり、模様の参考となる資料を集める。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２２回　わたしのランチョンマットの制作（染物）　給食の時間、おやつの時間に使って楽しめるもの
【key words】
凸版　型押しスタンピング　孔版　ステンシル　生活を豊かにする造形表現
【授業概要】
○型の色や形、組合せを工夫して、ランチョンマットを完成させる。
○完成したランチョンマットを鑑賞し、自他のよさに気付く。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５、Ｐ１３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ランチョンマットの制作で気付いたことや感想をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２３回　フロッタージュ（こすりだし）身近な植物の葉や身の回りのものを色鉛筆等でこすり、形や凹凸の面白さを楽しむ
【key words】
版画　凸版　フロッタージュ　こすりだし
【授業概要】
○凹凸のあるもの（木の葉、木目の美しいもの、金網、レース、ネットなど）に直接紙をのせて、鉛筆やクレヨン、パスなどで、物の地肌をそのまま写しとり楽しむ。
○貼り絵にしたり、こすりだしながら作品を作る。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５・１２６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　身の回りのもので凹凸のあるものをさがして用意する。　復習
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　型押しあそび　自然の素材や身近なものを型押しして楽しむ
【key words】
版画　凸版　型押しスタンピング　押す　転がす　重ねる
【授業概要】
○自然物（木片、木の葉、石、野菜、果物）、器物（ビンのふた、ボタン、釘の頭）、ひも類、布類、紙類、空き箱、段ボールなどをそのままの形を生かしたり、形を変えたりして並べ方や組合せ方を工夫したりして絵の具を付けて押して楽しむ。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　身の回りにある版の材料となりそうなものを集める。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　型押しあそび　型押ししたものを再構成して楽しむ
【key words】
版画　凸版　型押しスタンピング　押す　転がす　重ねる
【授業概要】
○気に入ったところを切り取って貼り絵にしたり、組み合わせたりして、イメージした世界を絵に表現する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　紙版画のテーマを決め、アイデアスケッチを描き、構想を練ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２６回　紙版画の制作　紙を切り取って貼り合わせ版をつくる
【key words】
版画　凸版　紙版画　制作の順序　版の作り方　面の空間関係　全体－部分－全体
【授業概要】
○紙版画の特徴を知る。
○制作の順序を理解する。
○テーマを決め、紙を切り取り、台紙に並べて貼っていく。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２６～１２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
版を完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２７回　紙版画の制作　刷る
【key words】
版画　凸版　紙版画　刷る順序　インク、ローラー等の用具の使い方　動線を考えた環境構成
【授業概要】
○ローラーにインクをつけ、版に縦横むらなくつけていく。
○インクをつけた版に版画用紙をのせ、バレンで全体になじませた後、部分的にこする。
○むらがないことを確かめたら、紙をはがし、乾かす。
【教科書ページ・参考文献】

	長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ１２６～１２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　紙版画の制作を振り返りまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２８回　　コラグラフの制作　身近な素材を貼り合わせて版をつくる 【key words】 版画　　凸版　　コラージュ　　多様な素材を活用した版づくり 【授業概要】 ○いろいろな素材を組み合わせて、台紙に貼り、版をつくる。 ○貼ったものの凹凸や素材感がどのように写し出されるか想像しながら、版をつくる。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　　村田夕紀　内本久美　「技法あそび　実践ライブ」ひかりのくに株式会社　Ｐ９０～９３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 版を完成させる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分 第２９回　　コラグラフの制作　刷る 【key words】 版画　　凸版　　コラージュ　　多様な素材感　　動線を考えた環境構成 【授業概要】 ○ローラーにインクをつけ、版に縦横むらなくつけていく。 ○インクをつけた版に紙をのせ、手でこすって写し取る。 ○紙をはがし、乾かす。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　　村田夕紀　内本久美　「技法あそび　実践ライブ」ひかりのくに株式会社　Ｐ９０～９３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　コラグラフの制作を振り返りまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　　まとめ　造形表現における環境の構成 【key words】 環境構成の意義　　環境構成のポイント　　材料・用具の場　　活動の場　　鑑賞の場 【授業概要】 ○造形活動の流れや動線を考え、材料・用具の設定、活動に合わせた環境構を工夫することの重要性と環境構成のポイントについて理解する。 ○一人一人の造形活動が保障される環境構成について考える。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　　村田夕紀　内本久美　「技法あそび　実践ライブ」ひかりのくに株式会社　Ｐ４～５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 造形活動を広げ、深める環境構成について、自分の考えをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会あるごとに復習小テストを行う。 ○実技製作をする場合はどのようなものをつくるか予めアイディアスケッチを描いて授業に臨むこと。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び小課題（５０％）
教科書	長谷喜久一著　　「図画工作」　　建帛社
参考書	鬼丸吉弘著　「児童画のロゴス　一身体性と視覚」　勁草書房　　（２００５）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園に勤務し、教育課程の編成、指導方法の研究、造形教育の推進に携わった経験を活かし、実例を紹介して具体的に解説する。また、保育指導案の書き方についても実例をもとに行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅰ（図画工作）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児が表現を通してイメージを豊かにし感性を養うことができるように、幼児の造形表現指導に必要な知識や技能を身　に付けることを目的とする。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現に関する基礎的な知識が理解できる。 ②幼稚園教育要領の表現のねらい、内容、内容の取扱いが理解できる。 ③造形表現における身近な自然やものなどの様々な素材や教材、用具等に触れ、表現を体験することを通して、その特性を理解し、幼児を想像して造形活動を構想することができる。 ④描画における子どもの発達段階、表現の傾向、類型、支援方法について理解できる。
授業の概要	幼児の造形表現の意義や特質に関する基礎的な知識、幼稚園教育要領、子どもの描画の発達等について学習する。また、現場で用いる多様な素材、用具を用いて教材作りをし、教材開発を試みると同時に、子どもへの支援活動のあり方について模索する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　（授業の概要説明、学習のための準備等の確認）　「表現」の意味の発見 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、表現、造形表現、創造性、感性 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○受講のために準備するもの　○受講のルール　○この講座を通して身に付けてほしいこと（自分自身の表現能力を高める　幼児の指導能力を高める　感性を豊かにする） 【教科書ページ・参考文献】 教科書　Ｐ１～３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　本講座で学びたいこと、要望等をメモしてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２回　子どもの「表現」とは　幼児期と造形表現の特質 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域「表現」、表出 【授業概要】 ○幼児期と表現の特質　○表現の分類　○幼児期と造形表現　○表現と表出 【教科書ページ・参考文献】 参考書　村内哲二　「造形表現の指導」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　トレイのギターのアイデアスケッチを描いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分

	第３回	幼稚園教育要領から　　領域「表現」のねらい、内容、内容の取扱い 【key words】 幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、表現 【授業概要】 ○領域「表現」のねらいと内容　　１　ねらい（①豊かな感性　鑑賞力につながるもの　②自己表現を意欲的に楽しむ。　③イメージを豊かに表現を楽しむ、着想、創造性につながるもの）　２　内容　（造形に関するものだけ教科的に扱うのではなく、まだ認識が未分化の総合的に表現活動をすること）　３　内容の取扱い 【教科書ページ・参考文献】 石山哲郎　　「幼稚園教育要領・保育所保育指針」　　チャイルド社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 トレイのギターのアイデアスケッチを描いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第４回	製作　　「トレイのギター」　　（身の回りの材料をつかって） 【key words】 トレイのギター　　ボディー　　ネック　　遊ぶものをつくる 【授業概要】 トレイのギター製作　○幼児の製作のねらい　　楽器づくりを通して、身近な素材に親しみ、作った楽器を工夫して遊ぶ楽しさを味わう。　○製作の手順　①素材の形を選ぶ　②ボディーやネックに絵や模様を描く。③ネックをボディーにとりつける。輪ゴムを取り付ける　④音を鳴らして楽しむ 【教科書ページ・参考文献】 雑誌　「保育とカリキュラム」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「トレイのギター」の改良版を考えてくること（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第５回	製作　　二つ折りの動物　　（紙を二つ折りにして立つ動物をつくる。） 【key words】 二つ折りの動物　　支援の方法 【授業概要】 「二つ折りの動物」　　○幼児の製作のねらい　　・紙を二つにおって立てた形から、思い浮かんだ動物を自分なりに表現してつくり楽しむ。　・皆でつくった動物を持ち寄り、動物園を作り、動物園ごっこをして楽しむ。　　○製作の手順　　絵本などを見て、動物の特徴を思い出し、表現する。 【教科書ページ・参考文献】 「絵画・製作・造形遊び百科」　　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 既成の紙による動物つくりの模倣ではなく、オリジナルの作り方を考案する　（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第６回	製作　　吊るす飾り　　（保育室を飾るもの、七夕飾りをつくる） 【key words】 ちょうちん飾り　　七夕　　折り紙による伝承的な技法 【授業概要】 「吊るす飾り」　ちょうちんかざり　　ねらい　　昔から折り紙で七夕の日に作り続けられているちょうちんかざりの伝統的な技法をマスターし、さらに学生自身の創造性を発揮して、幼児たちがどのように楽しく創造的なちょうちん飾りを作るとよいか新しい感覚の参考作品を作り、指導方法を考える。（教材開発） 【教科書ページ・参考文献】 月刊雑誌　「Ｐｒｉｐｒｉ　６月号」　　世界文化社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　オリジナルの新しく創造的なちょうちん飾りを考案する　　（教材開発） 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第７回	子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、錯画期、象徴期、前図式期） 【key words】 錯画期、スクリブル、象徴期、前図式期、頭足人 【授業概要】 ○子どもの造形表現の発達研究から　（チゼックの児童美術教育の実践）　　○錯画期（手指の運動の軌跡、生のリズム）　○象徴期（形に意味づけをする）　　○前図式期（頭足人間） 【教科書ページ・参考文献】 長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ８７～９３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ノートの整理　　練習問題をしてくる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第８回	子どもの描画の発達段階（幼児の造形と心身の発達、図式期、擬実期、写実期） 【key words】 図式期、基底線、擬実期、ギャングエイジ、写実表現 【授業概要】 ○幼児の造形と心身の発達　　○図式期　（基底線、外界と自分の関係を知るようになる。物と色の関係、大小関係も表せるようになる）　　○擬実期　（部分、全体に写実表現がみられる時期） 【教科書ページ・参考文献】 長谷川喜久一　　「図画工作」　　Ｐ９４～９６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　ノートの整理　　練習問題をしてくる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第９回	子どもの描画の表現の傾向と類型（表現にあらわれる類型）

【key words】
チゼック、誇張表現、天地空間表現、並列表現、積上表現、展開表現、レントゲン表現、同存表現、時間表現
【授業概要】
○子どもの造形表現の発達研究から　（チゼックの児童美術教育の実践）　○表現にあらわれる類型　（誇張表現、天地空間表現、並列表現、積上表現、展開表現、カタログ表現、レントゲン表現、同存表現、正面表現、時間表現）
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１０１～１０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノートの整理　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　子どもの描画の表現の傾向と類型（傾向と問題点）
【key words】
発想の混乱、統合力の欠如、形や色の固定化、固定観念、心身の解放、情緒の安定、自信回復
【授業概要】
○傾向と問題点　（男女の相違、感動不足、発想の混乱、色や形の固定化、模倣の習慣、環境の影響）　○発達段階とその指導　（環境との接触、子どもの資料作成、教材研究）
【教科書ページ・参考文献】
教科書　長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ９６～１０１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノートの整理　練習問題をしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　紙素材による制作方法について　（紙の様々な加工技術について　直線折り、曲線折り、カーリング、組む、広げる）
【key words】
ペーパースカルプチャー、紙工作の様々な技法、ペーパーアートの起源と歴史
【授業概要】
○紙の様々な加工方法について（直線折り、曲線折り、カーリング、組む等）　○紙の彫刻テーマ「お伽噺の世界」　○子どもたちに夢を与え、造形意欲を高めるような作品を製作し、保育室に設置する。　○製作　紙工作の様々な技法を駆使し、夢のある構成を考えたり、リアル感を追求したりして、創造性豊かな作品を作る。　○試作
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのような紙工作をつくるかアイデアスケッチをしてくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　製作　物語の中の人物　（アイデアスケッチ、試作、製作）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　○子どもたちに夢を与え、造形意欲を高めるような作品を製作し、保育室に設置する。○製作　紙工作の様々な技法を駆使し、夢のある構成を考えたり、リアル感を追求したりして、創造性豊かな作品を作る。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品の続きをつくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１３回　製作　物語の中の人物　（製作　有効な紙の加工技法を用いて製作）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　製作つづき　効率的で美しく効果的な紙工芸の技法を考え、駆使して製作する。　ていねいで、リアル感ができるだけ出るように、繊細につくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品の続きをつくる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　製作　物語の中の人物　（製作　仕上げ、鑑賞）
【key words】
紙工芸の様々な技法（ちぎる、切る，直線折り、曲線折り、カーリング、曲げる、組む、広げる等）
【授業概要】
○テーマ「お伽噺の世界」　製作つづき　効率的で美しく効果的な紙工芸の技法を考え、駆使して製作する。　ていねいで、リアル感ができるだけ出るように、繊細につくる。　作品を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１８６～１８９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品を完成させる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　色彩の基礎　（色の三属性・混色）

【key words】
色の三属性　色相　明度　彩度　色立体　色環　色光の三原色　混色　純色　補色　濁色　清色
【授業概要】
○色彩の基礎　・色の三属性　・混色　純色　清色、　濁色　・補色　同系色　類似色　反対色　・色光の三原色と混合について学ぶ。
○まとめ　アクティブラーニングを採り入れた造形表現指導,　造形表現活動における支援の方法
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５１～１５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノート、プリント類を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１６回　色彩の基礎　（色面構成と配色練習）
【key words】
色相差を基調とした配色　明度差を基調とした配色　彩度差を基調とした配色
【授業概要】
○色彩の配置と面積との関係は重要な意味を持つこと知り、表現の目的に応じて柔軟に色彩を駆使し、配色効果を上げられるよう実践を通して色彩感覚を育む。
○画面を自由に分割して、構成や配色を考えながら美しく着色する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５４～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　ノート、プリント類を整理する
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１７回　色彩の基礎　（色面構成と配色練習）
【key words】
色相差を基調とした配色　明度差を基調とした配色　彩度差を基調とした配色
【授業概要】
○表現の目的に合わせて、色彩のバランスを考えながら美しく着色する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５４～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
色面構成の作品を仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　形の基礎・構成の形式
【key words】
点による形　線による形　面による形　立体による形　左右対称　均衡　比例　強調　律動　動勢　調和
【授業概要】
○定規やコンパス、様々な線材料や面材料、量材料などを用いて、点、線、面による形態をつくって構成し、その構成のおもしろさを研究する。
○構成の形式とその効果を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１５６～１６３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
形の構成の作品を仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　マーブリング（墨流し）の制作
【key words】
版画　平版　マーブリング　墨流し
【授業概要】
○水面に、墨汁や絵の具を浮かし、紙をふせて写しとる，マーブリングの技法を学ぶ。
○墨汁や絵の具が水面に浮いて流動する形の面白さや美しさを味わう。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　マーブリングでできた形から、新しい造形的なイメージを展開させたことをまとめてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２０回　マーブリング（墨流し）の作成　墨流しをした紙を自由な形に切り、構成する
【key words】
マーブリング　墨流し　造形的なイメージ　再構成
【授業概要】
○マーブリングでできた形からイメージをふくらませ、形を切ったり貼り合わせたり、クレヨン等で加筆したりして、新しい造形的なイメージを展開し、作品をつくる。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　マーブリングの実技で気付いたこと、絵の具の濃さや色の組合せ、流動的な形の工夫などをまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２１回　わたしのランチョンマット作成（染物）　給食の時間、おやつの時間に使って楽しめるもの
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　わたしのランチョンマット作成（染物）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　フロッタージュ（こすりだし）身近な植物の葉や身の回りのものを色鉛筆等でこすり、形や凹凸の面白さを楽しむ

【key words】
版画　凸版　フロッタージュ　こすりだし
【授業概要】
○凹凸のあるもの（木の葉、木目の美しいもの、金網、レース、ネットなど）に直接紙をのせて、鉛筆やクレヨン、パスなどで、物の地肌をそのまま写しとり楽しむ。
○貼り絵にしたり、こすりだしながら作品を作る。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５・１２６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　身の回りのもので凹凸のあるものをさがして用意する。　復習
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　型押しあそび　自然の素材や身近なものを型押しして楽しむ

【key words】
版画　凸版　型押しスタンピング　押す　転がす　重ねる
【授業概要】
○自然物（木片、木の葉、石、野菜、果物）、器物（ビンのふた、ボタン、釘の頭）、ひも類、布類、紙類、空き箱、段ボールなどをそのままの形を生かしたり、形を変えたりして並べ方や組合せ方を工夫したりして絵の具を付けて押して楽しむ。
【教科書ページ・参考文献】
長谷川喜久一　「図画工作」　Ｐ１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　身の回りにある版の材料となりそうなものを集める。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　型押しあそび　型押ししたものを再構成して楽しむ

【key words】

【授業概要】
○気に入ったところを切り取って貼り絵にしたり、組み合わせたりして、イメージした世界を絵に表現する。○
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　紙版画の制作　紙を切り取って貼り合わせ版をつくる

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　紙版画の制作　摺る

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　コラグラフの作成　身近な素材を貼り合わせて版をつくる

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　　コラグラフの作成　摺る 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　　まとめ　造形表現における環境の構成 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会あるごとに復習小テストを行う。 ○実技製作をする場合はどのようなものをつくるか予めアイディアスケッチを描いて授業に臨むこと。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び小課題（５０％）
教科書	長谷喜久一著　　「図画工作」　　建帛社
参考書	鬼丸吉弘著　「児童画のロゴス　一身体性と視覚」　勁草書房　　（２００５）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅰ（体育）　　授業コード：S4091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
高橋　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　乳幼児の発育・発達に応じた運動遊びを実践的に学び、実際に子どもに指導できるようにすることを目的とする。 【到達目標】 ①乳幼児期の運動遊びの意味、内容、支援・援助方法を理解できる。 ②健康・安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ③さまざまな運動遊びの体験を通して、支援・援助方法が行える。
授業の概要	乳幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの教材研究と、授業内容の基礎・基本を習得する。また、授業の展開の中でいかに楽しく積極的に、且つ安全に遊べるかを学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　子どもの生活における運動遊びの必要性と目的 【key words】 【key words】 健康　からだ　こころ　社会性 【授業概要】 【授業概要】 運動遊びは、こころ、からだ、社会性の３つの要素の必要性があることを理解する。また、運動遊びの目標を、幼稚園教育要領と保育所指導指針の具体的なねらいを通して学ぶという講義についてのガイダンス。 自己紹介、簡単なストレッチ、運動遊びについて紹介等 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：体育あそび１２０　p1～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】　日常生活の中にある身近な運動遊びについて考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２回　　乳幼児の心身の発達、運動遊びの指導の実際 【key words】 【key words】 発育・発達　からだ　こころ

【授業概要】
【授業概要】
幼児期の身体の発達の特徴（スキャモンの発達曲線、身長・体重の発育、身体各部分の比率、機能面の発達、身体発達の特徴）や運動能力の特徴（体力、運動能力、調整力、運動能力テスト）、こころの発達の特徴（情緒の発達、認知の発達、生活習慣の発達、パーソナリティーの発達）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p13～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「歩く・走る」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　「歩く」「走る」運動遊び
【key words】
【key words】
歩く　走る

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。歩く運動では（しっかりと、おもちゃと、動物のものまねで、バランスをとって、リズミカルに、ゲーム等）走る運動では（早く歩く、自由に、まっすぐ、フォームをつくって、変化をつけて、障害物やゲーム等）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p39～６０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボールを使った運動遊び」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　教材「ボール」を使った運動遊び
【key words】
【key words】
ボール　一体感

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。ボールを使った運動では（自由に、蹴って、渡して、投げて、打って、的に当て、ミニサッカーやドッチボール等）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p６1～７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「縄」運動について学習し
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　教材「縄」を使った運動遊び
【key words】
【key words】
縄　一体感

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。縄を利用した運動では（またいで、上を歩いて、波・ヘビ跳び、大波・小波、一人跳び、縄体操、幅跳び、縄跳びリレー等）について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p７３～８３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「新聞紙」を利用した運動
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　教材「新聞紙」を使った遊び
【key words】
【key words】
新聞紙　一体感

【授業概要】
【授業概要】

運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。新聞紙を利用した運動では（またいで、上を歩いて、丸めて、折りながら、跳ぶ、乗る、投げる、走る、くぐる等）の運動遊びについて学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p８４～83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「様々な用具を使った」運動について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　教材「様々な道具」を使った遊び
【key words】
【key words】
マット　跳び箱

【授業概要】
【授業概要】
マットや跳び箱など様々な道具を用いて保育場面で子どものからだの発達に役立つか体験する。体験を通して、発達に関することだけでなく安全面での対策などを具体的に学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p８４～83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「伝承遊び」運動について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　伝承遊び、鬼遊び、集団遊び
【key words】
【key words】
伝承　昔の遊び

【授業概要】
【授業概要】
運動の特性、遊びに関係深い運動能力、指導上の留意点、年齢による発達と望ましい活動を理解する。伝承遊び（かくれんぼ、ダルマさん転んだ、ハンカチ落とし、かごめかごめ、花いちもんめ等）の内容や鬼遊びなど地域性、昔の風習、遊びの歌ことばを通じて昔からの幼児の遊びを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０　p84～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題・予習・復習・授業準備指示】「様々な用具を使った」運動について学習しておく
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　幼児のできる簡単なダンス
【key words】
【key words】
ダンス、幼児の身体運動

【授業概要】
【授業概要】
簡単なダンスを覚えてステップ等を習得する。
そのダンスをもとに、子ども用にアレンジする中で子どもの身体的、運動的能力および特性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】幼稚園、保育園等で行われている幼児用のダンスにはどんなものがあるかをリサーチしておく

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　ダンス
【key words】
【key words】
リズムダンス、創作ダンス

【授業概要】
【授業概要】

子ども用のダンスを実際に自分で創作してみる。そこからグループで発表するように発展させてゆく。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　発表準備

【key words】
【key words】
グループ研究

【授業概要】
【授業概要】
授業を通じて学習した内容を精査検討し、テーマの設定、指導上の留意点、衣装や演出等作品の効果の工夫をし、グループ発表の役割分担、リハーサル等をおこなう。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「グループでの役割」について相談、分担して、リハーサルをおこなっておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　課題研究発表（班別発表）

【key words】
【key words】
研究発表　指導　協力

【授業概要】
【授業概要】
グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、ミニ授業を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「グループでの役割」を実際におこなっておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　課題研究発表（班別発表）

【key words】
【key words】
研究発表　指導　協力

【授業概要】
授業概要】
グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、ミニ授業を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：体育あそび１２０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

「「グループでの役割」を実際におこなっておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　課題研究発表（班別発表）

【key words】
【key words】
研究発表　指導　協力

【授業概要】

	【授業概要】 グループ員が指導者、他クラス員が児童の役割に分かれ、発表を行う。発表後に実際に指導した側と受講した児童側の感想や質疑応答のなかで、反省や課題について明確にすると共に改善方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：体育あそび１２０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「グループ別発表での課題」についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　課題研究発表振り返り　まとめ 【key words】 【key words】 保育　からだ　こころ　発育・発達 【授業概要】 【授業概要】 幼児期のからだとこころの発達や特徴を踏まえた運動体験を通じて、運動遊びの指導の実際を理解することにより、運動遊びの目的の明確化と必要性を習得する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：体育あそび１２０　p1～12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保育の表現技術（体育）に関してまとめたものをまとめ、授業内で発表。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	【授業態度】 グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。 2人組や、グループで行う活動があるため、積極的に参加をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	ボランティア活動や幼稚園・保育兼等の見学実習において、子どもの遊びや言動を意識して観察をする。
オフィスアワー	火曜日（16：00～17：30）、木曜日（16：00～17：30）
評価方法	実技・発表試験50%、レポート試験50%を総合的に評価する
教科書	岩崎洋子　保育実用シリーズ　体育遊び120：チャイルド本社
参考書	黒井信隆：0～5歳児たのしい運動遊び：いかだ社：2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬大学の地域貢献型総合型地域スポーツクラブ群大クラブに所属し、地域のこども達対象にダンスを教える。現在はキッズダンススクールにて前橋地区のこども達にダンスを指導。 小中学校群馬県ダンス大会第1回から第3回までを主催。 また出張講座、公開講座等で地域の親子対象のダンス教室を実施、渋川地区の中学校教員対象の指導者講習会講師、伊勢崎市中体連ダンス大会の審査員、群馬県中体連ダンス大会審査員 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（健康）　　授業コード： S4112

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
高橋　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子どもを取り巻く健康の課題を知り、子どもの健康な心とからだを育てられる保育者を目指す。また、自分自身の健康を見直し、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養えることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児教育の基本や領域「健康」について理解ができる。 ②子どもの健康をめぐる現状と課題を理解し、保育者として課題に向けてどのようなことができるか考えることができる。 ③「健康」と、遊び、生活習慣、環境構成、安全教育のつながりを理解し、態度や技能を身につけることができる。
授業の概要	子どもの発育・発達段階に沿って、心と体の両面から理解を深め、幼児教育における子どもの健康保持・増進を図るうえで、必要な知識・技能とともに、環境教育、教育条件を整えるのに必要な資質を習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション　（健康とは、領域「健康」について） 【key words】 【key words】 「健康とは」「他領域との関連」「幼児教育の基本」 【授業概要】 【授業概要】 授業の概要について説明する。保育における健康という領域に関して知る。他の領域とどのように関連しているか学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 P10～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】幼児教育の基本を学んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２回　　幼児教育の基本 【key words】 【key words】 「幼児教育の目的と領域」「環境を通しての保育」「保育者のさまざまな役割」 【授業概要】

【授業概要】
　幼児期においてどのような子どもの姿を目的に保育をしていくか学ぶ。それに関してどのような環境でどのような役割を保育士が担っていくか理解する。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P10～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】こｂ
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　子どもの育ちと領域「健康」

【key words】
【key words】
「運動能力の発達」「情緒の安定」

【授業概要】
【授業概要】
　子どもの一般的な発達について理解する。情緒の安定の重要性について理解し、保育士がどのように保育の中でそれらを形成していくのか具体的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P41～54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供に健康について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　子どもの「健康」をめぐる現状と課題（環境）

【key words】
【key words】
「生活習慣の形成」「子どもの発達と事故」

【授業概要】
【授業概要】子どもの発達につれて、どのような危険が生じるのか理解する。また、生活習慣をどのように形成していくか学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P55～64
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の生活について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　子どもの「健康」をめぐる現状と課題（生活 ）

【key words】
【key words】
「最近の子どもの姿」「運動能力を低下させた原因」「集団保育の役割」

【授業概要】
【授業概要】
　近年の子どもの姿について学び、どのように時代と共に変化しているか学ぶ。集団保育における保育者の役割とは何か学ぶ。実際の事例を見ながら、子どもの遊びについて学び、指導の方法などを学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P65～84
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　子どもの健康と遊び

【key words】
【key words】
「乳児の遊び」「ルールのある遊び」

【授業概要】
【授業概要】
　子どもの遊びについて学び、遊びの意味について事例を通して理解する。またグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P85～99
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の遊びについて調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】

６０分
第７回　子どもの健康と遊び
【key words】
【key words】
「遊具を使った遊び」「遊びの環境構成」

【授業概要】
【授業概要】
保育園などの環境で、どのように遊具を使って遊びを展開するか学ぶ。また、そうした遊びの環境がどのように構成されているかグループワークなどを通して学ぶ。
子どもの遊びに関してグループワークを通して保育者が援助すべきことや配慮すべきことに関して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P100～112
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の仲間つくりについて調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第８回　子どもの健康と遊び
【key words】
【key words】
「遊具を使った遊びの配慮事項」「環境設定」

【授業概要】
【授業概要】
子どもの遊びに関してグループワークを通して保育者が援助すべきことや配慮すべきことに関して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P113～148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の生活と健康について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第９回　子どもの健康という領域に関して
【key words】
【key words】
「健康における発達」「健康における遊び」「保育者の援助方法」

【授業概要】
【授業概要】
【授業概要】これまでの授業内容を振り返り、健康の領域における保育者に必要とされる知識・技能について学ぶ。特に発達や遊び、保育者の援助方法に関するレポートまたは小テストを行い、理解度についても確認を行う。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P10～148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供の集団生活について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第１０回　園生活と生活習慣
【key words】
【key words】
「園生活の中での生活習慣」「園生活と食」「園生活と睡眠」

【授業概要】
【授業概要】
園の中での生活における生活習慣の身につけ方や、食の重要性、睡眠の意味などについて事例を通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P149～167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】園と生活習慣について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分
第１１回　園生活と生活習慣
【key words】
【key words】
「園環境と当番活動」「生活習慣を育む保育者の役割」「生活習慣と家庭との連携」

【授業概要】
【授業概要】
　生活習慣を身につける中で、保育者はどのような役割を担っているのか学ぶ。また家庭ともどのように連携していくべきか事例を通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P168～184
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】家庭と園での生活習慣を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　園生活と生活習慣のまとめ

【key words】
【key words】
「健康における生活習慣」「保育者の援助方法」

【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【授業概要】
　これまでの授業内容を振り返り、健康の領域における保育者に必要とされる知識・技能について学ぶ。特に生活習慣や環境構成、保育者の援助方法に関するレポートまたは小テストを行い、理解度についても確認を行う
【教科書ページ・参考文献】
　【教科書ページ・参考文献】
P149～184

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】園生活と生活習慣をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　子どもの健康と安全教育

【key words】
【key words】
「安全教育の考え方」「遊びの中で育む安全の意識」「事故が起きた場合の対応」

【授業概要】
【授業概要】
　子どもにとって事故は日常的に起こるものである。その中で予防的な対応から実際に事故が起きた時の対応に関して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P185～202
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】子供を取り巻く課題について調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　幼児教育の現代的課題と領域「健康」

【key words】
【key words】
「現代社会における今日的課題」「保育者の役割」「生涯発達」

【授業概要】
【授業概要】
　社会的な課題や生涯発達における課題などを統計的な調査などを確認し、理解する。保育における健康が世界的にどのような状況であるか理解する
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P203～216
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】現代の子供を取り巻く環境と課題をまとめておく。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　全体の振り返り

【key words】
【key words】
「健康の重要性」「健康における子どもの発達」「健康における保育の環境構成」

【授業概要】
【授業概要】
　これまでの授業を振り返り、具体的に健康という領域における保育者の役割について理解する。保育において健康がどのような意味を持つのか重要性について理解する

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
P10～P216

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】健康について保育者の役割の重要性をまとめてしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	【資料の取り扱いについて】 授業にて資料を配布した際、欠席者は次回の授業までに教員の下へとりにくることとする。 【授業態度】 グループワークで話し合いの指示や、携帯電話を使用した調べ学習の指示がある場合以外は、私語、携帯電話の使用厳禁とする。 積極的な発言、意欲的な取り組みを期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	ボランティア活動や幼稚園見学実習において、子どもの遊びや言動を意識して観察をする。
オフィスアワー	火曜日（12：40～13：10）
評価方法	授業中の課題・提出物等30％、筆記試験70％を総合的に評価する
教科書	倉持清美：事例で学ぶ保育内容　領域「健康」改訂版：萌文書林2018
参考書	黒井信隆：0～5歳児たのしい運動遊び：いかだ社：2010 保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬大学の地域貢献型総合型地域スポーツクラブ群大クラブに所属し、地域のこども達対象にダンスを教える。現在はキッズダンススクールにて前橋地区のこども達にダンスを指導。 小中学校群馬県ダンス大会第1回から第3回までを主催。 また出張講座、公開講座等で地域の親子対象のダンス教室を実施、渋川地区の中学校教員対象の指導者講習会講師、伊勢崎市中体連ダンス大会の審査員、群馬県中体連ダンス大会審査員 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（環境）　　授業コード： S4132

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性を持つことを理解した上で、領域「環境」のねらい及び内容について学ぶ。また、子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態に即した援助や関わりについて領域「環境」の観点から学ぶ。 【到達目標】 ①子どもを取り巻く環境と発達におけるそれらの重要性について説明できる。 ②領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ③領域「環境」における経験内容と小学校以降の教科等とのつながりを理解している。
授業の概要	領域「環境」は子どもたちが「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことを目指すものである。この授業では、その指導の基盤となる子どもを取り巻く環境と現代的課題について理解し、子どもと環境との関わりについて学ぶ。また、幼稚園教育要領等に示された領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深め、子どもの発達に即して深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想および指導方法を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	「環境」をどう捉えるか 【key words】 「環境を通して行う保育」 「保育者の専門性」 【授業概要】 乳幼児期の特徴から「環境を通して行う保育」とはどのようなものであるか、そして、なぜ環境が大切なのかについて学ぶ。また、保育者の専門性を身に付けるためになぜ「領域」を学ぶのか考える。 【教科書ページ・参考文献】 P1～11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書のP1～11を読んでおくこと。 《復習》参考資料の幼稚園教育要領等の領域「環境」に目を通すこと 【予習復習に必要な想定時間】 各30分
	第２回	乳幼児の発達と「環境」 【key words】 「保育内容」 「5領域」 「思考力の芽生え」 「好奇心・探求心をもつ」

【授業概要】
保育内容及び領域の考え方について学び、領域「環境」における子どもの育ちを理解する。また、遊びや生活の中で芽生える思考力や好奇心・探求心とそれを育む保育者の在り方ににについて事例を通して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P12～19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書のP12～19に書かれている5つの事例を読み、子どもが育つ様子について把握しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　領域「環境」のねらいと内容及び評価①
【key words】
「ねらいと内容」
「内容の取扱い」
【授業概要】
幼稚園教育要領等に示されている領域「環境」のねらい及び内容について理解し、それを踏まえて子どもが経験し身に付けていく内容とその指導上の留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P20～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《復習課題》教科書P21～26に記載されている領域「環境」の内容について幼稚園教育要領解説等と照らし合わせながらそのポイントをまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　領域「環境」のねらいと内容及び評価②
【key words】
「資質・能力」
「10の姿」
「保育における評価」
【授業概要】
幼児教育において育みたい資質・能力について理解し、幼稚園教育要領等の幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿との関連について考える。また、保育における評価の考え方とその観点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P29～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習・復習》幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿について幼稚園教育要領解説等をよく読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
各60分

第５回　身近な生き物や植物に親しみをもってかかわるということ
【key words】
「飼育栽培」
「生命の尊さ」
「センス・オブ・ワンダー」
【授業概要】
子どもが身近な自然に親しみをもつことの意義について理解し、保育における飼育栽培の具体的な実践方法と効果を学ぶ。また、それらを豊かにするための保育者の在り方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
P36～44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P40～44の事例を子どもの姿を想像しながら読み、その中での育ちについて捉えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　季節による生活や自然の変化に気付くこと
【key words】
「日本の風土」
「四季の変化」
【授業概要】
日本の季節の特徴について考え、子どもたちが園生活の中で季節を感じる生活をするために必要な環境づくりについて学ぶ。また、自然の変化に気付くということを、自らの栽培実践によって実感する。
【教科書ページ・参考文献】
P45～54
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P47～51の事例を読み、季節を感じる保育実践について理解しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　様々な物や道具に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ
【key words】
「遊具とのかかわり」
「教材・設備とのかかわり」
「興味・関心の芽生え」
【授業概要】
遊具や教材・設備とのかかわりの中で育まれる資質・能力について理解し、それを支える保育者の役割と援助について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P55～64
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習・復習》教科書P55～64を読み、子どもの心の変化について捉える。
【予習復習に必要な想定時間】

		各30分
	第８回	日常生活の中で数量や図形・標識や文字などに関心をもつこと① 【key words】 「文字」 「数量」 「図形」 「標識」 【授業概要】 日常生活の中のどのような場面で子どもたちが数量や図形・標識や文字などに出会い、関心を高めていくのか考え、そのために必要な環境の在り方とそれを支える保育者の援助について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P65～74 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》生活環境の中に隠れている数量や図形・標識や文字などに関心を向けておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	日常生活の中で数量や図形・標識や文字などに関心をもつこと② 【key words】 「必要感」 「非認知能力」 【授業概要】 子ども達が数量や図形、標識や文字などに関心をもつための「必要感」について教科書の事例を通して考える。また、乳幼児期に育むべき「非認知能力」についての理解を深め、その観点から数量や図形・標識や文字との出会いについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 P65～74 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習・復習》幼稚園教育要領解説等の領域「環境」の内容⑨⑩及び内容の取扱い（5）をよく読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各30分
	第１０回	日常生活の中で文化や伝統、行事に親しむこと① 【key words】 「地域社会」 「行事」 【授業概要】 保育における行事の意義とそれを通して子どもに育まれるものについて考え、保育における行事の在り方と保育者の援助について学ぶ。また、地域社会とのかかわりと子どもの育ちについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 P96～106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《課題》保育における行事としてよく取り上げられるものについて、その意味や由来、歴史について調べてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	日常生活の中で文化や伝統、行事に親しむこと② 【key words】 「文化」 「伝統」 【授業概要】 季節の遊びとして子ども達に伝承すべき日本の文化や伝統について、実践することを通してその価値に気付く。また、実践する際のポイントや留意点について具体的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P96～106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》幼少期に自らが経験したことのある遊びについて思い出す。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	「環境」とのかかわりを支える保育者の役割 【key words】 「人的環境」 「安全感の輪」 【授業概要】 人的環境としての保育者の役割について考え、子どもの主体的な活動を促すためのポイントと、計画的に環境を構成し適切な援助をするための視点を学ぶ。また、保育者としての自分に思いを馳せ、自らの在り方を振り返る。 【教科書ページ・参考文献】 P115～131 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習・復習》幼稚園教育要領のP45～49の「教師の役割」を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム 【key words】 「保幼少連携」 「アプローチカリキュラム」 「スタートカリキュラム」 【授業概要】 保幼小連携の重要性について理解し、その在り方について考える。子どもの育ちの連続性を保障するためのアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて学び、その連携に向け領域「環境」で子ども達に育てたいことを考える。

	【教科書ページ・参考文献】 P107～114 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習・復習》教科書P111の事例を子どもの姿を想像しながら読み、そこで育つ力と小学校以降の学びについて考える。 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第１４回　指導案作成から保育へ 【key words】 「子ども理解」 「教材研究」 「指導計画」 【授業概要】 保育における指導計画について理解し、指導案作成において心がけることを考える。また、教材研究の重要性について学び、その具体的な方法とそれによって深まる保育について事例を通して考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P131～148 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習・復習》教科書P136～P147に描かれている遊びの様子から子どもの成長の過程を読み解く 【予習復習に必要な想定時間】 各30分 第１５回　まとめ 【key words】 「環境を通して行う保育」 「保育者の専門性」 【授業概要】 これまでの学びを振り返り、改めて「環境を通して行う保育」と「保育者の専門性」について考える。子どもの育ちを支え、人的環境としての保育者の在り方から自分自身を今一度見つめ直し、これからの学びに繋げていく。 【教科書ページ・参考文献】 幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幼稚園教育要領解説等の領域「環境」に関わる箇所を読み込むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	○オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ○ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ○授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ○やむを得ず遅刻、欠席等をする場合には必ず連絡すること。 ○提出物は〆切厳守。 ○受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○幼稚園見学実習やボランティア活動においては、環境構成等にも視点を向け観察する。 ○自身の身近な環境、特に自然環境に意識的に関心を向けて生活する。 ○シラバスに記載された教科書のページを事前・事後に目を通す。 ○参考資料に記載してある解説書の関連ページを予習復習で活用する。
オフィスアワー	初回授業時に連絡する
評価方法	定期試験（60%）授業内レポート（40%）の総合評価
教科書	演習 保育内容環境-基礎的事項の理解と方法ー　岡　健 編著　　建帛社
参考書	保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園教諭としての実務経験を活かし、領域「環境」のねらい及び内容について具体的な事例をもとに解説をする。また、保育を展開していくための方法や技術について、現場で活用されている教材等を提示し活用する際のポイントや留意事項について具体的に講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等）

	■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉特講Ⅰ　　授業コード：S8001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
白石　憲一・安留　孝子・林　孝和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験に向けた学習方法を自分なりに把握することを目的とする。 【到達目標】 社会福祉士国家試験に向けて、自主的・主体的な学習方法を形成し、継続して学習する習慣を身につける。自身が作成した解説を用い、他者に説明することができる。月例テストを行うことで、学びが身についているのかを自身で判断できる。
授業の概要	既習科目を中心に学習していく。社会福祉士国家試験に合格するための基礎的学習方法と基礎的学力の向上を図るため、過去問を解いた上で、自身で解説を作成し提出する。自身が作成した解説を他者に伝える。月に1回、月例テストを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	社会福祉士国家試験の概要 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験の出題傾向やレポートの作成方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～21頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉振興・試験センターのHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	社会福祉士の仕事（１） 【key words】 社会福祉士 【授業概要】 地域福祉の中核機関としての社会福祉協議会の中で、社会福祉士に求められる役割を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉協議会をHPから調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	社会福祉士の仕事（２） 【key words】 社会福祉士、医療ソーシャルワーカー、福祉事務所、ケースワーカー 【授業概要】 医療機関で社会福祉の立場からクライエントの相談にのり支援する医療ソーシャルワーカー、福祉事務所のケースワーカーの役割を学習する。 【教科書ページ・参考文献】

		45、132、200頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の身近な病院や福祉事務所のHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第４回	社会福祉士の仕事（３） 【key words】 社会福祉士、特別養護老人ホーム、生活相談員、地域包括支援センター 【授業概要】 特別養護老人ホームの生活相談員や地域包括支援センターの相談員の役割を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 76、85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の身近な特別養護老人ホームや地域包括支援センターのHPを調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第５回	社会福祉士国家試験基礎知識（１） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験で必要とされる知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第６回	第1回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第７回	社会福祉士国家試験基礎知識（2） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験で必要とされる知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 64～78、84～87、296～312、314～318、138～140頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第８回	第2回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 64～78、84～87、296～312、314～318、138～140頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第９回	「読解力」が問われる国家試験問題の紹介と解説 【key words】 事例問題、社会福祉士国家試験 【授業概要】 社会福祉士国家試験の事例問題で、読解力の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各教科の教科書を使って、文章を読む練習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第１０回	レポート作成（１） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１１回　レポート作成（２） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１２回　第3回　中間テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 中間テストに解答し、習熟度を理解する 【教科書ページ・参考文献】 14頁～352頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１３回　レポート作成（３） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１４回　レポート作成（４） 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 該当科目のポイントや勉強方法について学習し、社会福祉士国家試験の過去問題2問の解説を、レポートとして各自で作成する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第１５回　期末テスト 【key words】 社会福祉士国家試験 【授業概要】 1年次に履修している科目について、国家試験形式で期末試験を実施する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士国家試験の過去問題等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。該当科目の国家試験の過去問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	各回において、最新の国家試験該当科目をプリントアウトし持参すること。各回の該当科目のテキスト、ノート等を用意すること。 各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内で解答の解説作りを行う。授業内で作り終えない場合には、原則翌週までに提出すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各回の事前に最新の国試該当科目を解いておくこと。授業内容に該当する授業科目の教科書を事前に通読しておくこと。授業で学習した内容は、その日のうちにしっかりと理解するように努めること。学内模試が行われる場合には、参加すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	レポート20%、テスト40%、課題への取り組み・提出物など40%。
教科書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（ 出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している

	具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎演習Ⅰ　　授業コード：S9001　S9002　S9003　S9004　S9005　S9006　S9007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
江原　京子・櫻井　秀雄・安留　孝子・林　孝和・義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　本学の建学の精神・教育目標に基づき、高校と大学の相違を、さまざまな観点から学び、円滑な移行を目指して初年次教育をおこなう。基礎演習Ⅰにおいては、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養う。基礎演習の導入として、高校のリメディアル教育、学問への動機づけ、コミュニケーション能力など、学習成果を保証するための学習方法や技術を総合的に学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動を理解し、積極的に取り組むことができる。 ②基礎演習における学習の基礎能力として、授業の受け方、図書館利用指導、レポート作成などの学習スキルを身に付けることができる。 ③ミニミニ研究や制作を通して、問題解決能力、コミュニケーション能力を養うことができる。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動等に関する人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を養成するとともに、基礎的学習スキルを身に付けることにより、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の基礎を確立する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①（学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅰの前期の内容、授業の受け方、各担当教員より） 【key words】 【key words】訓話･講話、前期基礎演習Ⅰ、他コースとの理解･交流、初年次教育 【授業概要】 【授業概要】 ①学長訓話・学部長講話を聞き、本学の建学の精神を理解し、1年間の目標を立てる。 ②前期基礎演習Ⅰの概要を確認する。 ③大学生活について（各担当教員より） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】学生ハンドブック、配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。 次回、タオル、裁縫用具を持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	建学の精神と実践教育プログラム②－生活を科学する（雑巾作成、タオル、糸と針、はさみ用意）

【key words】
【key words】生活科学、環境美化

【授業概要】
【授業概要】
①環境美化活動の意義をグループで話し合う。
②実際に雑巾を作成する（安全に作業ができるよう配慮する）。
③手縫いとミシンの違いに気づく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに　提出すること。
・作成した雑巾を提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　心身の健康プログラム①－相手に好感をもたれるメールの送り方
【key words】
【key words】礼儀・挨拶　人間関係
【key words】礼儀・挨拶、メールの送り方、好感度

【授業概要】
【授業概要】。
①好感のもたれるメールの送り方を知る。
②礼儀をわきまえた文章の作成について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　心身の健康プログラム②－クラス裁量パートⅠ：クラスメイトの得意分野を知る
【key words】
【key words】　仲間作り、特技

【授業概要】
【授業概要】
①クラスメイトの得意分野を知り、互いに尊重する気持ちを育む。
②互いに特技を披露する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　心身の健康プログラム③－クラス裁量パートⅡ：クラス運営・クラスの交流
【key words】
【【key words】クラス運営、仲間との交流
【授業概要】
【授業概要】
①クラスメイトとの交流を通してクラス運営の在り方を知る。
②円滑なクラス運営の在り方を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　学士力育成プログラム①　図書館の利用の仕方
【key words】
【key words】蔵書検索、文献検索
【授業概要】
【授業概要】
①本学の図書館司書を招き、「図書館の利用の仕方」を学ぶ。
②蔵書検索、文献検索の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第1章、第2章を読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　学士力育成プログラム②　『知へのステップ』スタディ・スキルズとは／ノートテイキング
【key words】
【key words】生徒から学生へ、スタディ・スキルズ、ノートテイキング
【授業概要】
【授業概要】

①スタディ・スキルズの全体像をつかむ。
②ノートテイキングの方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版 第1章、第2章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第3章、第4章を読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　学士力育成プログラム③　『知へのステップ』リーディングの基本スキル
【key words】
【key words】テキストの種類、読みの種類、構成、要約
【授業概要】
【授業概要】
①テキストの種類に応じた読み方を身につける。
②テキストを読んで、要約する方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第3章、第4章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第8章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　学士力育成プログラム④　『知へのステップ』アカデミック・ライティングの基本スキル
【key words】

【key words】序論・本文・結論　事実と意見　引用　参考文献
【key words】序論・本論･結論、レポート、事実と意見、引用

【授業概要】
【授業概要】
①レポートと感想文の相違を実例を通じて学ぶ。
②レポートの構成を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第8章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第9章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　学士力育成プログラム⑤　『知へのステップ』効果的なアカデミック・ライティングのために
【key words】
【key words】文、文章、表現、箇条書き

【授業概要】
【授業概要】
①わかりやすい文を書くためのポイントをつかむ。
②視覚的にわかりやすい表現方法のポイントをつかむ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第9章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』第5章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　学士力育成プログラム⑥　『知へのステップ』大学図書館における情報収集
【key words】
【key　words】情報収集、図書館

【授業概要】
【授業概要】
①情報収集の概念と必要性を学ぶ。
②大学における図書館の利用方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第5章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　心身の健康プログラム④　生活の充実について（防犯教育）

【key words】
【key words】防犯、ネット被害、一人暮らしの注意事項、ＳＮＳの上手な使用方法

【key words】防犯　安全・安心な学生生活

【授業概要】
【授業概要】
①生活安全、ネット犯罪・被害について、講話を聞く。
②サイバー被害にあわないための方策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ、参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日の内容を基礎演習Ｉワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　進路・資格取得プログラム①　入学前教育に基づく学力試験
【key words】
【Key　words】日本語力、数理能力、一般常識

【key words】一般常識、数的処理、基礎学力

【授業概要】
【授業概要】
①基礎学力基盤試験を実施することを通して、自己の学習課題を確認する。。
②自己課題に則り、自主学習の計画を立てる。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】基礎学力基盤試験
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題･予習･復習・授業準備指示】
基礎演習（Ｉ）ワークシートに試験のやり直しを行い、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　心身の健康プログラム⑤　生活の充実について（消費者トラブル防止教育）
【key words】
【key　words】消費者トラブル、生活の質
【授業概要】
【授業概要】
①消費者トラブル被害状況についての講話を聞く。
②消費者トラブル被害にあわないためには、日頃からどのようなことに気をつけたら良いかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】　配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期の振り返り、後期の計画
【key words】
【key　words】前期総括、振り返り、授業アンケート、環境美化活動
【授業概要】
【授業概要】
①基礎演習1ノートの前期総括をまとめる。
②授業評価アンケートを実施する。
③環境美化活動を念入りに行う。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】基礎演習（Ｉ）ノート、基礎演習（Ｉ）　ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基礎演習（Ｉ）ノート、基礎演習（Ｉ）　ワークシートの記入漏れがないかを確認し、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　（学長訓話・学部長講話、基礎演習Ｉの後期の内容、各担当教員より）
【key words】
【key words】　訓話・講話、伝達事項
【授業概要】
【授業概要】
①学長訓話・学部長講話、各担当教員からの話を聞き、1年間の目標を確認し、後期を意欲的にスタートする。
②後期基礎演習Ｉの概要を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ｉ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　進路・資格取得プログラム②　就職能力試験
【key words】
【key words】　職種、適性、一般常識

【授業概要】
【授業概要】
①就職能力試験を実施し、各自の適性を知る。
②将来、就きたい職種を意識する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】就職適性試験
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１８回　心身の健康プログラム⑥　生活の充実について（デートＤＶ防止教育）

【key words】
【key words】　デートDV、対人関係、男女共同参画

【key words】　ハラスメント、デートＤＶ

【授業概要】
【授業概要】
①デートＤＶについて理解する。
②代表学生によるロールプレイングを通して、相手の気持ちになって考える術を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・デートＤＶに関する資料を熟読しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　地域貢献プログラム①　地域とのかかわりⅠ（ミニミニ研究：計画立案）

【key words】
【key words】　ミニミニ研究、計画立案、地域

【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究の計画立案を行う。
②イベント委員が主体となって、研究活動を進めていく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２０回　地域貢献プログラム②　地域とのかかわりⅡ（ミニミニ研究：テーマ、内容等の決定）

【key words】
【key words】ミニミニ研究、テーマ、資料の収集
【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究のテーマ、内容等を決める。
②イベント委員が主体となって、研究活動を進めていく。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２１回　地域貢献プログラム③　地域とのかかわりⅢ（ミニミニ研究：テーマに沿った内容で準備を進める）

【key words】
【key words】ミニミニ研究、調査、探求

【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究のテーマに沿った内容で準備を進める。
②イベント委員が主体となって、研究活動を進めていく。

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２２回　心身の健康プログラム⑦　生活の充実について（交通安全教育）

【key words】
【key words】交通事故、交通安全、交通マナー、安全運転

【授業概要】

【授業概要】
①群馬県警の方をお迎えし、交通安全教育を実施する。
②事故事例を通して交通マナーについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　進路・資格取得プログラム③　４年生講話

【key words】
【key words】　先輩学生との交流、資格取得、就職
【授業概要】
【授業概要】
①各コースごとに４年生、約5名を招聘し講話を聞く。
②コース・専攻毎の分科会に分かれ、全体会より一層具体的な講話を聞く。
③自己の将来を考えるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
・『知へのステップ第５版』　第11章･第12章を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　学士力育成プログラム⑦　『知へのステップ』プレゼンテーションの基本スキル

【key words】
【key words】プレゼンテーション、レジュメ、パワーポイント
【授業概要】
【授業概要】
①わかりやすいプレゼンテーションの基本スキルを学ぶ。
②相手に伝わる資料の作成方法を身につける。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会 2020年『知へのステップ第５版』くろしお出版　第11章、第12章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　心身の健康プログラム⑧　生活の充実について（消費者被害防止教育）

【key words】
【key words】消費者被害防止、安全・安心、架空請求
【授業概要】
【授業概要】
①事例を通して消費者被害の実態を知る。
②消費者被害にあわないための方策を学び、安全・安心な生活をおくる。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　地域貢献プログラム④　地域とのかかわりⅣ（ミニミニ研究：制作開始／調査・探求）

【key words】
【key words】　ミニミニ研究、制作、調査・探求
【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究の制作を開始する。
②イベント委員が主体となって、研究・制作活動を進めていく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　地域貢献プログラム⑤　地域とのかかわりⅤ（ミニミニ研究：制作／調査・探求、まとめ）

【key words】
【key words】ミニミニ研究、制作、調査・探求、まとめ

【授業概要】
【授業概要】
①地域との関わりを意識し、ミニミニ研究のテーマに沿って制作、調査・探求を進める。
②イベント委員が主体となって、研究・制作活動を進めていく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】

	60分 第２８回　地域貢献プログラム⑥　地域とのかかわりⅥ（ミニミニ研究：発表準備、クラス内振り返り） 【key words】 【key words】　振り返り、発表準備、パワーポイント 【授業概要】 【授業概要】 ①地域との関わりを意識したミニミニ研究のクラス内の振り返りをを行う。 ②イベント委員が主体となって、全体発表の準備を進めていく。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】クラス内発表資料、全体発表資料、レジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２９回　地域貢献プログラム⑦　地域とのかかわりⅦ（ミニミニ研究：全体発表） 【key words】 【key words】　全体発表、プレゼンテーション、レジュメ 【授業概要】 【授業概要】 ①地域との関わりを意識したミニミニ研究の全体発表を行う。 ②イベント委員が主体となって、全体発表を進めていく。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】発表資料、パワーポイント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の内容を基礎演習（Ⅰ）ワークシートにまとめ、期日までに提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート、環境美化活動 【key words】 【key words】後期総括、振り返り、授業アンケート、環境美化活動 【授業概要】 【授業概要】 ①基礎演習1ノートの後期総括をまとめる。 ②授業評価アンケートを実施する。 ③環境美化活動を念入りに行う。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】基礎演習（Ⅰ）ノート、基礎演習（Ⅰ）　ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・基礎演習（Ⅰ）ノート、基礎演習（Ⅰ）　ワークシートの記入漏れがないかを確認し、期日までに　提出すること。 ・２年次実施する基礎演習Ⅱに向けて準備を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	１　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 ４　基礎演習Ⅰで使用した資料等は、必ず基礎演習Ⅰファイルに綴じておくこと。 ※　コロナ禍の状況下で、授業内容が変更となる場合があることを了承いただきたい。その場合は口頭もしくは別途授業予定表を配布するなどして周知する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	基礎演習（Ⅰ）ワークシート
授業外時間にかかわる情報	図書館利用、インターネット利用、レポートの作成等に関する時間は、授業時間外の活用が重要である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	基礎演習Ⅰへの取り組み（30%）、基礎演習Ⅰノートの内容（30%）、基礎演習Ⅰワークシートの内容（40%）を総合して評価する。
教科書	1 鈴木利定・中田勝（著）2002年『咸有一徳』中央法規 2 中田勝（翻訳）2009年 初編『伝習録』明治書院 3 学習技術研究会 2020年『知へのステップ』くろしお出版
参考書	その他、講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 担当者が、それぞれ社会福祉（社会福祉士、精神保健福祉士他）、子ども（保育園、幼稚園、小学校他）、学校教育（特別支援、中学校、高等学校、教育委員会での教育行政他）等で勤務実績を積み上げている。。

	アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 倫理学　　授業コード： S1036

英文科目名称： ethics

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会とは人と人との関係性のなかで構築されている。その中で我々は日々決断を求められている。その時に判断基準はあるのでしょうか。我々が普段下す判断を倫理学的に考察することで、よりよく生活をおくることが可能になります。 【到達目標】 ・倫理学の基礎的用語を理解し他者に説明できる。 ・東西両洋の倫理思想について、他者に説明できる。 ・倫理学的発想の構造に注目し、その内部構造を把握し文章化できる。
授業の概要	・人間の判断基準や思考が具体的な場でどのように変化したりするのか、倫理学の思考に基づき考察する。 ・倫理的に考察することは、既存の思考に対する懐疑を生ずることもありますが、自分なりの答えを導くことにより新しいステップに行くことが可能になります。そのような訓練の場でもこの授業はあります。 ・倫理・道徳に限らず、考察の根本は先ず「知る」ことです。そして「知る」ための手段が読書です。課題図書や読書に関する発表やレポートを課します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　倫理学で学ぶ内容について　人を助けるために嘘をつくことは許されるか 【key words】 嘘も方便　キケロ、カントの倫理主義 【授業概要】 カント「人間愛のために嘘をつく権利について」をもとにして、倫理的な原理の厳密性（厳格性）について考察する。アンネ・フランクを救うためにナチス側の権力者を欺いた行為をカントの立場では非難することになる。しかし、キケロは嘘をつくことが倫理的になるような事例を挙げている。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３～Ｐ９、Ｐ１７～Ｐ２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	一〇人の命を救うために一人の人を殺すことは許されるか　一〇人のエイズ患者に対して特効薬が一人分しかない時、誰に渡すか 【key words】 サバイバル・ロッターリ　人格の尊厳　最大多数の最大幸福 【授業概要】 ジョン・ハリス「生き残り選別の問題」（原題「サバイタル・ロッターリー」）を題材にして、単純な功利性の原理だけで生命の問題を扱うと、個人の生存権の絶対性が成り立たなくなるという問題を扱う。功利性の原理の位置づけが問われる。ベンサムは「最大多数の最大幸福」という

原理だけが、道徳の究極の原理だと考えた。平等がよいか悪いかも」、この原理で判断しなければならないとすると、一部の人の犠牲によって全体の人が利益を得ることが功利主義の立場では正義に一致することになってしまう。ここに民主主義という条件がからんでくる。多数決原理と功利主義原理が、一緒に使われると、多数者が少数者を犠牲にすることがつねに正当化される危険が出てくる。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ２８～Ｐ４９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　エゴイズムに基づく行為はすべて道徳に反するか
【key words】
功利主義
【授業概要】
快楽を求め、苦痛を避ける。これは人情の自然であり、それが悪だといっても仕方がない。しかし、カントは、それでは道徳性にならないと言う。道徳的な内容は、有無を言わさず、ひたむきに「正直であれ」と命令するものだから、無条件の命令という意味で「定言命法」の形になるというのがカントの立場である。ベンサムの方は許容できるエゴイズムの態度を決めるのが倫理学だという姿勢である。ところがミルは「豚よりもソクラテス」という主張をして混乱を招いた。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５０～Ｐ６４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　どうすれば幸福の計算ができるか　判断能力の判断は誰がするのか
【key words】
功利主義批判　決定権　人格
【授業概要】
「最大多数の最大幸福」という原理には、誰も異議を差し挟めないように思われる。ところが、この原理に対して提出された疑問は多い。そもそも幸福は計算できないはずだ。たとえばドンブリ勘定で幸福の総量を決めれば、どんな不公平だって許されることになる。人が〈大きい方の幸福を選ぶ〉というのは、事実ではない。人が選んだ方を〈より大なる〉幸福と名づけるのだ。選好の強さを経済的に測定するという方法を採用すると、計算は可能になるが、必要の度合いの評価が抜け落ちてしまう。ベンサムは、「誰でも一人として数え、誰も一人以上に数えてはならない」と述べたという。選挙権の平等などが、この言葉に含まれていると言われる。共同体の正式のメンバーとそうでない人とを区別することは、人間の集団生活で避けられない。しｋｓ、正常者と異常者の区別は正常者がするということに、異常者は同意しない。意思決定のシステムが機能するためには、その前提となる決定権をもつ者の決定が有効でなければならない。現代のバイオエシックスは、そこに大きな問題を抱え込んでいる。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６５～Ｐ９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　〈……である〉から〈……べきである〉を導き出すことはできないか
【key words】
価値判断と事実判断　自然主義的誤謬
【授業概要】
「男は男らしくしろ」と言うと、「男である」から、「男らしくあるべきである」を導いたことにならないだろうか。すると倫理学の主張の大部分が「である」から「べきである」を導き出すという誤りを犯しているのかもしれない。Ｇ・Ｅ・ムーアがこれを「自然主義的誤謬」と呼んで以来、「〈……である〉から〈……べきである〉を導いてはならない」は、現代倫理学の基本的なドグマとなっている。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１００～Ｐ１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　正義の原理は純粋な形式で決まるのか、共同の利益で決まるのか
【key words】
定言命法　格律
【授業概要】
カントは純粋な形式だけで正義の原理を決めないと、エゴイズムに引きずられると考えて、「自分の格律が普遍的原理と一致するように」という形式的な規則を作って「定言命法」と呼んだ。ミルは、カントの定言命法も「最大多数の最大幸福」の原理の中に収まるはずだという。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１７～Ｐ１２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　他人に迷惑をかけなければ何をしてもよいか　貧しい人を助けるのは豊かな人の義務であるか
【key words】
自由主義の原則　完全義務と不完全義務
【授業概要】
自由主義の原則は、要約すると、「①判断能力のある大人なら、②自分の生命、身体、財産にかんして、③他人に危害を及ぼさない限り、④たとえその決定が当人にとって不利益なことでも、⑤自己決定の権限をもつ」となる。ところが、この五つの条件のすべてに難問がからんでいる。何を自由にしてよいかについて、大枠の合意が必要である。約束を守るのは相互的な完全義務だ

		が、慈善をするのは恩恵的な不完全義務だという考え方が、ミルの自由主義の背景になっている。カントは義務のこの二つのあり方にさらに自分自身に対する義務と他人に対する義務という分類項目を導入して、四個の形について具体的に実例を挙げている。さらに人工妊娠中絶論に出てくる不完全義務の一例を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１６７～Ｐ２０３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第８回	読書の効用Ⅰ 【key words】 読書　ビブリオバトル 【授業概要】 社会人になってからの学習は、学校教育のように先生から教わるという形式でなく、自らが主体的になって学習することが中心になるでしょう。そして主体的に学ぶ際に中心となるのが読書です。この回では読書が人間生活に必須な理由について考察していきます。また、他者を読書に誘う手段としてのビブリオバトルを実施します。この回までに自分のお勧めの書籍をよういしてください。その上で、全員の前でお勧めの理由を発表してもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回までにプリントを配布しますので、読んどいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第９回	読書の効用Ⅱ 【key words】 読書　ビブリオバトル　要旨を作成する 【授業概要】 ビブリオバトルで紹介した本を含め、３冊分の要旨200字前後で作成してもらいます。要旨作成の目的は①読書した内容の定着を図る②他者の主張を正確に読み取る練習③時間内に仕上げる練習の３つです。社会人になると、学生時代と異なり時間の制限があります。限られた時間の中で如何に読書をして己を伸ばし、正確な知識を身に着けられるか。そのための読書を学んでいきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この授業の回までに最低３冊の本（分野は問わない）を最後まで読んどいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１０回	孔子の倫理思想Ⅰ 【key words】 孔子　論語　儒学 【授業概要】 孔子（前552または前551～前479）は古代中国を代表する思想家・教育者です。孔子は孔子の時代（春秋時代）までに伝わってきた学問をまとめてました。これを我々は「儒学」と言っています。孔子がまとめた「儒学」は中国のみならず、東アジアの思想や倫理観に大きな影響を与えました。この回では、孔子が何故学問の重要性を力説したのか『論語』を中心にして考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。宇野哲人『論語』上下（明徳出版社）金谷治『論語』（岩波文庫）ともに図書館にあります。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回までにプリントを配布しますので、読んでおいてください。解らない言葉が出てきたら図書館にある『大漢和辞典』『中国文化史大辞典』を調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	孔子の倫理思想Ⅱ 【key words】 孝行 【授業概要】 我々は生まれた瞬間から「親子」という関係が始まります。この親子関係に注目したのが他ならぬ孔子です。孔子は親子の愛情（親から子への“慈”子から親への“孝”）が基本となって、他との関係性も規定されると考えていました。孔子は孝についてどのように考えていたのか『論語』を中心にして考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。宇野哲人『論語』上下（明徳出版社）金谷治『論語』（岩波文庫）ともに図書館にあります。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回までにプリントを配布しますので、読んでおいてください。解らない言葉が出てきたら図書館にある『大漢和辞典』『中国文化史大辞典』を調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	孟子の倫理思想 【key words】 孟子　性善説　惻隠の心 【授業概要】 孔子の思想を継承発展させた人物に孟子と荀子が挙げられます。孟子（前372？年～前289年）は人間は他人の不幸を見るに忍びない心（惻隠の心）を持っている。これを拡充していけば仁（人間愛）が実現されると考えました。また、この心があるからこそ、本来人間は善である（性善説）を主張します。つまり、孔子の時代では論じられなかった「人間の本性」について、孟子の時代では議論されるようになったのです。人間という存在を孟子はどのように捉えていたのか。『孟子』から考察していきます。

	【教科書ページ・参考文献】 プリント。内野熊一郎『孟子』（明治書院、１９６２年６月） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回までにプリントを配布しますので、読んでおいてください。解らない言葉が出てきたら図書館にある『大漢和辞典』『中国文化史大辞典』を調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　荀子の倫理思想 【key words】 荀子　性悪説　学問の勧め 【授業概要】 荀子（前313？年～前238年）は中国戦国時代最末期の思想家で、法家の思想家韓非子（「守株」の原典）や秦の丞相（総理大臣に相当）となる李斯（漫画『キングダム』に出てきますね）の師匠にあたります。荀子は孟子と異なり、人間の本性を悪だと捉えます。なぜならば、人間は生まれながらにして利益を好むものであり、生まれたままにしておけば、争いが絶えないと荀子は考えます。そこで重要になるのが「学問」による人格の陶冶です。荀子は人間は学問をすることによって、礼節を知り、人に譲ることができると考えるのです。荀子における人間性の捉え方と学問観について考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。藤井専英『荀子』（明治書院１９６６年１０月） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回までにプリントを配布しますので、読んでおいてください。解らない言葉が出てきたら図書館にある『大漢和辞典』『中国文化史大辞典』を調べてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　儒学の日本での展開ー貝原益軒の幼児教育観Ｉー 【key words】 貝原益軒　和俗童子訓　気随 【授業概要】 貝原益軒（1630年～1714年）は江戸初期から中期にかけての日本を代表する儒学者であり、初学者や子ども向けの解説書を数多く著しております。この「和俗童子訓」は、どのように幼児を教育していくのかを、儒学思想に基づき書かれています。人によっては日本で最初の幼児教育書とも言っています。儒学思想の観点から2回にわたり益軒の幼児教育について考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』（岩波文庫、１９６１年１月）） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貝原益軒の文章は子供向けにわかりやすい和文で書かれています。わからないところが出てきたら、図書館にある『日本国語大辞典』で調べてください。この辞書を引けば必ず解ります。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　儒学の日本での展開ー貝原益軒の幼児教育観Ⅱー 【key words】 貝原益軒　和俗童子訓　五常訓 【授業概要】 現代の幼児教育と益軒の幼児教育は、一致しない点も当然ありますが、肯首すべきところも当然あります。どのような面に注意して幼児を自主性ある子どもに成長させていくか。またその過程で、どのようにして道徳心を身に着けさせるか。益軒の幼児教育に対する考え方を「和俗童子訓」や「五常訓」（和俗童子訓の翌年に刊行）の中から考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 プリント。貝原益軒『養生訓・和俗童子訓』（岩波文庫、１９６１年１月）） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貝原益軒の文章は子供向けにわかりやすい和文で書かれています。わからないところが出てきたら、図書館にある『日本国語大辞典』で調べてください。この辞書を引けば必ず解ります。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意してもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、講義中に１人１分で発表をしてもらう。 ・講義では受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論をしてもらいます。また課題について必ず調べてきてもらいます。要するに、アクティブラーニングを促す。 ・自分は何ができるのか。自問自答してみてください。それが倫理観の形成に繋がります。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・講義に臨む前に、指定個所を必ず読んでおくこと。読んでいるという前提で講義を進める。（先読みをしてこないと、授業の半分も理解できないでしょう。） ・講義で不明な点は、講師に質問するなり、図書館にある辞典類、『岩波哲学思想辞典』（岩波書店）『哲学辞典』（平凡社）で調べ、理解できるように努めること。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％（期末試験をレポートにする場合もあり）　課題１５％　発表１５％
教科書	加藤尚武『現代倫理学入門』（講談社学術文庫、１９９７年２月）と配布プリント
参考書	宇都宮芳明 熊野純彦編『倫理学を学ぶ人のために』（世界思想社、1994年9月）品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで 』（中公新書、2020年7月）
実務者経験/アクティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本国憲法　　授業コード：S1081

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース・選択／学校教育コース／初等教育コース・必修
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　日本国憲法が実質的にも日本の最高法規となりうるのは、それが人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、社会福祉六法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎とする。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としての、また、社会福祉の専門家としての基礎を作る。 【到達目標】 ①六法で条文を調べることができる。 ②憲法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ③法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	先ずは、条文に当たり、その理解をしたい。次に、それを基礎にして考えてほしい判例を、出来るだけ多く示す。適宜、関連する法律(特に行政法)の紹介も行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　人権①（～前文） 【key words】 憲法　基本原理 【授業概要】 社会規範について説明をする。 憲法の意義、歴史、基本原理を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ16～22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ22～27 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	人権②（天皇～私人間効力） 【key words】 国民主権　平和主義　人権享有主体性 【授業概要】 日本国憲法の基本原理である国民主権、平和主義について説明をする。 基本的人権総論として、人権共有主体性等の説明をする。〞 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ22～27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ27～30 【予習復習に必要な想定時間】

		60分
	第３回	人権③（包括的基本権・法の下の平等） 【key words】 包括的基本権　法の下の平等 【授業概要】 新しい人権を生む１３条と自由とともに保障されている平等権について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ27～30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書ｐｐ30～32 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	人権④（精神的自由（１）） 【key words】 精神的自由　思想良心の自由　信教の自由　学問の自由 【授業概要】 精神的自由権について、思想良心の自由　信教の自由　学問の自由を題材に説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ30～32 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ32～34 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	人権⑤（精神的自由（２）） 【key words】 表現の自由　知る権利　検閲 【授業概要】 精神的自由の中心と位置付けられる表現の自由、そこから生まれる知る権利等について説明する。 関連する判例事案について討議する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ32～34 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ34～35 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	人権⑥（経済的自由） 【key words】 経済的自由　職業選択の自由　財産権　居住・移転の自由 【授業概要】 職業選択の自由、財産権等を題材とし、精神的自由と比較して経済的自由について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ34～35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ35～37 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	人権⑦（人身の自由） 【key words】 人身の自由　適性手続の保障 【授業概要】 人身の自由の保障と、そのための適正手続の重要性について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ35～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ37～39 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	人権⑧（生存権・教育を受ける権利） 【key words】 生存権　プログラム規定説　教育を受ける権利 【授業概要】 社会権につき自由権との比較のうえ説明する。 特に、福祉の基礎となる生存権に関する判例の考え方を紹介する。 関連する判例事案について討議する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ37～39 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　ｐｐ39～41 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	人権⑨（労働権・参政権・国務請求権・国民の義務） 【key words】 労働権　参政権　国務請求権　国民の義務

【授業概要】
前回までに取り上げた人権以外の人権につき概説する。
国民の義務を説明する。″

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ39～41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ43～49

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　統治①（統治機構・国会）
【key words】
権力分立　立法権　国会　二院制
【授業概要】
日本国憲法が定める統治機構について説明をし、そのうちの立法権を担う国会につき説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ43～49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ49～51

【予習復習に必要な想定時間】
60分
60分

第１１回　統治②（内閣）
【key words】
行政権　内閣　議員内閣制
【授業概要】
行政権を担う内閣について説明をする。
国会との関係において議院内閣制を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ49～51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ52～57
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　統治③（裁判所Ⅰ）
【key words】
司法権　裁判所　統治行為論　三審制

【授業概要】
司法権の意義・範囲とその限界を説明する。
司法権を担う裁判所の組織について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ52～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ57～59
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　統治④（裁判所Ⅱ（裁判員制度含む））
【key words】
裁判官の独立　違憲審査権　裁判員制度
【授業概要】
裁判所を構成する裁判官の独立性、法律等を違憲とする違憲審査権につき説明をする。
あわせて、裁判員制度について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ57～59
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　ｐｐ59～63
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　統治⑤（財政・地方自治）
【key words】
財政立憲主義　公金支出　地方自治の本旨
【授業概要】
社会福祉に関しても重要性を有する財政、地方自治について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
ｐｐ59～63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書、プリントを見直しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１５回　　まとめ 【key words】 憲法　人権　統治 【授業概要】 憲法に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 ｐｐ16～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、特に憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年
参考書	小六法（例：「ポケット六法」有斐閣，2018年）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会調査の基礎　　授業コード：S1104

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択
担当教員			
河内 和直			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会調査の基礎理論と統計分析の初歩について学ぶことを目的とする. 【到達目標】 実社会において行われている様々な調査や情報の本質について基本的な考え方を修得するとともに，将来，保育士・幼稚園教諭のみならず社会福祉士の取得も目指している学生に対しては国家試験科目「社会調査の基礎」の内容も意識した知識を身につける.
授業の概要	本講義では，種々の社会現象（e.g.，社会問題，流行）について調べ，解明するための理論と統計的方法について解説を行う．講義内容は社会調査の基礎理論と検定を中心とした推測統計学の２本立てから成るが，単に教科書的・学問的に学ぶだけでなく，適宜，多様な具体例を提示しながら，事象の本質・隠れた真実を読み解くことの困難さと奥深さについての洞察を得ることをねらいとする.

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　社会調査を学ぶにあたって 【key words】 社会調査 【授業概要】 社会調査を学ぶにあたっての基本的な心構えについて解説する．また，社会福祉士になぜ統計調査技術が求められるかについても解説を行う. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第1章Pp.1-6. 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第２回	社会調査の目的　社会調査と社会福祉調査 【key words】 社会調査，社会福祉調査 【授業概要】 目的別に見た社会調査の分類について解説する．また，歴史的経緯や現行の統計制度についても解説を行う. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第1章Pp.7-16. 【課題・予習・復習・授業準備指示】
	第３回	社会調査の種類　量的調査と質的調査 【key words】 量的調査と質的調査 【授業概要】 量的調査と質的調査の大別を中心に社会調査の種類について解説する.

【教科書ページ・参考文献】
教科書第2章Pp.17-32.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：量的調査と質的調査の違いについて理解する.

第４回　社会調査のプロセス　調査実施のためのプロセス
【key words】
調査プロセス
【授業概要】
構想・計画段階から結果の報告，データの管理まで，社会調査の基本的なプロセスについて量的調査の場合を中心に解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第3章Pp.33-45.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：調査実務の手順について理解する.

第５回　標本抽出法Ⅰ　無作為標本抽出法と有意抽出法
【key words】
無作為抽出法，有意抽出法
【授業概要】
標本抽出法について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第7章Pp.93-111.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：無作為の意味について理解する.

第６回　標本抽出法Ⅱ　無作為標本抽出法の演習
【key words】
等確率性，独立性
【授業概要】
演習形式で無作為抽出法の実演を行う.
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習：等確率性，独立性について理解する.

第７回　データの収集法　調査票調査，他記式調査，自記式調査
【key words】
調査票調査，他記式調査，自記式調査
【授業概要】
社会調査における様々なデータ収集の方法について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第5章Pp.62-78.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：他記式調査，自記式調査の代表的な方法について理解する.

第８回　調査票(アンケート)の作成　質問項目の執筆における留意点を中心に
【key words】
調査票
【授業概要】
質問紙調査票の作成について特に質問項目の執筆における留意点を中心に解説する.

【教科書ページ・参考文献】
教科書第6章Pp.79-92.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第９回　データの処理・集計　データの数値化，単純集計・クロス集計
【key words】
エディティング，コーディング，データ入力，データ・クリーニング
【授業概要】
データ収集後の作業について解説する.
【教科書ページ・参考文献】
教科書第9章Pp.129-145.
【課題・予習・復習・授業準備指示】

第１０回　統計分析Ⅰ　変数の種類と代表値
【key words】
変数の種類，代表値
【授業概要】
変数の種類(質的変数，量的変数)と代表値(算術平均，中央値，最頻値)について解説する.

【教科書ページ・参考文献】
教科書第10章Pp.150-152.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：変数の種類と代表値の使い分けについて理解する.

第１１回　統計分析Ⅱ　データの分散，シグマの法則
【key words】

	分散，標準偏差，シグマの法則 【授業概要】 散布度(分散，標準偏差)とそれに基づくシグマの法則について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章Pp.153-158. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：データ分布における「分散」の概念について理解する. 第１２回　統計分析Ⅲ　ピアソンの積率相関係数 【key words】 相関係数 【授業概要】 2変量の記述統計量としてピアソンの積率相関係数について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章Pp. 179-184. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：相関係数の絶対値と関連の程度について理解する. 第１３回　統計分析Ⅳ　クロス集計表の作成 【key words】 クロス集計表 【授業概要】 質的変数の関連性を分析するためのクロス集計表について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章Pp. 184-187. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：クロス集計表の作成と見方について理解する. 第１４回　統計分析Ⅴ　クロス集計表の独立性の検定 【key words】 独立性の検定 【授業概要】 クロス集計表における推測統計としてピアソンの独立性の検定を取り上げて解説する. 【教科書ページ・参考文献】 教科書第12章Pp.190-192. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 統計的検定の考え方，有意確率(P値)の見方について理解する. 第１５回　総括 【key words】 社会調査・統計調査 【授業概要】 総括として，社会調査法のまとめを行い，定期試験への勉強法について解説する. 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験勉強をきちんと行う.
受講生に関わる情報および受講のルール	アンケート(調査票)による統計調査の方法とその分析法に関する授業です．社会問題や世論などについてデータ(根拠)に基づいて考える視点を学びたい受講生を望みます．また，受講にあたっては恒常的に出席してください.
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（質問等は授業ごとに随時対応。紙面にて対応する場合もあり。）
授業外時間にかかわる情報	統計概念の復習に重点をおき，わからない点は何度でも質問し，理解を深めること.
オフィスアワー	授業後に教室内で次の授業に支障の出ない時間で対応.
評価方法	定期試験（８０％）と平常点（２０％）（提出課題）で総合評価を行います.
教科書	轟 亮・杉野 勇(編)「入門・社会調査法[第3版] ―2ステップで基礎から学ぶ―」，法律文化社，2017年.
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 韓国語Ⅰ　　授業コード：S1194

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴　惠蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ハングル（文字）の成り立ちや発音を学習し、文字が読み、書けるようにする。日常生活の中でよく使う基本会話を身に付 ける。韓国語で自己紹介が出来るようにする。パソコンで韓国語の入力が出来るようにする。 【到達目標】 １）ハングル文字が書けて正しく読める。 ２）挨拶・生活の基本会話を身に付ける。 ３）韓国語で自己紹介が出来る。 ４）　パソコンで韓国語の入力が出来る。
授業の概要	ハングルの特長、話し言葉の特徴や発音、イントネーションを日常生活及び一般的な話題を通じて学び、基礎会話が 出来る様に何度も口に出して練習する。 ハングルの仕組、特徴を理解し読み書き出来る様にくり返し練習する。パソコン・CD・DVD等の視聴覚教材も用いる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテイション　ハングルについて、語順、仕組み、特徴 【key words】 ハングル・仕組み・語順 【授業概要】 ハングルが創られた時代、歴史的な背景をDVDを見せて説明して、ハングルの仕組みと語順、特徴、漢字との関連性を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ14～17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ハングルの仕組みを理解して次の授業に備える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　ハングルの母音、出会いの挨拶 【key words】 母音・組み合わせ・挨拶 【授業概要】 ハングルの10個の基本母音の読み書きを説明して練習させて組み合わせを説明して覚えさせる。 出会いの時の挨拶を口に出して練習させる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ20～24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母音10個の読み書きを復習して覚えること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　ハングルの子音、発音のコツ、別れの挨拶

【key words】
子音・平音・激音・有声音化

【授業概要】
ハングルの基本子音14個の形と発音の読み書きを復習して覚える。基本母音との組み合わせを説明して、子音には平音と激音があり発音の際にコツがあることを教える。別れる時の会話を口に出して繰り返して練習させる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ26～37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
子音14個の読み書きを復習して覚えること。であいと別れの時の会話を復習して次の授業でペアで発表すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第４回　ハングルの子音（平音、激音、濃音の相違点）　感謝、謝罪の際の会話

【key words】
濃音・感謝・謝罪

【授業概要】
ハングルの基本子音14個以外に5個の子音(濃音)を平音、激音と比較しながら息の量で発音のコツを覚えさせる。感謝と謝罪の時の会話を口に出して練習させる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ38～47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
平音・激音・濃音の違いを理解して書けるように復習すること。教科書48ｐ49ｐ課題を提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　ハングルの二重母音、有声音化　食事の時の会話

【key words】
複合母音・組み合わせ

【授業概要】
基本母音を二重に組み合わせて、さらに11個の複合母音(二重母音)を書けて読めるように練習させる。
食事の時の会話を何度も口に出して練習して、ペアで発表する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ50～55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
基本母音、二重母音、子音(平音・激音・濃音）を組み合わせた文字を書いて提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　ハングルのパッチム、出かける時の会話

【key words】
パッチム・有声音パッチム・連音化

【授業概要】
パッチムとは何かを説明して、パッチムの中で有声音パッチムの読み方、書き方を覚えて発音出来るようにする。出かける時の会話(行って来ます、行ってらっしゃい)を何度も口に出してペアで練習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ58～61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パッチムのある単語の読み書きを復習して覚える。
【予習復習に必要な想定時間】
60

第７回　ハングルの二重パッチム、お願いの時の会話

【key words】
二重パッチム・無声音パッチム

【授業概要】
パッチムは有声音パッチムと無声音パッチムと二重パッチムに分類し区別して説明して、発音出来るように練習させる。お願いの時の会話を何度も口に出して練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p62～65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
無声音パッチムの読み書きを復習して覚える。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　ハングルの発音の法則

【key words】
有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化

【授業概要】
ハングルの発音の際には様々な発音の法則(有声音化・連音化・弱化・鼻音化・激音化・濃音化)があることを説明して、正確に発音出来るように練習する。
【教科書ページ・参考文献】
p66～69　付録ｐ204～207

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書67ｐ69ｐ練習ドリルをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　ハングルのカナ表記法による人名、地名などの固有名詞の表記
【key words】
人名・地名・住所

【授業概要】
日本語の人名・地名などをハングルで書く時に表記法によるルールを説明して、名前と住所をハングルで書いてみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の都道府県名をハングルで書いてみること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　パソコンでのハングルの入力の仕方
【key words】
ハングルのキーボード

【授業概要】
パソコンでのハングルのキーボードを画面上に出す方法を操作して打ち方を教えて簡単な自己紹介文を打ってみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家のパソコンを操作してハングルが打ってるようにして自己紹介文を打ってプリントアウトして提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１１回　～は～ですの文型、自己紹介
【key words】
人称代名詞・職業

【授業概要】
人称代名詞・職業の韓国語の単語を覚えて～は～ですの文型を練習して自己紹介文を書いてみる。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ75～77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人称代名詞を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　～は～ですか？の文型
【key words】
国名・何人(日本人、韓国人、中国人、イギリス人、アメリカ人)

【授業概要】
国名を韓国語で覚えてあなたは何人ですか、私は～人ですの文型を国の名前を入れ替えながら練習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ78～79
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書80ｐ課題を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60％

第１３回　これは～ですか、それは～ですの文型、指示代名詞
【key words】
指示代名詞・これ・それ・あれ・どれ・身の回りの単語

【授業概要】
指示代名詞と身の回りの単語を覚えてこれは～ですか、それは～ですの文型を書いてみる。又ペアで単語を入れ替えながら読む練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ83～85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示代名詞を復習して暗記して来ること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１４回　助詞～も、～ではありませんの文型、ハングルゲーム

	【key words】 教室の中のもの・野菜・果物・動物の名前動物の名前をゲーム形式 【授業概要】 教室の中にあるものの単語を覚えてこれも～ですか、それは～ではありませんの文型を単語を入れ替えながら繰り返して練習して覚える。ハングルで野菜、果物、動物の名前をゲーム形式で探すことをしてハングルの読む能力を確かめる。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ86～87 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書88ｐ課題を書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　読み書きのまとめ、日常会話の復習 【key words】 まとめ・基礎会話 【授業概要】 ハングル文字が書けて発音の変化の法則通り正しく読めるかをまとめて復習する。日常生活での基礎会話と自己紹介を韓国語で発表する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに備えての復習用のプリントを書いて提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	日本語に無い発音が多い為、正しい発音を身に付けるためには、積極的に出席し積極的に何度も口に出して練習する 事が望ましい。 文字の読み書きから覚えて行く初めての言語なので文字を覚える為には、繰り返しの練習、復習が必要である。 韓国語Ⅰに続けて韓国語Ⅱも一緒に履修する事が望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『　韓国語へ旅しよう　（初級）　』　　朝日出版社
参考書	自作プリント
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 韓国語Ⅱ　　授業コード：S1196

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
朴　惠蘭			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 基礎会話から少し進んだ日常会話を身に付ける。数字、番号、物の値段が言えるようにする。言葉を通じて韓国語と日本語の発想、表現の違いなどを確認して行く。韓国に興味が持て、現代韓国社会・文化と現代日本社会・文化との共通点と相違点を知る。 【到達目標】 1）基礎会話から進んだ日常会話を身に付ける。 2）月・日・番号・値段が言える。 3）韓国語と日本語の共通点、相違点を知る。 4）簡単な発表などを韓国語で出来る様にする。 5）韓国の社会・文化・歴史に対する理解を深める。
授業の概要	韓国語Ⅰで韓国語の基礎会話、発音の習得を終えた学生を対象に、書く・読む・話すの4機能のうち書くこと・話す事にやや比重を置いて授業を進めて行き会話力を身に付ける。疑問詞、数詞などを用いて教科書の項目別文例をもとに、対応の言い換え練習を行いながら会話を覚えて行く。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、この人は誰ですか、助詞～の 【key words】 家族の呼び名・性別・三人称 【授業概要】 韓国語では性別によって呼び名が違うことを知って呼び名を覚える。三人称代名詞この方、その方、あの方どの方を覚える。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ97 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族の呼び名を覚えて暗記して来ること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	指示代名詞　（事物・場所）、これは誰のものですかの文型 【key words】 この、その、あの、どの、省略 【授業概要】 この人は～です、この～は～の物ですの文型に物や人物の名を入れ替えながら練習する。助詞～

のは会話の中でほとんど省略されることは日本語との相違点である事を知る。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ91～96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
この～は～の物ですの文を10個作って宿題として提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第３回　助詞（も）、否定形、家族の呼び名、指示代名詞の復習
【key words】
まとめ・復習

【授業概要】
人称代名詞、家族の名称、身の回りの単語を用いて今まで習った文型に書き入れる練習をして復習ししっかり覚えたかを確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ98～101
【課題・予習・復習・授業準備指示】
指示代名詞、身の回りの単語、家族の名称を復習して暗記して来ること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　助詞（と）、位置関係の言葉
【key words】
前後・左右・上下・パッチムある単語、ない単語

【授業概要】
位置関係の言葉を口に出して練習して覚える。助詞～もはパッチムある単語とない単語のあとに形で接続を理解してそれぞれの形を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ103～105
【課題・予習・復習・授業準備指示】
位置関係の言葉を復習して暗記して来ること。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　助詞（に）、～に～があります、ありませんの文型
【key words】
居る・ある・場所

【授業概要】
位置関係の言葉と場所の言葉を用いて～に～があります、ありませんの文型を練習して覚えて行く。居る・あるを区別しない事もと日本語との相違点である事を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ106～110
【課題・予習・復習・授業準備指示】
～に～がありますの文を10個作って次回に宿題として提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　用言の「です・ます形」、助詞（を）
【key words】
基本形・語幹・語尾・活用

【授業概要】
生活の中でよく使う動詞、形容詞の基本形から語尾を変えて～です、ます形の会話体にすることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ111～115
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校、教室の中でよく使う動詞、形容詞を20個覚えること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第７回　～で～をしますの文型、助詞（で）
【key words】
丁寧な会話体

【授業概要】
覚えた基本動詞と形容詞を丁寧な会話体に書き換える練習をして～で～をしますの文型を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ116～117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
113ｐのドリルをして提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第８回　映像（韓国映画）で学ぶハングル
【key words】
映画・聴き取り・感想文

【授業概要】
映像（韓国映画）を通して文化を知って、今まで教科書で学んだ会話文の聴き取り能力を確かめる。

【教科書ページ・参考文献】
DVD
【課題・予習・復習・授業準備指示】
韓国映画の感想文を書いて提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第９回　否定の表現、体の名称
【key words】
後置否定形

【授業概要】
覚えた基本動詞と形容詞を語尾を変えて、否定形（～しません、～くありません）の文型を覚える。体の名称を覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ118～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
体の名称を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　曜日の言い方、尊敬会話体
【key words】
何曜日・いつ・尊敬補助語幹

【授業概要】
一週間の曜日の言い方を練習して覚える。尊敬補助語幹を用いて尊敬会話体の文章作りの練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ121～125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
曜日の言い方を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　不規則活用、連結語尾～しにの文型
【key words】
脱落・連結語尾

【授業概要】
用言を尊敬会話体に活用する際に不規則活用の用言があることを説明して覚える。連結語尾～しにを用いて文作りの練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ126～129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
～しにの語尾を用いて5個の文作りをして提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
30分～60分

第１２回　疑問詞
【key words】
誰・いつ・どこ・なぜ・何・いくら・どうやって

【授業概要】
疑問詞を用いての疑問文を単語を入れ替えながら練習して覚える。
【教科書ページ・参考文献】
プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
疑問詞7個を復習して暗記して来ること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　過去形、過去尊敬形
【key words】
過去時制補助語幹

【授業概要】
用言の基本形の過去補助語幹と尊敬補助語幹を用いて過去形、過去尊敬形の会話文を復習して覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ135～137、ｐ140～141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
138ｐ139ｐのドリルで復習して提出する事。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～90分

第１４回　連結語尾～て、して、連結語尾～けれとも、が
【key words】
動作の継続・順序・内容の対立

【授業概要】
動作の継続と順序の連結語尾～で、～してと内容の対立の連結語尾～けれともを用いて会話文作りの練習をして覚える。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ142～144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書145ｐの課題をやって提出すること。

	【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　まとめて復習 【key words】 助詞・活用・不規則活用 【授業概要】 今までの助詞、活用した会話文、単語、文型をまとめて復習して日常会話、教室会話を二人ペアで発表させる。 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日常生活会話、教室会話を復習してテストに備える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～90分
受講生に関わる情報および受講のルール	日常生活及び身近な一般的な題材を中心に会話を学んで行く授業である。日本語の発音と似ている単語も多く、新たな発見も有り、とても学び易い言語でもある。身に付ける為には、繰り返しの練習、復習が必要である。原則として「韓国語Ｉ」の修了者を対象とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	毎回の授業後に復習用の宿題を次回授業時に提出する事。
オフィスアワー	授業の15分前、授業後の30分は対応可能。
評価方法	定期試験60%　宿題及びレポート40%
教科書	李 昌圭 著　『 韓国語へ旅しよう （初級） 』　朝日出版社
参考書	自作プリント
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 中国語Ⅰ　　授業コード：S1197

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語の正確な発音と初歩の文法・語彙を修得することにより、自身に関する簡単なことが言えるようにする。 ・中国語の学習を通じて、日本語との構造の差異に着目する。 【到達目標】 ・ピンインを見て発音ができるようになる。 ・中国語であいさつ・簡単な自己紹介ができるようになる。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　読みなれている言葉を中国語で発音してみよう 【key words】 受講にあたっての諸注意　中国語　漢語　簡体字　繁体字　ピンイン 【授業概要】 みなさんにとって中国語を本格的に学ぶのは初めてのことだと思います。初回に中国語と中国に関する概説をします。漢字や漢文表現は日本語の一部となっています。しかしもとは中国語（古典中国語）です。孔子やラーメンを中国語で発音し、日本語との差異を感じてください。なお、この授業で言う「中国語」とは、中華人民共和国で使用されている“普通话”（普通話）を指して言います。 【教科書ページ・参考文献】 P2 【課題・予習・復習・授業準備指示】 この日講義した内容を忘れないように、帰宅後もう一度ノートを見返してください。大まかな中国語の概略の定着が図れます。 【予習復習に必要な想定時間】 １０分
	第２回	発音の決まりごと（１） 【key words】 ピンイン　声調（四声）　単母音　複合母音 【教科書ページ・参考文献】 教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【授業概要】 中国語は声調言語（音の高低によって意味が異なる）です。故に入門段階では発音の練習が最も重視されます。著名な中国語研究者が「中国語　発音よければ　半ばよし」と言うほど、中国語における発音の比重は高いのです。この回では、声調（四声）・単母音・複合母音について発音

		練習していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P2・P3 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第３回	発音の決まりごと（２） 【key words】 声調　併音 【授業概要】 前回に続き発音の練習をします。今回は鼻母音・軽声・声調変化について練習していきます。また中国語の発音表記法である併音（ピンイン）の使い方についても講義します。 【教科書ページ・参考文献】 P4～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。決して一人で発音練習をしないでください。入門段階で中国語の発音練習をすると、間違った発音を覚える可能性が大だからです 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第４回	第０課　你好！（こんにちは　その1） 【key words】 你好　併音 【授業概要】 外国語を学ぶ際にあいさつはどの言語でも最初に学ぶ語彙でしょう。発音の練習をしっかりやっていきます。またピンインの綴り方を学習します。 【教科書ページ・参考文献】 P4・P5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第５回	第０課　你好！（こんにちは　その2） 【key words】 你好　併音　名前の尋ねかた 【授業概要】 今回より意味も含め本格的に中国語を学んで行きます。あいさつ・自己紹介・よろしくのあいさつ三大要素を暗記できるまで言ってみましょう。また中国語では名前の尋ねかた、あいさつの仕方についても何通りかあります。語彙を増やして表現を豊富にしてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P4・P5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第６回	第１課　你是日本人吗？（あなたは日本人ですか　その１） 【key words】 是構文（名詞述語文） 【授業概要】 この回では人称代名詞と動詞“是”「～です」について学習します。動詞“是”の構文は名詞述語文と呼ばれるもので基本構造の文です。この構文を使って会話と作文をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P10・P11 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第７回	第１課　你是日本人吗？（日本人ですか　その２） 【key words】 是　不是　也　吗 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。新しく動詞“是”の疑問文・否定文のつくり方と副詞”也”の使い方そして疑問文の作り方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P10～P13 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第８回	第２課　这是什么？（これは何ですか　その１） 【key words】 这个 那个 哪个 【授業概要】 この回では指示代名詞（こそあど【これ・それ・あれ・どれ】）について学習します。この構文を使って会話と作文をしていきます。 【教科書ページ・参考文献】 P14・P15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第９回	第２課　这是什么？（これは何ですか　その２） 【key words】 什么 谁 哪里 的 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。疑問詞疑問文“什么”“谁”“哪里”を使って疑問 文を作ってみましょう。また助詞“的”を使い所有を示す「～の」の構文も学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P14～P17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 １５分
	第１０回	第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その１） 【key words】 曜日の言い方 【授業概要】 日付・曜日の尋ねかたについて学習します。日付･曜日の言い方は基本的に日本語と同じですが、語彙が異なりますので気をつけてください。 【教科書ページ・参考文献】 P18・P19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第１１回	第３課　今天几月几号？（今日は何月何日ですか　その２） 【key words】 動詞文　S+V+O 【授業概要】 前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。動詞文（主語+動詞【+目的語】）の構文は動 詞述語文と呼ばれるものです。動作を表す語彙を用いて表現力を豊富にしていきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P18～P21 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分
	第１２回	第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その１） 【key words】 年齢の尋ね方 【授業概要】 年齢の尋ねかた・年の言い方について学習します。中国語では年齢を聞くときに、①子ども②同世代･年下③目上の人で尋ね方が異なります。（日本語でもそうですよね）難しいことはありませんが、使い分けができるようにしてください。また年の言い方（おととし・去年・今年・来年・再来年）の言い方についても学習します。 【教科書ページ・参考文献】 P22・P23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。次回、既習分の小テストを実施します。 【予習復習に必要な想定時間】

	２０分 第１３回　第４課　你今年多大？（あなたは今年何歳ですか？　その２） 【key words】 年の言い方　数の数え方 【授業概要】 小テスト及び前回の復習から始めます。知識をしっかり植えつけましょう。この回では一から百までの数の数え方を学習します。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P22～P25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１４回　第５課　現在几点？（いま何時） 【key words】 時間 【授業概要】 講義の前に再小テストを実施します。講義では、時刻の尋ねかた・言い方について学習します。日本語と時刻の言い方が異なる場面もありますので、その違いに注意しながら学習していきましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P26～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習の段階では、教科書付録のCDや音声ストリーミングを聞くだけでいいです。復習の際には、音声を聞きながら自分でも言ってみても構いません。 【予習復習に必要な想定時間】 ２０分 第１５回　前期総復習 【key words】 総復習　発音　併音の綴り方 【授業概要】 前期に学習したことが定着しているか復習します。特に発音は中国語学習における最大のポイントです。確実に定着させましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P3～P29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期最後の講義になりますので、よく理解できなかった点や発音しにくいところをリスト化して講義に来てください。また練習問題や小テストの間違えた部分を再度やり直して講義に臨んでください。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂『はじめての中国語』講談社現代新書、１９９０年２月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 中国語Ⅱ　　授業コード：S1196

英文科目名称： Chinese (Mandarin)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・中国語Ⅰに続き、正確な発音、初級文法・語彙を修得することにより、身辺の日常的な事柄を表現できるようにする。 ・中国語の学習を通して、日本語日本文化との相違に着目する。 ・語学学習を通して、異文化理解を深めます。 【到達目標】 ・簡単・初歩的な日常会話ができるようにする。このレベルは真面目に予習復習をすれば中国語検定４級のレベルになります。
授業の概要	中国語は声調（音声の高低）によって意味が変わる言語であり、また日本語には存在しない発音も多い言語です。発音を徹底的に練習することにより、正しい発音の習得と今後の自発的学習（予習・復習）の筋道をつける。加えて、中国語Ⅱは語学のみならず、中国の文化歴史にも着目し授業を進めます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その１） 【key words】 你家　几 【授業概要】 数の数え方について学習します。中国語では１０以下か以上かで尋ね方が異なります。家族の場合はたいてい１０人以下でしょうから“几”になります。また家族人員を示す語彙も覚えましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P30・P31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P30・P31の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	第６課　你家有几口人？（あなたの家族は何人ですか　その２） 【key words】 動詞“有” 【授業概要】 所有を示す動詞“有”を使い「ある、持っている」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。関連表現も覚えていきましょう。また練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P30～P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P33の単語帳（家族）を聞き、中国語で家族名称が答えられるようよく予習をしてください。合わ

せてP30・P31の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その１）
【key words】
動詞“在”所在・在所を表す

【授業概要】
所在・存在を示す“在”を使い「ある、いる」を表す文章を作っていきます。肯定文以外にも否定文･疑問文のつくり方も覚えましょう。更に願望を示す助動詞“想”を使い自分の願望を表す文章を作ってみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P34・P35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P34・P35の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第４回　第７課　体育馆在哪儿？（体育館はどこですか　その２）
【key words】
連動文

【授業概要】
動作が二つ連続して行なわれる文章を連動文と言います。例えば、体育館に行ってバスケットをする。と言った場合、“行って”と“する”の二つの動詞からこの一文は成り立っています。中国語での連動文を作ってみましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P34～P37
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P37の単語帳（方位詞）を聞き、中国語で方位名称が答えられるようよく予習をしてください。合わせてP34・P35の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その１）
【key words】
100以上の数の数え方　動詞“在”の活用（肯定文・否定文・疑問文）

【課題・予習・復習・授業準備】

【授業概要】
この回では１００以上の数の数え方を学習します。日本語の数え方と若干異なりますので気をつけてください。また前々回に学習した所在・存在を示す“在”を使い（わたしは～にいる）という文章を作っていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P38・P39
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P38・P39の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第６回　第８課　山田太郎在家吗？（山田太郎は家にいますか　その２）
【key words】
电话 番号として言うときの“一”の発音

【授業概要】
電話口での中国語会話を学習します。電話で外国語を使用するのは想像以上に難しいです。（相手の顔が見えないので、表情を窺えません）しかし、初級者でも基本的なことはいえますので、基礎的な会話を学習しましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P38～P41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p41の単語帳（街中）を聞き、中国語で街中に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP38・P39の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その１）
【key words】
Ｓ+Ｖ+Ｏ　喜欢

【授業概要】
中国語の基本構文はＳ+Ｖ+Ｏ（主語+述語+目的語）です。この構文を体に染み込むまで徹底して学習します。“喜欢”を使い（～が好き）という文章を作っていきます。
【教科書ページ・参考文献】
P42・P43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P42・P43の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第８回　第９課　你喜欢什么？（あなたは何が好きですか　その２）
【key words】
喜欢　動詞

【授業概要】
“喜欢”を使って、肯定文以外に否定文や疑問文を作っていきます。中国語は日本語と異なり「～するのが好き」という形になります。ですから日本語では「野球が好き」で通じますが中国語の場合、「野球をするのが好き（我喜欢打棒球）」となります。（打が動作を示す）このことについても学習し理解してください。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P42～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p45の単語帳（行動）を聞き、中国語で行動に関する言葉を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP42・P43の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その１）
【key words】
副詞　很 真

【授業概要】
形容する際の文章（形容詞述語文）について学習し、習得してもらいます。形容詞述語文の大きな特徴として必ず副詞“很”“真”などを付けなければなりません。“是”構文との相違に着目しながら解説していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P46・P47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P46・P47の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　第10課　你身体真棒！（あなたの体は本当にすばらしい　その２）
【key words】
主述述語文　吧

【授業概要】
主述述語文（～は～が～だ、例として象は鼻が長い）と文末の“吧”について学習します。特に“吧”は３種類の使い方があるので注意して学習していきましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P46～P47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p49の単語帳（対義語）を聞き、中国語で対義語を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP46・P47の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　第11課　　您要什么？（あなたは何が欲しいですか　その１）
【key words】
助動詞　要（要には二つの意味があるので気をつけてください）

【授業概要】
助動詞“要”は（～したい）という願望を意味するときと、（欲しい）の意味の場合と二つあります。この差異に注意して学習していきます。
【教科書ページ・参考文献】
P50・P51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P50・P51の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　第11課　　您要什么？？（あなたは何が欲しいですか　その２）
【key words】
金額の数え方

【授業概要】
お金の数え方について学習します。また買い物の際の中国語を身につけましょう。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。
【教科書ページ・参考文献】
P50～P53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p53の単語帳（色）を聞き、中国語で色を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP50・P51の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　第12課　　你打羽毛球打得很好！
【key words】
様態補語　得

【授業概要】
様態補語“得”について学習します。日本語とは言い表し方が異なりますので、差異に着目しながら学習します。
【教科書ページ・参考文献】
P54・P55

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 P54・P55の音声を講義の前に必ず聞いておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第１４回　第12課　你打羽毛球打得很好！ 【key words】 助動詞　会 【授業概要】 助動詞“会”（できる）は学習･練習の結果何らかの技能が「できる」と言う意味を表します。この“会”を使い文章を作ります。練習問題にも取り組み自力で解いてみましょう。 【教科書ページ・参考文献】 P54～P57 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p57の単語帳（動作）を聞き、中国語で動作を答えられるようよく予習をしてください。合わせてP54・P55の音声をもう一度よく聞き、聞き取れるように復習をしてください。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　ドリル　総復習中国語のまとめ 【key words】 復習　外国語を学ぶ意義 【授業概要】 ドリル問題を解き弱点を把握し解決していきます。この時点でしっかりマスターしていれば中国語検定４級のレベルになります。４級は中国語の基礎をマスターしたレベルになります。中国語検定試験４級に挑戦してみるのも面白いと思います。最終回ですので、外国語を学ぶ意義について受講生とともに考えます。 【教科書ページ・参考文献】 P58～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 P58～P62は初歩レベルですので、家で解いてきてください。（即ち宿題を意味します） 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を自身に問いかけながら、積極的に参加すること。 ・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・中国語Ⅰに続けて中国語Ⅱも一緒に履修することが望ましい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	漢字で書かれていても中国語は外国語です。漢字を見て中国語ではどのように発音するのかと意識してみてください。
オフィスアワー	毎週火曜１４時～１６時
評価方法	期末試験７０％　小テスト３０％
教科書	川邉雄大『体育・スポーツ系のための入門中国語』朝日出版社、２０１９年１月
参考書	相原茂他「why？にこたえる　はじめての　中国語の文法書新訂版』同学社、２０１６年１１月　倉石武四郎『中国語五十年』岩波新書、１９７３年１月
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 経済学　　授業コード： S1211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 経済学の基礎を学習していないと、毎日報道される経済関係のニュースに対して自分なりの的確な見解を持つことは難しい。この授業では学生がマクロ経済学の基礎を理解することを目的とする。 【到達目標】 そして毎日起きる経済事象について自分なりの意見を持つことを授業の到達目標とする。
授業の概要	経済学の基礎理論について概観していく。あわせて現実の経済データを用いて、経済の実態についても講義をしていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテ-ション 【key words】 【key words】 経済学 【授業概要】 授業の概要について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第２回	貧困 【key words】 【key words】 相対的貧困、イギリス 【授業概要】 貧困の種類と福祉施策の歴史について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民生活基礎調査」（厚生労働省） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相対的貧困について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第３回	社会保障と経済 【key words】 【key words】

		医療保険制度、アメリカ 【授業概要】 福祉施策と経済学との関わりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「社会保障」（中央法規） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アメリカの医療保険制度について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第４回	経済学とジェンダー 【key words】 【key words】 ジェンダー 【授業概要】 ジェンダーと経済学との関わりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 4頁～7頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ノーベル平和賞受賞者について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第５回	格差 【key words】 ジニ係数 【授業概要】 ジニ係数の解釈の方法について学び、さらに格差拡大の要因とその影響について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 「格差と成長」（OECD） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジニ係数の統計数値を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第６回	GDP 【key words】 ＧＤＰ、三面等価の原則 【授業概要】 ＧＤＰのデータの作成方法、データの読み方について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 「国民経済計算」（内閣府） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「国民経済計算」（内閣府）の統計数値を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第７回	幸福の経済学 【key words】 幸福、相対所得仮説 【授業概要】 相対所得仮説と幸福感の関係について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「幸福の政治経済学」（ダイヤモンド社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸福感に関係する統計を確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第８回	ストック経済学 【key words】 株価 【授業概要】 株価データの見方、キャピタルゲインの計算方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 「入門マクロ経済学」（日本評論社） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本の株価を新聞で確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第９回	経済成長 【key words】 ソロー、労働、資本、技術進歩 【授業概要】

新古典派の経済成長理論について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
経済成長率の統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１０回　教育の経済学
【key words】
認知能力、非認知能力

【授業概要】
認知能力、非認知能力の意味を理解し、仕事の業績との関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「学力の経済学」（ディスカヴァー・トゥエンティワン）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
認知能力、非認知能力について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１１回　福祉と経済学
【key words】
福祉教育

【授業概要】
福祉と経済学との関わりについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
4頁～7頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
明治・大正時代の日本の経済状況について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１２回　国際収支
【key words】
国際収支表

【授業概要】
国際収支表の統計について、具体的な統計数字を用いて学習する。

【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
国際収支表の統計を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１３回　国際金融
【key words】
為替レート

【授業概要】
為替レートの意味を理解し、貿易との関係について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
為替レートの統計数字を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１４回　金融
【key words】
貨幣ストック、金利、貨幣需要
【授業概要】
貨幣ストックの統計、金利・貨幣需要の決定要因について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
「入門マクロ経済学」（日本評論社）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
金融に関係する統計数値を確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
4時間

第１５回　経済学と日本経済
【key words】
経済理論

【授業概要】
経済理論と経済現象の関係について学習する。

【教科書ページ・参考文献】

	21頁～240頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 新聞を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価
教科書	井堀利広「大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる」（KADOKAWA）2015
参考書	中谷巌「入門マクロ経済学」（日本評論社）2007
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： チームケア入門Ⅱ　　授業コード：S1405

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(15)	選択
担当教員			
2学年担任			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 包括的視点で対象者を捉え、多職種による円滑なケアが展開できるための基礎的知識・技術・態度について学び多職種連携のあり方を修得する。具体的な事例検討を通してチームケアの実践につながる演習を行うことができる。 [到達目標] 1) 事例検討を通して、職種毎に課題を明確化し、自らできること、やるべきことを列挙できる。 2) 事例検討を通して、多職種の特徴・連携の必要性・連携上の留意点を理解することができる。 3) 多職種連携・チームケアのあり方・今後の課題に気付くことができる。 4) 多職種連携・チームケアの気付き・課題について継続した取り組みができる。 5) チームメンバーを尊重し主体的・計画的・協力的に取り組むことができる。
授業の概要	保健医療福祉の動向に伴い、多様なニーズを必要とする対象者が増加しており保健医療福祉教育専門職に求められることも多様化している。対象者のケアの目標を達成するためには、多職種間の連携が不可欠となる。IPE (Interprofessional Education occurs)は、2職種間、またはそれ以上の専門職が主体となって、共同とケアの質を改善することを目的とし「共に学び、互いから学び、互いについて学ぶ」という方法をとる。その基本は共に尊重し学び合うという視点である。本学が目指す各専門職教育過程は、どの段階においても複数の職種との相互作用が求められる。IPEの体験は「仲間づくり、主体的学習、自身の考えを相手に伝える」という基本的学習姿勢を培う機会となる。初年次のIPEの体験の導入は、高学年の専門職連携を意図した実習に直接つながり、基礎教育の早期から段階的に積み上げ発展させていくことにより現在の保健医療福祉の変化に多様な対応が可能となる基礎的能力を養う。 保健医療福祉教育職種が連携を取り合うことの意義・必要性と多様なチームケアの在り方について学習する。群馬医療福祉大学の福祉・医療総合大学の特色を生かし、3学部合同チームによる「チームケア教育」を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　チームケア入門Ⅱ-① 【key words】 多職種連携 【授業概要】 科目オリエンテーション、多職種連携、チームケアの考え方、取り巻く背景、リハビリ・福祉職・看護職の役割について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　チームケア入門Ⅱ-② 【key words】

【授業概要】
各グループごとに事例展開に関する調べ学習を行う。(情報交換・共有)
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第３回　チームケア入門Ⅱ-③
【key words】

【授業概要】
事例展開に関する調べ学習・自職種の特徴を踏まえ、事例の問題点・課題点を挙げ、自職種ができることやるべきことをまとめる（学部毎）。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第４回　チームケア入門Ⅱ-④
【key words】

【授業概要】
事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための準備を行う。パワーポイントにて作成。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式3～様式8までを記入
【予習復習に必要な想定時間】
第５回　チームケア入門Ⅱ-⑤
【key words】

【授業概要】
事例について各学部毎に課題（問題点）を明確化し、自分の職種ができることやるべきことを職種ごとに明らかにするための合同会議(3学部小グループ)。報告準備。パワーポイントにて作成。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式9～様式10までを記入
【予習復習に必要な想定時間】
第６回　チームケア入門Ⅱ-⑥
【key words】

【授業概要】
明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第７回　チームケア入門Ⅱ-⑦
【key words】

【授業概要】
明確化した課題（問題点）について自分の職種ができることやるべきことについて全学部で報告（3学部大グループ）、共有する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第８回　その上で、。
【key words】

【授業概要】
事例検討による一連の学習過程を評価・考察する。― チームケア教育への関心・自己の課題に気付き課題を達成するための方法を考えることができるようにする ―
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの様式11～様式13-2までを記入
【予習復習に必要な想定時間】
第９回
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第１０回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	①予習：事前学習課題を整理し、授業時活用する。 ②復習：授業で配布したプリント・資料を読み返す。 [受講のルール] ①積極的に取り組むこと。 ②レポート等の課題について、提出期限を厳守する。 ③授業の学びを必ず記載すること。記載することで表現力を養うものである。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・関連文献、新聞などに関心を持ち情報収集することを期待する。
オフィスアワー	別途指示をする。
評価方法	①グループワークでの取り組み50%　　②ポートフォリオ評価50%
教科書	資料配布
参考書	1. 鷹野和美著：チームケア論　ぱる出版，2008.　2. 小松秀樹：地域包括ケアの課題と未来、ロハス・メディカル、2015
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　現代社会と福祉　　授業コード：S2053

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	必修
担当教員			
稲葉　一洋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・現代社会における社会福祉の意義や理念、福祉政策との関係について理解する 【到達目標】 ・社会福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解できる ・福祉制度の意義や理念、現状や課題について説明できる ・福祉政策におけるニーズと資源について理解できる ・福祉政策の構成要素について説明できる ・相談援助活動と福祉政策との関係について理解できる
授業の概要	現代社会には、生活上の困難を抱える個人及び家族が存在している。 こうした人々の生活上の困難に対して、社会福祉は社会的に緩和や解決を図るために存在している。 この授業では、現代社会の特質と社会福祉・福祉政策の動向を関連づけ、社会福祉の思想・哲学・理論、歴史や政策・制度、支援技術等に関して理解を深めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画

第１回　　オリエンテーション・社会福祉の原理

【key words】
社会福祉　福祉サービス　福祉政策

【授業概要】
・この授業についてのオリエンテーションを行う。
・「社会福祉の原理」とは何かを考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp2-6

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第２回　　社会福祉の原理を問う

【key words】
社会福祉とは何か　時期区分　社会福祉の基礎づけ　社会福祉の正当化

【授業概要】
・社会福祉の原理は、どう問われてきたかを学ぶ。
・社会福祉の原理が問われる理由を考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp6-13

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと

・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第３回　社会福祉の歴史を学ぶ視点

【key words】
歴史　個人と社会　社会福祉の時期区分
【授業概要】
・社会福祉の歴史を学ぶ意義を理解する。
・個人と社会の関係を歴史的視点から学ぶ。
・社会福祉の歴史を「段階論」として理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp16-20
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　欧米の社会福祉の歴史的展開

【key words】
慈善組織協会　セツルメント　リッチモンド　貧困調査　ベヴァリッジ報告　貧困の再発見

【授業概要】
・イギリスの社会福祉史を学ぶ。
・アメリカの社会福祉史を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：22-32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　日本の社会福祉の歴史的展開

【key words】
恤救規則　救護法　福祉三法　福祉六法　人間裁判　日本型福祉社会（論）

【授業概要】
・社会福祉の「萌芽期・生成期」を学ぶ。
・社会福祉の「発展期・成熟前期」を学ぶ。
・社会福祉の「成熟後期・転換期」を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp34-45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　社会福祉の思想・哲学

【key words】
イデオロギー　自由主義　フェミニズム　「自助・互助・共助・公助」

【授業概要】
・自由主義イデオロギーについて学ぶ。
・フェミニズムについて理解する。
・イデオロギーによって社会福祉の見方が異なることを説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp48-59
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　社会福祉の理論

【key words】
パラダイム　社会福祉理論　ティトマス　福祉多元主義

【授業概要】
・戦後日本の社会福祉理論の歴史的展開と特徴を学ぶ。
・海外の社会福祉・福祉政策に関する歴史的展開と特徴を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp60-68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　社会福祉の論点

【key words】
主体論　客体論　公私関係　協働関係　普遍主義　選別主義
【授業概要】
・社会福祉をめぐる論点を形式的に把握することを学ぶ。
・社会福祉の公私関係について理解する。
・福祉政策における普遍主義と選別主義について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp70-78
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第９回　社会福祉の対象とニーズ

【key words】
ニーズ（必要）

【授業概要】
・社会福祉の対象としてのニーズの特徴を理解する。
・ニーズがどのように変化してきたかを理解する。
・社会福祉学におけるニーズの捉え方とその現代的課題を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：80-87
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　現代における社会問題

【key words】
貧困　社会的孤立　社会的排除　社会的包摂　ヴァルネラビリティ

【授業概要】
・現代が抱える社会問題の全体像について学ぶ。
・社会問題の解決策が検討できるようになる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.90-98
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　社会問題の構造的背景

【key words】
人口減少・少子高齢化　世帯構造　脱工業化　価値観の変化

【授業概要】
・社会問題が発生する構造や背景について学ぶ。
・社会問題には複合的要因が関連していることを理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.100-107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　福祉政策とは何か

【key words】
福祉政策　社会福祉政策　社会政策　幸福

【授業概要】
・「狭義の福祉」と「広義の福祉」を理解する。
・福祉と幸福、徳、選好、功績との関係から理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp.110-118
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキキス、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　福祉政策において重要な概念・理念

【key words】
自由　平等　自由主義　新自由主義
【授業概要】
・自由と平等の概念について学ぶ。
・自由主義の思想とその変容について学ぶ。
・新自由主義が福祉政策に与える影響を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp119-130
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　ニーズ（必要）

【key words】
ニーズ　デマンド　行政需要

【授業概要】
・ニーズという言葉の使い方について学ぶ。
・福祉政策におけるニーズをデマンドとの関連で学ぶ。
・公正の原理としての必要原則を貢献原則との関連で学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp134-151

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　資源（リソース）

【key words】
資源　現金給付　現物給付　ベヴァリッジ報告

【授業概要】
・ニーズを充足する資源（リソース）について理解する。
・福祉政策における資源について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp152-163

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　福祉政策の構成要素

【key words】
福祉政策　準市場　福祉多元主義　ローカルガバナンス

【授業概要】
・福祉政策の構成要素を、政策の分野と各分野の目的から理解する。
・資源配分の諸形態を、経済市場、社会市場、準市場と関連づけて理解する。
・政府や事業者、国民が果たす役割について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp166-177

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　福祉政策の過程と評価

【key words】
政策循環　実行可能性　給付　規制　福祉計画

【授業概要】
・福祉政策過程の全体像と各過程を理解する。
・福祉政策の方法・手段、及び評価にかかわる重要概念を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp178-192

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキキス、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　福祉政策と包括的支援の現状　①社会福祉法と一億総活躍社会

【key words】
社会福祉基礎構造改革　自立支援　社会福祉法　一億総活躍社会

【授業概要】
・社会福祉基礎構造改革と社会福祉法について学ぶ。
・「一億総活躍社会」について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp194-201

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　福祉政策と包括的支援の現状　②地域共生社会の実現

【key words】
地域共生社会　多文化共生　持続可能な社会

【授業概要】
・近年の福祉政策の動向について包括的支援の視点から理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp202-213

【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　福祉政策と包括的支援の課題
【key words】
地域共生社会　多文化共生の地域づくり

【授業概要】
・地域共生社会の実現と地域づくりに向けた課題を理解する。
・福祉人材の確保と多文化共生の推進のための課題を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp214-220
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　福祉政策と関連施策　①保健医療政策と教育政策
【key words】
国民皆保険制度　医療ソーシャルワーカー　子どもの貧困　「人間らしい生活」

【授業概要】
・保健医療政策の概要と重要性について学ぶ。
・社会福祉政策における教育政策の役割を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：224-232
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること”
【予習復習に必要な想定時間】
第２２回　福祉政策と関連施策　②住宅政策と労働政策
【key words】
住宅政策　雇用保険　生活困窮者自立支援制度　生活保護

【授業概要】
・住宅政策の内容を福祉国家の社会政策という観点から理解する。
・日本の住宅政策の特徴と近年の変化を学ぶ。
・雇用保険と生活保護、第二のセーフティネットについて学ぶ。
・障害者やひとり親を対象とした就労支援の概要を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp233-244
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】
第２３回　福祉政策と関連策　③災害政策
【key words】
災害対策基本法　災害救助法　被災者生活再建支援法

【授業概要】
・災害の現状及び災害対策の必要性を理解する。
・災害対策関係法律の概要について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp244-251
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること
【予習復習に必要な想定時間】
第２４回　福祉サービスの供給と利用の過程　①福祉供給部門
【key words】
福祉多元主義　ペストフの三角形
【授業概要】
・福祉サービスの供給が多元的な供給主体によって担われていることを理解する。
・各供給主体の特徴について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：：pp254-261
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと
・テキスト、講義内容をノートにまとめること

【予習復習に必要な想定時間】
第２５回　福祉サービスの供給と利用の過程　②福祉供給過程
【key words】
福祉計画　割当　ストリート官僚　市場メカニズム
【授業概要】
・サービス供給過程のメカニズムの全体像を理解する。
・ストリート官僚が果たしている役割と裁量の意味を理解する。

	・市場メカニズム導入がもたらすメリットとデメリットを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp263-270 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　福祉サービスの供給と利用の過程　③福祉利用過程 【key words】 社会権　受給権　成年後見制度　日常生活自立支援事業　アウトリーチ 【授業概要】 ・利用者が福祉サービスを利用する過程を学ぶ。 ・権利保障の視点から福祉サービスの利用過程を理解する。 ・福祉サービスを利用する権利を保障するソーシャルワークの機能を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp272-280 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　福祉政策の国際比較の視点と方法 【key words】 福祉レジーム論　20世紀型福祉政策　21世紀型福祉政策 【授業概要】 ・福祉レジーム論とは何かを理解する。 ・この論から各国の福祉政策が、どのように特徴づけられるかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp. 282-288 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　福祉政策の動向：欧米 【key words】 ワークフェア 【授業概要】 ・近年の欧米諸国における福祉政策の改革と展開を学ぶ。 ・その改革が各国の福祉政策に、どのような変化をもたらしているかを学ぶ・ 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp. 289-294 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　福祉政策の動向：東アジア 【key words】 20世紀型福祉政策　21世紀型福祉政策 【授業概要】 ・近年の東アジア諸国における福祉政策の改革と展開を学ぶ。 ・その改革が各国の福祉政策に、どのような変化をもたらしているかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp296-300 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストの該当ページを事前に読んで授業に臨むこと ・テキスト、講義内容をノートにまとめること 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　１年間のまとめ：これからの社会福祉 【key words】 法律による社会福祉　自発的社会福祉　「地域共生社会」の実現 【授業概要】 ・これからの社会福祉のあり方を考えて「現代社会と福祉」のまとめを行う 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp306-324 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキスト・パワーポイントの全体を見直しておいてください ・テキスト、講義内容のノート全体の総まとめに取り組もう 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・社会科の基礎知識が必要です。中学校・高等学校の歴史分野、公民分野の復習をしておきましょう。

	・授業シラバスを必ず確認しておくこと。 ・授業の予習・復習は、必ず行い、積極的な態度で授業に臨むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	・テキストをしっかり予習・復習しましょう。 ・意味の解らない言葉・用語は、調べておきましょう。
オフィスアワー	・対面授業終了後の30分間
評価方法	・小レポート・参加度　　30% ・筆記試験（実施できない場合はレポート）70%
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉の原理と政策』中央法規出版　2021
参考書	必要に応じて適宜指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害者に対する支援と障害者自立支援制度　　授業コード：S2083

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	必修
担当教員			
松永　尚樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握し、障害者福祉制度の発展過程を学んだうえで、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度を理解する。 【到達目標】 ①障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要を把握するために必要な統計調査を読み取ることができる。 ②障害者福祉制度の発展過程を理解し、現行の法制度までの流れを説明することができる。 ③専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるようになる。
授業の概要	この授業では、障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や障害者福祉制度の発展過程について学び、障害者総合支援法の内容を理解するとともに、障害児者にかかる福祉制度を学修する。 　障害児者の支援の過程において、障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度からニーズにそったサービスを考え、専門職として必要な障害者総合支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度の概要を実践において想定できるように授業を展開する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション（講義の進め方、評価、リアクションペーパーや小テストの提出方法等） 【key words】 オリエンテーション／講義の進め方 【授業概要】 ①シラバスの確認 ②履修上の注意 ③コメントカードについて ④定期試験について ⑤教科書について ⑥予習・復習について 【教科書ページ・参考文献】 シラバス 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第２回	障害の概念と理念≪レジュメ①≫ 【key words】 障害の概念／ICF／統合モデル 【授業概要】 ①障害の概念と理念 ②障害者の人権保障と福祉の理念

【教科書ページ・参考文献】
教科書p26～p30／p2～p14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第３回　障害者の生活実態とニーズ≪レジュメ②≫

【key words】
障害者人口の現状／手帳取得状況／生活実態・ニーズ／基本指針
【授業概要】
①障害者人口からみた課題
②障害種別にみる定義と生活実態・ニーズ
③障害者問題とニーズ
【教科書ページ・参考文献】
教科書p15～p25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。　次回からは小六法を使用するので持参すること。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第４回　障害者福祉制度の発展過程（障害者権利保障の歴史を含む）≪レジュメ③≫

【key words】
国連・障害者権利条約／国際障害者年／障害者権利条約／日本の障害者施策の歴史
【授業概要】
①国連・障害者権利条約
②日本における障害者福祉のあゆみ

【教科書ページ・参考文献】
教科書p2～p14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した、条約や法律は小六法を再度見ておくこと。
※小テスト実施予定
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第５回　障害者福祉の法（障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法）

【key words】
障害者基本法／身体障害者福祉法／知的障害者福祉法／精神保健福祉法
【授業概要】
①障害者基本法と障害者福祉の法体系
②対象別の法
【教科書ページ・参考文献】
教科書p32～p89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した、法律は小六法を再度見ておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第６回　障害者福祉の法（発達障害者福祉法、医療観察法、難病法、障害者虐待防止法、障害者差別解消推進法、その他）

【key words】
発達障害者支援法／児童福祉法／子ども・子育て支援法／医療観察法／難病法／障害者虐待防止法
【授業概要】
①対象別の法
②差別の禁止、差別是正措置の法

【教科書ページ・参考文献】
教科書p32～p89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
障害者総合支援法のサービス利用説明パンフレットを熟読すること。（全国社会福祉協議会）
【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

第７回　障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　経緯・理念・考え方）

【key words】
障害者総合支援法の経緯・理念・考え方
【授業概要】
①障害者総合支援法までの経緯
②障害者総合支援法の概要

【教科書ページ・参考文献】
教科書p102～p167
【課題・予習・復習・授業準備指示】
キーワードを事前に調べておくこと。
本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）

	第８回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　サービス内容・支給決定のプロセス） 【key words】 介護給付の種類／訓練等給付の種類／障害福祉サービスの支給決定／障害支援区分／利用者負担 【授業概要】 ①介護給付と訓練等給付 ②障害福祉サービスの支給決定、障害支援区分、利用者負担 【教科書ページ・参考文献】 教科書p102～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 サービス内容・支給決定のプロセスは覚えよう。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第９回	障害者の福祉サービス（障害者総合支援法と障害者支援　自立支援医療・審査請求） 【key words】 自立支援医療／補装具／相談支援／地域生活支援事業／苦情解決／審査請求／他法との適用関係 【授業概要】 ①自立支援医療 ②補装具 ③相談支援 ④地域生活支援事業 ⑤苦情解決と審査請求 ⑥障害者総合支援法と他法との適用関係 【教科書ページ・参考文献】 教科書p102～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１０回	障害者の所得保障（障害者雇用促進法を含む） 【key words】 障害者の就労実態／障害者雇用促進法／障害者優先調達推進法／ハローワーク等における支援／障害者職業センター／学校卒業後の進路保障 【授業概要】 ①障害者の就労実態 ②労働保障の制度 ③福祉と労働の統一的保障 【教科書ページ・参考文献】 教科書p187～p192 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。 キーワードを事前に調べておくこと。 本日確認した法律は小六法を再度見ておくこと。 ※小テスト実施予定 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１１回	障害者の社会生活参加 【key words】 【授業概要】 ①障害者の低所得性と所得保障の課題 ②所得保障、経済的負担軽減の制度 障害基礎年金／障害厚生年金／特別障害給付金／特別児童扶養手当法／特別児童扶養手当／障害児福祉手当／特別障害者手当／経過的福祉手当／労働者災害補償保険法／生活保護法／税制による負担軽減措置／各種の負担軽減措置 【教科書ページ・参考文献】 教科書p76～p89 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 2.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。）
	第１２回	障害福祉の整備計画と障害者運動 【key words】 【授業概要】 ①障害者の社会参加実態とニーズ ②市民の障害理解と差別・偏見の実態とニーズ ③バリアフリー環境の整備 障害者の社会参加実態とニーズ／国連・障害者権利条約における社会参加の理念／障害者の社会参加における制度上の課題／情報アクセシビリティ／ユニバーサルデザイン／差別禁止と偏見／バリアフリー／バリアフリー新法 【教科書ページ・参考文献】 レジュメ　参照 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。

	【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１３回　専門職の役割と実際（相談支援事業所の内容を含む） 【key words】 障害児支援／児童の権利に関する条約／障害者の権利に関する条約／母子保健法／障害児の福祉サービス／障害児福祉計画／児童福祉法／特別支援教育 【授業概要】 ①子ども期の特徴と障害児支援 ②2つの権利条約と障害児支援 ③障害の早期発見と早期対応 ④障害児の福祉サービス 【教科書ページ・参考文献】 教科書p154～p167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１４回　多職種連携とネットワーキング 【key words】 障害者参加／障害福祉サービス利用における国、事業者の責務／障害者運動／生活のしづらさなどに関する調査／国・地方公共団体の役割／障害者基本計画／障害福祉計画 【授業概要】 ①障害者・関係団体の法参加、整備計画参加 ②障害者総合支援法等の国・自治体の役割と障害者参加 ③障害者基本法の障害者計画と障害者総合支援法の障害福祉計画 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本日配布【次回の資料】のレジュメを見てわからない語句は下線を引いておくこと。キーワードを事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間を含める。） 第１５回　まとめ（事例検討） 【key words】 まとめ 【授業概要】 ①まとめ ②授業の振り返り ③グループワークによる全体の総括 【教科書ページ・参考文献】 教科書全体 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストに向けた学習を進めること。 【予習復習に必要な想定時間】 1.5時間（コメントカード及びwebのによる小テストの時間、グループワークの準備時間等もを含める。）
受講生に関わる情報および受講のルール	授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁。 授業開始時（単元の最初）にプリントを配布する場合がある。休んだ場合は、原則、友達等にプリントをもらってもらうこと。 単元の終わりに小テストを実施する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード（web）
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士及び精神保健福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。障害児者に関する事柄について、幅広い内容を学習するため、教科書及び配布プリント等を利用し予習、復習すること。
オフィスアワー	火曜　10時～12時／金曜日　10時30分～12時　それ以外の時間帯については、アポイントを取ってもらいたい。
評価方法	定期試験50%、小テスト20%、リアクションペーパー30% ※定期試験が60点を満たない場合は再試とする。
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編 最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座８ 『障害者福祉』（最新版）
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　（株）みらい（最新版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 授業コード：S2092

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	４単位(60)	必修
担当教員			
義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童福祉の現状と課題を理解し、支援のあり方や福祉制度を学ぶことにより、社会福祉業務に必要な知識等を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①現代の児童福祉の現状と課題、児童福祉の理念、児童福祉の関係法令・実施体制・専門職・権利擁護が理解できる。 ②社会福祉士や児童指導員等有資格者として必要な児童福祉の基本的な知識を修得できる。
授業の概要	教科書により、子育ての現状と課題、次世代育成支援策、児童福祉ニーズ、権利保障、児童福祉の法体系、障害児、児童の健全育成、子育て支援、社会的養護児童、非行児童、被虐待児等の現状支援策について講義を行う。 また、子どもの権利保障にとって児童福祉の果たす役割について考察を重ねる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	○
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 社会福祉　貧困　自己責任 【授業概要】 ＜授業概要＞ 授業の受け方、予習復習、評価の方法などを説明 社会福祉とは何かを考えながら、児童福祉を学ぶ意味について考える 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書、六法を読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	現代社会と子ども① 【key words】 ＜key words＞ 子どもの貧困 える。 【授業概要】 ＜授業概要＞ 子どもの貧困の実態について考える

【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３回　現代社会と子ども②
【key words】
＜key words＞
子どもの定義　子どもを取り巻く現実

【授業概要】
＜授業概要＞
現代社会に生きる子どもと家族を取り巻く状況を概観する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ13～27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　子ども福祉の歴史
【key words】
＜key words＞
児童労働　セツルメント　子どもの権利の誕生

【授業概要】
＜授業概要＞
前近代から近代の子どもの実態を見ていくなかで、どのようにして子どもの権利が誕生していったのかを考える
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ28～47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　子どもの権利と福祉
【key words】
＜key words＞
保護の対象から権利の主体へ

【授業概要】
＜授業概要＞
子どもの権利向上の流れが、子どもを保護するだけのものから権利主体へと発展してきたことを学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ51～67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　子どもを守るしくみ
【key words】
＜key words＞
子ども家庭福祉の法体制　行財政　実施体制

【授業概要】
＜授業概要＞
子どもを守るしくみとしての主要な法律や行財政のしくみ、施設の概要について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ68～85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　子ども家庭福祉に関する法律①
【key words】
＜key words＞
法体系　基本的な法律

【授業概要】
＜授業概要＞
児童福祉法について詳しく学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

＜教科書＞
八重樫他の教科書ｐ27～33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第８回　子ども家庭福祉に関する法律②
【key words】
直接支える法律
【授業概要】
子ども家庭福祉を直接支えている諸法律について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
八重樫他の教科書ｐ34～41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第９回　子ども家庭福祉に関する法律③
【key words】
＜key words＞
手当　少子化対策

【授業概要】
＜授業概要＞
各種手当に関する法律や少子化対策関連法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
八重樫他の教科書ｐ42～47
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１０回　生命倫理と母子保健
【key words】
＜key words＞
母子保健　優生政策

【授業概要】
＜授業概要＞
母子保健について学ぶと同時に、生命倫理について考え優生思想に対して批判的な思考を養う
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ86～96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　少子化対策と子育て支援
【key words】
少子高齢化
【授業概要】
少子高齢化社会の子育ての現状について理解し、少子化対策としての子育て支援について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
垣内国光他の教科書ｐ97～112
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１２回　現代における保育とは
【key words】
＜key words＞
子育て家庭の減少　社会福祉における保育

【授業概要】
＜授業概要＞
子育て環境が大きく変化しているなかで、社会福祉としての保育の役割について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ113～125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１３回　学齢期の子どもの教育と福祉
【key words】
＜key words＞
学齢期　児童健全育成事業

【授業概要】
＜授業概要＞
学齢期の子どもの遊び・学習権・福祉と教育の協働の視点から、今日学齢期に求められている福祉的課題を学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ126～140
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１４回　障害と子ども・家族
【key words】
＜key words＞
障害　医療　特別支援教育

【授業概要】
＜授業概要＞
障害とは何かについて学ぶと同時に、どのようなサービスがあり、支援が求められているか考える
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ141～158
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１５回　子ども虐待
【key words】
＜key words＞
虐待の定義　介入　予防

【授業概要】
＜授業概要＞
虐待の定義を学び、また現状を把握する。また、介入のあり方や予防について考察していく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ159～175
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１６回　社会的養護
【key words】
＜key words＞
基本理念と原理

【授業概要】
＜授業概要＞
社会的養護の基本理念と原理を学び、今後の課題について考えていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ176～192
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１７回　子ども家庭福祉の実施体制①
【key words】
国　都道府県　市町村
【授業概要】
国や都道府県、市町村の役割と行政のしくみと機関について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
八重樫他の教科書ｐ49～80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１８回　子ども家庭福祉の実施体制②
【key words】
＜key words＞
施設　専門職

【授業概要】
＜授業概要＞
児童養護施設の種類と目的、設置と運営、専門職員について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
八重樫他の教科書ｐ81～92
【課題・予習・復習・授業準備指示】

		前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第１９回	子ども家庭福祉の実施体制③ 【key words】 ＜key words＞ 権利擁護　財源 【授業概要】 ＜授業概要＞ 子ども家庭福祉サービスにおける権利擁護と財源について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 八重樫他の教科書ｐ93～101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２０回	子ども・家族の貧困 【key words】 貧困　世代的再生産　子どもの貧困対策の推進に関する法律 【授業概要】 貧困のなかに暮らす子どもの実態を捉え、現在どのような支援が行われ、課題があるのか考える 【教科書ページ・参考文献】 垣内国光他の教科書ｐ193～207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２１回	ひとり親家庭の福祉 【key words】 ＜key words＞ ひとり親家庭　養育費 【授業概要】 ＜授業概要＞ ひとり親家庭の現状を把握し、どのような支援策があり、課題は何かを考える 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 垣内国光他の教科書ｐ208～224 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２２回	非行少年の背景と支援 【key words】 ＜key words＞ 少年犯罪　非行 【授業概要】 ＜授業概要＞ 非行少年の定義を学び、実際の状況を把握する。そして、非行から立ち直るためには社会福祉にどのような役割があるのかを考える 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 垣内国光他の教科書ｐ225～238 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２３回	いじめ・不登校・登校拒否 【key words】 いじめ　不登校　スクールソーシャルワーカー 【授業概要】 いじめや不登校の現状を把握し、学校現場における福祉的課題にどのようにこたえていけばいいのかを考える 【教科書ページ・参考文献】 八重樫他の教科書ｐ219～226 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２４回	ひきこもりと若者支援 【key words】 ＜key words＞ ひきこもり 【授業概要】

＜授業概要＞
ひきこもりの現状を把握し、支援の谷間にある若者支援のあり方について考える
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ239～250
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２５回　女性と福祉
【key words】
婦人保護事業　DV
【授業概要】
女性福祉の実態と女性が置かれている社会的実態を把握し、支援のあり方を考える
【教科書ページ・参考文献】
垣内国光他の教科書ｐ251～267
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２６回　児童福祉法の理念と児童憲章、子どもの権利条約
【key words】
＜key words＞
児童福祉法　児童憲章　子どもの権利条約（児童の権利に関する条約）

【授業概要】
＜授業概要＞
子どもの権利保障にかかわる法体系や憲章について、子どもの実態から今一度考察を試みる
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２７回　子どもの発達保障と子ども家庭福祉
【key words】
発達保障
【授業概要】
子どもが健やかに発達するためには、子ども家庭福祉にある課題は何かを考える
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
垣内国光他の教科書ｐ268～287を予習
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２８回　子ども家庭福祉の担い手
【key words】
＜key words＞
担い手　専門職

【授業概要】
＜授業概要＞
子ども家庭福祉の担い手と専門職に就いて学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
垣内国光他の教科書ｐ268～287
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第２９回　子ども家庭福祉専門職の専門性
【key words】
＜key words＞
専門性

【授業概要】
＜授業概要＞
子ども家庭福祉のソーシャルワークの専門性について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３０回　まとめ
【key words】
まとめ

	質疑応答 【授業概要】 子どもの権利保障の視点から、子ども家庭福祉のあり方について今一度考えてみる 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・常日頃の子どもにかかわる事件やニュースをよくつかんでおくこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・授業内容を基盤にして、自己学習につなげていくこと ・その他、授業のなかで伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み等　２０％
教科書	八重樫牧子、原葉子責任編集『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』弘文堂 垣内国光、岩田美香、板倉香子、新藤こずえ編『子ども家庭福祉』生活書院
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 スクールソーシャルワーカー アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助の理論と方法Ⅰ　　授業コード：S2114

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1)クライエントとその社会生活環境の関係性の何に社会福祉士が関わりをもつのかを説明できる。2)社会福祉士が認識し呼応すべきクライエントのニーズの種類を述べることができる。3)クライエント-社会福祉士援助関係の構造形成とその質について説明できる。4)ケースの発見から支援終結までの支援展開過程の各段階を経時的に述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動におけるアウトリーチの意義と必要性を説明できる。2) クライエント-社会福祉士関係の根底にある「契約」「面接」「介入」の特性を説明できる。3) 相談援助活動でのアセスメントとモニタリングの着目点を具体的に述べることができる。4) 相談援助活動記録の方法と活用について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1)相談援助活動を構成する複数の要素とその関係構造を解説したのち、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築について理解します。3)実際はつなぎ目なく連続している相談援助活動の展開過程を、段階的に追いながら、その各々の目的や意義について説明します。 (16～30) 1) 来談対応と対をなすアウトリーチによるクライエントへの接近について解説を追加し、2)クライエント-社会福祉士間援助関係の構築に欠かせない「契約」「介入」「面接」の意義を理解します。3)連続している相談援助活動展開上、目的に応じた修正を適宜図るために併行させる経過観察の実際について学び、支援の有効性・効果性の意識も高めます。4) 個人情報保護と職業倫理を基礎に、活用できる記録のあり方を説明します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　現代社会の諸相と福祉ニーズに対応する社会福祉士 【key words】 福祉ニーズ　ウェルビーイング　QOL　クライエント　ソーシャルワーカー 【授業概要】 クライエントという人とその社会生活という環境の双方とその相互関係に関わりをもつことになる、ソーシャルワーカーとソーシャルワークの全体像・構成要素を概観します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－25。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントを支援するためにソーシャルワーカーが自分自身をどのように準備しておくのかを理解しましょう。
	第２回	クライエント-環境-社会資源-社会福祉士

【key words】
相互作用過程/関係　ストレングス/エンパワメント　介入　社会資源活用　ソーシャルワーカーの役割/機能
【授業概要】
社会生活上の問題から導き出されるクライエントのニーズの階層性と、それに対応するソーシャルワーカーの役割・機能を整理します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp27－51。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

その場面や課題に応じて担うソーシャルワーカーの役割・機能は複合的です。クライエントの生活全体を見すえる観点を理解しましょう。

第３回　人と環境の相互作用をシステムとして理解する
【key words】
システム理論　相互作用　援助関係
【授業概要】
人の生活の全体を理解する際に有用なシステム論の考え方を学び、関係要因が相互作用する中でソーシャルワーカーがクライエントと援助関係を形成する意義にふれます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp53－77。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

システム論モデルについては抽象的な印象をもつかもしれませんが、本来多面的な社会生活をありのまま理解していくのに重要な視点群を用意してくれます。

第４回　相談援助の構造
【key words】
援助関係　援助構造　よい関係　自己覚知

【授業概要】
相談援助を進めるのにあたって、ソーシャルワーカーがクライエントにとってどのような位置関係にいる必要があるのか、について考えます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp78－90。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントへ関わることと同時並行してソーシャルワーカーが自分自身を観察する意識を養いましょう。

第５回　相談援助の展開過程 1　ケース発見
【key words】
相談援助の過程　相談援助の構造　ケース発見　ラポール形成　不安の除去

【授業概要】
相談援助の展開過程について、その目的と対象を整理し、各段階の概要とそれを支える基本概念を理解します。それをふまえて、クライエントをケースとして見出す際の留意点を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp91－102。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ソーシャルワーカーとの出会いの段階でクライエントがもっている心理社会的特性を理解しましょう。

第６回　相談援助の展開過程 2　受理面接
【key words】
主訴　傾聴　個別化　問題の要点　緊急度

【授業概要】
クライエントの主訴を理解し、ソーシャルワーカーが具体的に担える役割・機能を提示し、支援契約を結ぶ確認をする段階の意義を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp103－107。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

主訴をより理解するためには、人－環境に関する情報が必須で、次回のテーマとなります。

第７回　相談援助の展開過程 3　問題の把握とニーズの確定
【key words】
ニーズ確定　人と環境の相互作用　アセスメント

【授業概要】
主訴を分析して問題の本質を理解し、具体的な支援のテーマであるニーズとして確認していくステップをたどります。その際、クライエントの現状を評価・把握する際に必須となる、人－環境に関する情報を多次元的に整理することも学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp108－117。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

人－環境に関する情報群を分析的かつ総合的に整理し、クライエントの全体像を理解する視点を理解しましょう。

第８回　相談援助の展開過程 4　評価から目標設定へ

【key words】
評価結果　目標設定　ニーズ　実現性　リスクの把握

【授業概要】
クライエントの生活問題の何をどのように判断して、支援の目標を設定するのかを具体的に学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp118－126。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

現時点で あるいは 今後 予測されるリスクについての意識と管理も、同時に考えていくことになります。

第９回　相談援助の展開過程 5　支援計画の立案と実施

【key words】
援助計画　介護計画　ソーシャルワーク理論　支援チーム　ケース会議

【授業概要】
クライエントと生活問題の双方を全体的に理解する多視点＝多様な理論的視野の概要を理解し、明確化された目標に向けての援助計画の立案と介護計画の検討について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp123－130。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

社会資源の単なる提供ではなく、クライエントおよび家族の能力の活用を促す支援の具体化が基本です。

第１０回　相談援助の展開過程 6　経過観察

【key words】
経過観察（モニタリング）　生活課題への取組状況の把握　新しい問題　状況の変化　記録

【授業概要】
計画にもとづく支援の提供が実際「的確に」進んでいるかを把握し、必要に応じて支援の修正などへつなげていく、経過観察（モニタリング）の内容を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp131－135。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援に伴われた生活の開始時点は、クライエントが戸惑いを覚えやすい時期でもあります。その心理社会的状態を理解しましょう。

第１１回　相談援助の展開過程 7　再評価

【key words】
再評価（再アセスメント）　支援の見直し　支援の強化　生活の継続　潜在的ニーズ

【授業概要】
経過観察よって確認されたクライエントの状況変化や新たなニーズについて、再度評価し、支援計画の調整を図ることを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp136－139。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援開始後に、よりきめ細やかな問題対応などが具体化してくる場合があります。支援の修正や目標の再設定は、クライエントの生活の継続性を支持するものです。

第１２回　相談援助の展開過程 8　支援終結

【key words】
支援の終結　分離不安　依存　自立

【授業概要】
支援は永久に続くものではなく、クライエントの自立性が確認されて一段落するものであることを理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp140－142。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

後任者に引き継ぐような場合も、ひとつの終結といえます。その準備についても、この機会に具体的に考えてみましょう。

第１３回　相談援助の展開過程 9　支援の効果測定

【key words】
支援計画の妥当性　支援の効果性　評価　アカウンタビリティ　エビデンス・ベースド・プラクティス
【授業概要】
支援の終結にあわせて行なう、計画の的確性、支援の効果性、クライエントが築いてきた力 の評価をすることについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp141－144。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援の過程を振り返るためには、記録を適切に残していくことが必須です。

第１４回　相談援助の展開過程10　地域支援
【key words】
地域ニーズ　地域資源の課題　予防的対応　サービス開発

【授業概要】
複数の個別的支援によって集約しうる地域ニーズを把握するとともに、問題の深刻化を回避するための予防的視点やサービス開発のためのソーシャルアクションを学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp144－148。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

個別的支援とともに地域社会へ目を向けることの意義を理解しましょう。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方学び始めました。十分に復習をして、Ｉ後期ひいては次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。

第１６回　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
―
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
―
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助の過程を実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　地域福祉とアウトリーチ
【key words】
アウトリーチ　インボランタリー・クライエント　社会的不適応　ケース発見　ニーズの掘り起こし
【授業概要】
アウトリーチを必要としている人たち、アウトリーチの機能と方法、アウトリーチを実践する際の留意点について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ149－159。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アウトリーチは、ソーシャルワーク実践上、来談対応と対をなす重要なクライエント接近方法です。

第１８回　相談援助活動における契約
【key words】
契約　合意形成　対等関係　目標設定　支援方法　目標達成

【授業概要】
相談援助過程の基本原則である クライエントとソーシャルワーカー間の各種合意とその総体の契約について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書ｐｐ161－173。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援においては、クライエントとの対等性やクライエントの自己決定を実現することが中核であり、そのために契約は重要な基盤です。

第１９回　相談援助活動におけるアセスメント１　問題の多面的統合的とらえ方
【key words】
アセスメント特性　援助関係　バイステックの7原則　自己覚知　面接における言語反応

【授業概要】
ソーシャルワークにおけるアセスメントの特性を理解し、クライエントがかかえた問題を多面的統合的にとらえるための面接構成の方法や援助関係の形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp175－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

面接では、基本的な知識、観察力、感受性、コミュニケーション力が実践的に求められてきます。特に、ソーシャルワーカーのクライエントに向けた言語反応は、具体的に理解して下さい。

第２０回　相談援助活動におけるアセスメント２　得るべき情報項目と情報理解のための視覚化の手法

【key words】
統合的アセスメント　守秘義務　共感性と想像力　情報の分析と統合　エコマップ　ジェノグラム
【授業概要】
渡部（1999）をよりどころに、ジェネラリストソーシャルワーカーにおける統合的アセスメントの着目点16項目を学び、得られた情報群を視覚的に整理する方法を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－194。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントをとりまくさまざまな環境がかかわって問題がつくり出されることが多いので、背景情報の関係性をどのように整理するかについて注目しましょう。

第２１回　相談援助活動におけるアセスメント 3　得た情報の整理と活用
【key words】
情報の組織化　情報の関連性　情報の解釈と類推　情報の要約　ライフサイクル論

【授業概要】
アセスメント面接で得た情報を統合化し支援に利用するために必要な知識、想像力、分析・解析力、統合・要約についてまとめます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp195－198。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

アセスメント力を高めるためには、ひとと社会を理解する目的のさまざまな分野の知見を学んでいく必要があります。ソーシャルワーカーとしての自己研鑽を意識しましょう。

第２２回　支援介入の意義と方法
【key words】
全体論的認識　直接的介入　間接的介入　介入の戦略　クリティカル・シンカー

【授業概要】
ミクロからマクロに至る広範囲なレベルにおけるソーシャルワーク介入の意義とその方法について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp199－215。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援介入を適切に行なうために、エビデンス・ベースドの考え方を十分理解しましょう。

第２３回　経過観察（モニタリング）　1 対象　方法・手順
【key words】
インプリメンテーション　モニタリング　対象者の明確化　モニタリングのスケジュールと手続き
【授業概要】
支援計画の実施（インプリメンテーション）に付帯する支援進捗の観察（モニタリング）の意義と具体的な手続きを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp217－226。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

支援目標に向かって、関係支援者間でのリアルタイムな情報共有や役割修正・強化を図る主旨・根拠を理解しましょう。

第２４回　経過観察（モニタリング）　2 状況分析から再アセスメントへ
【key words】
進捗状況の把握　ソーシャルワーカーの態度　クライエントの問題解決能力　再アセスメント　支援計画の修正
【授業概要】
モニタリングによって把握した多面的な情報の再統合とそれにもとづく支援計画の的確な修正について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp226－232。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

モニタリングの結果は、短期目標ごとに時系列的にまとめていくことが、多岐にわたる問題の整理につながります。

第２５回　相談援助活動の効果性の検証
【key words】
効果測定　実験計画法　プロセス評価　アウトカム評価　サービス開発

【授業概要】
支援実行が支援目標にかかわってどのように有効であったかを検証し、社会資源提供とニーズ充足の因果関係について考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp233－242。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントの人権がかかわるために、全て数理科学的に効果測定が実施できるわけではないですが、支援活動の根拠をもとうとすることは重要です。

	第２６回　相談援助活動における面接 【key words】 面接の目的　焦点づけ・方向づけ　関与しながら待つ　構造化面接　非構造化面接 【授業概要】 支援の中核である面接の構造的特性を理解し、そこでのコミュニケーション展開について留意点をまとめます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp243－262。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 何のための面接か、今日のこの面接は次の何につながるのか、支援全体におけるその面接の意味をよく理解しましょう。 第２７回　記録をすること 1　意義と目的および種類 【key words】 記録業務　記録の活用目的　記録の種類 【授業概要】 最も基本となるケース記録・面接記録だけでなく、カンファレンス資料を含め、ケースワークに付帯して多様な記録業務がある認識と、記録は活用されて意味をもつという考え方を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp263－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目にするかもしれない他者を意識して、適切な情報内容や表現で都度記載することが重要です。 第２８回　記録をすること 2　記録業務のIT化と倫理的配慮 【key words】 記録の形式　記録のIT化　個人情報の保護　個人情報の利用・共有　倫理 【授業概要】 記録の形式について概観した後、記録のIT化にともなってより一層注意を払うべき個人情報の保護と利用にかかる倫理を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp278－287。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 クライエントの個人情報を十分保護するとともに、関係支援者とその個人情報を共有することは、一件相反しますが、倫理観を持って工夫を考えることにより、支援に結びつけることができます。 第２９回　交渉と支援チーム連携 【key words】 多様で複雑な問題　多職種支援チーム　交渉・調整　エンパワメント　プレゼンテーション 【授業概要】 支援にかかわる多職種混成チームの連携のあり方と、クライエントの多様なニーズに呼応する支援を目的とした交渉の技術について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp289－309。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 面接も交渉も目的的なコミュニケーションの技術が必要です。支援チームが機能するためにも、チームメンバーが相互理解を意識し、意見交流を図らなければなりません。 第３０回　相談援助の理論と方法Ⅰのまとめ 【key words】 ― 【授業概要】 後期学習内容を振り返るとともに、次年度Ⅱへの接続を図ります。 【教科書ページ・参考文献】 ― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談援助の理論的方法論的な考え方を1年間学びました。十分に復習をして、次年度Ⅱへ学習をつなげていきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。

	★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　相談援助の理論と方法Ⅰ　新・社会福祉士養成講座7　中央法規2016年
参考書	授業中に適宜紹介・提示します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、大学病院等 において 当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習指導Ⅰ　　授業コード：S2151　S2152　S2153　S2154　S2155

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・安留　孝子・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ① 相談援助実習の意義について理解する。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際的に理解し実践的な技術等を体得する。 ③ 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 【到達目標】 ①相談援助実習の意義、社会福祉士の役割や専門性について表現できる。 ②実習先施設・機関についての概要を伝えることができる。 ③相談援助実習履修試験に合格できる水準の知識及び技術を身につけている。 ④自己理解、自己覚知を行い、自分自身の実習先を選択できる。
授業の概要	相談援助実習の意義と目的、社会福祉士として必要な福祉倫理、相談援助実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についてグループによる調べ学習・発表を中心に授業を進める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業方法及び留意事項　相談援助実習資格試験について 【key words】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックを購入し読んでおく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	相談援助実習の意義と目的の理解 【key words】 実習前学習　相談援助実習の意義 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉実習を行う意義や目的と目標としている社会福祉士について考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】

		30分
	第３回	社会福祉士に期待される役割と専門性の理解（社会福祉士に求められる職業倫理） 【key words】 実習教育の流れ　倫理綱領　行動規範 【授業概要】 実習へのガイドブックを使用し、実習の意義と目的や実習教育の流れを解説する。相談援助実習の留意事項を解説する。社会福祉士の倫理綱領を読み、社会福祉士が守らなければならないことを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士の倫理綱領と行動規範を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	実習先機関・施設の理解（行政機関） 【key words】 実習が行なえる施設・機関　実習前学習 【授業概要】 事前学習の課題を整理し、事前学習のグループ分けを行い、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉の行政機関の業務内容、関係法令を調べ、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	実習先機関・施設の理解（行政機関） 【key words】 福祉事務所　児童相談所 【授業概要】 行政関係施設①福祉事務所、②児童相談所に関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉協議会、地域包括支援センターの業務内容、関係法令をまとめ、疑問点や不明点を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	実習先機関・施設の理解（社会福祉協議会、地域包括支援センター） 【key words】 社会福祉協議会　地域包括支援センター 【授業概要】 市町村社会福祉協議会、地域包括支援センターに関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者施設の種別と業務内容、関係法令・制度について調べ、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	実習先機関・施設の理解（高齢者施設） 【key words】 高齢者者施設・事業 【授業概要】 高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要等調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。 事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	実習先機関・施設の理解（高齢者施設） 【key words】 高齢者関係施設 【授業概要】 高齢者関係施設（①特別養護老人ホーム、②養護老人ホーム、③介護老人保健施設、④デイサービスセンター（ショートステイ）、⑤グループホーム（地域密着型施設）、）に関する概要、グループ学習で調べた内容を発表し、質問を受け理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童福祉施設の種別と業務内容、関係法令、制度について調べ、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	実習先機関・施設の理解（児童福祉施設） 【key words】

		児童福祉施設 【授業概要】 児童福祉施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習の課題を整理し、グループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童福祉施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	実習先機関・施設の理解（児童福祉施設） 【key words】 児童福祉施設 【授業概要】 児童関係施設（①児童養護施設、②母子生活支援施設、③障害児入所施設、④児童発達支援センター、⑤情緒障害児短期治療施設、⑥児童自立支援施設）に関する事前学習内容の発表を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害者関係施設の種別と業務内容、関係法令、制度について調べ、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設） 【key words】 障害者施設・事業 【授業概要】 事前学習の課題を整理し、障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループ学習を行い発表の準備を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット　障害者総合支援法 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害者関係施設についての疑問点や不明点を明確にしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設、医療福祉関連施設） 【key words】 障害者施設・事業 【授業概要】 障害者関係施設・事業（①障害者支援施設、②就労継続・就労移行事業、③障害者地域活動支援センター、④相談支援事業・障害者就業・生活支援センター、⑤独立行政法人　国立重度知的障害者総合施設のぞみの園、⑥群馬県立障害者リハビリテーションセンター）のグループで調べた内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　施設HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 病院(MSW)や更正保護施設について調べて、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１３回	実習先機関・施設の理解（その他の機関・施設） 【key words】 病院　更正保護　独立社会福祉士 【授業概要】 病院、更生保護施設、独立型社会福祉士に関するグループ学習の内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック　HP パンフレット 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで調べた内容と発表を振り返り、実習先希望調査を記入してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１４回	事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出） 【key words】 事前学習　関係法令・制度　社会資源 【授業概要】 社会福祉援助実習を行なうまでに事前学習をしておく必要性を理解する。 事前学習の内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前学習の意義と目的についてまとめ、学習方法を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１５回	実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題）　相談援助実習資格試験 【key words】 実習までの流れ 【授業概要】 社会福祉援助実習を行なうまでの流れについて理解する。

	実習開始までに準備をしておく内容について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉相談援助実習の意義、目的についてもう一度考え、実習への考えについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物の期限内提出が行われない場合は単位取得ができないこと。 ③欠席、遅刻をする場合は、授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断遅刻・無断欠席をした場合は社会福祉士実習委員会で対応を協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習先機関・施設の理解のために調べ学習をグループ等で行うことがある。グループで連携・協力し課題に取り組むこと。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	相談援助実習資格履修試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況 及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助演習Ⅱ　　授業コード：S2191　S2192　S2193　S2195　S2196

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・児童福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・安留　孝子・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助演習Ⅰでの学びを踏まえたうえで、ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法の習得を主たる目標とする。 ②本演習によって、他科目との関連性を視野に入れた、ソーシャルワークの展開過程を考慮した事例検討を行い、次年度の相談援助実習に向けた知識・技術・感性・考え方等を基本を養う。 【到達目標】 ①ソーシャルワーク実践の基礎技術である面接技法・記録技法を課題に応じて選択できる。 ②各相談援助技術の特色を理解し、説明できる。 ③相談援助実習指導Ⅰでの学びと並行し、各福祉領域での相談援助技術について説明できる。 ④倫理綱領、行動規範に基づいた社会福祉士としての行動を想定できる。
授業の概要	相談援助等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な技法、ソーシャルワークの展開過程について理解を深め、事例を通して、ソーシャルワーカーの役割や考え方、アプローチの方法、技法の使用方法をロールプレイやグループによるり実践的・体験的な演習方法で学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【key words】 講義の進め方 【授業概要】 相談援助演習Ⅰの振り返り 相談援助演習Ⅱの流れと受講時のルール確認 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 P1～P30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習Ⅰで行ったものを復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	ソーシャルワークの価値と倫理　倫理綱領 【key words】 傾聴　価値と倫理 【授業概要】 物語を読み、個人の考えをまとめた後グループになり話し合いを行う。まとまった意見を発表し、共感・受容、価値観の違いなどについて、ソーシャルワーカーとして利用者をどのように捉えることが重要になるのかを解説する。 【教科書ページ・参考文献】 社会福祉士の倫理綱領・行動規範 ソーシャルワーク演習ワークブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士の倫理綱領と行動規範を読んでくる。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　ソーシャルワークの価値と倫理　行動規範

【key words】
社会福祉士の倫理綱領　行動規範
【授業概要】
社会福祉士の倫理綱領を読み、自分自身が考える社会福祉士の価値を理解する。
グループになり専門職の倫理を考える、日本社会福祉士会の「倫理綱領」と比較し、社会福祉士としての「倫理綱領」とは何かを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
社会福祉士の倫理綱領・行動規範
ソーシャルワーク演習ワークブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士の倫理綱領・行動規範を読んで重要だと思う部分をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　ソーシャルワーク実践　面接技法 面接の目的

【key words】
インテーク面接　非言語的コミュニケーション
【授業概要】
社会福祉士として行う面接とはどのようなものかビデオを見て考え、ワークシートにまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
社会福祉士が行う面接はどのようなものかを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　ソーシャルワーク実践　面接技法　面接に入る心構え

【key words】
構造化面接　SOLER
【授業概要】
面接に対する利用者の気持ちを理解する演習を行い、社会福祉士として面接を行う時の心構えと環境設定についてグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
インテーク面接の目的と意義について考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　ソーシャルワーク実践　面接技法　インテーク面接

【key words】
インテーク面接　主訴　傾聴
【授業概要】
初めて会う社会福祉士に対する利用者の気持ちをグループで話し合う。利用者の気持ちを尊重した面接とはどのようなものか演習を行う。
インテーク面接の目的について講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
傾聴と聞くの違いについて考えてくる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　ソーシャルワーク実践　面接技法　傾聴の方法

【key words】
姿勢　態度　距離
【授業概要】
面接場面における非言語的コミュニケーションの重要性を知り、ソーシャルワーカーとして、姿勢・態度・距離などが利用者の話を促進させたり、逆に阻害させる要因になることを考えながら演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
面接のロールプレイを行うため社会福祉士の技法と利用者の気持ちをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　ソーシャルワーク実践　面接技法　面接の具体的技法

【key words】
ロールプレイ　面接技法
【授業概要】
三人一組になり、作成したシナリオに沿ってロールプレイを行なう。実際に行なって振り返りをグループと全体で行なう。
【教科書ページ・参考文献】
P59～P63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ロールプレイの振り返りをまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の意義と目的

【key words】
面接　記録
【授業概要】
前回の振り返りを行い、面接とは何かを考える。その時のワーカーとしての心構えや使用する技

術等についてまとめる。
面接や支援を行なった結果を記録として残す目的を講義する。
【教科書ページ・参考文献】
P65～P75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記録の種類について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の種類
【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
記録の種類について講義を行い、それぞれがどのように記録をする時に使用されるのかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P65～P75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
記録技法の事例を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録の内容と方法
【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
社会福祉士が記録に使用する用紙の説明を行う。説明を聞き、読んできた事例を面接用紙、アセスメント用紙にまとめる。
グループワークを行い読みやすい内容にするためにはどのようにすれば良いのか検討する。
【教科書ページ・参考文献】
P65～P75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
書いた記録を書き直してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　ソーシャルワーク実践　記録技法　記録における留意点
【key words】
逐語記録　要約記録　説明体記録
【授業概要】
前回の記録を使用し、読みやすい内容に改善する。
記録技法のまとめの講義を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P65～P75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケースワークについて教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　ケースワークの展開過程　ケースワーク
【key words】
ケースワークの展開過程　インテーク　アセスメント　プランニング
【授業概要】
ケースワークの展開過程の講義を行い、各段階を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各段階の目的を復習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　ケースワークの展開過程　ケースワーク
【key words】
モニタリング　評価　面接技法　記録技法
【授業概要】
展開過程の続きを講義し理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各段階の目的を復習しておく。事例を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　ケースワークの展開過程　ケースワーク
【key words】
アセスメント　情報収集・分析　アセスメント時の留意点
【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントではどのような情報を収集するのかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プランニングの留意点について教科書を読んで、事例のプランニングを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　ケースワークの展開過程　ケースワーク
【key words】
プランニング　長期目標　短期目標　数値化

【授業概要】
展開過程の一連の事例を使用し、各段階で何を行うのかを具体的に理解していく。
アセスメントした情報からプランニングを行う。
自分で考えてきたプランニングをグループで話し合い、援内容を具体的に考える。

【教科書ページ・参考文献】
P88～P94
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの留意点について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
グループダイナミクス　社会福祉士の役割
【授業概要】
グループワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、グループワークについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークの展開過程について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
準備期　開始期　作業期　終結

【授業概要】
グループワークの事例を読み、社会福祉士の役割と留意点を理解し、グループで、どのようにグループワークを進めていくのか検討を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例を読み、社会福祉士の役割を考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　ソーシャルワークの展開過程　　グループワーク
【key words】
準備期　開始期　作業期　終結
【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P95～P100
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティワークについて教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
コミュニティワーク　ニーズ把握　地域計画　社会福祉士の役割

【授業概要】
コミュニティワーク時の社会福祉士の役割と留意点の講義を行い、コミュニティワークについて理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティワークの展開過程について教科書を読んでくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
地域診断　組織化　地域ニーズ　活動計画

【授業概要】
コミュニティワークの事例を読み、コミュニティの役割と留意点を理解し、グループで、どのようにコミュニティワークを進めていくのか検討を行う。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例を読み、社会福祉士の役割を考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】

60分
第２２回　地域を基盤とした相談援助演習　コミュニティワーク
【key words】
地域診断　組織化　地域ニーズ　活動計画

【授業概要】
検討した結果を発表し、全体で理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P101～P107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ケースワーク、グループワーク、コミュニティワークについてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２３回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　治療モデル・環境モデル・生活モデル
【key words】
治療モデル　生活モデル
【授業概要】
事例を使用し、治療モデルと生活モデルのアセスメントやプランニングに違いについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
治療モデル　生活モデルの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ストレングスモデルについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２４回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　ストレングスモデル
【key words】
ストレングスモデル　リフレーミング

【授業概要】
事例を使用し、ストレングスモデルでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。

【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
ストレングスモデルの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
心理社会的アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２５回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　心理社会的アプローチ
【key words】
社会心理的アプローチ　状況の中の人
【授業概要】
事例を使用し、社会心理的アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
心理社会的アプローチの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
問題解決アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２６回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　問題解決アプローチ
【key words】
問題解決アプローチ　4つのP
【授業概要】
事例を使用し、問題解決アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
ソーシャルワーク演習のための88事例
問題解決アプローチの事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
危機介入アプローチについて復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第２７回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　危機介入アプローチ
【key words】
危機介入アプローチ　死の受容過程
【授業概要】
事例を使用し、危機介入アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。
グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】

	ソーシャルワーク演習のための88事例 危機介入アプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 行動変容アプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２８回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　行動変容アプローチ 【key words】 行動変容アプローチ　モデリング　オペラント条件付け 【授業概要】 事例を使用し、行動変容アプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 行動変容アプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 エンパワメントアプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２９回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　エンパワーメントアプローチ 【key words】 エンパワメントアプローチ　ストレングス　パワーレス 【授業概要】 事例を使用し、エンパワメントアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 エンパワメントアプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族システム論アプローチについて復習してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第３０回　実践モデルやアプローチに関する相談援助について　家族システム論 【key words】 家族システム　家族の相互作用 【授業概要】 事例を使用し、家族システムアプローチでの社会福祉士の視点、アセスメントやプランニングについてグループワークを行い理解する。 グループで検討したことを発表し全体で分かち合う。 【教科書ページ・参考文献】 ソーシャルワーク演習のための88事例 家族システムアプローチの事例 【課題・予習・復習・授業準備指示】 それぞれのアプローチ法についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加し、次年度の相談援助実習に対するモチベーションを高められるよう、自己研鑽に努めること。 グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 （2）学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践力の習得するために、自ら考え、気づくことが重要である。 （3）予備知識や技能 相談援助の基盤と専門職と深い関わりがある科目である。そのため、相談援助の基盤と専門職の復習をしっかり行うことが望まれる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	社会福祉士としての基本となる各種技法を復習し修得すること
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習　『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会保障　　授業コード：S2202

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
松原　直樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会保障制度は、私たちが生活していく中で誰もが直面する失業や病気・けが、介護の必要性などの困難な状況に社会全体で手助けをしようとする制度である。社会保障は、日常生活に困難を抱えている場面において、なくてはならない仕組みであり、社会福祉に関わる仕事に就く人だけでなく、生活者としても、理解しておく必要のある事がらである。さまざまな場面でセーフティネットとなっている社会保障に関する理解を深めていくことを授業の目的とする。 【到達目標】 １．社会保障の用語及び歴史的理解。 ２．社会保障制度の目的・体系の理解。 ３．社会福祉及び国民生活への政策の理解。
授業の概要	まず社会保障の全体像について理解し、年金・医療・介護・労働などの各保険制度の概要や現状、今後の課題について理解する。また現実のデータから社会保障の動向について整理を行い、さらに社会福祉士・精神保健福祉士国家試験における、社会保障の過去問を活用しながら、具体的な事例を想定し、社会保障制度の目的・役割・課題について理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション、現代社会における社会保障の現状 【key words】 社会保障　人口動態　少子高齢化　人口減少社会　非正規雇用　ワークライフバランス 【授業概要】 社会保障の学習予定について概観する。また、社会福祉士国家試験出題基準及び精神保健福祉士国家試験出題基準における社会保障の位置づけを知る。そして、社会保障制度を取り巻く現在の環境について理解する。少子高齢化、人口減少期を迎えている日本の現状とそうした状況下での労働人口やその将来予測について検討し、それに関連する労働環境の現状および整備について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.ⅰ～p.ⅷ、p.1～p.15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第1章(〈中央法規〉第11章)を読んでおく。 〈復習〉本日の授業の概要を確認する。まとめチェック1で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第２回	社会保障の概念・理念と対象 【key words】 社会保障の概念　社会保障の役割　社会保障の機能　社会保障の理念　社会保障の対象 【授業概要】 社会保障の概念について知る。さらに、現代の社会保障における個人・政府・地方自治体及び社会福祉事業者の関わりについて知る。また、社会保障と福祉国家の関係について理解する。ま

た、日本国憲法及び基本的人権と社会保障の関係について理解する。続いて、社会保障全体についての目的及び機能について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.16～p.35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第2章1～4節(〈中央法規〉第1章)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック2で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第３回　社会保障制度の展開
【key words】
救貧法　社会保険法　恤救規則　救護法
【授業概要】
社会保障がどのような経緯をたどって現在に至っているかを理解し、また社会保障制度の思想や哲学の知識や流れを全体的に把握する。
【教科書ページ・参考文献】
p.36～p.46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第2章5節(〈中央法規〉第2章)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック3で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第４回　社会保障と財政①
【key words】
社会保障費用統計　社会保障給付費　政策分野別・部門別・機能別社会保障給付費　国民負担率
【授業概要】
最新社会保障費用統計を見て、その特徴を理解する。また、部門別、機能別の社会保障給付費に関する統計を検討し、その特徴を理解する。また、その上で、社会保障と国民経済の関係および国民負担率について現状を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.47～p.57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第3章(〈中央法規〉第4章1節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック4で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第５回　社会保障と財政② 社会保険と社会扶助
【key words】
社会保障関係費　国民経済　社会保険　社会扶助
【授業概要】
社会保障が経済活動にどのような影響を及ぼしているのかを理解する。また、国民の生活を保障する社会保障の方法として、社会保険と社会扶助について、それぞれの概念とその内容を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.57～p.75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第4章(〈中央法規〉第3章)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック5で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第６回　医療保険制度①医療保険制度の概要
【key words】
国民皆保険　高齢者の医療の確保に関する法律　被用者保険　地域保険
【授業概要】
医療保険制度がこれまでどのように形作られてきたかについて理解する。そして、医療保険制度の全体像について理解する。また、保険診療をめぐる利用者・医療機関・保険者の関係について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.87～p.89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章1節(1)(〈中央法規〉6章1節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック6で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第７回　医療保険制度②被用者保険
【key words】
健康保険　協会けんぽ　健康保険組合　療養の給付　共済組合
【授業概要】
被用者保険である健康保険と共済制度について理解する。そのため、それぞれの保険の被保険者および保険者について理解する。また、共通する保険給付の内容について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.92～p.94, p.102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章1節(2)(4)(〈中央法規〉6章2節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック7で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

	第８回	医療保険制度③国民健康保険 【key words】 国民健康保険　国民健康保険組合　国民健康保険財政 【授業概要】 地域保険である国民健康保険について理解する。この保険の被保険者および保険者について理解する。また、国民健康保険財政について、理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.94～p.101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈〈予習〉教科書第6章1節(3)(〈中央法規〉6章3節)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック8で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第９回	医療保険制度④高齢者医療制度 【key words】 後期高齢者医療制度　高齢者の医療の確保に関する法律　広域連合 【授業概要】 後期高齢者医療制度のしくみについて理解する。被保険者、保険料、および財源構成について、学習する。その他の高齢者医療に関する制度についても概観する。 【教科書ページ・参考文献】 p.102～p.106 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈〈予習〉教科書第6章1節(5)(〈中央法規〉6章4節)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック9で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１０回	医療保険制度⑤国民医療費、公費負担医療 【key words】 国民医療費　医療費適正化　混合医療の拡大　診療報酬改定 【授業概要】 公費負担医療について理解する。最新のデータにより国民医療費について理解する。また、最近の医療費や医療提供体制に関わる動向について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.106～p.109 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章1節(6)(〈中央法規〉6章5節)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック10で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１１回	介護保険制度①介護保険制度制定の経緯 【key words】 措置から契約　介護保険法　介護保険法改正 【授業概要】 介護保険制度が創設された背景と創設された経緯について、理解する。まず、介護保険制度創設以前の高齢者福祉・老人保健制度について概観し、介護保険の創設過程及び介護保険制度の見直しの経緯について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 p.110～p.115 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章2節(1)(2)(〈中央法規〉7章1節)を読んでおく。 〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック11で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１２回	介護保険制度②介護保険制度の基本的なしくみ 【key words】 第1号被保険者・第2号被保険者　要介護認定　介護保険審査会 【授業概要】 現在の介護保険制度の概要について、保険者・被保険者・利用手続きについて、学習する。被保険者については第1号被保険者と第2号被保険者の別について、またそれぞれの保険料について学習する。利用手続きについては、要介護認定を含む介護保険利用手順を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.115～p.121 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書第6章2節(3)(4)(〈中央法規〉7章2節1～4)を読んでおく。 〈復習〉本日の授業の概要を確認する。まとめチェック12で質問された事項について、正解を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
	第１３回	介護保険制度③介護サービスの種類 【key words】 要介護　要支援　介護給付　予防給付　施設サービス　居宅サービス　介護予防サービス　地域密着型サービス 【授業概要】 介護保険の給付について、要介護1～5の認定を受けた要介護者を対象とした介護給付と要支援1～2の認定がされた要支援者を対象とした予防給付について、その内容について、理解する。また、地域密着型サービス、地域密着型介護予防サービスについてもその内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 p.121～p.126

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章2節(4)2)(〈中央法規〉7章2節5)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック13で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１４回　介護保険制度④地域支援事業、地域包括ケアシステム、政策動向
【key words】
地域支援事業　地域包括支援センター　地域包括ケアシステム　介護保険財政　介護保険制度改革
【授業概要】
地域支援事業について、理解する。また、地域包括ケアシステムについて、その理念と内容について理解する。介護保険財政及び介護保険制度の課題について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.126～p.135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章2節(5)(〈中央法規〉7章2節6、3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック14で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１５回　前半のまとめ
【key words】
社会保障の概念や対象及びその理念　社会保障の財源と費用　医療保険制度の具体的内容　介護保険制度の具体的内容
【授業概要】
これまで学習した「社会保障の概念や対象及びその理念」「社会保障の財源と費用」「医療保険制度の具体的内容」「介護保険制度の具体的内容」について、その概要を復習する。また、その範囲について、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
p.1～p.135(p.76～p.86除)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉配布プリントを通読しておく。
〈復習〉授業で取り上げた、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説を復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１６回　年金保険制度①公的年金制度の沿革と概要
【key words】
国民皆年金体制　公的年金制度の沿革　年金制度改革
【授業概要】
公的年金の概要について理解する。そのため、公的年金制度が現在の制度に至る過程について理解する。さらに、公的年金制度めぐる近年の改革について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.136～p.141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(1)(2)(〈中央法規〉5章1節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック16で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１７回　年金保険制度②国民年金・厚生年金
【key words】
国民年金第1～3号被保険者　厚生年金適用事業所　国民年金の免除　学生納付特例制度　国民年金保険料　厚生年金保険料率
【授業概要】
国民年金の概要と被保険者の種類について理解する。また、厚生年金の概要と被保険者について理解する。さらに、国民年金と厚生年金の関係について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.141～p.144
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(3)(4)(〈中央法規〉5章2・3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック17で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１８回　年金保険制度③老齢基礎年金・老齢厚生年金
【key words】
老齢基礎年金　老齢厚生年金　年金支給要件　年金額
【授業概要】
国民年金および厚生年金の給付の種類について、理解した後、老齢基礎年金及び老齢厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.144～p.146
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(5)1)(〈中央法規〉5章2・3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック18で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第１９回　年金保険制度④障害基礎年金・障害厚生年金、遺族基礎年金・遺族厚生年金

【key words】
障害基礎年金　障害厚生年金　遺族基礎年金　遺族厚生年金
【授業概要】
障害基礎年金及び障害厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解する。また、遺族基礎年金及び遺族厚生年金の支給のための要件および年金額について、理解し、両者の支給対象者の違いについて、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.144,p.147～p.151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(5)2)～4)(〈中央法規〉5章2・3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック19で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２０回　年金保険制度⑤年金保険の動向
【key words】
社会保障制度改革国民会議 税・社会保障一体改革　マクロ経済スライド 財政検証 所得代替率 厚生年金基金
【授業概要】
社会保障・税一体改革以来の年金制度をめぐる動向について理解する。そして、現在の年金制度に関する課題と今後の見通しについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
p.154～p.160
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(7)(〈中央法規〉5章4節)を読んでおく。
〈復習〉配布プリントを見ながら、本日の授業の概要を確認する。まとめチェック20で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２１回　労働保険制度①労働保険制度の概要と沿革、労働者災害補償保険
【key words】
労働保険　労働者災害補償保険　労働基準監督署　ハローワーク　労災認定
【授業概要】
労働者に対する保険制度である雇用保険・労働者災害補償保険について、概要と沿革を理解する。今回は、労働者災害補償保険の対象、保険給付の内容及び給付の前提となる労災認定について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.161～p.170
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章4節(1)～(5)(〈中央法規〉8章1・2節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック21で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２２回　労働保険制度②雇用保険、求職者支援、労働保険制度をめぐる最近の動向
【key words】
雇用保険　失業等給付　雇用保険二事業　就職促進給付　雇用継続給付
【授業概要】
労働保険のうち、雇用保険について、理解する。失業等給付の具体的な給付内容について、理解し、また雇用保険二事業について、その内容を理解する。雇用保険の財源構成についても理解する。さらに、最近の労働環境と労働保険の関係についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.170～p.179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章4節(6)～(8)(〈中央法規〉8章3～5節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック22で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２３回　生活保護制度、社会手当制度
【key words】
生活保護制度　社会手当　児童手当　児童扶養手当
【授業概要】
生活保護法の内容について、特に基本原理・生活保護の種類・保護施設について理解する。また、税を財源とする金銭給付である社会手当制度について、具体的な施策を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.180～p.204
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章5～6節(〈中央法規〉9章2・7節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック23で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２４回　社会福祉制度①沿革と概要、児童福祉、母子・父子福祉
【key words】
社会福祉法　社会福祉事業　社会福祉財政　児童福祉法　児童福祉施設　子ども・子育て支援新制度　母子・父子及び寡婦福祉法
【授業概要】
社会福祉制度が整備されてきた経緯を学習し、社会福祉制度の現状を理解する。児童を対象とした福祉施策について、児童福祉法及び子育て支援関連法にもとづき、理解する。また、ひとり親家庭を対象とした福祉施策についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.205～p.221

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章7節(1)～(5)1)(〈中央法規〉9章1・3・5節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック24で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２５回　社会福祉制度②障害者福祉、高齢者福祉
【key words】
障害者基本法　障害者総合支援法　老人福祉法　高齢者虐待防止法
【授業概要】
障害者を対象とした福祉施策について、障害者基本法・障害者総合支援法をはじめとした障害者福祉関連法にもとづき、理解する。高齢者を対象とした福祉施策について、老人福祉法法にもとづき、理解する。また、介護保険法との関連についても理解する。さらに、高齢者の権利保障についての施策も理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.221～p.226
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章7節(5)2)～3)(〈中央法規〉9章4・6節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック25で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２６回　民間保険制度①民間保険と社会保険、民間保険の概要
【key words】
民間保険　生命保険　損害保険　第三分野の保険
【授業概要】
公的保険による所得補償では不十分な場合、それを補完するものとして重要な役割を有している民間保険について、公的保険との相違を中心に理解する。民間保険の諸原則及び保険給付の対象範囲について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.76～p.86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第5章(〈中央法規〉10章1～3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック26で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２７回　民間保険制度②私的年金
【key words】
企業年金　確定拠出年金　確定給付年金　個人年金
【授業概要】
公的年金を補完する役割を担っている企業年金と個人年金について、その概要と具体的なしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.151～p.154
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第6章3節(6)(〈中央法規〉10章4節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック27で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２８回　諸外国における社会保障制度①欧米
【key words】
スウェーデンの社会保障　ドイツの社会保障　フランスの社会保障　イギリスの社会保障　アメリカの社会保障
【授業概要】
人口構成の高齢化を迎えている欧米諸国の社会保障制度について、2つの類型に分けて、検討した上で、まずは具体的に5カ国の社会保障制度についても日本と比較しながら理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.227～p.237
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第7章1～3節(〈中央法規〉12章1節～2節5)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック28で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

第２９回　諸外国における社会保障制度②オセアニア、中国、ロシア、韓国
【key words】
オーストラリアの社会保障　ロシアの社会保障　中国の社会保障　韓国の社会保障　社会保障協定
【授業概要】
人口構成の高齢化を迎えている日本の近隣諸国の社会保障制度について、検討した上で、具体的に4カ国の社会保障制度についても日本と比較しながら理解する。社会保障に関わる諸協定について、理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p.237～p.243
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉教科書第7章4・5節(〈中央法規〉12章2節6～3節)を読んでおく。
〈復習〉授業の概要を確認する。まとめチェック29で質問された事項について、正解を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分、復習120分

	第３０回　　全体のまとめ 【key words】 年金保険　労働者災害補償保険　雇用保険　社会福祉制度 【授業概要】 これまで学習してきたもののなかで、特に「年金保険」「労働保険」及び「社会福祉制度」について、その概要を復習する。また、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験問題の解答・解説によって、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 p.1～p.246 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉教科書終章を読んでおく。これまでの配付資料を通読しておく。 〈復習〉授業で取り上げた、まとめチェックその他の解答・解説を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分、復習120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・自己責任(無断欠席・遅刻等しない）を持って受講すること。 ・自分自身で社会保障分野の内容が理解できるように努めること。 ・社会福祉分野の国家試験と深い関わりがある科目のため、予習・復習をすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ミニテスト及び質問・コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布資料、新聞や社会保障に関連する参考書等を自主的に勉強すること。
オフィスアワー	木曜日15時50分から
評価方法	期末試験（80%），ミニテスト・中間テスト・受講状況（20%）
教科書	川村匡由 編著『福祉ライブラリ　改訂 社会保障』建帛社
参考書	社会福祉士養成講座編集委員会編『社会保障（第６版）』中央法規出版 社会福祉小六法・社会福祉用語辞典（最新版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 公衆衛生学　　授業コード：S3211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
山﨑　博幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 公衆衛生学の概要を理解し、疫学を含む公衆衛生学的な考え方を養う。将来、社会福祉専門職（又は医療専門職）として相応しい公衆衛生の基本、知識、保健統計の読み方を身につける。 【到達目標】 公衆衛生学は何かという点を説明できると共に、これまでの人類の歴史において公衆衛生がどのように機能してきたか、今後どのように活かしていけるかを説明できる。
授業の概要	社会福祉専門職（又は医療専門職）として必要な公衆衛生・衛生学の知識を理解・習得して、人々・患者・利用者・児童生徒・職員等の身体的・精神的健康と施設・機関の安全、及び福祉の向上に寄与する責任と自覚を形成できるよう進めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	公衆衛生学序論 【key words】 ウインスロー、健康の定義、ICF、ソーシャルキャピタル、生命倫理 【授業概要】 公衆衛生学概論 ・ウインスローの定義について解説する ・公衆衛生学の扱う範囲や活動内容について解説する ・生活と健康について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第１章　p1-p17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	保健統計 【key words】 健康水準、健康指標、平均余命、平均寿命、人口統計、国勢調査、人口動態 【授業概要】 ・健康水準をはかるための物差しである健康指標について解説する。 ・日本の人口動態及び主要死因別にみた死亡率の推移について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 第２章　p19-p30 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第３回	疫学 【key words】 Ｊ スノウ、疫学調査、疾病分類、コホート研究、症例対照研究、介入研究、オッズ比 【授業概要】 ・イギリスにおけるＪ スノウのコレラの予防について解説する。 ・疫学調査の基本について解説する ・疫学の方法について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第３章　p31-p51 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第４回	疾病予防と健康管理 【key words】 疾病の自然史、疾病リスク、疾病予防の段階（1次、二次、三次）、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、スクリーニング検査、健康日本２１ 【授業概要】 ・疾病予防の段階について解説する ・スクリーニング検査を含めた健康管理について解説する ・日本の国民健康づくり運動「健康日本２１」について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第４章　p53-p82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第５回	主な疾病の予防 【key words】 感染症、予防接種、循環器系疾患、高血圧、心疾患、糖尿病、メタボリックシンドローム、がん、アレルギー疾患 【授業概要】 ・感染症のなりたち、予防について解説する ・生活習慣病のリスク因子、予防について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第５章　p83-p138 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第６回	環境保健１ 〃 【key words】 生態系、環境汚染、温室効果、放射線、化学物質、病原性微生物、薬剤耐性菌 【授業概要】 ・地球の生態系、環境汚染から地球環境問題までを解説する ・放射線、有害化学物質の人体への影響について解説する ・病原性微生物とその感染経路について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第６章　p139-p178 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第７回	環境保健２ 【key words】 大気汚染、CO、NOx、SOx、上下水道、水質基準、産業廃棄物、食中毒、 【授業概要】 ・大気汚染と環境基準及び人体への影響について解説する ・上下水道の仕組み、水質基準について解説する ・食中毒及び住居における室内空気汚染について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第６章　p179-p220 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第８回	地域保健と保健行政 【key words】 コミュニティ、保健所、消費者保健、 【授業概要】 ・地域保健の特徴及び展開を解説する ・薬害等に関して消費者保護について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第７章　p221-p236 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。

授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　母子保健
【key words】
合計特殊出生率、死産・死亡、障害、児童虐待
【授業概要】
・母子保健の水準について、各指標を解説する
・母子保健の課題、及び母子保健活動の歴史について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第８章　p237-p251
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　学校保健
【key words】
子どもの疾病、子どものメンタルヘルス、定期健康診断、歯科保健、保健教育
【授業概要】
・子どもの健康状況、体力、ライフスタイルについて解説する。
・学校保健の領域、組織・運営、について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第９章　p253-p278
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　産業保健
【key words】
産業医、労働安全衛生法、労働災害、職業病、ハラスメント
【授業概要】
・働く人々の健康問題に関する歴史を解説する
・労働災害や職業病について解説する

【教科書ページ・参考文献】
第１０章　p279-p306
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　高齢者の保健・医療・介護
【key words】
加齢、老化、健康寿命、認知症、介護保険、地域包括ケアシステム
【授業概要】
・加齢に伴う様々な健康上の問題について解説する
・高齢者の保健と医療について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第１１章　p307-p324
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　精神保健
【key words】
ストレス、ソーシャルキャピタル、うつ病、統合失調症、精神保健福祉
【授業概要】
・精神障害の疫学と分類について解説する
・精神保健福祉活動について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第１２章　p325-p344
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　国際保健医療
【key words】
WHO、UNICEF、FAO、SDGs
【授業概要】
・国際保健の意義と課題について解説する
・国際機関について解説する
【教科書ページ・参考文献】
第１３章　p345-p359
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第１５回　　保健医療福祉の制度と法規 【key words】 国民皆保険制度、医療法、医療提供施設、国民医療費、年金制度 【授業概要】 ・保健医療行政の概要と基礎知識について解説する 【教科書ページ・参考文献】 第１４章　p361-p383 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	基本的に教科書に沿って進めていく。スライドの内容はノートを取って、講義後に復習を行うこと。教科書の内容は多めなので、事前に該当する箇所を読んで予習をしておくこと。 受講のルール：私語、スマホの使用、その他授業の妨害行為を禁止とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（100%）
教科書	『シンプル衛生公衆衛生学』最新版　南江堂
参考書	「よくわかる公衆衛生の基本としくみ」第2版　秀和システム
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会的養護Ⅰ　　授業コード：S4021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会的養護及び子どもの権利について理解し、要保護家庭に対する支援方法について基本を学んでいく。 【到達目標】 1）児童虐待が急増している現況を認識し、子どもの人権を尊重する意識改革の実践に努めていく。 2)社会的養護の課題及び対応策について考察していく力を養う。
授業の概要	急増している児童虐待をはじめとする要保護児童を取り巻く社会環境、歴史的経過、法整備状況、児童の権利に関する条約等総括的に学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	・オリエンテーション・「豊かな国」日本における社会的養護 【key words】 【key words】 子どもの社会的養護　子育ての貧困 【授業概要】 【授業概要】 社会的養護とは何を意味するのか。「子育ての貧困」がなぜ生まれるのか。権利としての社会的養護について、児童憲章や子どもの権利条約から理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書ｐ10～27まで予習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	・社会的養護の基本原理とその現状 【key words】 【key words】 社会的養護とは何か　基本理念と原理　社会的養護の現状 【授業概要】 【授業概要】 社会的養護とは何かのアウトラインを理解する。また、「児童養護施設運営指針」等に示されて

		いる社会的養護の基本理念と原理をふまえ、施設の小規模化や家庭的養護が推進されている今日的姿を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P10～27 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題・予習・復習・授業準備指示】 学びを振り返るアウトプットノートで復習する 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	・社会的養護の歴史 【key words】 【key words】 第二次世界大戦後の児童養護論の展開　孤児院 【授業概要】 【授業概要】 社会的養護の歴史を振り返り、保護が必要な子どもたちにどのような理由があったのか、どのように保護をしてきたのかについて歴史的状況とともに説明する。また、第二次世界大戦後の児童養護論の展開を通して、子どもの権利の視点に立った援助のあり方を学びます。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P29～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学びを振り返るアウトプットノートで復習する 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	・現代日本の子育て困難家庭と社会的養護 【key words】 【key words】 子育て困難家庭　ソーシャルワーク 【授業概要】 【授業概要】 子育て困難家庭への支援のあり方を考え、ソーシャルワークの果たす役割について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回教科書ｐ43～56を予習してくる 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	・子どもの権利擁護 【key words】 【key words】 子どもの権利　権利擁護 【授業概要】 【授業概要】 子どもの権利とはどのような権利を指しのかを権利保障の世界的な歴史を概観しながら捉え、我が国の権利擁護の取り組みについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P43～56 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学びを振り返るアウトプットノートで復習する 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	・社会的養護の体系と実践 【key words】 【key words】 社会的養護にかかわる各種法律　施設養護と家庭養護 【授業概要】 【授業概要】 社会的養護にかかわる各種法律から基本となる考え方を学び、施設養護と家庭養護とは何かに触れながら、施設養護の過程について学んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P58～70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

学びを振り返るアウトプットノートで復習する
【予習復習に必要な想定時間】
第７回　・発達課題と児童養護
【key words】
【key words】
子どもの発達

【授業概要】
【授業概要】
養護は子ども一人ひとりの全人的理解を通して、その子を視座においた発達を保障するうえで、発達段階と養護との関係、要養護児童の発達課題の特徴について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書ｐ72～85を予習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
第８回　・社会的養護の領域と概要（養護施設）①
【key words】
【key words】
乳児院　母子生活支援施設

【授業概要】
【授業概要】
乳児院や母子家庭支援施設の法的根拠やどのような子どもたちが保護されているのかを理解し、そこで働く専門職の役割についも学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P76～85

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書ｐ85～99を予習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
第９回　・社会的養護の領域と概要（養護施設②）
【key words】
【key words】
児童養護施設　児童心理治療施設
【授業概要】
【授業概要】
児童養護施設や児童心理治療施設の法的根拠やどのような子どもたちが保護されているのかを理解し、そこで働く職員の役割についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：ｐ85～99

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

教科書ｐ99～112を予習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
第１０回　・社会的養護の領域と概要（養護施設）③
【key words】
【key words】
児童自立支援施設　自立支援ホーム　児童家庭支援センター

【授業概要】
【授業概要】
児童自立支援施設、自立支援ホーム、児童家庭支援センターの法的根拠やどのような子どもたちが保護されているのかを理解し、そこで働く職員の役割についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P45～55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学びを振り返るアウトプットノートで復習する
【予習復習に必要な想定時間】
第１１回　・社会的養護の領域と概要（家庭養護）
【key words】
【key words】
里親　ファミリーホーム

【授業概要】
【授業概要】
里親とは何か、ファミリーホームとは何かを理解し、社会的養護のなかで果たしている役割について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P56～65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学びを振り返るアウトプットノートで復習する
【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　・社会的養護の領域と概要（障害系施設）

【key words】
【key words】
障害児入所施設　児童発達支援センター

【授業概要】
【授業概要】
障害児入所施設にはどのような種類があり、どのような専門性を発揮居しているのかを学ぶ。また、児童発達支援センターが日常生活においてどのような支援をしているのかを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P130～139
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学びを振り返るアウトプットノートで復習する
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　・社会的養護にかかわる専門職・専門機関と倫理

【key words】
【key words】
専門職　職業倫理　専門機関

【授業概要】
【授業概要】
社会的養護を担う専門職とはどのような役割を担う人たちなのかを確認し、大切にするべき職業倫理について学ぶ。また、それぞれの専門機関が「子どもの最善の利益」のためにどのような取り組みを行っているのかを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P146～160
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学びを振り返るアウトプットノートで復習する
【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　・社会的養護とソーシャルワーク

【key words】
【key words】
ソーシャルワーク

【授業概要】
【授業概要】
ソーシャルワークの定義を学び、社会的養護においてソーシャルワークの必要性について学んでいく。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P164～177
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学びを振り返るアウトプットノートで復習する
【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　・施設の運営管理と子どもの権利保障のための社会的養護とは

【key words】
【key words】
施設の運営管理　全体の振り返り

【授業概要】
【授業概要】
子どもの権利擁護のために適切な支援体制をとるうえでどのような運営管理がされているのかを学び、最後に子どもの権利保障にとっての社会的養護について振り返る。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P180～186　教科書全体を振り返る

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 学びを振り返るアウトプットノートで復習する 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・日頃の日常生活なかで児童虐待等要保護児童に関わる情報に関心を持って授業に臨んでください。 ・社会的養護や子どもの権利にとってどのような意味を持つのかを常に問題意識をもって臨んでください。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・日頃のニュースや新聞から、社会的養護にかかわる事件や出来事について情報を得るようにしておくこと。 ・社会的養護に関わる法令については、日頃から社会福祉小六法の活用を億劫がらずに習慣づけること。 ・予習復習に努め、わからない内容は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。
オフィスアワー	･質問事項等は、コメントカードに記入すること。次回授業時にインフォメーションします。
評価方法	・定期試験80%、授業中の課題（授業確認のレポート提出）20%で総合評価します。 但し、定期試験が60%未満の場合は、再試験とします。
教科書	・喜多一憲監修、堀場純矢編集『社会的養護Ⅰ』みらい
参考書	・社会福祉小六法を授業時に持参すること。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 スクールソーシャルワーカーの経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 子どもの食と栄養　　授業コード：S4061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
平石　仁恵			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 健全な食生活を送るために必要な、基礎知識と調理技術を習得する。 【到達目標】 ・子どもの発育・発達と食生活の関連及び、家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ・食育の意義、内容について、近年のガイドラインやデータを踏まえて理解する。 ・基本的な調理技術を習得する。
授業の概要	子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、家庭や現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。講義内容と関連した調理は、自宅でも作りやすく、応用しやすい内容になっている。 ＊本科目は調理実習が予定されていますが、新型コロナウィルス感染症の状況により、授業内容や実習時期、実習内容を変更する可能性があります。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテーション、子どもの健康と食生活の意義 【key words】 評価方法、課題発表、子どもの食習慣 【授業概要】 授業の進め方、課題発表について知る。大人の食生活と子どもの食習慣の関連について学ぶ。 食生活チェック、実習事前アンケートの実施。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ２～７（１、子どもの健康と食生活の意義） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおき、興味を持った箇所に印をしておくこと。復習については授業時に指示する。 食物アレルギーのある生徒は、申告できるようにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第２回　栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 【key words】 5大栄養素、主食、主菜、副菜 【授業概要】 栄養素の種類と働き、現代日本人の栄養素の摂取傾向などを学ぶ。課題発表。 【教科書ページ・参考文献】

		Ｐ８～２０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。高校で使用した教科書や副読本がある場合には、参照することを勧める。 課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 120～180分
	第３回	食事摂取基準と献立作成・調理の基本、実習室の使い方、衛生管理 【key words】 食事摂取基準、食事バランスガイド、食生活指針 【授業概要】 食事摂取基準の見方と、家族や自分の摂取量を理解した上で、適正な献立作成を学ぶ。課題発表。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８～２０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前週から本時までの間、どこか1日あたりの食事内容を記録しておくこと。該当ページを読んでおくこと。 課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第４回	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活、調乳と試飲 【key words】 母乳、人工栄養、無菌操作法、離乳 【授業概要】 母乳や人工栄養の利点や問題点を学ぶ。実際に調乳を行い、メーカーによる味の違いを体験する。課題発表。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３８～６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。無菌操作法の実習をするので、Ｐ５１は必ず読んでおくこと。 課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第５回	幼児期の心身の発達と食生活、離乳食の調理と試食 【key words】 離乳食、偏食、欠食、間食 【授業概要】 離乳食、幼児食の概要を学ぶとともに、偏食や肥満といった食生活上の問題点を学ぶ。離乳食を調理し、味や舌ざわりなどを確認する。課題発表。調理実習。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ７１～７２、Ｐ７６～８７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認すること。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第６回	学童期の心身の発達と食生活、間食の調理と試食 【key words】 朝食欠食、肥満、ダイエット、摂食障害 【授業概要】 学童期や思春期の食生活上の問題を学ぶ。非科学的なダイエットや摂食障害の危険性について理解する。課題発表。調理実習。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８７～９４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。 実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第７回	生涯発達と食生活、妊娠期に適した調理と試食 【key words】 妊娠期の栄養、つわり、貧血 【授業概要】 成人期、妊娠期の栄養について学ぶ。特に妊娠期の症状やのぞましい食生活について理解を深める。課題発表。調理実習。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ９４～９９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。 実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
	第８回	.保育における食育の基本的考え方と評価方、食育のための環境、食育便りの作成 【key words】 食育基本法、保育所保育指針 【授業概要】 食育とは何か、概要を理解する。また、子どもや保護者を対象とした「食育便り」を作成する。

課題発表。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１００～１０６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
色鉛筆等を持参すること。該当ページを読んでおく。年間の行事食を調べ、書き出しておく。配布用紙に記入予定。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　地域の関係機関、職員間の連携、グループワーク
【key words】
連携、食生活指導、第３次食育推進基本計画
【授業概要】
家庭支援や児童福祉施設では、様々な背景の保護者と接する機会がある。どのような関わり方が求められるのか、グループごとに考えをまとめ、発表する。課題発表。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１０６～１１１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１０回　家庭における食事と栄養、強化食の調理と試食
【key words】
生体リズム、日本型食生活
【授業概要】
基本的な生活習慣の重要性と、現代家庭における食の課題を学ぶ。栄養的な課題として、不足しやすい栄養素を補う献立について学ぶ。課題発表。調理実習。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１１回　児童福祉施設における食事と栄養、おやつの調理と試食
【key words】
児童福祉施設、食中毒
【授業概要】
児童福祉施設の種類と働きを学び、食に関して各施設に求められる課題と対応を学ぶ。また食中毒についての概要と予防策など、衛生管理について理解する。課題発表。調理実習では、子どもが調理に携われるような、参加型のおやつを作る。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１８～１２７（児童養護施設の上まで）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
食中毒については、高校の教科書や副読本があれば参照しておくとよい。該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１２回　疾病および体調不良のある子どもへの対応、炊飯の基礎とだしの取り方、実習と試食
【key words】
病児食、病時食
【授業概要】
子どもが訴えることの多い体調不良について、概要を学ぶ。粥や軟飯、普通炊きの水加減、だしの取り方について学ぶ。課題発表。調理実習。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１２７～１３５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１３回　食物アレルギーの概要、アレルギー対応食の調理と試食
【key words】
アナフィラキシーショック、エピペン、特定原材料
【授業概要】
食物アレルギーの症状、原因物質、対応などを理解した上で、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」、「保育所における食事の提供ガイドライン」を踏まえ、施設としての受け入れの実際について学ぶ。電課題発表。調理実習では特定原材料を用いずに、代替材料で調理を行う。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１３５～１４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１４回　障害のあるこどもへの対応、嚥下食の調理と試食
【key words】

	摂食機能、こだわりによる偏食 【授業概要】 代表的な摂食の障害について理解し、機能に応じた調理形態や補助具などについて学ぶ。調理実習では、嚥下機能の弱い子どもが食べられるような、嚥下食を調理する。課題発表。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１４２～１４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分 第１５回　災害時への対応、保存食品を使った調理と試食 【key words】 非常食、液体ミルク 【授業概要】 緊急時や災害時に保育者に求められる、食生活上の備えを学ぶ。課題発表。調理実習では、長期保存可能な食品を用いた調理を行う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１４６～１４９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 該当ページを読んでおくこと。予告された実習内容について、手順を確認してから実習に臨むこと。実習後に、自宅等で再調理することが望ましい。課題発表予定者は、プレゼンテーションの準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	講義中は受講生の迷惑にならないよう私語及びスマホ操作厳禁。 実習中はマスク、エプロン、三角巾を身につける。 長つめ、マニキュアは禁止。 腕時計、ブレスレットは外し、髪は束ねる。 ハンドタオル、布巾を持参する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード、実習後のレポート
授業外時間にかかわる情報	実習には手順を確認して臨むこと。調理実習後には、自宅等で再調理することが望ましい。
オフィスアワー	講義の前後15分は対応可能。
評価方法	筆記試験 50%　　授業への取り組み（身支度・実習レポート、課題発表）50%
教科書	発育期の子どもの食と栄養　1,800円＋税　菅原 園 他　　学建書院
参考書	授業時に紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 教育機関からの要請により、主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っている。また高等学校における家庭科教育は20年以上に及ぶ。現代の家庭は食生活の問題を高率に抱えている。栄養を摂取するだけの食ではなく、広い意味での食生活を考えたい。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（人間関係）　　授業コード： S4121

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 養護及び教育に関わる保育の内容がそれぞれに関連性を持つことを理解した上で、領域「人間関係」のねらい及び内容について学ぶ。また、子どもの生活や遊びを総合的に捉え、保育を展開していくための方法や技術、子どもの実態に即した援助や関わりについて領域「人間関係」の観点から学ぶ。 【到達目標】 ①子どもを取り巻く人間関係の現代的特徴とその社会的背景を理解している。 ②領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ③子どもの生活と遊びにおける他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識及び技術を身に付けている。
授業の概要	領域「人間関係」は子どもたちが「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う」ことを目指すものである。この授業では、現代的課題を踏まえながら子どもの人間関係の発達を学ぶだけでなく、子どもの指標となるべく自らの人間関係やこれからの社会で大切にしたい人間関係についても考えていく。また、幼稚園教育要領等に示された領域「人間関係」のねらい及び内容についての理解を深め、子どもの発達に即して深い学びが実現する過程を踏まえ、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想および指導方法を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	子どもを取り巻く人間関係～人と関わるということ～ 【key words】 「子どもを取り巻く環境」 「愛着形成」 【授業概要】 「人と関わる」ということが子どもの発達にどのような意味をもっているのかについて、子どもを取り巻く社会的背景とともに考える。 【教科書ページ・参考文献】 P12～23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P12～23を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	保育における人間関係 【key words】 「５領域」 「保育内容」 「「ねらいと内容」 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 【授業概要】 幼稚園教育要領等に示されている領域「人間関係」について、その変遷と意図するところについて学び、園生活に求められる役割と保育者の在り方について考える。

【教科書ページ・参考文献】
P24～35
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P24～35を読んでくること。
《復習》幼稚園教育要領解説等の領域「人間関係」に目を通すこと。
【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第３回　乳児期の人間関係

【key words】
「愛着形成」
「安心感の輪」
「二項関係」
【授業概要】
０歳児からどのようにして人間関係が育まれていくのか、発達の視点と生活や遊び場面から考える。また、それを支える保育者の役割について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P36～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P36～45を読んでくること。
《復習》保育所保育指針解説の「乳児保育に関わるねらい及び内容」の関連する部分を読む。
【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第４回　1歳以上3歳未満児の人間関係

【key words】
「自我の芽生え」
「自己主張」
「模倣遊び」
【授業概要】
言葉による表現が始まる1歳以降の人間関係の育みについて、発達の特徴とその広がりについて理解する。また、遊びの発達とそれを支える保育者の役割について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P46～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P46～57を読んでくること。
《復習》保育所保育指針解説の1歳以上3歳未満児の領域「人間関係」を読む。
【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第５回　3歳以上児の人間関係

【key words】
「自我の育ち」
「自己調整」
「イメージの共有」
【授業概要】
乳児期の発達を基盤として3歳児以降、どのように人間関係が広がっていくのかについて、遊びの場面と生活の場面から考える。また、年齢による保育者のかかわりの違いについても事例をもとに考察する。
【教科書ページ・参考文献】
P59～70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P59～70を読んでくること。
《復習》保育所保育指針解説等の3歳以上児の領域「人間関係」を読む。
【予習復習に必要な想定時間】
各30分

第６回　子どもの人間関係と社会性・道徳性

【key words】
「自己理解と他者理解」
「社会性」
「道徳性」
「規範意識の芽生え」
【授業概要】
人との関わりの中で育まれる社会性と人との関わりを円滑にするための道徳性について、それらがどのように芽生え、獲得していくのかについて事例やワークを通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P71～82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P71～82を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　家庭や地域との連携

【key words】
「保護者支援」
「連携」
「地域との関わり」
「専門機関」
【授業概要】
子どもの育ちを支えるために求められる様々な連携のその方法と内容について考える。また具体的な保育場面を想定した事例を使い、保育者に求められる対応について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
P83～97
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P83～97を読んでくること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　保育者が紡ぐ「人間関係」

【key words】
「モデルとしての保育者」
「子ども理解」
「保育の質」
【授業概要】
これまでの学びの振り返りを通して、子どものモデルとしての保育者の在り方についてワークを通して考え、自分が目指す保育者像を領域「人間関係」の視点から明らかにする。
【教科書ページ・参考文献】
P98～103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P98～103を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　子どもの生活の中で育まれる人間関係

【key words】
「生活環境」
「生活体験」
「当番活動」
【授業概要】
人間関係の育みに大きな影響を与える園の生活環境について考え、それを整える保育者の役割について事例やワークを通して考察する。
【教科書ページ・参考文献】
P112～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P112～122を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　子どもの遊びの中で育まれる人間関係

【key words】
「関わりの体験」
「関わりの理解」
「遊びの環境」
【授業概要】
遊びの中で育まれる人間関係について理解し、関わりの体験を意識した環境を構成するための着眼点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P123～131
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P123～131を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　保育の展開と指導計画

【key words】
「指導計画」
「保育の構想」
「保育展開」
【授業概要】
指導計画の意義について理解し、指導計画案における領域「人間関係」の位置づけについて学ぶ。また、領域「人間関係」の視点に基づいた指導計画を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
P132～141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P132～141を読んでくること。
《課題》領域「人間関係」の視点に基づいた指導計画の立案
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分・課題60分

第１２回　指導計画と実践

【key words】
「指導計画と評価」
「実践と検討」
「PDCAサイクル」
【授業概要】
自らが作成した指導計画をもとに模擬保育を実践する。模擬保育を振り返り、領域「人間関係」の観点から評価し、改善点を見出す。
【教科書ページ・参考文献】
P142～149
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P142～149を読んでくること。
《復習》立案した指導計画の改善点をまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　多様な配慮と保育の構想

【key words】
「多様性」
「個と集団の育ち」
「保育記録」
【授業概要】
「特別な配慮を必要とする子ども」についての理解を深め、多様性を認め合える保育を展開するために必要とされる配慮の方法と記録について具体的に学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 P150～158 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P150～158を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　小学校生活への接続 【key words】 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 「保幼小接続」 「連続性」 【授業概要】 保幼小連携の重要性について理解し、その在り方について考える。子どもの育ちの連続性を保障するためのアプローチカリキュラムとスタートカリキュラムについて学び、その連携に向け領域「人間関係」で子ども達に育てたいことを考える。 【教科書ページ・参考文献】 P159～168 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P159～168を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ 【key words】 「社会生活との関わり」 「保育者の専門性」 【授業概要】 子どもを取り巻く現代的諸問題と向き合い、改めて「保育者の専門性」について考える。子どもの人間関係の育ちを支え、自らも人的環境となる保育者の在り方から自分自身を今一度見つめ直し、これからの学びに繋げていく。 【教科書ページ・参考文献】 幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの学びを振り返り、幼稚園教育要領解説等の領域「人間関係」を読み込むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	○オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Word ファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ○ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ○授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ○やむを得ず遅刻、欠席等をする場合には必ず連絡すること。 ○提出物は〆切厳守。 ○受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○シラバスに記載された教科書のページを事前・事後に目を通す。 ○参考資料に記載してある解説書の関連ページを予習復習で活用する。
オフィスアワー	初回授業時に連絡する
評価方法	定期試験（60%）授業内レポート（40%）の総合評価
教科書	ワークで学ぶ保育内容「人間関係」　菊地篤子著　みらい 厚生労働省「保育所保育指針解説」2018.フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」2018.フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」2018.フレーベル館
参考書	厚生労働省「保育所保育指針」 文部科学省「幼稚園教育要領」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園教諭としての実務経験を活かし、領域「人間関係」のねらい及び内容について具体的な事例をもとに解説をする。また、保育を展開していくための方法や技術について、現場で活用されている教材等を提示し活用する際のポイントや留意事項について具体的に講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容（言葉）　　授業コード： S4141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 領域「言葉」のねらい・内容・内容の取り扱いについて理解する。子ども達の「言葉」の成長を支援できる保育者を目指す。 【到達目標】 ・領域「言葉」について理解し、保育・教育計画の立案と評価のための視点を得る。 ・理論を踏まえてどのように実践が行われているのか理解し、自らの実践に活かす力を養う。 ・言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援の方法を考えられるようにする。 ・子どもの言葉の発達を知り、言葉掛けの大切さを学ぶ。
授業の概要	５領域の「言葉」について基礎、実践、実技、発展という流れで学び、ステップアップしながら学習する。 生後間もない乳児への言葉掛けから就学時前の子どもへの言葉掛け、配慮が必要な子どもへの言葉掛け等、子どもの年齢や個人差、性格に合わせた言葉掛けを学んでいく。 保育所保育指針における3つの視点と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について理解する。 子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の実践（計画・実践・省察・評価・改善）の実際について理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　　オリエンテーション、保育内容「言葉」の意義①　幼児教育と保育内容「言葉」 【key words】 人間と言葉 【授業概要】 ・この授業の取り組み方、全15回のペース配分などを伝える。 ・人間としてのコミュニケーションのはじまりについての段階を説明。 ・かかわりから言葉へ繋がっていく働きについて。（さまざまな体験・経験を積み重ねながら、言葉を広げ　る） 【教科書ページ・参考文献】 テキストp13～16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「泣く」と「保護者の行為」の繰り返しの中でどのようなことが築かれていくのかまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第２回　　保育内容「言葉」の意義②　幼児と言葉

【key words】
コミュニケーションと言葉

【授業概要】
・言葉の5つの手段　①コミュニケーションとしての手段②思考する手段③行動を調整する手段④自己を表現する　手段⑤　ものや行為を意味づける手段　についての解説。
・保育内容「言葉」における保育者が担う役割を事例を通してグループで検討し、理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp17～23

【課題・予習・復習・授業準備指示】
言葉を使うときに何の手段の言葉か意識して分類してみる
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　　領域「言葉」のねらいと内容
【key words】
幼稚園教育要領と保育所保育指針と幼保連携型認定こども園教育・保育要領

【授業概要】
・「ねらい」を達成するために、領域「言葉」ではどのような内容に沿って保育を展開することが望ましいのか　考えていく。
・乳児保育、1歳以上3歳未満児、3歳以上児に関わる「ねらい」および「内容」を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp25~31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
要領、指針および教育・保育要領の領域「言葉」に関する「ねらい」および「内容」の理解を更に深められるようまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第４回　　子どもの言葉の発達①　言葉のめばえ
【key words】
言葉を育む環境　-生後間もない乳児への声かけから-

自身の乳児期の様子を家の方に聞いてみる

【授業概要】
・言葉の発声訓練としての笑いと身体の動きについて説明する。
・喃語が言葉になるまでの保育者のかかわりと意味づけを考える。
・目に見えないものを他者と共有する、表像機能の発達について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp39～41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の乳児期の様子を家の方に聞き、発語から言葉を覚えていく過程を表、または図式化したものを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　　子どもの言葉の発達②　言葉による世界の秩序化
【key words】
感情と経験を含めた言葉の理解

【授業概要】
・コミュニケーションの道具から思考の道具への移行について説明する。
・感情や経験と結びついた「自分なりの表現」とはどのようなものなのか具体例を挙げて考えてみる。
・子どもの言葉に耳を傾けながら、「言葉とは？」「意味とは？」と興味を広げ、考えを深めていく姿勢を整え　ていく。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp42～49

【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例課題の検討をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　子どもの言葉と環境

【key words】
発達初期の養育環境の重要性
愛着関係

【授業概要】
・愛着関係と言語発達について。また初期の養育環境とその後の言語発達。
・応答的環境と愛着関係について。
・話し言葉からはじまる言葉の理解と表現についての説明。
・環境としての仲間と集団生活についての配慮を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp51~57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストｐ58~59「読み・書き言葉と環境」をまとめる。
次週読み合いをする赤ちゃん絵本を1~2冊用意しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　保育者の指導・支援１　　０歳児から２歳児までの言葉と保育者のかかわり

【key words】
仕草から聞こえる言葉

【授業概要】
・やりとりの楽しさの経験の積み重ねが、言葉を使ったコミュニケーションへと発展していく過程の説明。
・２歳児の言葉の増加の背景には増徴機能やイメージの発達があげられることを、事例に基づき解説していく。
・０～２歳児向けの絵本を読んでみる。（ペアになり、赤ちゃん役と保育者役になって読み合う）
【教科書ページ・参考文献】
テキストp63~70　絵本「がちゃがちゃ　どんどん」元永定正　「もけら　もけら」山下洋輔「かおかおどんなかお」柳原良平

【課題・予習・復習・授業準備指示】
赤ちゃん絵本をピックアップし、自分が保育に使いたい絵本リストを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　保育者の指導・支援２　　３歳児から６歳児までの言葉と保育者のかかわり

【key words】
育ちの連続性と指導・支援の継続性

【授業概要】
・子どもの話したい気持ちを十分に聞き入れていくことの大切さについて理解する。
・言い間違いを指摘することで子どもの自尊感情を損なう可能性もあるので、間違いを否定的に捉えず、自然　に自己訂正ができるようになるように心がける支援法について学ぶ。
・テキストｐ70事例4とｐ72事例5についてグループワークを行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp70~74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事例課題の検討をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援①　　言葉の発達が気になる子ども

【key words】
子どもの言葉の育ち

【授業概要】
・言葉の育ちにかかわる諸課題を挙げてみる。
・言葉の発達の遅れ（言葉含まれる3つの要素）、　発語の課題、意味の理解、コミュニケーションの課題に　ついて考える。
・構音障がい、吃音、聴覚障がい、脳性麻痺についての障がいについて理解を深め、支援の手立

てを検討す　　る。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp75～83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワーキングメモリ4つの側面を図式化する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　　言葉でのかかわりに配慮を必要とする子どもへの指導・支援②　言葉の発達に障がい・課題を抱えている子どもの保護者とのかかわり

【key words】
保護者の気持ち

【授業概要】
・障がいを抱える子どもの保護者の気持ちを知る。
・生活環境が狭くなってしまわないよう、さまざまなことをつないでいく手段・方法を考える。
・テキストｐ81~82の事例についてグループワークを行う。
・専門機関との連携について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp84～95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
言葉の発達課題についてどのような専門機関に相談できるのか調べる。また、専門機関から支援への流れをまとめておく。
次週の準備として、絵本・紙芝居等を2~3つ用意しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　　児童文化財１　　絵本、素話、紙芝居　など

【key words】
保育とお話

友達同士で絵本を読み合ってみる

【授業概要】
・絵本の種類、役割について学ぶ。
・ストーリーテリングの選び方、覚え方、語り方について学ぶ。
・紙芝居の演じ方の基本を身につける。
・少人数のグループを作り、絵本・紙芝居・素話の実演をする。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp99～113
絵本「おばけれっしゃ」　作・絵しのだこうへい　ひさかたチャイルド
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育に活用したい絵本・紙芝居を年齢別にリストを作成する。
素話ができるように練習する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　　児童文化財２　　言葉遊び・演じられる物語

【key words】
子どもと楽しむ言葉遊びの実践

【授業概要】
・なぞなぞ、しりとり、ダジャレ、早口言葉、伝言ゲームなど実際にやってみる。
・手遊びの紹介。伝承遊びの実践をグループにわかれ、やってみる。良かった点や改善点などを伝え合い、保　育技術を向上させる。
・豊かな言葉の体験としての「演じられる物語」について楽しむ気持ちを育む。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp115～138
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ことば遊び、手遊び、なぞなぞのレパートリーを増やす。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

	第１３回　　言葉の指導計画 【key words】 指導計画の考え方 【授業概要】 ・教育課程、全体的な計画の位置づけと役割について学ぶ。 ・長期の指導計画と短期の指導計画について理解する。 ・事例からみる「言葉」の指導計画を実際に書いてみる。 ・テキストp151~152表11-2「日の指導計画」から書き入れるポイントを見つける。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp143~152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導計画の事例を集めておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　　発展事例　　保育内容「言葉」のまとめ 【key words】 愛着行動の重要性 １～１５回の内容をもう一度ノート、ワークシートを確認しておくこと 【アクティブラーニングについて】 【授業概要】 ・０歳～６歳の乳児から幼児の言葉の発達についての事例をいくつかあげ、これから現場で出会う子どもたちへ　の対応や支援を考えていく。 ・愛着行動によって子どもの精神の発達に与える影響の説明。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp153～159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までの内容をもう一度ノート、ワークシート等を見直し、理解が足りないところを書き出しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１５回　　言葉と国語教育　―小学校へ― 【key words】 国語へのつながりと学習のはじまり 【授業概要】 ・読み聞かせについて（読み聞かせの回数、配慮点、絵本を選ぶ基準など） ・読み聞かせと小学校教育へのつながり。 ・保育内容「言葉」と小学校「国語科」を接続させる保幼小連携を考える。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp161～170　音読の森①教育同人舎 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保幼小連携について調べてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	保育士資格・幼稚園教諭免許取得の学生は全ての講義に出席すること 予習、復習をしっかり行い、授業への理解度を高める 積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用は厳禁） ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること 「意見交換」や「他者説明」を促した際には、近くの学生と積極的に取り組むこと 欠席、遅刻する場合は、学校に連絡すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	子どもの言葉の発達だけでなく、子どもの発達全般についての理解を深める。児童文化財を積極的に活用すること。
オフィスアワー	月曜10：30～12：00　　それ以外の時間は、アポイントを取って下さい。
評価方法	授業への取り組み、授業時に課す課題等３０％、筆記試験５０％、提出物２０％を総合的に評価する。
教科書	駒井美智子編：保育者を目指す人の保育内容「言葉」第2版：みらい２０１２

参考書	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育、保育要領　　フレーベル館 絵本「おばけれっしゃ」作・絵しのだこうへい　ひさかたチャイルド
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習②ディスカッション・ディベート③グループワーク④プレゼンテーション 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 幼稚園教諭、小学校教諭の経験を活かし、子どもへの言葉かけや、言葉を取り巻く環境、言葉の発達、問題について講じます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 学習状況などにより、授業計画を変更する場合もある。

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（施設）　　授業コード：S4184　S4187

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①児童福祉施設等の社会福祉施設の役割や機能を具体的に理解する ②観察や子ども・利用者との関わりを通して子ども・利用者への理解を深める ③既習の教科内容をふまえ、子ども・利用者への保育（養護・療育・介助・介護）及び保護者への支援を総合的に学ぶ ④保育（養護・療育・介助・介護）の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する ⑤保育士等の専門職種職員の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ
授業の概要	■実習履修資格者 ①将来、保育士として児童福祉施設等の社会福祉施設で働く意志を強く持っているも者。 ②子どもの福祉等の関連教科目の学習及びボランティア活動等の実践活動に熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うにあたって適当と認められる者。 ③保育士資格取得に必要な教科目の単位を取得しているか、取得する見込みのある者。 ④「保育実習指導Ⅰ（施設）」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」および「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか、取得見込のある者 ■実習期間は、12日間以上90時間以上とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回

	第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習生に帰すべき責任によって実習の継続が困難と判断される次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則及びそれに準ずる実習上のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により実習の継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指導に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	―
授業外時間にかかわる情報	―
オフィスアワー	―
評価方法	①実習施設による評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習目標の達成状況（10%） ④実習日誌等記録の内容（10%） ⑤実習報告書の内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（10%） ＊実習が修了しても提出物が提出されない場合は、実習の単位は認定しない。
教科書	群馬医療福祉大学　実習ガイドブック　群馬医療福祉大学　2021
参考書	指定なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）にて１５年間、児童相談所にて５年間勤務し、多様な課題を抱える子どもの福祉に携わるとともに、保育所・幼稚園等へのコンサルテーションの経験からインクルーシブ保育の実践にも精通している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会的養護Ⅱ　　授業コード：S4202

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会的養護の基本理念について学び、将来児童福祉の専門職としての実践力を養う。 【到達目標】 児童の権利擁護を基本理念とする要保護児童の保護、自立を支援していく児童福祉施実践を学び社会的養護の課題と対　応策について考察力を養う。
授業の概要	急増している児童虐待は子どもの心身の成長に深刻な影響を与えており、これらの子どもの社会的養護の基本理念、法制度、施設現場の実践を学ぶ。そして将来保育現場や児童養護施設等児童福祉の専門職員を目指す者に対して現場で役に立つ実践的な知識の取得と支援力を養う学習をする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	・オリエンテーション・施設養護の基本原理→・運営指針の基本理念・基本原理 【key words】 「社会的養護とは」「第3者評価」「子どもの最善の利益」 【授業概要】 授業の概要について説明する。前期の振り返りを行う。施設養護における運営指針に関して学ぶ。第3者評価などの適切な施設へのアセスメントについて理解する。児童の権利に関する条約について理解し、子どもの最善の利益について学ぶ。 【教科書ページ】 P88～97
	第２回	・施設養護の実際→・日常生活の支援 【key words】 「日常生活支援」「学習支援」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の生活について学ぶ。学習支援などどのような方々が関係しているかについても学ぶDVD教材を視聴し、児童養護施設の流れなどについて理解する 【教科書ページ・参考文献】 P98～104
	第３回	・施設養護の実際→・自立支援 【key words】 「自立支援」「リービングケア」「アフターケア」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の入所前後、退所前後について学ぶ。ライフストーリーワークなど施設で生活する児童が行うワークなどについても理解していく・ 【教科書ページ・参考文献】 P105～110
	第４回	・施設養護の実際→・治療的援助を必要とする背景・子どもの行動特性・援助体制の整備 【key words】 「治療的援助」「行動特性」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童に対する心理的な治療について学ぶ。虐待を受けた子どもの行

動、特徴、発達障害についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P111～120

第５回　・施設養護の実際→・治療的支援・援助の実際
【key words】
「心理担当職員」「治療的かかわり」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の心理的な治療方法（例：遊戯療法、箱庭療法）について知る。具体的な事例を通して個別対応職員の治療的かかわりなどについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P111～120

第６回　・施設養護の実際→・家族支援
【key words】
「家族再統合」「家族支援」「関係調整」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の家族との関係について学び、関係調整の方法について事例を通して理解する。家族関係を捉える視点を養う。エゴグラムについても知る。
【教科書ページ・参考文献】
P121～133

第７回　・施設養護の実際→・地域支援の必要性・地域支援の実際
【key words】
「地域支援」「トワイライトステイ」「虐待予防」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の生活のみならず、地域とのかかわりについて学ぶ。社会的養護を必要とする児童の施設が入所児童のみを対象としないことを理解し、どのように施設を活用しているか学ぶ。
レポート課題または小テストを実施し、理解度の確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】
P121～133

第８回　・社会的養護とソーシャルワーク→・ソーシャルワーク・ソーシャルワークの構成要素等
【key words】
「ソーシャルワーク」「働きかけの多様性」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童へのソーシャルワークに関して学び、事例を通して理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P134～144

第９回　・社会的養護とソーシャルワーク→・ソーシャルワークの展開過程・児童自立支援計画とソーシャルワーク・　ファミリーソーシャルワーカー（家庭支援専門相談員）
【key words】
「FSW」「家族面接」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の施設におけるFSWの役割について学び、家族面接の設定などについて具体的な事例を通して学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P134～144

第１０回　・児童福祉施設の運営管理→・運営管理の仕組み（設立の経緯・理念・法人理事会等）
【key words】
「施設運営」「建物・運営形態」「職員配置」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の施設の運営しについて学ぶ。最低基準や職員配置などを理解し、施設の運営にはどのようなことが必要か学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P145～160

第１１回　・児童福祉施設の運営管理→・施設の設備及び運営に関する基準・措置制度・苦情解決等
【key words】
「勤務体制」「措置制度」「施設内虐待防止」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の施設の職員の勤務体制について理解し、子どもの措置に関することや、施設での虐待防止に関して理解する。
小テストまたはレポート課題を実施し、理解度の確認を行う。
【教科書・参考文献】
P145～160

第１２回　・児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理→・児童福祉を目指す学生に見られる傾向と特徴
【key words】
「援助者に求められる資質」「倫理観」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の施設を希望する学生に求められるものや、学ぶべきことについて理解する。また、勤務に関して職員としての倫理観など道徳的なことに関して理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P161～171

第１３回　・社会的養護のあるべき姿→・子どもの権利擁護・生活単位の小規模化・里親制度
【key words】
「社会的養護とソーシャルアクション」「小規模化と課題」
【授業概要】
社会的養護を必要とする児童の施設におけるソーシャルアクションについて学び、グループ活動を通して小規模化などの課題解決の取り組みを行う。
【教科書ページ・参考文献】
P172～186

第１４回　・社会的養護のあるべき姿→･社会的養護の地域化・授業の総まとめ
【key words】

	「小規模住居型児童養育事業」「里親制度」「地域化」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の施設の事業について学び、地域との連携に関してもこれまで学んだ知識を活用しながら検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P172～186 第１５回　社会的養護とは：全体の振り返り 【key words】 「社会的養護とは」「被虐待児」「家族とは」 【授業概要】 社会的養護を必要とする児童の生活についてこれまで学んだ知識を復習する。実際の事例について検討し、課題解決能力を身につける。社会的養護を取り巻く社会との関係性など、様々な視点から多角的に検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P88～186
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・日頃の日常生活のなかで児童虐待等要保護児童に関わる情報に関心を持って授業に臨まれたい。 〔受講のルール〕 ・出席時間の厳守。授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語・携帯電話等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・予習復習に努め、わからない内容は放置しないで授業時に質問等行って解決するよう努めること。 ・欠席した際には、配布資料を次回までに教員の下へ取りに行くこと。
オフィスアワー	･質問事項等は、コメントカードに記入すること。次回授業時にインフォメーションします。
評価方法	・定期試験70％、授業中の課題（レポートまたは小テスト提出）30％で総合評価します。 但し、定期試験が60％未満の場合は、再試験とします。
教科書	・ミネルヴァ書房：新プリマーズ/保育/福祉・小池由佳/山縣文治編著 ・日本子どもを守る会編『子ども白書』かもがわ出版
参考書	・社会福祉小六法。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）　　授業コード：S4231　S4232　S4233

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育の表現技術Ⅰ（音楽）にて修得した基本的な音楽の知識とピアノ演奏技術を基礎として、保育や幼児教育の現場において求められている表現活動についてより深く理解し、速やかに実践(パフォーマンス）できるよう、知識や技術を習得する。弾き歌いについての基礎技術とともに絵画的表現を合わせて総合的な表現技術を身につけることを目的とする。 【到達目標】 ①弾き歌いについてピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を習得し、絵画表現と合わせて総合的に捉え、発表や指導が出来るようになること。 ②こどもの発達に即したパフォーマンスが出来るようになること。
授業の概要	総合的な表現の発表や指導ができるように、子どもの発達に即した物語の創作、絵画的表現の制作、選曲や効果音、導入、手遊び等について学ぶ。また、グループ内において個別に指導し各自のパフォーマンス技術を高められるように進行する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 オリエンテーション・クラス分け・リズム遊び・パフォーマンスの説明。 学生それぞれの進度に合わせた曲決め。弾き歌いはこどもの発達に応じ、季節・行事・遊び歌等を選曲しピアノ伴奏・コード奏・アレンジを学ぶ。ピアノ曲はバイエル終了程度を目標とする。 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・創作物語内容説明小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・コード奏・アレンジ・ピアノ曲 【key words】 1年次に修得した基本的な音楽知識とピアノ演奏技術を基礎としてレベルアップを図る 【授業概要】 ①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。 ②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。) ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第３回	学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・コード奏・アレンジ・ピアノ曲 【key words】 楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいて演奏する。 【授業概要】 ①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。 ②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。) ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第４回	学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・アレンジ・ピアノ曲 【key words】 楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいて演奏する。 【授業概要】 ①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。 ②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。) ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第５回	学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・アレンジ・ピアノ曲 【key words】 楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいて演奏する。 【授業概要】 ①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。 ②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。) ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第６回	学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・アレンジ・ピアノ曲 【key words】 楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいて演奏する。 【授業概要】 ①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。 ②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。) ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第７回	学生それぞれの進度に応じた授業：ピアノ伴奏法・弾き歌い・アレンジ・ピアノ曲 【key words】 楽典の知識（音、リズム、テンポ、強弱、拍、曲想、歌唱）に基づいた表現方法を学ぶ。 【授業概要】 ①楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。 ②弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。) ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。

【予習復習に必要な想定時間】
20分

第８回　パフォーマンス・リズム遊びと学生それぞれの進度に応じた授業

【key words】
こどもの発達に即したパフォーマンス・リズム遊びが出来るようになること。
【授業概要】
①２～３人組になりこどもの発達に応じた選曲をし、1人がピアノ伴奏、もう1人が歌いながらパフォーマンス・リズム遊びをする。クラスごとに小さな発表会形式で実践する。
②楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
③弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
④ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：選曲に合わせたパフォーマンスが出来るように協力し合って練習する。
弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第９回　パフォーマンス・リズム遊びと学生それぞれの進度に応じた授業

【key words】
こどもの発達に即したパフォーマンス・リズム遊びが出来るようになること。
【授業概要】
①２～３人組になりこどもの発達に応じた選曲をし、1人がピアノ伴奏、もう1人が歌いながらパフォーマンス・リズム遊びをする。クラスごとに小さな発表会形式で実践する。
②楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
③弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
④ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：選曲に合わせたパフォーマンスが出来るように協力し合って練習する。
弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　パフォーマンス・リズム遊びと学生それぞれの進度に応じた授業

【key words】
こどもの発達に応じたパフォーマンス・リズム遊びが出来るようになること。

【授業概要】
①２～３人組になりこどもの発達に応じた選曲をし、1人がピアノ伴奏、もう1人が歌いながらパフォーマンス・リズム遊びをする。クラスごとに小さな発表会形式で実践する。
②楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
③弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
④ピアノ曲(楽典知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：選曲に合わせたパフォーマンスが出来るように協力し合って練習する。
弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。ピアノ曲は表現豊かな演奏を心掛ける。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１１回　パフォーマンス・リズム遊び学生それぞれの進度に応じた授業

【key words】
こどもの発達に応じたパフォーマンス・リズム遊びが出来るようになること。
【授業概要】
①２～３人組になりこどもの発達に応じた選曲をし、1人がピアノ伴奏、もう1人が歌いながらパフォーマンス・リズム遊びをする。クラスごとに小さな発表会形式で実践する。
②楽典の知識(音・リズム・テンポ・強弱・拍・曲想・歌唱等)に基づいた表現方法を学ぶ。
③弾き歌い(歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。特に伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めない技術を身につける。)
④ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：選曲に合わせたパフォーマンスが出来るように協力し合って練習する。
弾き歌いはコード・アレンジを学び暗譜する。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１２回　学生それぞれの進度に応じた授業：前期試験にむけて

【key words】
前期試験に向けて：試験曲弾き歌い決定
【授業概要】

		ピアノ曲・弾き歌い（試験曲数のクリアに向けて） 　弾き歌いの練習 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いは伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めないようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１３回	学生それぞれの進度に応じた授業：前期試験にむけて 【key words】 前期試験に向けて：試験曲弾き歌いの練習と暗譜 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（課題曲数のクリアに向けて） 　弾き歌いの練習 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いは伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めないようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１４回	学生それぞれの進度に応じた授業：前期試験にむけて 【key words】 前期試験課題に向けて：人前での演奏 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（授業内課題をクリアする） 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いは伴奏が止まってもこどもに負荷をかけないように歌や音楽の流れを止めないようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１５回	前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 前期試験課題に向けて：リハーサル 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（授業内課題をクリアする） 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲の仕上げ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１６回	科目（後期）オリエンテーション　模擬保育：創作課題パフォーマンス内容についてのガイダンス及びＤＶＤ鑑賞 【key words】 後期授業概要 【授業概要】 情報機器及び教材の活用。模擬保育：創作物語作成課題の実践記録動画を鑑賞する。また、製作のためのプリント教材の説明をする。創作物語作成は２～３名一組で4場面または６場面の物語を作り、それぞれに合った選曲をし、弾き歌い、絵画表現、パフォーマンスをする。仕上がったら模擬保育のための導入・まとめをして物語の主旨を明確に伝えて実践をする。 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：弾き歌いは前期に引き続き、歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。ピアノ曲は表情豊かな演奏を心掛ける。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第１７回	総合的な表現：創作物語課題と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 創作物語課題　こどもの発達に応じた素材研究(1) 【授業概要】 ①創作物語：対象年齢を考慮した物語の素材を考える。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表情豊かな演奏を心掛ける。)

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語作成の素材研究。弾き歌い、ピアノ曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１８回　総合的な表現：創作物語課題と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
創作物語作成課題　こどもの発達に応じた素材研究(２)

【授業概要】
①創作物語作成：対象年齢を考慮した物語の素材を考える。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを学ぶ。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表情豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語作成の素材研究。弾き歌い、ピアノ曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１９回　総合的な表現：創作物語課題と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
創作物語のストーリーに合った選曲(1)
【授業概要】
①創作物語作成：ストーリーに合った選曲(弾き歌いは替え歌をしても良い)を考える。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表情豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語のストーリーに合った選曲。弾き歌い、ピアノ曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２０回　総合的な表現：創作物語課題と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
創作物語のストーリーに合った選曲(２)

【授業概要】
①創作物語作成：ストーリーに合った選曲(弾き歌いは替え歌をしても良い)を考える。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表情豊かな演奏を心掛ける。)

【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語のストーリーに合った選曲。弾き歌い、ピアノの練習。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２１回　総合的な表現：模擬保育(創作物語課題)と学生それぞれの進度に応じたj授業
【key words】
制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。
【授業概要】
①主旨：これまで習得して来た表現方法の基本的技術に絵画表現とパフォーマンスを合わせ総合的に捉え発表や指導が出来るようになること。
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語をどの様に展開させるかを考える。弾き歌い、ピアノの練習。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２２回　総合的な表現：模擬保育(創作物語課題)と学生それぞれの進度に応じた授業
【key words】
制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。
【授業概要】
①創作物語制作準備・役割分担等
②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。
③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。)
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：創作物語制作にあたり担当場面を決めて練習する。弾き歌い、ピアノの練習。
【予習復習に必要な想定時間】
20分

	第２３回	総合的な表現：模擬保育(創作物語制作課題)と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。 【授業概要】 ①創作物語制作準備・音楽選曲・ＢＧＭ・効果音等。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：創作物語制作にあたり、音響効果を考える。弾き歌い、ピアノの練習。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２４回	総合的な表現：模擬保育(創作物語制作課題)と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。 【授業概要】 ①創作物語制作準備・ストーリーに合ったパフォーマンスを考える。紙芝居、ペープサート、人形劇、パネルシアター等。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：創作物語制作にあたり、音響効果に加え、パフォーマンスの方法を考える。弾き歌い、ピアノの練習。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２５回	総合的な表現：模擬保育(創作物語制作課題)と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。 【授業概要】 ①創作物語制作とストーリーに沿ったパフォーマンス(弾き歌い、音響効果、紙芝居、ペープサート、人形劇、パネルシアター等)に加え、導入・まとめ・時間配分を考える。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・グループ指示：創作物語課題全場面仕上げに入り模擬保育に繋げていく。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２６回	総合的な表現：模擬保育(創作物語制作課題)と学生それぞれの進度に応じた授業 【key words】 制作した創作物語を題材に模擬保育の準備をする。 【授業概要】 ①創作物語制作とストーリーに沿ったパフォーマンス(弾き歌い、音響効果、紙芝居、ペープサート、人形劇、パネルシアター等)に加え、導入・まとめ・時間配分を考える。 ②弾き歌いは歌詞の理解・伝え方・伴奏・アレンジ・コードを考える。 ③ピアノ曲(楽典の知識に基づいて表現豊かな演奏を心掛ける。) 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・グループ指示：創作物語課題全場面仕上げに入り模擬保育に繋げていく。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２７回	総合的な表現：模擬保育・創作課題リハーサル① 【key words】 模擬保育実践リハーサル前半グループ 【授業概要】 模擬保育・創作物語課題全場面リハーサル前半グループ 【教科書ページ・参考文献】 新・幼児の音楽教育・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・グループ指示・全体指示：創作課題改善のアドバイス及びサポート 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２８回	総合的な表現：模擬保育・創作課題リハーサル② 【key words】 模擬保育実践リハーサル後半グループ 【授業概要】

	模擬保育・創作物語課題全場面リハーサル後半グループ 【教科書ページ・参考文献】 新・幼児の音楽教育・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・グループ指示・全体指示：創作課題改善のアドバイス及びサポート 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２９回　後期実技試験について/後期のまとめ① 【key words】 後期試験に向けて：試験曲の確認 【授業概要】 ①模擬保育発表リハーサルの反省点を踏まえて創作課題の仕上げ、担当場面と試験曲確認 ②課題曲数のクリアに向けて 【教科書ページ・参考文献】 新・幼児の音楽教育・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：創作物語課題担当場面と試験曲の練習。 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ②（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について：試験曲の確認 【授業概要】 ①模擬保育発表リハーサルの反省点を踏まえて創作課題の仕上げ、担当場面と試験曲確認 ②授業内課題をクリアする 【教科書ページ・参考文献】 新・幼児の音楽教育・保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：創作物語課題担当場面と試験曲の練習。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。
オフィスアワー	授業終了後の３０分間
評価方法	実技試験70%・授業内課題20%・創作課題リハーサル10%
教科書	①『新・幼児の音楽教育』朝日出版社　②バイエル『ピアノ教則本』全音楽譜出版社　③ブルクミュラー『25の練習曲』全音楽譜出版社　④小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社　⑤小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・田丸信明編『新訂ピアノの森２』GAKKEN・田丸信明編『新訂ピアノの森３』GAKKEN・『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社・『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）

	□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童文化（演習）　　授業コード：S4313

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「児童文化」は大人が子どもに与える文化財や子どものための施設や活動を対象とするだけでなく、子どもによって生み出されるものも含む。子どもを取り巻く現状に目を向け、文化的で豊かな生活を営むとはどういうことなのか理解すると同時に、児童文化財についての知識を深め、子どもと共に文化的な生活を構築するための知識や技能、感性を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 〇子どもを取り巻く文化環境に関する知識や理論を身に付ける。 〇児童文化財についての知識を深め、子どもと共に文化的な生活を構築できる知識と技能を身に付ける。 〇子どもの発達に関する知識を踏まえ、保育者として児童文化財を活用できる実践力、応用力を身に付ける。
授業の概要	児童文化の歴史的変遷を踏まえた上で、保育者として身に付けておくべき基本知識とその知識を保育現場で活かすための具体的方法について学ぶ。特に、子どもの感性と想像力を育むために有効とされる児童文化財についての知識を深め、その活用方法を実践を通して学ぶことで保育者として必要とされる実践的指導力を養成する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	児童文化の世界を知ろう 【key words】 児童文化 表現力 想像力 センス・オブ・ワンダー 【授業概要】 「ことば」と「表現力」は自分が自分らしくあるために必要不可欠であり、生きていくために必要な力である。子どもの「ことば」と「表現力」を豊かに育むものの一つとしての「児童文化」について理論的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～17 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P10～17を事前に読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第２回	保育の中で児童文化を考える 【key words】 子ども観 児童文化財 保育環境 【授業概要】 児童文化という言葉がどのようにして誕生し、どのような意味を担ってきたかについて理解し、

		保育における児童文化と子どもの出合いと保育者の役割について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P20～31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P20～31を事前に読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第３回	児童文化の歴史 【key words】 歴史的変遷 幼稚園 恩物 【授業概要】 児童文化が時代とともにどのように変化してきたか、その歴史的変遷について学び、そこから現代の児童文化の在り方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P34～50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P34～50を事前に読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第４回	子どもの育ちと児童文化 【key words】 文化的環境 家庭・地域・学校とのつながり 生きる力 【授業概要】 子どもの成長・発達の段階に配慮し、保育者としてその時期にふさわしい文化的環境を整えるために必要なことを家庭、地域、学校とのつながりに視点をおいて考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P52～62 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P52～62を事前に読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第５回	児童文化財を保育に生かす：わらべうた・あそびうた① 【key words】 わらべうたのはじまり あそびうたの魅力 【授業概要】 保育という集団の場で遊ばれる「わらべうた」や「あそびうた」の意義について学び、自らの幼少期を思い出しながら遊び方とそのポイントについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P68～86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P68～86を事前に読んでおくこと。 課題：自分の知っている「わらべうた」「あそびうた」について次回授業時までに調べてまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 課題60分
	第６回	児童文化財を保育に生かす：わらべうた・あそびうた② 【key words】 わらべうたのいろいろ あそびうたのいろいろ 【授業概要】 今も昔も変わらず子どもたちの心を動かす「わらびうた」と「あそびうた」について、実践することを通してその楽しさと遊びのポイントを押さえ、保育での取り入れ方を具体的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P68～86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自分で調べた「わらべうた」「あそびうた」を実践できるよう練習してくる 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分
	第７回	児童文化財を保育に生かす：ことばあそび 【key words】 詩 しりとり なぞなぞ 書き言葉 【授業概要】 言葉を獲得していく段階にある乳幼児期の子どもたちの言葉との出合いを楽しいものにするための「ことばあそび」について実践を通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P92～103 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P92～103を事前に読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第８回	児童文化財を保育に生かす：おはなし 【key words】 素話

		ストーリーテリング 【授業概要】 子どもと視線を合わせ、子どもの様子を見ながら言葉だけで物語を語る「おはなし」の魅力と演じる際のポイントについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P106～117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P106～117を事前に読んでおくこと。 課題：おはなしを覚えて語れるようにする（第15回目に発表予定） 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第９回	児童文化財を保育に生かす：絵本と童話① 【key words】 絵本 童話 読み聞かせ 【授業概要】 子どもを夢中にさせる「絵本」や「童話」とは何なのか。子どもにとって絵本や童話を読んでもらう意味や魅力的な絵本の選び方、読み聞かせのポイントについて考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P120～142 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P120～142を事前に読んでおくこと。 課題：次回の実践に向けて絵本を選び、下読み、読み聞かせの練習をしておく 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分 課題：60分
	第１０回	児童文化財を保育に生かす：絵本と童話② 【key words】 読み聞かせの実践 【授業概要】 絵本についての理論的な学びを活かし、保育現場を想定した読み聞かせの実践を行う。また、学生同士で評価し合うことで読み聞かせのポイントと留意点を互いに学び合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P120～142 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：保育における読み聞かせの場面を想定して練習しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分
	第１１回	児童文化財を保育に生かす：紙芝居 【key words】 紙芝居 【授業概要】 紙芝居の魅力について、絵本と比較しながら考える。また、保育現場を想定して実践することで、紙芝居の特性、魅力、見せ方、演じ方のポイントを理解し、紙芝居から遊びへの展開について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P144～156 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P144～156を事前に読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第１２回	シアタースタイルの児童文化財 【key words】 人形劇 ペープサート パネルシアター エプロンシアター 手袋シアター 紙皿シアター マジックシアター 【授業概要】 子どもたちの心を引き寄せ、新しい世界との出合いを作るために保育現場でよく用いられているシアタースタイルの児童文化財について、それぞれの特徴を知り、作成と保育における実演のポイントを具体的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P158～169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P158～169を事前に読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第１３回	シアタースタイルの児童文化財の作成：パネルシアター① 【key words】 パネルシアターの作成 【授業概要】 演じ手が語りながらストーリーの流れに沿ってパネルボードに絵人形を貼ったりはがしたりするだけで演じることのできるパネルシアターを製作する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P163～164 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：自分が製作したい、演じたいと思うパネルシアターの題材を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：60分

	第１４回	シアタースタイルの児童文化財の作成：パネルシアター② 【key words】 特徴を活かした作品作り 台本 【授業概要】 パネルシアターの持つ特徴を活かした作品作りを行う。また、演じるための台本も作成し、実演に向けた練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P175～181 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〇製作に必要な材料・道具の用意をしてくること（詳細については授業内で連絡する） 〇パネルシアターの完成を目指し、授業内で終わらなかった場合には必要に応じて取り組むこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
	第１５回	児童文化財を保育に生かす：おはなしの実践発表 【key words】 素話 ストーリーテリング 模擬保育 【授業概要】 保育現場を想定したおはなしの実践発表を行う。また、学生同士で評価し合うことでお話しのポイントと留意点を互いに学び合う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P106～117 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第8回の学びを活かし、保育におけるおはなしの場面を想定して練習してくること 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に合わせて適宜
	第１６回	シアタースタイルの児童文化財の実践発表：パネルシアター 【key words】 パネルシアター 模擬保育 【授業概要】 保育現場を想定し、子どもの前で演じる時の留意点に気をつけながらパネルシアターの実演を行う。また、他者の作品を見たり、発表を聞くことで、改善点やさらなるアイディアを生み出す。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P175～181 【課題・予習・復習・授業準備指示】 作品を完成させ、保育現場を想定した演じ方の練習をしてくること。 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に合わせて適宜
	第１７回	子どもにとっておもちゃとは 【key words】 おもちゃ 玩具 遊具 【授業概要】 種類や形もさまざまなおもちゃがあふれる現代。子どもにとっておもちゃとは何なのか考える。また、子どもの成長・発達段階に即したおもちゃはどのようなものか、園におけるおもちゃを活かした遊びの環境構成の在り方やその工夫について具体的に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P184～198 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P184～198を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習：30分
	第１８回	児童文化施設の環境① 【key words】 児童文化施設 環境 壁面装飾 【授業概要】 子どもに児童文化財や児童文化活動を提供し、その経験によって子どもの生活をより豊かにしようとする場所や施設である児童文化施設の環境について考え、そこを彩る壁面装飾の技術を身に付ける。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じて保育雑誌等を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 壁面装飾の作成に必要な道具を準備してくること （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１９回	児童文化施設の環境② 【key words】 環境 壁面装飾 【授業概要】 季節感等を考慮し、児童文化施設を彩る壁面装飾を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じて保育雑誌等を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		壁面装飾の作成に必要な道具を準備してくること （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２０回	シアタースタイルの児童文化財：紙皿シアター 【key words】 シアタースタイルの児童文化財 身近な素材 紙皿 【授業概要】 子どもにとって身近な素材である紙皿を使った児童文化財「紙皿シアター」を作成し、その特徴と演じ方のポイントについて実践を通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じて保育雑誌等を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 紙皿シアターの作成に必要な道具を準備してくること （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 授業内に作品が完成しなかった場合は各自で仕上げておくこと。
	第２１回	シアタースタイルの児童文化財：マジックシアター 【key words】 シアタースタイルの児童文化財 身近な素材 クリアファイル 【授業概要】 シアタースタイルの児童文化財として「マジックシアター」を作成し、その特徴と演じ方のポイントについて実践を通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じて保育雑誌等を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 マジックシアターの作成に必要な道具を準備してくること （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 授業内に作品が完成しなかった場合は各自で仕上げておくこと。
	第２２回	乳児向けの児童文化財① 【key words】 乳児 発達段階に即したおもちゃ 【授業概要】 乳児のよりよい発達のために発達段階に即した児童文化財について考え、それを自作することを通して、乳児に児童文化財を与える際の細かな留意点について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じて保育雑誌等を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 乳児向けの児童文化財の作成に必要な道具を準備してくること。 （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に合わせて適宜。
	第２３回	乳児向けの児童文化財② 【key words】 乳児 発達段階に即したおもちゃ 【授業概要】 乳児ならではの留意事項に配慮した児童文化財の作成 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じて保育雑誌等を活用する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 乳児向けの児童文化財の作成に必要な道具を準備してくること。 （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に合わせて適宜。
	第２４回	保育現場で活用できる児童文化財の開発① 【key words】 自作教材の開発 題材の選定 【授業概要】 これまでの学びを活かし、保育現場で活用できる児童文化財を開発する。 （自作絵本・手袋シアター・エプロンシアターの中から選び各自で作成していく） 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じた参考資料を用意する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の作る作品に応じて材料を準備すること。 （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に応じて適宜。
	第２５回	保育現場で活用できる児童文化財の開発② 【key words】 自作教材の開発 特徴を活かした作品作り 【授業概要】 これまでの学びを活かし、保育現場で活用できる児童文化財を開発する。

		子どもの年齢や発達段階等も踏まえた作品作りを心がける。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じた参考資料を用意する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の作る作品に応じて材料を準備すること。 （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に応じて適宜。
	第２６回	保育現場で活用できる児童文化財の開発③ 【key words】 自作教材の開発 特徴を活かした作品作り 【授業概要】 これまでの学びを活かし、保育現場で活用できる児童文化財を開発する。 それぞれの教材のもつ特徴を活かした作品作りを心がける。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じた参考資料を用意する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の作る作品に応じて材料を準備すること。 （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に応じて適宜。
	第２７回	保育現場で活用できる児童文化財の開発④ 【key words】 自作教材の開発 実演に向けた準備 【授業概要】 これまでの学びを活かし、保育現場で活用できる児童文化財を開発する。 実践することを意識し、効果的な演じ方についても考えながら製作に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じた参考資料を用意する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の作る作品に応じて材料を準備すること。 （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に応じて適宜。
	第２８回	保育現場で活用できる児童文化財の開発⑤ 【key words】 自作教材の開発 実演に向けた準備 【授業概要】 これまでの学びを活かし、保育現場で活用できる児童文化財を開発する。 完成に向けて作品を仕上げていく。 【教科書ページ・参考文献】 必要に応じた参考資料を用意する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の作る作品に応じて材料を準備すること。 （詳細については授業内で説明する） 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に応じて適宜。
	第２９回	保育現場で活用できる児童文化財の実践発表① 【key words】 児童文化財 実践発表 模擬保育 【授業概要】 これまで自分が作成してきた児童文化財について保育現場を想定して実践発表する。学生同士で評価し合うことでその児童文化財の特徴と演じ方のポイント、留意点を互いに学び合う。 【教科書ページ・参考文献】 授業内でプリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践発表に備えて作品を完成させ、保育現場を想定して演じる練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 各自の状況に合わせて適宜。
	第３０回	保育現場で活用できる児童文化財の実践発表②・授業のまとめ 【key words】 児童文化財 実践発表 模擬保育 【授業概要】 これまで自分が作成してきた児童文化財について保育現場を想定して実践発表する。学生同士で評価し合うことでその児童文化財の特徴と演じ方のポイント、留意点を互いに学び合う。また、これまでの授業を振り返り、子どもの育ちにとっての児童文化について考える。 【教科書ページ・参考文献】 授業内でプリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実践発表に備えて作品を完成させ、保育現場を想定して演じる練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 これまでの学びを振り返り、作成した児童文化財については実習で活用できるようにしておくこと。

受講生に関わる情報および受講のルール	○オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ○ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ○授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ○やむを得ず遅刻、欠席等をする場合には必ず連絡すること。 ○提出物は〆切厳守。 ○受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○各章の最終ページに記載されている「読んでほしい本」を参照し、各自で学びを深めること。 ○作品については実習などで活用できるよう年齢や季節等を考慮しながら作成し、授業内で終わらない場合については各自で期日までに完成するよう取り組むこと。 ○日常生活においても現在流行している絵本やおもちゃ、子どもの生活スタイルなどに関心をもつこと。
オフィスアワー	初回授業時に連絡する。
評価方法	製作物および発表（50%）・レポート（30%）・授業への参加態度（20%）の総合評価
教科書	「ことばと表現力を育む児童文化」川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著　萌文書林
参考書	厚生労働省「保育所保育指針解説」2018.フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」2018.フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」2018.フレーベル館
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園教諭としての実務経験を活かして、子どもの育ちと児童文化の関わりについて事例を通して具体的に講じる。また、児童文化財を保育現場で活用する際の知識と演じ方については、実演して見せることでそれぞれの特徴や演じ方、見せ方のポイントを子どもの視点と保育者の視点で理解できるよう指導する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（施設）　　授業コード：S4415

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	1単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習指導Ⅰ（施設）は、子ども専攻カリキュラムにおける最初の本格的実習である保育実習Ⅰ（施設）の事前・事後指導を行う科目である。実習施設は「養護系」と「障害系」に大別されるが、施設種別は多岐にわたるとともに、同じ種別であっても施設ごとに様々な特徴があるため、自身の実習機関のみならず、他の学生の実習機関についても積極的に学び、幅広い知識を身につける。授業では、まず保育実習に対する基本的理解からスタートし、実習先機関の理解を学びながら実習本番に向けて様々な準備を進める。 【到達目標】 ①施設実習の意義と目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習課題を明確にする。 ③実習施設における子ども（利用者）の人権と最善の利益、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
授業の概要	前期では、施設実習の意義と目的を確認し、様々な種別の実習施設について法的根拠、設置目的、業務内容等を広く学ぶ。さらに、事前学習として実習先へのボランティア活動を実施することで、実習施設についての理解を深めていく。 後期は、実習施設の概要や利用児（者）について理解した上で、実習計画書を作成する。また、実習日誌の書き方や関係書類の作成方法、実習オリエンテーションの対応方法や実習直前の再確認を行うなかで実習への意識を高めていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（保育実習体系・シラバス・１年間の流れの確認） 【key words】 保育士資格　　保育実習Ⅰ（施設）　　保育実習指導Ⅰ（施設） 【授業概要】 保育士というと保育所で働く保育士をイメージしがちですが、「児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」にも、保育所以外のの児童福祉施設で必ず置かなければならない職種として保育士が明記されています。初回では、保育士資格取得に必要な実習と教科目および実習のための要件を確認した上で、実習までの１年の流れを理解するとともに、保育士資格は児童福祉施設全般で活躍できる専門職であることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ・実習ガイドブックpp7-12　・教科書pp3-12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○実習ガイドブックを必ず持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習３０分
	第２回	施設実習の意義と目的・実習に際しての留意事項 【key words】 施設実習の意義　　施設実習の目的　　子どもの人権と最善の利益　　プライバシーの保護と守

		秘義務 【授業概要】 ①保育士は子どもの福祉を担う専門職であることから、子どもの最善の利益を柱に子どもを守り、育てる視点をもつことが重要である。大学で学んだ知識や技術を実際の福祉の現場で体験し、子ども（利用者）の特性にあわせて応用できる実践力を身につけることの意義・目的を理解する。 ②子どもの人権に十分配慮した態度で実習に臨むため、プライバシーの保護と守秘義務について具体的な事例をあげながら解説する。 【教科書ページ・参考文献】 ・実習ガイドブックpp7-12　・教科書pp16-18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○課題：保育士資格をもつ者が必置とされている児童福祉施設をノートに書いてくる。（「資料：児童福祉施設の設備及び運営に関する基準」） 【予習復習に必要な想定時間】 課題６０分
	第３回	「施設」を知る 【key words】 養護系施設　障がい系施設　地域子育て支援系施設　入所施設と通所施設 【授業概要】 実習の対象となり得る施設の種類と機能（社会的役割）を、養護系施設・障がい系施設・地域子育て支援系施設の３種類の分類にそって理解する。また、保育所とは異なるケア体制や専門職について学び、課題「保育所と福祉施設の違い」に取り組む。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書pp22-25 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○課題「保育所と福祉施設の違い」の続き 【予習復習に必要な想定時間】 課題３０分
	第４回	「子ども（利用者）」を知る　「施設の保育者」を知る① 【key words】 愛着障害　自己肯定感　障がい　施設保育士の役割と職業倫理 【授業概要】 子どもの施設は0～18歳（20歳）、成人の施設は18歳以上と、異なる年齢の者がともに生活するため、できることや興味関心が大きく異なります。また、障害や虐待、貧困など様々な事情で家族と暮らすことができない子どもの状況にも着目する必要があります。そのような子ども（利用者）から表出される言動や感情を多角的に捉え、子ども（利用者）の「現在」への理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp26-31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp26-31を読み、内容を把握しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習３０分
	第５回	「施設の保育者を知る」② 【key words】 施設保育士　他職種連携　学習指導　療育　環境整備 【授業概要】 保育士の子ども（利用者）への言動を観察し、まねて実践し、言動の意図を捉える姿勢を理解する。また、保育士の業務が直接ケアだけでなく、他職種連携やカンファレンス等での役割の重要性についても扱う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp31-42 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○課題「施設における担当保育士との継続的で安定した日常生活の中で形成される愛着関係は、子どもにとってどのような意義をもつのか考えて書いてみよう」 【予習復習に必要な想定時間】 課題３０分
	第６回	実習施設の概要と実習内容①　乳児院 【key words】 社会的養護　担当制　里親制度　愛着形成 【授業概要】 ①施設の理解　②子ども（利用者）の理解　③施設の保育者の理解、の３本柱にそって、DVDを視聴しながら深める。また、実習期間（前半・中盤・後半）の段階区分別に見る目標や課題設定の例を概観することで実習計画書作成に向けて具体的なイメージがもてるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp102-105 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書の「乳児院」に関するページ（pp102-105）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習３０分
	第７回	実習施設の概要と実習内容②　児童養護施設 【key words】 社会的養護　自立支援計画　児童虐待 【授業概要】 ①施設の理解　②子ども（利用者）の理解　③施設の保育者の理解、の３本柱にそって、DVDを視聴しながら深める。また、実習期間（前半・中盤・後半）の段階区分別に見る目標や課題設定の例を概観することで実習計画書作成に向けて具体的なイメージがもてるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp110-113
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書の「児童養護施設」に関するページ（pp110-113）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第８回　実習生紹介表を書いてみよう
【key words】
実習生紹介表とは

【授業概要】
実習生紹介表が第一印象となることの重要性を理解し、それにふさわしい記入の文字や内容となるよう指導する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックp31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・実習用写真を用意しておく
・自分の「長所・短所」「特技」を考えてくること
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第９回　実習施設の概要と実習内容③　児童相談所一時保護所
【key words】
守秘義務　　児童虐待　　児童福祉法

【授業概要】
①施設の理解　②子ども（利用者）の理解　③施設の保育者の理解、の３本柱にそって、DVDを視聴しながら深める。また、実習期間（前半・中盤・後半）の段階区分別に見る目標や課題設定の例を概観することで実習計画書作成に向けて具体的なイメージがもてるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp126-130
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書の「児童相談所一時保護所（pp126-130）」を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第１０回　実習施設の概要と実習内容④　児童発達支援センター
【key words】
療育　　保護者支援　　就学支援　　並行通園

【授業概要】
①施設の理解　②子ども（利用者）の理解　③施設の保育者の理解、の３本柱にそって、DVDを視聴しながら深める。また、実習期間（前半・中盤・後半）の段階区分別に見る目標や課題設定の例を概観することで実習計画書作成に向けて具体的なイメージがもてるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp131～136
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書の「児童発達支援センター（pp131-136）]を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第１１回　実習施設の概要と実習内容⑤　福祉型障害児入所施設
【key words】
療育　　加齢児　　個別支援計画　　知的障害
【授業概要】
①施設の理解　②子ども（利用者）の理解　③施設の保育者の理解、の３本柱にそって、DVDを視聴しながら深める。また、実習期間（前半・中盤・後半）の段階区分別に見る目標や課題設定の例を概観することで実習計画書作成に向けて具体的なイメージがもてるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp137-142
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書の「福祉型障害児入所施設（pp137-142）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第１２回　実習施設の概要と実習内容⑥　医療型障害児入所施設
【key words】
多職種連携　　医療的ケア　　重症心身障害

【授業概要】
①施設の理解　②子ども（利用者）の理解　③施設の保育者の理解、の３本柱にそって、DVDを視聴しながら深める。また、実習期間（前半・中盤・後半）の段階区分別に見る目標や課題設定の例を概観することで実習計画書作成に向けて具体的なイメージがもてるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp137-142
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書の「医療型障害児入所施設（pp137-142）を読み、わからない言葉に線を引いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

	第１３回	実習施設の概要と実習内容⑦　国立重度知的障害者施設のぞみの園　および障害福祉サービス授業所 【key words】 障害者雇用　　就労継続支援　　生活介護　　高齢化 【授業概要】 ①施設の理解　②子ども（利用者）の理解　③施設の保育者の理解、の３本柱にそって、DVDを視聴しながら深める。また、実習期間（前半・中盤・後半）の段階区分別に見る目標や課題設定の例を概観することで実習計画書作成に向けて具体的なイメージがもてるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp148-154 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〇予習：教科書の「障害福祉サービス事業所および国立重度知的障害者施設のぞみの園（pp148-154）」 を読み、わからない言葉に線を引いてくる。 〇準備：授業内で次回の製作で必要な物を指示します。 【予習復習に必要な想定時間】 予習３０分
	第１４回	障害のある子どものおもちゃ製作（たんぽぽ学園実践に向けて） 【key words】 発達段階　　楽しさ　　興味関心 【授業概要】 さまざまな障害のある子どもの発達段階や興味関心を意識して、一人または親子で遊べる玩具や教材を手作りする。完成物は夏季休業中のたんぽぽ学園での交流活動の際の子どもたちへのプレゼントとして持参する。 【教科書ページ・参考文献】 随時 【課題・予習・復習・授業準備指示】 何を作るか各自で考案 【予習復習に必要な想定時間】 適宜
	第１５回	夏期休業中の事前学習指導 【key words】 事前ボランティア（心構え・マナー等を含む）　　ボランティア日誌 【授業概要】 夏期休業中に可能であれば事前学習としてボランティアを実施させていただく。ボランティアを実施することで、本番の実習が新しい場所・人・環境とならず緊張を緩和する効果がある。それに際しての注意点や記録の書き方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〇夏季休業中の課題：実習施設概要書の作成、ボランティア日誌 【予習復習に必要な想定時間】 前期の復習をしっかりして前期試験に臨むこと
	第１６回	後期オリエンテーション（シラバスを参照しながら後期の内容確認）　※提出物の〆切（厳守） 【key words】 前期の復習　　プロセスレコード　実践の振り返り 【授業概要】 ・いよいよ実習まであと５ヶ月。前期の復習とともに、実習開始までの流れを確認する。 ・たんぽぽ学園での実践を省察するためにプロセスレコードの作成を試みる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p93、他 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〇プロセスレコードの作成が終わらなかった学生は自宅課題とする 【予習復習に必要な想定時間】 課題３０分
	第１７回	実習計画書の作成① 【key words】 実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習 【授業概要】 ・実習を意味あるものにするためには、事前にしっかりと自分が何を学びたいのか明らかにしておくことが重要である。目標を達成するための課題や取り組みについて体系的にまとめていくことが実習計画作成の意義であることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p79-80 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・実習先に関する資料があれば毎回持参すること ・課題：教科書p80　「ワーク①　施設実習の目的を明確にする」を考え記入してくる。 【予習復習に必要な想定時間】 課題６０分
	第１８回	実習計画書の作成② 【key words】 実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習 【授業概要】 実習計画書は、目的をもって実習を進めるために作成するもので、実習施設で何を学ぶのか（実習目標）と、どのように学ぶのか（目標を達成するための具体的方法や事前学習の内容）を明らかにするものである。作成方法をよく理解し、添削指導を繰り返しながら完成させ、実習先に提出するものである。

課題であったワーク①をふまえ、「ワーク②　施設実習の支援を考える」をまとめる
【教科書ページ・参考文献】
・教科書pp81-82
・実習ガイドブックpp112-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：「ワーク③　目標を達成するために具体的な方法を学ぶ」を記入してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
課題６０分

第１９回　実習計画書の作成③　（実習の名札作成のオリエンテーション）
【key words】
実習計画書　　実習目標　　目標達成のための方法　　事前学習
【授業概要】
実習計画書は、目的をもって実習を進めるために作成するもので、実習施設で何を学ぶのか（実習目標）と、どのように学ぶのか（目標を達成するための具体的方法や事前学習の内容）を明らかにするものである。記載要領をよく理解し、教員による添削指導を繰り返しながら完成させて実習先に提出する。
課題であったワーク③をふまえ、書いてみよう。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書pp84-85
・実習ガイドブックpp112-117
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〇課題：時間内で仕上がらなかった場合は自宅学習として週末までに担当教員に提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
課題６０分

第２０回　実習の名札を作ろう
【key words】
安全への配慮　　わかりやすさ　　親しみやすさ

【授業概要】
保育実習（施設を含む）と幼稚園実習で使用する名札の作成方法と、配慮するポイントについて学び、実際に自らでデザインを考え、材料をそろえ、製作する。
【教科書ページ・参考文献】
別途、資料を配付します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〇準備：自らのデザインを考え、裁縫セット、材料を忘れず持参すること
〇課題：完成しなかった場合は自宅で仕上げる
【予習復習に必要な想定時間】
適宜

第２１回　介護の基本技術
【key words】
支援の心構えとポイント（歯磨き・着脱・食事等の支援）

【授業概要】
短期大学部の先生を講師に、利用者の身体介助など基礎的、かつ身体的な接触を含む支援に携わる際の基本的な留意事項について、実践を交えて学ぶ。実際の実習では、実習指導者に指示を仰ぎながらの実践となるので、技術より心構えやマナー、配慮のポイントを重点に理解しておく。
【教科書ページ・参考文献】
別途、資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内容の復習次回はトレーニングウエア着用で長い髪は束ねて介護実習室にあつまること。
【予習復習に必要な想定時間】
適宜

第２２回　フィールドワーク（たんぽぽ学園での実践）
【key words】
療育、児童発達支援センター、保護者支援、就学支援

【授業概要】
たんぽぽ学園を訪問し、午前中のクラス活動に参加するなかで、学生は担当する子どもとペアになり活動を行う。
【教科書ページ・参考文献】
なし。学園の概要資料を配付。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動を行うため、援助者としての身だしなみや態度について徹底する。また、障害のある幼児と関わる際の基本原則を確認して臨む。たんぽぽ学園のホームページを閲覧して予習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　実習日誌の記入①　実習日誌の意義
【key words】
実実習日誌を書く意味　　記載要領　　考察とは　　ＰＤＣＡ　習日誌の意義　基本的ルール
PDCA　考察

【授業概要】
概論として、実習日誌の目的と記録のポイント、記載する内容、記述の仕方を学び、各論としてポイントのつかみ方、誤字脱字や表現の注意、目標・考察・反省の書き方を理解する。理解を助けるために、プリント教材やＤＶＤの映像を観察して状況を記録する演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
・教科書pp90-93　pp54-68
・実習ガイドブックpp124-129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〇課題：プリント
【予習復習に必要な想定時間】
課題３０分

第２４回　実習日誌の記入②　DVDを視聴して書いてみよう
【key words】
事実と考察の違い

【授業概要】
概論として、実習日誌の目的と記録のポイント、記載する内容、記述の仕方を学び、各論としてポイントのつかみ方、誤字脱字や表現の注意、目標・考察・反省の書き方を理解する。理解を助けるために、プリント教材やＤＶＤの映像を観察して状況を記録する演習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp54-68　プリント教材
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：プリント
【予習復習に必要な想定時間】
課題３０分

第２５回　実習オリエンテーションについて
【key words】
実習オリエンテーションの意義　　訪問時の留意事項　　確認や指導を受ける事項

【授業概要】
実習開始日のおおむね１ヶ月前から実習先でのオリエンテーションがある。日程や内容確認は、学生が実習担当者に連絡をとり調整する。訪問時の留意事項や確認・指導を受ける事項について、漏れがないように理解しておく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp77-78　　実習ガイドブックpp20-22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○課題：オリエンテーションの日程が決まったら報告書を提出し、必要に応じて公欠届を事務局に提出のこと。
【予習復習に必要な想定時間】
課題３０分

第２６回　先輩講話（SA制度利用）
【key words】
不安の解消　　先輩の体験　　実習先理解

【授業概要】
種別ごとのグループを作り、１人グループに１人程度の先輩を招き、実習体験談を話してもらい、質疑応答によって実習先への理解を深めるとともに、受講生の不安感の低減を図る。
【教科書ページ・参考文献】
使用しない
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・グループ分けを前回の授業時に伝達するので、机の準備をしておいて下さい
・先輩に聞きたいことを考えてノートに書いてくること
【予習復習に必要な想定時間】
予習３０分

第２７回　直前指導①　実習に係る実務
【key words】
巡回指導　　自家用車使用届　　健康診断書　　細菌検査　実習反省会

【授業概要】
実習前後の必要書類作成・提出ついて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
ガイドブックpp22-29
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：授業内容を確認しておく
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２８回　直前指導②　Q&A　およびトラブルシューティング「こんなとき、どうする？」
【key words】
報告・連絡・相談　　心身の健康　　学生事故補償制度

【授業概要】
実際に先輩たちが遭遇した事例などをもとに、対応困難場面のロールプレイを行いながら適切な対応について理解する。また、実習という新しい環境下で心身の不調をきたす場合もあり、その予防と対策についても学ぶ。さらに、学生事故補償制度も理解しておく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp176-190、他に配布資料あり
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：授業内容を確認しておく
【予習復習に必要な想定時間】
復習３０分

第２９回　直前指導③　実習先種別グループ指導
【key words】
種別ごとの実習のポイントや配慮

【授業概要】
実習先の種別によって、学びの視点、実習のポイントや配慮事項は異なる。施設を利用する人々とのコミュニケーションや関係形成の仕方について、種別グループごとにミニレクチャーを行い、質疑応答を行いながら実習直前の不安軽減を図る。
【教科書ページ・参考文献】
種別ごとに資料を配布します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：個々で事前学習をしっかり行っておくこと
【予習復習に必要な想定時間】

	復習６０分 第３０回　直前指導④　実習終了後の対応 【key words】 実習事後処理　　礼状の書き方　　自己評価　　実習報告書 【授業概要】 実習終了後、すみやかに事後処理を行うため、その意義や方法を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書・実習ガイドブックで重要事項の最終確認 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○指示：事後処理について、漏れのないよう実行すること 【予習復習に必要な想定時間】 後期の内容を十分に復習して後期試験に臨むこと
受講生に関わる情報および受講のルール	・オンライン授業に変更される場合は、学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み替えを行うことがあります。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義は、ZoomMeeting・Google・PDFファイル・wordファイル・PowerPointファイル・YouTube等を利用。なお、ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」でリアルタイムの意見交換の機会を設けます。 ・遅刻や欠席は必ず事前に届け出ること。欠席分については補講が発生する場合があります。 ・実習関係書類を整理するためのファイルを用意してください。 ・提出物の提出期限は絶対厳守。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード方式
授業外時間にかかわる情報	・「障害児保育」「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「社会的養護」の科目と関連が深いので、いずれも積極的に学んでおく。 ・日頃から新聞やニュースの情報で「虐待」「貧困」「障害」などの語句に敏感になり、情報を得る努力をしておくこと。
オフィスアワー	初回講義で伝達します。
評価方法	・実習関連科目であるため、原則的に全回の出席を求める。やむを得ない理由で欠席の際には、担当教員が補講を行う場合がある。 ・定期試験60%、提出物（期限厳守・内容）20%、受講態度10%、リアクションペーパー10%を用いて総合的に評価し、群馬医療福祉大学の成績評価の基準に準ずる。
教科書	１　群馬医療福祉大学　実習ガイドブック　群馬医療福祉大学２０１６ ２　保育士をめざす人のための施設実習ガイド　みらい　２０２０
参考書	福祉小六法編集委員会『福祉小六法』　みらい２０２１
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ・外部講師による講話を予定しています。COVID-19の感染状況や先方の都合等の調整を行い、準備が整い次第、伝達します。

講義科目名称： 教育社会学　　授業コード：S5011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 子どもの社会化過程を中心に、具体的な教育事象について社会学の視点から考察する。 〔到達目標〕 ・子どもが家庭・学校・地域社会といった各集団を通して社会化されていく過程を具体的に把握できる。 ・各回の具体的な教育事象に興味・関心を持ち、それに即した身近な事例をとらえることができる。
授業の概要	・教育社会学の研究成果をもとに、教育と社会との相互関係を実証的・客観的に考察する。 ・親・教師・子どもの相互行為としての教育、教育に対する社会の影響、教育の社会に及ぼす影響等について考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー子どもの発達と社会化（人間の発達と社会、子どもの社会化過程の概要の把握） 【key words】 社会化、成長・発達、敏感期、発達課題 【授業概要】 講義の初めとして、教育社会学とは何かについて概要を理解し、次いで人間の発達と社会、子どもの社会化過程についてその概要を知り、今後の学習の見通しを持つ。 【教科書ページ・参考文献】 2p～18p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子どもの社会化過程について、詳しく考察していこうとする心構えを持つ。次回に向けて教科書20p～37pを読み、自身が幼い頃に家族から受けた様々な影響について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 １時間程度
	第２回	家族集団と子どもの社会化（家族における親からの社会化、現代における家族の社会化をめぐる諸問題の考察） 【key words】 家族集団、父親不在、母親不在、しつけモデル、育児不安 【授業概要】 運命的な出会いの集団である家族において、親からの社会化について学び、現代社会において指摘される「父親不在と母親密着」「母親の就業と母親不在」「しつけモデルの喪失」「育児不安」など、社会化をめぐる諸問題について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 20ｐ～37ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現代社会における家族集団のありようが子どもの社会化に与える影響について考える。次回に向けて教科書38ｐ～52ｐを読み、自身が幼い頃仲間集団から受けた影響について想起する。 【予習復習に必要な想定時間】

		１時間程度
	第３回	仲間集団と子どもの社会化（子どもの仲間集団の特徴、その変容、変容の背景と変容がもたらす諸問題の考察） 【key words】 自発的選択性・対等性・流動性、重要な他者、一般化された他者 【授業概要】 子どもの仲間集団の特徴について理解し、仲間集団の現代的状況として「仲間集団の変容」「変容の背景」「遊びの変化」「変容がもたらす社会化の問題」について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 38ｐ～52ｐ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 仲間集団の変容と社会化の諸問題について考える。次回に向けて教科書53ｐ～66ｐを読み、自身の近隣集団とのかかわりについて想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第４回	近隣集団と子どもの社会化（地域社会の社会化機能と現代の弱体化傾向、その克服を目指した活動事例の考察） 【key words】 近隣集団、水平的関係、垂直的関係 【授業概要】 地域社会における社会化機能について理解し、現代社会における地域社会で「社会化機能の弱体化」の傾向と現在みられる「地域集団の子どもを対象にした活動事例」について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 53p～66p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 現在、各地域で行われている子どもを対象にした各種活動が子どもの社会化に及ぼす影響について考える。次回に向けて教科書67p～70pを読み、自身の経験した学校集団について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第５回	学校集団と子どもの社会化（1）　ー学校の構造と組織ー（学校集団について教員、児童生徒の関係から考察） 【key words】 行政制度、社会制度、集団意識、組織体、校務分掌組織 【授業概要】 「学校」について「制度」「集団」「組織」の面から考察し、さらに「学校集団の構造と組織」について「教員」「児童生徒」及び「教員と児童生徒との関係」の観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 67p～70p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 意図的な社会化機能をもつ「学校」についてその構造と組織を考察し、自身の体験も重ねて整理する。次回に向けて教科書71p～80pを読み、学校集団の社会化機能について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第６回	学校集団と子どもの社会化（2）　ー学校集団の社会化機能ー（顕在カリキュラムと潜在カリキュラム等の考察） 【key words】 制度的カリキュラム、隠れたカリキュラム 【授業概要】 学校集団における子どもの社会化について、教育の対象、目的、内容、方法及び社会の成立と存続に欠かせない機能を有することを考察し、学校集団による社会化は顕在するカリキュラムによって行われるとともに潜在的なカリキュラムによっても行われることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 71p～80p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 隠れたカリキュラムについて、具体的にどのようなものがあるか挙げてみる。次回に向けて教科書93p～106pを読み、テレビ、新聞等の子どもたちへの影響について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第７回	マス・メディアと社会化環境（子どもの生活におけるマス・メディアの影響、その対応策について考察） 【key words】 マス･メディア、印刷メディア、電波メディア、疑似環境 【授業概要】 現代社会とマス･メディア、子どもの生活におけるマス･メディアの影響について考察し、マス･メディアへの対応について考える。 【教科書ページ・参考文献】 93p～106p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 身近なマス･メディアである新聞や雑誌、テレビ等に、自身はどのような影響を受けているか、具体的に考えてみる。次回に向けて教科書107p～122pを読み、ニューメディアにどのようなものがあるか挙げてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第８回	ニューメディアと子どもたち（ニューメディアの特徴、メディアリテラシー教育の必要性、情報化社会の諸問題の考察） 【key words】 ニューメディア、ネットワーク化、マルチメディア化、モバイル化、メディアリテラシー、情報モラル 【授業概要】 ニューメディアの特徴、様式等について理解し、情報化社会の諸問題と主な対策として「メディアリテラシー教育の必要性」「コンピュータウイルスや同犯罪に対する心構え」「情報モラル」

「個人情報の保護」について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
107p～122p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ニューメディアの一つ「スマホ」の活用と注意すべき点は何か具体的に考え、特に「ﾒﾃﾞｨｱﾘﾃﾗｼｰ教育の必要性」を把握する。次回に向けて124p～138ｐを読み、最近の少年非行について考えてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第９回　社会の変動と少年非行（逸脱行動、非行についての理解、現代の少年非行の特徴と原因について考察）
【key words】
逸脱行動、初発型非行、被害者なき犯罪
【授業概要】
逸脱行動、非行とは何かについて理解し、現代の少年非行の特徴及びその原因について資料を基に考察する。
【教科書ページ・参考文献】
124p～138p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
逸脱行動、非行の意味について理解し、現代の少年非行の特徴、原因について考える。次回に向けて教科書139ｐ～153ｐを読み、児童虐待の報道事例等について想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１０回　社会問題化する児童虐待（児童虐待の定義、その現状と社会問題化、児童虐待への対応の難しさについて考察）
【key words】
児童虐待防止法、児童福祉法、児童の権利に関する条約
【授業概要】
児童虐待について、その意味やどのように社会問題化してきたかについて考察する。また、児童虐待の現状を統計資料から読み取り、その対応の困難性について考える。
【教科書ページ・参考文献】
139p～153p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
児童虐待の意味・現状を知り、その対応について考える。次回に向けて教科書154p～166pを読み、不登校・ひきこもりの報道事例等について想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１１回　現代社会の不登校とひきこもり（不登校等の現状と推移、社会的背景、友人関係や支援の仕方等について考察）
【key words】
不登校、居場所づくり、進学・就職支援
【授業概要】
不登校の現状や推移について知り、その増加の社会的背景について考え、社会学の視点からのとらえ方、友人関係及び必要とされる支援の在り方について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
154p～166p
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学校基本調査等の資料から不登校児童生徒の現状や推移について読み取り、その友人関係や支援の仕方について考える。次回に向けて学校生活における安全上の課題について想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１２回　学校の安全管理・安全教育（学校安全の必要性、生活安全・交通安全・災害安全及び新たな安全上の課題についての考察）
【key words】
安全管理、安全教育、学校保健安全法
【授業概要】
生活安全、交通安全、災害安全の各領域や新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組ついて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書には該当ページ無　参考書：渡邉正樹編著「学校安全と危機管理」(改訂版)大修館書店
【課題・予習・復習・授業準備指示】
危機管理を含む学校安全の目的、具体的な取組を理解する。次回に向けてコミュニティ・スクールについて調べてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１３回　学校と地域の連携･協働による教育（開かれた学校づくり推進の経緯、コミュニティ・スクールについて考察）
【key words】
開かれた学校、コミュニティ・スクール
【授業概要】
地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯について理解するとともに、現在推進されているコミュニティ・スクールについて、その目的と内容、現状等について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書には該当ページ無　参考文献：文部科学省資料「コミュニティ・スクール」、貝瀬　滋著「図説コミュニティ・スクール入門」一藝社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
コミュニティ・スクールについて目的、内容、現状等について理解する。次回に向けて諸外国の教育事情について見聞きしたことを想起してみる。
【予習復習に必要な想定時間】
１時間程度

第１４回　国際化する社会と教育（国境を越えた教育流動とアメリカ・ドイツ・中国等諸外国の教育事情に

	ついて考察） 【key words】 ミドルスクール運動（アメリカ）、課程標準（中国）、教育スタンダードの導入（ドイツ） 【授業概要】 近年の教育政策の動向及び諸外国の教育事情や教育改革の動向について考察する。諸外国としてはアメリカ、中国、ドイツ等を取り上げる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　参考文献：二宮　晧編著「新版　世界の学校」学事出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 民主主義国としてのアメリカ、ドイツ、社会主義国としての中国の教育事情等について理解し、関心のある他の国の様子について調べてみる。次回に向けて身近な生涯学習の事例について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度 第１５回　生涯学習社会の展望（生涯学習の歩みと現状、学習のボーダレス化等について考察） 【key words】 生涯学習、経験知、専門知 【授業概要】 生涯学習について、社会教育→生涯教育→生涯学習と歩んできた日本の状況を学び、学習のボーダレス化について考察する。事例として「江戸川総合人生大学」等を取り上げ、日本の生涯学習の今後について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書には該当ページ無　「江戸川総合人生大学」等の事例を示す資料配付　参考文献：岩永雅也･稲垣恭子編著「新版教育社会学」放送大学 【課題・予習・復習・授業準備指示】 私たちはなぜ学校教育を終えてからも生涯にわたって学び続けようとするのか、「生涯学習」が学びの在り方そのものを変化させてきているのではないか、ということについて考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。なお、配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・教育に関し社会問題化している報道等に幅広く関心を持ち、常に問題意識を持って受講すること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話、スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・授業中、私語は慎むこと。なお、飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・各回のテーマに即してあらかじめ新聞報道等を読み、問題意識を持って講義に臨むように努めること。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%） ・受講後の感想や質問内容を加味する（10%）
教科書	住田正樹・高島秀樹（編著）「変動社会と子どもの発達ー教育社会学入門」北樹出版　最新版
参考書	加野芳正・越智康詞（編著）「新しい時代の教育社会学」ミネルヴァ書房　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小・中学校教諭・校長及び教育行政官（指導主事、指導係長、学校教育課長、指導部長）として勤務した。この経験を活かし、教育学、教育社会学の理論を、学校現場等の実際の状況と関連付けて具体的に分かりやすく講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護技術Ⅰ　　授業コード：S5041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	選択
担当教員			
辻　志帆			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 介護を必要としている人たちに、尊厳をもってその人らしい生活が送ることができるように、適切な支援が提供できるための、知識や技術を習得し実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 介護とは何か。介護の意義と役割を理解。日常生活に必要な介護技術を習得。介護における安全確保と危機管理を理解。
授業の概要	介護技術の基礎知識、介護と生活支援の関係、生活行為に関連した高齢者の生活支援に焦点をあて、介護の根拠を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　ガイダンス　介護とは・介護技術の基礎知識① 【key words】 授業内容を理解する。　演習時の実習室の使用上の注意事項の説明 【授業概要】 授業に対する意欲を促す。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　介護とは・介護技術の基礎知識②　（生活行為に関連したこころとからだのしくみ） 【key words】 介護とは何か、日常生活を送る上で様々な場面における支援方法を理解する。 【授業概要】 介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１～６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３回　人間関係を形成する技術①　（身体機能低下が及ぼす生活への影響）

【key words】
介護の基礎知識を理解する。

【授業概要】
介護は実践学で、介護の質は実践力が大きく影響し、介護技術も重要である。介護の理念を具体化する技術の意味や展開する姿勢を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p６～１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　人間関係を形成する技術②　（生活環境の整備）
【key words】
介護の基本であるボディメカニクスの重要性を理解する。

【授業概要】
人間の身体機能は、活動していることで機能が健康的に維持されている。生活行為の基本になっているのが、身体のボディメカニクスであることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１８～１２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　人間関係を形成する技術③　（居室環境の整備・ベッドメーキング）
【key words】
居室環境の整備の必要性を理解する。

【授業概要】
快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　人間関係を形成する技術④　（居室環境の整備・ベッドメーキング・シーツ交換）
【key words】
居室環境の整備の必要性を理解する。

【授業概要】
快適なベッド生活を送るためには、シーツを崩れにくく、寝心地がよく、見た目も美しいベッドを作成する必要性を学ぶ。シーツのたたみ方については清潔と手早さを重視することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１１２～１１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　自立に向けた移動の介護①　（移動の意義と目的）
【key words】
高齢者の心身の状況を把握し、生活行為のための移動。移乗動作があるということを理解する。

【授業概要】
移動・移乗動作援助の原則を理解し、ベッド上での水平移動を学ぶ。寝返り・起き上がり動作を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１２７～１３３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　自立に向けた移動の介護②　（車いすの種類、操作の理解）
【key words】
車いすの各部の名称・車いすの種類・車いすの移乗方法を理解する。

【授業概要】
車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１３４～１３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　自立に向けた移動の介護③　（車いすの種類、操作の理解）
【key words】
車いすの移乗方法を理解する。
【授業概要】
車いすの各部の名称や車いすの種類、車いすの移乗方法を学ぶ。車いすの操作に慣れる。段差の上がり方、降り方を学ぶ。砂利道や急な坂道の場合の介助方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１３４～１４０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　自立に向けた移動の介護④　（歩行の介助）
【key words】
杖歩行の動作歩行を理解する。
【授業概要】
杖歩行の方法を学ぶ。階段の昇降、障害物をまたぐ方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１４１～１４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　自立に向けた移動の介護⑤　（安楽な姿勢、良肢位の理解）
【key words】
安楽な姿勢の重要性と保持の援助方法を理解する。

【授業概要】
安楽な姿勢の保持の原則を学ぶ。転倒予防の重要性を学ぶ。視覚障害者への介助の留意点を学ぶ。認知症の人への移動介助の方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１４５～１５０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護①
【key words】
前期実技試験の課題を理解する。

【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
次回は入浴介助を実施するので、タオル1本、バスタオル1枚必ず持ってくるよう伝える。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護②
【key words】
安全・安心で的確な入浴介助方法を理解する。

【授業概要】
入浴の意義や目的を学ぶ。入浴に関するアセスメントのポイント、安全で的確な入浴の援助方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１７７～１８２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護③
【key words】
特殊浴槽の場合の援助方法と一般浴の場合の援助方法を理解する。

【授業概要】
特殊浴槽と一般浴の介助方法を学ぶ。入浴後は、体調確認をし、水分補給をする。皮膚には、保湿剤を塗布し、乾燥を防ぐ。爪の手入れを行う。必要があれば福祉用具の活用もする。
【教科書ページ・参考文献】

p１７７～１８２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　前期のまとめ
【key words】
前期の振り返り

【授業概要】
前期の振り返りをする。前期実技試験の練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
次回は清拭をするので、タオル1本とバスタオル1枚必ず持ってくることを伝える。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　自立に向けた入浴・清潔保持の介護③
【key words】
清拭の方法を学ぶ。

【授業概要】
全身清拭と部分清拭の仕方を学ぶ。足浴を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
p１８２～１８６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　自立に向けた身じたくの介護①
【key words】
整容行動、衣生活を調整する。介護の工夫の必要性を理解する。

【授業概要】
身だしなみの意義、目的を学ぶ。高齢者の特徴を学ぶ。衣服の脱健着患を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１８７～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　自立に向けた身じたくの介護①
【key words】
衣服の着脱の基本は、脱健患脱である。基本にそって実施する。

【授業概要】
衣服の選択方法や着脱の留意点をよく把握し、着替えを実施する。感覚低下の人の場合、介助の留意点を考慮し、介助をする。様々な障害の場合を想定し、各グループで練習をする。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１８７～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　自立に向けた排泄の介護①
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。

【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。ポータブルトイレの支援方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　自立に向けた排泄の介護②
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで

行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。差し込み便器の介助方法を学ぶ。オムツの当て方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　自立に向けた排泄の介護③
【key words】
人間が生命を維持する上で必要不可欠な生理現象の１つであり、本人のプライドを傷つけないで行う介助であることを理解する。
【授業概要】
個々の身体状況により、適切な排泄介助内容を選んで提供する。そのための基本的な知識や技術を学ぶ。オムツ交換を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１６０～１７６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　睡眠の介護①
【key words】
睡眠環境を整える支援の留意点を把握する。不眠状態にある人への援助方法を理解する。

【授業概要】
睡眠に関するアセスメントのポイントや安眠を促す介助の方法、不眠状態にある人への援助等々を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ１９８～２０２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　自立に向けた食事の介護①
【key words】
食事の意義や身体を健康に保持することの重要性を理解する。

【授業概要】
食品の栄養素・調理方法を学ぶ。身体構造も理解し、咀嚼・嚥下のメカニズムを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１５１～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　自立に向けた食事の介護①
【key words】
食事の意義や身体を健康に保持することの重要性を理解する。

【授業概要】
食事の重要性を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１５１～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　総合生活支援技術①
【key words】
後期実技試験の課題を理解する。

【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義・演習をもとに復習、練習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　総合生活支援技術①
【key words】
後期実技試験の課題を理解する。
【授業概要】
グループ別に練習をする。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２７回　家政的管理技術 【key words】 家政的管理方法を理解する。 【授業概要】 人間の精神的、身体的、技術的、社会的営みであり、その基本には、配慮と管理の働きが存在していることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２９７～３１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２８回　家政的管理技術 【key words】 家政的管理方法を理解する。 【授業概要】 人間の精神的、身体的、技術的、社会的営みであり、その基本には、配慮と管理の働きが存在していることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p２９７～３１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　学生の振り返り（介護の考え方、介護を適切に行う能力と姿勢とは何か） 【key words】 1年間の振りかえり　・　後期の実技試験の練習 【授業概要】 1年間の振り返り、技試験の練習・実施をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ（総括） 【key words】 1年間の振りかえり　・　後期の実技試験の練習 【授業概要】 実技試験の練習・実施をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義・演習をもとに復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	講義中の迷惑な行為、私語、携帯電話の使用は厳禁。演習時の教材の準備、後片付けは各グループで協力して行う。 教材は大切に使用し、整理・整頓を心掛ける。 演習時は学校指定のジャージを着用すること。イヤリング、ネックレス、腕時計はつけないこと。長い髪は束ねること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は幅広い多面的な知識と人との関わりが重要である。授業だけではなく実習やボランティア等で学んだことを活かし、総合的な視点で利用者を支援することが大切である。
オフィスアワー	初回の授業時、周知する。
評価方法	授業態度：20%、筆記試験・実技試験：80%
教科書	新　大学社会福祉・介護福祉講座　介護技術論
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	介護施設にて介護実務の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教職概論　　授業コード：S5061

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・必修／児童福祉コース・選択
担当教員			
木部　日出雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 「教職の意義及び教員の役割」や「教員の職務内容」について考察し、理解する 〔到達目標〕 ・教職の専門性及び教師に求められる資質・能力について理解できる。 ・各回の学校教育に関する事象に関心を持ち、具体的な事例をあげることができる。 ・自分自身の理想的な教師像についてイメージすることができる。
授業の概要	・学校教育の概要について学習し、教員の使命や服務義務について理解する。 ・日本の近代教育の成立から今日までの変遷をたどり、教育の今日的課題について考察する。 ・これからの時代に求められる教師像について考察し、自分自身の考えをもつ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ー教師とは何か （教師の役割、資質能力、優れた教師等についての考察） 【key words】 教師、教員、教職員、教諭、資質能力 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明　「教師」という言葉の意味・概念、教師に求められる役割、優れた教師の条件、教師の資質能力について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 16p～29p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自身の理想的な教師像をイメージできるような心構えを持つ。次回に向けて教科書66p～99pを読み、自身の受けた学習指導の状況を想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第２回	学習指導（1）ーカリキュラムを作成する（教師の仕事の中核をなす学習指導、基盤となるカリキュラムの編成の考察） 【key words】 カリキュラム、教育課程の編成・管理、学習指導要領の改訂 【授業概要】 教師の仕事の中核をなす学習指導とその基盤であるカリキュラムの編成について、カリキュラムと学校の教育課程、学習指導要領及びその改訂の観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】

		66p～99p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際の学校の教育課程をみてカリキュラムについて具体的に理解し、その基盤である学習指導要領とその改訂の変遷について理解する。次回に向けて教科書100p～116pを読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第３回	学習指導（2）ー授業力をつける（学力の現状と授業力が問われる背景、授業力の要素等についての考察） 【key words】 学力、授業力の要素、教材解釈、教材開発、授業評価 【授業概要】 教師の資質能力と専門性に負うところの大きい「良い授業をつくる力」について、子どもの学力の現状、授業力が問われる背景、授業力の要素、授業力をつけるという観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 100p～116p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業力について、模擬授業を想定して具体的に理解し、自身の改善点について考える意欲を持つ。次回に向けて教科書32p～56pを読み、生徒指導上の課題について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第４回	生徒指導ー子どもの心理と行動（児童生徒理解に必要な発達段階に応じた心理状態や行動様式の考察） 【key words】 発達課題、適応、不適応、生徒理解、問題行動、規範意識 【授業概要】 児童生徒を理解する上で必要な発達段階に応じた心理状態や行動様式について、学校生活における適応、不適応、生徒理解、問題行動の現状等の観点から考察し、問題行動に対する指導の在り方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 32p～56p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生徒指導の基盤である生徒理解について、その視点や方法を具体的に理解する。次回に向けて教科書56p～64pを読み、自身の経験した学級集団について想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第５回	学級の経営ー集団で指導する（学級担任の学級集団づくりを学級活動との関連で経営的側面から考察） 【key words】 学級経営、学級活動、学級集団 【授業概要】 教師が学級担任として直面する学級集団づくりについて、学級担任の仕事、学級経営と学級活動、学級活動と学級集団づくりといった観点から考察し、学級経営における生徒指導の在り方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 56p～64p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学級集団づくりは、児童生徒一人一人の人間的成長に関わる教師の重要な仕事であることを理解する。次回に向けて教科書152p～158p、167p～173pを読み、自身が経験した教師の様子を想起してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第６回	学校の組織（校務分掌、職員会議、運営委員会等の組織・機能を理解し、学校運営への参画について考察） 【key words】 校務分掌、職員会議、企画調整会議（運営委員会）、教育環境の醸成、学校組織機能の向上 【授業概要】 現在の学校の組織・構造について、校務分掌、職員会議、企画調整会議、学校運営への参画といった観点から具体的に考察する。 【教科書ページ・参考文献】 152p～158p、167p～173p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校組織と構成員の役割について知り、教師がチームを組んで学校運営に当たっていることを理解する。次回に向けて教科書158p～167pを読み、組織体としての学校について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第７回	学校の運営（学校は教育目標の具現化を目指し、常にP-D-C-Aｻｲｸﾙによって運営を改善） 【key words】 学校の教育目標、学校経営計画、学校評価、自己申告制度、人事考課制度 【授業概要】

		学校は、全教育活動を通じて学校の教育目標の具現化を目指し、学校経営計画を立案し、P-D-C-Aサイクルによって内部評価、外部評価を行い、学校運営の改善を図っている。教職員は自己目標の設定と自己評価等によって学校運営に協力することが重要であることを考察する。 【教科書ページ・参考文献】 158p～167p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「学校は組織体であり、教員は学校組織の一員である」ということの意味について具体的に理解する。次回に向けて教科書118p～132pを読み、教員の養成について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第８回	教員の養成と任用（教員の養成、専門職性の向上、任用等は、国・地方公共団体が法令に基づき実施） 【key words】 県費負担教職員制度、教育委員会制度、教員免許状、教員免許更新制 【授業概要】 国や地方公共団体が法令に基づいて教育政策や施策を決定・実施していることを教育行政の仕組みを通して考察し、教員の養成、教職の専門職性、教員の資格、教員免許状、教員免許更新制及び任用について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 118p～132p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教員になるための条件、専門職性や資格の取得、任用の在り方について理解を深める。次回に向けて教科書132p～138pを読み、教員研修にはどのようなものがあるか知っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第９回	教師の資質向上と研修（教員の力量形成、職能成長等を図るための様々な研修について考察） 【key words】 学校管理職研修、教職経験者研修、初任者研修、職務研修、校内研修 【授業概要】 教員は、それぞれの職能、専門分野、能力、適性、興味・関心等に応じて、常に資質能力を向上させる必要があり、そのため「絶えず研究と修養に努めなければならない」と規定されている。このことを教師の資質能力のとらえ方、力量形成と研修、職能成長と研修、研修の種類といった観点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 132p～138p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教育公務員と地方公務員の研修についての規定の違いについて理解する。次回に向けて教科書138p～150pを読み、教員の服務義務等の規定について知っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１０回	教員の服務制度と勤務条件（教育公務員の採用と任免、身分上・職務上の義務、勤務条件等を考察） 【key words】 任免、服務義務、分限、懲戒、時間外勤務 【授業概要】 公立学校教員の採用と任免、服務義務、身分保障と分限・懲戒、勤務条件といった点について考察し、身分上も職務上も厳しい基準が設けられているが、それによって教員としての身分が守られていることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 138p～150p 【課題・予習・復習・授業準備指示】 服務義務の学習では、法令で示されている義務・禁止・制限について具体的事例を通して理解する。次回に向けて教科書152p～155p、234p～239pを読み、戦前期の教師像について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１１回	時代の流れと教師像の変遷（1）ー戦前期の学校教育と教師像（明治期～大正・昭和期まで） 【key words】 寺子屋、学制、被仰出書、森有礼、聖職教師像、国民教育、沢柳政太郎 【授業概要】 様々な歴史性を帯びて存在する教師像について、近代学校成立以前の教師、近代学校成立と教師、定型的教師像の誕生、ファシズム期の教師像という観点から戦前期における教師像について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 152p～155p、234p～239p　　参考文献：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 江戸・明治期から第二次世界大戦までの間、教師像はどのように変遷してきたかについて理解する。次回に向けて教科書240p～256pを読み、戦後の教師像の変化を考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１２回	時代の流れと教師像の変遷（2）ー戦後教育改革と教育の普及（戦争直後～現在と今後）

	【key words】 教育使節団、日本国憲法、教育基本法、学習指導要領、中央教育審議会、臨時教育審議会 【授業概要】 戦後、教育法制、学校制度等の改革、第三の教育改革といった教育改革が進められる中で、教師像はどのように変遷してきたかについて考察する。 【教科書ページ・参考文献】 240p～256p　　参考文献：秋田喜代美・佐藤　学編著「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 戦後の教育改革の流れとその中における教師像の変化についてとらえる。次回に向けて教科書176p～187pを読み、道徳教育の変化について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１３回　教育の今日的課題（1）ー道徳教育の充実（「特別の教科 道徳」について、その概要と要請の背景について考察） 【key words】 道徳教育、「特別の教科　道徳」 【授業概要】 教育の今日的課題の一つである道徳教育、特に「特別の教科　道徳」について、中教審答申及び学習指導要領（一部改正）を基に、その概要とそれが要請された背景について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 176p～187p　　配付資料：平成26年中教審答申、平成27年「学習指導要領解説　道徳編」等（抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校の全教育活動を通じて行う道徳教育と「特別の教科　道徳」の目標、内容の概要を理解した上で、なぜそれが教育の今日的課題なのかについて考える。次回に向けて小学校の外国語教育に関する資料を探してみる。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１４回　教育の今日的課題（2）ー小学校の外国語教育（これまでの成果と課題、目標の改善、概要等） 【key words】 コミュニケーション能力 【授業概要】 学習指導要領改訂の中で大きな変化の一つである小学校における外国語教育について取り上げ、これまでの成果と課題、目標の改善等について理解し、今後の方向性について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書に該当ページ無　配付資料：平成28年12月中教審答申、平成29年3月改訂学習指導要領、同年７月初等教育資料（抜粋） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小学校における外国語教育が改訂されたポイントと理由について考える。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
	第１５回　教育の今日的課題（3）ーチーム学校運営への対応（チーム学校運営の事例、今後の方向性等） 【key words】 学校組織マネジメント 【授業概要】 学校は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の教育資源が一体的にマネジメントされ、教職員のほか多様な人材が専門性を生かし、能力を発揮して、子どもたちに必要な資質能力を確実に身に付けさせることができる「チームとしての学校」になることが求められていることを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書に該当ページ無　　配付資料：文科省「チーム学校運営の推進等に関する法律案概要」「チームとしての学校の在り方（要約）」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 学校を取り巻く環境の変化に伴って、学校運営の在り方にも変化が求められている。こうした中で、これからの教師はどうあるべきか、教職に就く心構えについて考える。 【予習復習に必要な想定時間】 １時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず用意し、該当ページのポイントをしっかり理解するように努めること。 ・配付資料の予備は保管しませんので、出席者に取り置いてもらうかコピーをさせてもらうかしてください。 ・配付資料について積極的に読み取り、自分なりの考えを持つように努めること。 ・授業中に生じた疑問は、コメントカードで質問したり、自分でも調べたりすること。 ・授業中携帯電話､スマートフォンの電源は切り、しまっておくこと。（特別な事情がある場合は申し出ること） ・私語は慎むこと。授業中の飲食は禁止します。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・新聞報道等の教師に関する記事などに関心を持ち、各回のテーマに即して問題意識を持って講義に臨むように努めること。毎回、次回の授業に該当する教科書のページを読み、予習しておくこと。
オフィスアワー	火曜　9時30分～10時10分　それ以外の時間帯については、アポイントを取って頂きたい。
評価方法	・筆記試験の成績の結果を主とする（90%）

	・受講後の感想や質問の内容を加味する（10%）
教科書	佐藤　徹（編著）「教職論ー教職に就くための基礎・基本ー」東海大学出版　最新版
参考書	秋田喜代美・佐藤　学（編著）「新しい時代の教職入門」有斐閣アルマ　最新版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小・中学校教諭・校長及び教育行政官（指導主事、指導係長、学校教育課長、指導部長）として勤務した。この経験を活かし、教育学、教育社会学の理論を、学校現場等の実際の状況と関連付けて具体的に分かりやすく講ずる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育方法論　　授業コード：S5122

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
関本　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	幼いこどもに対する基本的な指導のあり方と保育と教育の現場における実技を学ぶ。保育と教育の環境構成の重要性を知り、それに伴う教師の心構えについて理解する。教師主導ではなく、学生主体で学習する方法を身につける。
授業の概要	幼児期の教育は、こどもの身体と精神に生涯にわたって影響を与える。幼児の成長・発達の基本的特徴を教育といかに有効に連携させるかを追及し、可能な限りの最高で最善な教育方法を探究する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　ガイダンス　自己紹介とアンケート　保育と教育の基本
	第２回　アンケート結果の紹介　フランスの幼稚園のDVDに学ぶ
	第３回　教育と保育の方法論上の基本　環境・生活の展開・遊び・こどもの発達の特性　幼稚園や保育所
	第４回　幼児についての理解とその方法　幼児理解とは何か　幼児理解を深める大人の注意点
	第５回　人間の進化・発達　発達のとらえ方　その姿
	第６回　環境構成と活動の展開　環境としての教師　こどもの楽しさとの共有　こどもの活動の充実
	第７回　一人ひとりに応じた援助　個人差　一人ひとりの興味・関心の違い　大人の温かな援助の仕方
	第８回　生活の指導　基本的な生活習慣の指導とこどもの自立　集団の中で生きる内的な喜び
	第９回　自己主張と自己抑制　幼稚園・保育所と家庭との連携　具体的な場面での援助の仕方
	第１０回　専門職としての保育者　保育の基本の理解　こどもの理解　発達・一人ひとりの育ち　保育者の役割
	第１１回　学びの場所　縦割り保育と横割り保育　一人ひとりのクラス作り　学びへの環境のあり方
	第１２回　こどもの援助の形態　さまざまな保育形態　グループ活動・個別活動・一斉保育

	第１３回　　園内外の環境を生かした保育　園内環境にかかわる　保育室　園外環境にかかわる　散歩 第１４回　　保育環境に求められること　幼稚園・保育所・小学校との連携　保護者と地域社会との連携 第１５回　　ディベイト　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	欠席・遅刻は授業時間前に必ず届け出ること。　6回以上欠席の場合は定期試験の受験資格を喪失する。　授業中に課したレポートは必ず期限内に提出すること。将来教職に携わる者として授業中の私語を慎む。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内容をミニレポートでまとめる課題が課せられたら、指定日までに必ず提出すること。
オフィスアワー	金曜・第2時限
評価方法	定期試験（60%）　レポート（20%）　ディベイト（20%）などで総合的に判断する。
教科書	神長美津子編著 『保育方法』 光生館
参考書	江島正子著 『たのしく育て子どもたち』 サンパウロ社　そのつど授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 （平成21年4月～平成25年12月）国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現 児童青少年課児童･青少年係）嘱託員[非常勤] （平成26年4月～平成29年3月）公益財団法人 荒川区自治総合研究所　研究員 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本史Ⅰ　　授業コード：S5201

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。 【到達目標】 ①日本史原始時代から中世までの流れを基本的に理解する。 ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。 ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。
授業の概要	日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、日本列島と日本人 【key words】 人類の誕生、日本列島の形成、旧石器文化 【授業概要】 人類の誕生・日本列島の形成・日本人の起源・形成を具体的に学ぶ。岩宿遺跡の重要性を認識する。 【教科書ページ・参考文献】 P13～15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 縄文文化について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	縄文文化 【key words】 自然環境の変化・縄文文化・三内丸山遺跡 【授業概要】 完新世にはいり、日本列島の気候はあたたかくなり、人々が土器をともなう新しい文化を生み出した。数千年にわたり、日本列島にさかえ、日本の民族と文化の原型が形成された縄文文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P16～19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 弥生文化について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	弥生文化 【key words】 水稲と鉄器、生産と階級、小国の分立、邪馬台国、吉野ヶ里遺跡 【授業概要】

		大陸文化の影響を受けて、紀元前４世紀～紀元後３世紀まで、水稲耕作・青銅器。鉄器を特徴とする農耕文化がおこった。薄手・赤褐色・硬い弥生土器を持つ弥生文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P19～23、P24～26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 古墳について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	古墳とヤマト王権 【key words】 古墳の築造、大和と朝鮮、氏姓制度 【授業概要】 古墳がさかんに築造された３世紀後半から７世紀の文化を古墳文化とよぶ。古墳の特色とヤマト王権の成立過程を学ぶ。中国・朝鮮半島との交渉・渡来人の活躍に注目する。 【教科書ページ・参考文献】 P26～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 聖徳太子について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	飛鳥の宮廷 【key words】 蘇我氏の台頭、厩戸王の政治、遣隋使 【授業概要】 大陸から新しい文化を導入して支配体制を強力にしてきた大和朝廷の中で蘇我氏が台頭して来る。推古天皇のもと摂政となった厩戸王の政治の内容と意義を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P38～40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大化の改新について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	大化の改新 【key words】 政変の原因、改新の政治、近江の朝廷 【授業概要】 ７世紀は古代東アジアの大転換期であった。中国では隋が滅び唐が成立した。日本は東アジアの激動の中で乙巳の変からはじまり、律令制度による中央集権体制形成の過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P41～52 【課題・予習・復習・授業準備指示】 奈良の大仏について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	平城京の時代 【key words】 平城京と遣唐使、政治と社会の変化 【授業概要】 710年平城京に都が移された。これ以降80年余りを奈良時代という。8世紀初め、皇族・貴族の均衡がとれていた政治制度は藤原氏の進出でくずれはじめた。政治と社会の変化を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P52～60 【課題・予習・復習・授業準備指示】 桓武天皇について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	平安朝廷の形成 【key words】 平安遷都、弘仁・貞観文化 【授業概要】 794年、桓武天皇はあらたな政治基盤を確立するため、平安京へ遷都した。ここでは平安初期の政治と文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P61～66 【課題・予習・復習・授業準備指示】 摂関政治について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	摂関政治 【key words】 摂関政治、国風文化、荘園と武士団 【授業概要】 藤原北家の発展、摂関政治、国風文化、荘園について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P66～82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 院政、白河法皇について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	院政 【key words】 院政、保元・平治の乱、平氏の栄華

	【授業概要】 近年、11世紀半ばすぎから、中世社会の特色があらわれ院政期を中世の画期とする学説が定着してきた。このことに注目して院政期を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P86～92 【課題・予習・復習・授業準備指示】 鎌倉幕府について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　鎌倉幕府 【key words】 源平の争乱、鎌倉幕府、執権政治 【授業概要】 源平の争乱から、鎌倉幕府の成立を学び、将軍と御家人との主従関係を理解する。さらに執権政治に至る過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P92～105 【課題・予習・復習・授業準備指示】 モンゴルについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　蒙古襲来 【key words】 蒙古襲来、得宗専制政治、鎌倉文化 【授業概要】 モンゴル帝国の成立・元の建国という東アジア情勢の中で蒙古襲来の意味を学ぶ。幕府の政治が御家人の協力を基盤とした執権政治から得宗専制政治に移り、鎌倉幕府滅亡への流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P105～118 【課題・予習・復習・授業準備指示】 足利尊氏について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　室町幕府 【key words】 建武の新政、動乱のふかまり、室町幕府 【授業概要】 14世紀鎌倉幕府は倒れ建武の新政となる。足利尊氏は室町幕府を開いて武家政権を再興した。全国的動乱の中南北朝の動乱はおわり、室町幕府の全国支配が完成する流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P118～128 【課題・予習・復習・授業準備指示】 応仁の乱について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　応仁の乱～戦国の世 【key words】 応仁の乱、戦国大名 【授業概要】 応仁の乱後、守護大名間の争い、国一揆、土一揆がおこる。家臣が主君を実力でたおす世は、下剋上の風潮を強め、戦国時代への流れを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P132～139、P145～150 【課題・予習・復習・授業準備指示】 室町文化の文物について1つ調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　室町文化 【key words】 南北朝文化、北山文化、東山文化 【授業概要】 室町時代に栄えた文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P128～131、P140～145 【課題・予習・復習・授業準備指示】 15世紀後半から16世紀のスペイン、ポルトガルの東アジア進出について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	教師を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 配付資料等は必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎日、新聞を読むこと。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	定期試験と確認テスト等によって評価する。
教科書	新もういちど読む山川日本史（山川出版社）
参考書	講義内で適宜紹介する。

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小中学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　日本史Ⅱ　　授業コード：S5205

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会科の指導者として、歴史的思考力・構成力を身につけ、現代社会、将来についてのあり方を考え実践できる資質を養う。 【到達目標】 ①日本史戦国の世から近世・近代・現代までの流れを基本的に理解する。 ②各時代の特性を理解し、歴史の変化を認識し、考察を深める。 ③歴史の個々の事実の理解を深め、時代相を総合的に理解し、生徒を指導できる能力を養う。
授業の概要	日本の歴史の発展過程を正しく理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　「ヨーロッパ人の来航」から世界の動きと日本史を考察する。 【key words】 大航海時代、鉄砲の伝来、キリスト教のひろまり、織田信長 【授業概要】 日本の戦国時代は、ヨーロッパではルネサンス・宗教改革・大航海時代へと近代への移行期にあった。ヨーロッパ人の来航・鉄砲の伝来・キリスト教のひろまりは大きく日本の歴史を動かしていったことを学ぶ。また、信長の天下統一に向けた動きについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P155～159 【課題・予習・復習・授業準備指示】 豊臣秀吉について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	豊臣秀吉 【key words】 豊臣秀吉の全国統一、検地と刀狩、秀吉の対外政策 【授業概要】 豊臣秀吉は、信長の後継者の地位を確立し、1590年全国統一をなしとげた。秀吉の政策の中で後世に最も影響を与えた検地・刀狩について学ぶ。朝鮮出兵とその失敗は豊臣政権の崩れる原因であったことを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P159～167 【課題・予習・復習・授業準備指示】 徳川家康について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	江戸幕府の成立、鎖国と貿易 【key words】 関ヶ原の戦い、江戸幕府、大坂の役、幕藩体制、鎖国、長崎貿易

【授業概要】
徳川家康は秀吉の死後、関ヶ原の戦いで勝利し江戸幕府を開いた。大坂の役で豊臣氏を滅ぼし、徳川幕府の基礎を確立した流れを学ぶ。また、鎖国に至るまでの動きとその後の貿易について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P167～179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
幕藩体制及び鎖国に至るまでの動きを禁教も含めて復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　文治政治、江戸初期の文化
【key words】
文治政治、寛永期の文化、正徳の治
【授業概要】
江戸初期の文化及び文治政治と正徳の治について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P180～184、192
【課題・予習・復習・授業準備指示】
文治政治について復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　経済発展と元禄文化
【key words】
諸産業の発達、元禄文化
【授業概要】
経済の発展の様子を諸産業の特徴をもとに理解する。また、この頃の文化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P184～199
【課題・予習・復習・授業準備指示】
享保の改革について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　幕政の改革Ⅰ･･･享保の改革
【key words】
徳川吉宗、財政の再建、法典の整備
【授業概要】
18世紀初め、幕府や諸藩は財政難に苦しむようになった。8代将軍吉宗は家康時代の政治を理想とし、幕府の権威を高め幕政ひきしめようと享保の改革した内容を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P200～202
【課題・予習・復習・授業準備指示】
寛政の改革について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　幕政の改革Ⅱ･･･寛政の改革
【key words】
田沼政治、寛政の改革、列強の接近
【授業概要】
大商人の経済力を利用した田沼政治に対して、1787年松平定信は寛政の改革を実施した。その内容と特色を学ぶ。また、列強の接近について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P202～209
【課題・予習・復習・授業準備指示】
天保の改革について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　幕政の改革Ⅲ･･･天保の改革と幕末
【key words】
大塩の乱、天保の改革、化政文化
【授業概要】
大塩の乱から老中水野忠邦の天保の改革の内容と特色を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P209～224
【課題・予習・復習・授業準備指示】
韓国前後の動きについて調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　幕末から明治へ
【key words】
開国、尊王攘夷、討幕
【授業概要】
開国に至るまでの動きと尊王攘夷・討幕について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P228～236
【課題・予習・復習・授業準備指示】
明治維新について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　明治維新
【key words】
大政奉還、戊辰戦争、廃藩置県、四民平等、地租改正、殖産興業
【授業概要】

	王政復古の大号令により成立した新政府は、戊辰戦争を経て近代的な中央集権的国家体制を実現させていった。その過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P236～250 【課題・予習・復習・授業準備指示】 文明開化について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１１回　文明開化 【key words】 自由と権利の思想、福沢諭吉、民撰議院設立建白書 【授業概要】 政府は文化や国民生活を近代化促進するために、西洋の近代思想や生活様式をとり入れた。この風潮を文明開化という。この内容と特色を学ぶ。また、この頃の政治と外交について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P250～255 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自由民権運動について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　自由民権運動と帝国議会 【key words】 士族の抵抗、自由民権運動、明治十四年の政変、帝国議会、大日本帝国憲法 【授業概要】 西南戦争後言論による自由民権運動が活発となり、明治十四年の政変をへて伊藤博文を中心とする薩長派中心の政権が確立して行く動きを学ぶ。また、1889年大日本帝国憲法が制定され、1890年第一回帝国議会が開かれた。その内容と特色を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P256～265、P269～273 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日清戦争、日露戦争について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　条約改正、日清・日露戦争 【key words】 不平等条約の改正、下関条約、三国干渉、日英同盟、ポーツマス条約 【授業概要】 不平等条約の改正及び日清・日露戦争と社会情勢について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P266～269、P273～293 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第一次世界大戦について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　第一次世界大戦と日本 【key words】 三国同盟、三国協商、ヴェルサイユ条約、ワシントン会議 【授業概要】 第一次世界大戦とその後の世界及び日本の情勢について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P294～313 【課題・予習・復習・授業準備指示】 第二次世界大戦について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　第二次世界大戦と日本 【key words】 満州事変、五・一五事件、二・二六事件、日中戦争、太平洋戦争、ポツダム宣言 【授業概要】 第二次世界大戦と日本の動きについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P314～338 【課題・予習・復習・授業準備指示】 日本史Ⅰ・Ⅱで学んだことを振り返り、自国の歴史を学ぶ意義について考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	教師を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 配付資料等は必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎日、新聞を読むこと。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	定期試験と確認テストを総合して評価する。
教科書	新もういちど読む山川日本史（山川出版社）
参考書	全集　日本の歴史（小学館）
実務者経験/アクティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小中学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 世界史　　授業コード： S5211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・世界の歴史における主な出来事や主要な人物について学ぶ。 ・世界の歴史の流れを理解する。 ・世界史を学ぶことで現代社会のより深い理解につなげる。
授業の概要	古代から近代を中心に同時代史にも留意しながら、教師に必要な知識や技術を身につけられるよう授業を展開する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　文明の起源　古代オリエント 【key words】 メソポタミア　古代エジプト　アッシリア　ペルシア 【授業概要】 文明の起源やそれに続く古代オリエント世界について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.7～22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 古代ギリシア・ローマについて予習する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　古代ギリシアとヘレニズム 【key words】 ポリス、ペルシア戦争、アレクサンドロス大王 【授業概要】 古代ギリシアの社会、ヘレニズム文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.23～29 【課題・予習・復習・授業準備指示】 古代ギリシア文化について1つ調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３回　古代ローマ帝国 【key words】 元老院、ポエニ戦争、グラックス兄弟、三頭政治、アウグストゥス 【授業概要】 古代ローマ帝国について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.29～35 【課題・予習・復習・授業準備指示】 古代ローマ文化について１つ調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第４回　イラン・インド・東南アジアの古代国家

【key words】
ササン朝、インダス文明、マウリヤ朝、クシャーナ朝、グプタ朝
【授業概要】
イラン・インドの古代国家について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.35～42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
インダス文明について復習する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　中国古代統一国家の成立①
【key words】
殷・周・春秋戦国
【授業概要】
中国の古代国家及び社会について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.43～46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
始皇帝について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　中国古代国家の成立②
【key words】
始皇帝、武帝、光武帝、シルクロード
【授業概要】
秦・漢について学ぶ。また、匈奴・突厥・モンゴル人等の遊牧系諸民族が果たした文化交流などを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.46～55
【課題・予習・復習・授業準備指示】
唐について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　中世の中国社会①
【key words】
唐及び宋の制度と文化
【授業概要】
中世の中国における諸国家とその社会について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.61～73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
モンゴル帝国について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　中世の中国社会②、中国周辺諸国
【key words】
モンゴル帝国、明、清
【授業概要】
中国北方諸民族の動き、明・清の制度と社会及び周辺諸国の動きについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.73～88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
イスラム教の特質について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　中世のイスラム世界
【key words】
イスラム教、ウマイヤ朝、アッバース朝、オスマン帝国
【授業概要】
シリア・エジプト・イベリア半島・北アフリカ・イラン・トルコ・インド等広範囲に広がっているイスラム世界について、その成り立ちと発展・衰亡について学ぶ。またイスラム文化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.89～103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
フランク王国について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　西ヨーロッパ世界の成立、中世の東ヨーロッパ
【key words】
フランク王国、カール大帝、ローマ教会、ビザンツ帝国
【授業概要】
ゲルマン民族大移動とフランク王国の建国、その後の西ヨーロッパの動きについて学ぶ。また、東ヨーロッパに栄えたビザンツ帝国について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
PP.104～114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
十字軍について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　中世後期のヨーロッパ
【key words】

	十字軍、教皇権の衰退、百年戦争、ロマネスク、ゴシック 【授業概要】 十字軍とその失政による教皇権の衰退及び西ヨーロッパ諸国の発展の様子について学ぶ。また、中世西ヨーロッパの文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.115～124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ルネサンスについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１２回　近世ヨーロッパの形成① 【key words】 ヨーロッパ人の海外進出、ルネサンス、宗教改革 【授業概要】 ヨーロッパ人が航路を開拓してアメリカ大陸やアジアに進出していく様子やルネサンス、宗教改革について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.129～142 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ピューリタン革命について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１３回　近世ヨーロッパの形成② 【key words】 ハプスブルク家、三十年戦争、絶対王政、ピューリタン革命、プロイセン 【授業概要】 近世ヨーロッパの国際政治と主権国家体制の確立について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.143～158 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アメリカ独立革命について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１４回　アメリカ独立革命、フランス革命とナポレオン 【key words】 独立戦争、フランス革命 【授業概要】 アメリカ独立革命及びフランス革命について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.162～173 【課題・予習・復習・授業準備指示】 産業革命について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　イギリス産業革命 【key words】 産業革命、資本主義、ウィーン体制 【授業概要】 イギリス産業革命について学ぶ。また、フランス七月革命や二月革命等によりウィーン体制が崩壊していく様子について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 PP.173～184 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	教師を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 配付資料等は必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎日、新聞を読むこと。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	定期試験と確認テスト等にて評価する。
教科書	「世界の歴史」編集委員会編『新もういちど読む山川世界史』山川出版社
参考書	参考文献などは講義の中で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小中学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地理学　　授業コード： S5215

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	・地理の基礎教養を身につける。 ・世界や日本の基本的地誌や地理的感覚を認識する。 ・学習を通して、現代社会をより広く深く理解する。
授業の概要	地理学の本質や中学校の社会科地理教材を学ぶ際の留意事項などを概観したうえで、その主要項目に関して、問題意識を提示しながら考察させる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、世界地図と地球儀、世界の気候 【key words】 図法、緯度・経度、時差 【授業概要】 主な世界地図の特色、地球儀の使い方を学ぶ。また、世界の気候について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 時差についての練習問題に取り組む。 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	世界の諸地域①　アジア州 【key words】 多様な自然環境、宗教、OPEC、工業化 【授業概要】 アジア州の自然環境・農業・工業・文化について学ぶ。また、中国の経済発展について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第３回	世界の諸地域②　ヨーロッパ州 【key words】 多様な自然環境、宗教、EU 【授業概要】 ヨーロッパの自然環境、特色ある文化、EU成立後の社会や産業について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第４回	世界の諸地域③　アフリカ州

【key words】
砂漠、熱帯雨林、植民地、アパルトヘイト、モノカルチャー経済
【授業概要】
アフリカの特色ある自然環境・文化・産業等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第５回　世界の諸地域④　北アメリカ州
【key words】
適地適作の大規模農業、先端技術産業、多国籍企業
【授業概要】
北アメリカの特色ある自然環境、多様な民族構成、世界に影響力を持つ農業及び工業について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第６回　世界の諸地域⑤　南アメリカ州
【key words】
植民地、モノカルチャー経済、地球温暖化
【授業概要】
南アメリカの多様な自然環境・生活文化・産業・環境問題について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第７回　世界の諸地域⑥　オセアニア州
【key words】
多文化社会、羊毛、鉄鉱石
【授業概要】
オセアニア州の特色ある自然環境、多文化社会への歩み、農業・工業について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第８回　日本の領域と領土、世界と比べた日本の地理的特色、日本の気候、縮尺・地図記号・等高線
【key words】
北方領土、地理的特色、縮尺
【授業概要】
日本の領土問題、地理的特色・気候について理解する。また、読図について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
読図の練習問題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　日本の諸地域①　九州地方
【key words】
火山、シラス台地、北九州工業地帯
【授業概要】
九州の自然環境と社会、産業について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１０回　日本の諸地域②　中国・四国地方
【key words】
本州四国連絡橋、瀬戸内工業地域、果樹栽培
【授業概要】
中国・四国地方の自然環境、高速道路や連絡橋の整備による生活の変化及び産業について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１１回　日本の諸地域③　近畿地方
【key words】
琵琶湖、阪神工業地帯、歴史的景観の保全、
【授業概要】
近畿の自然環境・環境保全・工業・林業について学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分 第１２回　日本の諸地域④　中部地方 【key words】 日本アルプス、中京工業地帯、東海工業地域、茶 【授業概要】 中部地方の自然環境、自動車工業、特性を生かした産業について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分 第１３回　日本の諸地域⑤　関東地方 【key words】 東京大都市圏、京浜工業地帯、京葉工業地域、北関東工業地域 【授業概要】 関東の自然環境、首都東京、東京大都市圏、特色ある産業について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分 第１４回　日本の諸地域⑥　東北地方 【key words】 銘柄米、果樹栽培、伝統行事、工芸品 【授業概要】 東北の自然環境、工夫された産業、生活文化について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分 第１５回　日本の諸地域⑦　北海道地方 【key words】 稲の品種改良、輪作、酪農、エコツーリズム 【授業概要】 北海道の自然環境、稲作への努力、北海道型農業、酪農、漁業について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
受講生に関わる情報および受講のルール	教師を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 配付資料等は必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	毎日、必ず新聞を読むこと。
オフィスアワー	火曜日の午後
評価方法	定期試験と確認テスト等により評価します。
教科書	「社会科　中学生の地理」（帝国書院）　「中学校社会科地図」（帝国書院）
参考書	講義の中で適宜紹介していきます。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小中学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　国語科概論　　授業コード：S5501

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校国語科学習指導要領の目標・内容を理解し、国語科の学習内容や指導法を理解する。 【到達目標】 ①国語科学習指導要領及び解説について理解することができる。 ②国語科の学習内容を知り、基本的な指導方法を身に付けることができる。
授業の概要	1　学習指導要領及の内容が実際の国語科教科書にどのように具体化しているか、理解する。 2　学習指導要領解説「国語編」を読み教材研究の仕方、学習指導案の作成、基本的な指導方法について身に付ける。 3　上記１と２を踏まえ、グループで教材研究を行い、学習指導案を作成し模擬授業を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション、国語科指導の基礎基本①（範読・読み聞かせ、学習指導要領及び解説１）、教師の体験談１ 【key words】 オリエンテーション、範読、学習指導要領、体験談 【授業概要】 ①　本授業及びシラバスの意義、15コマの授業内容と評価方法、予習・復習について知る。 ②　範読・読み聞かせについて知り、１年国語教材の範読・読み聞かせの練習をする。 ③　学習指導要領及び解説1：「学習指導要領とその解説の意味」について理解する。 ④　「日本語力」8～10頁（適切な日本語）についての答え合わせをし、解説を聞く。 ⑤　国語科指導の体験談を聞く。（遠足の作文） 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版。　３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】教科書１年上を黙読。「日本語力」5～7頁を読み、8～10頁を解き、授業に臨む。 【復】教科書１年上の範読をする。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第２回	国語科指導の基礎基本②（敬語１、学習指導要領及び解説２、１年配当漢字）、教師の体験談２ 【key words】 敬語、学習指導要領、１年配当漢字、体験談 【授業概要】 ①　「日本語力」15～16頁（敬語）についての答え合わせをし、解説を聞く。 ②　学習指導要領及び解説2：「●第１　目標」について知る。 ③　１年配当漢字（80字）について空書きをしながら理解する。 ④　国語科指導の体験談を聞く。（犬の話）

【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】教科書２年上の黙読。「日本語力」12～14頁を読み、15～16頁を解き授業に臨む。
【復】１年配当漢字を正確な筆順で字形を整え書けるようにする。「●第１目標」の理解と暗記をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第３回　国語科指導の基礎基本③（敬語２、板書法、学習指導要領及び解説３、２年配当漢字）、教師の体験談３

【key words】

敬語、板書法、学習指導要領、２年配当漢字、体験談
【授業概要】
①　「日本語力」17頁（敬語）についての答え合わせをし、解説を聞く。
②　板書法の理論を学び、チョークの持ち方・書き方について、黒板での実技練習を行う。
③　学習指導要領及び解説3：「学年の目標と内容１・２年」について知る。
④　２年配当漢字（160字）について空書きをしながら理解する。
⑤　教師の20代の頃の失敗談やＴ・Ｔについての体験談を聞く。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】教科書３年上の黙読、「日本語力」12～14頁を読み、17頁を解き、授業に臨む。
【復】２年配当漢字を正確な筆順で字形を整え書けるようにする。1・2年の目標等の理解と暗記。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第４回　国語科指導の基礎基本④（品詞・活用の種類、教材の配列・系統、学習指導要領及び解説４、書写、３年配当漢字）、教師の体験談４（学級経営、教育委員会）

【key words】

品詞、教材の配列、学習指導要領、書写指導、体験談
【授業概要】
①　「日本語力」35頁（品詞・活用の種類）についての答え合わせをし、解説を聞く。
②　児童用教科書６冊を見て、１学年の横の配列、各学年４月の縦の配列の特徴について知る。
③　学習指導要領及び解説4：「学年の目標と内容３・４年」について知る。
④　書写指導の基礎基本を理解する。（硬筆と毛筆の関係、指導時数等）
⑤　３年配当漢字（200字）についてなぞり書きをしながら理解する。
⑥　まとめミニテスト（１～３回分）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】教科書４年上の黙読、「日本語力」32～34頁を読み、35頁を解き、授業に臨む。
【復】３年配当漢字を正確な筆順で字形を整え書けるようにする。3・4学年の目標等の理解と暗記。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第５回　教材研究①「２年　かたかなで書く言葉」、国語科指導の基礎基本⑤（学習指導要領及び解説５、４年配当漢字）

【key words】
教材研究、学習指導要領、４年配当漢字
【授業概要】
①　「日本語力」36～37頁（品詞・活用の種類）についての答え合わせをし、解説を聞く。
②　教材研究の仕方について知る。具体的な教材として「２年　かたかなで書く言葉」を扱う。
1）教科書熟読
2）学習指導要領及び解説の熟読
3）教科書会社解説の熟読
4）学習指導案関連の市販本の熟読
5）必要に応じて先輩等の学習指導案の参照する。

③　学習指導要領及び解説５：「学年の目標と内容５・６年」について知る。
④　４学年の配当漢字（202字）についてなぞり書きをしながら理解する。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】教科書５年上の黙読、「日本語力」32～34頁を読み、36～37頁を解き、授業に臨む。
【復】４年配当漢字を正確な筆順で字形を整え書けるようにする。5・6学年の目標等の理解と暗記。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第６回　教材研究②「２年　かたかなで書く言葉」、国語科指導の基礎基本⑥（学習指導要領及び解説６、５年配当漢字）

【key words】
教材研究、ワークシート、教材づくり、学習指導要領、５年配当漢字

【授業概要】
①「日本語力41～43頁（ら抜き言葉、レタス言葉、さ入れ言葉）についての答え合わせをし、解説を聞く。
②　教材研究の仕方について深く知る。具体的な教材として、「２年　かたかなで書く言葉」を扱う。
1）教科書熟読
2）学習指導要領及び解説の熟読
3）教科書会社解説の熟読
4）学習指導案関連の市販本の熟読
5）必要に応じて先輩等の学習指導案の参照する。
③　教材づくりの方法：上記教材研究をしながら、先輩が作成したワークシート、めあて短冊、絵カー
ド等を概観する。
④　学習指導要領及び解説６：「●第３　指導計画の作成と内容の取扱い」について知る。
⑤　５学年の配当漢字（193字）についてなぞり書きをしながら理解する。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】教科書６年上の黙読、「日本語力」38～40頁を読み、41～43頁を解き、授業に臨む。
【復】５年配当漢字を正確な筆順で字形を整え書けるようにする。指導計画の作成等の理解と暗記。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第７回　学習指導案の作成①「２年上　かたかなで書く言葉」、国語科指導の基礎基本⑦（学習指導要領及び解説７、６年配当漢字）
【key words】

学習指導案の意義、ワークシート、板書計画、教材作り、学習指導要領
【授業概要】
①　学習指導案がなぜ必要なのか知る。
②　先輩の学習指導案・ワークシート・板書計画から学ぶ。
※　学習指導案のおおまかな項目は決められているが、自治体、学校、教科領域により異なるので、実習時には、指導教員の指示に従うことを理解する。
③　学習指導要領の総括を行う。
④　６年配当漢字（191字）を学ぶ。
⑤　まとめミニテスト（４～６回分）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】学習指導要領および解説を読み込んでおく。
【復】６年配当漢字を正確な筆順で字形を整え書けるようにする。学習指導要領の総-集をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第８回　学習指導案の作成②「２年上　かたかなで書く言葉」
【key words】

学習指導案の必要項目、本時の学習
【授業概要】
①　「本時の学習」の書き方を知る。必要に応じて先輩の「本時の学習」を参考にして学ぶ。
②　本時の学習部分のシミュレーションを行う。
1）班ごとに、予習で作成したメモを見せ合い、口頭発表を行う。
2）模擬授業の授業者は、他班の良い所を取り入れることもできる。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「かたかなで書く言葉」の第2時について、どのような展開にするか、メモしてくる。
【復】授業者２人は「本時の学習」を仕上げ、次回授業前に担当者の指導を受ける。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第９回　模擬授業「２年上　かたかなで書く言葉」（全３時間中の第２時」
【key words】

模擬授業、授業研究会、授業の視点
【授業概要】
①　模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説する。
②　必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。学生は対面または遠隔のどちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】模擬授業の授業者は、十分なシミュレーションを事前に行い学習指導案を修正しておく。
【復】模擬授業の授業者は、模擬授業後の授業研究会を受け、十分に自己の授業を省察する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

	第１０回	教材研究③「２年上　すみれとあり」【教師としてのインプット】（教師として身に付けたい知識・技能） 【key words】 説明文の指導、教師としてのインプット 【授業概要】 ①　３年上「すみれとあり」について、教材研究を行う。 ②　説明文について教師としての知識をインプットする。 1）様々な読み方（黙読、微音読、音読、群読、範読…） 2）漢字の指導（春、道、高、近、地、自、分、外） 3）言葉の学習（…にも、さける、つぎつぎと、どうやら、…しか、…だけ） 4）学習指導要領及び解説の該当場所：１・２年　Ｃ読むことの(1)ア「時間的な順序や事柄の順序 などを考えながら、内容の大体を捉えること。 5）文章の構成：大段落（意味段落）と小段落（形式段落） 6）挿絵や写真と文章の関連 7）教材の最後の学習の手引き47～49頁を指導者レベルで考察する。①たしかめよう、②考えよう、 ③ふかめよう、④ひろげよう 8）教科書会社の教師用指導者や赤刷りを読み込む。 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「すみれとあり」を熟読し、教師としての読解（学習の手引き）をして、授業に臨む。 【復】「すみれとあり」以外の説明文教材を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１１回	教材研究④「２年上　すみれとあり」【教師としてのアウトプット】（教師としてどう授業を仕組むか） 【key words】 説明文の指導、教師としてのアウトプット 【授業概要】 ①　前回、第10回でインプットした知識・技能をどのように授業づくりに活かすか、教員と共に考え る。 1）「すみれとあり（全10時間）」の第何時で、どのような読みを取り入れるか。音読には、丸読み、タケノコ読み、スピード読み等がある。 2）漢字の指導は、空書き、ワークシートでの漢字練習、黒板掲示用漢字マグシート等がある。 3）言葉の学習ででは、文中での使われ方、短文づくりで理解が深まる。 4）学習指導要領及び解説を熟読し、授業で具体化する。 5）文章の構成を考え、全10時間の指導計画を立案する。 6）挿絵や写真を拡大コピー、画用紙で裏打ちしマグシートを貼り、黒板掲示すると児童の読解を促 進する。 7）児童が行う学習過程を学習の手引きを通して体験する。 ②　指導形態（一斉、個人、ペア、グループ）を考える。 ③　学習記録（ワークシート、ノート…）を考える。 ④　板書計画を考える。 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「すみれとあり」の第３意味段落を熟読し、展開方法をメモし授業に臨む。 【復】「すみれとあり」の第３意味段落の学習指導案略案「本時の学習」を試作する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１２回	教材研究⑤「２年上　きつねのおきゃくさま」【教師としてのインプット】（教師として身に付けたい知識・技能） 【key words】 物語文の指導、教師としてのインプット 【授業概要】 ①　２年上「きつねのおきゃくさま」について、教材研究を行う。 ②　物語文について教師としての知識をインプットする。 1）様々な読み方（黙読、微音読、音読、群読、範読…） 2）漢字の指導（考、太、丸、心、切、夏、） 3）言葉の学習（お兄ちゃん、すみか、きつねおにいちゃんち、つぶやく、きぜつ、おおかみ、りんりん と、じつに、いさましい、ゆうかん） 4）学習指導要領及び解説の該当場所：１・２年　Ｃ読むことの(1)エ「場面の様子に着目して、登場人 物の行動を具体的に想像すること」 5）文章の構成：１行あきで示された場面転換 6）挿絵と文章の関連：挿絵と場面 7）教材の最後の学習の手引き82～83頁を指導者レベルで考察する。①たしかめよう、②考えよう、 ③ふかめよう、④ひろげよう 8）教科書会社の教師用指導者や赤刷りを読み込む。 【教科書ページ・参考文献】

		１「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「きつねのおきゃくさま」の学習の手引き82～83頁を指導者レベルで考察し、授業に臨む。 【復】「きつねのおきゃくさま」以外の物語文教材（特に繰り返しのあるもの）を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１３回	教材研究⑥「２年上　きつねのおきゃくさま」【教師としてのアウトプット】（教師としてどう授業を仕組むか） 【key words】 物語文の指導、教師としてのアウトプット 【授業概要】 ①　前回、第12回でインプットした知識・技能をどのように授業づくりに活かすか、教員と共に考える。 1）「きつねのきゃくさま（全8時間）」の第何時で、どのような読みを取り入れるか。音読には、 丸読み、タケノコ読み、スピード読み等がある。 2）漢字の指導は、空書き、ワークシートでの漢字練習、黒板掲示用漢字マグシート等がある。 3）言葉の学習ででは、文中での使われ方、短文づくりで理解が深まる。 4）学習指導要領及び解説を熟読し、授業で具体化する。 5）文章の構成を考え、全8時間の指導計画を立案する。 6）挿絵や写真を拡大コピー、画用紙で裏打ちしマグシートを貼り、黒板掲示すると児童の読解を促進 する。 7）児童が行う学習過程を学習の手引きを通して体験する。 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】第１の場面「ひよことの出会い」を読み、展開方法をメモし授業に臨む。 【復】第１の場面「ひよことの出会い」の学習指導案略案「本時の学習」を試作する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１４回	教材研究⑦「３年上　かえるのぴょん」 【key words】 詩の指導、谷川俊太郎 【授業概要】 ①　３年上「かえるのぴょん」について、教材研究を行う。 ②　詩について教師としての知識をインプットする。 1）様々な読み方（黙読、微音読、音読、群読、範読…） 2）詩の種類について 口語詩・文語詩　　定型詩・自由詩・散文詩 3）詩の表現技法 比喩（直喩・暗喩・擬人法）、体言止め、倒置法、対句法、反復法、省略法、擬態語・擬声語 聯（れん） 4）学習指導要領及び解説の該当場所：３・４年　Ｃ読むことの(2)イ「詩や物語などを読み、内容 を説明したり考えたことなどを伝え合ったりする活動」 5）文章の構成：１行あきで示された場面転換（段落ではなく、聯〈れん〉） 6）挿絵と文章の関連：挿絵と場面 7）教科書会社の教師用指導者や赤刷りを読み込む。 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】事前に教員から渡された谷川俊太郎の詩を読んでおく。 【復】谷川俊太郎以外の詩（児童用教科書掲載）を読み、詩の表現方法について考える。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１５回	学習指導要領及び解説のまとめ、教員採用試験の国語科領域について、本授業の振り返りと発表 【key words】 学習指導要領及び解説、教員採用試験、省察 【授業概要】 ①　教員採用試験での国語関連の過去問を実際に解き、傾向を理解する。 ②　本授業を振り返り、ディスカッションをする。 【教科書ページ・参考文献】 １「学習指導要領解説　国語編」、2018年2月。２　小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年～６年上」教育出版.３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年9月。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】レポート800字程度で「本授業で①身についたこと、②今後の課題」を書いて、授業に臨む。 【復】受験希望自治体の国語科関連の過去問題を解いておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分

受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 ・本授業は、対面または遠隔とする。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとること。 ・遠隔授業では、授業の数日前までには授業資料を送信するので、印刷または画面で見られるようにしておく。 ・遠隔授業では、不具合が生じないよう準備する。しかし、遠隔授業中、不具合が生じたらチャット等 で担当教員に報告する。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、Webポータル内のスレッドでのコメント（遠隔授業）
授業外時間にかかわる情報	①　教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。 ②　月３冊以上の読書をする。 ③　就職センターで、先輩の教員採用試験報告書を読んでおく。 ④　教科書としてあげた「小学校学習指導要領解説　国語編」「児童用国語科教科書」「日本語力」の３冊は熟読したり、解いておいたりする。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、ミニテスト（30%）、授業への取り組み（20%）
教科書	１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、平成29年７月。 ２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年上、２年上、３年上、４年上、５年上、６年上、計６冊」教育出版 ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年９月
参考書	・牛頭　哲宏・森篤　嗣：「現場で役立つ小学校国語科教育法」ココ出版、2012年　　・桂　聖「『考える音読』の授業　文学アイデア50」東洋館出版社、2011年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として国語科の指導を20年間、教頭職を３年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員への国語科授業の指導を行ってきた。それらの経験を活かし、国語科指導の基礎基本を身に付けさせる。また、小学校学習指導要領及び解説及、国語科児童用教科書を活用し、具体的に示範、解説する。さらに、学習指導案の書き方について実例をあげたり、学生主体の模擬授業の実施・省察を行ったりするなど、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会科概論　　授業コード：S5511

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　小学校社会科は、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することを目標としていることを理解し、各学年ごとの指導内容を体系的につかむことができるようになること。 【到達目標】 ①学習指導要領のポイントを理解すること。 ②教科の目標及び各学年の目標を理解すること。 ③各学年の学習内容を理解すること。 ④基礎となる考え方を理解すること。
授業の概要	「生きる力」という理念をもとにした学習指導要領の主なポイントについて学ぶ。 指導要領の見方を学び、各学年の目標及び学習内容を体系的にまとめる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　　科目オリエンテーション、学習指導要領のポイント 【key words】 主体的対話的で深い学び、生きる力 【授業概要】 授業の進め方等について知る。楽手指導要領のポイントについて知る。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　　社会科の目標、小学校社会科学習指導要領の学年別目標(指導要領の見方①) 【key words】 公民としての資質・能力の基礎の育成、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、 人間性等 【授業概要】 小学校社会科の目標の目標について知る。学年別目標について知る。 【教科書ページ・参考文献】 P17～P33 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第３回	小学校社会科学習指導要領の学年別目標(指導要領の見方①)、学年別学習内容構成(指導要領の見方②) 【key words】 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力、人間性等、三つの区分、五つの基本事項 【授業概要】 学年別目標について知る。学年別内容構成について知る。 【教科書ページ・参考文献】 P48～P50、P70～P72、P97～100 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導要領を読む。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	第３学年の学習内容①・・身近な地域や市区町村の様子、地域に見られる生産や販売の仕事 【key words】 市を中心とする地域学習 【授業概要】 身近な地域や市の様子、地域に見られる生産や販売の仕事について、身につけるべき知識・技能、 思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P34～P40 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	第３学年の学習内容②・・地域の安全を守る働き、市の様子の移り変わり 【key words】 市を中心とする地域学習 【授業概要】 地域の安全を守る働き、市の様子の移り変わりについて、身につけるべき知識・技能、 思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P41～P47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	第４学年の学習内容①・・都道府県の様子、県内の特色ある地域の様子、県内の伝統や文化、先人の働き 【key words】 県を中心とする地域学習 【授業概要】 県の様子、県内の特色ある地域の様子、県内の伝統や文化、先人の働きについて、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P51～P52、P62～P69 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	第４学年の学習内容②・・人々の健康や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動 【key words】 県を中心とする地域学習 【授業概要】 人々の健康や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動について、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P53～P61 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	第５学年の学習内容①・・我が国の国土の様子と国民生活、我が国の国土の自然環境と国民生活の関わり 【key words】 国土と産業の学習 【授業概要】 我が国の国土の様子と国民生活、我が国の国土の自然環境と国民生活との関わりについて、 身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
P73～P77、P91～P96
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　第５学年の学習内容②・・我が国の農業や水産業における食料生産、我が国の工業生産
【key words】
国土と産業の学習

【授業概要】
我が国の農業や水産業における食糧生産、我が国の工業生産について、
身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P77～P86
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　第５学年の学習内容③・・我が国の産業と情報との関わり
【key words】
国土と産業の学習

【授業概要】
我が国の産業と情報との関わりについて、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、
また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P87～P91
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　第６学年の学習内容①・・我が国の政治の働き
【key words】
歴史と政治と国際理解の学習

【授業概要】
我が国の政治の働きについて、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、
また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P100～P106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　第６学年の学習内容②・・我が国の歴史上の主な事象(縄文時代～平安時代)
【key words】
歴史と政治と国際理解の学習

【授業概要】
我が国の歴史上の主な事象(縄文時代～平安時代)について、身につけるべき知識・技能、
思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P106～P114
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　第６学年の学習内容③・・我が国の歴史上の主な事象(鎌倉時代～江戸時代)
【key words】
歴史と政治と国際理解の学習

【授業概要】
我が国の歴史上の主な事象(鎌倉時代～江戸時代)について、身につけるべき知識・技能、
思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P106～P110、P114～P119
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの確認
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　第６学年の学習内容④・・我が国の歴史上の主な事象(幕末～昭和)
【key words】
歴史と政治と国際理解の学習

【授業概要】
我が国の歴史上の主な事象(幕末～昭和)について、身につけるべき知識・技能、

	思考力・判断力・表現力等、また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P106～P110、P120～P124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　　第６学年の学習内容⑤・・グローバル化する世界と日本の役割 【key words】 歴史と政治と国際理解の学習 【授業概要】 グローバル化する世界と日本の役割について、身につけるべき知識・技能、思考力・判断力・表現力等、 また指導上の留意点について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P128～P134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ワークシートの確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むと。 教育関係の報道等に留意し、自らの考えを明確に持つようにしておくこと。 地理・歴史・公民の基礎知識について確認しておくこと。 配付資料やワークシートは必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	新聞を毎日読むこと。博物館や資料館等を利用すること。
オフィスアワー	火曜日の14:30～17:30
評価方法	定期試験及び授業後の確認テストにて評価する。
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領解説　社会編」
参考書	適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　数学概論　　授業コード：S5521

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 算数教育の背景となる基礎的知識を身につけるとともに、数学的見方・考え方を働かせた数学的活動の理解を深め、小学校教師としての基本的知識と技能を養うことを目的とする。 〔到達目標〕 ①算数指導の基本原理を理解し、算数指導に役立てることができる。 ②算数指導における用語・記号活用の意義や方法を理解し、算数指導に役立てることができる。 ③算数指導における操作活動や数学ゲームなど算数指導の充実を図る創造力を養い、算数指導に役立てることができる。 ④アルゴリズムの理解と整数論・集合論など数学的思考や活動に役立つ基本概念を学び、算数指導の質の向上に役立てることができる。 ⑤数学の基本的知識を理解し、教員採用試験（一般教養）の回答に役立てる。
授業の概要	テキスト「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著に基づき、小学校算数教育の背景となる基本概念を講義・意見交換などで理解を深めるとともに、関連する数学理論の基本的理解を深める。操作活動や教材作成など実際の算数授業を体験しながら資質向上を図る。授業は全員参で問題解答、操作活動、数学ゲームなどに取り組み、アクティブラーニングを旨とする。数学的思考はノートづくりから始まりノートづくりでまとまるものであり、授業ノートをレポートとする。ノート作成は各自創意工夫するものだが、試験にノート持ち込み可（テキスト不可）として考えて記録すること。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション、問題解決学習のための算数・数学的活動 【key words】 問題解決学習　問題解決の４つの段階、数学的な考え方（帰納的、類推的、演繹的、統合化、発展的、抽象化、単純化、一般化、特殊化、記号化、数量化、図形化） 【授業概要】 講義・演習　オリエンテーション、問題解決学習のための算数・数学的活動　テキスト２４,25 公式用語理解（数） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２４，２５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	数の表し方（記数法・名数法） 【key words】

		算数のねらい、十進位取り記数法、 【授業概要】 講義・演習　数の表し方（記数法・名数法）　テキスト１，２　数学広場（数の誕生・連続量）公式用語理解（四則計算） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１，２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	倍数・約数・素数・分数 【key words】 操作分数、量分数、数としての分数、割合分数、商分数、　最大公約数、最小公倍数 【授業概要】 講義・演習　倍数・約数・素数・分数　テキスト３、４　数学広場（互除法、友愛数）　　公式用語理解 （等式、分数） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　３，４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	計算の意味と作問（増加、合併、求残、求差） 【key words】 　増加、合併、求残、求差、 【授業概要】 講義・演習　計算の意味と作問（増加、合併、求残、求差）　テキスト５　数学広場（箱の中の数字当て）公式用語理解（アルゴリズム） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	かけ算、わり算と数直線（仮商，真商） 【key words】 小数をかける掛け算の意味、少数で割る割り算の意味、割り算の計算の特徴 【授業概要】 ″講義・演習　かけ算、わり算と数直線（仮商，真商）　テキスト８，１０　数学広場（外的スキーマ、概念形成） 公式用語理解（分数）″ 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　８，１０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	少数、分数の掛け算割り算の説明 【key words】 計算の意味、数の仕組み、計算の決まり、類推 【授業概要】 講義・演習　少数、分数の掛け算割り算の説明　テキスト８，１１，１２　数学広場（循環小数）　公式用語理解（比と比例式） 【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　８，１１，１２

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　量の比較や測定
【key words】

量の意味、量の性質、測定の考え方、体積（かさ）や重さの測定の考え
【授業概要】

講義・演習　量の比較や測定　テキスト１３　数学広場（文字の数学）　　公式用語理解（方程式）

【教科書ページ・参考文献】
「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１３

【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　単位量当たりの大きさ
【key words】

単位量、割合、速さ
【授業概要】

講義・演習　単位量当たりの大きさ　　テキスト１５　数学広場（　集合　）　　公式用語理解（方程式２）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第９回　図形の定義・性質と操作活動、　平面図形の求積
【key words】

図形の構成要素、
【授業概要】

講義・演習　図形の定義・性質と操作活動、　平面図形の求積　テキスト１４　数学広場（三角形と多角形）
公式用語理解（図形１）″

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１０回　基本的な図形の概念
【key words】

図形領域の系統性、対称概念、関係概念、操作概念、外延、内包
【授業概要】

講義・演習　基本的な図形の概念　テキスト１６　数学広場（タングラム）　公式用語理解（図形２）

【教科書ページ・参考文献】

「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業展開に応じて各回指示します
【予習復習に必要な想定時間】

第１１回　帰納的な考え方と演繹的な考え方
【key words】

帰納的、演繹的、類推、特殊化、発展的

	【授業概要】 講義・演習　帰納的な考え方と演繹的な考え方　テキスト１７　数学広場（重心・ピタゴラスの定理　）公式用語理解（図形３） 【 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　正多角形と円・円周率 【key words】 円周率、正多角形、円の求積 【授業概要】 講義・演習　正多角形と円・円周率　数学広場（円　）　テキスト１８　公式用語理解（図形４） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　立体図形 【key words】 立体図形 【授業概要】 講義・演習　立体図形　テキスト１９　　数学広場（正多面体・準多面体）　公式用語理解（ 、 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　１９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　関数的な考え方と式・グラフ 【key words】 関数の考え方、式、表、グラフ 【授業概要】 講義・演習　関数的な考え方と式・グラフ　テキスト２０　数学広場　（ブラックボックス　）公式用語理解（関数２） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　数学的活動を楽しむ 【key words】 算数的活動（数学的活動） 【授業概要】 講義・演習　算数的活動（数学的活動）を楽しむ　テキスト２３　数学広場（関数とグラフ）公式用語理解（関数３） 【教科書ページ・参考文献】 「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」　２３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業展開に応じて各回指示します 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・三角定規、コンパス、ハサミ、USBメモリーは常時持参

	・テキスト「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著は必携 ・講義は小学校の授業を想定し、授業のルールを守り、誠実は授業態度で出席のこと。 ・演習は教員採用試験一般教養の数学問題に取り組みます。（数学広場・公式用語理解で扱い） ・授業中の発言、回答などは教師としての必要な資質である話術の鍛錬の時と考えて発言すること。不明瞭、無表情は禁物 〔受講のルール〕 ＊主体的に授業参加をすること。教師としての基礎基本は何かを考えて授業参加すること。自ら課題解決の方策を見出し、自己教育能力を 伸ばすこと。後半の模擬授業実施時は受講生は小学生として参加する。文具やノートも小学生と同じものを使います。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・教員採用試験の対策を念頭に問題解答など演習の時間を毎回作るので準備すること。
オフィスアワー	質問・意見・感想等はコメントカードに記入して授業後に提出すること。後日回答します。
評価方法	・期末試験（４０％） ・毎時間の学習ノートをレポートとして提出。（４０％） ・授業参加の意欲（発言、発表、回答）（２０％）
教科書	「算数の基礎・基本を楽しく学べる授業」廣田敬一著　教育出版
参考書	遠山啓「数学の広場」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭１５年、中学校数学教諭４年、小中学校管理職１０年、市教育委員会学校教育課長３年、県教育委員会青少年行政６年、市教育研究所長２年（嘱託）など実務経験に基づき、学生には教師としての基本的資質と指導力の育成な当たることを授業の重要課題とする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 理科概論　　授業コード：S5531

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
高山　幸延			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ １．小学校理科を指導する際に必要な基礎・基本（理科を学ぶ意義、知識・理解や技能等）の修得 ２．質の高い授業を計画し実行する指導力の獲得 ［到達目標］ １．学習指導要領で示された理科の目標・内容・配慮事項の背景・趣旨・要点や、教科書の記述内容の奥深さを理解する。 ２．実際の授業場面を想定した授業の設計ができ、理科がめざす基礎・基本が児童に身に付く(模擬)授業を行うことができる。
授業の概要	１．小学校理科を指導する際に必要な理論面・実践面での基礎・基本を身に付ける。 ①理科を学ぶ意義の理解、②学習指導要領の趣旨や理科の目標・内容の理解、③理科で育成を目指す　資質・能力　など ２．１の理解を基に、理科の標準的な学習過程を理解し、実験・観察、ものづくり、模擬授業などの経　験をとおして、よりよい授業が実行できる力を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション（年間の講義の概要説明、評価方法の説明、講師・学生の自己紹介など） 【key words】 講義の概要、授業の受け方、評価方法、自己紹介 【授業概要】 ①「年間の講義の方針や内容」「単位認定の内容・方法」等を説明する。 ②自己紹介用アンケートに各自記入後、それをもとにクイズ形式で自己紹介を行う。 ③講義後の振り返りシートの記入上の約束事の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P1～28) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○１年間の講義の方針や内容を再確認する。 ○理科教科書､学習指導要領解説(理科編)を購入し内容を見ておく。 ○ワークシートをファイリングするための２穴ファイル等を購入する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	１．理科を学ぶ意義・理由について、考えてみよう！ 【key words】 理科を学ぶ意義・理由 【授業概要】 ①「理科をなぜ学ぶ必要があるのか」について、自ら考え、班で議論して発表し、講師の考えを聞く。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P1～8) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○理科を学ぶ意義・理由について、日常生活での具体的場面で思い出し、考えを深めておくこ

と。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第３回　１.ふりこの学習（５年）をとおして、理科の本質を学ぼう！　２.「種子が発芽する条件」（５年）を考えることをとおして、問題解決能力を再確認しよう！
【key words】
ふりこ、条件、予想、理由（根拠）、結果、結論、問題解決の力、条件制御

【授業概要】
①簡単なふりこを操作しながら、「ふりこの１往復する時間は、何が関係するのか」を考　える。
②条件ごとの予想と理由から計画を立て、結果から結論を考える。
③理科では、「問題解決の力を養う」ことが大きな目標の１つになっていることを学ぶ。
④種子が発芽するための条件を考える。
⑤ふりこの実験や種子が発芽するための条件を学ぶことをとおして、「条件制御」の概念　を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
5年の教科書(P20～27、P150～160)、学習指導要領・解説(P17)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○「条件制御」の本質や意義から、非科学的なコマーシャル等の虚構を見破る力をつけること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　１.5年以外の、問題解決の能力（育成をめざす資質・能力）は何か、確認していこう！　２.今の教科書の「工夫やすばらしさ」を、自ら発見してみよう！
【key words】
問題解決の能力、育成をめざす資質・能力、教科書の工夫

【授業概要】
①３・４・６年の問題解決の能力は何かを、教科書、学習指導要領・解説から考える。
②自分の小学校時代の教科書と比べて、今の教科書の「すばらしいところ、異なるところ」を見つける。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説(P1～28、P118～129)、３～６年の教科書：全ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書の工夫点を見つけ認識することは授業力向上に役立つので、他教科でも行っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　１.理科の核心である「教科の目標」について、学ぼう！　２.「理科の学習の学び方（進め方）」を確認しよう！
【key words】
「教科の目標」を学ぶ意義、理科の目標、学年の目標、理科の学び方（学習過程）
【授業概要】
①教科の目標を学ぶ意義と「理科の目標、学年の目標」の概要を学ぶ。
②理科の学び方（学習過程）と　それぞれの過程での大事な点（ポイント）をまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説(P1～28、P118～129)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・他教科においても、学ぶ意義・理由を考えまとめておくこと。
・理科の学び方（探求過程）は、小・中・高・大・社会で活用できるものなので、しっか　りと意識化しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分

第６回　１.ものづくりに挑戦しよう！　２.作った車をどのように使って、どんな授業を行えばよいか、考えてみよう！
【key words】
ものづくり、風で動く車、ゴムで動く車、製作、結果、結論
【授業概要】
①３年で学習する「風で動く車」「ゴムで動く車」を製作する。そのための条件、材料等を考える。
②ものづくりが大切な理由を考える。
③どんな問題（意識）で、授業をすすめればよいか、考える。結果や結論のまとめ方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説(P29～39)、３年の旧教科書(P94～103)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ものづくりに必要な材料を、100円ショップやホームセンター等を巡ってそろえること。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第７回　１.ものづくりを実際に行おう！
【key words】
ものづくり、風で動く車、ゴムで動く車、製作、ものづくり報告書、評価カード
【授業概要】
①自分が作る車の概要（どんな車か、用意した材料・道具等）を発表する。
②完成後、ものづくり報告書を書き、発表する。
③他の人は、評価カードでその作品を評価し、それをもとに「ベストものづくり大賞」などを決める。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説（P29～39）、３年の旧教科書(P94～103)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義の時間内に作品が完成しなかった者は、次時までに作品を完成させ持ってくること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

	第８回	１.自分の作った車で、実際に実験してみよう！ 【key words】 実験、結果、結論、考察、実験を行ううえでの留意点 【授業概要】 ①自分が作った車で実際に実験する。 ②結果・結論・考察等をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P29～39)、３年の教科書(P48～59) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「実験、結果、結論、考察」を実体験し、教師の視点で理科指導の核心を再認識すること。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第９回	１.３年の学年の目標を基に、４・５・６年の学年の目標を確認しよう！ ２.４・６年の学年目標の②について、教科書で具体的に考えてみよう！ 【key words】 各学年の目標、金属のあたたまり方、てこのはたらき 【授業概要】 ①４～６年の学年目標を学ぶ。 ②４年「金属のあたたまり方」、６年「てこのはたらき」で、学年目標の②について具体的に考える。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P1～28、P118～129)、４年の教科書(P140～153)、６年の教科書(P134～147) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ４～６年の学年目標を、学習指導要領・解説（P1～28)を読み、より深い理解をする努力をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分
	第１０回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう！ 【key words】 授業計画書、模擬授業のシナリオづくり、予備実験、湯気とあわの正体、水のあたたまり方、物が水にとけるとき 【授業概要】 ①次の３つの単元で模擬授業を行う。 ㋐４年「水のあたたまり方」、㋑４年「湯気とあわの正体」、㋒５年「物が水にとけるとき」 ②３つの班をつくり、班ごとに㋐～㋒の内容のどれかで行う。 ③自分たちが選んだ単元を、どのように授業（４５分間）するかを考える（シナリオづくり）。 ④予備実験が必要なら、自分たちで実験道具等を用意して実験し、模擬授業に備える。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P45～46、P48～50、P61～64)、４年の教科書（Ｐ147～150、Ｐ173～176）、5年の教科書（Ｐ96～100） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 模擬授業を行う単元の教材研究を、学習指導要領・解説と教科書等で行っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １００分
	第１１回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう（Ｎｏ２）！ 【key words】 授業計画書、模擬授業のシナリオ、予備実験、模擬授業の練習 【授業概要】 ①先週作成した「模擬授業のシナリオ」を再吟味する。 ②「本書き」のシナリオをもとに、予備実験を行う。 ③予備実験を踏まえ、シナリオの再修正と模擬授業の練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P45～46、P48～50、P61～64)、４年の教科書（Ｐ147～150、Ｐ173～176）、5年の教科書（Ｐ96～100） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業に必要な教材・教具等を準備すること。 ・誰がどの部分の授業をするかを班員で事前に検討し、予備練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１２回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう（№３）！ 【key words】 模擬授業、模擬授業評価カード、評価の観点、授業の評価検討会、授業の自己評価 【授業概要】 ①児童役の班は、「模擬授業評価カード」で模擬授業を評価する。授業を受けながら、評価カードに記入する。 ②模擬授業の評価は、６つの観点で行う。評価尺度は５段階で行う。 ③模擬授業後、児童役の班は授業の評価検討会、教師役の班は自分たちの授業の自己評価を行う。 ④各班ごとに、次の内容「よかったところ、こうすればよかったのではないかと思ったところ」で検討結果を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P45～46、P48～50、P61～64)、４年の教科書（Ｐ147～150、Ｐ173～176）、5年の教科書（Ｐ96～100） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業に必要な教材・教具等を準備すること。 ・誰がどの部分の授業をするかを班員で事前に検討し、予備練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１３回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう（№４）！ 【key words】

	模擬授業、模擬授業評価カード、評価の観点、授業の評価検討会、授業の自己評価 【授業概要】 ①児童役の班は、「模擬授業評価カード」で模擬授業を評価する。授業を受けながら、評　価カードに記入する。 ②模擬授業の評価は、６つの観点で行う。評価尺度は５段階で行う。 ③模擬授業後、児童役の班は授業の評価検討会、教師役の班は自分たちの授業の自己評価　を行う。 ④各班ごとに、次の内容「よかったところ、こうすればよかったのではないかと思ったところ」で検討結果を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P45～46、P48～50、P61～64)、４年の教科書（Ｐ147～150、Ｐ173～176）、5年の教科書（Ｐ96～100） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・模擬授業に必要な教材・教具等を準備すること。 ・誰がどの部分の授業をするかを班員で事前に検討し、予備練習をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
第１４回	１.模擬授業を具体的に構想し、実際にやってみよう（No５）！　２.後期定期試験に向け、後期の講義内容をふり返ってみよう！ 【key words】 模擬授業、模擬授業評価カード、評価の観点、授業の評価検討会、授業の自己評価 【授業概要】 ①児童役の班は、「模擬授業評価カード」で模擬授業を評価する。授業を受けながら、評　価カードに記入する。 ②模擬授業の評価は、６つの観点で行う。評価尺度は５段階で行う。 ③模擬授業後、児童役の班は授業の評価検討会、教師役の班は自分たちの授業の自己評価　検討会を行う。 ④各班ごとに、次の内容「よかったところ、こうすればよかったのではないかと思ったところ」で検討結果を発表する。 ⑤後期定期試験の概要の説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(P45～46、P48～50、P61～64)、４年の教科書（Ｐ147～150、Ｐ173～176）、5年の教科書（Ｐ96～100） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・後期の講義内容をよく復習しておくこと。 ・最終授業日に、３５０ｍｌ以下のペットボトル1個を必ず持ってくること。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
第１５回	１.「オモシロ科学実験」を体験しよう！　２.半年間の授業をふり返ってみよう！ 【key words】 オモシロ科学実験、振ると色が変わる液体、授業のふり返り 【授業概要】 ①半年間の理科概論のまとめとして、「科学の楽しさ・おもしろさ」をさらに体験する。 　○「振ると色が変わる液体」を作る。 　○実験書に従って、２つの班（3人、4人）で実験を行う。 ②半年間の授業をふり返って、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 長谷川裕也ホームページ「メチレンブルーの酸化還元」(http://sekatsu-kagaku.sub.jp/methylene-blue-redox.htm) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後期定期試験に向け、毎回講義で配付したワークシート、学習指導要領・解説、全教科書を中心にしっかりと勉強しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １５０分
受講生に関わる情報および受講のルール	１.幼稚園・小学校教諭・保育士など、教職を目指す者としての自覚をもって講義に臨むこと。 ２.講義では、自らの思考力・判断力・表現力、コミュケーション力に磨きをかけることを目指して、積　極的に意見や考えを発表すること。 ３.振り返りシートに、講義の評価、自らの参加意欲・態度、感想、質疑を、毎回しっかりと書くこと。 ４.毎回配布されるワークシートや参考資料の保管をきちんとしておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ふり返りシート・その他（ワークシート）
授業外時間にかかわる情報	・理科（科学）や教育の今日的な課題等に関するテレビ番組やニュース、新聞記事、書籍、ネット情報　に触れる習慣を身に付けておくこと。 ・普段の生活の中で、身の回りの自然を観察し、自ら体験する習慣を付けておくこと。
オフィスアワー	・質問・要望等は「ふり返りシート」に記入する。次回、講師がワークシートで取り上げコメントする。 ・講義後の２０分は対応可能。また、メールでの質疑は随時受け付ける。
評価方法	学期末試験（５０％）、報告書や各種学習カードの内容、プレゼンテーション（３０％）、 授業への取り組み（授業中やグループワーク等での取り組み状況、意見発表、ふり返りシート等の記述内容）（２０％）
教科書	小学校学習指導要領（H29年告示)解説 理科編、小学校理科教科書（東京書籍発行「新しい理科」）
参考書	・講義の中で、必要性を感じたときに紹介する。 ・文部科学省ホームページ、国立教育政策研究所ホームページ等、理科(科学)関連のＷｅｂサイトを時々閲覧すること。
実務者経験/アク	

ティブラーニング/ リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ３７年間の義務教育での実務経験｛小学校（５年）、中学校（１４年）、指導主事（６年）、管理職（１２年）｝及び青少年とその関係者の悩み事相談（３年）を活かし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭として必要とされる知識・技能、授業・学級経営・生徒指導等に関する的確で優れた指導力を身に付けるための方策について講義する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ・プレゼンテーションソフトを使用しての講義 ・実験体験 ・模擬授業体験

講義科目名称：　生活科概論　　授業コード：S5541

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 身の回りの自然や社会について、子どもに関心を持たせるために必要な知識と技術を幅広く習得する。また、日本の文化についても理解し、国際社会にはばたく子どもたちに対して「文化の伝承」ができるよう、教養を身につける。 【到達目標】 １）　植物・生き物・気象・年中行事について、子どもが関心を寄せる内容の説明ができる。 ２）　植物の栽培・生き物の飼育についての知識を身につける。 ３）　子どもにとって身近な人々や社会とのかかわりについて理解する。 ４）　上記の１）～３）を四季の変化の中に位置づけることができる。
授業の概要	四季をとおしての自然と人事を概説するとともに、背景にある生活文化についても言及する。この講義をふまえ、各自が『生活科ずかん』の製作を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　ガイダンス　：　（生活科とは　生活科のめざすものと内容） 【key words】 身近な自然と社会　身近な文化　地域・家庭　保幼小連携　「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 【授業概要】 生活科のめざすものと内容について解説する。また、どのような実践活動を行えば子どもたちが身近な自然や社会・文化について関心を持つことができるか、子どもたちが自分や友達の良さに気付くための活動にはどのようなものがあるかについて考える。最終提出物となる『生活科ずかん』の見本を見ながら、自分の作品をイメージする。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：『生活科ずかん』製作のための材料をそろえる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　身近な自然と文化のとらえ方　：　「ドリル」をやってみよう 【key words】 季節の草花　　生き物（哺乳類・魚類・爬虫類・両生類・昆虫累・クモ類）　身近なものの原材料　　年中行事　色々な職業 【授業概要】 幼児向け「ドリル」の問題に挑戦する。答え合わせをしながら、生活科の目指すものと知っておくべき事柄について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「ドリル」

【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春夏秋冬の自然と文化及び社会に興味を持ちながら、図書館にある幼児教育の雑誌と図鑑を見ておくこと（どこに何があるか確認）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　春の自然と文化　：　『生活科ずかん』作成にあたっての調べ方と諸注意
【key words】
『生活科ずかん』　春夏秋冬の植物・生き物・気象・行事・あそび　幼児教育雑誌　図鑑
【授業概要】
オリジナル『生活科ずかん』を手作りする意義を説明し、参考にすべき雑誌・図鑑・書籍などを紹介する。調べ方については、『生活科ずかん』の春の部の例を示すので理解し、自身の製作活動につなげる。
【教科書ページ・参考文献】
参考資料：先輩たちの作った『生活科ずかん』
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春夏秋冬の自然と文化に興味を持ち、図書館にある幼児教育系の雑誌・図鑑類を見ておく。
復習：授業で紹介された図書館にある雑誌・図鑑の種類や配架場所を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　春春の自然と文化　：　春の植物・生き物
【key words】
春の植物　生き物の春の様子
【授業概要】
ブレーンストーミングにより春の植物・春に特徴がある生き物を出し合い、その後、それらについての知識を解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「春のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春の植物と、春に特徴のある生き物を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　春の自然と文化　：　春の気象・あそび
【key words】
気象　植物を使ったあそび
【授業概要】
ブレーンストーミングにより春特有の気象や春ならではのあそび方を出し合い、その後、それらについての知識を解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「春のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春ならではの植物を使ったあそびを調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　春の自然と文化　：　春の行事
【key words】
春の行事
【授業概要】
ブレーンストーミングにより春の行事を出し合い、次にそれらについての意味や歴史的背景を解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「春のメモ」「雛人形と甲冑」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：春の行事を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　夏の自然と文化　：　夏の植物・生き物
【key words】
夏の植物　夏の生き物
【授業概要】
ブレーンストーミングにより夏の花や野菜、夏に現れる生き物を出し合う。その後、栽培のしかたや飼育のしかたを解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「夏のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：夏の植物と生き物を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　夏の自然と文化：　夏の気象・あそび
【key words】
夏の気象　夏ならではのあそび
【授業概要】
ブレーンストーミングにより、夏の様々な気象現象・夏ならではのあそびを出し合う。その後、ひとつひとつについて解説する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「夏のメモ」「虹をつくろう」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：夏の気象や夏ならではのあそびを調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　夏の自然と文化　：　夏の行事
【key words】
夏の行事
【授業概要】
ブレーンストーミングにより夏の行事を出し合い、その後、行事を楽しく行う工夫を解説する。
また、ムシ歯予防週間に因んだ実践を行う（折紙でコップを折り、水を入れてみる）。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「夏のメモ」「コップの折り方」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：夏の行事にはどのようなものがあるか調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　秋の自然と文化　：　秋の植物・生き物
【key words】
秋の植物　秋に特徴のある生き物
【授業概要】
ブレーンストーミングにより秋の植物や秋に特徴のあらわれる生き物を出し合う。その後、解説を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「秋のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：秋の植物・生き物を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　秋の自然と文化　：　秋の気象・あそび
【key words】
秋の気象　月の満ち欠け　秋の植物を使ったあそびや製作
【授業概要】
ブレーンストーミングにより秋の気象現象や秋ならではの植物を使ったあそび・製作を出し合う。その後、詳しく解説する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「秋のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：秋の雲や気象現象、月の満ち欠けについて調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　秋の自然と文化　：　秋の行事
【key words】
秋の行事
【授業概要】
ブレーンストーミングにより秋の行事を出し合う。その後、文化的意味の解説を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「秋のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：秋の行事や風物について調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　冬の自然と文化　：　冬の植物・生き物・気象
【key words】
冬の植物　冬の生き物のようす　冬の気象
【授業概要】
ブレーンストーミングにより冬の植物・生き物のようす・気象現象を出し合う。その後、代表的な動植物Ｙ日本の冬の気候について解説を行う。
雪の結晶の切紙を作る。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：「冬のメモ」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：冬に咲く花・冬に特徴のある生き物・冬の独特な気象現象を調べる。
課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　冬の自然と文化　：　冬の行事
【key words】
冬の伝統行事　冬のあそび
【授業概要】
ブレーンストーミングにより冬の伝統行事を出し合い、その後、それらの行事の文化的意味あい、行事食やあそびなどについての解説を行う。

	【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「冬のメモ」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：冬の行事や屋内で行うあそびを調べる。 課題・復習：授業でとり上げた事項の中から、自身の『生活科ずかん』で扱う対象を決め、製作を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第１５回　日本の文化　：　生活の中の日本の文様 【key words】 幾何学模様　謎解き模様　古典文様　古典文学意匠 【授業概要】 生活の中で使われている色々な物の文様を紹介し、それらの意味の説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「日本の文様」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：日常生活の中にある伝統的な文様をさがす。 復習：授業でとり上げた文様を生活用品・衣類などの中に探す。 課題・復習：今まで作ってきた、自身の『生活科ずかん』全体を集約し、提出に供える。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	『生活科ずかん』の製作に関し、以下のルールを守ること。 ・各季節ごとの概説を聴いたら、即座に自分が取り上げる事柄を決定して調べ学習と製作を行うこと。 ・製作物には既成のキャラクターは使わないこと。 ・計画的に製作を進めること。 ・図書館利用のマナーやルールを厳守すること（コピー機使用時の手続・貸し出しと返却の手続・書架への本の戻し方など）
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業の時間以外にも、時間を見つけて調べたり製作を進めること。計画性を身につけること。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	提出物（『生活科ずかん』）（７０％）・・・各季節とも、植物・生き物・気象・行事・あそび　を入れ、“楽しくわかりやすい”図鑑が丁寧に作成できているか。　授業への取り組み方（３０％）・・・発言・調べ学習・製作活動に対する積極性があるか。
教科書	『 どきどきわくわく あたらしいせいかつ』上、東京書籍、2020年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 音楽概論　　授業コード：S5551

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　小学校音楽科学習指導要領の目的・内容を理解し、音楽科の授業を実施するために必要な基本的知識や能力を培いながら指導法を理解する。 【到達目標】 ①音楽科学習指導要領及び解説について理解することができる。 ②教科の目標及び各学年の目標と学習内容を理解し、「表現(歌唱・楽器・音楽づくり)」と「鑑賞」のそれぞれの活動を指導するための知識・技能を習得し、指導方法を身につける。
授業の概要	音楽科を教えるための基本的な理論と知識を学習し、学習指導要領の学習内容が授業でどのうように具体化されているか理解し、学年、及び内容に応じた指導法を学んでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　　オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　　音楽の本質と要素 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　　音楽教育の目標と芸術教育の目標 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第４回　小学校音楽科目標の組み立て（教科目標・学年目標） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　総括目標（音楽性・情操・創造性） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　表現（歌唱・楽器・音づくり）・鑑賞・共通事項の具体的目標と留意点について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　指導内容　表現（歌唱）　基礎技能の必要性について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　指導内容　表現（歌唱）　リズム・音程・和声・読譜の指導について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回　指導内容　表現（楽器）　楽器の種類と奏法・合奏指導について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　指導内容　表現（楽器）　指導上の問題点と留意点について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　指導内容　表現（音づくり）の指導について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第１２回　　指導内容　鑑賞　意義・聴き方について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　　指導内容　鑑賞　教材選択について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　　表現・鑑賞の各活動における共通事項との関連性について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　　音楽教育の他教育との関わりについて 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	予習や事前準備をしっかりして、積極的に授業に臨むこと。 スマホ等の電源は切っておく。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。 毎回の講義内容を復習し、疑問点等は次回の講義で質問するように、日ごろから弾き歌いの練習をし、演習の復習を各自でする。
オフィスアワー	授業寺に指示する。
評価方法	筆記試験80%　授業への取り組み（レポート提出・出欠等）20%
教科書	「最新・初等科音楽教育法〔改訂版〕小学校教員養成課程用」音楽之友社
参考書	小学校学習指導要領解説　音楽編　文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援

	□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 美術概論　　授業コード：S5561

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校図画工作科の授業構成を踏まえ、造形活動の支援に不可欠な知識や技能について基本を学習し、自分なりの造形教育観を持つことができるようにする。 【到達目標】 ①造形活動の意義や特性について理解することができる。 ②学習指導要領に掲載されている図画工作科の目標及び内容等を理解することができる。 ③造形遊び、絵や立体、工作、鑑賞などそれぞれの内容に応じた授業の展開方法、支援方法の理解を深めることができる。 ④子どもの絵の発達を基盤に、子どもの絵の見方、育て方について理解を深めることができる。
授業の概要	造形活動がいかに人間をリフレッシュさせてくれているか造形活動の意義や特性について学ぶ。学習指導要領から図画工作の目的や内容を学ぶ。また、実際の授業で用いられている様々な表現対象、材料、技術、様式、形式を中心に、基礎的内容についての講義や製作実技を行う。さらに、子どもの絵からよさや美しさを感じ取り、子どもの絵の見方、育て方を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業の進め方の説明）　○芸術・美術の概念 【key words】 美術、図画工作科教育、小学校指導要領、アクティブラーニング 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○芸術・美術の概念　○造形教育の意義　○アクティブラーニングを踏まえて 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　この講座を通して特にどんなことを学びたいか考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	造形教育の理念と構造　○自然主義の教育観と表現の意味の発見 【key words】 造形教育の理念、アイスナー、ルソー、自然主義教育観 【授業概要】 ○造形教育の理念と構造　自然主義教育観と表現の意味の発見、美的欲求と造形欲求 ○無意識と表現(心の構造、無意識と表現)　○無意識と児童画　○理念の発展と推移、美術教育の主張　○造形教育の構造(造形教育の特殊) 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分

	第３回	造形活動の意義と図画工作　○「美術の機能」と図画工作科教育　○美術を通した教育 【key words】 芸術の機能、ユング、無意識と児童画、コンテクスチャリズム、エッセンシャリズム 【授業概要】 ○芸術の機能と図画工作教育　○美術を通した教育（コンテクスチャリズム）と美術の教育（エッセンシャリズム）　○諸感覚を目覚めさせる 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	図画工作科の目標　○教科の目標　○学年の目標 【key words】 Ａ表現、Ｂ鑑賞、〔共通事項〕、領域、項目、事項、造形遊び、絵や立体、工作 【授業概要】 ○教科の目標、学年の目標、目標及び内容構成の関連　○図画工作科の内容 【教科書ページ・参考文献】 ○「小学校図画工作科教育法」　Ｐ２８～４１　○「小学校指導要領解説　図画工作編」Ｐ９～１９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくること 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第５回	図画工作科の内容　○内容の構成　○各領域及び〔共通事項〕の内容 【key words】 内容の構成、　Ａ表現　Ｂ鑑賞、　〔共通事項〕 【授業概要】 ○Ａ表現の内容　（造形遊び、絵や立体、工作）　○Ｂ鑑賞の内容　○〔共通事項〕の内容 ○各学年の目標及び内容 【教科書ページ・参考文献】 ○「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ２８～４１　○「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ２０～３４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	指導計画の作成と内容の取扱い　○指導計画作成上の配慮事項　○内容の取扱いと指導上の配慮事項 【key words】 〔共通事項〕　配当時間，　鑑賞の指導，　共同製作，　版画表現，　事故防止、　各学年の材料や用具 【授業概要】 指導計画の作成と内容の取扱い　○指導計画作成上の配慮事項　（共通事項、配当時間数、鑑賞の指導、共同製作、生活科との関連、道徳との関連）　○内容の取扱いと指導上の配慮事項（児童の特性を生かす、版画表現、焼きもの、材料や用具、事故防止、鑑賞） 【教科書ページ・参考文献】 「小学校指導要領解説　図画工作編」　Ｐ１０４～１２５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　特に印象に残ったことは何か、質問もあればメモしてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第７回	「造形遊び」の指導　○造形遊びの意義　○各学年の造形遊びの目的・内容について　○段ボールを使った制作（小３，４年） 【key words】 造形遊び　創造性　自主性　イメージ　着想　材料・場所・用具 【授業概要】 ○「造形遊び」の指導　・造形遊びの導入の経緯と意義　・各科学年の造形遊びの目標・内容について　・実践例から　「段ボールを使った製作」　（小３，４年）の教材研究　教材研究 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ４２～５４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「教材開発」　造形遊びで、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第８回	「絵に表す」の指導　○初めての水彩絵の具の使い方指導（小３，４年）○水彩画の技法について（重ね塗り、にじみ、ぼかし等） 【key words】 「絵に表す」の指導　心象表現　混色、重ね塗り、にじみ、ぼかし　絵画における思春期の危機 【授業概要】 ○絵に表す活動の特質　○初めての絵の具の使い方指導　○水彩画の技法（混色、重ね塗り、にじみ、ぼかし）　○絵画における思春期の危機　○実践例　写生画　「花を描く」　教材研究 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法〕　Ｐ５５～６７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「教材開発」　「絵に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。

【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第９回　「立体に表す」の指導

【key words】
心象表現　純粋美術　可塑性素材　立体性　素材性　触知性
【授業概要】
○立体に表す活動の特質　（立体性、素材性、触知性、心象性）　○題材化の視点　○各学年の立体に表す活動　○実践例　「１２年後のわたし」　人体の芯材の作り方　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ６８～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」「立体に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１０回　「工作に表す」の指導

【key words】
応用美術（生活美術）　適応表現　試行錯誤　事故防止
【授業概要】
○「つくる」ということの意味　○ものと人間の関係つくり　○工作の題材の基本　○工作の材料○工作の学習課題　○各学年の工作に表す活動　○実践例から　５，６年生の題材から「アミアミアミーゴ」教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ８１～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　「教材開発」「工作に表す」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１１回　「鑑賞活動の指導

【key words】
鑑賞、導入時の鑑賞，完成作品の相互鑑賞、独立した鑑賞活動
【授業概要】
鑑賞活動の指導　○導入時の鑑賞　○完成作品の相互鑑賞　○独立した鑑賞活動
鑑賞活動の特質　各学年の鑑賞
実践例から　５，６年生の題材から「カードをつかって」　教材研究
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ９５～１１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　教材開発」　「鑑賞活動」で、子どもが楽しく取り組める創造性、自主性が伸ばせる題材を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　子どもの絵の見方、育て方　（低・中学年）

【key words】
子どもの造形表現の発達　図式期、　擬実期、　空想画、　生活画、写生画（観察画）、基底線
【授業概要】
○図式期、擬実期の絵画の特徴、　写実期の芽生え　思春期の絵画の危機　発達段階とその指導　○様々な児童画を鑑賞し、それぞれの児童画の主題や表現のよいと思われるところについて、話し合い、また、どのような素材や材料、用具を使って指導をしているか調べる。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１５～２７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　様々な児童画から好きな絵についてコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　子どもの絵の見方、育て方　（中・高学年）

【key words】
生活画、想像画（空想画）、観察画（写生画）
【授業概要】
○児童画作品を見て、主題や表現のよいと思われることについて話し合う。どのような指導をしたと考えられるか、適切な描画材料や紙質についてなど話し合う。話し合いにより「絵に表す」活動の支援方法を考え合う。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校図画工作科教育法」　Ｐ１３０～１３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　様々な児童画から好きな絵についてコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　透視図法の表示練習　デッサンの基礎練習

【key words】
透視図法　消失点　アイレベル　円の透視図　タッチ　トーン　ハイライト
【授業概要】
透視図法の基礎練習　○一点透視図法　○二点透視図法　○円の透視図法
デッサンの基礎練習　○デッサンのこつ　タッチ　トーン　ハイライト　輪郭線
構造線　光と影の関係　稜線　○デッサン練習　立方体を描く　円柱を描く
【教科書ページ・参考文献】
「スーパー鉛筆デッサン」　絵画技法研究会
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　円錐のデッサンに挑戦する。
【予習復習に必要な想定時間】

	６０～１２０分 第１５回　図画工作科教育の歴史　現代の諸相　まとめ 【key words】 臨画、図画、手工、自由画教育、民間美術教育運動 【授業概要】 １　戦前の様相(図画の歩みー臨画、自由画の台頭、手工教育)　２　図画工作科の登場と発展(試案としての学習指導要領、準教科書と検定教科書)　３　図画工作科の歩み　４　現代の諸相　アクティブラーニングの指導 【教科書ページ・参考文献】 「小学校図画工作科教育法]　Ｐ１６２～１８６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　「図画工作科教育の指導に大切なことは」コメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技制作のある日は、汚れても構わない服装か、体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板拭き等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	次回の授業に該当する箇所と授業資料を事前に配布する。　必要に応じて小テストを行うので、復習をすること。
オフィスアワー	毎授業後３０分間迄応じる。
評価方法	定期試験　７０％　実技制作作品及びレポート等　３０％
教科書	山口喜雄編著　「小学校図画工作科教育法」　建帛社、　文部科学省　「小学校学習指導要領解説図画工作編」　日本文教出版
参考書	高階　秀爾監修　「西洋美術史」　美術出版社　（２００７）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 図画工作科の学習指導要領に示された目標、内容などについて、小学校で担任として図画工作科を担当した経験を活かし、実例を紹介したり児童用教科書を活用したり、実技を行ったりしながら具体的に解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　家庭科概論　　授業コード：S5571

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校「家庭科」の教育内容に基づきながら、根底にある生活（衣・食・住・家庭管理）に関する基本的な知識を身につける。その際、各生活事象の背景にある原理・原則を根本的に理解し、家庭科教育の現場で児童の様々な発語や行動にも対応できるようになる。さらに、食と家庭経済・衣と住などのように、複合分野にわたる授業を実施できるようにする。 【到達目標】 １）　衣・食・住・家庭管理に関する知識を、自身の生活の中に明確に位置づけることができる。 ２）　１）をいつでも引き出して実践することができる。 ３）　「家庭科」は、より良い家庭生活を構築するための教科であることを常に意識し、家族に対する「思い」を持ち続けることができる。
授業の概要	“生活を科学する”という立場に立ちながら、家族と家庭生活、衣生活、食生活、住生活、家庭経済の各分野についての基礎知識を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス　：　生活者としての習熟度チェックと生活の中の科学・文化の考え方 【key words】 衣生活　食生活　住生活　金銭管理（家計）　生活事象の中の科学・文化 【授業概要】 身辺の生活事象（衣・食・住・金銭管理）についての自身の知識をチェックし、「家庭科」に欠かせない日常生活に関する科学的・文化的な考え方を身につける。また、それにより生活の科学・生活の中の文化の面白さや奥深さに気付く。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：「生活科学チェックテスト」（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	家庭科への誘い　：　「家庭科」の特徴と家庭科教育の意義 【key words】 家庭科の歴史と意義　小学校高学年と家庭科　「生活を科学する」　「文化を伝承する」 【授業概要】 「家庭科」特有の“実践しながら学ぶ”ことの意味・意義について知る。また、「家庭科」は「家政学（生活科学）」の知見に基づく教科であるが、「家政学」の各領域における研究を紹介し、科学・文化が実生活に活用されている様子を知る。 【教科書ページ・参考文献】 10～22ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：10～22ページ

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　家族・家庭生活　：　家庭生活とは何か　家庭の仕事と生活時間　家族の現状

【key words】
家庭・家族　家庭生活の構造　家庭と社会　家庭生活を支える仕事（家事労働・家事分担）生活時間　児童虐待　子どもの貧困
【授業概要】
家庭生活の意義を学ぶとともに現代の家族の構造や現状について知る。また、家庭生活を支える仕事と生活時間について理解し、家庭生活における子どもたちの傾向について把握する。
【教科書ページ・参考文献】
24～46ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：24～46ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　食生活　：　現代の食生活の課題　食事の役割と日常食の大切さ

【key words】
食事の役割　日常食　内食・中食・外食・旬　栄養素　食物アレルギー　行事食　食事のマナー
【授業概要】
現代の食をめぐる状況を知り、食事の役割・日常食の大切さについて考える。また、体に必要な栄養素の働きを理解するとともに食文化についても学習する。
【教科書ページ・参考文献】
50～64ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：50～64ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　食生活　：　栄養を考えた食事（献立を立てる）

【key words】
６つの基礎食品群　食事摂取基準　食事バランスガイド　夕食の献立
【授業概要】
身体を健康（健全）に保つための栄養の基礎について学び、「６つの基礎食品群（小学校では「３色食品群」）が判別できるようになる（「食事摂取基準」「食事バランスガイド」についても言及する）。
【教科書ページ・参考文献】
64～69ページ
配布資料：ワークシート（献立）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：64～69ページ
課題：「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」（記入用紙配布）開始。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　食生活　：　調理の実際

【key words】
食品の購入・保存　計量　材料の洗い方・切り方　加熱調理（ゆでる・いためる・炊く）　後片付け
【授業概要】
調理するための基礎知識を身につける。「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」の結果を集約し、自身の食生活の問題点を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
70～80ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：「１週間の食事調べ（６つの基礎食品群別摂取量）」
予習：70～80ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　衣生活　：　衣服の機能と役割

【key words】
体温の調節　身体の保護　身体の清潔　生活や作業動作の向上　TPOの配慮　所属集団や職業の識別　自己表現　繊維　糸　布　暖かい着方・涼しい着方
【授業概要】
「衣服とは何か」について物理的・精神的機能の両面から考える。また、快適な衣生活を営むための知識（素材・着方）についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
82～90ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：82～90ページ
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　衣生活　：　衣服の手入れ

【key words】
界面活性剤の働き（浸透作用・乳化作用・分散作用・再付着防止作用）　洗濯の条件　衣服の取扱い表示　漂白　しみ抜き　柔軟仕上げ　のり付け　アイロンがけ　クリーニング業者による洗濯
【授業概要】
衣服の汚れを落とす目的と衣服の手入れの必要性を確認するとともに、正しい対処法（洗濯の方法・手順・用剤等）について学ぶ。
洗浄理論（汚れ落としのメカニズム）を理解し、生活に役立てることができるようになる。
【教科書ページ・参考文献】
91～102ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：「各自の家庭で使用している洗剤の成分について調べる」

		予習：91～102ページ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	衣生活　：　布を用いた製作（手縫） 【key words】 裁縫用具　手縫いの基礎（玉結び・玉どめ・並縫い・返し縫い・かがり縫い・ボタン付け）　ミシン縫い 【授業概要】 布は他の素材と異なり温かみが感じられるものである。この布を用いて生活に役立つものを作る際の、手縫いの基礎について実践学習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 103～114ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：基礎縫いの作品を仕上げること（次回提出）。 予習：103～120ページ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	衣生活　：　布を用いた製作（ミシン縫い） 【key words】 ミシンの各部名称　上糸のかけ方　下糸の出し方　返し縫い　ミシンの不調原因と対策 【授業概要】 第9回の手縫いに引き続き、ミシン縫いの実践を行う（試し縫い）。 【教科書ページ・参考文献】 114～120ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：114～120ページ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	住生活　：　住まいの機能と役割　室内環境とその調整 【key words】 保護的機能　生活機能　文化的機能　温熱環境　空気環境　光環境　音環境 【授業概要】 「住まいとは何か」について物理的・精神的機能の両面から考える。また、室内環境を快適に整えるための条件について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 112～136ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：112～136ページ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	住生活　：　住居の管理　バリアフリーとユニバーサルデザイン 【key words】 整理・整頓　清掃　バリアフリー　ユニバーサルデザイン 【授業概要】 日常行っている整理整頓や清掃について科学的に学ぶ。清掃については、第8回で学んだ洗浄理論（汚れ落としのメカニズム）を活用しながら、汚れの落とし方を科学する。また、バリアフリーの作りについて検討し合うとともに、ユニバーサルデザインの例を紹介し合う。 【教科書ページ・参考文献】 137～142ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：137～142ページ 課題：バリアフリーの例・ユニバーサルデザインの例を探す。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	消費生活・環境　：　家庭経済（家計）と消費者生活 【key words】 家計・収入・支出　電子マネー　契約（物を買う行為）　クレジットカードのしくみ　消費者問題 【授業概要】 企業と同様、家庭も経営が順調でなければ破綻する。家庭経済（家計）のしくみについて学ぶとともに、賢い消費者になるための物の選び方や支払い方について知る。 【教科書ページ・参考文献】 144～157ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：144～157ページ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	消費生活・環境 【key words】 SDGs（国連が提唱している持続可能な世界実現のための目標）　消費生活と環境　３Ｒ　５Ｒ　衣生活と環境　食生活と環境　住生活と環境 【授業概要】 ますます悪化する地球温暖化に対し、世界の人々が地球上の資源をどのように消費すべきかを考えながら暮らしていかなければならない。そのための国際的合意について知るとともに、衣・食・住及び消費と環境について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 158～163ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：158～163ページ 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	生活文化

	【key words】 四季の自然　色の呼び方　伝統模様　行事食　日本家屋　インテリア製品 【授業概要】 衣食住生活の中の日本独自の工夫や美意識について知り、それらは四季の変化に富む風土と深いつながりがあることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 配布配布：日本の文様（幾何学文様・情景をあらわす文様） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：衣食住に関する我が国独自の工夫や伝統について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	授業中に発言を求めたりディスカッションを取り入れたりするため、積極的・能動的に受講すること。また、板書以外にも各自メモをとり、“生活の中の雑学”も身につけるよう心がけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	食材や生活用品・用具等に関する知識が無いと、講義で扱う内容が理解できない。そのため日頃から、食材や生活用品の買い物・調理・洗濯・家庭内の清掃を行い、自力で日常生活を営めるようになっておくこと。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	小テスト（40%）　提出物（40%）　授業における積極性（発言・発表等）（20%）
教科書	『小学校学習指導要領解説家庭編』　『わたしたちの家庭科5・6』開隆堂、令和2年 『わたしたちの家庭科５・６』開隆堂、2020年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　体育概論　　授業コード：S5581

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校体育科の指導に必要な知識・技能を習得し、実践できることを目的とする。 【到達目標】　①生涯スポーツの基礎つくりになる理論と実技を身につけることができる。②児童の発育･発達段階に応じた教材の特性と内容を習得することができる。　③児童が自ら運動に親しみ実践できるような指導･助言を行うことができる。。
授業の概要	１　体育科を指導するための基礎的な理論と知識を学習し、学習内容に応じた実技の基礎動作を習得する。 ２　児童が各種の運動に親しみ、自ら進んで体力を高めることができるような方法を習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　体育の特色（概念、改定の趣旨、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法と体育） 【key words】 【key words】運動の教育　学習指導要領　総則と体育　スポーツ基本法　スポーツ基本計画 【授業概要】 【授業概要】体育の概念、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法の視点で、小学校教諭に必要な基本的知識を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ９～ｐ２１ 小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題・予習・復習・授業準備指示】「学習指導要領（体育）」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	学習指導要領の読み方（概念、改定の趣旨、体育の目標） 【key words】 【key words】生きる力　確かな学力　体系化　豊かなスポーツライフ　最低基準 【授業概要】 【授業概要】学習指導要領の概要（生きる力、確かな学力、基本的考え方）、体育科改訂の趣旨（改訂と学校教育）、体育科の目標（小学校体育の目標、読み方と授業つくり、カリキュラムの構造）を学び、学校教育のアカウンタビリティに応えるべく、体育的学力の育成について習得する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ２２～ｐ３５

小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「発育･発達」について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　発育･発達（発育の概要、運動機能の発達、運動指導）
【key words】
【key words】発育　発達　分化　統合

【授業概要】
【授業概要】学童期の心身の変化のうち、形態的側面の発育の概要、機能的側面の運動機能の発達として捉え、その変化を理解する。また、この発育･発達を、体育活動でどのように運動指導に結びつけていくかを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ３６～ｐ４８
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学生の体力」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　小学生の体力（体力の理解、児童期の体力要素、運動手段、体力測定評価）
【key words】
【key words】小学生の体力　神経系型　調整力　運動手段　体力テスト

【授業概要】
【授業概要】こどもの現状を踏まえ、体力とその要素について理解したうえで、児童期の発育・発達の特徴を学び、急激に発達する神経系と、密接に関係する調整力やその他柔軟性の役割、無気パワー、基礎的持久力について学ぶ。また、運動手段の準備や体力測定評価を効果的に体育指導に生かすことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ４９～ｐ６３
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「こどもの生活」について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　子どもの生活（環境の変化、運動、栄養、休養、生活リズム）
【key words】
【key words】　変化する生活環境　３つの「間」の喪失　基本的生活習慣とリズム

【授業概要】
【授業概要】児童期における「健康３原則」を、運動（遊び）・栄養・休養として、その経緯や現状（ＴＶ、少子･高齢化、人口減少社会等、）を実態から把握し、運動（遊び）、栄養、休養の面から、生活リズム向上のための取り組みを考え、子どもの健康的な生活を促進することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ６４～ｐ７６
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学生に対する指導」について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　小学生に対する運動指導（発達的視点に立つ構成要素、運動技能の捉え方、練習･指導、好き嫌い）
【key words】
【key words】体育　発達　運動技能（スキル）　指導　運動嫌い

【授業概要】
【授業概要】運動を学ぶことと、子どものトータルな発達との関係を確認し、運動を学ぶ際の中核である運動技能（スキル）についての捉え方や指導にあたり留意する事項を学ぶ。また、生涯にわたって運動に親しむことができるために、運動好きと運動嫌いについてその要因を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ７７～ｐ８９
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「子どもの安全」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　子どもの安全（学校安全、体育活動時における安全）
【key words】
【key words】学校安全　安全管理　安全教育　ＢＬＳ教育　けがの処置

【授業概要】
【授業概要】学校安全の意義とねらい、安全教育の意義と推進や、体育活動における安全（事故

の現状、事故防止の基本的考え方、安全教育と安全管理、体育科授業での取り組み、けがへの対処、熱中症やその他の取り組み）について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ９０～ｐ１０３
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「保健」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　保健（毎日の生活と健康、育ちゆくからだと私、心の健康、ケガの防止、病気の予防）
【key words】
【key words】生活と健康　思春期　こころの健康　手当　予防

【授業概要】
【授業概要】保健領域の毎日の生活と健康（第３学年）、育ちゆく体とわたし（第４学年）、こころの健康・けがの防止（第５学年）、病気の予防（第６学年）の知識を習得する。また、修得した知識を活用する学習を通して、思考力や判断力を育成することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１０４～ｐ１１５
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「体つくり運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　体つくり運動（体つくり運動とは、体ほぐし運動、多様な動きをつくる運動、体力を高める運動）
【key words】
【key words】体ほぐし　多様な動きをつくる運動（遊び）　体力を高める運動　気づき　調整　交流

【授業概要】
【授業概要】　体つくり運動の概要、その内容である「体ほぐしの運動」、「多様な動きをつくる運動」、「体力を高める運動」の説明や、低・中・高学年での教材内容の取り扱いを学ぶ。また、実技として、体つくり運動の実践活動を取り入れ、その動きを通して「体つくり運動」の指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１１６～ｐ１２９
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　器械運動（基本の動き、器械･器具を使っての運動遊び、器械運動）
【key words】
【key words】　基本的運動技能　器械・器具を使っての運動遊び　マット運動　鉄棒運動　跳び箱運動

【授業概要】
授業概要】器械運動の基本動作や技術を実技を通して学び、日常的生活では味わえな運動が、潜在的身体能力として重要であることを習得する。　また、器械運動は「できる」「できない」がはっきり現れる教材であり、段階的指導方法により、「できた」達成感や成就感を味わえ、人間性を高めることへの効果も高いことも学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１３０～１４３
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　陸上運動（基本の動き、走の運動、跳の運動）
【key words】
【key words】短距離走　リレー　ハードル走

【授業概要】
【授業概要】陸上運動の基本の動き（短距離走）走の運動（短距離、リレーハードル走）の説明、実技を通じて、低・中・高学年での技術のポイント、基本的なフォームの指導方法を学ぶ。また、仲間と走る速さを競い合ったり、目標を達成させる楽しみを体験する中で、「走・跳の運動遊び」から「陸上運動」へ移行することを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１４７～ｐ１６５
小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１２回　水泳（基本の動き、水遊び、浮く・泳ぐ運動、水泳） 【key words】 【key words】水遊び　浮く　泳ぐ 【授業概要】 【授業概要】水に慣れ親しむことや浮いたり泳いだりする中で、心地良さや楽しさを通じて手や足の動きを身に付けろとともに、安全の心得を学ぶ。泳法は、クロール・平泳ぎの習得をめざし、け伸び、プル、バタ足、呼吸法等の基礎的技術を学ぶと共に安全管理の知識も習得する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１６６～ｐ１８０ 小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　ボール運動（ゴール型、ネット型、ベースボール型） 【key words】 【key words】基本技術　ゲーム　技能　ゴール型　ネット型　ベースボール型　攻撃　守備　ルール　作戦 【授業概要】 【授業概要】ボール操作の基礎技能の理解と技術の習得を通し、ボール運動の特性であるゴール型（バスケットボール・サッカー等）、ネット型（バレーボール等）、ベースボール型（ソフトボール等）の特徴を学ぶ。また、ゲームを通じて、チームワークや役割分担等、お互いを理解する態度とコミュニケーション能力の向上を図る。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ１８１～ｐ２０５ 小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　表現運動（表現リズム遊び、表現運動） 【key words】 【key words】　個性　内面　イメージ　人間性を豊かにする 【授業概要】 【授業概要】表現遊び・リズム遊び（低学年）や表現運動（中･高学年）の表現、リズムダンスを通じて児童一人ひとりが踊りの楽しさや喜びに触れられ、こころと体を解放、表現できることを学ぶ。また、地域に伝承している踊りや、発想やイメージによる動きつくりや表現方法も学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）ｐ２０６～ｐ２１８　小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】健康的な生活について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 【key words】体育　スポーツ　健康 【授業概要】 【授業概要】体育概論の授業で実施した体育・スポーツ活動を通じて、子どもたちが、こころと体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全について理解し、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力をの基礎を育てると共に、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度ができるかをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校体育（玉川大学出版部）、小学校学習指導要領解説 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】生涯スポーツの基礎つくりとして小学校体育科のあり方を学ぶ。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講者に関する事〕 ・前半は講義、後半は実技を中心とする。・水泳は夏期集中講義でおこなう。 ・運動着、運動靴やメモ用紙の準備をする。 〔受講のルール〕 ・着替えは迅速にして授業の用具準備をおこなう。 ・教材の整頓、会場の清掃は全員で協力しておこなう。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード

授業外時間にかかわる情報	小学校のボランティア活動を積極的に実施する。野外活動やプール指導等で、子どもたちの状況を理解しておく。 総合型地域スポーツクラブ等、地域での子どもを取り巻く体育・スポーツ活動や地域社会で行っている子供参加のイベント等には参加して情報を収集しておく。
オフィスアワー	木曜日　13:00～16:00　他の時間帯を希望の場合はアポイントをお願いしたい。
評価方法	筆記試験、レポート（50%）実技試験（50%）の総合評価
教科書	文部科学省：小学校学習指導要領解説体育編：東洋出版社：平成29年　　高島二郎：小学校体育：玉川大学：平成29年
参考書	笹川スポーツ財団：スポーツ白書：2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（県内の学校体育、生涯体育指導：小学生にかかわる指導者、母集団指導）4年、群馬県スポーツ事業団指導主事（親子スポーツ、スポーツ少年団指導者養成講習会、母集団育成講習会等の講師）群馬県教育委員会スポーツ振興課課長補佐（広域市町村派遣スポーツ指導主事指導、生涯スポーツ特に親子指導）群馬県学校体育研究連合会（小・中・高）表彰、群馬県教育長表彰（保健体育） アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　社会福祉特講Ⅱ　　授業コード：S8003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新藤　健太・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士国家試験対策の一環として、履修済み科目についてグループ学習を行う。問題の解説を作成することを通じて、調べる方法や適切なまとめ方、伝える手段を習得することを目的とする。 【到達目標】 ①履修済み科目（1年次及び2年次前期）の基本的事項を説明できる。 ②解説をグループメンバーに理解してもらうために適切な資料を作成し、説明することができる。
授業の概要	履修済み科目の国家試験の問題（過去問等）に取り組み、グループで解説を作り説明することでグループでの学習をすすめる。 社会福祉士国家試験の受験に向け、過去問題等を活用し試験の内容や傾向に慣れ、自己学習を各自が進められるようにする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション及び過去問等を解いてみる
	第２回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
	第３回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
	第４回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）
	第５回	確認テスト【第1回】
	第６回	確認テストの返却及び過去問等を解いてみる
	第７回	人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク）
	第８回	福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク）
	第９回	相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク）

	第１０回　確認テスト【第2回】 第１１回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第１２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第１３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス（グループワーク） 第１４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第１５回　まとめ 第１６回　オリエンテーション及び過去問等を解いてみる 第１７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第１８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第１９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第２０回　確認テスト【第3回】 第２１回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第２２回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第２３回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第２４回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第２５回　確認テスト【第4回】 第２６回　確認テストの返却及び過去問等を解いてみる 第２７回　人体の構造と機能及び疾病／心理学理論と心理的支援／社会理論と社会システム（グループワーク） 第２８回　福祉行財政と福祉計画／保健医療サービス／社会調査の基礎（グループワーク） 第２９回　相談援助の基盤と専門職／高齢者に対する支援と介護保険制度（グループワーク） 第３０回　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	①すでに履修済みの科目をグループワークを行うことから、教科書を持参することが望ましい。 ②グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚程度） ③解説はグループのメンバー分及び提出分をコピーしてくること。 解説の作成に際しての評価基準は以下の通りである。 優（5点）・・・適切な正答・解説が示されているだけでなく、図表や関連する用語なども含め、受講生にとってわかりや すい記述がされているもの 良（3点）・・・適切な正答が示されており、なおかつ必要な解説がなされているもの 可（1点）・・・適切な正答が示されているものの、解説が殆どされていないもの 不可（0点）・・・提出がされていない／提出されたものの記述が非常に乏しいもの ※なお、提出に遅延が見られた場合には1段階低い評価とします
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	①グループワークを行う回は、担当の問題の解説を次回までに作成をすること。（1問につきA4　1枚） ②自分の担当の問題以外も調べておくことが望ましい。

オフィスアワー	【益子】金曜日　10時30分～12時　事前にアポイントを取ってもらいたい。 【森田】第1回の授業時に説明する。
評価方法	定期試験30%、確認テスト20%、担当する問題の解説の作成50%（具体的な評価については受講のルールを参照のこと）※ただし、定期試験において、60 点に満たない場合は再試験とする。
教科書	1年次及び2年次前期に使用した各科目の教科書
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典（出版社は指定しないが、最新版のもの）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉領域における利用者への相談対応などを中心とした実務経験を有する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　基礎演習Ⅱ　　授業コード：S9011　S9012　S9013　S9014　S9015　S9016　S9017

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
大久保　圭介・大島　由之・鈴木　淳・吉澤　幸・梅山　文秀・山﨑　博幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 本学の建学の精神・教育目的に基づき、基礎演習Ⅱにおいては基礎演習Ⅰで行った初年次教育のステップアップとして、礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に工夫しながら自主的に取り組み、人間としての基礎的教養力と自律的実践能力を確実なものとする。また、基礎演習の集大成となる研究小論文の作成により、研究テーマを自主的に設定し、適した研究方法に基づき収集した資料を駆使して問題の構造を明らかにするなかで学士力の向上を図る。 〔到達目標〕 １　礼儀・挨拶、ボランティア活動、環境美化活動に自主的に取り組み、工夫して行うことができる。 ２　研究小論文の完成を目指す。 ３　昌賢祭の研究発表を通して、問題解決能力やコミュニケーション能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②学士力育成、③進路・資格取得、④地域貢献、⑤心身の健康の５つのプログラムから構成し、建学の精神に則り、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法に人間としての基礎的教養力と自立的実践能力の涵養と、研究小論文作成にむけて、読書力、問題解決能力、コミュニケーション能力を高め、学士力の向上を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①：前期オリエンテーション 【key words】 学長訓話・学部長講話、基礎演習Ⅱのスケジュール 【授業概要】 ・学長先生の訓話、学部長先生の講話を聞き、大学２年目の各自の目標が達成できるように、計画的に進める。　・基礎演習Ⅱのスケジュールを確認する。　・クラス担任とクラス運営方針を確認しあい、２年次が充実した一年となるよう計画を立てる。　・本時の学修をワークシートにまとめ、担任に提出する。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　鈴木利定・中田勝共著「威有一徳」（2002）中央法規 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各委員の役割をしっかり認識すること 【予習復習に必要な想定時間】 ―
	第２回	心身の健康プログラム①：親睦スポーツ大会に向けて 【key words】 親睦スポーツ大会、健康、協働 【授業概要】 体育委員が中心となりネット張り等の準備・片付けを行う。専攻別グループワークを通して親睦スポーツ大会の出場種目を練習し、チーム内の作戦を考え優勝目指して練習に励む。

【教科書ページ・参考文献】
シンボク大会パンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】
競技内容・ルール等をよく理解する。
【予習復習に必要な想定時間】
－

第３回　建学の精神と実践教育プログラム②　生活を科学する
【key words】
雑巾縫い、手縫いとミシン縫い、環境美化

【授業概要】
手縫いとミシン縫いの違いを理解する。実際に雑巾を手縫いする。特に、針谷いと、はさみの準備、後始末まで安全に作業ができるように配慮する。
【教科書ページ・参考文献】
手縫いとミシン縫いの違いのパンフレット
【課題・予習・復習・授業準備指示】
雑巾縫いが終わっていない場合は翌日までに完成させて提出すること
【予習復習に必要な想定時間】
－

第４回　心身の健康プログラム②　学生生活の日常に潜むリスクを知る
【key words】
学生生活、日常にひそむリスクとは

【授業概要】
学生生活の中にあるリスクは、男女関係、アルバイト、交通安全、SNS、宗教、薬物、アルコール、タバコ、マネートラブルなどについて学習する。
ワークシートを提出する
【教科書ページ・参考文献】
「学生生活は危険がいっぱい」のパンフレットを活用
【課題・予習・復習・授業準備指示】
パンフレットを熟読し、学生生活が円滑に遅れるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
－

第５回　学士力育成プログラム①　図書館を使いこなそう
【key words】
図書館、蔵書検索レポートの書き方

【授業概要】
図書館司書を招き、「図書館の利用の仕方」の講義を受ける。蔵書検索に関して、実際にPC画面を見ながら学ぶ。CiNiiの論文検索の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
図書館司書が作成した資料を活用する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料を熟読し、積極的に本を借りて学修する態度を身につける。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　学士力育成プログラム②　研究小論文の作成Ⅰ　作成の基礎を知る
【key words】
研究小論文、小論文作成の概要

【授業概要】
小論文の書き方について学ぶ。小論文の組み立て方を学ぶ。（提示された小論文を読み解く）
【教科書ページ・参考文献】
学習技術研究会「知のステップ」くろしお出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
知のステップを熟読し、小論文の書き方を確認すること
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第７回　心身の健康プログラム③　がんやストレス、たばこの害
【key words】
がん検診の啓発、ストレス理解、たばこの害

【授業概要】
外部の専門家を招聘し、がん検診の必要性やストレスとへの対応、たばこの与える影響等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
講義資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自らの問題としてとらえる
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　学資力育成プログラム③　　研究小論文のテーマについて
【key words】
研究小論文、問いを立てる、テーマと背景は

【授業概要】
小論文のテーマの立て方について学ぶ。また、そこに至った背景等についても考察する。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ等参照
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小論文のテーマについての資料収集を行う
【予習復習に必要な想定時間】

60分
第９回　学士力育成プログラム④：研究小論文作成Ⅰ（作成の概要）
【key words】
研究小論文、先行研究はどのようになっているか

【授業概要】
先行研究の状況を調べる。先行研究から自身の小論文のテーマを決める。
【教科書ページ・参考文献】
先行研究の資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身の小論文の資料となる文献を調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
120分
第１０回　進路・資格取得プログラム①　　年金制度について
【key words】
年金についての基礎的知識を考える

【授業概要】
外部の専門家を招聘し、講義を受けるとともに社会保障の大きな柱でもある年金について考える。
【教科書ページ・参考文献】
年金セミナーの資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
年金制度への理解が深められたか自ら検証してみる
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１１回　学士力育成プログラム⑤　　就職能力試験
【key words】
自己表現力、一般常識や長所と短所、弱点を知る

【授業概要】
就職能力試験の日本語力と数理能力分野の自己課題を確認する。自己課題に則り自主学習の課題を探る。
【教科書ページ・参考文献】
就職課と連携した試験を行う
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の能力を知り弱点を克服し、良い点をさらに伸ばす努力をする
【予習復習に必要な想定時間】
－
第１２回　地域貢献プログラム①　地域とのかかわりⅠ　昌賢祭の意義
【key words】
昌賢祭の意義、テーマ検討、計画立案

【授業概要】
昌賢祭の意義や昨年度の製作・発表について確認し、クラスとしてどのような意義を見出し今年度のテーマとするかを議論する。昌賢祭実行委員が主体となって推進する。
【教科書ページ・参考文献】
担当が配布した資料等を参考とする
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回までにクラス発表のテーマを考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１３回　地域貢献プログラム②　　地域とのかかわりⅡ　昌賢祭の意義確認とテーマ設定
【key words】
昌賢祭の意義、テーマ設定、制作・発表

【授業概要】
前回の授業における話し合いを基に、今年度の製作・発表について考える。発表内容や政策について夏季休業中の課題について話し合う。実行委員が主体となって進める。
【教科書ページ・参考文献】
配布した資料を参考に検討する
【課題・予習・復習・授業準備指示】
夏季休業中、テーマに沿った課題を進める準備をする
【予習復習に必要な想定時間】
－
第１４回　学士力育成プログラム⑥　　研究小論文作成Ⅱ　（研究方法を考える→夏季休業中の取り組み）
【key words】
研究小論文、研究方法、テーマ決める

【授業概要】
前回までの授業で得た資料を基に小論文の書き方を確認する。小論文の研究方法を考える。
【教科書ページ・参考文献】
地へのステップ等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料収集と研究方法を考えておく
【予習復習に必要な想定時間】
240分
第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③：前期総括（演習ファイル整理、自己点検、夏期休暇中の過ごし方　他）
【key words】
前期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート

【授業概要】
　演習ファイルの該当ページを確認し、総括をまとめる。本授業の評価アンケートを行う。夏季休暇の過ごし方等についての注意事項を指導。
【教科書ページ・参考文献】
演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後期の演習課題を見つけておく。夏季休暇中の有意義な過ごし方について確認すること。昌賢祭や小論文の準備を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
240分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　　後期オリエンテーション（学長訓話・学部長講話　等）
【key words】
　学長訓話、学部長講話、後期目標、大学院進学

【授業概要】
　学長先生の訓話や学部長先生の講話を聴き、大学2年時の後期の意義を確認し意欲的にスタートする。
後期の演習計画を知り、演習ファイルを整理する。
【教科書ページ・参考文献】
演習ファイル
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習ファイルをまとめておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　学士力育成プログラ⑦　　自己表現テスト
【key words】
　自己表現テストを実施する

【授業概要】
　自己表現テストに取り組む。終了後、自己採点を行い、自己の長所・弱点を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
自己表現テスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己採点した結果を把握し改善や伸ばす点を把握し今後の学生生活に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
　－

第１８回　学士力プログラム⑧　　研究小論文Ⅳ（論文の表現と表記）
【key words】
　研究小論文、論文の表現と表記

【授業概要】
　前期から進めている自身の小論文の表現と表記を確認する。　各自小論文の作成を推進する。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小論文の進捗状況と次回までにやっておくことをまとめ、担任に提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
　120分

第１９回　学士力育成プログラ⑨　　研究小論文Ⅴ（現状と考察）
【key words】
　研究小論文の進捗状況と考察

【授業概要】
　小論文の結果を見据えた進捗状況と考察を行う。各班（個人）に分かれて小論文の完成に向けて助言しあう。小論文の発表も見据えてレジュメの作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ、収集資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小論文の完成に向けて考察を継続する。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２０回　地域貢献プログラム③　　地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備）
【key words】
昌賢祭、制作・発表準備

【授業概要】
クラスごとに昌賢祭実行委員が主体となって制作活動・発表準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭スケジュール表等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
クラス員一丸となって制作活動・発表準備にあたること
【予習復習に必要な想定時間】
　180分

第２１回　地域貢献プログラム④　　地域とのかかわり（昌賢祭の製作活動・発表準備のまとめ）
【key words】
　昌賢祭、制作・発表最終チェック

【授業概要】
昌賢祭実行委員を主体として最終準備、チェックを行い来場者にしっかりと趣旨を伝えられるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
昌賢祭計画表等

【課題・予習・復習・授業準備指示】
昌賢祭の最終チェック
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第２２回　地域貢献プログラム⑤　　地域とのかかわり（昌賢祭の実施）
【key words】
昌賢祭の実施

【授業概要】
来場者に楽しんでいただくとともに、発表内容の理解をしていただくために最大の努力を行う。
【教科書ページ・参考文献】
研究発表・計画表
【課題・予習・復習・授業準備指示】
淳簿と後片付けをしっかりと行う。
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２３回　地域貢献プログラム⑥　　地域とのかかわり（昌賢祭の振り返り）
【key words】
昌賢祭、制作・発表の振り返り

【授業概要】
昌賢祭の実施後の整理と共に実施結果についての総括を行う。特に、次年度への課題等についてできるだけ詳細に検証し、次に生かす努力を醸成する。
【教科書ページ・参考文献】
実施結果の報告
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次年度への申し送りを行う
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２４回　学士力育成プログラム⑩　　日本語能力試験
【key words】
日本語能力試験を実施する

【授業概要】
小論文の完成間近かになったこの時期に、正しい日本語を使用して書き上げることが重要であり、その確認のための試験を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
試験問題
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験結果を確認し自分の弱点や調書について検証する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　進路・資格取得プログラム④：外部講師講話
【key words】
福祉分野で活躍している方を招聘し知見を高める

【授業概要】
福祉現場で実践している関係者を招き、学生にとって福祉現場とはどういった課題を抱えているか、更にはその必要性等について話していただく。また、福祉現場で必要な資格や心構えなどについても併せて講義していただく。
【教科書ページ・参考文献】
講師資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の進路をイメージしつつ講話を自分自身の進路選択に活かす
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２６回　進路・資格取得プログラム⑤　　先輩学生が伝えたい事
【key words】
４年生が学んだ学修から、進路、資格取得にかかる話を聞く

【授業概要】
進路が決定した先輩からの話を聞くことで今後の学修の参考として活かす。
【教科書ページ・参考文献】
先輩からの資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自らの問題・課題としてとらえる
【予習復習に必要な想定時間】
－

第２７回　学士力育成プログラム⑪：研究小論文Ⅵ（最終仕上げに向けて）
【key words】
小論文の最終的仕上げに向かって

【授業概要】
これまでの資料との整合性や文脈についてチェックし、推敲可能な部分はしっかりと加除修正を行い小論文の完成に向けた作業を実施する。
【教科書ページ・参考文献】
知へのステップ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
誤字脱字についてもチェック
【予習復習に必要な想定時間】
－

	第２８回　学士力向上プログラム⑫　研究小論文Ⅶ　（論文の完成） 【key words】 研究小論文を完成させる 【授業概要】 参考文献の確認などを行い小論文を完成させるとともに、クラス発表内」のための準備（要点整理等）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料の確認 【課題・予習・復習・授業準備指示】 小論文の趣旨をクラス員にしっかりと伝えるための努力をする 【予習復習に必要な想定時間】 － 第２９回　学士力育成プログラム⑩：研究小論文Ⅷ（クラス内発表会） 【key words】 研究小論文クラス内発表会 【授業概要】 これまでの成果を発表するとともに、クラス員の発表内容を聞き理解に努める。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表にあたって自分の思いが伝えられたかを検証する 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム：後期総括（演習ファイル整理、自己点検　他） 【key words】 後期総括、演習ファイルの整理、授業アンケート 【授業概要】 小売り総括を行うとともに演習ファイルを整理し担任に提出する。また、３年次への心構え等についてもしっかりと認識する。 【教科書ページ・参考文献】 演習ファイル 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ３年次への心構えを抱く 【予習復習に必要な想定時間】 －
受講生に関わる情報および受講のルール	１　基礎演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等本学の学生にふさわしい態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席すること。 ４　座席を指定する。なお、携帯電話は指示のあった場合を除き電源を切り机上に置かないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	図書館の利用、資料収集や作成に要する時間は、授業時間外の活用が必須である。
オフィスアワー	各担当者に確認すること
評価方法	研究小論文（４０％）、課題等の提出状況及び成果物（３０％）、取り組み状況（３０％）を総合して評価する。
教科書	１　鈴木利定・中田勝（著）『咸有一徳』中央法規，2002年。 ２　学習技術研究会『知へのステップ』くろしお出版，2002年。
参考書	授業で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 本科目は複数名の教員がクラス別で指導を行っている。 従って、それぞれの教員の実務経験の内容は異なるが、これらを加味した上で、 基礎演習を展開していく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない

	ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉情報処理　　授業コード： S1141

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 実社会で不可欠な「伝える能力」に主眼を置き、PowerPointの操作技術習得と共に、情報収集能力・プレゼンテーション能力・資料作成能力の向上を目的とする。 【到達目標】 ①プレゼンテーション本来の意味を理解し、実践できる。 ②Powerpointを様々な資料作成に活用できる。 ③様々な機能を駆使してデザイン力の高い資料を作成できる。
授業の概要	本講義では、PowerPointの操作技術習得と共に、「伝える力」「コミュニケーション力」を習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーションとプレゼンテーションの基本 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 ・オリエンテーション ・プレゼンテーション作成前の準備（目的の明確化など） ・プレゼンテーション発表前の準備（リハーサルなど） ・プレゼンテーション発表後の作業（フォローなど） 【教科書ページ・参考文献】 7～19ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーション前の準備や、発表後のフォローアップなどの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	プレゼンテーションの作成(1) 【key words】 プレゼンテーション、スライド 【授業概要】 ・プレゼンテーションの新規作成 ・初期設定（スライドサイズ、デザインの設定） ・スライドの作成（文字の入力、書式の設定） 【教科書ページ・参考文献】 21～43ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの新規作成から入力までの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	プレゼンテーションの作成(2) 【key words】

スライド
【授業概要】
・既存のスライドの再利用
・Word文書の利用
・スライドのリセット
・Excelデータの利用
【教科書ページ・参考文献】
44～57ページ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
既存のデータをプレゼンテーションで活用する方法を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　訴求力のあるスライドの作成(1)
【key words】
表、罫線、セル
【授業概要】
・表の作成
・罫線の設定
・セルの塗りつぶしと結合
・セルの余白の設定
【教科書ページ・参考文献】
88～97ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
表を効果的に扱って見やすいプレゼンテーションを作ることができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　訴求力のあるスライドの作成(2)
【key words】
グラフ
【授業概要】
・グラフの元データの作成
・グラフ要素の追加と削除
・グラフ要素の書式設定
【教科書ページ・参考文献】
98～107ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グラフでデータを視覚的に表すことができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　訴求力のあるスライドの作成(3)
【key words】
図形、SmartArt
【授業概要】
・図形の作成
・図形の書式設定
・SmartArtグラフィックの作成
・SmartArtグラフィックの書式設定
【教科書ページ・参考文献】
108～129ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
図形やSmartArtを活用してわかりやすいスライドを作る
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　瓦版の作成(1)
【key words】
レイアウト、配色、背景
【授業概要】
・ページレイアウトの設定
・配色の設定
・背景画像の設定
・図形の詳細な書式設定
【教科書ページ・参考文献】
143～155ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
瓦版を作る際の様々な作業を復習する
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　瓦版の作成(2)
【key words】
ワードアート、テキストボックス、段組み
【授業概要】
・ワードアートの作成
・テキストボックスの作成
・段組みの作成
・画像の配置
・スクリーンショットの利用
【教科書ページ・参考文献】
156～175ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
見やすい瓦版を作成することができるようにする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

	第９回	カタログ冊子の作成 【key words】 スライドマスター 【授業概要】 ・Word文書の利用 ・スライドのリセット ・スライドマスターの設定 【教科書ページ・参考文献】 156～175ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 カタログ冊子作成の際に使う機能を理解する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	動きのあるプレゼンテーション 【key words】 画面切り替え、アニメーション 【授業概要】 ・画面切り替えの設定 ・アニメーションの設定 ・動画の利用 【教科書ページ・参考文献】 177～209ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プレゼンテーションの動きを付けて訴求力を高められるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	配布用飼料の作成 【key words】 ノート、PDF、印刷 【授業概要】 ・ノートの作成 ・配布資料の印刷 ・スライドのPDF化 ・資料のインターネットでの公開 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料を作成し配布できるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	プレゼンテーションの実行 【key words】 スライドショー、リハーサル 【授業概要】 ・スライドショーの実行 ・スライドにペンで書きこむ ・リハーサルの実行 ・目的別スライドショーの作成 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 スライドショーやリハーサルの操作を覚えて実際の発表を行えるようにする 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	プレゼンテーション作成実習 【key words】 実習 【授業概要】 ・課題に沿ってプレゼンテーションを作成 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題に沿ったプレゼンテーションを作成し、発表の準備をする 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回	プレゼンテーション発表 【key words】 発表 【授業概要】 ・1人ずつ順番にプレゼンテーション発表 【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 発表が終わった人は自分の発表を振り返る 発表がこれからの人は練習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	プレゼンテーション発表 【key words】 発表 【授業概要】 ・1人ずつ順番にプレゼンテーション発表

	【教科書ページ・参考文献】 なし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の発表を振り返る 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報] ・ファイル保存用にUSBメモリを持参すること。 [受講のルール] ・積極的に授業に臨むこと。 ・実習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。 ・授業に関係のないこと（例：YouTubeを見る）をしないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	教科書の練習問題等を利用して復習すること
オフィスアワー	授業前後20分。
評価方法	・平常点（50%） ・レポート課題（50%）
教科書	よくわかるPowerPoint2013ビジネス活用編　FOM出版
参考書	必要に応じて適宜指示する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 Office関係の雑誌原稿執筆多数あり コンピュータ関連書籍執筆多数あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ボランティア活動Ⅲ　　授業コード：S2011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	この授業の目的は、ボランティアリーダー養成である。将来、社会福祉協議会や施設に就労し、ボランティア活動計画やボランティア募集活動に従事できる能力を身につける。また、社会貢献活動ができる人材養成を目的とする。そのために、地域社会から求められているボランティア活動とは何か？を体験し探求できる能力を身につける。
授業の概要	これまでのボランティア活動は、予め決められた内容あるいは募集掲示された活動体験が主であった。この講義では、自ら社会との接点としてのボランティア活動とは何か？を探求し、実践する。1年生のボランティア活動へのアドバイスや具体的なボランティア活動を支援する。毎時間、それまでのボランティア活動の実践発表を行う。最後に、年間の活動報告書をまとめ、提出する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション：学生ボランティア活動の目的とは何か？①学生ボランティア活動史（世界・日本）
	第２回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学ボランティアセンターの任務と活動。
	第３回	発表１．各自（グループ）の考える地域社会における福祉向上としてのボランティア活動とは何か？
	第４回	発表２．これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第５回	発表３．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
	第６回	発表４．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後ディベートを行う。
	第７回	前期の活動のまとめ。報告書にて中間発表会実施及び質疑応答を行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
	第８回	発表５．夏季休業中の活動報告書会実施。その後ディベートを行う。。後期の活動計画書提出。
	第９回	発表６．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１０回	発表７．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。
	第１１回	発表８．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。

	第１２回　　発表９．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。 第１３回　　発表10．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後ディベートを行う。 第１４回　　年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。 第１５回　　年間活動報告会：活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。
受講生に関わる情報および受講のルール	１．受講希望者が１０名未満の場合は開講しない。 ２．毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を　　必要部数印刷し準備すること。 ３．活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１．地域社会の福祉向上のために行われているボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動参加すること。　　２．希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や人集めには何が重要かを探求する。
オフィスアワー	毎週水曜日・木曜日の１６：００～
評価方法	１．活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（４０％）＊２回未提出の場合、単位を認めない。 ２．各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（２０％） ３．年間活動報告書の内容を評価する。（３０％） ４．活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する（10%）
教科書	『わかる　みつかる　できる』　財団法人　内外学生センター
参考書	講義初めの授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地域福祉の理論と方法　　授業コード：S2091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
安留　孝子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 様々な福祉サービスの実施主体が市町村へと委譲され，地域住民が主体となるまちづくり，地域福祉の推進が重要視されている。これらの活動の一翼を担う立場としてソーシャルワーク実践を理解する。また、福祉サービスの動向は少子高齢化の進展、それに伴う国の政策の方向を無視できないため、これらの理解も同時に進める。 【到達目標】 1）「地域」のとらえ方に関する理論を理解し，住民ニーズや解決すべき問題が把握できる（把握の方法を想定できる）。 2）コミュニティソーシャルワークに関する理論を理解し，住民参画を基本とする問題解決のあり方を想定できる。 3）ソーシャルワーカーとして協働すべきネットワークのあり方と地域組織化の過程が想定できる。 4）国等の政策を理解し、これに同調した事業の展開ができるとともに、必要に応じ行政機関等へ進言できる。
授業の概要	この講義では，地域でのソーシャルワーク実践に伴う基本的視座及び理論の活用方法を学ぶ。受講者それぞれがソーシャルワーカーとしての基本的実践を「想定できる」レベルで獲得するとともに、少子高齢化の進展に伴う国等の政策の方向を正しく理解できることを目指す。集団や地域の捉え方に関する理論，地域ニーズの捉え方に関する視点，生活課題として表出する問題認識の視点を基にソーシャルワークの実践過程を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　オリエンテーション　講義の進め方，評価法，レポート課題など 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　少子高齢化社会と地域福祉 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第３回　地域福祉の発展過程 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回　地域自立生活の支援と地域福祉理論の発展、福祉圏域とは 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　地域福祉の主体と福祉教育 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　福祉教育の概念と内容、歩み 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　福祉計画の定義・現状・課題 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　行政組織と民間組織 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回　地域福祉を進める各団体の役割と実際 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　地域福祉実践のための各種法人、団体等の役割と実際 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第１１回　コミュニティソーシャルワークの考え方と展開 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回　コミュニティソーシャルワークの展開と展開を進めるためのシステム 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　専門多職種の連携とチームアプローチと住民・利用者等とのパートナーシップの保持 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　住民・利用者等の参加の意義と福祉行政への参画 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　ソーシャルサポートネットワークの考え方（助け合いの歴史と現代的なネットワーク） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１６回　ソーシャルサポートネットワークとエコロジカルアプローチ、ソーシャルサポートの実践例 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１７回　地域における社会資源の活用と調整・開発 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１８回　地域における社会資源の活用と調整・開発、税制面での優遇と助成金の活用 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１９回　地域における福祉ニーズの把握（アウトリーチの重要性）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　地域における福祉ニーズの把握方法と実際

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　地域トータルケアシステムの必要性と考え方等

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　地域トータルケアシステムの展開方法、ソーシャルケア従事者の研修と組織化

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　福祉サービス評価が必要となった背景と利用者の権利保護

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　福祉サービス評価の考え方と方法・実際、プログラム評価とその展開

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　災害支援の考え方と方法

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　災害支援における地域福祉実践と課題

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　復習（社会福祉基礎構造改革の必要性と検討過程）

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　諸外国と日本の地域福祉推進の相違と今後　欧米諸国とアジア，日本の比較，文化の差異によるまちづくり 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　復習（地域福祉を担う人・団体） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　復習（社会保障制度の発展と地域福祉） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	授業は教科書を中心に進めるが、必要に応じ講義の資料を配布する。その場合、予習した上で講義に臨むこと。 授業中に生じた疑問はそのままにせず，調べる，質問するなどの行動に移すこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）
授業外時間にかかわる情報	テキストの該当箇所は可能な限り予習を行うものとする。次回の授業に該当する箇所は受講生個々で調べ予習を行うこと。定期試験やレポートの提出のためには，授業で取り上げたトピックスが極めて重要であるため，よく復習をすること。
オフィスアワー	木曜日13：00～14：00
評価方法	定期試験やレポート概ね60%　各回での振り返り・考察概ね40% これらを総合的に評価する。
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉と包括的支援体制』中央法規
参考書	ベンクト・ニィリエ（ハンソン友子　訳）（2008）『再考・ノーマライゼーションの原理』現代書館 広井良典（2009）『コミュニティを問い直す―つながり・都市・日本社会の未来』ちくま新書 勝部麗子（2016）『ひとりぼっちをつくらない』全国社会福祉協議会 早瀬昇（2018）『「参加の力」が創る共生社会』ミネルヴァ書房 日本社会福祉士会編（2018）『地域共生社会に向けたソーシャルワーク－社会福祉士による実践事例から』 上野谷加代子・松端克文他編（2019）『よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房 藤井博志編（2019）『地域福祉のはじめかた』ミネルヴァ書房 広井良典（2019）『人口減少社会のデザイン』東洋経済新報社 加山弾・熊田博喜他（2020）『ストーリーで学ぶ地域福祉』有斐閣 上野谷加代子編（2020）『共生社会創造におけるソーシャルワークの役割―地域福祉実践の挑戦』ミネルヴァ書房 朝比奈ミカ・菊池馨実編（2021）『地域を変えるソーシャルワーカー』岩波書店　など その他、授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習)

	□ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助の理論と方法Ⅱ　　授業コード：S2122

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉専攻・必修／子ども専攻・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】クライエントは、身体上または精神上の障害や社会生活環境上の理由などから、実に多様な日常生活問題に直面しています。社会福祉士が、クライエントの主体性に力添えし、well-beingの増進をめざしてクライエントと協働する際に、その支援の中核となるのが相談援助活動です。これを適切に展開するためには、クライエントその人と置かれている状況の双方/全体を理解することで得られる根拠に基づく必要があります。本授業では、多岐にわたる実際の相談援助活動で着目すべきことがらを理論的・方法論的な基礎として整理し、ていねいに確認していきます。 【到達目標】(1～15) 1) 相談援助活動の対象を適切に認識することができる。2) 適切なケアプランに至るケースマネジメントの過程・各段階を説明できる。3) クライエントが属する各集団の特性を理解し、相談援助活動への活用の意義を述べることができる。4) 地域福祉の充実を図りうる関与・関係者とのコーディネーションとネットワーキングの主旨を説明できる。5) 各種社会資源の守備範囲をふまえ、必要に応じてその開発に意見を述べることができる。 (16～30) 1) 相談援助活動の基盤となる各種実践モデル・アプローチの考え方の差異を述べることができる。2) スーパービジョンの意義について説明できる。3)ケースカンファレンス開催の意義と参加する際の望ましい姿勢について延べることができる。4) 個人情報の利用と管理について説明できる。
授業の概要	(1～15) 1) 相談援助の対象を包括的に理解する視点を解説し、2) ケースマネジメントの過程およびケアプラン作成・実践について説明します。さらに、3) 相談援助におけるグループ・ワークの有用性を理解したのち、4) 支援活動における関与・関係者間のコーディネーションの重要性や社会資源の活用について言及します。 (16～30) 1) 相談援助活動の基本的な考え方の変遷をたどり、現代的にふまえるべき実践モデル・アプローチの主旨を理解します。2) 社会福祉士としての成長に欠かせないスーパービジョンのあり方を解説します。3) ケースカンファレンスを開催する意義と支援チーム連携について学びます。4) 相談援助活動に不可避な個人情報の保護と活用について理解を深めます。5) Ⅰ・Ⅱの総括として、クライエントを支援し、ケースとしての関わりの過程から、社会福祉士が学ぶ意味について考えます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション　相談援助活動の考え方　福祉ニーズの多様性 【key words】 社会福祉　制度と実践の相補性　ソーシャルワークの定義　対象化　システム論 【授業概要】 相談援助の対象・領域・ニーズについて、どのような観点から、どのようにとらえるのか、その本質と意義を検討します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp1－8。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 多様で複雑な社会におけるクライエントの生活課題にかかわって、その問題解決の道筋をどのように見出していくのか、ソーシャルワーカーとしての根本的背景的な考え方を整理しましょう。

第２回　相談援助の対象
【key words】
クライエント個人　家族力動　集団力動　地域　互酬性

【授業概要】
クライエント個人と、そのひとを取り巻く環境；家族・集団・地域との相互作用を、それぞれソーシャルワーカーとしてどのようにとらえるか、具体的に考えていきます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp8－19。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントというひとと環境との相互作用状況を理解することは、クライエントの内的能力に力添えする相談援助活動の基盤です。

第３回　ケースマネジメント 1　目的と構成要素
【key words】
在宅介護支援センター　障害者総合支援法　生活支援　QOL　社会資源

【授業概要】
相談援助活動での基本的な要素である社会資源の適切な利用について、クライエントの個別性を念頭に考えます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp21－26。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースマネジメントは、ノーマライゼーション思潮の下、コミュニティケアを推進するものです。ソーシャルワークの価値・視点として理解しましょう。

第４回　ケースマネジメント 2　実践過程の概要
【key words】
ケースマネジメント過程　支援者の知・情・意　クライエントとの協働　生活ニーズ

【授業概要】
ケースとしての発見から支援の終結に至る一連の過程の概要を学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp27－32。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースマネジメントを必要としているクライエントの特徴にも注目しましょう。

第５回　ケースマネジメント 3　アセスメントとケアプラン
【key words】
社会資源　ストレングス　ニーズ優先アプローチ　パートナーシップ　調整機能

【授業概要】
ケースマネジメント過程の中核となるアセスメントの意味を理解し、ケアプランに盛り込まれることになる目標と支援計画の概要を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp33－52。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエント自身とそのひとが身をおく生活状況の個別性をふまえ、ケースとしての身体・心理・社会 3側面の相互バランスを意識した調整と支援が重視されます。

第６回　相談援助活動における集団の活用
【key words】
集団経験　集団力学　参加の動機づけ　グループ規範　サブグループ

【授業概要】
個人の成長を促す社会的環境として注目すべき、集団（グループ）を活用したグループワークの意義と展開過程について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp53－64。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

集団に属していることにともなう安心と不安の両面性と、ソーシャルワーカーによる支援介入・調整の考え方を理解しましょう。

第７回　集団の特性とそのグループワークの展開過程 1　自助グループ　当事者組織
【key words】
自助グループ　当事者組織　自発的市民活動　ソーシャルアクション　体験のわかちあい

【授業概要】
クライエント支援を目的とする集団は、その組織特性とソーシャルワーカーの介入水準から4つに大別されます。その考え方・目的の区別を理解しましょう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp65－73。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

区別が明確ではない実態もありますが、基本的に何に重きをおいて組織されているのか、テーマとなる集団の特性を理解しましょう。

第８回　集団の特性とそのグループワークの展開過程 2　サポートグループ　グループワーク
【key words】
サポートグループ　グループワーク　専門職のかかわり　専門機関の支援

【授業概要】
クライエント支援を目的とする集団は、その組織特性とソーシャルワーカーの介入水準から4つに大別されます。その考え方・目的の区別を理解しましょう。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp65－73。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

区別が明確ではない実態もありますが、基本的に何に重きをおいて組織されているのか、テーマとなる集団の特性を理解しましょう。

第９回　地域福祉関係者間のコーディネーション
【key words】
地域福祉　連携　協働　コーディネーション　相互の立場性

【授業概要】
地域福祉の有効実現のために必要な、多専門職種間および専門職－住民間の連携・調整について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp75－85。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

一職種の専門常識は、必ずしも他専門職にとっての常識とは限りません。ましてや、地域住民をや。連携の基本は、相手の立場に立ったていねいな働きかけと相互理解です。

第１０回　地域福祉実践とネットワーキング
【授業概要】
コーディネーションを有効機能化する前提として必要な、支援関係者の内発的・能動的な結びつき方；ネットワークの形成について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp86－94。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ミクロ、メゾ、マクロの各水準での多様で広範なつながり方が、地域福祉を具体化する大きな原動力となっていることを理解しましょう。

第１１回　地域ケアシステム
【key words】
地域ケアシステム　重層的ネットワーク　ケース発見　QOL

【授業概要】
クライエントへの早期対応を可能にし、そのQOLを確保しようとする 地域福祉の重層的かつ有機的な仕組みの構築について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp94－98。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

制度の狭間のニーズをもリアルタイムに受け止めようとする地域福祉の役割を考えましょう。

第１２回　社会資源 1　定義と目的
【key words】
フォーマルな社会資源　インフォーマルな社会資源　内的資源　肯定的自己概念

【授業概要】
ウェル・ビーイングの具体的な側面に関わって援用しうる有形・無形の社会資源とは何か について、確認します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp99－104。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

他者による支援だけが社会資源ではなく、クライエント個々が備えている適応の力；内的資源を、支援関係の中で見い出し、クライエント自らがそれらを活用し始められるのかが、実はポイントである点に注意して下さい。

第１３回　社会資源 2　活用と調整
【key words】
人と環境の相互作用　個人の力　環境の力　言語化　適応支援

【授業概要】
社会資源の活用とは、その資源のあてがい/ほどこしではありません。各クライエントが自ら将来に眼を向けるための契機となるように、個別に調整された 適応支援であることを理解しましょう。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp105－109。

【課題・予習・復習・授業準備指示】

適切な社会資源の活用のためには、面談を通じて支援者が、クライエントに語り（言語化）を促し、それを助け、受け止める役割を適時担っていることを自己認識する必要があります。

第１４回　社会資源 3　開発　ソーシャルアクション
【key words】
社会資源の整備状況　再資源化　資源創出　アドヴォカシー機能　ソーシャルアクション

【授業概要】
質的にも量的にもより十分にクライエントへサービス提供するためには、支援者は、社会における資源整備の現状を認識し、社会資源の展開にも積極的に関与していくことになります。社会のさまざまなシステムへの働きかけや当事者の権利擁護のためのソーシャルアクションまで、その連続性について理解しましょう。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp109－120。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

クライエントを中心とした 同心円状の「環境」との 多様な相互作用の局面を、支援者として忘れないことが重要です。

第１５回　前期のまとめ
【key words】
－
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容への接続を図ります。

【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

相談援助の理論的方法論的な考え方について、概ね3/4を学修しました。多くの履修学生は、この時期に相談援助実習にも臨むことになりますが、支援者としての根拠を具体的に意識するようにして下さい。

第１６回　ガイダンス　前期の復習　相談援助活動をより精緻にするために
【key words】
－
【授業概要】
前期学習内容を振り返るとともに、後期学習内容を概観します。

【教科書ページ・参考文献】
－
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前期に学んだ相談援助のシステムを実践活動として機能させる意識をもちましょう。

第１７回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 1　治療モデル　生活モデル　ストレングスモデル
【key words】
ジェネラリストソーシャルワーカー　ソーシャルワーク実践　モデル　アプローチ　パースペクティヴ
【授業概要】
クライエントの複雑多様な生活をリアルにとらえ、かかえる生活課題を精確に理解するよりどころとしての実践モデルを概観します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp121－141。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

治療モデル、生活モデル、ストレングスモデルの視点の差異を知るとともに、その総合が なぜジェネラリストソーシャルワーカーに必要なのかを説明できるようになりましょう。

第１８回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 2　心理社会的アプローチ　機能的アプローチ　問題解決アプローチ
【key words】
社会的診断　精神分析　自我　潜在的可能性　動機づけ

【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、心理社会的　機能的　問題解決　の各アプローチについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp143－152。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第１９回　相談援助活動の基盤としての実践モデル 3　課題中心アプローチ　危機介入アプローチ　行動変容アプローチ
【key words】
課題　短期処遇　危機介入　対処行動　学習理論　般化

【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のう

ち、課題中心　危機介入　行動変容　の各アプローチについて学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp153－162。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第２０回　相談援助活動に基盤としての実践モデル 4　エンパワメントアプローチ　ナラティブアプローチ　その他のアプローチ
【key words】
ストレングス　リジリエンス　社会構成主義　問題の外在化　実存主義　ジェンダーレンズ　解決志向
【授業概要】
クライエントがかかえる生活課題に接近し、その解決というゴールに到達するための方法論のうち、エンパワメント　ナラティブ　実存主義　フェミニスト　解決志向　の各アプローチについて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp163－182。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

それぞれの基盤理論、適用対象、支援焦点と展開の差異に注目しましょう。

第２１回　スーパービジョンとコンサルテーション 1　スーパービジョン
【key words】
スーパービジョン　スーパーバイザー/スーパーバイジー関係　スーパーバイザリープロセス

【授業概要】
ソーシャルワーカーとしての成長を支援する支持的・教育的仕組みであるスーパービジョンの意義と目的について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp183－200。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

困難なクライエント支援の状況でもポジティブに考えていこうとする、ソーシャルワーカーの姿勢・自己覚知のようすを理解しましょう。

第２２回　スーパービジョンとコンサルテーション 2　コンサルテーション
【key words】
コンサルテーション　コンサルタント/コンサルティ関係　コンサルテーション・リエゾン

【授業概要】
複雑多様化するクライエントのニーズに対応する際に、ある特定の専門領域についての助言をその専門家から得ることが必要になります。すなわち、ジェネラリストソーシャルワーカーがコンサルテーションを受ける意義と目的について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp201－204。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

前項 スーパービジョンと 本項 コンサルテーションの違いを理解しましょう。

第２３回　ケースカンファレンス 1　ケースカンファレンスの意義と目的
【key words】
ケースカンファレンス　サーベイランス　連携　共通理解　エビデンス・ベイスト

【授業概要】
相談援助実践過程における情報共有・役割分担・方針決定の場であるケースカンファレンスのあり方について理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp205－210。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

多職種（他職種）との相互理解が、相談援助活動の基盤であることを意識しましょう。

第２４回　ケースカンファレンス 2　ケースカンファレンスの展開と運営
【key words】
カンファレンス委員　カンファレンス資料　個人情報保護　カンファレンススケジュール　カンファレンス進行
【授業概要】
ケースカンファレンスの開催の準備と進行について具体的に学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp210－216。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

ケースカンファレンスに出席参加する際の姿勢についても考えていきましょう。

第２５回　ケースカンファレンス 3　実例の読み解き
【key words】
ケースカンファレンスの評価　ケースカンファレンスの普遍化

	【授業概要】 ケースカンファレンスでは何がテーマとなり、出席参加者が何を取り決めて、次の支援につなげていくのか、実例を読み解きながら理解します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp217－230。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケースカンファレンスは、やりっぱなしではいけません。記録を残すこと、カンファレンスそのものを振り返り、今後のさまざまな支援に生かしていくこと に注意して下さい。 第２６回　相談援助活動にともなう個人情報の保護 【key words】 個人情報　プライバシー　OECD8原則　個人情報保護法　倫理綱領　守秘義務 【授業概要】 ソーシャルワークは、個別性を尊重する＝個人情報にふれる業務であるといえます。現代社会における個人情報保護の重要性を認識しながら、福祉展開上の固有課題について考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp231－242。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ボランティア活動や実習においても、広く守秘義務・個人情報保護の意識を高くもち続けて下さい。 第２７回　相談援助におけるICTの活用 【key words】 ICT　福祉情報　情報弱者　情報管理 【授業概要】 パソコンあるいはそのネットワークを活用した福祉情報のやり取り（提供と入手・利用）とそれらの管理について概観します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp243－256。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉情報の利用に障壁がある 情報弱者 の存在に留意して下さい。 第２８回　事例の研究と分析 【key words】 事例研究　エビデンス・ベイスド・プラクティス　アカウンタビリティ　研究デザイン　研究倫理 【授業概要】 担当事例の振り返りは、相談援助実践上の有用・重要な知見を生み、支援サービスの質を向上させる契機となるものです。研究倫理に則った事例研究・事例分析のあり方について学びます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp257－282。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事例の研究と分析は、自己研鑽と職業倫理認識のよい機会となります。自ら進んで、それをもとめましょう。 第２９回　相談援助の実際 【授業概要】 提示された事例を読み解き、ジェネラリストソーシャルワークのありようを総括します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp283－298。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各事例を理解し支援のポイントを押さえるのに必要となる関連知識も整理しましょう。 第３０回　相談援助の理論と方法Ⅱのまとめ 【key words】 エビデンス･ベイスド･プラクティス　職業倫理 【授業概要】 後期学習内容を振り返るとともに、現代社会でもとめられているソーシャルワーカー像を考えます。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 相談援助の理論的方法論的な考え方を通算2年間学びました。十分に復習をするとともに、自らが理想とするソーシャルワーカーイメージを具体的に考えて下さい。
受講生に関わる情報および受講のルール	チェック式のレジュメを用意する他、視覚的な板書を心がけますから、各自 口頭説明も書き添えるなどノートはまめに取るようにして、さらに 受講後一両日中の復習につなげて下さい。理解を助けるために、適宜事例を示していきます。仮に、欠席によって事例を聴き逃し、自分で指定教科書だけで内容を押さえようとしても、しばしば教科書の表現が難しいため、わかりづらいことがあります。欠席しないように十分注意して下さい。

毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	たとえば、皆さんは、ボランティア活動などでいろいろな背景・ニーズをもったひと達と出会うでしょう。その機会には、与えられたその時の役割をこなすだけでなく、授業で取り上げた社会福祉士の観点と照らし合わせてそのひと達を理解しようと試みて下さい。それが、専攻学生としての資質と力量を向上させるトレーニングになるはずです。ただし、そのひと達に関して知り得たことについては、守秘義務を遵守することは必須です。 ★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編　相談援助の理論と方法Ⅱ　新・社会福祉士養成講座7　中央法規2016年
参考書	授業中に適宜紹介・提示します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 聴覚言語障害/発達遅滞・発達障害/高次脳機能障害/摂食嚥下障害を中心に、大学病院等 において 当事者に対するリハビリテーション治療・生活支援(就学・就労等を含む)ならびにその家族および関係者に対する適切な応談(コミュニケーション)・支援・リエゾン・調整・啓蒙を具体的に実践しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助演習Ⅲ　　授業コード：S2141　S2142　S2143　S2145　S2146

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・松永　尚樹・安留　孝子・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　相談援助演習Ⅱでの学習を踏まえ、総合的かつ包括的な援助について事例を通し理解する。それらのソーシャルワーク実践や相談援助実習での具体的実践を想定し、ソーシャルワーク実践技術・知識の習得を目的とする。 【到達目標】 ①実習前段階のグループワーク（事例検討）において、事例に対する専門職としての実践方法を想定し言語化できる。 ②グループワークを通して、事例に関連する専門職としての実践方法及び多職種連携の在り方を導き出す事ができる。 ③実習後の事例研究を通して、専門職として必要な知識や技術について説明できる。 ④総合的かつ包括的援助の在り方について理解した上で、専門職を目指す上での自己アセスメントに基づく学習課題を明確化できる。 ⑤ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から特定の事例のソーシャルワーク展開過程について想定し、アセスメントや支援計画作成ができる。
授業の概要	グループワークで事例検討を行い、ソーシャルワーカーとしての技術や価値観を修得し、知識の統合を図る。　実習後は、受講者自身の実習体験を基に事例研究をおこない、ソーシャルワーカーとしての技術及び知識の向上と統合を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項　評価方法 【key words】 シラバス、社会福祉士実習 【授業概要】 本授業の進め方や参加する上での注意事項について説明する 【教科書ページ・参考文献】 ・『相談援助演習』（弘文堂）の目次，P13-17. ・実習へのガイドブックの目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 上記で定めた書籍のページについて目を通してから受講すること 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助 【key words】 医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援 【授業概要】 就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第３回　社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助
【key words】
医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援

【授業概要】
就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　社会問題を基盤とした相談援助就労支援　退院支援の相談援助
【key words】
医療ソーシャルワーク、退院促進支援、在宅支援、就労支援

【授業概要】
就労支援及び退院支援に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設

【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設

【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第７回　社会問題を基盤とした相談援助虐待　DVの相談援助
【key words】
プライバシーの保護、児童相談所、婦人保護施設

【授業概要】
虐待及びDVに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p148－160.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】

第８回　対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助
【key words】
生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則

【授業概要】

		授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助 【key words】 生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則 【授業概要】 【授業概要】低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	対象者別にみた相談援助について　低所得者・ホームレスの相談援助 【key words】 生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護の原理・原則 【授業概要】 低所得者・ホームレスに関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p164-166.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助 【key words】 高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア 【授業概要】 高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助 【key words】 高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア 【授業概要】 高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	対象者別にみた相談援助について高齢者への相談援助 【key words】 高齢者虐待防止法、ケアマネジメント、認知症、レスパイトケア 【授業概要】 高齢者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p142-143.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してく

ることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【key words】
障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画

【授業概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【key words】
障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画

【授業概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲
【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　対象者別にみた相談援助について　障害者への相談援助
【key words】
障害者総合支援法、障害特性、個別支援計画

【授業概要】
障害者に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　事例研究　成年後見制度と相談援助
【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護

【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　事例研究　成年後見制度と相談援助
【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護

【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲

【課題・予習・復習・授業準備指示】
key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。
【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　事例研究　成年後見制度と相談援助
【key words】
未成年後見人、成年後見人、身上監護

【授業概要】
成年後見制度と相談援助に関する事例を元に制度の活用法や相談援助の方略について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

		『相談援助演習』（弘文堂）p184-186.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２０回	事例研究　苦情解決の対処方法 【key words】 苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書 【授業概要】 相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２１回	事例研究　苦情解決の対処方法 【key words】 苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書 【授業概要】 相談援助の場面において生じた苦情の対処方法について、事例を介して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２２回	実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 苦情解決責任者、第三者委員、事業報告書 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）p178-180.及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２３回	実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２４回	実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２５回	実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】

	実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　実習での学びを基に事例検討学生が選んだテーマでグループディスカッション 【key words】 事例を提供する学生が自ら受講生らに提示 【授業概要】 実習で体験した事例を元にグループディスカッションを行う 【教科書ページ・参考文献】 『相談援助演習』（弘文堂）及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　演習まとめ 【key words】 第1～29回までに用いたkey words 【授業概要】 【授業概要】相談援助演習Ⅲでこれまで学習してきた内容についてのまとめを行う 【教科書ページ・参考文献】 これまで扱ってきた『相談援助演習』（弘文堂）の範囲及び新・社会福祉士養成講座シリーズ（中央法規）における該当範囲 【課題・予習・復習・授業準備指示】 key wordsに指定した用語を軸に、事例に対応する関連サービスとその根拠法について学習してくることを期待する。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	（1）履修上の注意 本演習は、各種専門科目の応用である事を自覚し専門技術の獲得に向けてグループワーク等に積極的に参加すること。

	グループワークを行うため遅刻・欠席厳禁 (2) 学習上の助言 社会福祉専門職として必要な実践能力を修得するためには、自ら考え、気づくことが重要である。 (3) 予備知識や技能 上述したように「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」を始めとする各種専門科目の応用であり、それらの講義科目で得た知識と関わりが深い内容である。復習をしっかり行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習を考慮し、各種制度やサービス提供機関の理解、ソーシャルワークの専門技術について復習しておく。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	社会福祉シリーズ21　ソーシャルワーク演習　『相談援助演習』弘文堂
参考書	社会福祉小六法　社会福祉用語辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 本科目は複数名の教員によるクラス別指導を行っている。従って、それぞれの教員の経歴は異なるものであるが、いずれの教員においても相談援助業務を中心とした社会福祉領域における実務経験を有しており、それらの経験を加味した上で演習を展開していく。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習指導Ⅱ　　授業コード：S2161　S2162　S2163　S2165　S2166

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・松永　尚樹・安留　孝子・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ① 相談援助実習指導Ⅰを踏まえ、相談援助実習の意義についての再確認を行う。 ② 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識および技術を体得する。 ③ 社会福祉士として把握・修得しておくべき事項（姿勢、倫理、技能等）を総合的に修得する。 ④ 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し、体系的に考察できる能力を養う。 【到達目標】 ①社会福祉士（ソーシャルワーカー）の役割、業務内容等を含めた専門性について説明できる。 ②実習体験を振り返り、ジェネラリスト・ソーシャルワークの視点から支援のあり方を説明できる。 ③実習体験を自己省察し、自身の課題解決方法を想定できる。
授業の概要	前期は、「相談援助実習指導Ⅰ」を引き継ぎ、相談援助実習の意義・目的等について再確認すると共に、実習先に関する情報収集（根拠法・関連制度・利用対象者及びニーズ等）を行い、知識を深めることを主眼とする。また、問題・関心事項の具体化、、実習動機・実習課題の明確化を図るなかで、「実習計画書」等の作成を試み、加えて、実習に関する諸事項、実習関係書類の書き方等の伝達を通じ、実習に対する意識付けを行う。 後期は、実習報告書等の作成を通して実習を振り返り、そのうえで、担当教員による個別指導のもと相談援助実習総括レポートを作成する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	前期オリエンテーション　授業方法と留意事項　実習先の確認 【key words】 実習前学習　実習への心構え 【授業概要】 今年度の実習指導Ⅱ・実習の流れの説明 各学生の状況確認 実習指導Ⅱ・実習の評価方法 事前学習一環として行った春休みボランティアの記録の提出 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提出書類を整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第２回	実習の意義と目的の理解（事前学習の理解・事前学習の課題と学習方法） 【key words】 課題の発見　実習計画書　相談援助実習 【授業概要】

		事前ボランティアを行なう中で自分自身の課題と相談員としての学ぶべきことは何かを考える。 その学ぶべきことはどのようにしたら実習で学べるのか文章にしていく。 学習の方法をグループで話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習で学ぶことは何かを考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第３回	実習体験者（先輩）の講話（実習への心構え・事前学習の必要性） 【key words】 実習課題　実習の留意点　実習計画 【授業概要】 各種別に分かれ、先輩の実習体験談を聞き、不安に感じていることを質問し解消する機会とする。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習を行なっていく中で、現在疑問や不安に感じていることをまとめてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第４回	実習先機関・施設の基本的理解　（設置根拠、業務内容、組織、利用者のニーズ、職員と業務内容） 【key words】 根拠法令　ニーズ　業務内容　多職種連携 【授業概要】 各実習先がどのような法令に基づいているのかを調べ、実習先の役割を知る。グループワークを行い施設・機関での社会福祉士の業務と多職種との関わりを話し合い、発表する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 福祉小六法 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会福祉士の業務について調べてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第５回	相談援助実習資格試験 【key words】 社会福祉士　コミュニケーション 【授業概要】 社会福祉実習に向けた基礎知識や実習生としての態度に対して試験を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 相談援助の基盤と専門職 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までの講義を復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第６回	実習受け入れ体制の理解（実習指導者の講話） 【key words】 実習を行なうための心得 【授業概要】 　実習指導者より実習生に期待することについて講話をいただき、相談援助実習を行なうための心構えと実習において何を学びたいのかを考える機会にする。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へ向けての心構えを復習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第７回	実習プログラムの理解（実習委託契約書の理解） 【key words】 契約書　合意書 【授業概要】 委託契約書と合意書の内容を講義し、実習生として遵守しなければならない事項を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 委託契約書、合意書を読んでくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
	第８回	実習計画書作成の理解（実習の目的・実習先選定の動機） 【key words】 実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習 【授業概要】 実習計画書と各段階（職場実習・職種実習・ソーシャルワーク実習）の実習で行なうことを講義し、自分の課題がどの段階で学べるのかを考え実習計画に取り入れていく。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック

【課題・予習・復習・授業準備指示】
先輩の講話や実習指導者の講話を振り返っておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第９回　実習計画書作成の理解（実習の目標・実習課題）
【key words】
実習計画書　職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習
【授業概要】
ワークシートを通して実習を通して学ばなければならないことを文章化し実習計画書を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習計画を考えてくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１０回　実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」
【key words】
実習計画書　実習生紹介票　誓約書
【授業概要】
実習生紹介票と誓約書の講義を行い、実習計画書、実習生紹介票、誓約書を完成させる。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習生紹介票、誓約書の内容を理解してくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１１回　実習プログラムの理解（個別支援プログラムの作成）
【key words】
職場実習　職種実習　ソーシャルワーク実習
【授業概要】
実習目標ワークシートと実習計画書をもとに23日間ある実習の課題と毎日の目標を考える。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習計画書を基にどのような実習が行なえるのか考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１２回　事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項）
【key words】
事前オリエンテーション　実習中の諸注意
【授業概要】
事前オリエンテーションの意義、目的に対して講義を行う。オリエンテーションで確認してくる事項、アポイントの取り方についてグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
オリエンテーションで確認してくる事項、アポイントの取り方について復習する
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１３回　記録方法の理解①（実習記録）
【key words】
実習日誌の目的　実習日誌の書き方
【授業概要】
実習日誌の例を読み、自分ならこのように書くと思われる箇所に赤で修正を加える。近くの学生と修正した日誌を見せ合い、意見を分かち合う。出た意見を発表し全体で分かち合う。
　自分が書いた日誌を参考に利用者とのかかわりを思い出し、実習時にどのように日誌を書くのかを考えワークシートにまとめる。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日誌を書き直してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１４回　実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理）
【key words】
実習生としての態度　個人情報保護　守秘義務
【授業概要】
実習の場面を想定したワークシートを使用し、実習生としてどのように答えるのか、どのような行動を取るのか考える。考えた内容を発表し全員で分かち合う。
個人情報の管理方法、SNSの使用について講義を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人情報とSNSの取り扱いについてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１５回　オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　巡回指導及び帰学日指導等

【key words】
実習プログラム　巡回指導　帰学日指導　PDCAサイクル
【授業概要】
実習に向けて学長より訓話、学部長より講話を頂く。
実習オリエンテーションで渡された実習プログラムを使用し、実習の内容や学ぶべき事を考える。
PDCAサイクルを使用し、実習中は実習計画の実行、評価、改善、計画を行いながら実習を行う。
巡回指導、帰学日指導について講話をし日程を確認する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
これまでの講義の内容を復習してくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１６回　記録方法の理解　実習報告書、実習レポート等　礼状作成
【key words】
実習報告書　実習レポート
【授業概要】
行ってきた実習の振り返りとして報告書を作成する。
実習レポートと実習プログラム表について説明を行い作成する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをするため、これまでの資料を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１７回　実習評価の理解　自己評価
【key words】
実習評価表　自己評価
【授業概要】
実習評価表の説明を行い、行ってきた実習に対して振り返り、自分自身で評価を行う。
どのようなことができなかったのか、理由を考え、課題として行く。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１８回　実習評価の理解　実習先評価　実習指導者の講評
【key words】
実習評価
【授業概要】
実習先から送られてきた評価表と自分の評価表を比較し、どのような差があったのか、なぜそのようになったのか理由を考え、課題とし、これから何を学習していくのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習の振り返りをしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第１９回　実習の振り返り（事前学習＊グループ討議と発表）
【key words】
実習事前学習
【授業概要】
実習を行なって、事前学習でやっていて良かった点、どのように役立ったのか、事前学習でもっとやっておけば良かった点、どのような場面でそのように思ったのか、それをどのように勉強したのかグループで話し合い、発表し分かち合う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前学習で使用したものを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２０回　実習の振り返り（自己理解、自己覚知、職業倫理＊グループ討議と発表）
【key words】
自己覚知
【授業概要】
実習中の自分自身が自己覚知で来た場面を振り返る。これから支援を行う中でどのように生かしていけるのか、また、他の人の意見を聞き自分自身はどのように考えるのか自己覚知を行い、グループで話し合い、発表する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を読み返しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２１回　実習の振り返り（クライエントとの関わり、職員との関わり＊グループ討議と発表）
【key words】
コミュニケーション

【授業概要】
実習を振り返り、実習中にクライエントや職員との関わりで苦労した点を挙げ、自分がどのように対応したのかロールプレイを行い、クライエントの気持ちを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習日誌を読み返しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２２回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２３回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２４回　実習後の個別スーパービジョン　実習レポート等の作成
【key words】
実習表定評　自己評定表　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２５回　実習の総括　（※実習レポート等の完成）
【key words】
実習表定評　自己表定評　実習指導者の講評
【授業概要】
実習先からの実習評定表、自己評定表、実習指導者の講評を基に個別に実習を振り返る。実習での学びについて実習レポート作成し提出する。
実習プログラム表も提出する。

【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習で使用した資料、日誌を整理しておく。
実習報告のパワーポイントを作成する。

【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２６回　実習の総括（クラス内実習報告会・プレゼンテーション技術）
【key words】
実習の成果　自己覚知　社会福祉士
【授業概要】
作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分　復習30分

第２７回　実習の総括　クラス内実習報告会
【key words】
実習の成果　自己覚知　社会福祉士
【授業概要】
作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第２８回　実習の総括　クラス内実習報告会 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第２９回　実習の総括　クラス内実習報告会 【key words】 実習の成果　自己覚知　社会福祉士 【授業概要】 作成したレポートとパワーポイントを使用し、実習での学びを報告する。 クラスの代表を決定する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブック 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分 第３０回　全体実習報告会 【key words】 実習総括　社会福祉援助実習 【授業概要】 各実習指導クラスの代表による実習報告　実習での体験を聞き対人援助を考える。　2年生は来年の実習に向け事前学習の一貫として体験を聞き、ワークシートをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 配付資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の実習を振り返り、報告者に対する質問事項を考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 予習60分　復習30分
受講生に関わる情報および受講のルール	①5分の4以上出席しない場合は単位取得できない（公欠を含む）。 ②提出物が期限内に提出されない場合、単位認定を行わない。 ③欠席、遅刻をする場合は、必ず授業開始前に大学に連絡を入れること。 ④無断欠席・無断遅刻者に対しては社会福祉士実習委員会で対応について協議する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習に向けて、事前学習に取り組むこと。また、後期は実習のまとめ、プレゼンテーション、報告会の準備をする。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	相談援助実習資格試験（20%）、課題やグループワークへの取り組み（50%）、提出物の提出状況及びその内容（30%）を総合して評価する。　但し、相談援助実習資格試験に合格しなければ単位を認定しない
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版
参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法

	等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　低所得者に対する支援と生活保護制度　　授業コード：S2181

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
土屋　昭雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 貧困・低所得者が直面している生活問題、さらには、動向等の把握に努め、その主たる制度である「生活保護制度」についての理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 低所得者の生活実態とその背景にある社会経済情勢を把握し、生活保護制度や低所得者対策、さらには、関連する諸施策等について学び、福祉専門職として必要な知識を習得するとともに、国家試験合格水準到達を目標とする。 ・公的扶助の意義と役割について理解している。 ・生活保護制度の動向についての説明ができる。 ・関連法規、施策について理解している。 ・ソーシャルワーカーが果たすべき役割について説明することができる。 ・社会福祉士国家試験過去問題・模擬問題等において正答を導きだすことができる。
授業の概要	本講義では、ソーシャルワーク実践を考慮し、生活保護制度概要はもとより、支援施策としての自立支援プログラム、ホームレス関連等について概説していく。また、制度を運営する組織の役割、連携のあり方についても確認し、さらには、低所得者層の生活実態、具体的なニーズと実状などについても言及していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション〔授業の進め方、評価等授業概要に基づき説明〕、社会保険と公的扶助の違い 【key words】 生活保護・公的扶助・社会保険・社会福祉士 【授業概要】 ・授業の進め方、評価、社会福祉士国家試験における本科目について ・社会保険と公的扶助の相違点 【教科書ページ・参考文献】 p1～p6 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会保険と公的扶助の相違点の把握に努めること。第1章の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２回　　公的扶助の概念　〔公的扶助の概念および範囲、公的扶助の意義と役割〕 【key words】 所得再分配機能・ナショナルミニマム・セーフティネット

【授業概要】
・公的扶助の概念および範囲
・公的扶助の意義と役割
【教科書ページ・参考文献】
p6～p15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第2章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　貧困・低所得者問題と社会的排除　〔貧困と社会的排除、貧困・低所得者問題の現代的課題他〕
【key words】

貧困線・社会的排除・雇用、失業問題

【授業概要】
・貧困と社会的排除
・貧困および低所得者問題の現代的課題　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p17～p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第3章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　公的扶助制度の歴史　〔海外および日本の歴史、貧困・低所得者対策の動向〕
【key words】

エリザベス救貧法・恤救規則・救護法・生活保護法・リーマンショック

【授業概要】
・海外の歴史
・日本の歴史
・貧困および低所得者対策の動向

【教科書ページ・参考文献】
p35～p62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第4章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　生活保護制度の仕組み　〔生活保護法の原理・原則、保護の種類と内容および方法他〕
【key words】

基本原理・基本原則・扶助・金銭給付/現物給付

【授業概要】
・生活保護法の原理・原則
・保護の種類と内容および方法　ほか

【教科書ページ・参考文献】
p63～p88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第4章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　生活保護制度の仕組み　〔保護施設、被保護者の権利および義務、不服申立てと訴訟他〕
【key words】

保護施設・不服申立て・朝日訴訟

【授業概要】
・保護施設
・被保護者の権利および義務
・不服申立てと訴訟　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p89～p104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第5章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　最低生活保障水準と生活保護基準　〔最低生活保障水準および生活保護基準の考え方、生活保護基準額の実際他〕
【key words】

生活保護基準・ナショナルミニマム

【授業概要】
・最低生活保障水準および生活保護基準の考え方
・生活保護基準額の実際　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p105～p135
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第6章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　生活保護の動向　〔被保護人員および被保護世帯数、保護の開始・廃止の動向、医療扶助・介護扶助の動向〕
【key words】

保護率・被保護人員/被保護世帯数

【授業概要】
・被保護人員および被保護世帯数
・保護の開始および廃止の動向
・医療扶助および介護扶助の動向
【教科書ページ・参考文献】
p137～p162
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第7章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第９回　低所得者対策の概要　〔生活困窮者自立支援法の概要、生活福祉資金貸付制度、社会手当制度、ホームレス対策他〕
【key words】

生活困窮者自立支援法・生活福祉資金貸付制度・社会手当・ホームレス・ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法

【授業概要】
・生活困窮者自立支援法の概要
・生活福祉資金貸付制度
・社会手当制度
・ホームレス対策　ほか
【教科書ページ・参考文献】
p163～p203
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第8章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１０回　生活保護の運営実施体制と関係機関・団体　〔国・都道府県・市町村の役割、福祉事務所の役割他〕
【key words】

福祉事務所・社会福祉主事・スーパービジョン・スーパーバイザー

【授業概要】
・国、都道府県、市町村の役割
・福祉事務所の役割
・福祉事務所専門職の役割
【教科書ページ・参考文献】
p205～p221
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業該当ページの再確認・第9章の熟読
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１１回　貧困・低所得者に対する相談援助活動　〔生活保護制度における相談援助活動、他機関・他職種との連携・協働他〕
【key words】

アセスメント・就労支援・連携/協働・チームアプローチ・ケースカンファレンス

【授業概要】
・生活保護制度における相談援助活動
・他機関、他職種との連携、協働　ほか

	【教科書ページ・参考文献】 p223～p252 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業該当ページの再確認・第10章の熟読 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１２回　生活保護における自立支援　〔自立とはなにか、自立支援プログラムの位置づけ、自立支援プログラムの策定および実施〕 【key words】 自立・経済的自立/日常生活自立/社会生活自立・自立支援プログラム 【授業概要】 ・自立とはなにか ・自立支援プログラムの位置づけ ・自立支援プログラムの策定および実施 【教科書ページ・参考文献】 p253～p272 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストの再確認・積極的に国家試験過去問題等に取り組むこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１３回　確認テストおよび解答解説 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 授業内容に基づいた一問一答問題への取り組みおよび解答解説 (解説については教科書ページを示し説明) 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストの再確認 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１４回　確認テストおよび解答解説 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 授業内容に基づいた一問一答問題への取り組みおよび解答解説 (解説については教科書ページを示し説明) 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テストの再確認 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第１５回　授業総括〔重要事項の確認〕 【key words】 公的扶助・生活保護制度・生活保護の動向・低所得者対策 【授業概要】 重要箇所の再確認 【教科書ページ・参考文献】 p1～p272(該当ページ) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アンダーラインを引いた箇所の把握に努め教科書を熟読すること 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	私語は慎み、真摯な態度で授業に臨むこと。知識習得に向け、予習、復習を励行すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	生活保護の動向〔被保護人員・被保護世帯数等〕については、最新の数値の把握に努めること。また、新聞等に掲載される関連記事にも注意を払うこと。
オフィスアワー	月曜日〔14：20～17：30〕及び昼休み〔12：00～12：30〕
評価方法	定期試験〔80%〕・確認テスト〔20%〕

教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『低所得者に対する支援と生活保護制度』中央法規出版
参考書	福祉小六法、その他は授業内で紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： レクリエーション活動援助法　　授業コード：S2223

英文科目名称： Assistance method of recreational activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
田口　敦彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的]：レクリエーション活動の社会的意義を理解し、福祉施設、医療機関、学校等様々な活動現場における適切なレクリエーション活動支援の在り方や技術を身につけ、良好な人間関係を構築し、人々が笑顔に満ちた豊かなライフスタイルを確立できるように、公認指導者資格を有する支援者（レクリエーション・インストラクター）　として、実践できるようになることを目的とする。 [到達目標]： 1.福祉分野や教育分野などで、高齢者や子どもなどの対象者の心の元気づくりの手助けをすることができる。 2.1 対1、1 対集団といった場面で、コミュニケーションを促進する力を身につけている 3.既存のアクティビティを、対象に合ったアクティビティへとアレンジする力を身につけている 4.対象者の主体性や協調性を引き出す力を身につけている 5.福祉施設や保育や学校教育など、現場に応じたレクリエーションプログラムを企画・展開する力を身につけている
授業の概要	年代ごとの課題や特徴をを知り、対象者のニーズに沿ったふさわしい形で提供できるレクリエーション活動の計画づくりを行い、対象者の元気や活力づくりの意欲を高め、自立・自律的な活動展開を支援できるよう学ぶ。レクリエーション活動支援に必要な理論と基礎技術を身につけ、様々な現場・対象者に快い楽しさのレクリエーションを提供することや良好な人間関係を構築し、楽しさの雰囲気づくりの方法を体験を通して学習する。対象者の成長や満足、達成感、充実感を獲得するためのレクリエーションプログラムの作成、発表、さらに脳トレ、介護予防体操等が実践できる技術を身につける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　福祉サービスにおけるレクリエーション援助の役割 【key words】 生きがい、基本的人権、良循環 【授業概要】 余暇活動におけるレクリエーション援助の役割を理解する。さらに基本的人権としてレクリエーション活動が位置づけられていることも同時に学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 参考書　レクリエーション活動援助法P2～P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これからレクリエーションを活用して人々や地域を支える支援者にとってのレクリエーションの在り方について考えてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第２回	レクリエーション概論　　レクリエーションという言葉の主旨 【key words】 RE-CREATE 【授業概要】 レクリエーションという言葉の由来や、様々な学説・定義から、レクリエーションがどのようにとらえられてきたかを理解し、その捉え方からレクリエーションの基本的な考え方を確認する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書P10～11　参考書　レクリエーション活動援助法P10～P11
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分がいままで体験してきたレクリエーション活動についてどのような活動があったのか思い出してみる。さらにその活動が、福祉分野においてどのように活用できるのかを考えてみる。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第３回　レクリエーション概論　　レクリエーション支援の目的と方法　インストラクターの役割
【key words】
厚生、コメニウス、フレーベル、プレイグランド運動
【授業概要】
レクリエーションのルーツを理解し、社会福祉サービスの流れの中で、レクリエーションが果たしてきた役割と今後の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P11～P24　参考書　レクリエーション活動援助法P12～P16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
重要な語句が数多く出てきたのでしっかりとまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第４回　基礎理論　レクリエーションへの期待
【key words】
生活者　支援者　人を支える
【授業概要】
生活者　支援者という2つの視点からレクリエーションが期待されていることを確認する。さらに人を支えていく支援者にとってのレクリエーションについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P25～P33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P32～33に掲載されている演習問題を解いておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第５回　基礎理論　生活のレクリエーション化
【key words】
生活のレクリエーション化
【授業概要】
レクリエーションを生活の軸に生活を遊び化してく支援の在り方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の講義でレクリエーションの生活化を学習する。本講義を良く整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第６回　基礎理論　レクリエーションの生活化
【key words】
レクリエーションの生活化
【授業概要】
日常生活において余暇の獲得とその充実を通して自律的な余暇生活の確立を目指すことを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P19～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回の講義で学習した生活のレクリエーション化と本講義を良く整理しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第７回　日常生活におけるレクリエーションの捉え方
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活

【授業概要】
近年、余暇活動にとどまらず「人間性の回復・再創造」など広義的に理解されている。福祉領域においては利用者の主体性をより尊重し、より楽しい生活を実現していくということを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P39～P42
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルと基本的欲求の関係を確認しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第８回　日常生活の３領域とレクリエーション援助の関係
【key words】
基礎生活　社会生活　　余暇生活　ライフスタイル　基本的欲求
【授業概要】
福祉領域に含まれる「レクリエーション」の在り方を理解するとともに、日常生活の３つの領域(基礎生活、社会生活、余暇生活)についてどのような援助が望ましいか理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法P43～P48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの領域における必要なレクリエーション援助について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

	第９回	楽しさと心の元気づくりの理論　レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組み、および心の仕組みを根拠にした支援 【key words】 地域課題　コミュニティ　リージョン 【授業概要】 自分も楽しみ、その楽しさがまわりの人々や地域にも役立つことで、さらに事業を充実する方法について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P169 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個人に働きかける場面と集団に働きかける場面について、それぞれにどんな効果があるか考えておく 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１０回	楽しさと心の元気づくりの理論　楽しさが心の元気をもたらす生理的な仕組み、および社会的な仕組み 【key words】 　地域課題　コミュニティ　リージョン 【授業概要】 　身近な地域（コミュニティ)とより広い範域の(リージョン)。それぞれの地域が抱える課題を理解し、解決するためのレクリエーションの活用について考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P142～157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域を調べ、レクリエーションを活用して働きけｋることができる課題についてあげてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１１回	レクリエーション支援理論　レクリエーション支援におけるコミュニケーション 【key words】 コミュニケーションワーク　ホスピタリティ 【授業概要】 レクリエーションの提供を効果的に行うには、対象者との良好なコミュニケーションがかかせないことを理解 する必要がある。そのためのホスピタリティ、効果的な支援の方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P226～245 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ホスピタリティがどのような場面で有効的か、自分自身の活動を振り返り、その局面をイメージしてみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１２回	レクリエーション支援理論　コミュニケーションワーク　アイスブレーキングのプログラミング～プログラミングの原則～ 【key words】 アイスブレーキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268　演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１３回	レクリエーション支援理論　自主的、主体的に楽しむ力を育む理論　～アイスブレーキングモデルの作成～ 【key words】 アイスブレーキングモデル 【授業概要】 レクリエーション支援が展開される様々な現場に応じた、アイスブレーキング・モデルの実践例を理解する。さらにグループにおいてアイスブレーキングモデルの作成と実践活動を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書P268　演習を解いておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
	第１４回	レクリエーション支援のプログラム　プログラムの立案　　アイスブレーキングのプログラミング・実践　発表 【key words】 アイスブレーキングのプログラミング 【授業概要】 アイスブレーキングのプログラミングについてグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、安心感、一体感が感じられるプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P259～269 【課題・予習・復習・授業準備指示】

各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１５回　まとめ（評価・ふりかえり）
【key words】

【授業概要】
前期　授業の振り返りとテストについての確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
前期テストにむけて配付プリント　ノートを整理しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１６回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　　乳幼児期～児童期～青年期～老年期
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題
【授業概要】
年代ごとに大まかに共通する課題や生活環境、ライフスタイルを持っている。年代ごとの特徴を知り、対象者のニーズを把握する。さらにライフステージごとの課題について理解を深める。今回は乳幼児期～老年期を学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P70～P81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ライフスタイルごとに対応するレクリエーションの視点について確認しておくこと。次回は青年期～老年期を学習するので先に取り上げた内容を事前に確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１７回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　　少子高齢社会の課題とレクリエーション
【key words】
ライフスタイル　対応するレクリエーション課題
【授業概要】
少子高齢者の中でレクリエーションが働きかけることのできる課題は何か理解する。「個人、集団、環境づくり」といったレクリエーションの考え方に沿いながら、それらの課題に向けた支援方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P92～P141
【課題・予習・復習・授業準備指示】
それぞれの課題とそれに対するレクリエーション支援について何ができるか自分自身で検討してみること。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１８回　楽しさと心の元気づくりの理論　ライフステージと心の元気づくり　地域のきずなとレクリエーション（地域介護予防事業の取り組みについて）
【key words】
生活のレクリエーション化　個人への働きかけ　集団への働きかけ
【授業概要】
高齢者社会の課題に向けて、一人ひとりの対象者にどのようなレクリエーション支援が可能か、また一人の対象者を介して、その人が所属するグループや集団、対象者を取り巻く環境にどのような働きかけができるのか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P92～116
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個人への直接的支援、あるいは個人を介した支援が有効な高齢社会の課題をあげ、具体的な働きかけを考えてみる
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第１９回　支援論　治療的意味合いを含めたレクリエーション　　セラピューティックレクリエーションサービス
【key words】
レクリエーション療法、セラピューティックレクリエーション
【授業概要】
治療的な意味合いを含めたレクリエーションについて、レクリエーション療法とセラピューティックレクリエーションの二つの方向性があることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
参考書　レクリエーション活動援助法(中央法規)　P150～P168
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回からレクリエーション計画の策定について学習を進めるが、どんなプログラムができそうかイメージを膨らませておく。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２０回　目的にあわせたレクリエーションワーク　素材アクティビティの提供
【key words】
素材・アクティビティ、ハードル設定、CSSプロセス
【授業概要】
レクリエーション支援がよりよい生の実現につながるものであることを理解する。あわせて、目的にあわせてレクリエーション支援の展開イメージを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P274～P277

【課題・予習・復習・授業準備指示】
目的に合わせたレクリエーションワークを構成する3つの技術について確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２１回　目的にあわせたレクリエーションワーク　ハードル設定　CSSプロセス
【key words】
素材・アクティビティ、すり合わせ
【授業概要】
素材、アクティビティの選択について支援側からの特質と、対象者からの楽しさのすり合わせのプロセスについて理解する。さらに学習を深めるために、素材、アクティビティの選択方法について演習を行い各自検討する。レクリエーション実技　リズム手合わせ”
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P278～P287
【課題・予習・復習・授業準備指示】
素材、アクティビティの選択が支援者の思いと対象者の目標により、慎重に検討されていることを確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２２回　目的にあわせたレクリエーションワーク　対象者間の相互作用の活用法
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
達成感の積み重ねが対象者の有用感・自尊感情を満たし、前向きな姿勢や意欲を引き出すこと、ハードルの設定について理解する。さらに対象者間の相互作用が、対象者自ら支援の目的に近づく原動力となる原則を確認する。活用する基本技術としてのCSSプロセスについても理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P288～P297
【課題・予習・復習・授業準備指示】
リズム手遊びにみるハードルの設定について確認しておく。普段の遊びの中からCSSプロセスを実践してみる。
【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　目的にあわせたレクリエーションワーク　指導実習
【key words】
ハードル設定　CSSプロセス
【授業概要】
乳幼児から高齢者まで幅広い支援の対象者に好まれている歌や体操を用いて、支援の良い手段として「素材・アクティビティ」を活用する技術を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
今回紹介した技術を自分たちでも実践できるように復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２４回　レクリエーション支援のプログラム　事業計画　レクリエーション事業とは
【key words】
マズロー５段階欲求説　生活の快　動機づけ
【授業概要】
レクリエーションプログラムを計画する際の基本的な考え方について理解する。また利用者のレクリエーションニーズの実現とレクリエーションの動機づけについて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P162～P169　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P26～P27
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の得意とすることを活かしてどんな事業が展開できるかイメージを膨らませておくこと。
【key words】
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２５回　レクリエーション支援のプログラム　アセスメントに基づいたプログラム計画　A-PIEプロセス～ニーズの確認　目標設定　展開　期待される効果　～
【key words】
A-PIEプロセス
【授業概要】
A－PIEプロセスの手順とそれぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　P184～P195　参考書　楽しさの追求を支える理論と支援の方法P40～P45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
A-PIEプロセスについてテキストにでている事例を確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
1時間

第２６回　レクリエーション支援のプログラム　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方～集団を介して個人にアプローチする支援計画のつくり方～
【key words】
レクリエーションプログラム総合計画　A-PIEプロセス
【授業概要】
福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づき計画前の確認を行う。その後、展開の技術について理解を深め、グループごとにレクリエーションプログラムの作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P162～P195　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。その際に、支援者の対象者への思いを必ず確認すること。

	【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２７回　レクリエーション支援のプログラム　プログラムの立案　事業計画　レクリエーション事業のプログラムの組み立て方 【key words】 Plan Do See プロセス 【授業概要】 「企画・準備・実施・整理」の段階から構成されるPlan-Do-Seeプロセスの手順と、それぞれのステップで考慮しなくてはならない事柄について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P196～P207　　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分の住む地域の課題を想定し、目標設定とそれに基づく地域住民を対象とした事業計画をつくってみる。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２８回　レクリエーション支援のプログラム　リスクマネジメント　リスクマネジメントの方法～ 【key words】 リスクマネジメント 【授業概要】 レクリエーション活動における安全管理の必要性と方法について学習し、自己だけでなく犯罪や災害をも視野に入れた安全管理の考え方について理解を深める 【教科書ページ・参考文献】 教科書P208～P223　参考書　楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施P30～P43 【課題・予習・復習・授業準備指示】 子ども、高齢者のプログラムイベントでどんなリスクがあるか確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第２９回　レクリエーション支援のプログラム　　レクリエーションプログラムの計画発表及び実践 【key words】 レクリエーションプログラム総合計画 【授業概要】 福祉レクリエーション総合計画の基本的な考え方に基づきそれぞれのグループごとに発表を行う。発表に際して、プログラムの目的の明確化、利用者の心を動かすプログラム内容であったかを評価する。(質疑応答含む) 【教科書ページ・参考文献】 教科書P162～P195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実際に自分たちが将来活躍するであろう施設や病院をイメージしながら、レクリエーション実施の一連の流れを確認しておくこと。各グループの発表は今後のレクリエーション支援の素材となるので必ず記録しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間 第３０回　　一年間のまとめ（評価・ふりかえり） 【key words】 【授業概要】 1年の授業の振り返りとテストについての確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後後期試験に向けてノート、プリントを整理しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 1時間
受講生に関わる情報および受講のルール	・出席を重視し、授業態度を評価するので積極的で反応の良い授業参加を心がけること。また支援者として好感のもてる 　態度、身だしなみを心掛けること。 ・授業シラバスを必ず確認すること。 ・グループ活動は仲間と協力して作業をすすめること。自分勝手な行動をとる受講者は減点の対象とする。 ・遠隔授業にて受講する場合はにはカメラ機能をオンにすること。通信環境により実施できない場合は申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各地で開催される、大会や講習会・研修会・セミナー・ボランティア等へ積極的に参加し、楽しい体験（世代間交流）の中で、レクリエーション支援の在り方、手法を幅広く習得すること。
オフィスアワー	月曜日　5時間目　（変更時は掲示する）
評価方法	筆記試験　６０％　　授業中レポート　２０％　　グループワーク及び発表　２０％
教科書	レクリエーションインストラクター養成テキスト　【レクリエーション支援の基礎】　～楽しさ･心地よさを活かす理論と技術～ (財)日本レクリエーション協会編
参考書	参考書　【楽しさの追求を支えるサービスの企画と実施】　【楽しさの追求を支える理論と支援の方法】(日本レクリエーション協会)　【レクリエーション活動援助法】　(中央法規)
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	地域においてスポーツ活動指導の経験あり アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 相談援助実習

授業コード： S2801　S2802　S2803　S2804
S2805　S2806

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中	3年次	4単位(180)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・川端　奈津子・安留　孝子・松永　尚樹・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について、具体的かつ実際的に理解し、実践的な技術等を体得する。 ②社会福祉士として求められる資質、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ③関連分野と専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。 【到達目標】 ①実習機関・施設の役割や関連する社会資源について説明できる。 ②支援対象との状況に合わせた会話ができる。 ③地域における実習機関・施設の役割や位置づけを説明できる。 ④実習機関・施設に関連する他職種の役割や業務、連携方法の必要性を理解し説明できる。 ⑤実習機関・施設で使用する記録の必要性を理解し、適切な記録技法をもちいて記録する事ができる。 ⑥コミュニケーション技術、面接技術をもちいて利用者と関る事ができる。 ⑦適切なアセスメントツールを使用し支援対象の全体像を把握できる。 ⑧ソーシャルワーク過程を理解し、実習指導者の指導の下、支援対象に適切な支援を実践する事ができる。 ⑨社会福祉士として倫理綱領・行動規範に基づいた行動をすることができる。 ⑩実習担当者教員・指導者からスーパービジョンを受け、社会福祉士としての課題を抽出し学習に繋げる事ができる。
授業の概要	相談援助実習は原則3年次（編入生は4年次）において実施する。ただし、3年次に履修要件を満たさず実習できなかった者は、4年次に実習を行なうことができる。 相談援助実習は実23日以上かつ180時間以上とする。 実習期間中に原則3回以上の帰学日指導と1回の実習巡回指導を受けること。 群馬医療福祉大学相談援助実習資格及び実習中止等の基準と実習へのガイドブックを参照し、遵守すること。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	△
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回

	第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	群馬医療福祉大学相談援助実習履修資格及び実習中止等の基準を参照すること。 相談援助実習を行うために以下の履修要件を全て満たさなければならない。 1　将来、社会福祉士として社会福祉現場で働く意思を強く持っている者 2　社会福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲を強くもっている者 3　健康状態、精神状態が相談援助実習を行うのに適当と認める者 4　実習履修年次までに哲学、倫理学、道徳教育、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、社会福祉特講Ⅰ・Ⅱの単位を修得した者（再履修者においては、上記科目の他、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者、編入生においては、4年次までに哲学、倫理学、道徳教育、相談援助の基盤と専門職、相談援助演習Ⅰ・Ⅱ、相談援助実習指導Ⅰ、総合演習Ⅰ、社会福祉特講Ⅲの単位を履修した者） 5　実習履修年次において相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅲを履修見込みの者（再履修者及び編入生においては、4年次に総合演習Ⅱ、相談援助演習Ⅲ、相談援助実習指導Ⅱ、社会福祉特講Ⅳを履修見込みの者） 6　社会福祉士及び介護福祉士法第7条1号の規定に基づき文部科学大臣・厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目の履修済みまたは履修中の科目においての出席状況及び授業態度が良好な者 7　ボランティア活動に積極的に取り組み、施設・機関の理解及び技術の向上を促進した者 8　相談援助実習に必要な書類及び実習担当教員が課した課題を期限までに提出し、提出書類の内容が適当と認められる者 9　相談援助実習資格試験に合格している者 10　学則に違反していない者、または学則に違反し停学等の処分を受けた者で改善の見込みのある者
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
授業外時間にかかわる情報	【相談援助実習中止の措置】 相談援助実習を行っている期間に以下の中止要件に該当する場合は相談援助実習を中止する場合がある。 1　重大なルール違反（実習先の就業規則並びにそれに準ずる実習のルールへの違反）を行ったとき 2　利用者への加害行為、人権的侵害を行ったとき 3　心身の事由により相談援助実習の継続が困難なとき。 4　守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき 5　実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 6　実習施設・機関の長または実習指導者より相談援助実習中止の申し出があったとき 7　実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき 8　その他、実習を行うのに困難な事由が発生したとき
オフィスアワー	各教員より実習指導Ⅱの授業時に伝える
評価方法	①実習施設・機関による実習評価を傾斜配点し、教員が総合的に評価（40%） ②実習施設の概要の記載内容（10%） ③相談援助実習記録の記載内容（15%） ④実習のまとめの記載内容（10%） ⑤実習報告書の記載内容（10%） ⑥その他提出物の提出状況（15%） ※相談援助実習が終了したとしても提出物等が提出されない場合は相談援助実習の単位を認定しない。 ※相談援助実習指導Ⅱの単位を同一年度において修得出来なかった場合は相談援助実習の単位を認定しない。
教科書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学出版

参考書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「社会福祉シリーズ２２　相談援助実習・相談援助実習指導」弘文堂出版　／社会福祉小六法、社会福祉用語辞典、その他教員配付資料
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ※実務経験のある教員も含まれている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　卒業論文指導

授業コード：S2901　S2902　S2903　S2904
S2905　S2906　S2907　S2908

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
担当教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成に必要な問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成に向けた研究計画作成と研究活動の準備ができる。
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動の基本を学習する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践するための準備や論文としてまとめるための資料収集を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 教員（主な研究領域） 大島由之（臨床心理学・精神的健康） 柳澤充（マイノリティー・福祉問題） 新藤健太（障害福祉・ソーシャルワーク） 鈴木淳（障害児者支援臨床・医療心理） 真下潔（児童福祉・聴覚言語障害） 川端奈津子（発達障害・インクルーシブ保育） 乾明美（障害福祉・知的障害者支援） 益子徹（聴覚障害（情報保障・ろう文化）・障害者福祉） 巣立佳宏（社会的養護・児童心理） 大野俊和（社会心理学・教育社会心理学）※2019年度休講 上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：研究方法に関する指導、研究計画立案に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、研究計画のテーマを制限するものではない。 第２回 第３回 第４回 第５回

	第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：60%、研究計画：40%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉サービスの組織と経営　　授業コード：S3031

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
高井　健二			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉基礎構造改革の目指す「措置」から「契約」への転換の中で、社会福祉施設は、一般企業と同様に経営センスが求められている。本科目を受講することで経営学、経営理念・理論及び経営上の諸課題を学ぶことができ、社会福祉施設の経営に関する知識、センスを修得するとともに社会福祉の今後の動向を理解する。 【到達目標】 経営とは、経営資源であるヒト（人的資源）、モノ　（物的資源）、カネ（財源）、シラセ（情報資源）を効果的に活用して組織の目標を達成することである。社会福祉サービスの中核を担う専門職員として、①「経営管理」のとらえ方に関する理念・理論を理解し、リーダーシップやモチベーション等について考察できる。②規制緩和の流れの中でサービス提供組織の現状や課題を理解するとともに、特に社会福祉法人、特定非営利活動法人について理解する。③「経営管理」の構成要素として、業務管理（サービス管理）、人事・労務管理、会計・財務管理、情報管理、リスクマネジメント、建物・設備管理等についての知識を学ぶ。④組織経営のマネジメントには、幅広い知識・素養が求められる。オールランドプレイヤーとして諸課題が認識できるとともに、社会福祉施設での実践に当てはめることができる。
授業の概要	この講義では、「経営資源の活用」にかかるヒト（人的資源）、モノ（サービス管理）、カネ（財源、会計財務）、情報（経営理論、危機管理、福祉動向等）に関する事柄ついて、広範に学習する。教科書のコンテンツに沿って、下記の授業計画に基づき講義を進めるが、第１回から第６回までは補助プリントを配布、第７回以降は教科書と一部補助プリントを併用して授業を進める。経営学や人事・労務管理、簿記会計、労働法など全く学んだことのない受講生でも体系的に理解できるようにする。毎回講義終了後にミニテストを実施し、理解を深めるようにする。第１５回は試験準備として前期の総復習、第３０回は後期の総復習とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション　　本科目全体を俯瞰するとともに、「社会福祉事業、社会福祉施設」について、基礎的な事項を再認識する。
	第２回	社会福祉（制度）の変遷と社会福祉基礎構造改革　　社会福祉の流れと社会福祉基礎構造改革（措置から契約への転換等）を学ぶ。
	第３回	企業経営・経営理念　　企業の基本的な性格や経営管理、経営理念等について学ぶ。
	第４回	経営理論（伝統的管理論）　　テイラーの科学的管理法、フアヨールの管理過程論を学ぶ。
	第５回	経営理論（人間関係論）　　メイヨーのホーソン実験、マズローの欲求５段階説、マグレガーのＸ理論・Ｙ理論を学ぶ。

第６回　企業形態と株式会社　企業の形態や株式会社の仕組み、設立、定款等について学ぶ。

第７回　福祉サービスにおける組織と経営　福祉サービスとは、経営管理とは、事業主体・提供組織、福祉サービスと制度等を概観する。

第８回　法人とは　法人の意味・存立意義、法人の基本形態（財団法人・社団法人）、ガバナンスとコンプライアンス等を学ぶ。

第９回　社会福祉法人　社会福祉法人法人の基本的な性格、業務内容、設立と機関、規制と優遇措置、課題等を学ぶ。

第１０回　特定非営利活動法人　特定非営利活動法人とは、管理運営の基本、現状と課題等を学ぶ。

第１１回　戦略　経営戦略の策定プロセス（経営ビジョンの設定）、環境分析の手法、経営戦略の系譜等を学ぶ。

第１２回　事業計画　事業計画の策定・報告、内部・外部環境の分析、事業計画の実行・評価等を学ぶ。。

第１３回　組織論　組織構造と組織原則、組織形態等を学ぶ。

第１４回　管理運営の基礎理論　管理とは、管理の手法（ＰＤＣＡサイクル）、集団の力学等を学ぶ。

第１５回　まとめ　前期の総復習、中間テスト対策等を行う。

第１６回　リーダーシップ　リーダーシップとは、リーダーシップ理論の系譜、福祉サービス組織におけるリーダーシップのあり方等を学ぶ。

第１７回　サービスマネジメント　福祉サービスの特性・課題、福祉サービスの価値・品質、品質マネジメント等を学ぶ。

第１８回　サービスの質の評価　福祉サービスの質の向上、評価システム、第3者評価の仕組みと課題等を学ぶ。

第１９回　苦情処理とリスクマネジメント　リスクマネジメントとは、事故・苦情発生のメカニズムと対応、リスクマネジメントの取り組み等を学ぶ。

第２０回　人事・労務管理（１）　動機づけ理論、人事システム、人材の確保と採用、配置、異動等を学ぶ。

第２１回　人事・労務管理（２）　職員の処遇、給与体系（職能資格等級制度）、人事考課、人事評価と課題等を学ぶ。

第２２回　労働法規　労働法規の理念・体系、労働基本権等を学ぶ。

第２３回　労働基準法（１）　人たるに値する生活とは、労働基準法の性格・効力・適用範囲、就業規則、賃金・解雇等を学ぶ。

第２４回　労働基準法（２）　労働条件の明示、労働時間、休日・有給休暇、産前産後・育児休業等を学ぶ。

第２５回　人材育成　福祉人材の確保、職場研修、キャリアパスの考え方等を学ぶ。

第２６回　会計管理・財務管理（１）　会計・財務とは、公会計と企業会計、財務諸表、社会福祉法人おける会計制度等を学ぶ。

第２７回　会計管理・財務管理（２）　社会福祉法人における財務諸表の見方、貸借対照表、事業活動計算書、資金収支計算書等を学ぶ。

第２８回　社会福祉施設の建物・設備管理　建物・設備の分類、点検・防災、アメニテイ、防火・防災設備、防火・防災計画と対策等を学ぶ。

第２９回　情報管理　情報管理の重要性・必要性、個人情報保護、情報開示、経営における情報戦略、権利擁護制度・事業等を学ぶ。

	第３０回　　まとめ　　後期の総復習、期末テスト対策等を行う。
受講生に関わる情報および受講のルール	本科目は、社会福祉施設経営にとって必要な広範な内容のものになっているため、基礎知識の積み重ねが重要である。毎回出席は言うまでもないが、授業にかかわる事項については、関心を持って新聞、関連図書等により、自ら進んで調べる、学ぶ、知識を深めることが大事である。試験は「ノート持ち込み可」とするので、講義内容をノートに良く整理すること。毎回、事業計画に基づき予習をしたうえで講義に臨み、復習も欠かさないこと。授業中に生じた疑問は、コメントカード等により積極的に質問すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキスト該当箇所の予習を必須とする。本科目に関する事柄については、新聞を良く読むこと、関連図書、インターネット等で主体的に学習すること。幅広い素養、教養を身に着けるため、読書に努めること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	中間試験、期末試験を実施し、その平均点で評価（100%）する。
教科書	新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規出版（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 臨床心理学　　授業コード： S3172

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭をはじめとした子どもに対する援助職に求められる臨床心理学の基礎的知識の習得を目指す。特に、これまで学んだ定型発達に関する理解を基礎に、各発達段階での目立つ心身の異常/失調、発達障害等を心理学の観点から理解し、根拠に基づいた対応を行うための知識を習得する。 〔到達目標〕 ①子どものこころの異常/失調の捉え方やその生起・維持のメカニズムの基礎について説明できるようになる。 ②子どもに対する心理査定の方法とその意義に関する基礎的な内容について説明できるようになる。 ③代表的な子どもに対する心理療法の理論的背景とその技法、効果と課題について説明できるようになる。
授業の概要	臨床心理学とは、「科学、理論、実践を統合して、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、さらには不適応、障害、苦悩の成り立ちを研究し、問題を予測し、そして問題を軽減、解消することを目指す学問」と定義されている。本講義では、子どもと保護者に関わる対人援助職として「こころの失調/異常」を抱える人への適切な対応/他専門家との協同できるようになるための基礎知識を広く取り上げ、そのなりたちや実践との関連を紹介する予定である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約、臨床発達心理学とは何か 【key words】 発達心理学、臨床、個体ー関係ー状況、個別性と協働性、時代と発達 【授業概要】 15回の講義での実施内容と講義のルールについて説明を行う。臨床発達心理学という名称は、比較的新しい名称である。だからと言って、発達心理学が臨床の場と出会ったのは最近であるというわけではない。発達を理解するには、正常だけではなく同時に、正常ならざる例外的な発達プロセスをとらえることが重要である。発達を臨床の現場で捉える視点を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 pp2-19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがあるので、指示された範囲を学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第２回	発達していくことーライフスパンの視点からー(1) 【key words】 胎児期、周産期・胎外生活、新生児期、乳児期、幼児期、学齢期、 【授業概要】 発達していくことを、まず新しい生命の誕生から学齢期までをみていく。新しい生命の誕生は受

精から始まる。妊娠成立から胎児期・周産期に起こることを発達を通して概観する。その上で胎外生活への適応への発達について学ぶ。新生児の能力について、基本的信頼関係を通してどのようなことが起こるのかを学ぶ。さらには幼児期に発達することば、学童期における対人関係の能力を知る。
【教科書ページ・参考文献】
pp.20-46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第３回　発達していくことーライフスパンの視点からー(2)
【key words】
思春期、アイデンティティ、自立と依存、障害と発達、障害と働くこと、老いと発達
【授業概要】
思春期から終末期までの発達を概観する。身体的変化がもたらすものとは、心理的変化がもたらすものとは何か。アイデンティティと発達から学ぶ。エリクソンのアイデンティティ論と現代のアイデンティティ論を比較して論じる。また、障害がある人達の進路と社会的資源、さらに支援の在り様を学ぶ。そして、最後に人生の半ばを生きるということはどういうことなのか、論じる。
【教科書ページ・参考文献】
pp48-68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第４回　障害とその周辺ー障害を生きるということ(1)
【key words】
ノーマライゼーション、発達の遅れ、障害、発達テスト、出生前診断
【授業概要】
障害とは何か。生物学的な側面、心理学的な側面、社会的な側面を見ていく必要がある。現在では障害を周辺の背景因子を含めて、より可塑的・重層的に捉え、常に支援との関係で見ようとする視点が盛り込まれた。そのうえで、障害の診断は、どのような生きづらさがあるのかを見極める視点が支援の手立てになる。支援者には何が求められるのか議論する。

【教科書ページ・参考文献】
pp70-82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第５回　障害とその周辺ー障害を生きるということ(２)
【key words】
診断・治療・支援・受容、姿勢・運動の障害の理解、ダウン症
【授業概要】
姿勢・運動の障害について理解する。姿勢・運動は、ひとのからだの動きを第三者的に観察したときどうなっているのかという見方、からだを動かしている本人自身が身体を動かし姿勢をとるためにどういう活動をしているかという見方ができる。つまり、脳・神経系や筋骨格系等の疾患・障害としてみるだけでなく、からだを動かしている当人の心理的過程からも理解していく必要がある。また、ダウン症とは何か理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
p084-89
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第６回　障害とその周辺ー障害を生きるということ(3)
【key words】
ことばの障害、失語症、視覚障害、聴覚障害
【授業概要】
ことばが障害されるということはコミュニケーションにも支障がでてくる。言葉の障害にはどのようなものがあるか見ていく。一般的な障害分類を知り、内容を理解する。同時に視覚障害や聴覚障害について理解し、コミュニケーションの在り方、障害を生きることの意味を議論する。

【教科書ページ・参考文献】
pp.90-113
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第７回　障害とその周辺ー障害を生きるということ(4)
【key words】
自閉症、アスペルガー症候群、ADHD、学習障害
【授業概要】
自閉症とは何かを理解する。まず自閉症の三つの基本症状を理解する。自閉症の子どもには、最重度の知的障害をもつ者から、まったくの正常知能のものまでいる。どのような特徴を持つのか学ぶ。また高機能自閉症やアスペルガー症候群の理解を深める。さらにADHD、学習障害の特徴を

理解し、障害を生きることの意味、それが「問いかけるもの」とは何かを考える。

【教科書ページ・参考文献】
pp.114-137

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第８回　障害とその周辺－障害を生きるということ(5)
【key words】
幼児・児童虐待、不登校、ひきこもり、
【授業概要】
現在の児童虐待とはどのようなことから起こっているのか。その背景を見ていく。児童虐待がもたらすことの理解を深める。虐待を予防する支援、虐待を受けた子どもの支援を討論する。また不登校になるということの意味を考える。さらには引きこもりを生きることの意味を討論し、支援を考える。
【教科書ページ・参考文献】
pp.138-148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。毎回授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第９回　障害とその周辺－障害を生きるということ(6)
【key words】
神経症、精神障害、統合失調症、気分障害
【授業概要】
心理的・精神的な要因によってもたらされ、ある程度持続する精神および身体の症状を神経症と呼ぶ。胎児は胎生6か月を過ぎると、音に反応するようになり、たえず刺激として与えられているリズミカルな母親の心臓の鼓動と母親の声を聞いている。幼児期の様々な問題は、どのようなことから起こってくるのだろうか。幼児期や児童期に見られる神経症的な問題を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
pp.150-159
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１０回　発達臨床の現場(1)幼稚園と保育所
【key words】
保育ニーズ、幼稚園と保育所、福祉事務所・家庭児童相談室
【授業概要】
幼稚園と保育所に加え、2006年に就学前の教育と保育の機能を併せ持つ「認定こども園」が設立された。幼児期の教育とは、また教育の重要性とはどのようなことかを学ぶ。まず幼稚園と保育所の定義を確認し、違いを知る。さらに現代に求められる養育、教育とはどのようなものか議論する。
【教科書ページ・参考文献】
pp.166-171
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１１回　発達臨床の現場(2)児童館と学童保育
【key words】
子育て支援、育児不安、子育て支援事業
【授業概要】
児童館や学童保育の機能を理解する。そしてそこで働く人の役割は何かを学ぶ。児童の遊びを指導するとはどのようなことか、議論する。さらには、現代に求められている子育て支援のシステムはどのようなことか、課題は何か討論する。
【教科書ページ・参考文献】
pp.172-175
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１２回　発達臨床の現場(3)福祉事務所・家庭児童相談室・保健所・保健センターの役割
【key words】
生活保護、査察指導員、現業員、家庭相談員
【授業概要】
福祉事務所、家庭児童相談室、保健所・保健センターの業務内容・活動を理解する。保健所・保健センターでは、子どもから老人まですべての住民の健康を保持するために、公衆衛生的な視点から仕事を展開している。具体的にはどのような役目があるのか学ぶ。また、心理職の役割について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
pp.176-179
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。

	【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１３回　発達臨床の現場(4)精神保健福祉センター・発達支援センター・療育教室・特別支援学校・特別支援学級の役割 【key words】 精神的健康の保持・増進、専門療育、地域支援機能、発達援助 【授業概要】 精神保健福祉センター、発達支援センター、療育教室、特別支援学校、特別支援学級の業務内容を理解する。 それぞれの特徴を学び、役割を説明できる。また、近年の発達支援の在り方、課題を議論する。 さらに子どもの発達援助に求められることとは何か討論する。 【教科書ページ・参考文献】 pp.180-195 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１４回　発達臨床の現場(5)児童相談所、乳児院・児童養護施設等、少年院・少年鑑別所の役割 【key words】 相談機能、一時保護機能、保護、自立支援 【授業概要】 児童相談所をめぐるさまざまな法制度改正の流れを理解する。その上で、社会的支援を必要とする児童の養育について学ぶ。乳児院・児童養護施設等、また少年院・少年鑑別所の役割を理解する。その上で児童虐待への支援システムを学ぶとともに虐待の予防的取り組みについて議論する。 【教科書ページ・参考文献】 pp.196-205 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当ページを読み、用語調べをしていくこと。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うので、指示された範囲を学習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　まとめ　障害者の諸制度と社会資源について 【key words】 諸制度、社会資源、保健・医療、雇用・就業、所得補償と経済負担の軽減 【授業概要】 障害者のための諸制度と社会資源を理解する。社会資源は行政機関によるもの、施設における福祉、地域における保健福祉など多様である。障害によって異なる諸制度、社会資源を学ぶ。さらには高齢者のための制度や社会資源はどのようなものがあるのか、法制度や福祉・保健・医療サービスの概要を理解する。高齢化社会の現状を踏まえ、高齢者支援について制度や社会資源について議論する。 【教科書ページ・参考文献】 pp.206-213 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまでの学習を振り返り、定期試験に向けて準備をする 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・社会福祉専攻の学生の受講は原則として不可とする。受講を希望する場合には必ず事前に相談する。 ・初回のオリエンテーションに必ず出席する。やむを得ない理由で欠席する場合は事前に担当教員に申し出ること。 ・課題として調べ学習や自分の考えをまとめるレポートの作成を求める機会が多いため、図書館，PC室／LL室の利用を積極的に利用する。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料の再配布を行う。 ・授業中は、講義に集中するため、原則として携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用しない。またマナーモード等にして机上に置かないこと。何らかの事情で使用が必要な場合には各回の講義開始前に申し出ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	シラバスにのっとり授業を進める。したがってシラバスで紹介した内容を事前に予習をしておくこと（レポート提出）。 授業の初めに前回の授業内容が把握できているか確認のためにミニテストを行うことがあるので復習をしておくこと。 また授業内での指示に留意すること。
オフィスアワー	火曜日　15時～18時。それ以外の時間を希望する場合には，応相談。
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト30%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	麻生 武・浜田寿美男(編)　よくわかる発達臨床心理学〔第4版〕　ミネルヴァ書房（2012）
参考書	山口勝己（著）「子どもの理解と発達臨床」北大路書房（2007）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等

	の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施：授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでまとめ、代表者が発表する。コメントをもらう。

講義科目名称： 保育者論　　授業コード： S4002

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育者の役割と職務内容について理解し、保育者の専門性について理解を深めることを目的とする。 【到達目標】 ①保育者の役割と倫理について理解する ②保育士の制度的位置づけについて理解する ③保育士の専門性について考察し、理解する ④保育者の協働について理解する ⑤保育者の専門職的成長について理解する
授業の概要	保育士の制度的な位置づけから、保育者に求められる役割や倫理について理解する。また、保育士に求められる専門性について考察を深めていく。 保育者の仕事内容と留意点について学び、子どもに寄り添う生活者としての保育者の役割や、子どもの安全に対する配慮についての知識を深める。 保育の課題と問題点をグループで課題解決に向けた話し合いが出来るようにする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 講義についての説明と解説（保育者論を学ぶにあたって） 次週の予定の教科書Ｐ１６～２７を読んでおくこと 【授業概要】 ・授業の目的、授業の概要、授業計画、評価方法などを伝え、保育者論を学ぶ取り組みについて説明。 ・働く目的と保育哲学について考え、深い学びを指導する。 ・社会人、保育士となる準備と心構えについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP11～15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保育を選んだ自分の気持ちを書き出してみる。 次週の予定　テキストP16～27を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	保育現場が求める保育者像 【key words】

「せんせい」と呼ばれる条件

【授業概要】
・ペスタロッチが広めた３Ｈ＋３つの条件の合わせて６つの条件について説明。
・保育の振り返り、評価を生かしてさらに改善していくことの大切さを伝える。
・保育における「自由」と「強制」の問題として、遊びをとおして行う保育の保育者の援助について考える。
【教科書ページ・参考文献】
「せんせい」と呼ばれる条件

テキストP16～27

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「発達の最近領域」について調べ、まとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３回　園での保育者の役割と信頼
【key words】
「気づき」と「気働き」

【授業概要】
・保育者に求められる「気づき」の力について説明。
・「気働き」ができる保育者を目指すには具体的にはどのようなことなのか、実例をいくつか挙げて解説。
・「観察力」と「洞察力」、「想像力」と「行動力」について事例を挙げながら、より深い理解を得られるよ　うにする。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP28～32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
周囲の人達に「気働き」を念頭に接していくことを試みる。試みた事例をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
継続的に行う

第４回　保育者の仕事内容と留意点①　保育者の仕事と役割
【key words】
「自由保育」と「一斉保育」

【授業概要】
・「自由保育」と「一斉保育」の形態について。またその対比をし、深い学びにする。
・自由保育の具体的な支援についてその方法ややり方を具体例を出して説明。
・主活動における保育者の仕事と役割について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP62～70
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「自由保育」と「一斉保育」の利点をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　保育者の仕事内容と留意点②　子どもに寄り添う生活者としての保育者
【key words】
保育者の存在

【授業概要】
・自分が幼少期の頃にかかわった先生との思い出のエピソードをあげてみる。
・子どもの育ちと保育者のかかわりについて一日を通して考えてみる。
・職員間の連携、保護者との連携について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

テキストP71～74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
職員間の連携、保護者との連携の事例を解釈する。（課題配布）
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　保育者の仕事内容と留意点③　子どもの安全に対する配慮
【key words】
環境を整える

【授業概要】
・子どもの安全に対する配慮として、求められる配慮を考える。
・実際にあった子どもの事故や怪我の実例を話し、どのような配慮が必要であったか、考え話し合う。
・安全指導の行い方について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP75～78
「死を招いた保育」猪熊弘子　ひとなる書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際にあった子どもの事故事例をしらべ、書き出しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　保護者・地域社会と保育者の役割①　信頼される保育者になるために
【key words】
「受容」「傾聴」「共感」

【授業概要】
・信頼されるために必要な専門性について学ぶ。
・信頼される保育者の基本姿勢として「受容」「傾聴」「共感」について説明。
・保護者に対し、親としての自信を支える姿勢になるためにはどのような手立てが必要なのか、事例の中から
　グループワークを行い、学びを深める。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP100～104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
人と接する時、「受容」「傾聴」「共感」を普段から心掛けること。
【予習復習に必要な想定時間】
継続的に行う

第８回　保護者・地域社会と保育者の役割②　子ども理解を深める
【key words】
子どもを理解する視点

【授業概要】
・子どもの発達過程からの理解と子どもが生活する家庭・家族をどのようにとらえて子どもの理解を深めるの　か、という２つの視点から考えてみる。
・虐待の実態とその対策について考え、グループワークを行う。
・家庭の貧困について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP109～116
「つみびと」山田詠美　中央公論新社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週の予習として、一年間の行事を書き出しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　行事に対する保育者の取り組み①　「行事」はなぜ必要か
【key words】
「行事」はなぜ必要なのか

【授業概要】
・行事とは何か、行事がもつ意味や意義を考える。
・年間の行事をあげて、一年間にどのくらいの行事があるのか確認する。
・行事に関する絵本や紙芝居の紹介。
・行事を行う上での保育の導入をどのように扱うか考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP117～121
【課題・予習・復習・授業準備指示】
行事に関するペープサートを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
120分

第１０回　行事に対する保育者の取り組み②　「行事」における保育者の役割
【key words】
行事に向けた指導法

【授業概要】
・行事に向けて体制をどのように整えるべきか考える。そこで導入の大切さに着眼し、子どもの自然な姿を引　き出せる指導方法を、事例を挙げながら説明。
・行事にかかわる保育者の取り組みと学びについて図式化して説明。
・課題のペープサートをグループで紹介し合い、良かった点や改善点を話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストP122～133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「集団生活の中での子どもにとっての行事」とはどうあるべきか自分の考えをレポートにする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　保育環境の課題と問題点①　多様化する保育需要
【key words】
保育需要

【授業概要】
・保育需要の多様化の背景について学ぶ。
・保育需要の多様化への対応と保育者の役割について考える。
・早期教育の是非を考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP134～142
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「早期教育」についての自分の考えを記述する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　保育環境の課題と問題点②　保幼小連携
【key words】
育ちの問題

【授業概要】
・子どもの育ちの問題から、「学級崩壊」「小１プロブレム」についての説明。
・幼小連携の現状について。具体的な取り組みと課題を考える。
・幼保一体化と社会の方向性について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP143～150
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次週の予習として、各国の特徴を調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１３回　諸外国の保育から学ぶこと
【key words】
諸外国の保育を知る

【授業概要】
・ドイツ、フランス、中国、スウェーデン、オーストラリアの保育施設や保育方法について説明。
・社会と文化が生み出す保育の違いについて考える。
・保育の国際化がもたらすものを考察する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストP151～167

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 諸外国の保育を調べ、更に学びを深める。 【予習復習に必要な想定時間】 90分 第１４回　保育者の専門職的成長①　専門性の発達 【key words】 プロとしての保育者の資質 【授業概要】 ・プロフェッショナルとは何か考え、プロになるためには自覚的努力が重要であることの説明。 ・一般常識としての職場での行動を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP168～172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プロの最低必要条件を念頭において行動するよう、普段から心掛ける。 電話対応・敬語の使い方についての課題をする。 【予習復習に必要な想定時間】 継続的に行う 継続的に行う　課題60分 第１５回　保育者の専門職的成長②　生涯発達とキャリア形成 【key words】 保育を「わかる」ために 。 【授業概要】 ・常に学びの姿勢をもち、保育を「知る」から「わかる」へ変化させていけるようにすることの大切さを説　　明。 ・子育ての情報、保育施策への関心を導く。 ・専門的知識・技能を保育の「知恵」へ発展させる。 【教科書ページ・参考文献】 テキストP173～180 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今まで学んだところで疑問やさらに学びたいことを紙面に書き出す。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・保育士資格取得希望の学生はすべての授業に出席すること・授業シラバスを確認し、積極的に授業jに取り組むこと・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁 ・配布されたワークシートはまとめておき、毎授業持参する。 ・「意見交換」や「他者説明」を促した際には、近くの学生と積極的に取り組むこと ・欠席、遅刻する場合は、必ず学校に連絡すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・保育についていつも関心を持っておくこと（保育関係の時事問題には必ず目を向けること） ・予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語を調べておき、調べた用語をノートにまとめておく
オフィスアワー	月曜10:30～12：00　それ以外の時間帯については、アポイントを取って下さい。
評価方法	筆記試験60%、授業への取組、授業時に課すレポート40%。総合評価は筆記試験、平常点ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	上野恭裕編：プロとしての保育者論．保育出版社．2011
参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 【アクティブラーニングについて】 ①協定等に基づく外部機関と連携した課題解決型学習、②デスカッション、ディベート、③グループワーク 【実務経験のある教員による授業科目の配置について】 私立幼稚園教諭主任、公立幼稚園、小学校教諭での現場での経験を活かし、教諭としての知識、技術、価値、倫理について講じます。また「保幼少連係」についての重要度から課題解決に向けての意識を高めていきます。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 学習状況により、変更する場合もある。

講義科目名称： 保育内容（表現）　　授業コード：S4151

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	１単位(15)	子ども専攻・必修
担当教員			
岡部　千尋			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「領域　表現」における理論的・実践的な学びを通じ、子どもの創造的・想像的表現の育ちを支える理論・技術・感性の獲得を目指す 基本的な表現技術や指導技術が備わるよう日々の練習を心がける。「表現」の高い技術を有することはもちろん大切だが、表現の楽しさを知っていること、表現に対して興味を持ち何でもやってみようとする姿勢を培う。 【到達目標】 ①乳幼児の表現に関わる保育内容の変遷を知り、「領域　表現」の基本的理念を理解する。 ②乳幼児の身体や言葉の表現の特徴を知る ③子どもの育ちを支える、学生自身の「感性・表現」を磨く ④グループ活動を通じ、保育者に必要な他者との「協力」して「総意工夫する」態度を養う
授業の概要	本講義では、子どもの能力を多面的に育む豊かな表現力を備えた保育者の養成を目標として、幼稚園教育要領及び保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における「領域　表現」について基本的理解を深めます。また、グループ演習を通して仲間と協同して表現する体験的・共感的な活動を行い、乳幼児の表現活動を支える保育者としての役割を理解し、自分自身の表現力を養い、保育現場で実践できる力を培います。 （本講は保育に必要な理論を学ぶ意欲と、表現力を磨く積極的な参加態度・他者と協力する前向きな態度を要します）

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 授業概要説明　　保育現場の一日 【授業概要】 幼児期の表現は保育者に支えられながら、あくまでも子どもの主体の性のもとに発揮され、子どもの内面が外に表れたものとして理解されることを知る。また、子どもの生活において感性と創造性を育むことの意味を考え、子どもの表現を大人の価値観から評価すべきでないこと、しかし、一般的にそうしてしまいがちであることを知る。 保育現場の一日を教師の経験などから得た情報をスライドで見ることで、現場感覚を持ちながら授業に取り組んでいく。 【教科書ページ・参考文献】 無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、42頁 パワーポイント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２回　　おはなし　語り　　言語表現 【key words】

言語　表現

【授業概要】
様々な表現に興味をもち、表現の楽しさを知る。
授業内発表にむけての概要説明　表現とはどのようなことか確認する
練習の方法などを伝え、音読を繰り返しする

【教科書ページ・参考文献】
チャイルドブック　ちいさな昔話51話より
【課題・予習・復習・授業準備指示】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、141頁
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　領域「表現」のねらいと内容　三歳未満児について
【key words】
身体の諸感覚　生活　遊び

【授業概要】
触覚や聴覚、運動感覚などの諸感覚を刺激し楽しむためにはどのような援助が必要かを事例を通して学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、43頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
レポート課題
次回小麦粘土の準備　小麦アレルギーの有無を確認する

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　諸感覚を通しての感性と表現　①小麦粘土より
【key words】
触れる　感触遊び

【授業概要】
表現することに対して心を開き、好奇心旺盛に関わる。
実際に小麦粘土で遊んでみることで、子どもの豊かな感性と表現を育む環境について考える
身近なものに触れる遊びを通じて十分にその触り心地や変化を味わう
【教科書ページ・参考文献】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、199頁　203頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
小麦アレルギーの有無を確認する
汚れても良い服装
必要なもの　洗面器やボール
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第５回　諸感覚を通しての感性と表現　②反省・改善・指導案まとめ
【key words】
感触遊び　反省　改善

【授業概要】
小麦粘土を通して、子どもの豊かな感性と表現を育む環境について考える。指導案に配慮すべき点などを考え、表現と環境のつながりを知る
実際に行ってみて、体感したことや気づいたことを発表し、他者の意見を聞く

実践することを想定して、反省や改善点を発表し、子どもたちにどのように接していけばよいか考える。
【教科書ページ・参考文献】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、199頁
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の準備　色ペン・のり・ハサミ等
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　児童文化財（紙芝居）による表現活動の指導　①手作り紙芝居
【key words】

紙芝居　物語　構成　発想

【授業概要】
紙芝居の構造をよく理解して、手づくり紙芝居を製作する。
下書きでは、自分が描きたい内容をどのように画割して、わかりやすい脚本にするかを考える。
　表現に至るまでのプロセスが大切であることを理解するために、学生自身の表現体験が大事である。普段から使用している何気ない保育環境(紙芝居)も、製作することであり方を再確認することができる。
【教科書ページ・参考文献】
紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者
【課題・予習・復習・授業準備指示】
どのような紙芝居を作りたいか考えておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第７回　児童文化財（紙芝居）による表現活動の指導　②手作り紙芝居　製作
【key words】
紙芝居　物語　構成　発想

【授業概要】
教育・保育現場で上演することができるような児童文化財を作成する。自分自身の感性をゆたかにして物語を考える。
【教科書ページ・参考文献】
作業目標が達成できなかった場合は次回までに進めておく。
発表の練習をしておく
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙芝居舞台
【予習復習に必要な想定時間】
60分～120分

第８回　児童文化財（紙芝居）による表現活動の指導　③手作り紙芝居　発表
【key words】
豊かな感性　表現

【授業概要】
表現者としての保育者であることを知り、物語をより効果的に伝えられるようにする。
他者の作品や演じ方を見ることで、改善点や反省点に気づく。
環境構成・子ども理解に基づいたねらいの考え方・教材研究のあり方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙芝居舞台
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　グループ表現活動　群読を通して　①概要説明・構想・演出練習
【key words】
グループ表現　オペレッタ　練習
構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】
仲間同士が自由な気持ちでアイディアを出せるようにするには、どのアイディアも受け入れて面白がったりする姿勢が必要になることを知る。柔軟な発想が持てるように、対話を重視し効率的にグループでの活動を進める。
心と体を存分に動かして表現を交わし、協同する喜びや面白さを体験する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループ決め　お話の内容を深く読み、配役や演出を考える
時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合ってまとめておく

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１０回　グループ表現活動　群読を通して　②　グループ練習
【key words】
グループ表現　オペレッタ　練習
構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】
多様な表現が自由に行き来するように、それぞれのあり方や動きを肯定的に受け止める関わりが大切であること。
グループごとにオペレッタの構想・演出・製作・練習をすすめる。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
時間内にまとまらなかったものに関しては、各グループで話し合い、廃材などを中心に必要なものを揃えておく

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１１回　グループ表現活動　群読を通して　③　群読発表会
【key words】
グループ表現　オペレッタ　発表
構想　演出　製作　練習　造形的思考力　共同作業

【授業概要】
グループごとに練習してきたものを発表し、クラス全体で相互評価をし、表現とは何かを知る
改善・反省のための記録をとり、振り返る

第13回の発表にむけ、語りの中間発表をし、具体的な語りの方法を知る

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回必要なもの　　ペットボトルや空き缶・空箱などの廃材　　楽器作りに必要なもの　テープ　ハサミ　等
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第１２回　音・音楽による表現活動　音あそび（廃材を使った楽器作り）
【key words】
音楽表現

【授業概要】
子どもの素朴な音楽表現に気づき共感する感性と、豊かな表現を誘うことのできる知識や表現力を、身につける。
身近な生活の音に耳を傾け、廃材から楽器を作り音を楽しむ。
子どもと向き合い、気持ちに寄り添い、子どもが「表現したい」と思える音楽表現を考える。工夫された音楽表現活動をする。

【教科書ページ・参考文献】
無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018、180頁
レジュメ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回語り発表　練習をしておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　表現活動を行う際の保育者の役割　「語り」発表
【key words】
語り　発表

【授業概要】
個々の課題である物語を発表する。人前で話すことで、言葉の伝え方や興味ひきつけ方を体感する
人の発表を聞くことで、自分自身に置き換えて課題を見つける。

【教科書ページ・参考文献】
チャイルドブック　ちいさな昔話51話より
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回必要なもの　ポスカ・写真等の資料・マスキングテープ等

	【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１４回　表現活動を行う際の保育者の役割　ポスター製作 【key words】 表現活動　　ポスター制作 【授業概要】 子どもの感性と表現を育む保育者としての存在について 第15回目の授業に備えて、今までの授業内容をまとめておく　資料整理など ポスター製作 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回必要なもの　ポスカ・写真等の資料・マスキングテープ等 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分 第１５回　まとめ学習　総まとめ　ポスター発表 【key words】 まとめ　ポスター発表 【授業概要】 本講義で学び、体感した「表現」をまとめ、自己評価をする。 ポスター製作に向けた資料や必要な画材の準備をしておく 本講で学んだことをポスターにまとめることで、学びの探索行為やその集積としての表現を大切に受け止めることに対する理解を他の学生と共有し、情報発信をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本講の授業資料(写真など)　のり　ポスカ　マスキングテープ　ハサミ　等 【予習復習に必要な想定時間】 60分～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	・保育士資格・幼稚園免許取得の学生はすべての講義に出席すること ・最終授業内で、まとめ学習を行う。毎回の授業の記録をよくとることと、作品の記録用写真を撮っておくこと。 ・表現活動内で使用する教材は配布資料をもとに事前に用意しておく ・関係書類などの提出期限は守ること ・積極的に授業に参加し、他の受講生の迷惑となる行為（私語・携帯電話の使用）は厳禁 ・演習が多いためオンライン授業の際は可能な限りカメラＯＮの状態にする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・ボランティア活動や実習において、子どもの遊びや表現活動を意識して観察をする ・グループでの活動や事前準備が必要な場合は確認をしておく ・授業概要を確認し、積極的に授業に臨むこと
オフィスアワー	授業後30分
評価方法	授業時の課題など40%、筆記試験40%、グループ活動・発表20%を総合的に評価する
教科書	無藤隆、浜口順子:萌文書林;萌文書林、2018
参考書	チャイルドブック　ちいさな昔話51話より 紙芝居のはじまりはじまり-紙芝居の上手な演じ方　右手和子/童心者
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・保育所勤務の経験をいかして、保育現場での実践方法を指導する。様々な事例を想定して対応できるスキルを身に着けられるよう演習を中心に行い知識・技術を指導する。 主に紙芝居の公演活動(様々な保育現場において)を行っている経験で、プログラムの立て方や子どもたちへの話し方、実際の上演方法を指導する。 自分自身の得意な分野の力を伸ばしながら、保育者に必要な表現力を身につけていきましょう。グループで討論したり、自分で工夫することにより、それを実際に人前で披露し、その反応を基に改善していきく。このことが主体的に物事を考え進める力を養います。そしてその力“表現力”こそ実際の仕事で求められるものです。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習Ⅰ（保育所）　　授業コード：S4191　S4192　S4193

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中 輝幸・吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①保育所の役割と機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
授業の概要	■実習履修資格者 ①将来、保育士として保育現場または児童福祉の現場で働く意思を強く持っている者。 ②保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認める者。 ③「保育実習指導Ⅰ(保育所)」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「総合演習Ⅰ」「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか取得する見込みのある者。 ■実習時期は原則として3年次とする。 ■実習期間は、12日間以上90時間以上とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回

	第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習上の注意 「実習へのガイドブック」を参照し、実習上の注意事項を遵守すること。 【実習の中止措置】 　実習生の帰すべき責任によって実習継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により、実習継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	–
授業外時間にかかわる情報	–
オフィスアワー	–
評価方法	①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習計画、実習日誌（10%） ④実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） ⑥その他の提出物の提出状況（10%） ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。 ※保育実習指導Ⅰ（保育所）の単位を修得出来なかった場合は単位を認定しない。
教科書	群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」　群馬医療福祉大学 2016
参考書	–
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　保育士　幼稚園教諭 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） 　□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） 　□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 　□ICTを活用した双方向型の授業の実施 　□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 　□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）　　授業コード：S4241

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児の造形活動の支援に必要な知識や技術を講義、教材作りや模擬保育を通して習得し、幼児が楽しめるような造形表現活動を構想し、実践できる力を身につける。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現指導に関する基本的な知識や技術が理解できる。 ②現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作りの体験を通して、教材の概要を把握し、教材開発に目を向けることができる。 ③造形表現の指導計画、指導案を立案し、模擬保育の実践を通し、子どもたちが楽しめるような創造的な造形活動が構想できるようになる。 ④保育室の造形的な環境づくりにも目を向け、子どもの豊かな感性を育てることに関心を持つことができるようになる。
授業の概要	１年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ（図画工作）の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を高める内容となっている。現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作り、教材研究を行う。また、模擬保育を通して指導案の作成方法、保育の展開方法を学ぶ。また、子どもたちの豊かな感性を高める方法の一つとして、保育室の紙レリーフの壁面装飾の様々な技法を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　（授業概要の説明、　実技実習の準備等の確認） 【key words】 シラバス、幼稚園教育要領、保育所保育指針、造形表現の特質 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○受講のために準備するもの　○受講のルール 【教科書ページ・参考文献】 造形表現の指導　Ｐ１～４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	表現の本質　表出と表現　領域「表現」のねらいと内容　造形表現の分類　造形表現の特質 【key words】 自然主義の教育観、表現と表出、未分化、ルソー 【授業概要】 ○幼児期と造形表現教育　（自然主義の教育観と表現の意味の発見）　○表現の分類　○表現と表出　○領域の総合化と造形表現　○造形表現の特質　○子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割 【教科書ページ・参考文献】

造形表現の指導　Ｐ１～１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第３回　幼児期と造形表現　　造形表現の指導のねらい
【key words】
幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、ねらい、内容、遊びの総合性
【授業概要】
○幼稚園教育要領における領域「表現」のねらいと内容　○保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容　○保育内容「５領域」の考え方　○遊びの総合性　○領域「表現」と小学校教科との関係

【教科書ページ・参考文献】
造形表現の指導　Ｐ３～４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを図面に書く。はさみ、カッターナイフ持参
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第４回　ポップアップカードの技法　　基本テクニック練習（平行折り、中心線折り、階段、左右に動く仕組み、回転して動く仕組み、文字）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○飛び出す仕組みのあるカードの利用契機　（誕生日、母の日、敬老の日、ありがとう、魚図鑑、動物図鑑、花図鑑、お菓子の国、お伽噺の世界等）　○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　○アイデアスケッチ　○試作　　○図面書き
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：　菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己のカード作品の続きを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第５回　ボップアップカード製作（構想－試作－図面書き－カッティング－折る（筋引き）－組み立て）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　（アイデアスケッチ　試作　図面書き　カッティング　折る（筋引き）　組み立て）
【教科書ページ・参考文献】
菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　自己のカードを完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第６回　子どもと作るポップアップカード製作（季節のたより、メッセージカード、動きを伴うカード等）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　　○図面の見方　（切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ）　　○製作工程　（図面書き→切る→筋付け→折る→組み立て→貼る）　○アイディアスケッチ　○試作　○図面書き　　○製作
【教科書ページ・参考文献】
ｍａｉｍａｉ　「はじめてり手作りカード」　　日本ヴォーグ社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　完成しなかった作品は仕上げてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第７回　子どもの感性と表現「子どもの絵の見方、育て方」
【key words】
表現と表出、子どものリアリティー、リアリズム
【授業概要】
○表現と表出について　　○子どもと大人のリアリティーの違い、子どものリアリティー(感覚の総体としてのリアリズム)とは？　　○褒めるのではなく「認める」こと　　○子どもの感性と絵画表現(その子の表現をどう読み取るか)　　○幼児の絵の良い点を見つけ出して話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
鬼丸吉弘　「児童画のロゴス」　　勁草書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　本日の資料（幼児の絵）の中から特によいと思った作品を選び、感想を書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第８回　教材研究（素材遊び）　折り染め　　染めた紙で役に立つ小物づくり
【key words】
折り染め　　浸透性のある紙　　ジャバラ折り
【授業概要】
○折り染め製作　浸透性のある和紙（障子紙）に絵の具をつけると、色が広がって思いがけない模様ができる。　様々な紙の折り方（ジャバラ折り、四つ折り、二つ折り、ランダムに折る等）

を工夫。絵の具の色や濃さ、つける量を工夫する。　〇染まった紙で役立つ小物作りを考案・製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
染まった紙で生活に役立つ小物作りを考える。予習　面白く楽しいパクパク人形をつくるか考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第９回　教材研究　　紙コップでつくるパクパク人形
【key words】
紙コップのパクパク人形
【授業概要】
紙コップのパクパク人形の製作　　〇アイデアスケッチ。　〇紙工作のどのような技法を使うか考える。　〇紙コップを眞二つに切る。　〇頭部と身体部をつないで口がパクパク動く人形をつくる。　〇毛糸、色紙、色画用紙、和紙、フエルトペン、色鉛筆等を使って体や衣服をつくる。〇パクパク人形をつかった遊びを考える。
【教科書ページ・参考文献】
雑誌　「保育とカリキュラム」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品完成にむけて製作の続きをする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１０回　教材研究（素材遊び）　吹き散らしと流し絵
【key words】
吹き散らし　　流し絵
【授業概要】
〇吹き散らし製作　　画用紙に水で溶いた絵の具をたらし、それをストローで吹いて絵の具を散らして遊ぶ活動。　　絵具の濃さを工夫する。　〇口で吹く、ストローで吹く。　　〇流し絵製作　　画用紙にスポイドで絵の具を落とし、画用紙を上下、左右、円形等に動かすことにより、絵の具をたらして遊ぶ活動。
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ６０～６１　　参考文献　「絵画あそび技法百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　でき上がった作品からイメージをふくらませ加筆して絵にする構想を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１１回　指導の計画・方法・留意点（指導計画の基本、望ましい指導のあり方、）
【key words】
指導計画の弾力的な取り扱い、未分化、総合的な活動、成長段階に即応、安全性
【授業概要】
〇指導計画の必要性とその意義　　〇指導計画の基本　（幼児の実態把握、家庭の実態や要求、地域社会の実態や要求、幼稚園・保育所の環境状況）　〇指導の目標(活動のねらい)の設定　　〇指導の内容(活動の展開)の構成
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１０９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　質問事項をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　指導の過程（指導の段階）　　ａ事前の準備　ｂ動機づけ　ｃ展開　ｄまとめ
【key words】
指導の過程　　事前準備　　動機づけ、導入段階　　相互評価
【授業概要】
〇造形表現の指導の過程（指導の段階）・事前の準備　・動機づけ（導入段階）の方法　①話し合い　②参考作品を見せる　③視聴覚的な器材を利用する方法　④環境や雰囲気を整える　　・展開（表現活動の主要部分、自主的意欲的に製作する）・まとめ（作品完成後の相互評価、材料・用具の整理整頓の方法）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　質問事項をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　紙レリーフの表現技法練習　　（動物、人物、花、建物、英数文字、漢字・ひらがな文字等）
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
〇壁面装飾をする目的　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、装飾的なもの、ニュースや情報の伝達等）　　〇紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、髪の毛、帽子、服、建物、樹木、花）　〇試作　〇製作
【教科書ページ・参考文献】
七条けんじ　　「紙の芸術　ペーパーアート」　　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
どのような紙レリーフ作品をつくるかアイデアを練ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する（季節感、行事を豊かに、物語や空想の世界）　アイデアスケッチ－試作－製作
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞

【授業概要】
○アイデアを練る　保育室の壁面を紙レリーフで表現する。　（季節感、行事関係、物語や空想の世界）　○紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、帽子、服、髪の毛、建物、樹木、花等)　○製作　保育室の壁面を子どもたちが楽しめる紙レリーフで装飾する。
【教科書ページ・参考文献】
七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　試作－製作
【key words】
紙レリーフ　ペーパースカルプチャー　感性　鑑賞　造形的な環境
【授業概要】
○壁面装飾の内容　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、情報伝達、その他）
○製作　○相互鑑賞をする
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１６回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　製作－鑑賞
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○製作　主体を引きたてる付属品の製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作り完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１７回　園内作品展開催の意義　展示計画・設営　（教材展開催の展示の方法について）
【key words】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ
【授業概要】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ、準備
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０４～１０５、１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育教材展の構想・準備について構想を練ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをする）　指導案の書き方
【key words】
つくってみることによる教材研究
【授業概要】
○教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択、開発し、その教材つくりをする）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１２２，１１６、１０５、１０４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　教材作品を仕上げる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　教材研究と指導案作成　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
造形表現指導案、事前の準備、導入段階、動機づけ、参考作品、展開、まとめ
【授業概要】
○様々な子どもの実態や発達段階、環境等を配慮して、子どもが楽しめる創造的な造形活動を考える。(指導案作成)　○教材構想の視点(①はじめに子どもに経験させたいねらい・目標がある場合　②はじめに素材・材料がある場合　③素材を用いたり、場(環境)で経験、活動すること自体が目標の場合
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成の続きをする
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２０回　指導案作成（教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
指導案　つくってみることによる教材研究　子どものすがた　導入段階　展開　まとめの段階
【授業概要】
○指導案の作成　つくってみることによる教材研究が終わったら、指導案作成にうつる。
・教材名　・子どものすがた　・教材のねらい　・実習生のねらい　・準備
・導入段階　・展開　・まとめの段階（相互評価　）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習　指導案作成の続きをする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２１回　自然物を使って作る　（松ぼっくりのミニツリー）
【key words】
伝承的な草花遊び、笹の葉の小舟、椿の葉によるぞうり作り、草相撲、しろつめ草の首かざり
【授業概要】
○自然物(植物の花や葉や実、小石や貝殻)の色や形の美しさ、面白さ、不思議さに共感　○自然に親しむことの大切さ(自然の美しさ神秘さや自然特有の生命や時間－永遠－を伝えてくれる)
○草花を使った伝承遊びを伝える　○松ぼっくりの形の面白さ、不思議さ、美しさ　○松ぼっくりのミニクリスマスツリーを作る
【教科書ページ・参考文献】
「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬保育の準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２２回　模擬保育、造形表現研究会①　（デカルコマニー）
【key words】
デカルコマニー、あわせ絵、加筆、偶然にできる模様、イメージ
【授業概要】
○担当の学生による模擬保育「題材名　デカルコマニー」を行い、授業後反省会を行う。　○授業参観の着眼点(合わせ絵で偶然できる色々な形に興味を持って楽しく取り組めたか。できた形から何の形に見えるかイメージし、浮かんできたイメージを基に発想し、楽しく加筆できたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２３回　模擬保育、造形表現研究会②　（身につける飾り）
【key words】
装飾物　シンボルマーク　サイン　機能的な技法
【授業概要】
○模擬保育　「身につける飾り」　身近な材料を利用して身につけるための仕組みや機能的な技法を工夫して飾りを製作する。　○造形表現研究会　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ７０～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　模擬保育、造形表現研究会③　（はじき絵）
【key words】
はじき絵、パチック、クレヨン、パス、ろうそく
【授業概要】
○模擬保育　「はじき絵」　画用紙にクレヨン等で絵や模様を書き、水彩絵の具や墨などを適当な濃さに溶き、刷毛や太筆でさっと塗ると、絵や模様が絵や模様が絵の具をはじいて表れる。　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５８～５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　模擬保育、造形表現研究会④　（にじみ絵）
【key words】
画用紙のぬらし方、準備の仕方、加筆
【授業概要】
○模擬保育　「にじみ絵」　画用紙の表面を水でぬらし、水が乾かないうちに絵の具をたらしたり、筆で描いたりする。できあがって乾いたら、イメージをもとに加筆して絵に仕上げる。
○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２６回　模擬保育、造形表現研究会⑤　（型押し版画）
【key words】
スポンジ、ダンボール、野菜類、発砲スチロール、布、タオル、スタンプインク
【授業概要】
○模擬保育「型押し版画」　身の回りのものを版にして型押しをする。自由に型押しを楽しむ。意図的に絵を描く。意図的に模様をつくる。　準備の方法（スタンプインクの作り方、スポンジ、糸等版がでるもの）　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５４～５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２７回　　模擬保育、造形表現研究会⑥　　（コラージュ） 【key words】 コラージュ　　身の回りの紙　　絵肌　　グラビア 【授業概要】 ○模擬保育　「コラージュ」　　様々な基礎技法を用いて製作した多様な絵肌の紙や身の回りにある広告や雑誌のグラビアなどの紙をちぎったり切ったりして組み合わせ方を工夫して表現する。　　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２８回　　教材研究発表会①　　（教材名、本教材の目的・内容　　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２９回　　教材研究発表会②　　（教材名、本教材の目的・内容　　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　　造形表現のまとめ　　（幼児の造形活動の支援の方法） 【key words】 子どもが表現の主体性をもつ　　安全性　　環境(条件設定)　　成長段階に即応　　興味・関心・意欲 【授業概要】 幼児の造形表現の支援の方法　　○子どもが表現の主体性をもつ　○環境を充分に整える ○成長段階に即応すること　　○表現への興味・関心・意欲をもたせる　　○技術的なものにこだわらず、自然発生的に　　○安全に配慮 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　どのように造形表現の支援をすべきか感想を書く。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後当番制で机ふき、黒板拭き等の簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会に応じて復習テストを行う。 ○模擬保育を担当する学生は、相談の上、空き時間、放課後等に指導時間を数回設けて対応して指導する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分は対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び指導案、小規模課題等（５０％）
教科書	村内哲二編著　　「保育内容　造形表現の指導　〔第４版〕」　　建帛社
参考書	開　仁志編著　　「保育指導案　大百科事典」　　一藝社　　（２０１２）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	幼稚園に勤務し、教育課程の編成、指導方法の研究、造形教育の推進に携わった経験を活かし、実例を紹介して具体的に解説する。また、保育指導案の書き方についても実例をもとに行う。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　保育の表現技術Ⅱ（幼児美術指導法）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼児の造形活動の支援に必要な知識や技術を講義、教材作りや模擬保育を通して習得し、幼児が楽しめるような造形表　現活動を構想し、実践できる力を身につける。また、実技製作等を通して学生自身の造形表現能力を高めることを目的とする。 【到達目標】 ①幼児の造形表現指導に関する基本的な知識や技術が理解できる。 ②現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作りの体験を通して、教材の概要を把握し、教材開発に目を向けることができる。 ③造形表現の指導計画、指導案を立案し、模擬保育の実践を通し、子どもたちが楽しめるような創造的な造形活動が構想できるようになる。 ④保育室の造形的な環境づくりにも目を向け、子どもの豊かな感性を育てることに関心を持つことができるようになる。
授業の概要	１年時に既習の「保育の表現技術Ⅰ（図画工作）の基礎学習の上に、さらに専門性を高め、実践力を高める内容となっている。現場で用いる多様な教材や素材、用具に触れ、教材作り、教材研究を行う。また、模擬保育を通して指導案の作成方法、保育の展開方法を学ぶ。また、子どもたちの豊かな感性を高める方法の一つとして、保育室の紙レリーフの壁面装飾の様々な技法を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション　（授業概要の説明、　実技実習の準備等の確認） 【key words】 シラバス、幼稚園教育要領、保育所保育指針、造形表現の特質 【授業概要】 ○科目の位置づけと授業の概要説明　○受講のために準備するもの　○受講のルール 【教科書ページ・参考文献】 造形表現の指導　Ｐ１～４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分 第２回　表現の本質　表出と表現　領域「表現」のねらいと内容　造形表現の分類　造形表現の特質 【key words】 自然主義の教育観、表現と表出、未分化、ルソー 【授業概要】 ○幼児期と造形表現教育　（自然主義の教育観と表現の意味の発見）　○表現の分類　○表現と表出　○領域の総合化と造形表現　○造形表現の特質　○子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割 【教科書ページ・参考文献】

造形表現の指導　Ｐ１～１２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第３回　幼児期と造形表現　　造形表現の指導のねらい
【key words】
幼稚園教育要領、保育所保育指針、領域、ねらい、内容、遊びの総合性
【授業概要】
○幼稚園教育要領における領域「表現」のねらいと内容　○保育所保育指針における領域「表現」のねらいと内容　○保育内容「５領域」の考え方　○遊びの総合性　○領域「表現」と小学校教科との関係

【教科書ページ・参考文献】
造形表現の指導　Ｐ３～４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのようなポップアップカードを作りたいかアイデアを図面に書く。はさみ、カッターナイフ持参
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第４回　ポップアップカードの技法　　基本テクニック練習（平行折り、中心線折り、階段、左右に動く仕組み、回転して動く仕組み、文字）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○飛び出す仕組みのあるカードの利用契機　（誕生日、母の日、敬老の日、ありがとう、魚図鑑、動物図鑑、花図鑑、お菓子の国、お伽噺の世界等）　○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　○アイデアスケッチ　○試作　　○図面書き
【教科書ページ・参考文献】
参考文献：　菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己のカード作品の続きを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第５回　ボップアップカード製作（構想－試作－図面書き－カッティング－折る（筋引き）－組み立て）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　○図面の見方　○製作工程　（アイデアスケッチ　試作　図面書き　カッティング　折る（筋引き）　組み立て）
【教科書ページ・参考文献】
菊池　清　「ペーパークラフト紙ワザ工房」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　自己のカードを完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第６回　子どもと作るポップアップカード製作（季節のたより、メッセージカード、動きを伴うカード等）
【key words】
ポップアップカード、切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ位置、９０度展開、１８０度展開
【授業概要】
○基本の動く仕組み　　○図面の見方　（切り線、谷折り線、山折り線、貼り合わせ）　　○製作工程　（図面書き→切る→筋付け→折る→組み立て→貼る）　○アイディアスケッチ　○試作　○図面書き　　○製作
【教科書ページ・参考文献】
ｍａｉｍａｉ　「はじめてり手作りカード」　　日本ヴォーグ社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　完成しなかった作品は仕上げてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第７回　子どもの感性と表現「子どもの絵の見方、育て方」
【key words】
表現と表出、子どものリアリティー、リアリズム
【授業概要】
○表現と表出について　　○子どもと大人のリアリティーの違い、子どものリアリティー(感覚の総体としてのリアリズム)とは？　　○褒めるのではなく「認める」こと　　○子どもの感性と絵画表現(その子の表現をどう読み取るか)　　○幼児の絵の良い点を見つけ出して話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
鬼丸吉弘　「児童画のロゴス」　　勁草書房
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　本日の資料（幼児の絵）の中から特によいと思った作品を選び、感想を書く。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第８回　教材研究（素材遊び）　折り染め　　染めた紙で役に立つ小物づくり
【key words】
折り染め　　浸透性のある紙　　ジャバラ折り
【授業概要】
○織り染め製作　浸透性のある和紙（障子紙）に絵の具をつけると、色が広がって思いがけない模様ができる。　様々な紙の折り方（ジャバラ折り、四つ折り、二つ折り、ランダムに折る等）

を工夫。絵の具の色や濃さ、つける量を工夫する。　〇染まった紙で役立つ小物作りを考案・製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
染まった紙で生活に役立つ小物作りを考える。予習　面白く楽しいパクパク人形をつくるか考えてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第９回　教材研究　　紙コップでつくるパクパク人形
【key words】
紙コップのパクパク人形
【授業概要】
紙コップのパクパク人形の製作　　〇アイデアスケッチ。　〇紙工作のどのような技法を使うか考える。　〇紙コップを眞二つに切る。　〇頭部と身体部をつないで口がパクパク動く人形をつくる。　〇毛糸、色紙、色画用紙、和紙、フエルトペン、色鉛筆等を使って体や衣服をつくる。〇パクパク人形をつかった遊びを考える。
【教科書ページ・参考文献】
雑誌　「保育とカリキュラム」
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　作品完成にむけて製作の続きをする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１０回　教材研究（素材遊び）　吹き散らしと流し絵
【key words】
吹き散らし　　流し絵
【授業概要】
〇吹き散らし製作　　画用紙に水で溶いた絵の具をたらし、それをストローで吹いて絵の具を散らして遊ぶ活動。　　絵具の濃さを工夫する。　〇口で吹く、ストローで吹く。　　〇流し絵製作　　画用紙にスポイドで絵の具を落とし、画用紙を上下、左右、円形等に動かすことにより、絵の具をたらして遊ぶ活動。
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ６０～６１　　参考文献　「絵画あそび技法百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　でき上がった作品からイメージをふくらませ加筆して絵にする構想を考える。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１１回　指導の計画・方法・留意点（指導計画の基本、望ましい指導のあり方、）
【key words】
指導計画の弾力的な取り扱い、未分化、総合的な活動、成長段階に即応、安全性
【授業概要】
〇指導計画の必要性とその意義　　〇指導計画の基本　（幼児の実態把握、家庭の実態や要求、地域社会の実態や要求、幼稚園・保育所の環境状況）　〇指導の目標(活動のねらい)の設定　　〇指導の内容(活動の展開)の構成
【教科書ページ・参考文献】
教科書　村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１０９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　質問事項をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　指導の過程（指導の段階）　　ａ事前の準備　ｂ動機づけ　ｃ展開　ｄまとめ
【key words】
指導の過程　　事前準備　　動機づけ、導入段階　　相互評価
【授業概要】
〇造形表現の指導の過程（指導の段階）・事前の準備　・動機づけ（導入段階）の方法　①話し合い　②参考作品を見せる　③視聴覚的な器材を利用する方法　④環境や雰囲気を整える　　・展開（表現活動の主要部分、自主的意欲的に製作する）・まとめ（作品完成後の相互評価、材料・用具の整理整頓の方法）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　　質問事項をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　紙レリーフの表現技法練習　　（動物、人物、花、建物、英数文字、漢字・ひらがな文字等）
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
〇壁面装飾をする目的　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、装飾的なもの、ニュースや情報の伝達等）　　〇紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、髪の毛、帽子、服、建物、樹木、花）　〇試作　〇製作
【教科書ページ・参考文献】
七条けんじ　　「紙の芸術　ペーパーアート」　　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
どのような紙レリーフ作品をつくるかアイデアを練ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する（季節感、行事を豊かに、物語や空想の世界）　アイデアスケッチ－試作－製作
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞

【授業概要】
○アイデアを練る　保育室の壁面を紙レリーフで表現する。　（季節感、行事関係、物語や空想の世界）　○紙レリーフの様々な技法(顔、目、口、鼻、耳、体、帽子、服、髪の毛、建物、樹木、花等)　○製作　保育室の壁面を子どもたちが楽しめる紙レリーフで装飾する。
【教科書ページ・参考文献】
七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　試作－製作
【key words】
紙レリーフ　ペーパースカルプチャー　感性　鑑賞　造形的な環境
【授業概要】
○壁面装飾の内容　（行事を豊かに、季節感、イメージを豊かに、情報伝達、その他）
○製作　○相互鑑賞をする
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作る。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１６回　保育室の壁面を紙レリーフで表現する　製作－鑑賞
【key words】
ペーパースカルプチャー、レリーフ、造形的な環境、感性、鑑賞
【授業概要】
○製作　主体を引きたてる付属品の製作
【教科書ページ・参考文献】
参考文献　七条けんじ　「紙の芸術　ペーパーアート」　むさし書房版
【課題・予習・復習・授業準備指示】
紙レリーフ作品のつづきを作り完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１７回　園内作品展開催の意義　展示計画・設営　（教材展開催の展示の方法について）
【key words】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ
【授業概要】
保育教材展、搬入、搬出、ディスプレイ、準備
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０４～１０５、１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育教材展の構想・準備について構想を練ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをする）　指導案の書き方
【key words】
つくってみることによる教材研究
【授業概要】
○教材研究　（各自で幼児に魅力ある教材を選択、開発し、その教材つくりをする）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１２２，１１６、１０５、１０４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　教材作品を仕上げる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　教材研究と指導案作成　（各自で幼児に魅力ある教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
造形表現指導案、事前の準備、導入段階、動機づけ、参考作品、展開、まとめ
【授業概要】
○様々な子どもの実態や発達段階、環境等を配慮して、子どもが楽しめる創造的な造形活動を考える。(指導案作成)　○教材構想の視点(①はじめに子どもに経験させたいねらい・目標がある場合　②はじめに素材・材料がある場合　③素材を用いたり、場(環境)で経験、活動すること自体が目標の場合
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成の続きをする
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２０回　指導案作成（教材を選択・開発・選定し、教材作りをした後、指導案を作成する）
【key words】
指導案　つくってみることによる教材研究　子どものすがた　導入段階　展開　まとめの段階
【授業概要】
○指導案の作成　つくってみることによる教材研究が終わったら、指導案作成にうつる。
・教材名　・子どものすがた　・教材のねらい　・実習生のねらい　・準備
・導入段階　・展開　・まとめの段階（相互評価　）
【教科書ページ・参考文献】
村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習　指導案作成の続きをする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２１回　自然物を使って作る　（松ぼっくりのミニツリー）
【key words】
伝承的な草花遊び、笹の葉の小舟、椿の葉によるぞうり作り、草相撲、しろつめ草の首かざり
【授業概要】
○自然物(植物の花や葉や実、小石や貝殻)の色や形の美しさ、面白さ、不思議さに共感　○自然に親しむことの大切さ(自然の美しさ神秘さや自然特有の生命や時間－永遠－を伝えてくれる)
○草花を使った伝承遊びを伝える　○松ぼっくりの形の面白さ、不思議さ、美しさ　○松ぼっくりのミニクリスマスツリーを作る
【教科書ページ・参考文献】
「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに
【課題・予習・復習・授業準備指示】
模擬保育の準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２２回　模擬保育、造形表現研究会①　（デカルコマニー）
【key words】
デカルコマニー、あわせ絵、加筆、偶然にできる模様、イメージ
【授業概要】
○担当の学生による模擬保育「題材名　デカルコマニー」を行い、授業後反省会を行う。　○授業参観の着眼点(合わせ絵で偶然できる色々な形に興味を持って楽しく取り組めたか。できた形から何の形に見えるかイメージし、浮かんできたイメージを基に発想し、楽しく加筆できたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２３回　模擬保育、造形表現研究会②　（身につける飾り）
【key words】
装飾物　シンボルマーク　サイン　機能的な技法
【授業概要】
○模擬保育　「身につける飾り」　身近な材料を利用して身につけるための仕組みや機能的な技法を工夫して飾りを製作する。　○造形表現研究会　（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ７０～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　模擬保育、造形表現研究会③　（はじき絵）
【key words】
はじき絵、パチック、クレヨン、パス、ろうそく
【授業概要】
○模擬保育　「はじき絵」　画用紙にクレヨン等で絵や模様を書き、水彩絵の具や墨などを適当な濃さに溶き、刷毛や太筆でさっと塗ると、絵や模様が絵や模様が絵の具をはじいて表れる。　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５８～５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　模擬保育、造形表現研究会④　（にじみ絵）
【key words】
画用紙のぬらし方、準備の仕方、加筆
【授業概要】
○模擬保育　「にじみ絵」　画用紙の表面を水でぬらし、水が乾かないうちに絵の具をたらしたり、筆で描いたりする。できあがって乾いたら、イメージをもとに加筆して絵に仕上げる。
○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５０～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２６回　模擬保育、造形表現研究会⑤　（型押し版画）
【key words】
スポンジ、ダンボール、野菜類、発砲スチロール、布、タオル、スタンプインク
【授業概要】
○模擬保育「型押し版画」　身の回りのものを版にして型押しをする。自由に型押しを楽しむ。意図的に絵を描く。意図的に模様をつくる。　準備の方法（スタンプインクの作り方、スポンジ、糸等版がでるもの）　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　Ｐ５４～５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２７回　　模擬保育、造形表現研究会⑥　　（コラージュ） 【key words】 コラージュ　　身の回りの紙　　絵肌　　グラビア 【授業概要】 ○模擬保育　「コラージュ」　　様々な基礎技法を用いて製作した多様な絵肌の紙や身の回りにある広告や雑誌のグラビアなどの紙をちぎったり切ったりして組み合わせ方を工夫して表現する。　　○造形表現研究会（話し合いの視点）教材のねらいが達成できたか。子どもの思いがかなえられ、楽しめたか。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献　「絵画・製作・造形あそび指導百科」　ひかりのくに 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２８回　　教材研究発表会①　　（教材名、本教材の目的・内容　　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２９回　　教材研究発表会②　　（教材名、本教材の目的・内容　　導入段階、展開、まとめの段階の工夫、感想及び反省点等） 【key words】 教材研究、　つくってみることによる教材研究、　教材開発、　自己評価 【授業概要】 教材教育研究発表会　　学生が各自自分で見付けたり、考案した教材の作品及び指導案、自己評価表等を見せながら発表する。【発表項目】　⑦　教材の内容や作品について、自己評価した評価表をみせながら発表する。　⑧発表後学ぶべき良い点、課題について話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１０６～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　友人の発表から学ぶべきよい点や課題を資料にまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　　造形表現のまとめ　　（幼児の造形活動の支援の方法） 【key words】 子どもが表現の主体性をもつ　　安全性　　環境(条件設定)　　成長段階に即応　　興味・関心・意欲 【授業概要】 幼児の造形表現の支援の方法　　○子どもが表現の主体性をもつ　○環境を充分に整える ○成長段階に即応すること　　○表現への興味・関心・意欲をもたせる　　○技術的なものにこだわらず、自然発生的に　　○安全に配慮 【教科書ページ・参考文献】 村内哲二　「造形表現の指導」　Ｐ１１０～１１６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　どのように造形表現の支援をすべきか感想を書く。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服・体育着等で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後当番制で机ふき、黒板拭き等の簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業に使用する授業資料を事前に配布し、目を通すように指示する。機会に応じて復習テストを行う。 ○模擬保育を担当する学生は、相談の上、空き時間、放課後等に指導時間を数回設けて対応して指導する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分は対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、教材製作作品及び指導案、小規模課題等（５０％）
教科書	村内哲二編著　　「保育内容　造形表現の指導　〔第４版〕」　　建帛社
参考書	開　仁志編著　　「保育指導案　大百科事典」　　一藝社　　（２０１２）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）　　授業コード：S4251　S4252　S4253

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　音楽表現の様々な活動内容を理解し、乳幼児の年令等をふまえた音楽表現指導をするための知識や技能を習得する。 【到達目標】 　「表現」の構造から学び、乳幼児の発達とそれに伴う音楽表現についての認識・理解を深め、表現技術Ⅰで習得した技術を十分生かしながら、歌・手遊び・表現遊び・合奏など、様々な実践的音楽活動を通して、学生自身の感受性、表現力を向上させ乳幼児が楽しんで音楽にかかわり、自由な音楽表現が育つよう、発達段階に即した音楽指導を習得する。
授業の概要	①保育の音楽表現におけるいくつかの活動が単体での活動ではなく、発達段階を考慮しながら園での生活の中に総合的に取り入れられていることを理解し、活動の指導法や留意点を習得する。 ②保育の様々な場面で展開される音楽活動の基礎となる歌唱や弾き歌いなどに対し、幼児の感性や表現力を養い、表現活動を活発にするための指導法やコードネームによる伴奏付けを習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	前期オリエンテーション 【key words】 シラバス 【授業概要】 ・シラバスの確認と授業計画について ・授業の概要と進め方について 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 英音名の確認をしておくように 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	コードネーム①音程と三和音の関係・基礎コードについて 【key words】 音階上の三和音 【授業概要】 ・コードネームと和音記号について ・コードネームの表記のしかたについて ・コードネーム一覧表配布 【教科書ページ・参考文献】 P71～72 【課題・予習・復習・授業準備指示】 コードネームのプリントの復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第３回	コードネーム②メジャーコードとマイナーコード 【key words】 長三和音、短三和音 【授業概要】 ・長三和音とメジャーコードの関係について ・短三和音とマイナーコードの関係について 【教科書ページ・参考文献】 P72 【課題・予習・復習・授業準備指示】 各調における音階上の和音を分類する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	コードネーム③セブンスコードとその他のコード 【key words】 属七の和音、副三和音 【授業概要】 主要三和音と副三和音について Ｖ7、属七の和音の構成音とコードネームについて 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（副三和音のコード） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 属七和音の構成音を覚える 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	ハ長調、ヘ長調、ト長調における和音進行とコードの関係について 【key words】 和音行進、カデンツ、主要三和音 【授業概要】 ・各調におけるⅠ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅴ7の和音進行について ・各調における主要三和音のコードネームについて 【教科書ページ・参考文献】 P46～49 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	和音の転回形による和音進行 【key words】 和音の回転（第1、第2、第3） 【授業概要】 ・和音の基本型から転回形への変化について ・伴奏における転回形の使い方 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（転回形） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	各調（ハ調、ヘ調、ト調）におけるコードネームによる童謡の伴奏付け 【key words】 スリーコード 【授業概要】 ・各調におけるスリーコードについて ・主要三和音とスリーコードの関係について ・スルーコードによる伴奏付けについて 【教科書ページ・参考文献】 コード一覧表 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	コードネームによる即興的な伴奏法と伴奏形の変化（分散和音等）について 【key words】 スリーコード、分散和音 【授業概要】 ・各調におけるスリーコードでの伴奏付けと伴奏の変化について 【教科書ページ・参考文献】 P47 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	弾き歌いにおける前奏、後奏、アインザッツの入れ方について 【key words】 前奏、アインザッツ 【授業概要】 ・弾き歌いや曲の伴奏をする時の前奏、後奏のつくり方について ・伴奏時のアインザッツの入れ方について 【教科書ページ・参考文献】 P69～70 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		弾き歌い時のアインザッツの入れ方の練習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	「手遊び」「指遊び」の指導について。年齢別遊び方の留意点について 【key words】 手遊び、わらべうた 【授業概要】 ・手遊びの種類の実例 ・年令別による手遊びの指導の留意点 【教科書ページ・参考文献】 P93～96 【課題・予習・復習・授業準備指示】 わらべうたの手遊び練習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	グループ別による「手遊び」「指遊び」の指導練習 【key words】 手遊び、指遊び 【授業概要】 ・実演に向けてのグループ分け ・伴奏者と指導者の2人による手遊びの実演練習 ・手遊びの曲目の配布プリント使用 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 2人で実演に向けての練習をしておく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	グループ別による「手遊び」「指遊び」の実演発表 【key words】 手遊び発表 【授業概要】 ・実演発表 ・感想等を発表する。意見交換等 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実演に向けて練習しておく（次回発表者） 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	グループ別による「手遊び」「指遊び」の実演発表 【key words】 手遊び発表 【授業概要】 ・実演発表 ・感想、意見交換等 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	伴奏付けの和音及びコードの選択について 【key words】 和声音、非和声音 【授業概要】 ・和音やコードネームの記載のない曲への伴奏付けについて ・メロディーの考慮と非和声音について 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 非和声音の種類の確認 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	前期のまとめ復習 【key words】 まとめ 【授業概要】 前期内容のまとめと復習 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前期試験範囲の確認と復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１６回	後期オリエンテーション 【key words】 授業内容 【授業概要】 後期授業の進め方の確認 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　移調①指定された調への旋律の移調
【key words】
移調、転調、近親調
【授業概要】
・移調の必要性について
・移調の方法について
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各調の主音を確認しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第１８回　移調②コードの移調　移調に伴うコードの変化について
【key words】
音程、調、コード
【授業概要】
・音程の移動による移調について
・調の変換による移調について
・コードネームの移調について
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
「度」につおて、音程について確認しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第１９回　移調③幼児の声域内への移調（３才、４才、５才）
【key words】
声域、移調
【授業概要】
・声域に合わせた移調の必要性について
・幼児の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
声域についてどんなことか調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２０回　保育の音楽表現における年令別の特徴について
【key words】
乳幼児の表現、幼児の表現
【授業概要】
・年令別による、音楽表現の特徴と指導上の留意点について
【教科書ページ・参考文献】
P21～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P17を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２１回　音楽表現の5つの活動について
【key words】
「歌う」「ひく」「動く」「聴く」「つくる」
【授業概要】
5つの活動内容について、年令を考慮した指導法と留意点について
【教科書ページ・参考文献】
P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P74～82を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２２回　「歌う」活動について　年令別による教材選びや指導法
【key words】
声域、行事、季節
【授業概要】
・「歌う」活動の年令別特徴について
・年令、行事、季節に応じた選曲について
【教科書ページ・参考文献】
P74～82
【課題・予習・復習・授業準備指示】
P109～113を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２３回　「ひく」活動について　年令別による指導法と留意点について
【key words】
楽器遊び、言葉のリズム遊び
【授業概要】
・音楽遊びの意義と多様性について
・色々なリズム遊びについて
【教科書ページ・参考文献】
P109～113

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト　P115～116を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　手作り楽器について　意義と作成時の留意点について
【key words】
身の回りにある物
【授業概要】
・手作り楽器の意義について
・音の出る仕組みについて
【教科書ページ・参考文献】
P115～116
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストP97～106まで読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　楽器の種類（無音程打楽器・有音程打楽器）と扱い方と奏法について
【key words】
有音程打楽器、無音程打楽器
【授業概要】
・打楽器の種類の名前と奏法について
・指導上の留意点について
【教科書ページ・参考文献】
P97～106
【課題・予習・復習・授業準備指示】
楽器の名前を覚える
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　合奏（グループ別による曲目選択と分担楽器の練習）
【key words】
合奏

【授業概要】
・7～8人のグループによる合奏練習
・曲目の選択、楽器分担
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の分担楽器のパート練習
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　合奏（グループ別演奏発表）
【key words】
合奏発表
【授業概要】
グループによる合奏発表演奏
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　「聴く」「つくる」活動の年令別指導法と留意点について
【key words】
音遊び、模倣・創造性
【授業概要】
・「聴く」活動によってはぐくまれるもの
・感性の発達について
【教科書ページ・参考文献】
P39～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキスト　P54～60を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２９回　「動く」活動の年令別指導法について（リズム遊び、歌遊び等）
【key words】
身体表現活動、リズム運動
【授業概要】
・音楽に合わせて体を動かす身体表現活動の指導上の留意点について
・乳幼児の表現活動について
【教科書ページ・参考文献】
P54～60
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３０回　後期のまとめ、復習
【key words】
まとめ
【授業概要】
後期授業の内容確認と復習
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

	期末試験に向けての内容復習 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	五線紙を準備すること。予習・復習を行い授業の理解度を高めるようにする。 スマートフォンの電源は切っておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業内に配布されるプリント等は、きちんと整理しておく。 講義内容を復習をし、疑問点等は次回の授業で質問するように。 実技等においては、日ごろから演奏練習をしておくように。
オフィスアワー	授業時に指示する
評価方法	授業内課題（30%）　実技試験（70%）
教科書	新刊　表現者を育てるための保育内容「音楽表現」　教育情報出版
参考書	-
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）　　授業コード：S4251　S4252　S4253

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	子ども専攻・必修
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法A）にて修得した表現能力を基礎として、表現活動指導についてより深く理解し実践できるよう、知識や技術を習得することを目的とする。 【到達目標】 　ピアノ伴奏法や歌唱法等の具体的な表現方法の基本技術を基に、弾き歌いの移調奏を理解し発表や指導ができる。子どもの発達に即した表現活動指導ができる。保育現場においての表現活動について総合的にとらえ、音楽表現について理解し、実践できる。
授業の概要	５名前後のグループに分かれ、保育現場にてすみやかに活用できるレパートリーを増やせるように各学生の進度に合わせて個人レッスンを行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 クラス分け・今年度の到達目標の説明（課題曲数や学生の進度に合わせた課題の達成を目指す） 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示（全体としての準備：コード奏について） 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法 【key words】 カデンツ　　アレンジ　　移調　　コード奏 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジの説明後に演奏） 　マーチ曲（移調・記譜の説明後演奏） 　コード奏（ハ長調で説明し、♯・♭１つ付いた調に挑戦するor演奏 ） 【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示（全体としての準備：カデンツ・①左手による3和音・②両手によるカデンツの練習） 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第３回	学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法

【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：使用教本からハ長調の曲を選び、その曲を2度上のニ長調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての準備・カデンツ・コード奏
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての準備・カデンツ・コード奏
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第５回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての準備・カデンツ・コード奏
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第６回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第７回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子

【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
　マーチ：原曲に近い調への移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　移調：テキストから選曲し、上下2度の調に移調する

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１１回　学生それぞれの進度に応じたレッスン(弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・マーチ・移調・記譜

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）マーチ・移調・記譜
　試験曲選曲：（マーチ原曲＋移調１調とそのカデンツ）（前期に修了した弾き歌い1曲1コーラス）を申告し、当日指定された1曲を暗譜で演奏する。1,2年で履修した曲は不可。

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・カデンツ・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：試験曲決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜
　課題曲数のクリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子

【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１３回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
　課題曲数のクリアに向けて

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験に向けて：人前での演奏
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
　課題曲数のクリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験課題に向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）
　マーチ・移調・記譜・試験曲仕上げ
　課題曲数のクリア

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００・マーチ5曲補助教材・移調小冊子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲仕上げ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１６回　科目（後期）オリエンテーション
【key words】
後期授業概要
【授業概要】
学生それぞれの進度に応じたレッスン
（ピアノの森以降のレベルのピアノ曲1曲＋弾き歌い4曲、そのうち2曲とそのカデンツを2つの調に移調し移調譜を提出）
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：各自、実力に応じた選曲
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１７回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・コード奏）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】

ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２０回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２１回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・伴奏アレンジ）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２２回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２３回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２４回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調

【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２５回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　移調：子供の声域に合わせた移調
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：全体としての練習・移調・コード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２６回　学生それぞれの進度に応じたレッスン（弾き歌い・移調・ピアノ曲等）：ピアノ演奏法
【key words】
ピアノ曲・弾き歌い・移調・記譜

【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　試験課題選曲（弾き歌い2曲４調とそのカデンツを申告し、任意の1曲を記譜し提出。当日1曲1調とそのカデンツを暗譜。）
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の準備
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２７回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて
【key words】
後期試験に向けて：試験曲決定
【授業概要】
　ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　課題曲クリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２８回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて
【key words】
後期試験に向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　試験曲仕上げ
　課題曲クリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２９回　学生それぞれの進度に応じたレッスン：後期試験にむけて
【key words】
後期試験に向けて：人前での演奏
【授業概要】
　ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　試験曲仕上げ
　課題曲クリアに向けて
【教科書ページ・参考文献】
ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
後期試験に向けて：リハーサル
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（カデンツ・コード奏・伴奏アレンジ）・移調・記譜
　試験曲仕上げ
　課題曲クリア

	【教科書ページ・参考文献】 ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲仕上げ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。表現技術について独自で考え、創作やアレンジを行うこと。配布した楽譜等はきちんと整理し、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕 実践を通して多くの技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。スマートフォンは電源を切り、しまっておくこと。飲食物持ち込み禁止。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現活動指導技術向上のため計画的に練習すること。音楽・音・歌詞の意味や教育効果等について考え、表現についての知識・技術を幅広く高めておくこと。音の扱いについて常に留意すること。知識を高め、それをどのように活かすかについて深く研究すること。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験70%・授業内評価30%
教科書	①ブルクミュラー『25の練習曲』全音楽譜出版社　②小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社　③小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社
参考書	①田丸信明編『新訂ピアノの森２』GAKKEN　②田丸信明編『新訂ピアノの森３』GAKKEN　③『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　④『ソナタアルバム』全音楽譜出版社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 乳児保育Ⅰ（演習）　　授業コード：S4272

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育所で行われている乳児保育の実際を知り、保育士として必要な乳児保育（3歳未満児の保育）の知識を獲得することを目的とします。また、乳児期の発達を理解すると同時に、現代の乳児保育を取り巻くさまざまな問題を分析し、その解決、援助となる具体的な方法を身につけることを学んでいきます。 【到達目標】 ①乳児期の発達の特性と発達過程を理解する。 ②乳児保育における基本的な援助やかかわりについて知る。 ③保育所保育における乳児保育の現状と課題について理解する。
授業の概要	乳児期の発達についての理解を深めるとともに、乳児保育の意義や乳児を取り巻く現状について知り、乳児保育を行う際に求められる知識や技術について学習していきます。また保育所保育における乳児保育の現状と課題について理解し、基本的な援助やかかわりについて学んでいきます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　「乳児」とは？グループワーク 【key words】 乳児保育の定義 【授業概要】 ・乳児保育の意義と目的、歴史的変遷について学ぶ。 ・乳児保育の役割と機能について理解する。 ・養護と教育の理解を深め、乳児期にいける養護および教育の一体性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 テキストp4～18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 乳児の定義を自分の言葉で説明できるようにまとめておく。 ワークシートの見直しとテキストを読み返し、重要なポイントにラインをひいておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 【key words】 社会的状況 【授業概要】

・子育て世代を取り巻く社会的状況を考え、「大人の生活変容と子育ての困難さ」や「家庭や地域における子　育て機能の低下」についての課題を明確化する。
・乳児保育の重要性と保育所の子育て支援について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp20～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートのふり返りと、グループワークで出た意見をまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　保育所における乳児保育
【key words】
3歳未満児の低年齢児

【授業概要】
・保育所における現状と課題についての理解を深める。
・「増加する3歳未満児保育の現状」について意見交換を行う。
・妊娠、出産、育児を行うの母親の心理について考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp32～40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
グループワークで話し合ったことをまとめておく
自分が誕生した時の経緯等を家の人に聞き、ノートに書いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育
【key words】
乳児院

乳児院の役割

【授業概要】
・児童福祉施設と乳児保育の関連を理解する。
・乳児院について（乳児院の生活と役割と理念）学ぶ。
・乳児院の現状と課題、社会的養護の方向性と乳児院について考え、理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp44～56
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の地域にはどのような児童福祉施設があるか調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　家庭的保育・小規模保育等における乳児保育
【key words】
家庭的保育・小規模保育

【授業概要】
・家庭的保育・小規模保育の位置づけと、それぞれの課題と展望について学ぶ。
・その他の地域型給付の保育についても学ぶ。
・家庭的保育・小規模保育・その他の地域型給付の保育についてそれぞれ調べ、3～4人のグループで説明し合　う。
・家庭的保育・小規模保育における乳児保育の実際のデイリープログラムの一例をみる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp58～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
家庭的保育・小規模保育・その他の地域型給付の保育についてまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第６回　3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場
【key words】
子育て支援の現状

【授業概要】
・求められる乳児保育の在り方について考える。
・子ども理解だけでなく、保護者理解の見識も持てるよう学ぶ。
・子育て支援施設や保育所などの「子育て支援」の実際について解説する。

・どのような子育て支援が必要か自分なりの考えを話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp70～80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「子育て支援」について新聞でピックアップされた記事を見つけておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　3歳未満児の生活と環境
【key words】
生活と環境

【アクティブラーニングについて】
保育環境を自分で考え、意見交換しながらグループで乳児保育室の間取り見取り図を描き上げてみる
【授業概要】
・乳児保育における生活の場としての環境の整え方を学ぶ。
・生活の場としての環境の整え方を学ぶ。
・乳児保育室の環境に関する研究に触れる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp82～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「人的環境」と「物的環境」をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第８回　3歳未満児の遊びと環境
【key words】
環境を通して行う保育

【授業概要】
・0歳児の発達や運動機能について理解する。
・0歳児の遊び環境の整え方と、0歳児の遊び環境の安全配慮について考える。
・1歳以上3歳未満児の遊び（学び）環境の整え方について意見交換を行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp92～102
【課題・予習・復習・授業準備指示】
0歳児の運動機能の発達段階を復習しておく
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　3歳以上児に移行する期間の保育
【key words】
保育の移行

【授業概要】
・乳児保育の前提を確認する。
・0歳児から1歳児の移行の検討と展開、1歳児から2歳児の検討とこの時期の養護と教育、2歳児から3歳児の　移行　の検討、3歳以上児の保育へ移行する時期の保育の配慮について学ぶ。
・0歳児から1歳、1歳児から2歳児、２歳児から３歳児、３歳以上児の保育へ移行するときの配慮点をグループ　で話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp106～115
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習をしておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり
【key words】
３歳未満児の発達の様相と援助のポイント

【授業概要】
・保育所保育指針改定にみる保育の特性と援助の実際について理解する。
・０歳児・１歳以上３歳未満児の発達過程と保育者のかかわり（援助）、保育の配慮事項について学ぶ。
・一人ひとりの発達や家庭の状況など、個人差や月齢差に対応した援助やかかわりについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp120～130
保育所保育指針
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　3歳未満児の発育・発達をふまｗた保育における配慮
【key words】
３歳未満児の発育・発達

【授業概要】
・保育全般にかかわる配慮事項と、３歳未満児に共通する配慮事項について説明する。
・「児童状況票」と「個人面談」について学び、健康状態の早期発見のポイントや、保育中の安全管理につい　て学ぶ。
・チャイルドビジョン（幼児視覚体験メガネ）を装着し、幼児の視野で見る経験をする。
・言語習得と音環境について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp132～140
【課題・予習・復習・授業準備指示】

チャイルドビジョンを装着して感じたことをまとめておく

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　保育の計画・記録・評価とその意義
【key words】
保育の実践と計画

【授業概要】
・実践の記録から評価の仕方について説明し、記録の取り方のポイントを学ぶ。その記録から保育の質の向上の　ための方法を考える。
・保育計画の概要を学び、指導計画から実践記録、評価までの流れを事例などとともに理解する。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp144～152
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、テキストのポイント部分にラインを引いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　職員間の連携・協働
【key words】
チームですすめる保育

【授業概要】
・子どもにとっての保育者の役割と、保護者にとっての保育者の役割について理解を深める。
・子どもや保護者、職員との信頼構築のための学びをする。
・事例からみる支援の実際について意見交換しながら、支援の手立ての探り方を学ぶ。
・事例を参考に子育て支援のあり方や、実際の支援についての手立てを考え、グループで討議する。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp154～164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　保護者との連携・協働
【key words】
子育て支援の必要性

【授業概要】
・保護者に対する相談助言の原則について学ぶ。
・「保育の専門性」を活かした保護者支援の方法を学ぶ。
・外国籍家庭への支援について考えを深める。
・事例を通じてみる保護者との連携・協働について考える。
・事例から保護者との連携方法についての意見交換を行う

【教科書ページ・参考文献】
テキストp166～176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートの振り返りをし、復習しておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　自治体や地域の関係機関等との連携・協働
【key words】

保育所と地域の社会資源

【授業概要】
・保育所における関係機関との連携について理解する。
・児童虐待防止対策の強化について理解を深める。
・虐待の事例をあげ、どのような手立てを組み、どこから連携していくのかシュミレーションしたことを話し　合い、意見交換を行う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp178～188
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育所における関係機関との連携（テキストｐ178図表15-1）を覚えられるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１６回　乳児保育の基本
【key words】
子どもと保育者の関係

【授業概要】
・乳児（０歳）と１歳以上３歳未満児の保育内容について説明する。
・演習1「応答的なかかわりと言葉の育ち」にはどんな関係があるか考えてみる。
・演習2「物」をめぐって他者との関係性がどのように発達していくか考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp192～198
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１７回　子どもの生活の流れ（0歳児クラス）
【key words】
０歳児のデイリープログラム

【授業概要】

・乳児のデイリープログラムの特徴について学ぶ。
・演習1「流れる日課」を行うためには、どのような保育者の配慮や作業が必要なのか考えてみる。
・演習２「育児担当制」を実施する場合の利点と弱点について話し合う。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp202～210
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１８回　子どもの保育環境（0歳児）
【key words】
家庭的な環境

【授業概要】
・保育所保育指針からみる保育環境について説明する。
・演習1「家庭的な雰囲気」にするために、どのような工夫が出来るか考えてみる。
・演習2玩具を使った遊びが発達課題にどのように関連するのか考えてみる。

【教科書ページ・参考文献】

テキストp212～220
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１９回　子どもの援助の実際（0歳児クラス）
【key words】
生活と遊びの援助

【授業概要】
・「保育のねらい」と保育者の配慮を学ぶ。また、乳児の主体性を考える。
・演習1「0歳児クラス」の食事場面をイメージして、どのような「ねらい」と「内容」「配慮事項」が考えら　れるか書いてみる。
・演習2①食事場面の環境設定　②オムツ交換の環境構成（交換台、マット等のメリット、デメリット、注意点　など）を考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp222～230
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２０回　子どもの生活の流れ（1歳児クラス）
【key words】
生活リズムの情報共有

【授業概要】
・デイリープログラムからみる1歳児クラスの生活の流れについて説明する。
・演習「朝の視診」について考えてみる。
・トイレトレーニングにおける家庭との連携を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp232～239
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
次週、製作が出来る用具等を準備しておく

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２１回　子どもの保育環境
【key words】
環境の整備

【授業概要】
・この時期の子どもの「ミンナノモノ」と「ジブンノモノ」のとらえ方を学ぶ。
・演習1　子どもの目の高さで地域を歩いてみる。
・演習2　手作りのおもちゃを作ってみる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp242～250
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２２回　子どもの援助の実際（1歳児クラス）
【key words】
生活と遊びの援助

【授業概要】
・「かみつき」についての留意点、配慮点、対応策などの説明をする。
・演習1　排泄の自立について保護者はどのように考えているか調べてみる。
・着脱の動作を分割してとらえ、どのような援助が必要なのかを考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp252～258
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「かみつき」のついてまとめておく
着脱の動作分割の図を作る

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　子どもの生活の流れ（2歳児クラス）
【key words】
2歳児のデイリープログラム

【授業概要】
・2歳8か月の事例から、一人ひとりの内面の思いを受け止める保育者のかかわりについて考える。
・子どもの生活場面について、自立をうながす保育者のかかわりを考える。
・演習1　事例から一人ひとりの内面の思いを受け止める保育者のかかわりについて考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストｐ262~270
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２４回　子どもの保育環境（2歳児クラス）
【key words】
見立て遊び

【授業概要】
・玩具のそろえ方のポイントと手指の発達をうながすあそびについて説明する。
・演習1　2歳児の発達に適した人形はどのようなものがあるか考える。
・演習2　子どもが探索行動を通して、遊びこむことのできる安全で活動しやすい環境を考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp272～278
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２５回　子どもの援助の実際（2歳児クラス）
【key words】
2歳児の育みたい資質と能力

【授業概要】
・演習1　2歳児の発達をうながす遊びを考える。
・演習2　自分で排泄をしようとするための適切な援助を考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp282～288
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２６回　子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
【key words】
危機管理

【授業概要】
・子どもの死亡および事故の現状と課題について説明する。
・睡眠中の事故予防について学ぶ。（乳幼児突然死症候群と睡眠時チェック表）
・演習1　乳幼児の発達と、発達段階によって起きそうな事故を予測してみる。
・演習2　乳幼児の愛着形成を考慮した保育者のかかわりを考える。
【教科書ページ・参考文献】
テキストｐ292~300
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２７回　集団での生活における配慮
【key words】
家庭との連携の手段

【授業概要】
・集団保育と個々への援助について説明する。
・演習1　保護者との連携について考えてみる。
・保育者同士、他職種との連携を考えてみる。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp302～309
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２８回　環境の変化や移行に対する配慮
【key words】
移行とはなにか

【授業概要】
・演習1　子どもがスムーズに移行するためになにをしたらよいのか考えてみる。
・演習2　年度途中に行う園内での移行における対応を考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp312～324
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２９回　長期的な指導計画と短期的な指導計画
【key words】
保育の振り返り

【授業概要】
・演習1　なぜ指導計画が必要か考えてみる。
・演習2　次の計画や実践に活かせる記録の書き方を考えてみる。
【教科書ページ・参考文献】
テキストp326～336
【課題・予習・復習・授業準備指示】
演習1.2で話し合ったことをまとめておく
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３０回　個別的な指導計画と集団の指導計画
【key words】
個と集団

【授業概要】
・演習1　個別の計画作成にあたり、月齢差による発達の違いについて考える。
・演習2　個別の計画作成にあたり、個人差について考える。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp338～346

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習1.2で話し合ったことをまとめておく 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	○保育士資格取得の学生はすべての講義に出席すること。欠席の場合はレポートを提出すること。 ○関係書類等の提出期限は必ず守ること。 ○欠席・遅刻は原則として認めない。やむを得ず欠席・遅刻をするときは、必ず事務局を通じて連絡すること。 ○授業中の私語等、受講態度が悪く、他の学生に著しく迷惑を及ぼす場合は退室を命じることがある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	保育・子育て支援に関するニュース・新聞記事等に関心を持ち収集しておくこと。 地域の子育て支援イベントなどのボランティア活動に積極的に参加すること。
オフィスアワー	月曜 10:30～12:30　それ以外の時間帯についてはアポイントを取って頂きたい。
評価方法	講義内でのレポート・小テスト（３０％）提出物（１０％）定期試験（６０％）
教科書	乳児保育　基本保育シリーズ⑯　寺田清美 大方美香 塩谷香 編集　　中央法規出版
参考書	保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・保育所等での実践、病児保育施設での経験を活かし、乳児における基本的な留意事項から、健やかな成長のために保育者が配慮していくことなどを講じます。また、実際の乳児と触れ合う経験を取り入れ、乳児とのかかわりを肌で感じる実技演習も行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ（保育所）　　授業コード：S4416　S4417

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	1単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中　輝幸・吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習（保育所）における実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。 【到達目標】 ①保育実習の意義・目的を理解する。 ②実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ③実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 ④実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ⑤実習の事後指導を通じて、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
授業の概要	本講義は保育実習Ⅰ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。事後指導として実習の総括・自己評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 保育実習Ⅰ（保育所）、認可保育所、保育所保育指針 【授業概要】 保育実習Ⅰ（保育所）の流れについて理解する。 実習希望地域ごとに実習先の調整を行なう。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP11～13、教科書P6～7、配布プリント（実習園調査書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習希望先の情報等を各自調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第２回　保育実習の流れ、依頼の仕方 【key words】 観察実習・参加実習、実習依頼、内諾 【授業概要】 実習全体の流れを知る。実習依頼の流れを知り、地域ごとに実習先の調整を行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP15～17、配布プリント（実習園調査書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習園の調整を行うので、実習希望先の情報等を各自調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第３回　保育実習の具体的内容と実習計画

【key words】
見学・観察・参加実習、部分実習
【授業概要】
観察実習のポイントを確認し、参加～部分実習の内容を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P12～13
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P12～13を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第４回　実習施設の理解①実習園を知る
【key words】
保育方針・保育形態、デイリープログラム
【授業概要】
実習を行うにあたり、園ごとに保育方針・保育形態等が異なることを知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P7～9
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P7～9を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第５回　実習施設の理解②デイリープログラム
【key words】
設定保育、自由保育、登園、降園
【授業概要】
園ごとのデイリープログラムを比較し、保育の流れを確認していく。
実習先依頼に関して再度、地域ごとに調整を行う。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P24～25、配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P24～25及び配布プリントを読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第６回　保育実技①集団遊び・リズム体操
【key words】
リズム体操・組遊び・集団遊び
【授業概要】
実習で役立つリズム体操・組遊び・集団遊びについて実践する。
遊びを体験すると同時に、遊びの展開（流れ）についても知る。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育実技を行うので動きやすい服装で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第７回　保育実技②新聞紙遊び等
【key words】
遊びの流れ・指導案
【授業概要】
身近な素材（新聞紙）を使い、各年齢ごとの遊びの流れを知る。
また、天候によっても指導案を変える等の配慮も学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
保育実技を行うので動きやすい服装で参加すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第８回　観察実習のポイント
【key words】
見学・観察・参加実習
【授業概要】
保育実習Ⅰ（保育所）の流れを確認し、見学～観察実習のポイントを確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P12～13 配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P12～13を読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第９回　実習課題の明確化
【key words】
実習課題・実習目標、実習の目的
【授業概要】
保育実習Ⅰ（保育所）での実習課題を、各自、実習へのガイドブックや配布プリントをもとに作成する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P8、実習へのガイドブックP11～13、P67、配布プリント（実習の目的）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P8、実習へのガイドブックP11～13、P67を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１０回　個人調書と自己紹介
【key words】

個人調書（自己紹介票）自己紹介
【授業概要】
個人調書（自己紹介票）の記入の仕方について理解する。
実習中の自己紹介の仕方についても実例をあげて学びます。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP31、配布プリント

【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリントを読んでくること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１１回　実習の心構えと理解①守秘義務・個人情報等
【key words】
守秘義務・個人情報
【授業概要】
保育実習を行うのにあたり、日誌や記録の取り扱いなど
実習中～実習後にかけての注意事項を知る。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP26～29、配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へのガイドブックP26～29を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１２回　実習の心構えと理解②実習生としての心構え
【key words】
専門職、資格取得、職業倫理
【授業概要】
実習を行うのにあたり、基本的な心構えを確認し、専門職として必要な
事項を確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP26～29、P44、配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へのガイドブックP26～29、P44を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１３回　保育実技③絵本読み聞かせについて
【key words】
導入の手遊び、対象年齢
【授業概要】
グループに分かれて、絵本の読み聞かせを行う。対象年齢に合わせ
導入の手遊びも行う。読み聞かせを見た感想をまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリントに各自記入。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象年齢に合わせた手遊びと絵本の読み聞かせの準備を進めておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１４回　保育実技④自己紹介について
【key words】
視覚的教材　自己紹介
【授業概要】
実習中に行う自己紹介について様々な方法を知り
各自、自己紹介製作の準備を進める。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習中の自己紹介について各自調べておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１５回　前期まとめ
【key words】
観察・参加実習、部分実習、視覚的教材。
【授業概要】
前期に行った保育実習指導Ⅰ(保育所)の内容のまとめを行う。
夏期休暇中の課題についても確認し、各自、準備を進める。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント（夏期休暇中の課題について）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリントを読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１６回　後期オリエンテーション
【key words】
保育実習Ⅰ（保育所）、責任実習、指導案
【授業概要】
保育実習Ⅰ（保育所）の流れについて確認する。
保育実技④自己紹介準備を各自進める。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己紹介発表の準備を各自進めること。
【予習復習に必要な想定時間】

予習30分

第１７回　保育実技④自己紹介

【key words】
保育実技、部分実習,視覚的教材
【授業概要】
自己紹介の発表会を行う。自己紹介を見た感想についても
まとめ、課題を明確にする。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己紹介を持参すること。各自、演じ方も練習しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１８回　部分・責任実習について

【key words】
部分・責任実習
【授業概要】
部分実習について流れを知り、各年齢ごとの注意点を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P52～63、配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P52～63を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１９回　実習記録について①本日のねらいについて

【key words】
実習記録、本日のねらい
【授業概要】
実習記録の書き方について理解する。
本日のねらいの欄の記入の仕方について知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P114～121、実習へのガイドブックP76～77、配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P114～121を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２０回　実習記録について②実習生の動き・気づいた点・環境構成の記入の仕方について

【key words】
実習記録、実習生の動き、気づいた点、環境構成
【授業概要】
実習記録の書き方について理解する。
実習生の動き・気づいた点・環境構成の欄の記入の仕方について知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P122～129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P122～129を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２１回　部分実習のポイント

【key words】
部分実習、指導案、導入、展開、まとめ
【授業概要】
部分実習の流れ(導入、展開、まとめ)について理解する。
また各年齢ごとの配慮のポイントを知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P52～63、配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P52～63を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２２回　部分実習のポイント　指導案について①子どもの姿の記入について

【key words】
子どもの姿、指導案、導入、展開、まとめ
【授業概要】
部分実習の指導案についての記入の仕方を理解する。
子どもの姿の欄の記入について知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P72～88、配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P72～88を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２３回　部分実習のポイント　指導案について②年齢ごとの配慮点について

【key words】
指導案、導入、展開、まとめ
【授業概要】
部分実習の指導案についての記入の仕方を理解する。
年齢ごとの配慮点について知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P72～88、配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P72～88を読んでおくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２４回　服装と身だしなみ・持ち物・実習園が実習生に期待すること

【key words】
服装、身だしなみ、持ち物
【授業概要】
実習中の服装・身だしなみ等の注意点について理解する。
実習園が実習生に期待することについても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P17、配布プリント（チェックリスト）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P17を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２５回　オリエンテーションについて

【key words】
オリエンテーション、準備物、提出物、報告の仕方
【授業概要】
オリエンテーションについての注意点について理解する。
実習関係書類の提出や報告の仕方についても確認する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P16、実習へのガイドブックP20～22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書P16、実習へのガイドブックP20～22を読んでおくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２６回　保育実技⑤紙芝居読み聞かせについて

【key words】
導入の手遊び、対象年齢
【授業概要】
グループに分かれて、紙芝居の読み聞かせを行う。対象年齢に合わせ
導入の手遊びも行う。読み聞かせを見た感想をまとめる。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリントに各自記入。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
対象年齢に合わせた手遊びと紙芝居の読み聞かせの準備を進めておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２７回　保育実習Ⅰ（保育所）の体験談

【key words】
保育実習Ⅰ（保育所）、実習記録、部分実習
【授業概要】
実習を終えた学生より体験談を聞き実習のイメージをより具体化する。

【教科書ページ・参考文献】
配布プリント・ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ワークシートを記入しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２８回　実習記録・部分実習について

【key words】
実習記録、部分実習、指導案
【授業概要】
実習記録の記入確認と部分実習の指導案についての
確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント・指導案
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各自、指導案の準備を進めること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２９回　実習直前指導

【key words】
保育実習Ⅰ（保育所）、観察・参加実習、部分実習
【授業概要】
保育実習に向けた注意事項を確認する。
提出書類等の最終チェックを行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP26～29、配布プリント（提出物チェックシート）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
提出物チェックシートを記入しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第３０回　まとめ

【key words】
実習記録、お礼状
【授業概要】
実習準備物の確認と実習終了後の流れを確認。
実習記録の提出とお礼状の書き方についても確認。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP38～39

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックP38～39、69～71を読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
受講生に関わる情報および受講のルール	○上記の授業計画は、実習開始時期により変更になる場合があります。 (各担当教員より指示があります) ○オンライン授業の場合は、講義内容の組み替えを行うことがある。 ○オンライン授業では、カメラ「ON」でリアルタイルの意見交換の機会を設けます。 ○遅刻や欠席は事前に必ず届け出を行うこと。やむを得ない理由で欠席した場合は補講や課題が生じることがある。 ○提出物の期限は必ず守ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	保育や児童福祉に関する話題やニュースを常にチェックしておくこと。
オフィスアワー	初回授業で各担当教員から伝達します。
評価方法	授業内での発表・取り組む姿勢（40%）実習関係の書類提出状況（30%）実習レポートの内容（30%）の総合評価
教科書	「幼稚園・保育園 実習まるごとおたすけガイド」徳永満理 編著 チャイルド本社 「実習の記録と指導案」山本淳子　編著　ひかりのくに
参考書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　幼稚園教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 児童文学　　授業コード： S4431

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童文学について正しく理解し、単に子どもの本ではなくどんな年齢層にもアピールする魅力と、子どもの本の深さを理解できるようになることを目的とする。 【到達目標】 ①児童文学の成り立ちと発展の過程等について理解できる ②児童文学が扱うさまざまなテーマや主題に沿った各論について説明できる ③現在の子どもを取り巻く状況と児童文学の関係について考える
授業の概要	実際の作品に触れながら、児童文学の豊かな世界を鑑賞する。「児童文学とはなにか」だけではなく、絵本、童話、ファンタジーなど児童文学の周辺を取り巻く用語について整理し、正しく理解する。また、子どもに読み聞かせ（読み語り）をする際に、物語の内容を把握し、子どもが満たされるような語りができるようにする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション(授業計画説明、予習復習の説明、評価方法の説明など）・児童文学とは 【key words】 講義の受け方、好きな絵本 【授業概要】 ・この授業の取り組み方、全15回のペース配分などを伝える。 ・個々にどんな文学に興味・関心があるのかを4～5人のグループで紹介し合う。 【教科書ページ・参考文献】 子どもの自分に会う魔法　石井ゆかり　　わたしの好きな子どもの本50冊　著中村美子 クリエータおすすめの絵本650冊　玄光社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分が知っている絵本を書き出す。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第２回	子どもの本の分類 【key words】 「児童文学」と「絵本」の違い 【授業概要】 ・小学校児童文学についての対象年齢や内容についての解説、説明。文学にも様々な形式やジャンルがあること　を知る。「絵本」と「挿絵入りの本」の違い等についても学ぶ。 ・児童文学「こいぬのくんくん」「あおくんときいろちゃん」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストp18～25
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の題材「ロビンソンクルーソー」を読んでおく
【予習復習に必要な想定時間】
一週間のうちに「ロビンソン・クルーソー」の本を読む

第３回　子どもの本の歴史

【key words】
二つの子ども観

【授業概要】
・小学校子どもの文化についての歴史的流れを知り、18世紀の「罪深き子ども」の概念について考える。
・児童館に大きな変化を生じさせた「ロビンソンクルーソー」の影響について考え、他者と意見交換をする。
・児童文学「かいじゅうたちのいるところ」「マーシャと白い鳥」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストp38～41，66～69
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回の準日として、神話や伝説で知っているものを書き出しておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　神話　（日本神話、ギリシャ神話）　・　伝説

【key words】
伝承文芸

伝承文芸
【授業概要】
・日本誕生の神話（イザナミとイザナギやヤマタノオロチ　など）とギリシャ神話（ゼウスやアポロンなどの　　神々　など）の比較を楽しむ。また伝説について調べ、他者とそれぞれが調べたものを伝え合う。
・児童文学「モチモチの木」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストｐ42～45
【課題・予習・復習・授業準備指示】
日本の昔話について調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　日本の昔話

【key words】
「桃太郎」「竹取物語」

【授業概要】
・日本の昔話に含まれる、人間の心の深層やあり方を読み解いていく。また、昔話が果たしてきた役割について　考え、意見交換を行う。

【教科書ページ・参考文献】
プリント配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
昔話の本や絵本を持参する
童話の絵本を何冊か準備しておく
【予習復習に必要な想定時間】
翌週までに図書館等で絵本をかりておき、準備しておく

第６回　童話（グリム童話・イソップ童話・アンデルセン童話）

【key words】
童話の「戒め」

テキストp64～68

【授業概要】
・各童話の特徴や、作者の特徴を知り、理解を深める。
・童話の中で伝えている「戒め」について考え、童話への興味・関心を高める。
【教科書ページ・参考文献】
プリント配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
気になる童話の「戒め」を読み解き、レポートとしてまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　ファンタジーとリアリズム

【key words】
空想と魔法、架空の世界

次回小テストを行うので、第1～7回までの復習をしておく
【授業概要】

・現実の子どもが、別世界を体験するファンタジーには、その経験が主人公の子どもにどのような影響を与える要素があるか考える。擬人化されたファンタジーの、動物の視点の導入効果に注目してみる。
・19世紀と現在の家庭小説を比較し、家族の定義と営みなどに着目する。
・児童文学「ちいさいねずみ」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストp58～65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
ファンタジーとリアリズムの特徴や違いについてまとめてレポートを作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　冒険物語

【key words】
主体性の目覚め

【授業概要】
・主人公が経験する波乱万丈の物語（探索・試練・挑戦・救出・サバイバル）は、なぜ人の心を惹き付けるの　　か、なぜ魅了させられるのか、考えていく。
・前半のまとめの小テストを行う。
・児童文学「よあけ」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストp90～93

【課題・予習・復習・授業準備指示】
小テストで理解できていなかったところを復習する
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　歴史小説

【key words】
過去という舞台の上で

【授業概要】
・歴史上の事実を重視し、過去を再現することを目的とする歴史物語と、時代設定を守りつつも架空の人物を配　した歴史物語の比較を楽しむ。
・歴史的な事件を扱った歴史小説を取りあげ、どのような方法で小説家しているか、調べたり考えたりする。
・児童文学「だってだってのおばあさん」「手ぶくろを買いに」「小公女」について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストp34～37，46～49，112～115
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業を受け、自分の気になる（好きな）歴史上の人物で物語となっているものを見つけ、「再現」なのか「架空」なのか調べてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　フィクションとノンフィクション

【key words】
想像力の本と知識の本

【授業概要】
・フィクションとノンフィクションの違いについて考え、ノンフィクションにおけるフィクション的手法にお　いての効果のあり方を学ぶ。
・伝記に取り上げられる対象である人々は、時代を追って「偉人」であることから「個人」であることに変化　してきていることについて論じる。
・児童文学「大きい1年生と小さな2年生」「としょかんライオン」「エミリー」「点子ちゃんとアントン」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストp50～53，78～81，86～89，116～119
【課題・予習・復習・授業準備指示】
フィクションとノンフィクションについての説明が自分の言葉でできるようまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　わらべうた・童謡

【key words】
わらべうたと子どもの育ち

【授業概要】
・わらべうたについての基礎知識と3つの特性について学習する。またわらべうたから見える地域の特徴性に　ついて、出身地ごとに「どれにしようかな」を発表する。
・わらべうたを活かした保育を考える。（社会的な育ちと音楽的な育ち）
・いろんなわらべうたに触れてみる。（子守唄、数え唄、悪口唄、からかい唄　　など）
・児童文学「くまさん」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストp82～85
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分が子どもの頃に慣れ親しんできた「わらべうた」を思い出して書き出しておく。家の方にも聞いてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
時間数でなく、1週間以内に調べて書き出しておく

第１２回　子どものための詩
【key words】
わらべうたから現代詩まで

【授業概要】
・詩のルーツを学習する。
・詩とは、その言葉のもつ力を最大限に活かした「言語芸術」であるということを理解し、代表的な詩を例題に出し、その詩から感じるものをそれぞれ意見を出し合う。
・児童文学「チリンのすず」「悲しい本」について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
プリント配布　テキストp70～77
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実際に詩や俳句を書いてみる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　自分史
【key words】
自分が生きてきた歴史を振り返る

【授業概要】
・自分が生きてきた歴史を箇条書きで書き出し、それを文章化していく。
・自分が生きてきた時代の記録を振り返ってみる。
・今までにかかわってきた人々や人間関係とともに、自分自身を振り返る。ありのままの自分を書き出し、それらを客観視することでステップアップしていけるようにする。
・児童文学「はてしない物語」「赤毛のアン」「長くつ下のピッピ」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
「自分詩の書き方・手引き」のレジュメを用意する。
テキストp104～107, 120～123, 128～131
【課題・予習・復習・授業準備指示】
最終授業日を提出日とし、「自分史」をA4用紙2～5枚程度にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
提出期限日まで

第１４回　原作・アニメ・実写映画などの比較
【key words】
表現方法

【授業概要】
・小学校原作・アニメ・実写映画を鑑賞し、同じ登場人物、かつ同じ内容でも、表現方法の違いによって、別物　のように見える理由について考え、意見を出し合う。
・児童文学「クマのプーさん」について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
テキストp124～127　　ピクサーやジブリなどの作品
【課題・予習・復習・授業準備指示】
最終授業日を提出日とし、「自分史」をA4用紙2～5枚程度にまとめる。
絵本、紙芝居を準備しておく
【予習復習に必要な想定時間】
提出期限日まで、絵本・紙芝居は次週までに準備しておく

第１５回　絵本、紙芝居、幼年文学
【key words】
知っておきたい読み聞かせのポイント

	【授業概要】 ・絵本の読み聞かせの具体的な効果について学習する。 ・子どもの本・紙芝居の選び方について学ぶ。 ・児童文学「おじいちゃん」「おばあちゃん」「長い長いお医者さんの話し」について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 プリント配布　テキストp62～65，100～103，136～139　絵本・紙芝居 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最終授業日を提出日とし、「自分史」をA4用紙2～5枚程度にまとめる。 「自分史」の提出。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業シラバスを確認し、積極的に授業jに取り組むこと・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている文献は必ず確認し、理解して授業に臨むこと。わからない部分は授業で解決するように努力すること。
オフィスアワー	月曜13：00～15：00　それ以外の時間帯はアポイントを取って下さい。
評価方法	レポート試験60%、授業への取組、授業時の課題、小テスト40%。
教科書	石井ゆかり：子どもの自分に会う魔法　大人になってから読む児童文学
参考書	授業時に指示する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園・小学校の現場で、読み聞かせ等の実務を行っていた。そのため、多くの絵本と触れ合い、また読み聞かせが与える影響・効能等についても学んできた。その経験と知識を基に学生たちに児童文学の歴史から現代に至るまでについて指導していく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　介護技術Ⅱ　　授業コード：S5045

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	選択
担当教員			
辻　志帆・福田　智久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	「授業の目的」 介護ニーズの複雑化・高度化に伴い、介護を必要としている人に、全人的で質の高い介護が提供できるよう、基礎的な　知識と技術及び態度を習得し、実践できるようになることを目的とする。 「到達目標」 ①身体障害のある人に対する医学的な知識と介護の方法が理解でき対応することができる。 ②認知症に伴うこころとからだの変化と介護について理解することができる。 ③終末期における介護の意義と尊厳を考慮した支援について理解することができる。 ④介護における安全確保と危機管理の重要性について理解し対応することができる。
授業の概要	本講義は、介護を必要とする人の「尊厳の保持」や「自立支援」などの観点から、基本的な日常の「生活支援」に焦点をあて質の高い適切な介護を提供できる能力と態度を育てることを重視している。また介護を実践する際に必要なこころとからだについての基礎的な知識を習得するとともに、社会的に重要性を増している高齢者や認知症、障害、終末期における介護についても理解を深め、介護の現状と支援のあり方について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（授業概要、評価方法等の説明） 【key words】 シラバス 【授業概要】 科目の位置付けと授業概要の説明。学生個々の履修目的、学習目標についてレポート 【教科書ページ・参考文献】 授業概要 【課題・予習・復習・授業準備指示】 演習時は身だしなみを整えてくること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	介護の意義と役割　①　（介護の意義　介護と生活） 【key words】 介護の概念、介護と生活支援、介護は実践 【授業概要】 介護とは、介護の仕事とは何か、介護をめぐる社会的背景、介護福祉士の誕生と法的規定について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P2~5　参考書「介護福祉総論」P2~P14　第一法規 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	介護の意義と役割　②　（尊厳を支える介護　生活の質と介護）

【key words】
人間の尊厳、QOL
【授業概要】
尊厳の持つ意味について、尊厳を支え援助をする側と尊厳を持つ要介護者との側面について考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P6~P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義、演習をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　介護の意義と役割　③　（自立に向けた介護　ノーマライゼーションの理念　介護予防とリハビリテーション）
【key words】
自立支援、介護予防とリハビリテーション、ノーマライゼーション
【授業概要】
自立を支える介護の意義と役割について、ノーマライゼーションやICFを取り上げ、利用者の自己決定と個別化などについて学ぶ。また介護実践における介護予防とリハビリテーションの考え方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P2~7
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義、演習をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　生活の場による介護の特徴　（居宅介護　家族介護　施設介護）グループ学習
【key words】
居宅介護・家族介護・施設介護
【授業概要】
居宅と施設など生活の場による介護の特徴、居宅サービス従事者に求められる基礎知識、介護保険制度と施設介護の現状と入居者の生活について学ぶ。家庭生活の変化と介護に　ついても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P6～7、P11~12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義、演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　生活の場による介護の特徴　（居宅介護　家族介護　施設介護）発表
【key words】
居宅介護・家族介護・施設介護
【授業概要】
居宅と施設など生活の場による介護の特徴、居宅サービス従事者に求められる基礎知識、介護保険制度と施設介護の現状と入居者の生活について学ぶ。家庭生活の変化と介護に　ついても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P6～7、P11~12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義、演習をもとに復習を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしと生活、身体障害のある人の暮らしと生活）①
【key words】
高齢者、障がい者の生活、介護ニーズ、介護福祉サービス、ノーマライゼーション
【授業概要】
介護を必要とする高齢者や障がい者などについて具体的な事例を通して生活に関する状況と課題及び介護ニーズを取り上げ、それぞれ高齢者、障がい者を支えるための介護の在り方について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P13~P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしと生活、身体障害のある人の暮らしと生活）②
【key words】

【授業概要】
介護福祉サービスの概要やそのサービスが提供される場の特性などについて学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P13~P17
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　介護従事者に求められる倫理性・専門性
【key words】
倫理綱領　倫理性　　専門性　バイスティックの7原則
【授業概要】
介護の専門職としての職業倫理について理解し、介護従事者に求められる倫理性、専門性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
P18～22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　こころとからだのしくみ（こころのしくみ）
【key words】
ひとのからだ、こころ、人間の基本的欲求、社会的欲求
【授業概要】
こころのしくみの理解では思考、記憶、学習、感情、意欲など様々な欲求に対する適応の仕組みを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
P20～p30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　こころとからだのしくみ（からだのしくみ）
【key words】
からだの構成、ホメオスタシス、脳と脊髄、脳神経と脊髄神経
【授業概要】
からだのしくみの理解では、人間の生命維持と生体恒常性のしくみ。人体の構造やからだの各部の名称、ボディーメカニクスなどを取り上げ、人間のからだのしくみについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
p31～38
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　生活行為に関連したこころとからだのしくみ（食事、排せつ）
【key words】
1日あたりの水分出納、口渇中枢、摂食・嚥下のメカニズム、排尿、排便のメカニズム、尿失禁
【授業概要】
食事に関するこころとからだの基礎知識として食べることの生理的意味、必要な栄養素量や水分量、食べるしくみ、食欲や口渇などを学ぶ。排せつに関するこころとからだの基礎知識として排尿・排便のしくみ、排せつ物の性状、便秘や下痢、失禁などの機能の低下や障害の原因とその影響について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
p54-67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　高齢者と健康（病気、身体機能の低下が及ぼす生活への影響）
【key words】
加齢と病気　高齢者の病気の特徴　ホメオスタシス　人体の成分と体液
【授業概要】
身体機能が低下してきている高齢者の病気の特徴と老化が生活行為に及ぶ影響について学習する。また、高齢者の健康管理には、保健医療職との連携が必要であることについても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P100～103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　高齢者と健康（加齢による身体機能低下、運動機能低下とADL）
【key words】
高齢者の食生活の影響　高齢者の排泄への影響　高齢者の活動への影響　ADL
【授業概要】
加齢に伴う身体機能低下が及ぼす日常生活への影響について、食生活、排せつ、活動を取り上げ学習する。また加齢による運動機能低下とADLの低下について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P103~107

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　まとめ　（総括）
【key words】
尊厳を支える介護　自立に向けた介護　高齢者と障がい者の暮らしと生活　ひとのこころとからだのしくみ
【授業概要】
14回までの授業を振り返る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　後期　科目オリエンテーション（授業概要）

【key words】
シラバス　授業の関連性
【授業概要】
前期授業の振り返りと後期授業の関連性の説明。後期授業目標と行動目標
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　心身状態、生活状態のアセスメント技術（全身状態とバイタルサインの観察）
【key words】
全身観察　バイタルサインの観察
【授業概要】
心身状態のアセスメント技術である「バイタルサイン」の基本的な医療知識と観察方法、その対応について
学ぶ。観察方法の体験学習を通じ、観察したことの正常、異常時の判断基準、医療職との連絡調整の必要性について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
ｐ204～212
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　心身状態、生活状態のアセスメント技術（バイタルサインの計測）
【key words】
体温　呼吸　パルスオキシメーター　脈拍　血圧
【授業概要】
バイタルサインが正しく計測できるよう、基本的な医療知識と観察方法、その対応について学び、体験学習を通じて観察したことの正常、異常の判断がつき、医療職との連絡調整の必要性について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P204~218
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　身体不調時・異常時の介護①　（発熱時と脱水の対応）
【key words】
発熱時の対応　冷あん法によるクーリング　解熱への対応　脱水の観察と対応
【授業概要】
発熱時と脱水状態の介護について、基本的な医療知識と観察方法などを関連付け学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P213～216
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　身体不調時・異常時の介護②　（呼吸困難時、意識障害時のケア）
【key words】
呼吸困難　起座位　意識障害　ジャパン・コーマ・スケール
【授業概要】
基本的な医療知識と観察方法、その対応について学び実践を演習で行う。呼吸困難時の体位、意識障害時の対応を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P216~217
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　身体障害のある人への理解①　（視覚障害）
【key words】
目の構造・機能　視覚機能障害　日常生活への影響
【授業概要】
視覚障害について、医学的に疾患や病態を学び、視覚障害を持つ人への理解を深めたうえで演習を通して、援助の方向性を学習する。視覚障がい者への誘導方法など。
【教科書ページ・参考文献】
P226~229　P147~149
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　身体障害のある人への理解②　（聴覚・言語機能障害）
【key words】
耳の構造と機能　伝音声難聴　感音性難聴　失語症　運動機能障害性構音障害
【授業概要】
外見では分かりにくい障害であり、障害の本質が理解されにくい聴覚・言語機能障害について、医学的な知識に基づいた障害の理解と自立に向けた適切な介護について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P226~229
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】

30分
第２３回　身体障害のある人への理解③　肢体不自由（運動機能障害）
【key words】
脳血管障害　神経系疾患　パーキンソン病
【授業概要】
脳血管障害、パーキンソン病の特性を医学的に学び、障害によって今まで慣れ親しんだ生活様式を変えざるを得ない現状と自立に向けた介護の方向性について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２４回　身体障害のある人への理解④　内部障害（腎臓機能障害）
【key words】
内部障害　腎臓機能　腎不全　腎臓透析療法
【授業概要】
内部障害の現状と課題を視野に入れながら、医学的な知識に基づいた腎臓機能障害のある人の自立に向けての介護技術を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P234~238
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２５回　認知症のある人への理解②　（認知症の医学的理解、認知症に伴う心身の変化と日常生活）
【key words】
アルツハイマー型認知症　脳血管性認知症　若年性認知症
【授業概要】
認知症の原因となる疾病や症状の特徴、それらによって引き起こされる機能の変化と生活障害などの医学的理解を深めながら認知症の基礎知識と特性、心の特徴について学ぶ。また人間関係や居住環境などが認知症の人の日常生活に与える影響について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P271
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２６回　認知症のある人への理解③　（認知症に対する介護技術）
【key words】
認知症ケアの理念　パーソンセンタードケア　グループホームケア
【授業概要】
認知症ケアの歴史や理念、罹患者数の推移と認知症高齢者の現状、認知症高齢者支援対策の概要などを取り上げ。認知症を取り巻く現状について学ぶ。認知症の人の理解の重要性について「人の生活や暮らし」の視点での介護のありかたを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P266～268
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２７回　介護における安全確保と危機管理　（安全対策）
【key words】
感染症　ノロウイルス　MRSA　日和見感染症　感染予防
【授業概要】
介護現場における感染症の実態を取り上げ、感染予防の意義と必要性について理解させるとともに、感染対策の基礎知識と技術を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料　参考「人体の構造と機能及び疾病」P101~104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２８回　人生の最終段階の介護①　（死にゆく人のこころとからだの変化）
【key words】
人間の死　医学的　法学的　人生の最終段階　危篤状態　安楽死　尊厳死
【授業概要】
人生の最終章の終末期の介護では、「死にゆく人のこころとからだの変化を取り上げ、人間の死のとらえ方、危篤状態に陥った時のからだの変化について学ぶ。また死に向かってゆく過程のこころの変化についても学習する。
【教科書ページ・参考文献】
P284～296
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義内容をもとに復習を行うこと
【予習復習に必要な想定時間】
30分
第２９回　人生の最終段階の介護②　（終末期における介護技術）
【key words】
高齢者のターミナルケア　緩和ケア　事前意思確認　グリーフケア
【授業概要】
人生の最終段階における介護の意義と目的、介護のポイント、高齢者のターミナルケア、緩和ケアなど、様々な症状に対しての援助方法や精神支援の重要性を学ぶ。死別後のグリーフケアにつ

	いても学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P293~296 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義内容をもとに復習を行うこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ（総括） 【key words】 人間の尊厳の保持　自立支援　介護職と多職種との連携　介護予防 【授業概要】 後期授業の振り返りと総括 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 介護について自己の思いや考え方を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	「受講生に関わる情報」 演習は、学校指定の運動着、シューズを着用のこと。イヤリング、ネックレス腕時計はつけないこと。 長い爪と　マニュキアは禁止、長い髪は束ねること。 「受講のルール」 他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁。挨拶や身だしなみを整えること。 演習時の教材の準備、後片付けはグループメンバーと協力して行うこと。 教材は大切に使用し、整理整頓を心がけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	介護は、人間らしく生きることの支援なので、幅広い多面的な知識と人との関りが重要である。日頃から、新聞等の情報から社会情勢や高齢者・障害者問題等にも関心をもつことが大切である。
オフィスアワー	授業時に指示します。
評価方法	定期試験　６０％　　小テスト・レポート２０％　　授業への取り組み　２０％
教科書	「新　大学社会福祉・介護福祉講座　介護技術論」　第一法規
参考書	講義の中で適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高齢者施設にて介護実務の経験あり。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教育相談論　　授業コード：S5091

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	教師として児童生徒の悩みに共感し、一人一人の課題解決への適切な支援ができる能力や人間としての心の痛みを理解でき、児童生徒のよさを引き出すことのできる資質の育成を図る。
授業の概要	教育相談の意義や目的、教育相談の心理学的基礎、心理アセスメント、カウンセリング諸理論、不登校等の問題行動の理解と指導について学ぶとともに、カウンセリング実習を通して教育相談の基礎的技法を身に付け、教師として必要な教育相談的資質や能力を養う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション　子どもの存在と「生きる力」 【key words】 【Key Word】 生きる力　教育相談の考え方　自己育成 【授業概要】 オリエンテーション、シラバス、教育相談の目的及び必要性について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４～２９ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	教育相談・カウンセリングの考え方 【key words】 【Key Word】 教育相談の考え方　教育相談と生徒指導　カウンセリングの発想 【授業概要】 教育相談の考え方、教育相談と生徒指導、カウンセリング感覚について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３１～４４ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　① 【key words】 【key word】 教師としての自己を語る　自己開示　子どもの心を聴く　感情の明確化 【授業概要】 教師として自己開示をすること、子どもの気持ちを聴き取り感情の明確化をすることの重要性を理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３１～４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４４～５７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　子どもとかかわる基本原理　ーカウンセリングの発想からー　②
【key words】
【Key Word】
スピーディーな対応　子どものメッセージに応じる　子どもの努力・成長に学ぶ　事実に即して誉める・叱る

【授業概要】
子どもとかかわる基本原理について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４４～５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ５９～７２
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　子どもの人間関係づくり①　学級の「まとまり」をつくる　＜かかわる力＞をはぐくむ
【key words】
【Key Word】
学級のまとまり　かかわる力

【授業概要】
学級のまとまりをつくること、「かかわる力」を育むことの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５９～７２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７２～８７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　子どもの人間関係づくり②　コミュニケーション能力を育成する　指導観・授業観の転換
【key words】
【Key Word】
コミュニケーション能力　指導観・授業観の転換

【授業概要】
コミュニケーション能力を育成することの大切さや指導観・授業観の転換について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７２～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ１～８７
【予習復習に必要な想定時間】
復習２時間

第７回　前半のまとめとカウンセリング実習①　構成的グループエンカウンター（実習）　ソーシャルスキルトレーニング（実習）
【key words】
【Key Word】
前半まとめ　カウンセリング実習　ロールプレイ

【授業概要】
前半のまとめをする。　次回からのカウンセリング実習の意義を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８９～１１４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　教育相談の計画と活動の実際　カウンセリング実習②
【key words】
【Key Word】
教育相談の計画　計画立案の実際例　教育相談活動　家庭訪問　進路指導　保護者会

【授業概要】
教育相談計画の立案や教育相談活動の実際例（家庭訪問・進路指導・保護者会）について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８９～１１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１５～１２３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　学級担任が向き合う危機的な問題①　学級崩壊を克服する　カウンセリング実習③
【key words】
【Key Word】
学級崩壊　状況分析　事態改善の方向　予防対策

【授業概要】
学級崩壊の要因を理解し、学級崩壊を克服する対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】

教科書Ｐ１１５～１２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２４～１４５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　学級担任が向き合う危機的な問題②　いじめを克服する　　カウンセリング実習④
【key words】
【Key Word】
いじめの基本認識　いじめ集団　指導体制　教師に求められる指導

【授業概要】
いじめについての理解を深め、いじめ解消の対策を考える。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２４～１４５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４５～１５７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　学級担任が向き合う危機的な問題③　不登校の問題を考える　　カウンセリング実習⑤
【key words】
【Key Word】
不登校の実態　不登校のきっかけ　不登校のサイン　子どものサイン

【授業概要】
不登校の実態を知り、不登校対策としてカウンセリングの考えを生かした対応や子どものサインに気づくことの大切さを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４５～１５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１５８～１７１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１２回　学級担任が向き合う危機的な問題④　保護者との対応力を磨く　あってはならない体罰　　カウンセリング実習⑥
【key words】
【Key Word】
保護者との対応力　関係づくり　保護者の不安を解消する　体罰

【授業概要】
保護者との対応力を高めるために必要なポイントを理解する。
体罰についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１５８～１７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ
【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　問題行動の考え方と対応の実際①　　カウンセリング実習⑦
【key words】
【Key Word】
早期発見　組織的対応　近年の問題行動の考え方

【授業概要】
問題行動の考え方を知り、早期発見や組織的対応の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１７３～１７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習課題　教科書Ｐ８９～１８２
【予習復習に必要な想定時間】
復習　２時間

第１４回　問題行動の考え方と対応の実際②　　カウンセリング実習のまとめ
【key words】
【Key Word】
事例から学ぶ　対応の実際例　　カウンセリング実習のまとめ

【授業概要】
実際の対応例　カウンセリング実習のまとめをする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１７３～１８１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１８２～２０５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１５回　まとめ
【key words】
【Key Word】
事例から学ぶ　対応の実際例　まとめ　　発表

【授業概要】
事例を通して対応の実際例を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１８２～２０５
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	試験に向けてのまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 試験に向けて　５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（８０％）、授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	有村久春著　学級教育相談入門　金子書房　２，５００円＋税
参考書	学習指導要領（文部科学省）　生徒指導提要（文部科学省）　幼稚園教育要領　幼保連携子ども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小・中学校の教諭経験　公立小学校の管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（国語）　　授業コード：S5601

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校国語科指導に必要な知識・技能を修得する。 【到達目標】 ①　「国語科学習指導要領の目標と内容及び解説」について深く理解することができる、 ②　教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、国語科の実践的指導力の基礎を身に付けることができる。
授業の概要	１　小学校国語科指導に必要な実践的指導力（学習指導要領及び解説の理解、文学史、説明文・物語文の読解、　古典や詩・短歌等の鑑賞、配当漢字、国語科のT・T、板書の仕方、ワークシートの作成方法、小論文の書き方、硬筆・毛筆、話す・聞くの指導、作文指導等）を身に付ける。 ２　基礎基本の力量を活用して、児童用の教科書を用いた教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究等を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション、学習指導要領と解説の理解①(実際に教科書を見ながら、どのように具体化されているか考える。) 【key words】 オリエンテーション、学習指導要領と解説（●第１　教科の目標）、国語科児童用教科書 【授業概要】 ①　本授業の意義とシラバスの説明を聞く。30コマの授業内容と評価方法、予習・復習について知る。 ②　「学習指導要領国語」と「解説」の違いを復習する。 ③　学習指導要領「●第１　教科の目標」でキーワードについて、「解説（11～13頁）」で確認する。 ④　「学習指導要領」と「解説」が児童用教科書にどのように具現化されているか、調べる。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】小学校児童用教科書計６冊で、今まで読んでいない教材を読み、授業に臨む。 【復】「学習指導要領」の「●第１　教科の目標」を暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	学習指導要領と解説の理解②（各学年の目標、漢字の指導法） 【key words】 学習指導要領と解説（●第２　学年の目標）、漢字の指導法、模擬授業計画立案 【授業概要】

		①　学習指導要領の「各学年の目標」について、「解説（14～15頁）を読み、理解を深める。 ②　漢字の基本的な指導方法（空書き、漢字ミニ黒板、色別筆順カード、市販漢字ドリル漢字ノート等）について理解する。 ③　クラスリーダーを中心に模擬授業者の年間の分担を決める。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】各学年の目標を熟読し、授業に臨む。 【復】各学年の目標を理解し、おおよそ暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	国語科の実践的指導力の基礎①(国語教育における歴史、Ｔ・Ｔ、ノート指導、ワークシート作成) 【key words】 国語教育の歴史、国語科におけるＴ・Ｔ、ワークシートとノート指導 【授業概要】 ①　国語教育の歴史を知る。 ②　国語科におけるＴ・Ｔの実践例を知る。 ③　ワークシートとノート指導の違いについて考える。 ④　専門教養（国語科）の過去問を知り、教員採用試験への準備をする。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】受験自治体の過去問題集を購入し、概観し、授業に臨む。 【復】受験自治体の過去問題集の国語科に関わり箇所を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第４回	国語科の実践的指導力の基礎②(漢字、ことわざ・慣用句・故事成語等）、ＩＣＴ情報機器の活用 【key words】 漢字、ことわざ・慣用句・故事成語、日本語の由来、情報機器 【授業概要】 ①　国語科における情報機器、教材活用（DVD,ネット活用、OHCなど）を学ぶ ②　日本語（平仮名・片仮名・漢字・ローマ字）の由来について、理解する。 ③　漢字、ことわざ・慣用句・故事成語等の知識を身に付ける。（「日本語力」105～111頁） ④　専門教養（国語科）の過去問を知り、解けるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「日本語力」105～111頁の予習をし、授業に臨む。 【復】　受験自治体の過去問題集の国語科、言葉に関する問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第５回	国語科の実践的指導力の基礎③（日本語の歴史、音読・黙読・群読、範読・読み聞かせ、分かりやすい話し方、正しく整った文字の書き方） 【key words】 日本語の歴史、音読・朗読・黙読・群読、範読、読み聞かせ、書写 【授業概要】 ①　日本語の歴史（平仮名、片仮名、漢字、ローマ字）について知る。 ②　児童用教科書教材を用い、音読・朗読・黙読、範読のスキルを高める。 ③　教科書、絵本等を用い、読み聞かせの意義と方法を実際に行いながら理解する。 ④　教師の伝わる話し方について理解する（声の大きさ、速さ、滑舌、視線、姿勢、身振り手振り）。 ⑤　硬筆の指導について、児童用書写教科書を用いて、概観する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】指示された教科書教材の範読練習をし、授業に臨む。 【復】まだ読んでいない教科書教材や絵本の範読練習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第６回	国語科の実践的指導力の基礎④（硬筆の指導） 【key words】 硬筆、学習指導要領（●第３　指導計画の作成と内容の取扱い） 【授業概要】 ①　児童用書写教科書コピーより、１～６年の学習内容を概観する。 ②　学習指導要領「●第３　指導計画の作成と内容の取扱い」の書写に関する事項について理解する。 ③　鉛筆やフェルトペンの持ち方を知り、１年教科書34・34頁の書初め（フェルトペン、鉛筆）を行う。 ④　漢字指導用黒板で１文字の４つの部屋について理解する。 ⑤　「水書用紙（すいしょようし）」について知る。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年、書写教科書コピー（教育出版） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】書写１年教科書17頁「おおきな　かぶ」の硬筆を行い、授業に臨む。 【復】書写２年教科書28・29頁書初め「お正月のできごと、元気な子」を次回提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　国語科の実践的指導力の基礎⑤（毛筆の指導）

【key words】
毛筆、学習指導要領（●第３　指導計画の作成と内容の取扱い）、毛筆指導の道具
【授業概要】
①　３年次から始まる毛筆について、毛筆に関する道具の名称、書く姿勢、筆の持ち方について知る。
②　毛筆の後片付けについて、知る。
③　実際に６年教科書「友情」を書き、掲示し、学生間で相互評価を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【準】習字道具（墨えき、下敷き、半紙、大筆、小筆等）を準備し、授業に臨む。
【復】自分で選んだ２～４文字の漢字熟語を半紙に書き、次回授業で提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第８回　学習指導案事前検討会（説明文２年「すみれとあり」：授業者は代表学生１名）

【key words】
模擬授業（説明文）、学習指導案事前検討会
【授業概要】

①　学生が進行し、学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言）
②　説明文の読解指導（1・2年）の基本的な指導方法について理解する。
③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。　②
④　ミニテスト（第１～７回までの復習）を行う。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】授業者は、授業実施の３日前までに学習指導案を担当に送り、指導を受ける。
【復】授業者は、事前検討会で受けたアドバイス等に基づき指導案を修正する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第９回　模擬授業①（説明文２年「すみれとあり」：授業者は代表学生１名）

【key words】
模擬授業（説明文）、研究授業、授業研究会、授業の視点
【授業概要】
①　模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に指導助言を行う。
②　必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③　様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等）
④　模擬授業は、対面・遠隔のどちらでもできるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】模擬授業準備を万全にする。特にシミュレーションを複数回重ね模擬授業に臨む。
【復】授業検討会で出たアドバイスを整理し、次回の模擬授業に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第１０回　教材研究（説明文３年「めだか」）【教師としてのインプット】（教師として身に付けたい知識・技能）

【key words】
教材研究、説明文の指導、教師としてのインプット、学習指導要領
【授業概要】
①　教材「うめぼしのはたらき」を読み、「中心となる文」と「それを説明する文」を学ぶ。
②　説明文について教師としての知識をインプットする。
1）様々な読み方（黙読、微音読、音読、群読、範読…）
2）漢字の指導（実、消、化、面、泳、身、守、第、次、死、度、流）
3）言葉の学習（さいきん、目うつり、川口、みちしおに乗る）
4）学習指導要領及び解説の該当場所：３・４年　Ｃ読むことのア「段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えること」について学ぶ。
5）文章の構成：大段落（意味段落）と小段落（形式段落）
6）挿絵や写真と文章の関連
7）教材の最後の学習の手引き58～61頁を指導者レベルで考察する。①たしかめよう、②考えよう、③ふかめよう、④ひろげよう　特に、61頁「ここが大事　だんらくの「要点」をつかむを学ぶ。
8）教科書会社の教師用指導者や赤刷りを読み込む。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「めだか」を熟読し教師としての読解（学習の手引き：58～61頁）をし授業に臨む。
【復】「めだか」以外の教科書教材を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　教材研究（説明文３年「めだか」）【教師としてのアウトプット】（教師としてどう授業を仕組

むか)
【key words】
説明文の指導、教師としてのアウトプット
【授業概要】
① 前回、第10回でインプットした知識・技能をどのように授業づくりに活かすか、教員と共に考える。
1) 「めだか（全10時間）」の第何時で、どのような読みを取り入れるか。音読には、丸読み、タケノコ読み、スピード読み等がある。
2) 漢字の指導は、空書き、ワークシートでの漢字練習、黒板掲示用漢字マグシート等がある。
3) 言葉の学習では、文中での使われ方、短文づくりで理解が深まる。
4) 学習指導要領及び解説を熟読し、授業で具体化する。
5) 文章の構成を考え、全10時間の指導計画を立案する。
6) 挿絵や写真を拡大コピー、画用紙で裏打ちしマグシートを貼り、黒板掲示すると児童の読解を促進する。
7) 児童が行う学習過程を学習の手引きを通して体験する。
② 指導形態（一斉、個人、ペア、グループ）を考える。
③ 学習記録（ワークシート、ノート…）を考える。
④ 板書計画を考える。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】めだかの身の守り方（54～55頁）について、要点整理して授業に臨む。
【復】めだかの自然のきびしさにたえる方法（56～57頁）について、要点を整理をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　学習指導案事前検討会（説明文３年「めだか」：授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業（説明文）、学習指導案事前検討会、ローマ字
【授業概要】

① 学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言）
② 説明文の読解指導（３年）の基本的な指導方法について理解する。
③ 学習指導案の基本的な書き方を復習する。
③ ローマ字の学習内容（３年巻末頁）を知る。また、学習指導要領でローマ字に関する記述を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】授業者は、授業実施の３日前までに学習指導案を担当に送り、指導を受ける。
【復】授業者は、事前検討会で受けたアドバイス等に基づき指導案を修正する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第１３回　模擬授業②（説明文３年「めだか」：授業者は代表学生１名）
【key words】
模擬授業（説明文）、研究授業、授業研究会、授業の評価
【授業概要】
① 模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に指導助言を行う。
② 必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③ 「授業の評価（評価規準、評価項目、評価方法）」について話す。
した視点等)
④ 模擬授業は、対面・遠隔のどちらでもできるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】模擬授業準備を万全にする。特にシミュレーションを複数回重ね模擬授業に臨む。
【復】授業検討会で出たアドバイスを整理し、次回の模擬授業に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第１４回　教材研究（漢字の広場４年　漢字の部首）【教師としてのインプット】（教師として身に付けたい知識・技能）
【key words】
漢字辞典、国語辞典、部首
【授業概要】
① 児童が３年で学習する「国語辞典」（３年上　34頁～）を振り返る。
② 児童が４年で学習する「漢字辞典」（４年上　54頁～）を学ぶ。
③ 児童が４年で学習する「漢字の部首」（４年上　30頁～）について、ミニ教材研究をする。
④ 「日本語力」（類義語・対義語：61～63頁）の答え合わせをし、解説を聞く。

【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】日本語力58～60頁を読み、61～63頁を解き、授業に臨む。
【復】漢字の広場について、各学年の内容を概観しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

	第１５回	漢字の指導方法（漢字の基礎知識【漢字の成り立ち、音訓、平仮名・片仮名の由来等】、現場の漢字指導の実践例を紹介する 【key words】 漢字指導の実際 【授業概要】 ①　漢字の基礎知識（平仮名・片仮名の由来、漢字の成り立ち、配当漢字、漢字ゲーム）を身に付ける。 ②　漢字指導の実践例から学ぶ。 ③　漢字ドリル、漢字用小黒板の使い方を知る。 ④　ミニテスト（第８～14回の復習）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】各学年の配当漢字を概観し、授業に臨む。 【復】夏休みに、「日本語力」第４章（84頁～）を熟読し、練習問題・応用問題を解いておく。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１６回	学習指導案事前検討会（文化６年「春はあけぼの」：授業者は代表学生１名） 【key words】 模擬授業（文化「春はあけぼの」Ｔ・Ｔ））、学習指導案事前検討会 【授業概要】 ①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言） ②　文化（６年）の基本的な指導方法について理解する。 ③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。 ③　文化の学習内容の系統を学習指導要領及び児童用教科書で確認する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】文化「春はあけぼの（６年上22頁）を熟読し、授業に臨む。 【復】文化の１～６年までの系統を学習指導要領と児童用教科書教材で確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１７回	模擬授業③、文化６年「春はあけぼの」：授業者は代表学生１名）） 【key words】 模擬授業、授業研究会研究授業、授業研究会、授業の評価 【授業概要】 ①　模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。 ②　必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。 ③　文化領域の評価について、知る。 ④　模擬授業は、対面・遠隔のどちらでもできるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】模擬授業準備を万全に行う。特にシミュレーションを複数回重ね模擬授業に臨む。 【復】授業検討会で出たアドバイスを整理し、次回の模擬授業に活かす。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１８回	教材研究（話す・聞く５年　ＡＩとのくらし）【教師としてのインプット】（教師として身に付けたい知識・技能） 【key words】 話す・聞く、ディベート 【授業概要】 ①　ミニディベートの仕方（３人組）を知る。 ②　実際に３人組で、ミニディベートを行い、課題と解決策を考える。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「5年上　ＡＩとのくらし」を熟読し、授業に臨む。 【復】教員採用試験の集団討論テーマを概観しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１９回	模擬授業④（学生が単元・題材を選択、単独授業　　授業者は代表学生１名） 【key words】 模擬授業、授業研究会研究授業、授業研究会 【授業概要】 ①　模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。 ②　必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。 ③　模擬授業は、対面・遠隔のどちらでもできるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】模擬授業準備を万全に行う。特にシミュレーションを複数回重ね模擬授業に臨む。 【復】授業検討会で出たアドバイスを整理し、次回の模擬授業に活かす。

【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第２０回　模擬授業⑤（学生が単元・題材を選択、単独授業　　授業者は代表学生１名）

【key words】
模擬授業、授業研究会、研究授業、授業研究会
【授業概要】
①模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③　模擬授業は、対面・遠隔のどちらでもできるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】授業者は模擬授業準備を万全に行う。特にシミュレーションを複数回重ね臨む。
【復】授業者は、授業検討会で出たアドバイスを整理し、次回の模擬授業に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２１回　小論文の書き方①（構成、肉付け、推敲等について）、一般・専門教養①（文学史、漢字）

【key words】
小論文、文学史、漢字
【授業概要】
①教採過去問の小論文の構成、肉付け、推敲等について、実際に小論文を書き、理解する。
②教採過去問の文学史・漢字について、実際に解き傾向を掴んだり、自己の課題を把握する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】志望自治体の過去問（国語関連）を計画的に解き、授業に臨む。
【復】授業で学修した内容を定着させる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２２回　小論文の書き方②（実際に書き、班で読み合い、推敲する。）、一般・専門教養②（ことわざ・故事成語、漢字）

【key words】
小論文、ことわざ、故事成語、漢字
【授業概要】
①　教採過去問の小論文の構成、肉付け、推敲等について、実際に小論文を書き、理解する。
②　教採過去問のことわざ・故事成語、漢字について、実際に解き傾向を掴んだり、自己の課題を把握したりする。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】受験志望自治体の過去問（国語関連、面接）を計画的に解き、授業に臨む。
【復】授業で学修した内容を定着させる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２３回　学習指導案事前検討会（物語文４年「一つの花」：授業者は代表学生１名）

【key words】
模擬授業（物語文「一つの花」）、学習指導案事前検討会
【授業概要】
①　学生が進行し学習指導案の検討会を行う。（授業者の説明→参観者の質問・意見→教員の指導助言）
②　戦争・平和教材の指導方法例について理解する。
③　学習指導案の基本的な書き方を復習する。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】４年上「一つの花」を熟読し、授業に臨む。
【復】今西祐行の他の作品を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２４回　模擬授業⑥（物語文４年「一つの花」：授業者は代表学生１名）

【key words】
模擬授業（物語文「一つの花」）、授業研究会
【授業概要】
①　模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②　必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。
③　模擬授業は、対面・遠隔のどちらでもできるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】授業者は模擬授業準備を万全に行う。特にシミュレーションを複数回重ね臨む。
【復】授業者は、授業検討会で出たアドバイスを整理し、次回の模擬授業に活かす。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

	第２５回	教師の話し方・聞き方（実際の生活指導場面を提示し、児童に伝わる話し方・児童が安心する聞き方について協議する。） 【key words】 伝わる話し方、受容的な聞き方 【授業概要】 ①　面接試験での話し方・聞き方、礼・挨拶・入退室・姿勢・表情について理解する。 ②　過去に出題された面接質問を用い、実際に個人面接・集団面接の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。 ③　事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。 ④ミニテスト（今までの復習）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】ミニテストの予習を行い、授業に臨む。 【復】自己の話を録音し、良い点と改善点を把握しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２６回	コミュニケーション力の向上、集団討議①（児童、保護者、同僚を想定し、伝わる話し方・聞き方について協議する。） 【key words】 集団討議 【授業概要】 ①　面接試験での話し方・聞き方、礼・挨拶・入退室・姿勢・表情について理解する。 ②　過去に出題された面接質問を用い、実際に個人面接・集団面接の隊形で、受験生役・試験官役となり、　模擬面接を行う。 ③　事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】面接ノートを作成し回答を書きこんでいく。また、友達同士で面接練習をする。 【復】就職センターで保管している先輩の教採報告を読み、面接ノートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２７回	コミュニケーション力の向上、集団討議②（児童、保護者、同僚を想定し、伝わる話し方・聞き方について協議する。） 【key words】 集団討議 【授業概要】 ①　過去に出題された面接質問を用い、実際に集団討議（司会者なし）の隊形で、受験生役・試験官役となり、模擬面接を行う。 ②　事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】面接ノートを作成し回答を書きこんでいく。また、友達同士で面接練習をする。 【復】就職センターで保管している先輩の教採報告を読み、面接ノートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２８回	国語科指導に必要な専門教養①（教採過去問より） 【key words】 専門教養 【授業概要】 ①　過去に出題された面接質問を用い、実際に集団討議（司会者なし）の隊形で、受験生役・試験官役となり、　模擬面接を行う。 ②　事後、全体で検討会を行い、よかった点・改善点を協議する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】面接ノートを作成し回答を書きこんでいく。また、友達同士で面接練習をする。 【復】就職センターで保管している先輩の教採報告を読み、面接ノートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２９回	国語科指導に必要な専門教養②（教採過去問より） 【key words】 専門教養 【授業概要】 ①　過去に出た専門教養（国語）、教職教養（国語）について解かせ、自己の長所や弱点に気付く。 ②　グループ学習も取り入れ、仲間で学び合う雰囲気を醸成する。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】面接ノートを作成し回答を書きこんでいく。また、友達同士で面接練習をする。 【復】就職センターで保管している先輩の教採報告を読み、面接ノートにまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３０回	１年間のまとめ（１年間の学習を振り返りシャトルカードに記入し、学生間で交流を図る。）

	【key words】 国語科指導の心構え、意見交換 【授業概要】 ①　児童に十分な国語科の力を身に付けさせることができる「実践的指導力の基礎」を備えた教師になるための自己課題を考え、発表する。 ②　「日本語力」の解いていない頁を学習する。 ③　国語科指導に関するオススメ図書を紹介しあう。 【教科書ページ・参考文献】 「小学校学習指導要領解説　国語編」、児童用教科書「１年～６年上」教育出版、名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ　日本語力」東京書籍、2012年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】国語科指導に関する図書を調べ、授業に臨む。 【復】国語科に関する図書を春休みに、読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 ・本授業は、対面または遠隔とする。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとること。 ・遠隔授業では、授業の数日前までには授業資料を送信するので、印刷または画面で見られるようにしておく。 ・遠隔授業では、不具合が生じないよう準備する。しかし、遠隔授業中、不具合が生じたらチャット等で担当教員に報告する。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、Webポータル内のスレッドでのコメント（遠隔授業）
授業外時間にかかわる情報	①　教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。 ②　月３冊以上の読書をする。 ③　就職センターで、先輩の教員採用試験報告書を読んでおく。 ④　教科書としてあげた「小学校学習指導要領解説　国語編」「児童用国語科教科書」「日本語力」の３冊は熟読したり、解いておいたりする。 ⑤・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	学期末試験（50%）、学習指導案の作成・模擬授業、提出物（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	１　１　文部科学省：「小学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社、平成29年７月。 ２　田近洵一他：小学校児童用教科書「ひろがる言葉　１年上、２年上、３年上、４年上、５年上、６年上、 計６冊」教育出版 ３　名古屋大学日本語研究会ＧＫ７：「スキルアップ！日本語力」東京書籍、2012年９月
参考書	・牛頭　哲宏・森篤　嗣：「現場で役立つ小学校国語科教育法」ココ出版、2012年　　・桂　聖「『考える音読』の授業　文学アイデア50」東洋館出版社、2011年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として国語科の指導を20年間、教頭職を３年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員への国語科授業の指導を行った。それらの経験を活かし、国語科指導の実践的指導力の基礎を身に付けさせるとともに、小学校学習指導要領及び解説及び、国語科児童用教科書を活用し、具体的に解説する。さらに、学習指導案の書き方について実例をあげたり、学生主体の模擬授業の実施・省察を行ったりするなど、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用

	■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（算数）　　授業コード：S5621

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
片山　哲也			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 小学校の教材に即した指導方法を実践的に深め、指導案を作成して模擬授業ができるようにする。さらに算数教師としての必要な数学的知識・技能の習得を通して、教員採用試験の数学問題に対応できる能力を向上させることを目的とする。 〔到達目標〕 ①指導要領改訂期にあり、現行と新指導要領の改訂ポイントをつかむみ、算数指導に役立てることができる。 ②小学校学習指導要領（算数）の解説書を活用して教材研究ができる。 ③学習指導案の作成の仕方を理解し、模擬授業のための指導案が作成できる。 ④自分で選んだ単元の模擬授業を実施し、わかる授業を行うための創意工夫の仕方がわかる。
授業の概要	授業前半は指導要領の学年別目標の理解と、領域別の指導内容の理解を深め、教科書・教材等を具体的に究明する。これらの成果を生かして、後半は指導案作成と模擬授業を実施し、相互に授業分析等を通して小学校教師としての算数指導力を磨きあう。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	講義・演習　オリエンテーション（到達目標と授業概要、評価方法等） 【key words】 シラバス確認、授業のルール 【授業概要】 小学校指導要領　算数 学年別目標と新指導要領改訂内容、30回分のシラバス確認、小学校算数の基礎（必要な用具、ノート作成、授業のルール、図の活用、ICT活用）について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	講義・演習　小学校指導要領　算数　学年別目標と新指導要領改訂内容 【key words】 新指導要領改訂内容,教材研究の仕方 【授業概要】 前年度「数学概論」ふりかえり

講義・演習　小学校指導要領　算数　学年別目標と新指導要領改訂内容　について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　講義・演習　小学校指導要領　算数　領域別ポイントと新指導要領改訂内容
【key words】

新指導要領改訂内容、授業方法を深めるための教材研究の仕方
【授業概要】

前年度「数学概論」ふりかえり
講義・演習　小学校指導要領　算数　領域別ポイントと新指導要領改訂内容について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第４回　講義・演習　第１・２学年の「数と計算」
【key words】

十進位取り記数法、筆算とアルゴリズム、
【授業概要】

前年度「数学概論」ふりかえり
講義・演習　第１・２学年の「数と計算」の領域内容を理解する。１対１対応、数図ブロックと数図、集合数・順序数、数の合成・分解、加法・減法、求差、求減、求部分等の理解と指導に活用する方法、十進位取り記数法、筆算とアルゴリズム、乗法の意味、乗法九九のＡＶ（アクティブラーニング）について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第５回　講義・演習　第３・４学年の「数と計算」
【key words】

乗法の計算法則、乗法の筆算とアルゴリズム、除法の計算法則,等分除・包含除
【授業概要】

講義・演習　第３・４学年の「数と計算」の領域内容を理解する。万の単位の記数法、数の相対的な大きさ、３位数・４位数の加法減法、乗法の計算法則、乗法の筆算とアルゴリズム、除法の計算法則、除法の筆算、等分除・包含除、小数の仕組み、分数の仕組み、算盤について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　講義・演習　第５・６学年の「数と計算」
【key words】

少数の乗法・除法,通分・約分
【授業概要】

講義・演習　第５・６学年の「数と計算」の領域内容を理解する。偶数・奇数、約数・倍数、整数と小数の十進位取り記数法、少数の乗法・除法、分数の意味、通分・約分、分数の加法−・減法、分数の乗法・除法、文字式、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第７回	講義・演習　第１・２学年の「図形」 【key words】 図形の構成分解 【授業概要】 講義・演習　第１・２学年の「図形」　ものの形、図形の構成分解、三角形や四角形、正方形、長方形直角三角形、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	講義・演習　第３・４学年の「図形」 【key words】 操作活動,見取り図、展開図 【授業概要】 講義・演習　第３・４学年の「図形」二等辺三角形、正三角形、操作活動、コンパスによる作図、平行四辺形、ひし形、台形、立方体、直方体、見取り図、展開図　について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	講義・演習　第５・６学年の「図形」 【key words】 平面図形の性質、多角形、立体図形、平面図形の面積 【授業概要】 講義・演習　第５・６学年の「図形」　平面図形の性質、多角形、立体図形、平面図形の面積、立体図形の体積、縮図、拡大図、対称な図形、円の面積、角柱や円柱の体積について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	講義・演習　第１・２学年の「測定」 【key words】 【Key　words】 直接比較・間接比較,長さやかさの単位と測定、時間の単位 【授業概要】 １・２学年の「測定」量の大きさの直接比較・間接比較、絵や図を用いた数量の表現 長さやかさの単位と測定、時間の単位、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	講義・演習　第３第３学年「測定」・４学年「変化と関係」 【key words】 時刻と時間,簡単な場合についての割合 【授業概要】 講義・演習　第３学年「測定」長さ重さの単位と測定、時刻と時間、 ４学年の「変化と関係」伴って変わる2つの数量、簡単な場合についての割合について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ 【教科書ページ・参考文献】 】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　講義・演習　第５・６学年の「変化と関係」
【key words】

割合、比例、反比例、比
【授業概要】

講義・演習　第５・６学年の「変化と関係」伴って変わる2つの数量の関係・比例、異種の2つの量の割合、割合、比例、反比例、比、について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　講義・演習　第１・２学年の「数量関係」
【key words】
データの活用,簡単な表やグラフを読む力

【授業概要】

講義・演習　第１・２学年の「データの活用」絵や図を用いた数量の表現、簡単な表やグラフを読む力について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　講義・演習　第３・４学年の「データの活用」
【key words】

データの分類整理、統計データの特徴
【授業概要】

講義・演習　第３・４学年の「データの活用」表と棒グラフ、データの分類整理、統計データの特徴を読み取り判断することについて理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　講義・演習　第５・６学年の「データの活用」
【key words】

測定値の平均、データの考察、起こりうる場合
【授業概要】

講義・演習　第５・６学年の「データの活用」円グラフや帯グラフ、測定値の平均、データの考察、起こりうる場合について理解し、授業方法を深めるための教材研究の仕方をつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　後半授業オリエンテーション　模擬授業（師範授業）
【key words】

指導案の実際、単元構想の実際
【授業概要】

後半授業オリエンテーション　模擬授業（示範授業）指導案の実際、単元構想の実際、展開例、予測される発言についてつかむ

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検

定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　模擬授業の分担計画と指導案作成準備
【key words】

指導案の構成要素
【授業概要】

模擬授業の分担計画と指導案作成準備

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　指導案作成の実際　１
【key words】

単元構想
【授業概要】

指導案作成の実際　１　１年から６年まで領域別に担当グループを作り単元構想、指導案作成

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　指導案作成の実際　２
【key words】

評価の方法
【授業概要】

指導案作成の実際　２　学習評価の方法を踏まえて、実際に指導案を作成し、グループごとに事前検討会を行う

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２０回　指導案作成の実際　３
【key words】

事前検討会の方法
【授業概要】

指導案作成の実際　３　事前検討会を経て、指導案を完成させる

【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第２１回　「数と計算」領域に関する模擬授業の展開１
【key words】
模擬授業,授業研究会
【授業概要】

「数と計算」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価）
【教科書ページ・参考文献】

小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第２２回　「数と計算」領域に関する模擬授業の展開２ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「数と計算」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２３回　「量と測定」領域に関する模擬授業の展開１ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「図形」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２４回　「量と測定」領域に関する模擬授業の展開２ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「図形」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２５回　「図形」領域に関する模擬授業の展開１ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「測定」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　「図形」領域に関する模擬授業の展開２ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「変化と関係」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　「数量関係」領域に関する模擬授業の展開１ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「データの活用」領域に関する模擬授業の展開１、代表授業と授業研究会（学習評価と授業評価） 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検

	定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　「数量関係」領域に関する模擬授業の展開２ 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 「データの活用」領域に関する模擬授業の展開２、代表授業と授業研究会 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　模擬授業の分析、指導案の改善 【key words】 模擬授業,授業研究会 【授業概要】 模擬授業の分析、指導案の改善 【教科書ページ・参考文献】 小学校指導要領解説　算数　　新学習指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍）　小学校検定済み教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　指導案、ノート、模擬授業の反省等の提出 【key words】 成果と課題 【授業概要】 １年間のまとめ（特に模擬授業や教材研究について振り返り、成果と課題について、学生間で意見交換を行う。） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 授業中の発言、回答などは教師としての必要な資質である話術の鍛錬の時と考えて発言すること。不明瞭、無表情は禁物 〔受講のルール〕 ＊主体的に授業参加をすること。教師としての基礎基本は何かを考えて授業参加すること。自ら課題解決の方策を見出し、自己教育能力を伸ばすこと。後半の模擬授業実施時は受講生は小学生として参加する。文具やノートも小学生と同じものを使います。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・教員採用試験に関する資料を配布するので、試験対策も併行して行うこと。 ・模擬授業実施に当たっては先輩模擬授業を参考にすること。
オフィスアワー	質問・意見・感想等はコメントカードに記入して授業後に提出すること。後日回答します。
評価方法	・授業ノート（板書・問題解答）をレポートとする。４０％ ・模擬授業の充実度（指導案、教材準備、授業態度、発問等の指導力）３０％ ・授業への積極性３０％
教科書	・小学校学習指導要領解説　算数編 ・文部省検定済教科書　模擬授業実施学年のものは各自購入する（分担が決まったら一括購入します） ・文部科学省平成２９年度告示準拠「小学校指導要領解説　算数遍」東洋出版社 小学校児童用教科書「あたらしい算数　１年上下、２年上下、３年上下、４年上下、５年上下、６年上下」
参考書	新指導要領のポイントと授業づくり（東京書籍） 廣田敬一著「算数の基礎基本を楽しく学べる授業」（教育出版）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教員（担任）として１５年、中学校数学教師として４年、管理職として１０年、市教育委員会学校教育課長として３年など小学校及び中学校数学教育に携わり、退職後は市教育研究研究所所長として教員研修にも深くかかわった。また、社会教育に１０年携わり、とりわけ青少年の健全育成の施策振興を主に担当した。

	実務経験を活かし、示範授業も十分取り入れ、体験的に授業指導法を学ぶ機会とし、指導案を作成方法し、学生各自模擬授業が実践できるようにする。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（図工）　　授業コード：S5661

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
関根　和子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 図画工作科の指導に必要な知識・技能を講義、教材研究（製作実技）、模擬授業等を通して習得する。 【到達目標】 ①「造形教育の基礎理論」や「図画工作科学習指導要領」について理解することができる。 ②図画工作科の教科の特質上、「つくってみることによる教材研究」を実施することから、教材の概要をとらえたり、子どもを想像し学習活動が構想できるようになる。 ③指導案の作成、模擬授業、授業研究会の実践を通して、図画工作科の授業の指導力を身に付けることができる。
授業の概要	図画工作科では子どもの思いや考えを大切にしながら、よりよい題材を設定し、授業の構想を練る方法を学ぶ。また、現場で用いる多様な教材、素材、用具にできるだけたくさん触れ、教材作り、教材開発、教材研究を行う。学習指導案の作成、模擬授業、授業研究を行い、実践力を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　造形活動の意義 【key words】 アイスナー、エッセンシャリズム、コンテクスチャリズム、自己決定の連続、子ども一人一人に正解がある 【授業概要】 ○科目の位置づけとシラバスの説明　（授業概要の説明、実技実習の準備等の確認） ○造形活動の意義　（ アイスナーの考え方、　図画工作科の性格　） 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　理解できた項目に○印をつけ、理解しにくかった項目について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	学習指導要領の概要（図画工作科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い　） 【key words】 Ａ表現、Ｂ鑑賞、〔共通事項〕、造形遊び、絵や立体、工作、領域、発想や構想の能力、創造的な技能 【授業概要】 ○図画工作科の内容　（内容の構成、「Ａ表現」の内容、Ｂ鑑賞」の内容，〔共通事項〕の内容）　○「Ａ表現」の（１）造形遊びと（２）絵や立体、工作の相違点、各学年の内容 指導計画の作成と内容の取り扱い 【教科書ページ・参考文献】 小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　図画工作編　Ｐ１１～２０　Ｐ５７～６６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　理解できた項目に○印をつけ、理解しにくかった項目について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分

第３回　「造形遊び」の授業の実際　（造形遊びの特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
造形遊び　自主性　創造性　意図的学習　発想　構想
【授業概要】
「造形遊び」の授業
○造形遊びの特質　意図的学習としての造形遊び　造形遊びで目指す能力　○題材化の視点　造形遊びの材料・場所・用具　○各学年の造形遊び
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ４２～５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った造形遊びの題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　「絵に表す」の授業の実際（絵に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
心象表現　適応表現　試行錯誤
【授業概要】
「絵に表す」の授業
①「絵に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　試行錯誤　②題材化の視点　子どもの絵の発達　生活画　想像画　観察画　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ５５～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　「立体に表す」の授業の実際（立体に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
心象表現　適応表現　素材性　試行錯誤　立体性　触知性
【授業概要】
「立体に表す」の授業
①「立体に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　立体性　素材性　触知性　試行錯誤　②題材化の視点　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ６８～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　「工作に表す」の授業の実際（工作に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
心象表現　適応表現　素材性　試行錯誤
【授業概要】
「工作に表す」の授業
①「工作に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　試行錯誤　②題材化の視点　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ８１～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　「鑑賞」の授業の実際（鑑賞活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
鑑賞　表現活動に直接結びついた鑑賞　導入時の鑑賞　完成作品の相互鑑賞　独立した鑑賞
【授業概要】
鑑賞の授業
①鑑賞活動の特質　鑑賞とは　鑑賞の意義　②題材化の視点　表現活動に直接結びついた鑑賞　導入時の鑑賞　完成作品の相互鑑賞　独立した鑑賞　③各学年の鑑賞活動のポイント
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ９５～１１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った鑑賞の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　授業の組み立てと学習指導案の書き方（授業組み立てのプロセス、題材設定、授業の構想、授業プラン等）
【key words】
キット教材　目標と評価　図工科の授業のプロセス　教材研究　授業の構造
【授業概要】
授業の組み立てと学習指導案　①図画工作科における授業の特色　子どもの思いや考えを大切にする図画工作　図画工作科の授業構造　②授業組み立てのプロセス　学習指導案の作成方法
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った教材の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

	第９回	教材研究の方法　（各自が選んだ題材について、つくってみることによる教材研究〔製作実技〕をし、題材の概要を把握する。） 【key words】 つくってみることによる教材研究　　児童の実態　　教材観　　題材の目標　　評価規準 【授業概要】 ①教材研究　　○木切れを使った教材研究　　○段ボール、割ピン、ダンボールカッターを使った教材研究　②学習指導案の作成　　児童の実態　　教材観　　題材の目標　　評価規準 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　学習指導案作成のための資料を収集する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１０回	学習指導案作成　（造形遊びの中で、各自が選択した題材について、学習導案を作成する。） 【key words】 児童の実態　　教材観　　共通事項　　題材の目標　　評価規準　　導入段階　　展開段階 【授業概要】 学習指導案の作成 ・題材名　　・教材観(題材について)　　・児童の実態　　・共通事項　　・題材の目標 ・評価規準について　　・指導計画　　本時の学習　　(本時の目標，準備，　本時の展開　) 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　指導案の原案を作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１１回	学習指導案作成　（各自が選択した題材について、学習指導案を作成する。） 【key words】 児童の実態　　教材観　　共通事項　　題材の目標　　評価規準　　導入段階　　展開段階 【授業概要】 学習指導案の作成 ・題材名　　・教材観(題材について)　　・児童の実態　　・共通事項　　・題材の目標 ・評価規準について　　・指導計画　　本時の学習　　(本時の目標，準備，　本時の展開　) 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　指導案の原案を作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１２回	模擬授業＆授業研究会①　　（造形遊び）　　１，２年　　「ならべて　つんで」 【key words】 不揃いの木切れ　　並べる　　積む　　発想　　構想 【授業概要】 ○模擬授業の展開　　題材名「ならべて　つんで」　造形遊び　１，２年　導入段階　　展開段階　まとめの段階　　○授業研究会　【話し合いの視点】　木切れを並べたり積んだりして思い付いたものをつくる活動が楽しめたか。 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　低学年の他の造形遊びの活動について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１３回	模擬授業＆授業研究会②　　（造形遊び）　　３，４年　「切ってつないで大へんしん」 【key words】 ダンボール紙　ダンボールカッター　　割りピン　ボルト・ナットー・ワッシャー　面白い形の変身 【授業概要】 ○模擬授業の展開　　題材名「切ってつないで大へんしん」　造形遊び　３，４年　導入段階　展開段階　まとめの段階　○授業研究会　【話し合いの視点】切った紙をつなぐことから面白い形の変身を思い付き、工夫し、活動が楽しめたか。 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　　中学年の他の造形遊びの活動について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１４回	教材研究　　紙工作の指導方法　１，２年　　「まどをひらいて」　　用具の使い方（カッターナイフ、はさみ、定規、糊等） 【key words】 空間や場所に働きかける　　不要になった傘　　発想　　場所の変化 【授業概要】 ○模擬授業の展開　　題材名「ひらいてみると」　５，６年　造形遊び　導入段階　展開段階　まとめの段階○授業研究会　【話し合いの視点】傘を使って空間に働き掛けて場所の変化を楽しんだり、自分たちの思いを表せたか。 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　高学年の他の造形遊びの活動について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第１５回	教材研究　　紙工作の教材開発　３，４年　　「幸せを運ぶカード」　　飛び出す仕組みから面白い仕組みを考える

【key words】
平面の紙を折って立体化する　　紙を立たせる工夫　　用具の使い方
【授業概要】
○紙工作の指導法　　１，２年　「おってたてたら」　紙を折って立てた形から思いついたものをつくる。
○用具の正しい使い方　（はさみ、カッターナイフ、定規、糊）
○低学年の紙の様々な技法　　参考作品の製作
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書　「ずがこうさく」　１，２年上　日本文教出版　Ｐ２０～２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　どのような参考作品を作るかアイディアスケッチをしてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１６回　教材研究　　絵に表す活動の教材開発　５，６年　　「墨による表現」　墨と水、用具による表現の可能性を探る。
【key words】
郷土やわが国の伝統と文化　　水墨画　　墨や用具を使った表し方の工夫
【授業概要】
○水墨画の鑑賞　　伝統と文化のよさを味わう。
○墨と水、用具の使い方をいろいろ試しながら自分の世界を表現する。
○色々な用具を試したり表し方を工夫したりして授業を構想する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書「図画工作」５，６年下　日本文教出版　Ｐ２２～２３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　墨による表現の可能性をワークシートにまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１７回　教材研究　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で各自が選択した題材について、教材研究をする。）
【key words】
つくってみること（表現すること）による教材研究　　授業の構想
【授業概要】
○絵や立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について教材研究をする。
【教科書ページ・参考文献】
○各自が選択した学年、題材について、教科書や指導書の「授業の実際」を参照する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習・予習　　材料・用具について教材研究のまとめをするとともに、児童を想定して、適切なものはないか教材研究を深める。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１８回　学習指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、学習指導案を作成する。）
【key words】
教材研究　　教材観　　児童の実態　　支援の工夫　　展開　　評価
【授業概要】
○絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、学習指導案を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
○各自の題材について、実践事例を参考にする。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　教材研究をもとに、学習指導案を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１９回　学習指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、学習指導案を作成する。）
【key words】
本時の展開　　導入の工夫　　教材・教具の作成
【授業概要】
○模擬授業の学習指導案を完成させる。
○本時の展開に必要な教材・教具を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書　日本文教出版株式会社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　　模擬授業で使用する教材・教具を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２０回　模擬授業＆授業研究会③　（絵に表す）　　３，４年　「まぼろしの花」
【key words】
絵に表す活動　　想像画　　導入　　発想　　材料・用具の工夫
【授業概要】
○不思議な球根や種から咲く、誰も見たことのないまぼろしの花を、想像を広げて絵に表す模擬授業を行う。
○発想のきっかけとなる手立ての工夫や創造的な技能を育む支援のあり方を検討する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書「図画工作」３，４年下　日本文教出版株式会社　Ｐ１６～１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　模擬授業において有効だった手立てや改善点をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　模擬授業＆授業研究会④　（絵に表す）　　５，６年　「心のもよう」
【key words】
絵に表す活動　　表し方や組合せの工夫　　人の感情と色
【授業概要】

○自分の気持ちをいろいろな形や色で表すことを楽しみ、表し方や組合せを考え、工夫して表す「心のもよう」の題材の模擬授業を行う。
○導入の言葉かけや材料・用具の設定と発想や表現の広がりについて検証する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書「図画工作」５，６年上　日本文教出版株式会社　Ｐ８～９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　模擬授業において有効だった手立てや改善点をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２２回　模擬授業＆授業研究会⑤　（立体に表す）　１，２年　「ごちそうパーティーをはじめよう」
【key words】
立体に表す　手や指を使った表現　イメージをふくらませる　導入
【授業概要】
○いろいろな食べ物の形を思い浮かべて、粘土を丸めたりつまんだりして工夫しながらつくるという題材の模擬授業を行う。
○好きなものを友達とどんどんつくっていくことに楽しさを見いだせる題材であったか、導入の手立ては、発想を豊かにすることにつながったか検証する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書「ずがこうさく」１，２年上　日本文教出版株式会社　Ｐ２８～２９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　模擬授業において有効だった手立てや改善点をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２３回　模擬授業＆授業研究会⑥　（工作に表す）　１，２年　「まどをひらいて」
【key words】
工作に表す　カッターナイフの安全な使い方の指導　導入の工夫
【授業概要】
○カッターナイフを使って窓のある家をつくるという題材の模擬授業を行う。
○カッターナイフを安全に使い、工夫して窓の形を切ることができるようにするための手立てを検証する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書「ずがこうさく」１，２年下　日本文教出版株式会社　Ｐ１６～１７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　模擬授業において有効だった手立てや改善点をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２４回　模擬授業＆授業研究会⑦　（工作に表す）　３，４年　「コロコロガーレ」
【key words】
工作に表す　転がして遊ぶ仕組み　つくりたいもののイメージ　発想　材料・用具の扱い方
【授業概要】
○ビー玉が転がり落ちる仕組みに関心をもち、いろいろな方法や飾りを考えながら、楽しい転がり方を工夫して迷路をつくるという「コロコロガーレ」の題材の模擬授業を行う。
○仕組みに興味をもたせる導入の手立てや自他の作品のよさや工夫を感じたり確かめ合ったりする鑑賞の設定を検証する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書「図画工作」３，４年下　日本文教出版株式会社　Ｐ１４～１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　模擬授業において有効だった手立てや改善点をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２５回　模擬授業＆授業研究会⑧　（工作に表す）　５，６年　「伝え合いたい思いや気持ち」
【key words】
工作に表す　分かりやすく伝える　多様な材料・用具の設定
【授業概要】
○学校や身近な場所のよさをプレートや飾りに表し、身近な人に伝えるという「伝えたい思いや気持ち」の題材の模擬授業を行う。
○伝えることに意欲をもたせる導入の工夫、材料・用具を目的や活動方法に合わせて選べるような環境の設定の工夫について検証する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書「図画工作」５，６年上　日本文教出版株式会社　Ｐ４２～４３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　模擬授業において有効だった手立てや改善点をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２６回　模擬授業＆授業研究会⑨　（鑑賞活動）　５，６年　「筆あと研究所」
【key words】
鑑賞　模写　タッチ
【授業概要】
○鑑賞授業のあり方を「筆あと研究所」の題材の模擬授業を模写を通して行う。
○鑑賞の成果を自分の表現に生かすことができるような授業づくりについて研究する。
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書「図画工作」５，６年下　日本文教出版株式会社　Ｐ３４～３５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　鑑賞の授業の意義についてまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第２７回　模擬授業＆授業研究会⑩　（鑑賞活動）　５，６年　「デザインの解剖」
【key words】
鑑賞　佐藤卓（デザイナー）　デザイン
【授業概要】
○デザイナーの佐藤卓さんの「デザインの解剖」シリーズのキシリトールガムを取り上げ、生活

	の中のデザインについて考える鑑賞の授業を担当教諭が行う。 ○鑑賞を通して、身の回りのデザインについて考えるきっかけとなる授業づくりについて検証する。 【教科書ページ・参考文献】 「デザインの解剖」キシリトールガム　　著者　佐藤卓 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　鑑賞の授業を通しての学びをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分 第２８回　教育評価の考え方と方法　○図画工作科の評価と考え方　○評価と評定の実際 【key words】 図画工作科の評価　評価と評定の実際 【授業概要】 ○児童一人一人の学びに寄り添い、そのよさを見ていこうと努力する教師になるためには、自身の教育方法の改善と資質・能力の向上が必要である。 ○３本の柱の具体的な評価について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１３０～１４０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　評価方法についてまとめる 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分 第２９回　児童画の見方・育て方　（低・中・高学年の成長過程における絵画の特徴を把握し、子どもの絵の面白さ、楽しさ、よさを見出す。） 【key words】 発達段階とその特徴　過程の評価 【授業概要】 ○低・中・高学年の成長過程における絵画の特徴を踏まえ、子どもの絵の面白さ、楽しさ、よさを見いだすようにする。 【教科書ページ・参考文献】 「造形表現の指導」(第４版)　建帛社　村内哲二編著　Ｐ１１～２４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　児童画を一枚選択し、感想を書く。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分 第３０回　まとめ　現代の諸相　図画工作科と教師の役割 【key words】 美術教育研究の動き　人間教育としての美術教育　芸術による教育 【授業概要】 ○日本と諸外国における美術教育実践や研究への取り組みについて振り返り、これからの美術教育について考える。 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１６２～１８６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　どんな美術教育を実践していきたいか考えをまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業で使用する資料を事前に配布し、目を通して授業に臨むようにする。また、機会に応じて復習テストを行う。 ○学生一人一人個別に模擬授業の指導を空き時間、放課後等に行う。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、指導案、模擬授業、教材作品等（５０％）
教科書	文部科学省　「小学校学習指導要領解説（図画工作）」　日本文教出版、 山口喜雄・佐藤昌彦・奥村高明編著「小学校図画工作科教育法」　建帛社
参考書	0
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 図画工作科授業の指導力を身に付けることができよう、小学校で担任として図画工作科を担当した経験を活かし、学習指導案の作成、授業実践、授業研究会のあり方について実例を紹介したり、模擬授業研究会を行ったりして具体的に解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（図工）　　授業コード：

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
宗　幸子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 図画工作科の指導に必要な知識・技能を講義、教材研究（製作実技）、模擬授業等を通して習得する。 【到達目標】 ①「造形教育の基礎理論」や「図画工作科学習指導要領」について理解することができる。 ②図画工作科の教科の特質上、「つくってみることによる教材研究」を実施することから、教材の概要をとらえたり、子どもを想像し学習活動が構想できるようになる。 ③指導案の作成、模擬授業、授業研究会の実践を通して、図画工作科の授業の指導力を身に付けることができる。
授業の概要	図画工作科では子どもの思いや考えを大切にしながら、よりよい題材を設定し、授業の構想を練る方法を学ぶ。また、現場で用いる多様な教材、素材、用具にできるだけたくさん触れ、教材作り、教材開発、教材研究を行う。学習指導案の作成、模擬授業、授業研究を行い、実践力を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　　造形活動の意義 【key words】 アイスナー、エッセンシャリズム、コンテクスチャリズム、自己決定の連続、子ども一人一人に正解がある 【授業概要】 ○科目の位置づけとシラバスの説明　（授業概要の説明、実技実習の準備等の確認） ○造形活動の意義　（ アイスナーの考え方、　図画工作科の性格　） 【教科書ページ・参考文献】 小学校図画工作科教育法　Ｐ１～１４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　理解できた項目に○印をつけ、理解しにくかった項目について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分
	第２回	学習指導要領の概要（図画工作科の目標及び内容、指導計画の作成と内容の取扱い　） 【key words】 Ａ表現、Ｂ鑑賞、〔共通事項〕、造形遊び、絵や立体、工作、領域、発想や構想の能力、創造的な技能 【授業概要】 ○図画工作科の内容　（内容の構成、「Ａ表現」の内容、Ｂ鑑賞」の内容，〔共通事項〕の内容）　○「Ａ表現」の（１）造形遊びと（２）絵や立体、工作の相違点、各学年の内容指導計画の作成と内容の取り扱い 【教科書ページ・参考文献】 小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　図画工作編　Ｐ１１～２０　Ｐ５７～６６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習　理解できた項目に○印をつけ、理解しにくかった項目について復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０～１２０分

第３回　「造形遊び」の授業の実際　（造形遊びの特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
造形遊び　自主性　創造性　意図的学習　発想　構想
【授業概要】
「造形遊び」の授業
○造形遊びの特質　意図的学習としての造形遊び　造形遊びで目指す能力　○題材化の視点　造形遊びの材料・場所・用具　○各学年の造形遊び
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ４２～５４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った造形遊びの題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　「絵に表す」の授業の実際（絵に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
心象表現　適応表現　試行錯誤
【授業概要】
「絵に表す」の授業
①「絵に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　試行錯誤　②題材化の視点　子どもの絵の発達　生活画　想像画　観察画　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ５５～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　「立体に表す」の授業の実際（立体に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
心象表現　適応表現　素材性　試行錯誤　立体性　触知性
【授業概要】
「立体に表す」の授業
①「立体に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　立体性　素材性　触知性　試行錯誤　②題材化の視点　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動

【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ６８～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　「工作に表す」の授業の実際（工作に表す活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
心象表現　適応表現　素材性　試行錯誤
【授業概要】
「工作に表す」の授業
①「工作に表す」活動の特質　心象表現　適応表現　試行錯誤　②題材化の視点　材料体験　材料　素材　用具　③各学年の活動

【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ８１～９４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った活動の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　「鑑賞」の授業の実際（鑑賞活動の特質、題材化の視点、各学年の活動）
【key words】
鑑賞　表現活動に直接結びついた鑑賞　導入時の鑑賞　完成作品の相互鑑賞　独立した鑑賞
【授業概要】
鑑賞の授業
①鑑賞活動の特質　鑑賞とは　鑑賞の意義　②題材化の視点　表現活動に直接結びついた鑑賞　導入時の鑑賞　完成作品の相互鑑賞　独立した鑑賞　③各学年の鑑賞活動のポイント
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ９５～１１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った鑑賞の題材をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　授業の組み立てと学習指導案の書き方（授業組み立てのプロセス、題材設定、授業の構想、授業プラン等）
【key words】
キット教材　目標と評価　図工科の授業のプロセス　教材研究　授業の構造
【授業概要】
授業の組み立てと学習指導案　①図画工作科における授業の特色　子どもの思いや考えを大切にする図画工作　図画工作科の授業構造　②授業組み立てのプロセス　学習指導案の作成方法
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　実践してみたいと思った教材の題材をまとめる。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　教材研究の方法　（各自が選んだ題材について、つくってみることによる教材研究〔製作実技〕をし、題材の概要を把握する。）
【key words】
つくってみることによる教材研究　児童の実態　教材観　題材の目標　評価規準
【授業概要】
①教材研究　○木切れを使った教材研究　○段ボール、割ピン、ダンボールカッターを使った教材研究　②学習指導案の作成　児童の実態　教材観　題材の目標　評価規準
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案作成のための資料を収集する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１０回　指導案作成　（造形遊びの中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
児童の実態　教材観　共通事項　題材の目標　評価規準　導入段階　展開段階
【授業概要】
学習指導案の作成
・題材名　・教材観(題材について)　・児童の実態　・共通事項　・題材の目標
・評価規準について　・指導計画　本時の学習　（本時の目標，準備，　本時の展開　）
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案の原案を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１１回　指導案作成　（各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
児童の実態　教材観　共通事項　題材の目標　評価規準　導入段階　展開段階
【授業概要】
学習指導案の作成
・題材名　・教材観(題材について)　・児童の実態　・共通事項　・題材の目標
・評価規準について　・指導計画　本時の学習　（本時の目標，準備，　本時の展開　）
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　指導案の原案を作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１２回　模擬授業＆授業研究会①　（造形遊び）　１，２年　「ならべて　つんで」
【key words】
不揃いの木切れ　並べる　積む　発想　構想
【授業概要】
○模擬授業の展開　題材名「ならべて　つんで」　造形遊び　１，２年　導入段階　展開段階　まとめの段階　○授業研究会　【話し合いの視点】　木切れを並べたり積んだりして思い付いたものをつくる活動が楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　低学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１３回　模擬授業＆授業研究会②　（造形遊び）　３，４年　「切ってつないで大へんしん」
【key words】
ダンボール紙　ダンボールカッター　割りピン　ボルト・ナットー・ワッシャー　面白い形の変身
【授業概要】
○模擬授業の展開　題材名「切ってつないで大へんしん」　造形遊び　３，４年　導入段階　展開段階　まとめの段階　○授業研究会　【話し合いの視点】切った紙をつなぐことから面白い形の変身を思い付き、工夫し、活動が楽しめたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　中学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１４回　教材研究　紙工作の指導方法　１，２年　「まどをひらいて」　用具の使い方（カッターナイフ、はさみ、定規、糊等）
【key words】
空間や場所に働きかける　不要になった傘　発想　場所の変化
【授業概要】
○模擬授業の展開　題材名「ひらいてみると」　５，６年　造形遊び　導入段階　展開段階　まとめの段階○授業研究会　【話し合いの視点】傘を使って空間に働き掛けて場所の変化を楽しんだり、自分たちの思いを表せたか。
【教科書ページ・参考文献】
小学校図画工作科教育法　Ｐ１４７～１６２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習　高学年の他の造形遊びの活動について調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１５回　教材研究　紙工作の教材開発　３，４年　「幸せを運ぶカード」　飛び出す仕組みから面白い仕組みを考える
【key words】
平面の紙を折って立体化する　紙を立たせる工夫　用具の使い方
【授業概要】
○紙工作の指導法　１，２年　「おってたてたら」　紙を折って立てた形から思いついたものをつくる。
○用具の正しい使い方　（はさみ、カッターナイフ、定規、糊）
○低学年の紙の様々な技法　参考作品の製作
【教科書ページ・参考文献】
児童用教科書　「ずがこうさく」　１，２年上　日本文教出版　Ｐ２０～２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習　どのような参考作品を作るかアイディアスケッチをしてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
６０～１２０分

第１６回　教材研究　紙工作の教材開発　５，６年　「おどれ！わりピンキャラクター」　紙工作の面白い立体化の仕組みを考える。
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　教材研究　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で各自が選択した題材について、教材研究をする。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　指導案作成　（絵、立体、工作、鑑賞の内容の中で、各自が選択した題材について、指導案を作成する。）
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　模擬授業＆授業研究会③　（絵に表す）　３，４年　「まぼろしの花」
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　模擬授業＆授業研究会④　（絵に表す）　５，６年　「物語から広がる世界」
【key words】
【授業概要】
【教科書ページ・参考文献】
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　模擬授業＆授業研究会⑤　（立体に表す）　１，２年　「ごちそうパーティーをはじめよう」
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　模擬授業＆授業研究会⑥　（工作に表す）　１，２年　「おってたてたら」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　模擬授業＆授業研究会⑦　（工作に表す）　３，４年　「サクサク　小刀名人」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　模擬授業＆授業研究会⑧　（工作に表す）　５，６年　「伝え合いたい思いや気持ち」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　模擬授業＆授業研究会⑨　（鑑賞活動）　１，２年　「でこぼこ　はっけん」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　模擬授業＆授業研究会⑩　（鑑賞活動）　５，６年　「何をかいているのかな？」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２８回　教育評価の考え方と方法　○図画工作科の評価と考え方　○評価と評定の実際

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２９回　児童画の見方・育て方　（低・中・高学年の成長過程における絵画の特徴を把握し、子どもの絵の面白さ、楽しさ、よさを見出す。）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３０回　まとめ　現代の諸相　図画工作科と教師の役割

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	○実技製作のある日は、汚れても構わぬ服装・体育着で受講すること。 ○はさみ、２Ｂ鉛筆を用意すること。 ○授業終了後、当番制で机ふき、黒板ふき等簡易清掃を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○次回の授業で使用する資料を事前に配布し、目を通して授業に臨むようにする。また、機会に応じて復習テストを行う。 ○学生一人一人個別に模擬授業の指導を空き時間、放課後等に行う。
オフィスアワー	毎時間授業終了後３０分まで対応可能
評価方法	定期試験（５０％）、指導案、模擬授業、教材作品等（５０％）
教科書	文部科学省　「小学校学習指導要領解説（図画工作）」　日本文教出版、　新井哲夫編著「小学校図画工作の指導」　建帛社
参考書	0
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 図画工作科の授業の指導力を身に付けることができよう、小学校で担任として図画工作科を担当した経験を活かし、指導案の作成、授業実践、授業研究会のあり方について、実例を紹介したり、模擬授業の実践を通して具体的に解説する。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 小学校教科教育法（体育）　　授業コード：S5681

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
櫻井　秀雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校体育科の指導について必要な知識･技能を学び、実践できることを目的とする。、 【到達目標】 ①心と体を一体として捉え、運動や健康･安全についての理解ができる。 ②積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる指導技術を具体的にできる。 ③健康的な明るい豊かな生活を営む態度を身につけることができる。
授業の概要	基本の運動、ゲーム、体つくり、器械運動、陸上運動、水泳、ボール運動、表現運動、保健の各領域に関する教材の指導方法を理論、実技で学び、模擬授業での指導研究を通しながら教育内容を理解し、実践的な問題を本質的に捉える基礎能力を高める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（体育の概念、学習指導要領の変遷、総則と体育、スポーツ基本法） 小学校教科教育法（体育）とは 【key words】 【key words】教育　体育 【授業概要】 【授業概要】科目の位置づけとシラバスの説明。初等科体育改訂経緯、趣旨、要点の説明、体育の概念、総則と体育、スポーツ基本法と学校体育等の概要を通じて初等科体育の目的について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ1～ｐ5 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「体ほぐし運動」について学習しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	体つくり運動①（体ほぐし運動）　体ほぐし運動のねらい、運動の具体例 【key words】 【key words】体を動かす楽しさ　心地よさ 【授業概要】 【授業概要】手軽な運動や律動的な運動（のびのびとした運動、リズムに乗った運動、ペアでのストレッチ運動、伝承遊びや集団での運動遊び等）を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことによって、自分の体の状態に気づき、体の調子を整えたり、仲間と豊かに交流したりすることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 12,13､23、40、62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「多様な動きをつくる運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　体つくり運動②（多様な動きをつくる運動）　多様な動きをつくる運動のねらい、運動の具体例

【key words】
【key words】バランス　移動　操作　力試し

【授業概要】
【授業概要】体のバランスをとったり（姿勢や方向を変えておこなう運動）、移動をしたりする動き（速さ、リズム、方向を変えて体を移動する運動）や、用具を操作したり（用具を掴んだり、くぐりぬけたりする運動）力試しをしたり（人を押す、引く、運ぶ、支える運動）する動きを、意図的に育む運動遊びを通じて、体の基本的な動きを総合的に身につけることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 24､41、
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「体力を高める運動」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　体つくり運動③（体力を高める運動）　体力を高める運動のねらい、運動の具体例

【key words】
【key words】　体力　力試し　持続性

【授業概要】
【授業概要】「多様な動きをつくる運動」で身につけた動きや動きの組み合わせを基に、体力の必要性や体力を高めるための運動（体の巧みな動き、力強い動きや持続する能力を他かむる動きの運動）のおこない方を理解し、自己の体力に応じて体力つくりが実践できることを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 62-p63
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「体つくり運動」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　体つくり運動④（体つくり運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究

【key words】
【key words】　体つくり運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】体つくり運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になる、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 86-p90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（マット運動）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　器械運動①（マット運動）　マット運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント

【key words】
【key words】　回転　腕支持　倒立　バランス

【授業概要】
【授業概要】ゆりかご、前転、後転、側転などマットを使用した運動を学ぶ中で、前転では、背支持倒立の練習を活かした大きな回転へ、後転では腰の持ち上げ、両手の押しを意識させ、側転では、下を見ての支持での回転と倒立との関連など発展した技術への段階的指導を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 28,44,65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（鉄棒運動）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　器械運動②（鉄棒運動）　鉄棒運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント

【key words】
【key words】　振動　腕支持　回転

【授業概要】
【授業概要】前方回転、後方回転、こうもり、逆上がり等鉄棒での回転、支持した運動を学ぶ。前方回転では、前まわりおり、抱え込みまわり、後方回転では、足ぬきまわり、逆上がり、後方膝かけ後転、こうもりでは、足ぬき回り、膝掛け下がり振りを学び、関連する発展した技術の段階的指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 28,45,66

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動（跳び箱運動）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　器械運動③（跳び箱運動）　跳び箱運動の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】踏切　支持　着地　回転　切り返し

【授業概要】
【授業概要】またぎ越しや台上前転、はね跳び等、跳び箱を飛び越す運動を学ぶ。またぎ越しでは、馬跳び、ウサギ跳びなどの習熟から開脚跳び、台上前転、跳ね跳びでは、重ねたマットでの前転から台上前転や跳ね跳びへの発展など関連した技術の段階指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ16-17、28、67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「器械運動」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　器械運動④（器械運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　器械運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】器械運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動」について学んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１０回　陸上運動①（走の運動）　短距離･リレーの指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　リズム　フォーム　ダッシュ　記録　達成感

【授業概要】
【授業概要】かけっこ、リレー、では調子よく走り、一定の距離を全力で、リズミカルに走ることを学ぶ。また、走る距離やバトンパスなどのルールを定めて競走したり、自己（チーム）の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指しながら一定の距離を全力で走ることや、計測、スタートの指導方法も習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ30,47、69
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動（短距離走）」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　陸上運動②（跳の運動）　幅跳び・ハードル走の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　リズム　フォーム　ハードル　記録　達成感

【授業概要】
【授業概要】インターバルの距離やハードルの台数などのルールを定めて競走したり、自己の記録の伸びや目標とする記録の到達を目指しながら、ハードルをリズミカルに走り越えることを学ぶ。また、計測やスタートの指導方法もあわせて習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ30、48、70

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「陸上運動（走・跳）」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１２回　陸上運動③（陸上運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　陸上運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【
【授業概要】
【授業概要】陸上運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講者になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ86～90

【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　水泳①（基本の動き、水遊び、浮き・泳ぎ運動）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　水慣れ　キック（ばた足、かえる足）　呼吸　クロール　平泳ぎ　安全

【授業概要】
【授業概要】　基本の動き（顔つけ、ばた足）水遊び（水に慣れる遊び、浮く・もぐる遊び）浮く･泳ぐ運動（ビート板浮き、けのび、補助具を使用したばた足、かえる足、めんかぶりクロール等）の初歩的な運動をおこない、クロール、平泳ぎへと繋げていく段階的指導のポイントを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ31,32
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳（基礎泳法）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１４回　水泳②（基礎泳法：クロール・平泳ぎ）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　キック（ばた足、かえる足）、呼吸、クロール、平泳ぎ、プル

【授業概要】
【授業概要】クロールでは、呼吸を効率的におこなえるよう、横向き呼吸を取り入れたばた足（ビート板使用）を学び、フォームつくりではローリングの姿勢が自然とできるように泳ぐことを習得する。平泳ぎでは、かえる足の構えや動きを段階的に指導することを学び、「キック・伸び・呼吸」のリズムを習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ49、50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳（応用泳法）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１５回　水泳③（応用泳法：背泳・ターン・飛込み）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　クロール　平泳ぎ　遠泳

【授業概要】
【授業概要】クロールでは、ばた足、プル、伸びをリズミカルに取り入れて、続けて長く泳ぐことを目標とする。また、平泳ぎも、キック、伏し浮き、プル、呼吸をリズミカルに行い、続けて長く泳ぐことを目標とする。心地よく泳いだり、距離を伸ばしたりすることに楽しさや達成感を味わうことを体得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説ｐ71,72
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「水泳」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　水泳④（水泳の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　水泳　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】水泳を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ゴール型）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１７回　ボール運動①（ゴール型：バスケットボール、サッカー）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ゴール型

【授業概要】
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、コート内で攻守が入り混じり、ボールを手や足で操作したり、あいている場所にすばやく動いたりして攻防を組み立て、ゴール

にシュートしたり、陣地を取り合って得点を競うゲームをおこなう。ポートボール、ミニサッカー、ミニバスケットのゲームの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 33、51、73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ネット型
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１８回　ボール運動②（ネット型：バレーボール、バドミントン）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ネット型

【授業概要】
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、ネットで区切られたコートの中で攻防を組み立てながら、自軍から相手コートに向かって相手の取りにくいようなボールを返し、得点を競うゲームをおこなう。ソフトバレーボールのゲームの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 34,52、74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動（ベースボール型）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　ボール運動③（ベースボール型：ソフトボール）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　基本技術　攻撃　守備　ルール　ベースボール型

【授業概要】
【授業概要】ボールゲームや鬼遊びの基本的運動を実施した後、攻守で規則的に交代し合い、一定の回数内で得点を競うゲームをおこなう。三角ベースのコートで、柔らかいボールを打つ簡易ベースボールの指導方法を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 53
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「ボール運動」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２０回　ボール運動④（ボール運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　ボール運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】ボール運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】各グループ作成の指導案
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動（表現・リズム）」について学習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２１回　表現運動①（表現とリズム運動：模倣、表現）の指導ステップ（段階的指導）と指導のポイント
【key words】
【key words】　個性　内面　イメージ　人間性を豊か

【授業概要】
【授業概要】身近にある題材や空想の世界をイメージしながら動きを表現する「表現」や、軽快なリズム感にあわせて全身で踊ったり、友達と自由にかかわりあって楽しく踊る「リズムダンス」を学ぶ。また、「表現遊び、表現リズム遊び」の両方の遊びを豊かに体験する中で、表現運動につながる即興的な身体表現能力やリズムにのって踊る能力、コミュニケーション能力などを習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） p 35,53、75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「表現運動（表現・リズム）」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２２回　表現運動②（表現運動の模擬授業と指導研究）　グループ別模擬授業と授業研究
【key words】
【key words】　表現運動　指導計画　教材　展開　まとめ

【授業概要】
【授業概要】表現運動を、低学年、中学年、高学年に分け、模擬授業をおこなう。実施後、模擬授業の指導案をもとに、授業研究をおこなう。実施者は導入～展開～まとめの内容を約３０分以内で実施、他の学生は受講生になり、授業終了後、グループワーク形式で質疑応答を行い指導方法を習得する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）ｐ86～90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学校実技で実施した教材」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　小学校実技教材・教具の研究とまとめ
【key words】
【key words】　体つくり　教材　教具　工夫

【授業概要】
【授業概要】小学校体育で実技に使用する教材・用具を、低学年、中学年、高学年に分けて、どのように教材・教具として使用すればより効果的な授業展開ができるかを学び、各運動指導の中で効果的な使用方法や工夫の方法をグループワークで研究して発表する。また、その教材の指導方法も合わせて習得する。ＤＶＤ健康･体力づくり視聴覚教材「みんなで楽しく健康つくり」を活用する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：エクササイズでコミュニケーション（健康･体力づくり事業財団）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】「小学校実技で実施した教材」についてまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　課題研究①（準備運動の作成：テーマの設定、事例紹介）
【key words】
【key words】　教材　運動　安全

【授業概要】
【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について、各自テーマを設定して内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２５回　課題研究②（準備運動の作成：ねらい、目的、内容、まとめの計画作成）
【key words】
【key words】　教材　運動　安全

【授業概要】
【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２６回　課題研究③（準備運動の作成：各動きのポイント映写、ＰＰの作成）
【key words】
【key words】　教材　運動　安全

【授業概要】
【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果そして指導方法をわまとめ、受講者本人がモデルとなる映像（ＣＤ－Ｒに収録）を作成して、発表する。
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２７回　課題研究④（準備運動の作成：ＰＰの作成、作品のレポート作成）
【key words】
【key words】　教材　運動　安全

	【授業概要】 【授業概要】今まで学んできた教材に、児童が自ら積極的・意欲的に関わり、効果的な授業に導入できることを目標とした「準備運動」を作成し、その目的、内容、効果、そして指導方法をまとめ、受講者本人がモデルとなる映像（ＣＤ－Ｒに収録）を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究について各自テーマを設定して内容をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２８回　課題研究⑤（研究発表と評価：前半グループ）　個人ごとにｐｐを使用し研究発表　学生の相互評価 【key words】 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】 【授業概要】課題研究として、作成した「効果的な準備運動」を、教材、目的、内容、効果、指導方法を映像（ＣＤ－Ｒに収録）を中心に発表する。質疑応答の中で改めて課題発見に努めるとともに、その課題の解決方法を学ぶ。また、研究発表をレポートとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】「課題発表方法について」についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第２９回　課題研究⑥（研究発表と評価：後半グループ）　個人ごとにｐｐを使用し研究発表　学生の相互評価 【key words】 【key words】　教材　運動　安全 【授業概要】 【授業概要】課題研究として、作成した「効果的な準備運動」を、教材、目的、内容、効果、指導方法を映像（ＣＤ－Ｒに収録）を中心に発表する。質疑応答の中で改めて課題発見に努めるとともに、その課題の解決方法を学ぶ。また、研究発表をレポートとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育編） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】課題研究発表を通じて、効果的な準備運動についてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第３０回　まとめ 【key words】 【key words】　学校　児童　体育　スポーツ　健康 【授業概要】 【授業概要】小学校教科教育法（体育）の目的・内容を確認するとともに、教育現場でどのように実践しているかをテーマとしてまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】教科書：小学校学習指導要領解説（体育）ｐ99～109 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備指示】まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・実技の実践的な学習と模擬授業および指導研究をおこなう。 ・課題研究（作品制作と研究発表）はＣＤに収録する。 ・運動着、運動靴の準備、実技でもメモ用紙は準備する。 〔受講のルール〕 ・着替えは迅速にして授業の用具等の準備をおこなう。 ・教材の整理･整頓、会場の清掃は全員で協力する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	小学校のボランティア活動を積極的に実施し、野外活動やプール指導等でこども達の状況を理解しておく。
オフィスアワー	木曜日　13:00～16:00　他の時間帯を希望する学生はアポイントをいただきたい。
評価方法	筆記試験･レポート試験（50%）　実技試験（50%）　総合評価とする
教科書	文部科学省：小学校学習指導要領解説（体育編）：東洋館出版社：平成29年　高島二郎：小学校体育：玉川大学出版：平成29年

参考書	笹川スポーツ財団：スポーツ白書：2018
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立学校教員（保健体育）21年管理職6年、群馬県教育委員会指導部体育課指導主事（学校体育、生涯体育指導）4年、群馬県スポーツ振興事業団指導主事（小学生にかかわる指導者、母集団養成、親子スポーツ指導）群馬県教育委員会課長補佐（県内市町村教育委員会へ派遣スポーツ指導主事の指導、スポーツ少年団指導者養成講習会、母集団育成講習会講師）2年、群馬県学校体育研究連合会（小・中・高）表彰、群馬県教育長（保健体育）表彰 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　初等教育実習事前・事後指導　　授業コード：S5701

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	-	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育実習に必要な知識・技能を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の概要を理解することができる。 ②観察実習を行い、小学校現場や授業の進め方、児童の理解を図ることができる。 ③各教科、道徳、特別活動、総合等の模擬授業、授業研究を行い、実践的指導力の基礎を身に付けることができる。
授業の概要	1　学習指導、生活指導の基礎基本について学ぶ。 2　現場の教師の学級経営、学習指導、生活指導について、観察・参加し、学ぶ。 3　模擬授業、授業研究等について学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、教育実習の理解①（意義と目的、３年次・４年次の流れ）、実習アンケート、実習書類の確認１ 【key words】 オリエンテーション、シラバス、教育実習の意義と目的、履修の資格者、教育実習の実施 【授業概要】 ①　全30回の概要を知る。また、４年次前期まで続く科目であることを理解する。また、評価方法、予習・復習については詳細を知る。 ②　「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の意義と目的、実習履修の資格者、具体的な教育実習の実施（教育実習前・教育実習中・教育実習後）について、理解する。 ③　母校への教育実習依頼の事務の流れについて理解する。（教委一括依頼〈前橋市・桐生市・伊勢崎市・みどり市等〉には注意する。 ④　学生は、電話で実習校に「実習依頼」を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。 【復】受験自治体の過去問を解く。「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第２回	教育実習の理解②（実習オリエンテーション）、観察実習について（前橋市立小学校にて５・６月実施）、実習アンケートの結果、実習書類の確認２、履修カルテの記入 【key words】 教育実習の心得、観察実習、教員採用試験 【授業概要】 ①　「実習へのガイドブック」を活用し、実習の心得について理解する。実習事務の進行について確認する。 ②　「実習へのガイドブック」を活用し、観察実習の実施や心得について、理解する。

③　教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。
④　「教員養成セミナー」の該当頁の答え合わせをし、解説を聞く。
⑤　電話での実習依頼の内諾を受けたら、教員と学生で正式依頼を文書で行う。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。
【復】自己受験自治体の過去問を解く。「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第３回　小学校教師の基礎基本①（諸注意【SNS,体罰、守秘義務】、児童の心身の発達、教師の一日）
【key words】
個人情報、児童の発達段階、観察実習
【授業概要】
①　教員の体験談より、個人情報、児童の発達段階について理解する。
②　観察実習（全６回）の具体的な日時、配当学年、配慮事項について理解する。
③　実習事務の進行について確認する。
④　受験自治体の一般教養について調べる。
⑤　「教員養成セミナー」の該当頁の答え合わせをし、解説を聞く。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。
【復】自己受験自治体の過去問を解く。「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第４回　小学校教師の基礎基本②（職員・保護者とのコミュニケーション）、実習書類の確認、観察実習に向けての諸注意
【key words】
学習指導案の作成、コミュニケーション力、観察実習
【授業概要】
①　「実習へのガイドブック」を活用し、学習指導案作成の意義、作成方法について理解する。実習事務の進行について確認する。
②　教員の体験談より、職員や保護者とのコミュニケーションについて話し合う。
③　観察実習（全６回）の具体的な日時、配当学年、配慮事項について理解する。
④　ミニテスト（第１～３回のまとめ）を受ける。
⑤　大学推薦について理解する。
⑥　「教員養成セミナー」の該当頁の答え合わせをし、解説を聞く。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。
【復】自己受験自治体の過去問を解く。「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。

【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第５回　観察実習の実施①（前橋市立小学校　低学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間の参観と参加）
【key words】
授業補助、児童理解、教職理解
【授業概要】
①　主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②　授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③　授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④　「授業参観・参加記録」シートを書く。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。
【復】観察実習報告書を作成し、次回授業で提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第６回　観察実習の実施②（前橋市立小学校　低学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間の参観と参加）
【key words】
授業補助、児童理解、教職理解
【授業概要】
①　主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。
②　授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。
③　授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。
④　「授業参観・参加記録」シートを書く。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。
【復】観察実習報告書を作成し、次回授業で提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

	第７回	観察実習の実施③（前橋市立小学校　中学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間の参観と参加） 【key words】 授業補助、児童理解、教職理解 【授業概要】 ①　主に低学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。 ②　授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。 ③　授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。 ④「授業参観・参加記録」シートを書く。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。 【復】観察実習報告書を作成し、次回授業で提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第８回	観察実習の実施④（前橋市立小学校　中学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間の参観と参加） 【key words】 授業補助、児童理解、教職理解 【授業概要】 ①　主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。 ②　授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。 ③　授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。 ④　「授業参観・参加記録」シートを書く。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。 【復】観察実習報告書を作成し、次回授業で提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第９回	観察実習の実施⑤（前橋市立小学校　高学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間、特別支援教育について） 【key words】 授業補助、児童理解、教職理解 【授業概要】 ①　主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。 ②　授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。 ③　授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。 ④「授業参観・参加記録」シートを書く。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。 【復】観察実習報告書を作成し、次回授業で提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１０回	観察実習の実施⑥（前橋市立小学校　高学年：朝の会・朝行事・第１～２校時、休み時間、特別支援教育について）） 【key words】 授業補助、児童理解、教職理解 【授業概要】 ①　主に高学年に配属し、授業観察または担任から指示された補助を行う。 ②　授業だけでなく、朝行事や休み時間にも児童とふれあい、児童理解を深める。 ③　授業以外の教師の活動をよく観察し、教職理解を深める。 ④　「授業参観・参加記録」シートを書く。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を熟読し、授業に臨む。 【復】観察実習報告書を作成し、次回授業で提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１１回	観察実習の報告会①（うまくいったこと・課題等４名が発表） 【key words】 観察実習の省察、プレゼンテーション、討議 【授業概要】 ①　一人ずつ報告（パワーポイントによるプレゼンテーション）をし、全体で協議する。 ②　特に協議では、疑問や課題を解決し、本実習に意欲的に取り組めるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】観察実習報告のプレゼン用パワーポイントを作成し、授業に臨む。 【復】自己受験自治体の過去問を解く。「教員養成セミナー」の指示された頁を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分

	第１２回	観察実習の報告会②（うまくいったこと・課題等６名が発表） 【key words】 観察実習の省察、プレゼンテーション、討議 【授業概要】 ①　一人ずつ報告をし、全体で協議する。 ②　特に協議では、疑問や課題を解決し、本実習に意欲的に取り組めるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】観察実習報告のプレゼン用パワーポイントを作成し、授業に臨む。 【復】自己受験自治体の過去問を解く。「教員養成セミナー」の指示された頁を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１３回	観察実習の報告会③（うまくいったこと・課題等６名が発表） 【key words】 観察実習の省察、プレゼンテーション、討議 【授業概要】 ①　一人ずつ報告をし、全体で協議する。 ②　特に協議では、疑問や課題を解決し、本実習に意欲的に取り組めるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】観察実習報告のプレゼン用パワーポイントを作成し、授業に臨む。 【復】自己受験自治体の過去問を解く。「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１４回	学習指導と生活指導①（具体的な場面、「忘れ物」「学校のきまり」「安全指導」） 【key words】 学習指導、生活指導 【授業概要】 ①　学習指導や生活指導で、採用試験の場面指導をとりあげ、協議する。 ②　教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】受験自治体の場面指導について調べて、授業に臨む。 【復】「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１５回	学習指導と生活指導②（学級経営、「友達のよさを認め合う活動」「休み時間の大切さ」「発達障害」） 【key words】 学習指導、生活指導、学級経営 【授業概要】 ①　学級経営の実践例（友達のよさを認める活動）を知る。 ②　採用試験での面接（学級経営）をとりあげる。 ③　教員採用試験の各自治体の出題傾向、大学推薦について理解する。 ④　ミニテスト（前期まとめ）を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】ミニテストに備え、授業に臨む。 【復】「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１６回	教育実習を迎えるにあたって①（悩みや不安の軽減、コミュニケーション能力） 【key words】 教育実習への不安や悩み、コミュにケーション能力 【授業概要】 ①　教育実習の不安や悩みについて発表、解決策を考える。 ②　実習へのガイドブックを活用し、不安や悩みを軽減する。 ③　ＳＡ制度を活用し、４年先輩より教育実習の体験談やアドバイスを聞く。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】教育実習の不安や悩みをメモし、授業に臨む。 【復】「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１７回	模擬授業①、授業研究会（道徳Ｔ・Ｔ「１年　はしの　うえの　おおかみ」　授業者は代表学生２名）、特別な教科としての道徳 【key words】 模擬授業、授業研究会 【授業概要】 ①　模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・

改善点を出し、教師は最後に補説　・指導をする。
②　対面・遠隔どちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「小学校学習指導要領及び解説、道徳編」、当該指導案の熟読をし、授業に臨む。
【復】「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第１８回　教育実習を迎えるにあたって②（学校組織、学級経営）
【key words】
学校組織、学級経営
【授業概要】
①　教職員名簿、学校組織図より、職名・主任・委員会等学校組織について、学校教育法等と絡めて理解する。
②　「学級だより」「学級経営案」より学級経営について理解する。
③　「学級だより」作成の計画を練る。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】学校教育法の第１～４章まで概観し、特に[職員]第37条、第１条、第11条を確認し授業に臨む。
【復】簡単な学級だより（Ａ４版１枚）を作成し、次回の授業で提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第１９回　模擬授業②、授業研究会（音楽Ｔ・Ｔ　　授業者は代表学生２名）
【key words】
音楽授業、Ｔ・Ｔ
【授業概要】
①　模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②　対面・遠隔どちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「小学校学習指導要領及び解説、音楽編」、当該指導案の熟読をし、授業に臨む。
【復】「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第２０回　教育実習を迎えるにあたって③（４年生の先輩からの教育実習体験を聞く。１～４初等教育コース年合同。）
【key words】
教育実習、実習への準備
【授業概要】
①　ＳＡ制度を活用し、実習を終えた先輩の報告を聞き、自己の悩みや不安、解消方法について知る。
②　はじめ全体会、後半はグループワークを行い、積極的に質問する。

【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】教育実習を迎えるまでに、何を準備すればよいか考え、授業に臨む。
【復】先輩からのアドバイスを整理しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２１回　模擬授業③、授業研究会（外国語科Ｔ・Ｔ　　授業者は代表学生２名）
【key words】
外国語科授業、T・T
【授業概要】
①　模擬授業の実施（45分間）、授業研究会（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。
②　対面・遠隔どちらでも模擬授業ができるようにしておく。
【教科書ページ・参考文献】
・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「学習指導要領及び解説、外国語科編」、当該指導案の熟読をし、授業に臨む。
【復】「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２２回　教育実習を迎えるにあたって④（保育実習との異同）
【key words】
教育実習、保育実習
【授業概要】
①　保育実習と教育実習の類似点と相違点を考える。
②　保育実習の経験が活かせる面について話し合う。（保育実習録を見ながら）
【教科書ページ・参考文献】

		○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】保育実習と教育実習の異同、どのような保育実習経験が教育実習に活かせるか考え授業に臨む。 【復】「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第２３回	教員採用模擬試験（事前学習、事後学習を行い、教員採用試験について理解するとともに自己課題を見つける。） 【key words】 模擬試験、自己課題 【授業概要】 ①　模擬試験を受け、自己の課題に気付き、課題解決を図るようにする。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】模擬試験の準備をして授業に臨む。 【復】模擬試験の問題で間違った所を復習する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第２４回	小学校現場の先輩教師による講話（本学既卒、初任者に、志望動機・教採に向けての勉強方法、教育実習、現場一年目の様子を話してもらう。１～４初等教育コース年合同） 【key words】 教育実習、褒め方・叱り方、現場での体験談 【授業概要】 ①　本学卒の現場教員の体験談を聞く。 ②　教育実習、教員採用試験までに自分は何をすべきか再考する。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】褒め方・叱り方について考えて、授業に臨む。 【復】教育実習、教採に向けての学修計画を再考し、計画書を次時に提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２５回	教育実習を迎えるにあたって⑤（生活指導、具体的な場面での指導を協議する。） 【key words】 生活指導 【授業概要】 ①　私語をなくす方法、忘れ物防止、整列のさせ方等、具体的な生活指導について学ぶ。 ②　朝の会、帰りの会、学級活動等における生活指導について学ぶ。 ③　学習指導と生活指導、学級経営について理解する。 ④　ＳＡ制度を活用し、４年先輩より教育実習の体験談やアドバイスを聞く。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】生活指導で先輩に質問ししたいことをメモし、授業に臨む。 【復】「教員養成セミナー」の指示された頁の問題を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２６回	校長が求める教員像（現場の校長先生の招へい。１～４初等教育コース年合同） 【key words】 望ましい教員像 【授業概要】 ①　元校長を招へいし、校長が求める教員像についての話を聞き、自己の理想像について考える。 ②　ワークシートに学んだことをまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ・群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】校長先生への質問を考え、授業に臨む。 【復】校長先生へのお礼状（ワークシート）を完成し、次時に提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２７回	教育実習を迎えるにあたって⑥（学校事故：具体的な場面での指導を協議する。） 【key words】 危機管理 【授業概要】 ①学校内、通学路での危機管理の実践例を知る。 ②教員採用試験での二次面接で出される質問の回答について、話し合う。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】危機管理の実践例への対応について、考え授業に臨む。 【復】受験自治体の過去問題で、危機管理に関する面接問題を解いておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分

	第２８回　教育実習を迎えるにあたって⑦（実習に必要な教育法令、憲法・教育基本法・学校教育法・地方公務員法等を学ぶ。） 【key words】 教育法令 【授業概要】 ①　教育実習、教員採用試験に必要な教育法令について学ぶ。 ②　特に、日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方公務員法、教育職員特例法等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】日本国憲法、教育基本法、学校教育法、地方公務員法、教育職員特例法を概観して、授業に臨む。 【復】教育法規に関する過去問題を解いておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分 第２９回　教員採用試験合格者体験談（合格した４年先輩からの体験談を聞く。１～４初等教育コース年合同） 【key words】 教員採用試験、体験談 【授業概要】 ①　実際に教採に合格した４年先輩の講話を聞き、今後の学習課題を見つける。 ②　４年生は、パネルディスカッション形式で説明する。１～３年生は、60分程度説明を聞き、その後 　質疑応答に入る。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】教員採用試験や大学推薦に関する質問を考え、授業に臨む。 【復】友達同士で面接練習を行うい、面接ノートによりよい応答を蓄積していく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分 第３０回　１年のまとめ、履修カルテの記入 【key words】 教育実習、教員採用試験、履修カルテ 【授業概要】 ①　面接ノートを学生同士提示し、学びあう。 ②　教育実習や教員採用試験の自己課題をまとめる ③　履修カルテの記載。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」2012年、時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義の中で随時紹介する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】データ送信された、「履修カルテ」を記入し、授業に臨む。 【復】春休みには、自己受験自治体の過去問題や指示された「教員養成セミナー」の頁を解く。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 ・本授業は、対面または遠隔とする。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとること。 ・遠隔授業では、授業の数日前までには授業資料を送信するので、印刷または画面で見られるようにしておく。 ・遠隔授業では、不具合が生じないよう準備する。しかし、遠隔授業中、不具合が生じたらチャット等で担当 　教員に報告する。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、Webポータル内のスレッドでのコメント（遠隔授業）
授業外時間にかかわる情報	①　教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。 ②　月３冊以上の読書をする。 ③　就職センターで、先輩の教員採用試験報告書を読んでおく。 ④　希望教採受験自治体の過去問題集を解いておく。 ⑤　月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	・観察実習への取り組み(３０%)、観察実習報告会（２０％）、ミニテスト（３０%）、授業への取り組み（２０％）
教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/	授業担当教員

リテラシー教育	■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として20年間、教頭職を３年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員への学年・学級経営、初任者研修等の指導を行ってきた。また、教諭・教務主任・教頭として数多くの教育実習生や初任者を迎え指導助言してきた。 それらの経験を活かし、次年度、教育実習を行う学生に「実践的な指導力の基礎」を身に付けさせるため、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 特に、３年次５・６月には、６回程度、近隣の小学校に出向き、学習補助を行い、１年後の教育実習に備える。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学校図書館メディアの構成　　授業コード：S6001

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 司書教諭として、学校図書館メディアの構成（選択・収集・組織・保存等）ができるようになることを目的とする。　〔到達目標〕 ①学校図書館メディアの選択・収集に関する基礎知識を習得する。 ②「日本目録規則1987年版　改訂3版」により学校図書館メディアの目録が作成できる。 ③「日本十進分類法　新訂10版」により学校図書館メディアの分類ができる。
授業の概要	学校図書館メディアの教育的意義・役割及び種類・特性について学習し、その選択・収集・組織・保存等についての理解を図る。特に、各種メディアへのアクセスを容易にするための情報資源組織化の技術について学び、実務能力の養成を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、　学校図書館メディアの教育的意義及び役割 (1)授業概要　配付資料に基づき学校図書館メディアの教育的意義･役割について解説する。 (2)KeyWord　学校図書館メディア (3)教科書ページ　配付資料 (4)課題･予習･復習･授業準備指示　・講義の目標を理解し、なぜ司書教諭資格を取得しようと考えたか、という点を交えて自己紹介が出来るようにしておく。
	第２回	学校図書館メディアの種類と特性 (1)配付資料に基づき学校図書館メディアの種類と特性について解説する。 (2)学校図書館メディア、奥付 (3)配付資料 (4)・奥付とは何かを理解し､実例を挙げられるようにしておく。 ・学校図書館メディアの種類と特性について理解する。
	第３回	学校図書館メディアの選択と構成 (1)配付資料に基づき学校図書館メディアの選択について考察する。 (2)学校図書館メディア、資料選択論 (3)配付資料 (4)・「図書館の自由に関する宣言」に目を通しておく。 ・資料選択方針について理解する。
	第４回	学校図書館メディアの組織化（１）分類の意義と機能 (1)資料分類法の変遷について考察する。 (2)分類、資料分類法 (3)pp6-10,pp184-187 (4)分類とは何か、近代分類法出現以降の主要な分類表のれきしについて理解する。
	第５回	学校図書館メディアの組織化（２）日本十進分類法の概要 (1)日本十進分類法について考察する。 (2)ＮＤＣ (3)pp187-200 (4)類目表、綱目表、要目表について理解する。

	第６回　学校図書館メディアの組織化（３）日本十進分類法の使い方① (1)分類規定について考察し、分類作業を行う。分類･区分の分析的過程について補足する。 (2)ＮＤＣ、ブックトーク (3)pp200-256 (4)分類演習について復習する。 第７回　学校図書館メディアの組織化（４）日本十進分類法の使い方② (1)図書記号法について解説する。 (2)ＮＤＣ、図書記号法 (3)pp256-262 (4)別置法・図書記号法について理解する。 第８回　学校図書館メディアの組織化（５）日本十進分類法の使い方③ (1)図書以外の資料（メディア）の保管と運用について解説詩、考察する。 (2)ＮＤＣ (3)pp263-269 (4)図書以外の資料の保管と運用について理解する。 第９回　学校図書館メディアの組織化（６）件名標目表 (1)基本件名標目表の使い方について解説する。 (2)件名標目、シソーラス (3)pp165-182 (4)主題からのアプローチについて理解する。 第１０回　学校図書館メディアの組織化（７）目録の意義と機能 (1)目録の意義と機能について解説する。特別支援における学校図書館教育について考察する。 (2)目録法 (3)pp13-36 (4)目録とは何かを理解する。 第１１回　学校図書館メディアの組織化（８）日本目録規則の概要 (1)日本目録規則について解説し､考察する。 (2)日本目録規則 (3)pp37-48 (4)目録規則の意義と構成について理解する。 第１２回　学校図書館メディアの組織化（９）日本目録規則の使い方① (1)日本目録規則の使い方について解説し、考察する。 (2)日本目録規則 (3)pp49-134 (4)欧米及び、日本の目録規則の歴史、書誌記録の国際標準化について理解する。 第１３回　学校図書館メディアの組織化（１０）日本目録規則の使い方② (1)日本目録規則の使い方について考察する。 (2)日本目録規則、件名標目表、主題目録法 (3)pp135-163 (4)目録記入の実例集に目を通す。 第１４回　学校図書館メディアの組織化（１１）目録の電算化 (1)国立情報学研究所、国立国会図書館等の書誌情報ネットワークシステムを解説し、目録業務の電算化について考察する。 (2)ＯＰＡＣ、書誌ユーティリティ (3)pp18-33 (4)・身近にあるコンピュータ目録は何かを確認する。 ・コンピュータ目録の作成と検索について理解する。 第１５回　多様な学習環境と学校図書館メディアの配置、　まとめ (1)現在の多様化した学習環境の中で、どのような学校図書館メディアの配置が望ましいかを考察する。 (2)学校図書館メディア、学習環境 (3)全配付資料 (4) 自身が利用してきた学校図書館について、学習環境とメディア配置の特長･改善点について考察し、全講義を振り返る。
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・指定した予習・復習は必ず行うこと。 〔受講のルール〕 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	「日本十進分類法　新訂10版」の第２次区分表（教科書にあり）を暗記すること。
オフィスアワー	授業後３０分程度は対応可能
評価方法	期末筆記試験　８０％、　授業の参加態度　２０％
教科書	志保田務・高鷲忠美編著、平井尊共著『情報資源組織法』（第２版）第一法規（最新版）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 進学塾教務職員として1年間勤務

	公立小中学校の教員でも、学力テスト対策等を行います。日常の教科指導等とのバランスを考えて、学校図書館の活用と連動させ、学力を向上させる手立ても講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 情報メディアの活用　　授業コード：S6011

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 司書教諭として、学校図書館における情報メディアの活用ができるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 ①学校図書館の各種情報メディアの特性とその活用方法を理解できる。 ②データベースの構造を理解できる。 ③情報検索の理論と技法を習得する。 ④著作権法を理解できる。
授業の概要	学校図書館における多様な情報メディアの特性とその活用方法の理解を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　科目オリエンテーション、　メディア専門職としての司書教諭 第２回　高度情報通信社会と学校図書館 第３回　情報メディアの発達 第４回　情報メディアの特性と選択 第５回　視聴覚メディアの活用 第６回　教育用コンテンツの活用 第７回　データベースと情報検索（１）データベースの構造 第８回　データベースと情報検索（２）情報検索の技法 第９回　インターネットによる情報活用（１）概説 第１０回　インターネットによる情報活用（２）情報検索演習 第１１回　インターネットによる情報発信・情報共有と情報モラル 第１２回　著作権とメディア（１）著作権法概説①著作物とは

	第１３回　　著作権とメディア（２）著作権法概説②著作者人格権、著作隣接権 第１４回　　著作権とメディア（３）学校図書館と著作権 第１５回　　著作権とメディア（４）インターネットと著作権、　まとめ
受講生に関わる情報および受講のルール	コメントカード
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	本学図書館ホームページの「所蔵検索」及び「情報検索ポータル」を利用し、検索方法を習得すること。
授業外時間にかかわる情報	授業後30分程度は対応可能
オフィスアワー	期末レポート（試験）　６０％　　授業中の小レポート　４０％
評価方法	井口磯夫編『情報メディアの活用』樹村房（司書教諭テキストシリーズ０５）（最新版）
教科書	授業内で適宜紹介する。
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 学校図書館司書(市町村臨時職員)として19年間勤務 司書の立場から、図書主任・司書教諭への研修等も担当した経験により、学生の皆さんが教員となり司書教諭として発令された際、他教員の授業等のコーディネートについて講じます。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学習指導と学校図書館　　授業コード：S6021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】学校図書館法および学習指導要領に示されているように、知識基盤社会・情報社会の中の諸学校における学習展開に 学校図書館は不可欠であり、児童・生徒の発達段階に応じた「読書センター」と「学習情報センター」の機能を十分に実践しなければなりません。その要としての司書教諭の役割を理解し、学習指導にかかわる図書館情報学の基礎を身につけます。 【到達目標】1）学校図書館の目的と教育課程編成・学習指導展開との関係について述べることができる。2）情報リテラシー育成の諸段階と司書教諭の介入について具体的に説明できる。3）児童・生徒および教員に対するレファレンスサービス業務の実際について具体的に説明できる。
授業の概要	受講学生によるテキストの輪読分担発表をベースに、1）図書館および図書館員の役割・業務、2）学校図書館という館種の機能特性、3）学校教育課程と連動した学校図書館としての学習指導・情報リテラシー教育、4）司書教諭の役割、5）学校図書館というインフラの整備・経営、6）レファレンスサービス業務の実際 について解説します。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　社会における図書館とは何か 【key words】 情報社会　図書館　図書館員　学校図書館　司書教諭 【授業概要】 情報社会における図書館および図書館員の役割・業務を概観し、学校図書館という館種が担う機能と司書教諭・学校司書の位置づけを理解します。 【教科書ページ・参考文献】 プリント資料、教科書pp1－11。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 館種間の機能差異をふまえた上で、学校図書館とはどのような特徴をもったところなのか、概要をまとめましょう。
	第２回	学校図書館の意義・目的 【key words】 学校教育法　学校図書館法　読書センター　学習情報センター　発達段階 【授業概要】 学校図書館の意義と目的を理解し、各学年の学習指導要領；すなわち児童生徒の発達段階と連動して、学校図書館が学習指導展開に対してどのように密に関わるのかを考えます。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp12－28。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 目的的に活発な読書センター/学習情報センターとしての学校図書館の役割を整理して下さい。

第３回　図書館活用教育と情報リテラシー教育

【key words】
図書館活用教育　情報リテラシー教育　学校図書館経営

【授業概要】
従来的な図書館教育・学校図書館利用指導から発展して、卒業後の生涯学習につながる、学び方の学びのための学校図書館活用ひいては情報リテラシーのスキル・アップを支援することについて、具体的に理解します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp29－55。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

図書館教育→学校図書館利用指導→学校図書館活用・情報リテラシー教育 各観点の差異をまとめて下さい。

第４回　学校図書館というインフラの整備と経営

【key words】
学校図書館基準　学校図書館の施設と設備　学校図書館資料選定　学習活動の充実

【授業概要】
教育課程の展開と実践に寄与するインフラとしての学校図書館の整備・経営について、そのハードウェア/ソフトウェア双方の有機的な関連を意識ながら、学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp231－245、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

よりよい学校図書館の構築・整備に関係する要因と現代的な課題を書き出してみましょう。

第５回　学習/教育活動を支援する情報サービス業務

【key words】
情報要求　情報サービス　二次資料　レファレンスプロセス　相互貸借

【授業概要】
情報サービスの種類のうち、特にレファレンスサービスについてその概要を学び、教員を含めた利用者のニーズに対応した資料・情報提供のための準備について理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業の第13回・第14回で、レファレンスサービスの演習を予定しています。それより前の時点で、演習課題が提示されますので、注意して下さい。

第６回　教科学習と学校図書館活用

【key words】
知識基盤社会　ＩＣＴ　分類法（NDC）　配架　教員間連携

【授業概要】
発達段階に即した知識修得を児童生徒に重ねさせることの前提として、調べ学習等に対応した学校図書館資料の整備と教員間の準備と連携について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp169－195。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

資料を探しやすい学校図書館とは何か、その条件要素をまとめましょう。

第７回　総合的な学習における学校図書館活用

【key words】
総合的な学習　調べ学習　問題意識の醸成

【授業概要】
総合的な学習における授業展開と学校図書館の活用の連動について理解を深めます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp196－214。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

領域横断的で探求的・協働的な学習に対する司書教諭としての支援のあり方を具体的に例示してみましょう。

第８回　特別支援教育における学校図書館活用

【key words】
特別な教育的ニーズ　個別の指導計画　障害特性　学校図書館サービスの工夫

【授業概要】
重複障害例も含め、特別支援教育の対象となる児童生徒の教育的ニーズを個別かつ総合的に把握し、普通教育と同質同等の学校図書館サービスを提供するために必要な工夫を認識します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp215－230。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

学校図書館の施設・設備、資料・メディア、活動の各々について、工夫の具体例を整理して下さい。

第９回　情報リテラシー教育の理論的背景

【key words】
情報探索過程　メタ認識　情報活用プロセス　情報リテラシー基準　司書教諭の関わりのレベル

【授業概要】
学習者の視点からの情報探索過程を概観し、目標としての児童生徒の情報リテラシー基準ならびに情報活用プロセスでの指導の基本事項を理解します。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp67－82。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報探索過程の児童生徒のニーズに沿った司書教諭の支援・指導；関わりの各水準をまとめて下さい。

第１０回　全校的組織的体系的指導　年間計画　チームティーチング　実施評価

【授業概要】
児童生徒の情報リテラシー育成にかかる全校教職員の共通理解の下で組織的体系的かつ計画的に取り組むことの重要性と教育実践後の評価の有用性について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp83－103。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

情報リテラシー教育の計画的なチーム連携実践とそこでの司書教諭の役割をまとめて下さい。

第１１回　情報リテラシー教育の実際　1

【key words】
情報活用プロセス　情報リテラシー　情報活用スキル　問いの可視化　テーマ設定

【授業概要】
探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、テーマの設定と情報探索の計画について学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp104－124。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒の発達段階に沿ったテーマ設定の指導について、その具体例を示してみましょう。

第１２回　情報リテラシー教育の実際　2

【key words】
分類　目録　参考図書　情報カード　プレゼンテーション

【授業概要】
探求型学習および情報活用プロセスの指導の実際のうち、情報・資料の探索・収集および活用、まとめ方や発表の方法について学びます。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp125－167。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

児童生徒の発達段階に沿った資料検索とまとめ方の指導について、その具体例を示してみましょう。

第１３回　レファレンスサービス各論

【key words】
資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表

【授業概要】
第5回および第12回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務演習のための準備をします。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

レファレンスサービスを実践するための実務的な準備について確認して下さい。

第１４回　レファレンスサービス演習

【key words】
資料収集のためのチェックリスト　レファレンス依頼　レファレンス進行表

【授業概要】
第5回、第12回および第13回の内容をふまえ、レファレンスサービス業務の演習をします。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp246－236、プリント資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

レファレンスサービスの実務的な流れと参考資料群を確認して下さい。

第１５回　まとめ　司書教諭という仕事

【key words】

	司書教諭の役割　教科間の連携　職員間の協働 【授業概要】 教育課程と図書館学の双方に通じている司書教諭が担う多面的な役割をまとめ、学校教育における学校図書館の意義を再確認しましょう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp264－277。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 司書であり教諭であることの二重性と期待される活動内容について、発展的にまとめておきましょう。
受講生に関わる情報および受講のルール	受講学生の多くは、初めて図書館情報学を学ぶのだと思います。司書教諭科目群では、限られた時間内で必須事項を説いていきますから、注意を集中して授業に参加し、まずは復習を習慣化させましょう。教科書の該当箇所をあらためて通読する、ノートを見返す ことをまめにすることが、この領域の総合的な理解の基礎になります。 ★1回の授業に対して、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	minute paper
授業外時間にかかわる情報	図書館情報学を学んで理解した観点から、さまざまな館種の図書館を見学することをおすすめします。特に、教育実習は、実習先の学校図書館を少しでも見学するよい機会ですし、母校の学校図書館を訪れるのもいいでしょう。ただし、見学を希望する際には、事前の申し出等、先方への打診・相談が必要です(本授業担当者に まずは相談してください)。 ★1回の授業に対し、概ね2時間以上の事前事後自主学習が必要です。
オフィスアワー	水曜日 17：00～19：00　1号館204研究室
評価方法	学期末課題レポート（85%）および授業への取り組み方（15%）で評定します。
教科書	堀川照代・塩谷京子　改訂新版 学習指導と学校図書館　放送大学振興協会　2016年
参考書	図書館ハンドブック編集委員会編　図書館ハンドブック　第6版補訂版　日本図書館協会　2010年 他
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 授業担当教員は、図書館司書資格を有しています。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 学校経営と学校図書館　　授業コード： S6031

英文科目名称： School Library and School Management

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
井ノ口　雄久			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 学校図書館は学校の教育的成果に深く関わっている。学校図書館活動において司書教諭が果たす役割はきわめて大きい。授業に関わるための学校図書館はいかなるものか、全体像を描くことを試みる。 【到達目標】 １）現行の学校教育の問題点を整理する。 ２）現行の学校図書館が学校教育の中でどのような位置づけにあるかを理解する。 ３）期待される学校図書館がどうあるべきかを考え、自分なりの学校図書館のあり方をイメージできるようにする。
授業の概要	学校図書館が学校教育の中で、果たす役割を制度化される課程と、これからますます重要となる児童生徒の自主性を育むために、学校図書館はいかにあるべきか、また実際の学校図書館活動の実際を通して理解することを目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・司書教諭になるための学習 【key words】 司書教諭資格付与の規程　　司書教諭資格科目　　テキストの編集方針 【授業概要】 「学校経営と学校図書館」という科目の位置づけを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp1-9　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、テキストの関係する章を読んで、疑問や問題点を把握する。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね40分
	第２回	福島第一原子力発電所事故後の世界と新しい知的社会 【key words】 フクシマ　　原子力ムラ　　科学者集団のエートス　　専門知の公共性 【授業概要】 専門的知識の限界と知の民主化が必要となった現代社会の知のあり方について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：pp10-24　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね1時間
	第３回	これからの学校教育とあるべき学びの形 【key words】 拡張した心　　物知識　　協同的知識　　個人主義的学習観　　協同学習　　ファシリテーター 【授業概要】

新しい知のあり方とは、専門家と市民が協同探求する知である。その知のあり方を実現するための学校教育のあり方と学び方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：pp25-40　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第４回　メディアと人間の循環
【key words】
旧来の知識観　　新しい知識観　　協同的知識
【授業概要】
新しい知のあり方のための学校教育において、学校図書館はどうあるべきかを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp41-51　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第５回　学校の中の図書館
【key words】
社会的機関　　収集・組織・保存・提供　　図書館の館種　　図書館ネットワーク
納本制度　　国立情報学研究所（NII）　　NACSIS-CAT/ILL
【授業概要】
日本における学校図書館を含む図書館制度及びその目的、そして学校図書館の目的実現の方法について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp52-68　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第６回　学校図書館の歴史（アメリカ）
【key words】
ライブラリアン　　『学校と社会』　　復誦（レシテーション）室　　プロジェクト・メソッド
ダルトン・プラン　　スクールライブラリアン　　アメリカスクールライブラリアン協会（ＡＡＳＬ）
【授業概要】
学校図書館の本質を具現化していると考えられるアメリカの学校図書館史を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp69-82　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第７回　学校図書館の歴史（日本）
【key words】
国定教科書　　問題解決学習の提唱　　新教科課程　　全国学校図書館協議会（全国ＳＬＡ）
学校図書館法の制定　　司書教諭の専従化　　学校図書館事務職員　　司書助教諭(のち学校司書)
【授業概要】
日本の学校図書館の源流について学び、近年どのように関心が寄せられているか理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp83-97　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第８回　日本の学校図書館の現状
【key words】
学校図書館の法的定義　　学校図書館の運営　　司書教諭　　学校司書
【授業概要】
本の学校図書館の最新の実態により現状を把握し、新しい学校図書館のあり方を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp98-111　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。◎課題レポートを提示する。（字数：2,000字程度　　作成期間：1ヶ月程度）
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第９回　学校図書館の目的と機能
【key words】
学習指導要領と法的拘束力　　健全な教養　　リベラルアーツ　　奉仕機関　　指導機関
【授業概要】
近代的学校教育の課題を解決するために教育改革の中で誕生・発展してきた学校図書館の目的と機能を総合的に理解する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書pp112-122　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１０回　学校図書館の図書館サービス
【key words】
テクニカルサービス　　パブリックサービス
【授業概要】
奉仕機関であり、指導機関である学校図書館の各種のサービスについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp123-133　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１１回　学校図書館の教育活動
【key words】
読書指導　　読解指導　　読みの教育の新しい視点　　読書推進運動協議会
読書週間　　子ども読書週間　　読書のアニマシオン　　ブックトーク
【授業概要】
「読み」の教育、教育内容の改革、教育方法の改革の観点から、学校図書館に期待される教育活動について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp134-146　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。◎課題レポートを提示する。（字数：2,000字程度　　作成期間：1ヶ月程度）
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１２回　学校図書館の担当者
【key words】
司書教諭制度　　学校司書の法制化　　これからの学校図書館の活用の在り方等について
ティーチャー・ライブラリアン　　ライブラリアンシップ　　専門職の要件
【授業概要】
学校図書館運営のための協力体制と学校図書館専門職の成立の可能性の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp147-156　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１３回　学校図書館のマネジメント
【key words】
学校図書館マネジメント　マネジメント・サイクル（ＰＤＣＡサイクル）　学校図書館評価基準
利用者からのフィードバック　報告・連絡・相談（ホウレンソウ）　学校図書館のステークホルダー
【授業概要】
学校図書館の「マネジメント」とその活動の「評価」の課題について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p157-166　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１４回　学校図書館の設計
【key words】
学校図書館は機能である　　メディアセンター機能　　ゾーニング　　ユニバーサル・デザイン
インクルーシブ・デザイン　　アフォーダンス　　教科センター方式　　学校図書館施設基準
【授業概要】
学校図書館の現状を学び、課題やその克服のために手法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp167-179　　参考書：適宜授業中に提示する。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
概ね1時間

第１５回　学校図書館研究と学校図書館の発展
【key words】
アメリカの学校図書館ガイドライン　全国学校図書館協議会　日本図書館協会学校図書館部会
学校図書館問題研究会　国際図書館連盟学校図書館分科会　国際スクール・ライブラリアンシップ協会
【授業概要】
学校図書館の発展のために何が社会的課題か、何をなすべきかを話し合ったことを整理して自分なりの学校図書館像を考えてみる。

	【教科書ページ・参考文献】 教科書pp180-188　　参考書：適宜授業中に提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回のコメントに回答するので、復習の補完とすること。過去の授業中に自分なりに考えた問題・課題等を整理しておく。テキストの該当する章を読んで、疑問や問題点を把握し、課題を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 概ね1.5時間
受講生に関わる情報および受講のルール	毎回、次の講義の課題を配布する。課題に基づいて、テキストの該当部分は事前に読んで、自分なりに課題をこなし、授業に臨む。授業は、課題について、グループ学習を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として、課題に対する疑問や興味を持ったことを整理する。また、毎回、必ずコメントカードに対する回答を行うので、回答によっては、どう対応すべきか考え、次のコメントカードにその結果を報告すること。また、授業中に参考図書を紹介するので、その内容を把握すること。
オフィスアワー	授業後、３０分程度対応可能。また、場合によっては、場所・時間等メールにて調整するも可
評価方法	授業の参加態度（40%）、レポート提出（２回－各30%）
教科書	司書教諭テキストシリーズⅡ…０１　『学校経営と学校図書館』　中村百合子編著　２０１５　樹村房
参考書	授業で、適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 高校の学校図書館運営 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 読書と豊かな人間性　　授業コード：S6041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小柳　聡美			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 読書教育は豊かな人間性の涵養や生きる力の育成を目的とする。その目的を達成するための方法と実践力を身につける。 【到達目標】 ① 読書指導の計画を作成し、指導できる。　② ブックトークを実演し、指導できる。 ③ 読書ノートが作成できる。　④ 読書会を実施し、指導できる。
授業の概要	学校教育における読書指導の理論と実際の全体像を把握する。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。
	第２回	読書の意味(読書観／読書指導の三原則／読書についての思索)と学校図書館法 読書の意味を明らかにすると共に、その根拠を提示する。
	第３回	読書ノートの作成と読書指導の一環としての図書館利用指導プログラム 読書ノートの作成や評価の仕方を学び、図書館における読書指導計画の方法を理解する。
	第４回	読書の発達段階(読書能力／読書興味)とその構造 多様な読書材の選択は、読書能力と読書興味の発達段階に応じて行われることを学ぶ。
	第５回	読書指導の方法―ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会― 読書指導の方法は、さまざまなものがあるが、その主なものの概要について学ぶ。
	第６回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント―多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント― ブックトークとは何かについて理解を深め、その一般的なプロセスや実践上のヒント等を学ぶ。
	第７回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成―タイトル・対象・ねらい・展開（シナリオ）― ブックトークは統一テーマという呪術が生み出す創造的な演劇空間である。そのシナリオを作成する。
	第８回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価 ブックトークを実際に試演し、評価ノートにより相互評価を試みて評価の仕方を学ぶ。
	第９回	第１回から第８回までの授業のまとめと課題レポート作成 第1回から第8回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
	第１０回	読書会の実際① 読書会のポイント―多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス―

	読書会は、新しい価値発見や多様な評価法の存在に気づかせてくれる。そのポイントについて学ぶ。 第１１回　読書会の実際② 読書会の実施―対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価― 読書会の流れに従って進行し、問題の所在を深める。 第１２回　読みの原理(読書以前としてのブックスタート／読みの発達過程)と読書人格 読書法の原理を学び、読書人格を高める各種の方法を探求する。 第１３回　学校図書館における読書資料と読書環境の整備／読書療法 教育課程の具体化としての読書資料と読書環境をどう整備するかについて検討する。 第１４回　読書体験のひろがり(生徒委員会活動／教科教師との協力／図書館広報活動)と地域社会との連携 読書体験のひろがりとしての図書館活動や地域社会との連携の方法を学ぶ。 第１５回　第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成 第10回から第14回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	授業の前後１０分程度は対応可能
評価方法	定期試験(レポート)が70%、提出物が30%の総合評価による。 定期試験レポートの評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	司書教諭テキストシリーズ…04朝比奈大作編集『読書と豊かな人間性』樹村房（2002）
参考書	全国SLAブックトーク委員会編『ブックトーク―理論と実践―』全国学校図書館協議会（2001） ステーブン・クラッシェン（長倉美恵子・黒澤浩・塚原博共訳）『読書はパワー』金の星社（2002）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 平成９年度より学校図書館司書として、公立小中学校で図書館教育･読書指導に携わる アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉特講Ⅲ　　授業コード：S8005

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回解答演習を中心とし講義に加え、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 (1) 自身の学習状況を振り返り，国家試験受験に向けた学習内容を明確にできる。 (2) 解説や解答演習を通して，個々の学習方法を習慣化できる。 (3) 各回の解答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習し、その学習方法等についても解説を行う。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。 なお、学習進度によっては取り上げる科目の順序等を変更することがあるので、各回の説明には注意すること。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】

		【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１２回　問題の解説及び問題を解く
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１３回　問題の解説及び問題を解く
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１４回　問題の解説及び問題を解く
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１５回　問題の解説及び問題を解く
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１６回　問題の解説及び問題を解く
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１７回　問題の解説及び問題を解く
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１８回　問題の解説及び問題を解く
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第１９回　問題の解説及び問題を解く
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２０回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２１回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２２回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２３回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２４回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２５回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２６回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２７回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　問題の解説及び問題を解く 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	自主学習を前提とした学習方法や内容の解説を行う。したがって，各々が国家試験に関する学習時間を確保した上で国家試験合格に向けた学修を進めていることが必要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	国家試験の過去問題を用いた予習，復習をしていること。
オフィスアワー	第1回授業時に説明する。
評価方法	授業内テスト（60%），赤マル福祉の習熟度（40%）
教科書	赤マル福祉（登録方法は授業内で案内します。）
参考書	社会福祉用語辞典など，適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合演習Ⅰ

授業コード： S9021　S9022　S9023　S9024
S9025　S9026　S9027

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	必修
担当教員			
富澤　一央・鈴木　秀夫・橋本　広信・関本　仁・塚越　亜希子・時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神に基づき、基礎演習で身につけた基礎学力や問題解決能力等を基として、高度な専門知識と豊かな人間性及び人間愛並びに奉仕の精神を備え、自立心と礼儀を重んじた世の中で役に立つ心豊かな学生を育成する。プレゼンテーション能力の向上を目指し、総合的な学士力を養成する。また、総合演習における集大成である課題研究・制作に向けて、リテラシー力を身につけ、テーマの設定や資料収集等を積極的におこなう。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動に自主的に取り組み、さらに就職模擬試験等を通じて、進路を明確化し、具体化させる。 ②総合演習の集大成である課題研究・制作についてグループまたは個人でテーマを設定し　資料収集等を積極的におこなう。 ③昌賢祭での総合的な活動を通じて、地域との深まりについて考え・実践し、社会生活における自立的実践能力を身につける。
授業の概要	授業を①建学の精神と実践教育、②心身の健康、③地域貢献、④学習統合　⑤進路･資格取得の５つのプログラムから構成し、建学の理念や教育方針にそって、ボランティア活動、環境美化活動、挨拶等の礼儀作法といった自立的実践能力を育成するとともに、身だしなみ等の生活指導、学習指導及び進路指導ならびに学生生活全般に係わる個別相談などの指導･助言をおこなう。さらに、総合的な学士力を養成することにより進路を明確にし具現化させる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　前期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　総合演習Ⅰの内容説明 【key words】 学長等の訓話・講話、年間計画 【授業概要】 ①　学長の訓話、学部長の講話を聞き、年度初めを意欲的にスタートする。 ②　総合演習Ⅰの３０コマの計画、学習内容の概要、評価方法、予習・復習、準備・課題等について知る。 【教科書ページ・参考文献】 ○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【復】2021年度の授業計画を確認し、手帳等に記録する。制服着用・提出物に留意する。 【準】第４回は、雑巾縫いをするので、必要物品の準備をしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
	第２回	心身の健康プログラム①　心身の充実について（１）　親睦スポーツ大会にむけて 【key words】 親睦スポーツ大会、安全面での配慮 【授業概要】

①　体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②　教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。
③　チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。
※親睦スポーツ大会が中止の場合は、別のプログラムを計画する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】親睦スポーツ大会のルール等を理解し、会場までの安全な行き方を確認する。
【準】体育イベント委員は、担当の仕事について理解し実行できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第３回　心身の健康プログラム②　心身の充実について（2）　親睦スポーツ大会にむけて
【key words】
親睦スポーツ大会、安全面での配慮
【授業概要】
①　体育イベント委員が中心となり、各種目の準備・後片付けを行う。
②　教員が準備運動を指導し、安全面での諸注意を行う。
③　チーム内で作戦を考え、優勝目指し、練習に励む。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】親睦スポーツ大会のルール等を理解し、会場までの安全な行き方を確認する。
【準】体育イベント委員は、担当の仕事について理解し実行できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第４回　建学の精神と実践教育プログラム②　生活を科学する（雑巾の制作をとおした日常生活の科学）
心身の健康プログラム②　心身の充実について（２）　親睦スポーツ大会
【key words】
雑巾の制作、親睦スポーツ大会の省察

【授業概要】
①　親睦スポーツ大会の振り返りを体育・イベント委員の司会の下、行う。
②　ミシン縫いと手縫いの違いについて、理解する。
③　実際に雑巾を縫う。特に針や糸、はさみの準備・後始末についてきちんと行い、安全に作業ができるよう配慮する。
④　雑巾縫い完成について時間差がでるので、早く完成した者は、自習を行う。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【準】雑巾縫いをするので、必要物品の準備をしておく。
【復】雑巾縫いが終わっていない者は指示された日時までに提仕上げ、提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第５回　進路・資格取得プログラム①　「就職・適性試験」
【key words】
就職・適性試験
【授業概要】
①　PS-U総合適性試験を受ける。
②　試験終了後、回答が配布されるので時間があれば自己採点する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】自己の進路についてイメージしておく。
【復】受験後、復習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　学習統合プログラム①　国語の力をつける（国語の基礎基本：感じのいい話し方・聞き方）
【key words】
話し方・聞き方
【授業概要】
①　国語の４領域：話す・聞く・読む・書くの基礎基本である感じのいい話し方・聞き方について知る。
②　理論だけでなく、グループワークを行い、各自話し手・聞き手を体感しながら、感じのいい話し方・聞き方について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「知のナヴィゲーター」105～109頁を熟読し、授業に臨む。
【復】自己の話し方・聞き方について省察をする。また、就職面接課題を友達と練習しあう。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第７回　学習統合プログラム②　国語の力をつける（文章の書き方の基礎基本：１ランク上の小論文を目指す）
【key words】
小論文の書き方
【授業概要】
①　正しい漢字・主述のねじれ・句読点の打ち方・三部構成等について確認する。
②　実際の小論文をみて、良さを学ぶ。また、推敲の仕方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】指示されたテーマで小論文を書く。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第８回　学習統合プログラム③　国語の力をつける（小論文を書くこと、相互評価）
【key words】
小論文の相互評価
【授業概要】
①　班内で、小論文を読みあい、感想を言う。
②　推敲し、仕上げる。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】小論文を仕上げ、授業に臨む。
【復】小論文をさらに推敲し仕上げ、期日までに担任に提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90～120分

第９回　学習統合プログラム④　課題研究にむけて～リーディング～
【key words】
リーディング
【授業概要】
①　大学で触れる様々な文章について知る。
②　文章の構成、全体像を知る。
③　目的に合った読み方を知る。（通読、精読、速読等）
④　要約、クリティカル・リーディングについて知る。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「知のナヴィゲーター」の第３章「リーディング」を読み、授業に臨む。
【復】本・雑誌・新聞等読書の時間を生活の中に設ける。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　学習統合プログラム⑤　課題研究・制作にむけて～課題研究・制作とは～
【key words】
課題研究・制作、テーマ設定
【授業概要】
①　課題研究・制作の意義、４年次までの流れを知る。
②　研究テーマの決め方について理解する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】研究テーマについて、自己決定しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１１回　学習統合プログラム⑥　課題研究・制作にむけて～研究テーマの決め方～
【key words】
課題研究・制作、研究テーマ
【授業概要】
①　興味のあるテーマに基づき、メンバーのグループ編制（または個人）を行う。
②　研究テーマをあげ、1）研究の背景（問題の所在）、2）RQ（研究目的）を、
　Ａ４判１枚にまとめる。（前期成果物の１つとなる）
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】前期成果物を仕上げ、指示された日時までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１２回　地域貢献プログラム①　外部講師
【key words】
障害をお持ちの方の講話
【授業概要】
①　障害をお持ちの外部講師（伊勢崎市議）をお迎えし、講話を聞く。
②　グループワークを行い、社会福祉を学ぶ者として、どのような支援ができるか、
　考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】将来の志望職種として、障害を持った人にどのような支援ができるか、まとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１３回　心身の健康プログラム③　心身の充実について（3）クラスの絆づくり
【key words】

クラスの絆
【授業概要】
①　クラスの絆を深める活動を考え、クラス毎に考え、実践する。
②　例として、
1)「私の宝物」と称し、自分が大切にしている物を提示し説明、実演。
2) 学生が考えたミニゲーム
3)「将来の夢」を発表しあう。などが考えられる。
意外な一面を知り、クラスメートを一層理解し、絆が深まる。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】クラスの絆を深めるプログラムを事前にリーダーや担任に伝える。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１４回　地域貢献プログラム②　昌賢祭での研究発表の内容決め
【key words】
昌賢祭での研究発表内容決定

【授業概要】
①　昌賢祭委員を中心に、クラスでの研究発表のテーマ・内容を決める。
②　夏休みにできること、後期のおおよその計画を決める。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】昌賢祭での研究発表の内容を考え、授業に臨む。
【復】昌賢祭での研究発表で、夏休みできることを計画し、実践する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期の総括、夏休み中の目標
【key words】
前期総括、授業アンケート
【授業概要】
①　前期総括を演習ファイルにまとめる。
②　授業アンケートを行い、学生の視点から本授業を評価する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】前期の本授業に関する本ファイルを整理し、期日までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　後期オリエンテーション　学長訓話　学部長講話　学年担任講話　連絡事項
【key words】
学長等の訓話・講話、後期計画
【授業概要】
① 学長の訓話、学部長の講話を聞き、後期を意欲的にスタートする。
② 総合演習Ｉ後期の１５コマの計画を知り、学習内容の概要、評価方法、予習・復習について知る。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】2021年度の授業計画を確認し、手帳等に記録する。制服着用・提出物に留意する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１７回　進路資格取得プログラム②　　就職常識試験
【key words】
就職常識試験
【授業概要】
①　就職常識試験を受ける。
②　試験後、回答が配布されるので、時間があれば答え合わせをする。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】受験後、回答が配布されるので、採点・間違い直し、復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　進路・資格プログラム③　外部講師　就職に関する講演
【key words】
就職、ハローワーク
【授業概要】
①　ハローワーク前橋所長の就職に関する講話を聞く。
②　講話の要点を記録し、自己の就職適性について、考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予】自己の職業適性について考え、授業に臨む。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第１９回　地域貢献プログラム③　　昌賢祭研究発表にむけて（計画）
【key words】
昌賢祭研究発表

【授業概要】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画を立てる。
②　昌賢祭研究発表について、具体物を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２０回　地域貢献プログラム④　　昌賢祭研究発表にむけて（発表資料・材料の準備と討議）
【key words】
昌賢祭研究発表
【授業概要】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画、実際の準備制作等を始める。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２１回　地域貢献プログラム⑤　　昌賢祭研究発表に向けて（発表資料・材料の準備と討議）
【key words】
昌賢祭研究発表
【授業概要】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画に則り、実際の準備制作等を行う。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２２回　地域貢献プログラム⑥　　昌賢祭研究発表にむけて（発表資料・材料の調整：全体のアウトライン決定）
【key words】
昌賢祭研究発表
【授業概要】
①　昌賢祭研究発表具体物の作成計画に則り、実際の準備制作等を行う。
②　毎回、振り返りを行い計画票をチェック、一言コメントを書き、担当に提出する。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】昌賢祭研究発表具体物の作成計画を踏まえ、遅れのないように作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２３回　地域貢献プログラム⑦　昌賢祭のふり返り（活動に関する自己評価・相互評価・今後の展望と課題・提案）
【key words】
昌賢祭の振り返り
【授業概要】
①　昌賢祭について振り返り、自己評価・相互評価を行う。
②　昌賢祭委員を中心に、振り返りについて口頭で話し合う。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】昌賢祭の振り返りについて、整理しファイルに綴じてじておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２４回　地域貢献プログラム⑧　外部講師
【key words】
障害児施策
【授業概要】
①　前藤岡市長　新井利明氏の講話を聞く。
②　自己の志望職種に生かせる部分を知る。
【教科書ページ・参考文献】

○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【復】就職常識試験での弱点を補強しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２５回　地域貢献プログラム⑨　　外部講師　社会福祉の現状
【key words】
社会福祉の現状
【授業概要】
①　外部講師を招聘し、社会福祉の現状についての講話をいただく。
②　講話の要点を記録し、社会福祉の現状について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】講話の要点を記録し、期日までに提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２６回　地域貢献プログラム⑩　　外部講師　児童虐待の現状
【key words】
児童虐待の現状
【授業概要】
①　外部講師を招聘し、児童虐待の現状についての講話をいただく。
②　講話の要点を記録し、児童虐待の現状について考える。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】講話の要点を記録し、期日までに提出する。

【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２７回　学習統合プログラム⑦　課題研究の振り返り
【key words】
課題研究、グループ研究
【授業概要】
①　前期の課題研究を振り返る。
②　グループ編制を確認し、課題研究の執筆要綱を知る。

【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】課題研究の執筆要綱に従って、執筆できるところから書いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２８回　学習統合プログラム⑧　課題研究の研究テーマ
【key words】
課題研究、研究テーマ
【授業概要】
①　先行研究について調べる。
②　先行研究、グループで研究したいことを鑑み、研究テーマを決定する。

【教科書ページ・参考文献】
○　「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課】課題研究の執筆要綱に従って、執筆できるところから書いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２９回　心身の健康プログラム④　クラス裁量、クラス経営のまとめ
【key words】
クラス裁量
【授業概要】
①　クラスリーダー、サブリーダーを中心に、１年のまとめとしてやりたいことを事前に決める。
②　やりたいことを決め、実践する。
【教科書ページ・参考文献】
○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
○　授業担当者の準備した資料。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【準】学生になるべく任せ、１年が振り返られ、かつ楽しい時間となるように準備する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期の総括　　総括レポート作成　春期休業中の活動について
【key words】
後期総括、授業アンケート
【授業概要】
①　後期総括を演習ファイルにまとめ、提出する。
②　授業アンケートを行い、学生の視点から本授業を評価する。

	【教科書ページ・参考文献】 ○「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版 ○　授業担当者の準備した資料。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課】１年分の演習ファイルを整理して、期日までに提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	【受講に係わる情報】 １　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組む。 ２　私語は慎み、出欠席の状況や受講態度等、本学の学生にふさわしい態度で臨む。 ３　全体オリエンテーション等の学校行事は必ず出席する。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとる。 ・遠隔授業では、事前に授業資料を送信するので、印刷または画面で見られる 　ようにしておく。 ・遠隔授業では、不具合が生じないよう準備する。しかし、遠隔授業中、不具合が生じたら 　チャット等で担当教員に報告する。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 ・本授業は、対面または遠隔授業を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード、Webポータル内のスレッドでのコメント（遠隔授業）
授業外時間にかかわる情報	１　図書や雑誌等の読書をし、論文の基礎力を身に付けておく。 ２　論理的思考力を身につけるには、日々の生活を課題意識を持って送ることが重要となる。 　授業で学んだことを生活の中で実践することが大切である。
オフィスアワー	各担当教員に確認すること。
評価方法	提出物（50%）　演習への取り組み・内容等（50%）を総合して評価する。
教科書	「咸有一徳」中央法規、「知のナヴィゲーター」くろしお出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 社会福祉施設現場、教育現場の実務経験を持つ教員がおり、理論や法律を具体化した指導ができる。また、現場より講師を招き、最新の情報を学生に話してもらうことも可能である。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　介護体験実習指導　　授業コード：S9041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	1単位(30)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	介護体験実習の意義と目的、教員として必要な福祉倫理、実習の対象となる機関・施設の設置目的・業務内容・利用者・職員の役割と援助内容・課題についての調べ学習・発表を中心に授業を進める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション（シラバス説明、授業方法及び留意事項）、自己紹介カード作成 【key words】 【keywords】 授業の進め方　自己紹介 【授業概要】 【授業概要】 授業計画について説明する　予習・復習について説明する　評価方法について説明する コミュニケーションの第一歩である自己紹介について考察する 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 自己紹介カードを配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 自分を知ってもらうための印象に残る自己紹介を考える 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第２回	障害者の理解、ＤＶＤ視聴（障害者の自立について）

【key words】
【keywords】
障害者の自立　筋ジストロフィー　難病

【授業概要】
【授業概要】
援助支援の対象となるハンディキャップを持った方の自立への意識を映像を通して知る
専門職者としての役割をレポートにまとめる

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
筋ジストロフィーに関する資料配付

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
筋ジストロフィーという病気についてあらかじめ調べておく
【予習復習に必要な想定時間】
0.5時間

第３回　対人援助技術の原理原則
【key words】
【keywords】
ソーシャルワーカー　バイスティック

【授業概要】
【授業概要】
場面にあわせた援助の原理原則について学ぶ
バイスティックの７原則について学ぶ

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
バイスティックの７原則に関する資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
バイスティックについて事前に調べておくこと
ソーシャルワーカーとしての原理原則がボランティアや実習の場面でどのように役立つのかを実践の場で確認する

【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第４回　事前学習の意義・目的・方法の理解（実習先希望調査票の提出）
【key words】
【keywords】
介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】
なぜ実習事前指導が必要かを考える

【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
実習先として希望する種別・施設名をあらかじめ考えておく

【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第５回　実習先機関・施設の理解（高齢者施設）
【key words】
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】
実習先を理解する（高齢者施設）
【教科書ページ・参考文献】
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付する

【課題・予習・復習・授業準備指示】
【課題・予習・復習・授業準備】
将来、生徒に指導する観点で受講する
【予習復習に必要な想定時間】
1.0時間

第６回　実習先機関・施設の理解（児童福祉施設）
【key words】
【keywords】
関係法規　介護体験　福祉施設

【授業概要】
【授業概要】

		実習先を理解する（児童福祉施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第７回	実習先機関・施設の理解（障害者支援施設） 【key words】 【keywords】 関係法規　介護体験　福祉施設 【授業概要】 【授業概要】 実習先を理解する（障害者支援施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第８回	実習先機関・施設の理解（その他の施設） 【key words】 【keywords】 関係法規　介護体験　福祉施設 【授業概要】 【授業概要】 実習先を理解する（その他施設） 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第９回	事前訪問（事前オリエンテーション）の理解（連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項） 【key words】 【keywords】 連絡方法・挨拶・身だしなみ・訪問の目的と確認事項 【授業概要】 【授業概要】 実習先訪問についての具体的指導 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１０回	実習開始までの取り組み（まとめ、レポート課題） 【key words】 【keywords】 実習先概要　職員配置 【授業概要】 【授業概要】 実習開始まで準備しておくべきことについて考える 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間

	第１１回	記録方法の理解（実習記録①） 【key words】 【keywords】 実習記録 【授業概要】 【授業概要】 実習記録の記入方法 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	記録方法の理解（実習記録②） 【key words】 【keywords】 実習記録 【授業概要】 【授業概要】 実習記録の記入方法 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 1.0時間
	第１３回	コミュニケーションスキルを磨こう 【key words】 【keywords】 コミュニケーションスキル　ア行トーク　サイレントトーク 【授業概要】 【授業概要】 援助のテクニック・スキル・マインドについて、演習及び映像を通して学ぶ 映像を見て、援助場面でどのように役立てられるかレポートにまとめる 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 授業中に行うア行トーク・サイレントトークを復習してみよう 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第１４回	実習生に求められる基本姿勢の理解（職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理） 【key words】 【keywords】 職業倫理、権利擁護、プライバシーの保護、守秘義務、礼儀作法、健康管理 【授業概要】 【授業概要】 実習生に求められる基本姿勢について理解する 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 【予習復習に必要な想定時間】 0.5時間
	第１５回	実習計画書作成の理解　＊「実習計画書」の完成、＊「実習生紹介票」、「誓約書」 【key words】 【keywords】 実習計画書　実習生紹介票　誓約書 【授業概要】

	【授業概要】 実習先に提出する資料の作成 【教科書ページ・参考文献】 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付する 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【課題・予習・復習・授業準備】 将来、生徒に指導する観点で受講する 【予習復習に必要な想定時間】 2.0時間
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で授業に参加すること。 演習には積極的に参加すること。授業の流れに反した行動を取る場合には履修しないこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の練習、実習計画書の作成、実習生紹介票、誓約書等の作成は授業時間外に各自で行うこととなる。
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	レポート及び実習計画書・実習報告書による評価とする。書類の提出状況、演習への参加状況を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習Ⅰ　　授業コード： S9045

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。さらに、この科目は中学校教諭１種免許状並びに小学校教諭１種免許状の取得に必要な「介護等体験」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」「保育実習（社会福祉施設での実習に限る）」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 【授業の目的】 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第４回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	
		【key words】
		【授業概要】
		【教科書ページ・参考文献】
		【課題・予習・復習・授業準備指示】
		【予習復習に必要な想定時間】

	第１１回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１２回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 介護体験実習Ⅱ　　授業コード： S9046

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
-	3年次	1単位(45)	選択
担当教員			
大竹　勤			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	※この科目は、高等学校教諭１種免許状「福祉」の取得に必要な科目のうち「教科に関する科目」の「社会福祉総合実習」に該当する科目である。同免許取得を目指す学生のうち、本学カリキュラムにおいて「相談援助実習」、「精神保健福祉援助実習」、「特別支援学校教育実習」のうちいずれか１科目以上の単位を取得した場合はその単位で代替することができるので、その場合は当該科目を履修する必要はない。 〔授業の目的〕 上記の教員免許を目指す学生に必要な社会福祉に関する体験について学び、実践できるようになることを目的とする。 〔到達目標〕 社会福祉施設等における現場実習などを通して、講義・演習・実習等で学んだ知識と技術を実際に活用し、高齢者や障害者への総合的な介護活動等が実践できるための基礎的な能力を習得し、介護に関する総合的な知識と技術を習得する。
授業の概要	障害者、高齢者等が豊かで安定した生活を送ることができるために、社会福祉施設等における支援内容、方法について考え、実践的体験を通して、教育従事者に必要な豊かな人間性を養う。社会福祉施設等での介護体験がより良く行えるよう、実習の意義や必要性についての理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	◎
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回

	第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	対人援助サービスに携わる者としての視点で実習すること。 また、将来、児童・生徒に対して社会福祉についての話ができるような意識を持って実習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	実習記録の作成、実習報告書の作成
オフィスアワー	火曜日10時～12時
評価方法	社会福祉施設における、障害者・高齢者への基礎的な支援内容、方法が理解できていることを合格基準とし、レポート等により評価する。実習先指導者の評価及び実習記録等を加味する。
教科書	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（大修館書店）
参考書	授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 英会話　　授業コード：S1182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
ｻﾞｯｸ・ｸﾞﾚｰｽ			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	[授業の目的] 様々な場面で英語を聞きとりそれに応答する会話や、様々な場面で英語で自分を表現する会話を学ぶことにより会話のスキルを習得する。 [到達目標] 1.基本的な英会話に必要な語彙、文法、語句表現などを場面に応じて聞きとり、それに応答できるようになること。 2.聞き取れない語句や言い回しがある場合は英語で質問できるようになること。 3.習得した語彙、文法、語句表現を用いて、自発的に話せるようになること（応答するだけでなく）。
授業の概要	Listening, Speakingの練習を中心に行う。使い慣れていない語彙や語句、文法は例文を通して練習を行い、次にペアーでそれらを用いて会話できるようにする。それぞれの練習では様々な場面を想定して想像力を豊かにして会話を練習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　1. What do you think？ 〔内容〕 ・Do you think..? Yes, I do.　No, I don't. ・Interview a partner 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 goes with Nouns related to clothes 第２回　2. I' ll get him some CDs. 〔内容〕 ・Buying presents ・What do you have? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 dress up shopping list 第３回　3. Do you mind if　I sit here？ 〔内容〕 ・Practice the conversation in pairs ・Asking permission board game. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Do you mind if? Yes, of course. Actually I'd rather you didn't 第４回　4. Review Lesson 〔内容〕 The First Three Lessons 〔Phrases, Vocab., Grammar〕

	第５回　5. What was he doing？ 〔内容〕 ・適当な時制を用いる練習 ・Tell the story from the pictures ・what happened to you? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 過去形、過去進行形 Vocab related to injuries 第６回　6. What are you going to do？ 〔内容〕 ・Interview partner on their next vacation ・Make a sentence from words in brackets 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I may go ～, I am going to go ～ Vocab related to occupations 第７回　7. Where should I go if I want to go out？ 〔内容〕 ・Make new conversation using examples ・How will you find your way? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 Vocab related to tourism what to take / why 第８回　8. Review Lesson 〔内容〕 Games, practice, and exercises 5,6 and 7 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 第９回　9. Complaints 〔内容〕 ・Put the complaints with the picture. ・Customer survey, Describing food ・How do you like your food?(Role Play) 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 I'm afraid / I'm terribly sorry Vocab. Related to food 第１０回　10. The best way to travel辞書を活用 〔内容〕 ・In pairs decide.which hotel to stay in. ・Personal qualities ・Match the adjectives with the phrases 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 比較級. Not quite as cheap/A little more expensive 性格を表す形容詞 第１１回　11. I wish it wasn't raining. 〔内容〕 ・Read the post card and talk about the things he wishes were different. 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 性格を表す形容詞 第１２回　12. What have you been doing？ 〔内容〕 ・Match the person with the activity and how long have they been doing it? ・Pronunciation Practice 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了進行形 感情を表す形容詞 get up to 第１３回　13. What would you do？ 〔内容〕 ・what would you do in each situation? ・Describe the people using the adjectives 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 人格を表す形容詞 第１４回　14. What have you done？ 〔内容〕 ・Use examples to make new conversations. ・Speaking before and after:What have these people had done. ・Interview partner :Would you ever...? 〔Phrases, Vocab., Grammar〕 現在完了形 使役動詞 I've had it dyed 第１５回　15. Review Lesson　(8-12) 〔内容〕 Games, exercises and practice. short test on whole syllabus
受講生に関わる情報および受講のルール	講師の説明が理解できない時や、質問がある場合は挙手して発言する。間違いを恐れないで積極的に会話する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ICT利用（WEBフォームやメールなど）・その他（ミニテスト）
授業外時間にかかわ	授業時に指示する。

る情報	
オフィスアワー	授業終了後30分。
評価方法	定期試験50%、授業への参加50%。
教科書	"Get Real 3" New edition　　出版社 Macmillan
参考書	英和辞典・英英辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人間と宗教　　授業コード：S1241

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
相澤　伸央			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	物質的な豊かさは科学、精神的な豊かさは宗教がそれぞれ主力です。「自分の全てを投げだして初めて共生はある」というのは福祉の源点であり、東洋の宗教に共通する根源でもあります。世界各地の宗教を理解し、特に日本の宗教を深く理解し、共に生きられる人間性を身につけたいものです。
授業の概要	グローバルな現代社会では多種多様な人間と接する機会が多くあります。このような日常の中で、互いに理解しあえる人間関係を作ることが大切です。その根底にある互いの宗教心を理解し、広い視野で共生の道を歩めるようにしたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　オリエンテーション　本科目の目的とシラバスの説明等 第２回　宗教の基礎知識①　人間の特徴と弱点 第３回　宗教の基礎知識②　縄文人と現代人の比較　現代日本人の特性 第４回　宗教の基礎知識③　宗教・科学・芸術・哲学の比較　宗教の特性 第５回　世界の宗教①　アジアの環境の中で活動する宗教としての仏教の特性 第６回　世界の宗教②　インド社会の中で成立した仏教と釈迦の生涯の特徴を見る 第７回　世界の宗教③　オリエントの自然環境と社会の中で育まれたユダヤ教を見る 第８回　世界の宗教④　キリスト教の成立と成長 第９回　世界の宗教⑤　イスラム教の成立から現代へ 第１０回　日本の宗教①　空海の生涯を通し、当時の社会と密教の特性を知る 第１１回　日本の宗教②　鎌倉仏教の特性と日本社会への仏教の浸透を見る 第１２回　日本の宗教③　近世から現代の日本宗教　日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(1)

	第１３回　　日本の宗教④　近世から現代の日本宗教　日本の社会の特性・文化と仏教の関わりを見る(2) 第１４回　　日本の宗教⑤　宗教(仏教)を経験を通して知る 第１５回　　まとめ　人間として現代社会を力強く生きるための智慧を考える
受講生に関わる情報および受講のルール	○授業資料の再発行はしない。必要な場合、学生間でコピーするなど対応すること。 ○受講にふさわしくない態度（ふざける、礼儀に欠ける）を取る学生には受講を拒否することがある。その場合、その講義は欠席扱いとする。 ○授業に関係のないものの教室への持込みは禁止とする。 ○携帯電話、スマートフォン等は机上に出さない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキストを中心として各時間の予習を行ない、積極的に授業に参加する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	授業態度（積極的な授業参加）を30%とし、筆記試験（自分の生き方の問題を中心）を70%として評価します。
教科書	特になし（必要に応じてレジュメ、資料等を配布）
参考書	授業ごとに必要に応じて紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　生涯学習概論　　授業コード：S1271

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	生涯学習の基本理念と内容を理解し、わが国の歴史的展開と現状や世界の流れを知るとともに、生涯学習における学び方を身に付け、学習者への支援方法を効果的に活かせる力を養う。
授業の概要	生涯学習における日本と世界の基本的考え方や理念、特にユネスコとＯＥＣＤの相違、外国の生涯教育、日本の生涯教育の先駆け、生涯学習の今後の展望を学ぶ。また現在の家庭・学校・社会の諸課題を踏まえ、生涯学習時代に期待される人間像について考察する。 社会人として仕事上必要とする書類作成の要領を公用文を中心に学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画		
	第１回	オリエンテーション 【key words】 生涯学習　生涯教育　豊かな人生　偶発的学習　独力的学習 【授業概要】 科目の位置づけとシラバスの説明。生涯学習とは何か。生涯学習は様々な局面で使われており、使う人の立場によって異なる場合が多い。法律や答申での用法を始め、これをめぐる現実や課題をさまざまな側面から説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：Ｐ１～４ 参考文献：三輪健二著「生涯学習の理論と実践」放送大学出版会、香川正弘他編「よくわかる生涯学習」ミネルヴァ書房 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生涯学習に対する考え方を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	国際社会の議論　21世紀教育はケルン宣言によって方向づけられ、生涯学習による知識と技術と資格の重要性を解説する。 【key words】 ケルン憲章　教育大臣会議　知識　技術　資格 【授業概要】 21世紀の教育の世界の流れは、先進国首脳会議でのケルン宣言・生涯学習の目的と希望によって方向づけられたと言われている。そのなかで知識と技術と資格が重要であり、すべての人々の流動性へのパスポートは教育と生涯学習であることを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書： 参考文献：文部科学省ホームページ・ケルン宣言と世界教育大臣会議 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ケルン憲章・教育大臣会議の内容を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第３回	日本での議論・政策　教育基本法は生涯学習の理念を導入、だれでも、いつでも、どこでも学習でき、どう評価するかを考える。 【key words】 誰でも　どこでも　いつでも　ワークライフバランス

【授業概要】
教育基本法の改正で生涯学習の理念を導入。これを踏まえて、国、文部科学省の政策・方針を学び、どこでも、いつでも学習でき、それをどのように評価するかをを説明。ワークライフバランスや遠隔教育の重要性を知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P9～14
参考文献：「生涯学習政策研究」文部科学省生涯学習政策局
【課題・予習・復習・授業準備指示】
世界大学学長シンポジウム（さいたま）での文部科学省生涯学習政策局長の講演を確認すること。
【予習復習に必要な想定時間】

第４回　生涯学習の理念と理論１　古代ギリシャの思想、公教育の父コンドルセの公教育理念、私学教育を概観する。
【key words】
公教育　知識を育てる
【授業概要】
ソクラテス、プラトン、ソクラテスの思想を考える。
コンドルセの公教育の理念とその後を説明し、わが国おける私学教育と生涯学習の考えを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：P5～6
参考文献：荻野弘之著「哲学の饗宴」ＮＨＫライブラリー、コンドルセ著「人間精神進歩史第1部」「人間精神進歩史第２部」岩波文庫

【課題・予習・復習・授業準備指示】
家庭教師的学習　コンドルセ、天野貞祐氏の考え方を知ること。
【予習復習に必要な想定時間】

第５回　生涯学習の理念と理論２　ユネスコとOECDの流れを知り、最近話題のPISAの問題点を考える。
【key words】
ペタゴジー　アンドラゴジー　自己決定性　生きることを学ぶ　ＰＩＳＡ
【授業概要】
ユネスコとＯＥＣＤの教育・学習の流れと相違を知り、基本的なそれぞれの考え方を学ぶ。
最近、3年ごとに行われ話題となっているＰＩＳＡによる学習調査の問題点と将来を考える。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：P20から22
参考文献：ポール・ラングラン著「生涯教育入門」全日本教育連合会、マルカム・ノールズ著「成人教育の現代的実践」鳳出版

【課題・予習・復習・授業準備指示】
ユネスコとＯＥＣＤの基本的な考え方を整理
ＰＩＳＡの日本の推移をどこに問題点があるかを知る。

【予習復習に必要な想定時間】

第６回　生涯学習の内容と形態　民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習への影響を検討する。
【key words】
役に立つ学習　楽しむ学習　学習の基礎となる学習　個人・集団・集合学習　ワークショップ
【授業概要】
生涯学習の実態を実態を内容と形態という側面から説明
生涯学習を支える学校開放に着目しその動向を紹介する。
最近の民間組織の台頭と情報社会の進展を取り上げ、生涯学習にどのような影響するかを検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：P37から40
参考文献：藤岡英雄「学習関心と行動」学文社、山本思外里「大人の学校」中央公論社、廣瀬隆人「生涯学習支援のための参加型学習のすすめ方」ぎょうせい

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分の地域の学校がどのような開放をしているか調べること。
【予習復習に必要な想定時間】

第７回　学校教育と生涯学習　現在の学校は生涯学習の場であり、そのような役割を期待されているかを考える。
【key words】
リカレント教育　生きる力　奉仕・体験活動　学社連携　コミュニティールーム
【授業概要】
学校教育にかかわる人々にとって、現在の学校とは、どのような生涯学習の場であり、またどのような役割を期待されているかを説明
初等・中等教育を検討する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：P49～64
参考文献：浦野東洋一「学校改革に挑む」つなん書房、教師養成研究会編著「教育原理八訂版」学芸図書

【課題・予習・復習・授業準備指示】
自己の学校観がどのようなものか整理して授業に臨むこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第８回　外国の生涯学習１　ドイツの生涯学習の学習プログラム、統一後の問題点や北欧の生涯学習事情を概説する。
【key words】
宿泊型学習プログラム　コンブックス　学習サークル
【授業概要】

		ドイツの生涯学習の特徴はフォルクスホッホシューレという公の施設を中心に幅広い学習プログラムが提供されている点である。この点を説明するとともに、統一後のドイツ社会が抱える問題を考える。 豊かな生活水準や充実した福祉国家政策で知られているスウェーデンとデンマークの生涯学習事情を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書： 参考文献：三島憲一「現代ドイツ」岩波新書、野崎俊一「スウェーデンの生涯学習支援」『生涯学習e辞典』日本生涯教育学会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ドイツ、スウェーデンとデンマークの学校教育制度と福祉の関係を整理しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	外国の生涯学習２　オランダの個別教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーを概説する。 【key words】 ワールドオリエンテーション　シティズンシップ　サービスラーニング 【授業概要】 テーマ型の教育が取り入られているのオランダの教育、アメリカで発達したサービスラーニングや地域コミュニティーのこと、世界最大規模と言われるスミソニアン美術館を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書： 参考文献：リヒテルズ直子「オランダの個別教育はなぜ成功したのか」平凡社、嶺井明子「シティズンシップ教育」東信堂、藤村好美「地域を変えるサービスラーニング」東洋館 【課題・予習・復習・授業準備指示】 オランダ、アメリカの教育事情、スミソニアン博物館について調べること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	生涯学習の先駆け１　生涯勉強に励むことは古今東西を問わず語られてきた。セネカや世阿弥佐藤一斎を概説する。 【key words】 初心　修身　学は一生の大事 【授業概要】 生涯を通して勉学に励むことの重要性は古今東西を問わず語られてきた（セネカ、スマイルズ、大学　世阿弥　佐藤一斎）が、その語られ方は多様である。学び続けることの意義はどのように説かれてきたのかを考える。 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：諸橋轍次著「古典の叡智」講談社学術文庫、野上豊一郎・西尾実「風姿花伝」岩波　文庫宇野哲人「大学」講談社学術文庫、川上正光「言志四録」講談社学術文庫 【課題・予習・復習・授業準備指示】 大学　風姿花伝　言志四録の一つ読むこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	生涯学習の先駆け２　理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生き方、生活倫理実践者の石田梅岩の石門心学を概説する。 【key words】 致良知　　五事を正す　職分　心学 【授業概要】 学問に専念することを人格完成への道筋と捉え、理想的人間像のあり方を示した中江藤樹の生きたかを説明 生活倫理の生涯学習実践者の石田梅岩の石門心学を説明 【教科書ページ・参考文献】 参考文献：山住正巳著「中江藤樹」朝日新聞、古川治著「中江藤樹」明徳出版　今井淳・山本真功編「石門心学の思想」ぺりかん社、柴田実著「石田梅岩」吉川弘文館 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中江藤樹、石田梅岩の時代背景を事前に調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	社会教育制度　生涯学習を推進するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。 【key words】 公的社会教育生涯学習センター 【授業概要】 生涯学習を推進・進行するうえで重要な役割を担うことが期待されている社会教育の制度について概観する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P65～86 参考文献：田中雅文「現代生涯学習の展望」学文社、今西幸蔵・村井茂編「現代における社会教育の課題」八千代出版 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会教育を担う人々の役割を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	生涯学習支援の動向と課題　個人、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し連携・協力する課題について考える。 【key words】 ネットワーク型行政　NPM　学ぶ意欲　知の循環型社会 【授業概要】 生涯学習支援においては、学習支援に係わるあらゆる人々、団体、施設、機関などが、ネットワークを構築し、連携・協力することが重要であるといわれている。これらの生涯学習支援の動向と課題について取り上げエ考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P87～97

	参考文献：伊藤俊夫編「生涯学習の支援」実務教育出版、白石克己・廣瀬編隆人編「生涯学習の新しいステージを拓く１」ぎょうせい 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自分自身が主体となり学習支援を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　まちづくりと生涯学習　自治体が旗振り役のまちづくりと住民主体のまつづくりで、「学び」がどのように関連しているか考える。 【key words】 生涯学習宣言市町村　まちおこし　地域文化 【授業概要】 自治体が旗振り役を務めるまちづくりと住民が主体となって草の根的に展開するまちづくりに分類したうえで、それぞれの街づくりに人々の「学び」がどのように関連しているか考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P99～110 参考文献：田村明「まちづくりの実践」岩波書店、柴田彩千子「市民主体のまちづくり活動の成立」日本女子大学大学院人間社会研究科紀要第10号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 住民自らの生涯学習学習成果をまちづくりにいかにして反映しているかを考える。 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　グローバリゼーションと生涯学習　ダカール行動枠組みなどを初めとする世界の動きを概観し、私たちの生活への影響を考える。 【key words】 ダカール行動枠組み　ESD　自分自身との闘い 【授業概要】 生涯学習の領域でもグローバリゼーションに関する議論が活発に行われるようになった。国境にとらわれない世界が一つであるという感覚と、それに起因する諸問題が私たちの生活に影響を及ぼしている。ダカール行動枠組みなどを始めとする世界の動きを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：P111～121 参考文献：ロランド・ロバートソン「グローバリゼーション」東京あ大学出版会、アンソニー・ギデンズ「モダニティとアイデンテティ」ハーベスト社　斉藤純一「公共性」岩波書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 経済・文化的グローバリゼーションの生み出す諸問題を解決するにはどのようにすればよいかを考えること。 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 レポートは必ず提出すること。 ５回を超えて欠席すると定期試験の受験資格を失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習に重点を置き学習すること。「学び方を学ぶ」ということ意識して学習すること。
オフィスアワー	講師室で授業後30分
評価方法	レポート等で総合的に評価する。
教科書	「　テキスト生涯学習　　新訂版　」　学文社
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： ボランティア活動Ⅳ　　授業コード： S2021

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	選択
担当教員			
足立　勤一・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ委員会			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	ボランティア活動Ⅳの到達目標は、施設関係団体等への就職後の任務（活動）を想定した実践力を高める。この目標達成に求められるボランティアリーダーシップやコーディネート力を身に付けることことでである。他人を「動かす」リーダーシップと依頼先（施設等）と学生を結びつけるコーディネート力は、人間形成にも通じる。
授業の概要	これまでのボランティア活動で身に付けた能力を、更に向上させる。その為には、他人を動かすリーダーシップと依頼先と学生を結びつけるコーディネート力を身に付けるためのプログラムである。正に、本学の建学の精神である「仁」の精神を具体的活動から理解し身に付けることである。「他人にやさしい」とは、弱者や高齢者への支援又は災害ボランティア支援などを視野に入れた活動の実践である。実践を通して、建学の精神を身に付けるプログラムである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション：学生ボランティア活動に求められているのは何か？①学生ボランティア活動史（災害支援・弱者支援） 【key words】 講義の受け方・基本はグループワーク 【授業概要】 これまでのボランティア活動を基に、更に自己啓発に基づくボランティア活動とは何かを求める。 【教科書ページ・参考文献】 『わかる　みつかる　できる』　財団法人内外学生センター、他必要なテキストを紹介する。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 3年間体験したボランティア活動を基に、主体的にボランティア活動ができるよう準備する。
	第２回	地域社会が求めているボランティア活動とは？①本学ボランティアセンターの任務と活動を支援する方策とは？ 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会 【授業概要】 地域連携センター（ボランティア部門）や社会福祉協議会ボランティアセンターの役割について調べる。 求めるボランティア活動を計画立案し出来る事から活動を開始する。 【教科書ページ・参考文献】 P14～　ボランティアグループのつくり方 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでのボランティア体験の上で、地域の求めるボランティア活動とは何か？を関係諸団体等を訪問 し、調査する。
	第３回	発表１．各自（グループ）の考える地域社会における福祉向上を目指したボランティア活動とは何か？（身近から考える。） 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第1回活動準備会。依頼されたボランティア活動の内容や希望人数等を把握し、協力者を募る。
希望者等の人数や活動目的を精査し、依頼先と連携し、具体的なボランティア活動計画を実行する。
グループ内の人間関係に注意し、依頼側とも連絡を密にして、楽しく活動できるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６１～　「ボランティア活動をはじめる」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域連携センター（ボランティア部門）と協力し、担当するボランティア活動の協力者を集め、勉強会を開　催する。

第４回　発表２．これまでの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第２回活動報告会。これまでの活動を、目的や目標設定を含めて活動報告書を作成し発表する。
その後、質疑応答する。（ディベートを行い、次の活動計画や実施に生かす。）
グループ内の人間関係に注意し、参加メンバーの希望に沿う役割分担し、楽しく活動できるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６４～「快適！ボランティア術」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
約束事を確認し守る。学ぶ姿勢から活動を始める。活動先が目指す夢や願いや目標を理解する。

第５回　発表３．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第３回活動報告会。これまでの活動を発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行うことによって、次の活動計画や実施に生かす。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、楽しく活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６５～　「報連相の法則を忘れずに・エマージェンシー（危機回避・危機対応）への心構えを忘れずに」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
ボランティア活動は参加する者皆で協力すること。コミュニケーションが大切。

第６回　発表４．今回までの実践活動を報告書にて発表を行う。その後、批判的精神でディベートを行う。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第４回活動報告会。これまでの活動を発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行うことによって、次の活動計画や実施に生かす。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、更に賛同者を募る。楽しく活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６７～　「人間の連帯の普遍的な表現としてのボランティア活動」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
人類の歴史に誕生した新しい“草の芽”。ボランティア活動は世界の普遍的な“文化”になった。

第７回　前期の活動のまとめ。中間発表会実施及び活動に関するディベートを行う。夏季休暇中の活動計画書の提出。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
前期の活動を総括して発表する。他の活動グループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、夏季休暇中の活動計画案を作成し提出する。
参加メンバーの希望に沿う役割分担し、更に賛同者を募る。協働して活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６９～　「成熟した市民社会を築く」
地域社会から求められていることを探求し、一緒に活動することが求められている。
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
報道に関心を寄せ、社会の変革に気づくことが大切。社協との連携や地域の自治体との連携を模索する。

第８回　発表５．夏季休業中の活動報告書会実施。その後、批判的精神でディベートを行う。。後期の活動計画書提出。
【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会
【授業概要】
第５回活動報告会。夏季休暇中の活動を総括して発表する。他の活動グループの発表についてディベート
する。批判的精神でディベートすることによって、活動を見直し、後期の活動計画を作成し提出する。
参加メンバーを募り、協働して目的・目標達成するための活動ができるように努める。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７４～　「私学教育（学習）とボランティア活動」
【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】

本学の「環境美化活動」の精神を忘れずに！環境づくりもボランティア。

第９回　発表６．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第6回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画に生かす。
参加メンバーを募り、協働して目的・目標達成するための活動ができるようPRに努める。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７７～　「情報源を知りたい」～ボランティア情報ファイルの作成～

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、報道関係を注視し、社協や他のグループがどのような
活動をしているか調べる。その１。（インターネットの活用）

第１０回　発表７．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第７回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
依頼者と連携し、参加者が協働して、目的・目標達成するための活動ができるよう他の学生にPRする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８５～　「ボランティア活動推進団体一覧」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、報道関係を注視し、社協や他のグループがどのような
活動をしているか調べる。その２。（インターネットの活用）

第１１回　発表８．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第８回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
依頼者と連携し、参加者が協働して、目的・目標達成するための活動ができるようPRする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８７～　「ボランティア関連書籍・資料一覧」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
地域福祉向上の観点から、視野を日本全国に広げ、どんな団体やグループがどのような活動をしているか
大学生の活動を中心に調べる。その３。（インターネットの活用）

第１２回　発表９．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第９回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
参加者が協働して、目的・目標達成する喜びを共有できる活動ができるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
本学の『ボランティアハンドブック』及び「活動記録簿」をまとめる。

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を自己評価する。
第3者評価を受け、謙虚な態度でその評価についての分析を行い、知識・技能のみならずコミュニケーショ
ンに於いても不足していると感じた点を改善する努力をする。。

第１３回　発表10．今回までの実践活動を報告書にまとめ発表する。その後、批判的精神でディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】
第10回活動報告会。これ迄の実践活動をまとめ発表する。他のグループの発表についてディベートする。
常に批判的精神でディベートを行い、活動を見直し、今後の活動計画を作成し提出する。
参加者が協働して、目的・目標達成する喜びを共有できる活動ができるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ４８～　「みなさんの力を待っている人々がいる」

【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】
これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を自己評価する。
地域社会から求められていることを自覚し、地域福祉の向上が“自らの喜び”となるように努める。

第１４回　年間の活動報告書のまとめ。グループ内で活動評価についてディベートを行う。

【key words】
ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会

【授業概要】

	年間の実践活動をまとめ、報告書を作成する。活動報告書に基づき、当初の目的・目標に対する達成度を 自己評価する。4年間のボランティア活動体験で得られた“宝物”を卒後の社会生活に生かすようにする。 参加者が協働して、目的・目標達成した喜びを共有できる体験にする。達成感を味合う。 【教科書ページ・参考文献】 特に指定しない。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでの活動について、活動の目的や目標に対する「達成度」を、細かく分析の上で自己評価する。 4年間のボランティア活動体験で得られた“宝物”を卒後の社会生活に生かす方策を検討する。 第１５回　年間活動報告会：活動の社会的評価についてディベートを行う。年間活動報告書を作成、提出する。 【key words】 ボランティアリーダー・コーディネータ、社会貢献、地域福祉、共生社会 【授業概要】 年間活動報告会。活動報告書を作成し、それに基づいて、当初の目的・目標に対する達成度を含め発表 する。 謙虚な態度で自己評価し、身に着けた能力や知識、或いは、できなかった事の反省を行い、卒後の活動 に生かす方策を具体的に作成する。（就職先で、即生かせる活動から取り組むこと） 【教科書ページ・参考文献】 特に指定しない。 【課題・予習・復習・授業（活動）準備指示】 これまでの活動について、どのような活動体験が自己の人間的成長につながっているかを自覚する。
受講生に関わる情報および受講のルール	１．メンバーで地域社会の現状を検討し把握する。求められる活動計画書を作成・実践・評価・改善する。(ＰＤＣＡサイクルで改革改善する) ２．毎月の発表資料については、事前に指導教員に提出すること。万一、指定された日時迄に提出できない場合は、グループの責任で資料を　　必要部数印刷し準備すること。 ３．活動に伴う諸経費に就いては、グループ内で協議し、納得してから実践する事。『年間活動報告書』作成については、指導教員が各グループから提出された報告書をまとめ製本し、ボランティアセンターで保管する。 ４．受講生希望者が10名未満の場合開講しない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１．地域の社会福祉協議会による福祉向上のための活動に関心を寄せ、ボランティアセンターやNPO法人等の活動に関心を持ち、出来れば活動に参加すること。 ２．希望するボランティア活動に参加し、その運営方法や広報活動を学び、他人集めには何が重要かを探求する。 ３．災害ボランティア活動に関心を寄持ち、出来れば活動に参加し実践する事が望まれる。
オフィスアワー	毎週水曜日・木曜日の１６：００～
評価方法	１．活動計画書に基づく、毎月の発表資料や内容を評価する。（４０％）＊２回未提出・未発表の場合、単位を認めない。 ２．各グループの活動結果が地域社会への貢献度に応じて評価する。（２０％） ３．年間活動報告書の内容を評価する。（３０％） ４．活動協力者の募集及び協働活動の内容について評価する（10%）
教科書	『よくわかる　NPO法人・ボランティア』　川口清史・田尾雅夫・新川達郎編　ミネルバ書房
参考書	講義初めの授業内で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称：　更生保護制度　　授業コード：S2185

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
篠原　章			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	更生保護の実態と社会支援のあり方を明らかにして、犯罪・非行をした人との共生社会の実現が不可欠であることを理解し、参加協力の意識を持たせる。更生保護制度は社会福祉士国家試験の科目なので、合格水準到達を目標とする。
授業の概要	相談援助活動において必要となる更生保護を考察し、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職についての知識を得るとともに、機関相互の連携を学習する。社会福祉士国家試験の過去問題を取り上げる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	◎
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	△
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　更生保護は、罪を犯した者又は非行少年を社会内で処遇改善するものであり、福祉との関連も説明する。 【key words】 非行犯罪臨床　共生社会　犯罪少年　触法少年　司法福祉　ダブルロール 【授業概要】 更生保護は、犯罪をした者及び非行のある少年に対し適切に働きかけることで、再犯を防ぎ、立ち直らせることで社会を保護し個人と公共の福祉を増進させることを説明し、福祉との関連も踏まえ、その概要を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ２～１４ 参考書：法務省法務総合研究所編「犯罪白書24年版」、刑事立法研究会「更生保護改革ゆくえ―犯罪をした人の社会復帰のために」現在人文社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護は、犯罪をした者、非行をした者を社旗復帰させることを総合的に考察し共生社会を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	仮釈放等　仮釈放は収容期間満了前に仮に釈放し、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを概説する。 【key words】 仮釈放　仮出場　仮退院　悔悟の情 【授業概要】 矯正施設に収容されている人は収容期間が決められているが、仮釈放等とは、その収容期間満了前に一定の条件を付けて仮に釈放し、社会の中で生活することで、円滑な社会復帰を図ろうとする制度であることを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１５～２２ 参考書：瀬川晃「＜論説＞仮釈放の現代的動向と課題」同志社法学Ｖｏｌ．38，Ｎｏ．３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 仮釈放、仮出場、仮退院ごとに整理をすること。 【予習復習に必要な想定時間】

		50分
	第３回	保護観察　保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて概説する。 【key words】 社会内処遇　指導監督　指導援護 【授業概要】 保護観察の制度と処遇のあり方を捉え、保護観察の種類と方法に重点を置いて説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書:ｐ２３～３５ 参考書：北沢信次著「犯罪者処遇の展開」成文社、刑事立法研究会「更生保護制度改革のゆくえ」現代人文社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護観察の種類を中心にまとめること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第４回	生活環境の調整　刑事施設又少年院収容中の者、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整を考える。 【key words】 生活環境の調整、改善 【授業概要】 刑事施設又少年院に収容中の者に対する生活環境の調整、保護観察付執行猶予者の裁判確定前の生活環境の調整について主に説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ３６～４０ 参考書：松本勝編者「更生保護入門」成文堂 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護法第82，83条を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	更生緊急保護・犯罪被害者対策　刑期を終えて出所した人や保護観察中の人の保護。被害者への救済を考える。 【key words】 応急の措置　意見等聴取　心情伝達　被害者等通知 【授業概要】 刑期を終えて出所した人や保護観察中の人が改善更生のために必要な保護が受けられない場合どのような保護が受けられるか。また犯罪の被害者への支援の取組を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ４１～５１ 参考書：野坂明宏著「司法と福祉の接点ー救護・更生緊急保護」犯罪社会学研究Ｎｏ２２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最近、社会的問題となっている犯罪被害の事例を見ておく。 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	恩赦・犯罪予防活動　政令恩赦、個別恩赦について説明。犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。 【key words】 大赦　特赦　復権　社会を明るくする運動　ＢＢＳ会　更生保護女性会 【授業概要】 恩赦の歴史は古く、奈良時代から行われていた。現在の政令恩赦、個別恩赦について説明。また犯罪予防活動の根拠、位置づけ、具体的活動を紹介する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ５２～５９ 参考書：野坂明宏著「司法と福祉の接点ー救護・更生緊急保護」犯罪社会学研究Ｎｏ２２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 例年7月に実施されている社会を明るく運動について調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第７回	保護観察官・保護司　わが国の保護観察制度は官民協働であり、保護観察官と保護司の役割とその実際を説明する。 【key words】 不良措置　所在調査　保護区 【授業概要】 わが国の保護観察制度は、官民協働に大きな特色があり、保護観察官と保護司はその主要な役割を担っているといえる。この人達の役割とその実際を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ６２～６７ 参考書：北沢信次著「犯罪者処遇の展開―保護観察を焦点としてー」」成文社 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保護観察官と保護司の役割を整理すること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	更生保護施設・民間協力者　更生保護施設の役割・機能を説明。更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の活躍を概説する。 【key words】 更生保護事業　更生保護法人　更生保護女性会　ＢＢＳ会　協力雇用主 【授業概要】 更生保護施設は被保護者を宿泊させながら改善更生に必要な保護を行う場であるが、具体的にどのような役割・機能を担っているかを説明。また民間ボランティアとしての更生保護女性会、Ｂ

		ＢＳ会、協力雇用主の役割を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ６８～７７ 参考書：日本更生保護女性連盟「40年に続く5年の歩み」、日本ＢＢＳ連盟編「ＭｅｓｓａｇｅＢＢＳ活動事例集」日本更生保護協会 【課題・予習・復習・授業準備指示】 BBS会を調べてみること 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第９回	裁判所との連携　少年事件は家庭裁判所と密接に関係している。司法機能と福祉機能を有する家庭裁判所の役割を説明する。 【key words】 全件送致主義　少年保護手続　要保護性　福祉機能　処遇勧告　処遇の転換 【授業概要】 保護観察所は少年事件をめぐって家庭裁判所と密接に連携している。少年による事件は、警察、検察で犯罪の嫌疑があるとされると、すべて家庭裁判所に送致される。司法機能と福祉機能を有する家庭裁判所の役割を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ８０～８６ 参考書：更生保護50年史編集委員会編「更生保護50年史（第1篇） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最高裁判所のホームページで家庭裁判所の地位と権限を調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１０回	検察庁・矯正施設との連携　検察官、更生保護委員会、刑務所、少年院、拘置所の役割と児童相談所について概説する。 【key words】 刑の執行指揮者　再犯防止　矯正教育　矯正処遇　被害者の視点 【授業概要】 検察官は刑の執行指揮を行っており、試行期間である保護観察所や地方更生保護委員会は事件処理等で連携している。この検察庁について説明する。また刑事施設である刑務所、少年院、拘置所の役割と国機関とのかかわりを説明。さらに児童相談所について説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ８７～９５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 検察庁の組織図、刑務所、少年院、拘置所の配置場所を確認しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１１回	公共職業安定所・福祉事務所との連携　公共職業安定所、福祉事務所のあり方、民間団体とのかかわりを説明する。 【key words】 社会参加　総合就労支援対策　応急の救護 【授業概要】 犯罪や非行を行った者を社会に再統合していく有効な方法は、就労支援と言われている。また保護観察対象者が適切な医療、食事など健全な社会生活を営むために援護を必要とする。そのための公共職業安定所、福祉事務所のあり方を説明。また更生保護と民間団体とのかかわりを説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ９６～１０２ 参考書：阿部彩著「貧困から社会排除へ―指標の開発と現状」海外社会保障研究、田島良昭「罪を犯した障害者の地域生活支援について」政策第119巻第8号 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所のこと調べること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第１２回	医療観察法に基づく処遇　重大な他害行為を行った人の社会復帰を目的とする医療観察制度を概説する。 【key words】 心神喪失、心神耗弱　他害行為　精神保健参与 【授業概要】 心神喪失、心神耗弱の状態で重大な他害行為を行った人の社会復帰を促進することを目的とした医療観察制度が平成17年に施行された。この制度では精神保健福祉士、社会福祉士の活躍が期待されている。これについて説明。また、生活環境の調査を本人の社会復帰の促進のために行うことについても説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１０４～１１０ 参考書：松下正明他著【司法精神医療」中山書店 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療観察法、精神保健福祉法の該当条項を確認すること。 【予習復習に必要な想定時間】 50分
	第１３回	地域社会における処遇、関係機関との連携　医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携について概説する。 【key words】 ケア会議　精神保健観察　処遇の実施計画 【授業概要】 本人の円滑な社会復帰を促進するためには地域社会における処遇の3要素ともいえる医療、精神保健観察、援助が統一的な方針のもとで、適正かつ円滑に実施されることが大切である。またそのための指定通院医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携について説明 【教科書ページ・参考文献】

	教科書：ｐ１１１～１１５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 医療機関、保護観察所、都道府県、市町村、民間団体の連携を考えること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分 第１４回　社会復帰調整官等の業務の実際　専門知識を有する社会復帰調整官の業務の実際を説明する。 【key words】 精神保健審判員　精神保健参与　処遇実施計画 【授業概要】 平成15年に成立した医療観察法において社会復帰調整官が成立した。保護観察所において精神障害者の保健及び福祉に関する専門知識を有する者が社会復帰調整官として活躍している。この社会復帰調整官の業務の実際を説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１３４～１４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 社会復帰調整官の配置の実際を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 50分 第１５回　更生保護の今後の展望　更生保護改革、国民・地域社会の理解の拡大、官民協働、保護観察の充実強化を概説する。 【key words】 再犯リスク　認知行動療法　処遇プログラム　証拠に基づく施策 【授業概要】 現在進行している更生保護改革を出発点として、問題点とされる国民・地域社会の理解の拡大、実効性の高い官民協働、保護観察の充実強化を中心に説明 【教科書ページ・参考文献】 教科書：ｐ１４２～１５０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 更生保護改革の問題点を整理すること。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
受講生に関わる情報および受講のルール	板書・口述内容は、定期試験に重要なので整理すること。 国家試験の過去・予想問題の小テストを実施する。 5回を超えての欠席は、定期試験の受験資格失う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各授業内容の重要項目はその周辺の知識も得ておくこと。
オフィスアワー	講師室で授業後３０分
評価方法	定期試験、小テストを総合的に評価する。（目安）定期試験結果70%、小テスト30%
教科書	新・社会福祉士養成講座「更生保護制度」中央法規出版
参考書	授業の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 権利擁護と成年後見制度　　授業コード： S2186

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　成年後見制度に代表されるように、権利擁護のための法、制度、組織、団体および専門職は、現在においても多くのものが用意されている。しかし、このような法、制度等を知らず又は理解しなければ、折角の法、制度等は画餅に帰する。そこで、権利擁護のための法、制度等を知り理解して、それを社会福祉の仕事、社会福祉士の資格の取得等に生かしてもらうことを目指す。 【到達目標】 ①憲法・行政法・民法につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ②成年後見制度につきその重要な概念、手続等を説明することができる。 ③成年後見に関連する事業、機関、団体、専門職につき重要な点を説明することができる。 ④権利擁護に関する実際の事案につき、分析、配慮等ができる。
授業の概要	相談援助活動と法との関係を学んだ上で、相談援助活動に不可欠な成年後見制度および権利擁護に係る事業、組織、団体につき概説し、これらを踏まえて、権利擁護活動の実際を考えて行きたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、権利擁護と憲法Ⅰ（人権） 【key words】 基本原理　精神的自由　経済的自由　社会権 【授業概要】 基本的人権の保障につき、自由権と社会権の性質の違いを中心に説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P7～18 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P19～26 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	権利擁護と憲法Ⅱ（統治） 【key words】 権力分立　国会　内閣　裁判所 【授業概要】 権力分立を基礎に国会、内閣、裁判所について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P19～26 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P27～33　P44～45 【予習復習に必要な想定時間】 60分

	第３回	権利擁護と行政法Ⅰ（行政組織、行政活動） 【key words】 行政主体　行政行為　行政手続 【授業概要】 行政主体、その行う行政行為の意義・種類・効果、それをチェックするための行政手続について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P27～33　P44～45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P33～44 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第４回	権利擁護と行政法Ⅱ（行政救済） 【key words】 行政不服審査　行政事件訴訟 【授業概要】 行政権行使に対する救済方法としての国家賠償、損失補償、行政不服審査、行政事件訴訟について説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 P33～44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P46～63 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第５回	権利擁護と民法Ⅰ（契約など） 【key words】 契約　不法行為 【授業概要】 契約の成立、内容、効果、解除等を説明する。 契約がなくても法律関係の生じる不法行為も説明をする。″ 【教科書ページ・参考文献】 P46～63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P64～75 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	権利擁護と民法Ⅱ（親族・相続） 【key words】 婚姻　親子　相続　遺言 【授業概要】 近しい関係にある人との法律関係として、婚姻、親子、相続、遺言について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P64～75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P78～85 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第７回	成年後見の概要 【key words】 成年後見制度　成年被後見人　後見開始の審判の申立 【授業概要】 成年後見制度（法定・任意）について説明する。 法定後見の一つである成年後見につき、対象、申立等を説明する。″ 【教科書ページ・参考文献】 P78～85　P108～122 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P86～93 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	保佐の概要 【key words】 被保佐人　保佐人　権限付与の申立 【授業概要】 補佐につき、対象、申立等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 P86～93 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　P86～93 【予習復習に必要な想定時間】

60分
第９回　補助の概要
【key words】
被補助人　補助人　権限付与の申立
【授業概要】
補助につき、対象、申立等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P86～93
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P94～102
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１０回　法定後見制度の手続等、任意後見制度
【key words】
欠格事由　行為能力　資格制限　鑑定　登記　任意後見契約　代理権
【授業概要】
後見人等の欠格事由を説明する。
成年被後見人等の行為能力・資格制限等について説明する。
鑑定、登記といった法定後見制度の手続について説明する。
任意後見について、その利用形態、手続、効力等を説明する。
日常生活自立支援事業について、その目的、内容、成年後見制度との連携等を説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P94～102　P103～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１１回　日常生活自立支援事業、成年後見制度利用支援事業、
【key words】
日常生活自立支援事業　成年後見制度利用支援事業
【授業概要】
成年後見制度利用支援事業につき、　その主旨、内容、課題力等を説明する。

【教科書ページ・参考文献】
P124～132　P134～164
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P166～186
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１２回　権利擁護にかかわる組織・団体、権利擁護にかかわる専門職の役割
【key words】
家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会　弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ
【授業概要】
権利擁護にかかわる組織、団体として、家庭裁判所　法務局　社会福祉協議会等につき説明する。
権利擁護にかかわる専門職として、弁護士　司法書士　社会福祉士　リーガルサポート　ぱーとなあ等につき説明する。
【教科書ページ・参考文献】
P166～186
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P188～233
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１３回　権利擁護活動の実際Ⅰ（成年後見活動の実際・権利擁護活動の実際）
【key words】
成年後見制度の利用　クーリングオフ　市町村長申立て　児童虐待
【授業概要】
権利擁護活動の実際として、教科書の事例を題材にその対処例を提示・検討する。

【教科書ページ・参考文献】
P188～233
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P78～122
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１４回　権利擁護活動の実際Ⅱ（ＤＶＤ鑑賞）
【key words】
成年後見制度　根抵当
【授業概要】
成年後見制度に関するＤＶＤを鑑賞し、その実際と手続の概要を見てもらう。

【教科書ページ・参考文献】
P78～122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　P7～233
【予習復習に必要な想定時間】
60分
第１５回　まとめ
【key words】
憲法　行政法　民法　成年後見制度

	【授業概要】 権利擁護と成年後見制度に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 P7～233 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。
オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員編「権利擁護と成年後見制度（新・社会福祉士養成講座19）」中央法規
参考書	六法（例：ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉小六法」ミネルヴァ書房，2018年） 森長秀 編著「法学入門」光生館，2015年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 就労支援サービス　　授業コード： S2187

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
新藤　健太			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 障害者世帯や母子世帯、生活保護受給世帯等の低所得者を中心とする就労の現状及び就労支援等の実状を把握し、労働を取り巻く状況やそれらを調整するための支援について学習する。 【到達目標】 ①労働の権利性について理解し、言語化できる。 ②労働の意義及び労働を支えることの意義を理解し、言語化できる。 ③相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解し、説明できる。 ④就労支援組織と専門職の機能について理解し、概要について説明できる。 ⑤就労支援を実施する上での連携について理解し、個別のケースに応じた支援方法を想定できる。
授業の概要	労働は、一般市民としての権利である。生活を営む上でも重要な要素であるこの権利を全うするため、様々な支援施策が展開されており、社会福祉専門職としてもそれらの支援を担う人材が期待されている。 この授業では、①就労と就労支援の意義、②労働市場の動向、③労働法規の概要、④就労支援制度の概要、⑤就労支援サービスの実施体制、⑥就労支援を取り巻く各分野（労働、福祉、教育など）における連携と実際、これらの内容を中心に「就労」について社会福祉士が携わることの意義や目的を踏まえ学習を進める。 随時、授業中にその回の主題となるテーマについて受講者の発言を求める場合がある。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション　講義の目的、到達目標、評価方法等の理解 【key words】 ・オリエンテーション 【授業概要】 ＜授業の目標＞ ・現行の社会福祉士養成カリキュラムのなかでの“就労支援サービス（本授業科目）”の位置づけを理解するとともに、この科目を学ぶことの意味について考える。 ・ソーシャルワークのグローバル定義、地域共生社会の実現、社会福祉士養成カリキュラムの改定などを概観し、今後、社会福祉士に期待されることについて考える。 ・就労支援サービス（本授業科目）のなかで学んでもらいたい（考えてもらいたい）ことなどを説明する。 ＜授業概要＞ ・社会福祉士のカリキュラム（就労支援サービスの位置づけ） ・社会福祉士養成のなかで、就労支援サービスを学ぶ意味 ・これからの社会福祉士に求められること①（社会福祉士の現状） ・これからの社会福祉士に求められること②（授業に望むことのメッセージ） 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

60～120分

第２回　労働の意義　働く事の意味、労働の権利と義務との関係性、社会福祉士の役割

【key words】
・労働の意義，動機づけ，キャリア発達
【授業概要】
＜授業の目標＞
・就労の意義は“生計の維持”、“社会的役割の実現”、“個性の発揮”など多義的であることを理解する。
・就労の場において、労働者がその持てる個性を発揮するためには、仕事に対する“動機づけ”が重要であることを理解する。
・人間は生涯を通して、多様な役割を果たしつつ、“キャリア発達”していくことを理解する。
・就労支援のプロセスを理解する。
＜授業概要＞
・労働の多面的な意義
・動機づけ
・キャリア発達と就労支援
・就労支援のプロセス
【教科書ページ・参考文献】
・就労支援サービス（弘文堂）p1-p16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「労働の意義等」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第３回　現代の労働を取り巻く状況　労働市場の変化

【key words】
・労働市場，雇用課題
【授業概要】
＜授業の目標＞
・労働力の概念や労働指標を通じて、労働市場の動向をみる基礎を学ぶ。
・今後も人口減少が進む中、就労支援の経済的意義も考える。
・産業別、職業別の就業者数の動向と特徴を考える。
・様々な日本の雇用課題を理解する。
・雇用、生活をめぐる新しい概念をみることで、あるべき労働の姿を考える。
＜授業概要＞
・労働市場の動向
　・就業状態の把握と労働指標
　・労働市場の変化
・労働をめぐる課題
　・非正規雇用の増大、長時間労働、など
　・労働をめぐる新たな概念
【教科書ページ・参考文献】
・p10-p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「現代の労働を取り巻く状況等」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第４回　労働に関する法律と制度

【key words】
・労働法規
【授業概要】
＜授業の目標＞
・労働法規として、労働三法や労働三権について、労働契約について、労働紛争解決制度の動向について理解する。
・労働に関する公的保険として、労働災害補償保険法（労災保険法）と雇用保険法の概要を理解する。
・就労支援にかかる主な法律として、雇用対策法、職業安定法、職業能力開発促進法、最低賃金法、短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律の概要を理解する。
＜授業概要＞
・労働法規の動向
・労働に関する公的保険
・就労支援にかかる主な法律
【教科書ページ・参考文献】
・p19-p33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「労働に関する法律と制度」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第５回　障害者と就労支援①　障害者の就労の現状

【key words】
・授産事業，障害者総合支援法，障害者雇用制度
【授業概要】
＜授業の目標＞
・わが国における授産事業の歴史、その後の障害者雇用の概要を理解する。
・障害者の就労支援に関する、厚生省、労働省それぞれにおける就労支援、そして厚生労働省発足後の、就労支援について理解する。
・旧制度（自立支援法以前）の就労支援の課題、そして、障害者自立支援法（現、障害者総合支援法）における就労支援について理解する。
・就労支援にかかる諸制度と、現在の障害者雇用の状況について理解する。
＜授業概要＞
・職業補導事業－授産
・厚生省と労働省
・就労支援施策の統合機運
・障害者総合支援法と就労支援

・就労支援にかかる諸制度
・障害者雇用の状況
【教科書ページ・参考文献】
・p34-p43
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者の就労の現状」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第６回　障害者と就労支援②　障害者福祉施策における就労支援
【key words】
・就労移行支援事業，就労継続支援（A型・B型）事業
【授業概要】
＜授業の目標＞
・福祉分野のサービス体系と、障害者の（就労）支援において大切なポイントを理解する。
・障害者総合支援法における就労支援（就労移行支援事業、就労継続支援A型事業、就労継続支援B型事業）について、それぞれの違いを意識しながら理解する。
＜授業概要＞
・福祉分野のサービス体系
・障害者の就労支援において大切なこと
・福祉分野のサービス組織
・福祉施策と雇用施策の連携
【教科書ページ・参考文献】
・p44-p50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者福祉施策における就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第７回　障害者と就労支援③　障害者雇用施策における就労支援
【key words】
・障害者雇用促進法
【授業概要】
＜授業の目標＞
・障害者雇用促進法の内容について、その主な内容である、①障害者雇用率制度（雇用義務制度、納付金制度）、②職業リハビリテーションを理解する。
・雇用サービスの組織、団体について、①ハローワーク、②障害者職業センター、③職業能力開発施設を理解する。
・雇用支援の具体的な内容を（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・雇用分野のサービス体系
・雇用分野のサービス組織と団体
・雇用支援の内容
【教科書ページ・参考文献】
・p51-p65
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者雇用施策における就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第８回　障害者と就労支援④　特別支援学校における就労支援・民間の取り組み
【key words】
・特別支援学校，民間企業，CSR，SDGs，ソーシャルファーム
【授業概要】
＜授業の目標＞
・特別支援学校における就労支援について、特に、対象となる障害別の取り組みについて、その概要を理解する。
・特別支援学校における就労支援において、“個別の教育支援計画”の必要性や有効性について理解する。
・民間企業で働く障害者の現状（一般企業に雇用されている障害者数の推移など）を理解する。
・企業の社会的責任（CSR）やSDGs、社会的企業（ソーシャル・エンタープライズ）について（なんとなく）理解し、（可能であれば）自分なりの意見をもつ。
＜授業概要＞
・特別支援学校における就労支援、
　・特別支援学校の現状、
　・特別支援学校での就労支援、
　・移行期での連携と個別の教育支援計画、
・民間の取り組み、
　・民間企業で働く障害者の現状、
　・CSR、SDGs、社会的企業（ソーシャルファーム）
【教科書ページ・参考文献】
・p66-p80
・沖大幹，ほか（2018）『SDGsの基礎』，東英弥
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「特別支援学校における就労支援・民間の取り組み」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第９回　障害者と就労支援⑤　諸外国の取り組み
【key words】
・IPS，EBP，フィデリティ
【授業概要】
＜授業の目標＞
・IPS（Individual Placement and Support）について（なんとなく）理解する。
・特に、IPSと従来の職業リハビリテーションサービスの違いについて理解し、説明できるようになる。

・そのうえで、我が国の就労支援の現状や課題について、受講生それぞれが自分なりに考えることができるようになる。
・EBP（Evidence-Based Practices）やフィデリティ尺度について（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・IPS（Individual Placement and Support）とは何か、
・IPSの理念、
・DVD（IPSを学ぶ）、
・Japan Individual Placement and Support Association（JIPSA）とフィデリティ尺度
【教科書ページ・参考文献】
・デボラ・D・ベッカー，ロバート・E・ドレイク（2004）『精神障害をもつ人たちのワーキングライフーIPS：チームアプローチに基づく援助付き雇用ガイド』，金剛出版
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第10回　低所得者と就労支援①　低所得者等の就労の現状
【key words】
・生活保護受給世帯，ひとり親世帯，ホームレス，生活困窮者
【授業概要】
＜授業の目標＞
・生活保護受給世帯の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・母子世帯（ひとり親世帯）の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・ホームレスの現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
・生活困窮者の現状を理解し、このような人々に対する就労支援の必要性について考える。
＜授業概要＞
・低所得者の就労を学ぶ意味
・生活保護受給世帯
・母子世帯
・ホームレス
・生活困窮者
【教科書ページ・参考文献】
・p90-p99
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「低所得者等の就労の現状」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第11回　低所得者と就労支援②　生活保護受給世帯への就労支援
【key words】
・自立，生活保護制度，自立支援プログラム
【授業概要】
＜授業の目標＞
・生活保護制度において“自立”という概念がどう変化してきたのか、現在は“自立”をどうとらえているのかを理解する。
・自立支援プログラムの概要について理解する。
・生活保護法による就労支援について、特に、①生活保護受給者等就労自立促進事業、②被保護者就労支援事業、③被保護者就労準備支援事業、を中心に理解する。
＜授業概要＞
・社会保障制度の目的と機能
・生活保護制度における自立概念の再検討
・自立支援プログラムの導入
・生活保護法による就労支援の実際
　・生活保護受給者等就労自立促進事業
　・被保護者就労支援事業
　・被保護者就労準備支援事業
　・その他生活保護制度における就労支援の取り組み
【教科書ページ・参考文献】
・p100-p113
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「生活保護受給世帯への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第12回　低所得者と就労支援③　母子世帯への就労支援
【key words】
・ひとり親世帯
【授業概要】
＜授業の目標＞
・母子及び父子ならびに寡婦福祉法や児童扶養手当法が改正され、ひとり親家庭の就労支援施策が充実してきた経緯を理解する。
・ひとり親世帯を支援する様々な事業について（なんとなく）理解し、そのうちのいくつかは、自分の言葉で説明できるようになる。
・ひとり親世帯を対象とした就労支援において、どのようなことが大切なのか、各々に考えてみる。
＜授業概要＞
・母子世帯の年間就労収入の状況
・就労支援の実際
　・母子及び父子ならびに寡婦福祉法、児童扶養手当法等による就労支援
　・母子家庭等就業・自立支援事業
　・母子・父子自立支援プログラム策定事業
　・自立支援教育訓練給付金
　・高等職業訓練促進給付金
　・専門実践教育訓練給付金および教育訓練支援給付金
　・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業

【教科書ページ・参考文献】
・p114-p122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ひとり親世帯への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第13回　低所得者と就労支援④　ホームレス・生活困窮者への就労支援

【key words】
・ホームレス，生活困窮者
【授業概要】
＜授業の目標＞
・ホームレスの自立支援に対する基本的な方針と、具体的な施策（とりわけ、就労支援に関するもの）について理解する。
・生活困窮者自立支援制度における基本的視点について理解する。
・生活困窮者自立支援制度に規定される事業（自立相談支援事業、住居確保給付金、就労準備支援事業、認定就労訓練事業、一時生活支援事業、家計相談支援事業、学習支援事業）について理解する。
＜授業概要＞
・ホームレスへの就労支援
　・ホームレスの自立支援対策と就労支援
　・ホームレスの自立に向けた施策と今後の展望
　・ビッグイシュー
・生活困窮者への就労支援
　・生活困窮者自立支援制度の基本的視点
　・生活困窮者自立支援制度における具体的支援
　・就労支援を展開するにあたっての今後の課題
【教科書ページ・参考文献】
・p123-p137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「ホームレス・生活困窮者への就労支援」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第14回　専門職の役割と実際①　障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割

【key words】
・障害者福祉施策，障害者雇用施策
【授業概要】
＜授業の目標＞
・障害福祉施策における専門職（サービス管理責任者、就労支援員、職業指導員、生活支援員、障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員）の役割について理解する。
・障害者雇用施策における専門職（ハローワークの職員、職業カウンセラー、障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員、ジョブコーチ、職業訓練指導員）の役割について理解する。
＜授業概要＞
・障害者福祉施策における専門職の役割
　・サービス管理責任者
　・就労支援員
　・職業指導員
　・生活支援員
　・障害者就業・生活支援センターの生活支援担当職員
・障害者雇用施策における専門職の役割
　・ハローワークの職員
　・障害者職業カウンセラー
　・障害者就業・生活支援センターの就業支援担当職員
　・職場適応援助者（ジョブコーチ）
　・職業訓練指導員
【教科書ページ・参考文献】
・p138-148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
・テキストを読み「障害者福祉施策・障害者雇用施策における専門職の役割」について予習をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
60～120分

第15回　専門職の役割と実際②　低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者

【key words】
・低所得者等の就労支援
【授業概要】
＜授業の目標＞
・低所得者等の就労支援における専門職（生活保護の就労支援員、福祉事務所の就労支援コーディネーター、福祉事務所の総括コーディネーター、ハローワークの就労支援ナビゲーター、生活困窮者自立支援制度における支援員）の役割を理解する。
・特別支援学校の進路指導担当者、企業の従業員、発達障害者支援センターの就労支援担当職員、などを（なんとなく）理解する。
＜授業概要＞
・低所得者等の就労支援における専門職の役割
　・生活保護の現業員
　・福祉事務所の就労支援員
　・福祉事務所の就労支援コーディネーター
　・福祉事務所の総括コーディネーター
　・ハローワークの生活保護受給者等就労支援ナビゲーター
　・生活困窮者自立支援制度における支援員
・その他の就労支援の従事者
　・特別支援学校の進路指導担当者
　・企業の従業員
　・発達障害者支援センターの就労支援担当職員
　・その他の専門職

	【教科書ページ・参考文献】 ・p149-157 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・テキストを読み「低所得者等の就労支援における専門職の役割・その他の就労支援従事者」について予習をしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	この科目の指定テキストを一読し、分からない用語は事前に調べておくこと。また、授業中には受講者に対して授業の主題や視聴覚教材に対する発言を求める場合がある。受講者同士の相談等は認めるものの、他の受講者の迷惑にならないよう配慮すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	本科目は、社会福祉士の国家試験の受験科目にも指定されている。また、就労支援を必要とする人々を支援するためには、労働関係法規や就労支援に係るサービスだけでなく、障害者や母子家庭、低所得者支援施策に関する知識も実務レベルで求められる。 したがって、この科目だけでなく「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」や「低所得者に対する支援と生活保護制度」等の専門科目で学習した内容を復習することが必要となる。 なお、予習や復習の範囲については、授業時間中に指示する。
オフィスアワー	初回の講義内で具体的に案内します。
評価方法	①定期試験40% ②提出物や課題40% ③授業への取り組み（授業内での発言等）20%
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座18　就労支援サービス』中央法規（最新版）
参考書	授業の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　アクティビティ・サービス援助技術　　授業コード：S2252

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	選択
担当教員			
清水　久二雄			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〈授業の目的〉 人は生活の中にさまざまな「快さ」を感じながら生活しています。その「快さ」が人の心も体も豊かに、活き活きとしますが、それらは一瞬で通り過ぎ、見落としたり、気がつかないこともあります。本科目は対人援助サービスにこれらの「快さ」を発見し、その「快さ」を広げ、深めていく技術を学びます。 〈到達目標〉 ①「生活の快」をベースとした心身の活性化の意義を説明することができる。 ②日常生活の全般にある「生活の快」を発見し、それらを援助技術のヒントに創造できる。 ③1つの「生活の快」のヒントから複数の広がりを想像し、具体的援助方法の計画と実践ができる。 ④1つの「生活の快」のヒントを深める技術を身につけ、あらゆる人の心身の活性化につながる具体的援助方法の計 画と実践ができる。
授業の概要	・本科目は理論と実践のバランスを重視しています。そのため座学で知識を得たのちに演習を行うスタイルとなって 　います。演習では受講生が対象者となって体験場面と支援者としてプログラムを立案、実践することがあります。 　さらに「生活の快さ」は個人によって感じ方や捉え方が違うため、受講生同士で話し合い共有する場もあります。 ・「生活の快さ」をテーマにしているため、視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚　など、あらゆる感覚を支援に活かすこ 　とも授業のテーマとしているため、可能な限り体験する機会も大切にしています。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	◎
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション　　アクティビティ・サービスとは何か 【key words】 生活の快、活性化、心が動くこと 【授業概要】 ・授業概要のオリエンテーションを行う。　人が活き活きとしている姿、「活性化」するという事はどのような状態の事を指すのかについて楽しく考えてみよう。 演習）　あなたの気持ちを上げるもの 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈予習〉テキストP8～12 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２回	なぜアクティビティ・サービスが必要なのか①(定義と生活の中にある意義) 【key words】 生活の快、セラピー、垣内理論 【授業概要】

・アクティビティ・サービスとは何かについてキーワードとなる「快さ」とは何かについて体験を交えて考えよう。「快さ」の幅広さ、個人でも様々ある事について考え、人が活性化するときに必要なものは何かについてより深く考えてみよう。
演習）「生活の快」を改めて考える
【教科書ページ・参考文献】
テキスト P8～12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉テキストP8～12　〈予習〉テキストP13～16
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第３回　なぜアクティビティ・サービスが必要なのか②(日常生活の中にある快さとは何か)
【key words】
日常、非日常、余暇
【授業概要】
レクリエーションとの違いについて様々比較しアクティビティ・サービスは何を目指しているのかを整理します。また日常生活の中にある快さの種を見つけていこう。
演習）　1つのプログラムを使って(アレンジの体験)
【教科書ページ・参考文献】
テキストP13～16
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP13～16　　〈予習〉テキストP17～21
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第４回　アクティビティ・サービスの効果とは　　(どんな場面でどのような効果゛あるのか)
【key words】
心理的、生理的、文化的、　社会的、物理的
【授業概要】
　アクティビティ・サービスの支援によって期待される効果は大きく分けて5つあると言われています。
　それぞれの側面では具体的にどのようなものなのかを体験を通じて考えていこう
　演習)1つのプログラムを事例として活用する(考えてみよう)
【教科書ページ・参考文献】
テキストP17～21
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP17～21〈予習〉テキストP22～28
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第５回　アクティビティ・サービスの対象とは　　(どんな場面でどのような効果゛あるのか)
【key words】
対象、コミュニティワーク、話す、聞く、聴く、尋ねる
【授業概要】
アクティビティ・サービスはすべての人にとつて必要なサービスであると考えられています人の活動の種類や場面は沢山考えて、生活の快を得て、活性化するとい事について体験を通じて考えてみよう。　　演習)1つのプログラムを事例として活用する(発表しよう)
【教科書ページ・参考文献】
テキストP22～28
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP22～28　　〈予習〉テキストP30～31
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第６回　生活支援学とアクティビティ・サービス
【key words】
理念価値、現実価値、文化、ニーズ、健康
【授業概要】
第1回～5回までの授業を通じて、日常性も含めた活動の場面が考えられるため、生活支援として単に提供すめだけではなく、どのような根拠、手法で提供するのかについて事例を用いて体験しながら学んでみよう。　　演習)ナラティブアプローチの体験を通じて①
【教科書ページ・参考文献】
テキストP30～31
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉テキストP30～31〈予習〉テキストP32～36
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第７回　生活支援学の成り立ち①(人権思想・理念価値・現実価値・健康)
【key words】
人権思想、理念価値、現実価値、健康
【授業概要】
アクティビティ・サービスが目指す支援の方向性は1人1人の個人の尊厳であり、そのための人権思想、価値について健康を通じて考えよう。
演習)ナラティブアプローチの体験を通じて①　(人生史を引き出す)
【教科書ページ・参考文献】
テキストP32～36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP32～36　〈予習〉テキストP37～43　P162～(資料編)
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第８回　生活支援学の成り立ち②(文化・ニーズ・人間関係の形成)
【key words】
文化、ニーズ、人間関係の形成
【授業概要】
・アクティビティ・サービスにおいて個人の尊厳を保持するためには文化、ニーズ、人間関係の

		形成について考えていこう。 演習))ナラティブアプローチの体験を通じて②　(人生史と年表と文化を対比させて) 【教科書ページ・参考文献】 テキストP37～43 P162～(資料編) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉テキストP37～43 P162～(資料編)　〈予習〉テキストP44～49　P162～(資料編) 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第９回	人間科学としての生活支援学 【key words】 学問体系、人間科学 【授業概要】 アクティビティ・サービスが学問的体系である事について、事例を用いてその根拠について考えていこう。　　演習)ナラティブアプローチの体験を通じて③　(他己紹介) 【教科書ページ・参考文献】 テキストP44～49　P162～(資料編) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP44～49　P162～(資料編)　〈予習〉　配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１０回	アクティビティ・サービスの6つの分類と12の種類について 【key words】 財、偶然性、アレンジ 【授業概要】 生活の快さは多様で無限にあると考えられますが、大きく分けた場合6つの分類とその中でも12の種類があると考えられます。それらの概要について学んでいこう。 演習)ひとつのテーマをいくつもの段階 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１１回	日常と非日常のアクティビティ・サービス①(刹那的、創造的) 【key words】 刹那的、創造的 【授業概要】 生活の快さには一瞬の刹那的な快さもあれば、作品として後に残る創造的な快さもあります。それらの体験を通じて学んでいこう。 演習)花色紙を使っての体験 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１２回	日常と非日常のアクティビティ・サービス②(娯楽的、学習的) 【key words】 娯楽的、学習的 【授業概要】 生活の快さには楽しむ事が中心の娯楽的な快さもあれば、学ぶ事が楽しいという快さもあります。それらの体験を通じて学んでいこう。 演習)言葉を使った体験 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１３回	日常と非日常のアクティビティー・サービス③(生理的欲求的・苦痛回避的) 【key words】 苦痛回避欲、生理的欲求 【授業概要】 生活の快さには生理的欲求を満たす快さもあれば、苦痛を回避できた事による快さもあります。それらについて、ディスカッションを通じて学んでいこう。 演習)グループディスカッション(事例を用いて) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 配布資料 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第１４回	日常と非日常のアクティビティ・サービス④(利己的・社会的) 【key words】 利己的、社会的 【授業概要】 生活の快さには自らの楽しみのために行うものと、人のために行い喜んでもらう姿を見て自らの喜びになるものがあります。それらについグループディスカッションを通じて学んでいこう 演習)　グループディスカッション(快さを比較してみよう) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】

配布資料
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１５回　前期のまとめ
【key words】
生活の快、アクティビティ・サービス
【授業概要】
１～14回の授業を振りかえり、アクティビティめサービスに関する前期の学びのまとめをグループディスカッションと個人ワークによって学んだことを整理していこう。
演習)快さの見つけ方
【教科書ページ・参考文献】
配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布資料
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１６回　後期ガイダンス
【key words】
チーム、マネジメント、課題解決、目標志向
【授業概要】
後期15回の授業のアウトライン・到達目標・評価の視点などについて説明　その後チームのグループサイズや組織的な連携の意義について考えてみよう。
演習)様々な感覚を使うということ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈予習〉テキストP52～69
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１７回　日本にあけるアクティビティ・サービスの誕生
【key words】
福祉レクリエーション、歴史的経緯
【授業概要】
垣内理論が登場後、レクリエーションからアクティビティ・サービスに変遷していった歴史的経過を振り返る事によって、社会的なニーズの変遷と今後社会からどのようなニーズが求められるのかについて考えよう。
演習)視覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
テキストP52～69
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉テキストP52～69
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１８回　アクティビティ・サービス計画の基本的考え方①　（基本的考え方とニーズ）
【key words】
ニーズ、自己実現、社会関係の維持・参加、心身機能の維持・改善、健康の維持・促進
【授業概要】
垣内理論の登場により、人のニーズは多種多様であり、そのニーズに基づく支援の重要性が指摘されている。それらを踏まえどのように計画されなけばならないかについて学んでいこう。
演習)聴覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
テキストP72～74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉テキストP72～74
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第１９回　アクティビティ・サービス計画の基本的考え方②　（個別支援と集団支援）
【key words】
マンツーマン、グループダイナミクス、人間関係過程
【授業概要】
垣内理論において、個別の支援と集団による支援はニーズや支援の効果によって意図的に使い分ける事が重要であるとされている。支援の内容が個別支援及び集団支援の場合の違いについて体験を通じて学ぼう。　演習)触覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
テキストP74～77、配布テキスト
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP74～77、配布テキスト　〈予習〉　テキストP77～80
【予習復習に必要な想定時間】
60～80分

第２０回　アクティビティ・サービス計画の基本的考え方③　（こころが動くということ、支援者に求められること）
【key words】
情動反応、動機、動因、内発的動機付け、5H
【授業概要】
生活の快はいわばこころが動かなければ得られないものであり、支援者は如何に利用者の心を動かすのかが重要であり、そのために支援者の資質である5つのHについて考えていこう。
演習)嗅覚的な快さへの支援
【教科書ページ・参考文献】
テキストP77～80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〈復習〉　テキストP77～80　〈予習〉　テキストP89～102
【予習復習に必要な想定時間】

		60～80分
	第２１回	アクティビティ・サービス計画の基本的考え方③④　　（アクティビティ・プログラムの計画上の留意点） 【key words】 留意点、9つの要素 【授業概要】 アクティビティ・サービスのプログラムを計画するうえで、留意することについて9つの留意点があることについて学びます。　　演習)スヌーズレンの紹介①　環境の設定 【教科書ページ・参考文献】 テキストP89～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP89～102 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２２回	アクティビティ・サービスの計画　　（計画書立案について） 【key words】 計画書、ニーズ 【授業概要】 アクティビティ・サービス計画書の具体的な立案方法について学びます。その後、実際に計画を作成していきます。 演習)スヌーズレンの紹介②　様々な感覚の融合 【教科書ページ・参考文献】 テキストP89～102 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉テキストP89～102　〈予習〉　テキストP104～111 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２３回	アクティビティ・サービスの展開①　　（立案した計画と活動・参加とのつながり） 【key words】 ICF、意義、内容、活動、参加 【授業概要】 ICFの意義と内容に触れアクティビティ・サービスプログラムが「活動」や「参加」とどのようにつながるのかについて22回の授業において立案した計画書を基に考えつつ、その内容を共有し学びを深めていきます。 演習)立案した計画書の発展的展開①　（快さの深まり） 【教科書ページ・参考文献】 テキストP104～111 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP104～111　〈予習〉テキストP112～116 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２４回	アクティビティ・サービスの展開②　　（立案した計画と背景因子とのつながり） 【key words】 ICF、意義、内容、背景因子 【授業概要】 ICFの意義と内容に触れアクティビティ・サービスプログラムが「活動」や「参加」とどのようにつながるのかについて22回の授業において立案した計画書を基に考えつつ、その内容を共有し学びを深めていきます。 演習)立案した計画書の発展的展開②　（快さの広がり） 【教科書ページ・参考文献】 テキストP112～116 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP112～116　　〈予習〉テキストP112～116 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２５回	アクティビティ・サービスの展開③　　（ポスターセッション） 【key words】 ICF、意義、内容、生活機能、背景因子 【授業概要】 23回。24回授業で実施した立案したアクティビティ・サービスの深まりと広がりについてまとめ、その内容についてポスターセッションを行い、互いの発表を見て、学びを深めていきます。 演習)立案した計画書の深まりと広がりについてのポスターセッション 【教科書ページ・参考文献】 テキストP112～116 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP112～116　　〈予習〉　テキストP120～136 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２６回	アクティビティ・サービスの実践①　　（日常と非日常） 【key words】 日常　非日常 【授業概要】 アクティビティ・サービスにおいて「日常」、「非日常」の支援について考え、どのように支援するかについて考えていきます。 演習)立案した計画書の深まりと広がりについてのポスターセッションの振り返り 【教科書ページ・参考文献】 テキストP120～136 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP120～136　　〈予習〉　テキストP137～144 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
	第２７回	アクティビティ・サービスの実践②　　（個別支援からの展開）

	【key words】 個別支援、ストレングス、シナジー、プログラムの深まり 【授業概要】 アクティビティ・サービスのプログラムの個別支援を中心にテキストにある演習のA・Bを取り上げて学びます。 演習）　テキストにある演習A・B 【教科書ページ・参考文献】 テキストP137～144 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉テキストP137～144　〈予習〉テキストP145～153 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分 第２８回　アクティビティ・サービスの実践③　（集団支援） 【key words】 集団支援、プログラムの広がり 【授業概要】 アクティビティ・サービスのプログラムの個別支援を中心にテキストにある演習のC・Dを取り上げて学びます。 演習）　テキストにある演習C・D 【教科書ページ・参考文献】 テキストP145～153 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP145～153　〈予習〉テキストP1154～160 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分 第２９回　緩和ケアとアクティビティ・サービス 【key words】 苦痛回避欲・緩和ケア 【授業概要】 ターミナル期にある人への苦痛軽減の支援についてアクティビティ・サービスのプログラムの視点から考え、学びます。 演習）　感覚への支援　（快い呼吸、排泄、口渇予防への支援） 【教科書ページ・参考文献】 テキストP1154～160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〈復習〉　テキストP1154～160 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分 第３０回　アクティビティ・サービスの総括 【key words】 アクティビティ・サービス 【授業概要】 これまでの学びを通してアクティビティ・サービスの可能性についてラウンドロビンの方式で発表し、利用者が生活の快をベースとしたいきいきと生活支援について考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 60～80分
受講生に関わる情報および受講のルール	・アクティビティ・サービスは多様価値感があり皆違うことを尊重し合えるようにしましょう。 ・個人の価値観や考える機会が多いかもしれません。授業内での情報共有した内容について、むやみに情報は共有しな いでください。特にSNSを使ったむやみな書き込み、誹謗中傷は固く禁止します。 ・受講生皆さん1人1人が主体的に学ぶことは、誰かの学びに通じています。そのため授業で出される課題等についてはルールに乗っ取った引用は出典元を明らかにし、盗用は固く禁じます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	アクティビティ・サービスは「生活」という広い領域から「快さ」を発見することを大切にしています。生活の中にあるあらゆるものに関心を持ち、それらについて意見が求められたときに自分なりの答えができる準備をしておいてください。
オフィスアワー	初回授業時にアナウンスいたします。
評価方法	定期試験50%　授業時の課題提出物30%　小テスト10&　授業の取り組み姿勢　10% で総合的に評価する。
教科書	新訂アクティビティ・サービス(中央法規出版・.2014)
参考書	講義中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設で5年弱　特別養護老人ホームで19年の実務経験あり。老人保健施設においては2年10ヶ月、専従のレクリエーションワーカーとして業務にあたる。　特別養護老人ホームにおいて介護長として14年従事し、兼務として施設介護支援専門員として従事する。　利用者のアクティビティ・サービスに関するケア内容をケアプランにて計画し、またアクティビティ・サービスを日常生活の中にとり入れてきた。　現在NPO法人　アクティビティ・サービス協議会　理事 アクティビティワーカー資格とアクティビティ・ワーカー担当教員　資格保持している

	アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ・新型コロナウイルス感染状況により分散登校となる場合等は、遠隔授業を実施します。尚その場合はシラバスの 内容が変更することがあります。状況に応じて適宜説明いたします。 ・授業でのワークシートおよび調べ学習の成果物などkの提出、また個人として添削指導の要望がある場合はメー ルでも受け付けいたします。 ・成果物は学生の了承が得られた場合に限り、Google共有ドライブを使用したいと考えています。

講義科目名称：　特設科目・論語　　授業コード：S2301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	必修
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・本学の特色は建学の精神に「仁」を据えていることである。「仁」とは他者を自分のように感じる心である。仁の精神を学ぶことにより、自己陶冶や他者への配慮といった、人格の絶えまざる向上を目指すものである。社会を担う人間にはある程度の社会倫理が要求される。“noblesse oblige”本講義では『論語』を通じて人としてどのように生きるべきか考えていく。 ・仁の実現のために孔子が重要視したものが「学習」である。そして学習の中心は古今東西「読書」であることに変わりはない。読書の習慣が身に付くか否かは、学生時代にかかっている。そのため、本講義では「読書」に関する様々な課題を出す。 【到達目標】 ・論語の内容を建学の精神との関りで他者に説明できる。 ・論語に現れる語彙を用いて自分の考えを説明できる。
授業の概要	・孔子の発言、あるいは孔子の弟子や当時の貴族との対話から、孔子が人間や社会にどのような関心を抱き、そして分析をしていたのか。当時の社会情勢を踏まえて説明していく。そのことにより孔子の考えていたことが我々にも共通する関心ごとであることが窺えよう。 ・講義では孔子に関する映画「孔子の教え」（放題）や中島敦「弟子」を併用していく。映画や小説を通じて、現代人が孔子をどのように捉えていたのかを読み解いていく。 ・内容理解を深めるために、抗議講義した個所を１００字から２００字程度でまとめる練習をしていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	○
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　諸注意　論語概説 【key words】 論語　孔子　儒学 【授業概要】 受講の際の注意点を最初に説明する。本学の建学の精神は『論語』で述べられている「仁」です。「仁」の理解を深めることで、人間そのものの理解を深めていきます。仁の説明の前に『論語』の来歴や孔子の人物について概説します。一つの書籍や人物が途絶えることなく、二千年以上読み継がれてきた所以を考えてみましょう。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P151、P152 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で孔子を調べておく。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第２回	孔子の政治思想Ｉ 【key words】 徳治主義　修己治人 【授業概要】 孔子を祖とする「儒家」の政治思想は、一言で表すと「徳治主義」です。徳治主義とは、為政者

		が自己の身を正し、道徳性を高め、そのことにより周囲を感化・教導することが可能であると考える思想です。弟子たちや当時の貴族が孔子に政事（政治上の事柄）について尋ねています。孔子は政治をどのように考えていたのか。また（これは現在にも繋がりますが）政治と道徳の関係をどのように捉えていたのか考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 プリントを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で儒家を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第３回	孔子の政治思想Ⅱ 【key words】 正名 【授業概要】 孔子の政治思想を語る上で見逃せない言葉が一つあります。それが「正名」です。正名とは名実（名前と実態）がともなっているかどうかを図る思想です。名実の均衡がとれていないと国が乱れる原因になると孔子は考えています。この名実の考えは今の我々にも受け継がれていますし、哲学的問題としても議論がなされています。このことについて考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P86 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で正名・五倫・五常を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第４回	孔子の倫理思想Ⅰ 【key words】 孝　父母　身体 【授業概要】 芥川龍之介は「人生の悲劇の第一幕は親子となったことにはじまっている」（『侏儒の言葉』）と言っています。芥川の真意がどこにあるかは別として、人間は生れた瞬間に親子という関係が自然・必然的に発生します。この親子関係の情愛を重視したのが孔子です。孔子は親（父母）と子の関係をどのように考えていたのか考察していきます。また映画「孔子の教え」を観て、孔子についての理解を深めてもらいます。 【教科書ページ・参考文献】 P1、P6、P7 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で惻隠・羞悪・辞譲・是非・四端を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第５回	孔子の倫理思想Ⅱ 【key words】 仁 【授業概要】 孔子思想の中心をなすものは「仁」です。『論語』の中で仁について言及している箇所は６０以上ありますが、定義づけはなされていません。孔子自身によって場面場面でさまざまな意味合いが付されています。ここでは孔子自身によって「仁」がどのように展開されていったのか考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P19 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で仁・義・礼・智・信・を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第６回	孔子の学問観 【key words】 学　習　文献 【授業概要】 「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。」これは『論語』開巻第一章の言葉であり、誰もが聞いたことのある言葉でしょう。儒家における「学」の重視は、まさに孔子から始まります。孔子にとって、「学」にはどのような意味が込められていたのか。また我々が学ぶ意義についても考察していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P1、P8 【課題・予習・復習・授業準備指示】 図書館にある『大漢和辞典』で学・習を調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 10分
	第７回	「弟子」1・2を読む 【key words】 子路　論語　中島敦 【授業概要】 今回より授業と平行して中島敦「弟子（ていし）」を読んでいきます。みなさんも中島の作品「山月記」（人間が虎になる話）は、高校の現代文の時間に読んだことがあるかと思います。その中島には『論語』を題材にした小説があるのです。それが「弟子」です。「弟子」は孔子より9歳年下の弟子である子路（しろ）の眼を通して、孔子と子路自身の変化を書いた小説です。第7回では子路の孔子への入門から（１）、孔子の下で学ぶ子路の姿を読んでいきます（２）。また子路の母への孝行についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」1・2 【課題・予習・復習・授業準備指示】

「弟子」1・2を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第８回　「弟子」3・4を読む
【key words】
子路　論語
【授業概要】
子路が街中を歩いていると、人々は孔子の噂をしています。それを聞いた子路はどうしたか（３）。孔子の学園では音楽を重視し、弟子たちに瑟（しつ）の練習をさせます。しかし子路の音は殺気にあふれています。それを聞いて孔子はどうしたのでしょう（４）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」3・4
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」3・4を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第９回　「弟子」5・6を読む
【key words】
子路　読書
【授業概要】
子路はよく孔子に怒られていますが、孔子は子路をどのように捉えていたのか（５）。孔子が政治の表舞台に立つと子路も師とともに出てきます。しかし孔子の活躍を隣国は恐れ策をめぐらします。母国の政治に失望した孔子は、子路をはじめ弟子たちとともに放浪の旅に出ます（６）。孔子と弟子の絆についても考えてみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」5・6
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」5・6を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１０回　「弟子」7・8を読む
【key words】
天道　天命　読書
【授業概要】
「邪が栄えて正が虐げられるという・ありきたりの事実について」子路は疑問に思っている。と中島は子路をしてかく言わしめています。中島も抱いたであろうこの難題は、古代中国の歴史書『史記』の作者司馬遷も「伯夷列伝」に「天道是か非か」と記しています。ここでは「弟子」の他に「伯夷列伝」も視野にいれて考えていきます（７）。孔子の門下は多士済々です。子路以外の弟子の様子も読んでいきましょう（８）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。読書に関する発表をしてもらいます。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」7・8
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」7・8を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１１回　「弟子」9・10を読む
【key words】
放浪
【授業概要】
孔子は諸国放浪中、衛の国の為政者とたびたび面会していますが、孔子は受け入れられるのか（９）。また放浪中の孔子と弟子の集団はしばしば危険な目に遭いますが、そのような時でも孔子は泰然自若としています。その様子を見た子路はどうしたでしょうか（10）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」9・10
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」9・10を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１２回　「弟子」11・12を読む
【key words】
隠者　道　心
【授業概要】
放浪中の孔子師弟はさまざまな種類の人間に会います。その中でも逸民（世間を逃れ隠れ住んでいる人）との対話が眼を引きます。『論語』微子篇にその様子が記されていますが、これを題材に中島は小説「弟子」の一齣に入れます。逸民の態度に孔子や子路は自分たちの考えをどう伝えるのか、読んでみましょう。また「道」という言葉の持つ意味について夏目漱石の『心』からも考察してみましょう（11）。孔子に心酔している子路ではありますが、そんな子路にも師孔子への不満はあります。どういう不満なのでしょうか（12）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。
【教科書ページ・参考文献】
「弟子」11・12
【課題・予習・復習・授業準備指示】
「弟子」11・12を読んでおいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
15分

第１３回　「弟子」13・14を読む
【key words】
政事

	【授業概要】 孔子師弟の放浪は１４年に及びます。その間、子路は孔子から離れずついていき成長していきます（13）。子路は衛の国に乞われ仕官することになりました。これは表舞台で政治に携わることを意味します。政治家子路の誕生です。子路の手腕を読んでいきましょう（14）。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」13・14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」13・14を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第１４回　「弟子」15・16を読む 【key words】 君子 【授業概要】 子路の名声は諸国に鳴り響くようになりましたが（15）、子路は衛の国の内乱に巻き込まれてしまいます。衛の内乱を伝え聞いた孔子は「由や死なん（子路は死ぬだろう）」と発言しました（16）。果たしてどうなるのか、最終章を読んでみましょう。「弟子」に出てきた『論語』についても解説します。 【教科書ページ・参考文献】 「弟子」15・16 【課題・予習・復習・授業準備指示】 「弟子」15・16を読んでおいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
	第１５回　『論語』と儒家思想の展開ー孟子を例にー 【key words】 鰥　寡　孤　独　惻隠の心 【授業概要】 孔子の歿後、孔子の教えは弟子たちによって諸国に広められていきます。孔子の教えを受け継いだ者たちの中で、現在にも伝わっているのが孟子と荀子の思想です。ここでは、孔子の倫理思想の展開として『孟子』の中から「仁義」「鰥寡孤独（かんかこどく）」と「惻隠の心」を取り上げ、孔子の思想がどのように展開したのか跡を追っていきます。また孟子の思想について考察していきます。 プリントを配布します。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 孟子の性善説について説明できるよう調べておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 15分
受講生に関わる情報および受講のルール	・ただ授業を聞くといった受け身の姿勢ではなく、「学ぶ意義」を問いかけながら、積極的に参加すること。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めません。また注意しても態度を改めない者（講義中のおしゃべり・居眠り等）には、退室を命ず。 ・不明な用語の当たったら、辞典類で調べること。 ・この講義では毎回受講生にも、講義内容について意見を表明したり、学生同士で議論をしてもらう。また課題について自分で調べてもらう。 ・日頃より古典をはじめとした人文学に親しみ、読書の習慣を取得すること。人生において読書の習慣が身に付くか否かの最後の年になろう。学生時代に読書が習慣化されなかったならば、恐らく一生涯読書の習慣が身に付くことはないであろう。したがって、読書に関する課題や発表等を課す。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・『論語』を代表とする古典に親しみ、古人の思考に触れ、人文学における学問様式を理解するように努めること。 ・授業計画に示されている部分を必ず一読してから授業に臨むこと。
オフィスアワー	火曜日16時から18時
評価方法	定期試験60%、レポート20%、発表20%
教科書	鈴木利定監修／中田勝編著『注解書下し論語全文』明治書院
参考書	金谷治訳注『論語』（岩波文庫）吉田賢抗著『論語』（明治書院、1960年5月）渋沢栄一『論語と算盤』（2008年10月、角川ソフィア文庫）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育

	■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　卒業論文

授業コード：S2951　S2952　S2953　S2954
S2955　S2956　S2957　S2958

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	選択
担当教員			
担当教員			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 卒業論文の作成を通して問題意識の醸成、研究方法、参考文献・資料等の収集方法、調査の方法、発表の方法等の学習を深める。これらの学習から、学生自身の専門とする領域の実践能力や、地域での活動の基礎となる問題解決能力や分析能力の質を高めることを目標とする。 〔到達目標〕 論文作成
授業の概要	これまでの講義・実習・演習等を通じて学んだ専門的な知識や技術をもとに、日常的な社会問題や社会福祉に関する事柄について研究的な視点から問いを立て、探求する活動を実践する。学生個々の関心に基づいてテーマを設定し、担当教員の指導のもとで研究活動を実践し論文としてまとめる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	○
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回 教員（主な研究領域） 大島由之（臨床心理学・精神的健康） 柳澤充（マイノリティー・福祉問題） 新藤健太（障害福祉・ソーシャルワーク） 鈴木淳（障害児者支援臨床・医療心理） 真下潔（児童福祉・聴覚言語障害） 川端奈津子（発達障害・インクルーシブ保育） 大野俊和（社会心理学・教育社会心理学）※2019年度休講 上記教員が個別的に指導を行う。なお、時間割上での指定時間はないので、担当教員と協議の上、適宜指導時間を調整し指導を受けること。 授業内容：論文執筆に関する指導 〔留意事項〕 履修登録にあたって、事前に各自の研究課題などを考慮し、上記一覧から指導を受けたい担当教員へ相談し研究内容と指導方法等について話し合うこと。なお、「主な研究領域」は担当教員の主な専門領域を示しており、卒業論文のテーマを制限するものではない。 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回

	第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	この授業では、これまでの学習成果を統合し、そこから生じた問題意識を明確化した上で参加することが求められる。また、その問題意識を研究レベルで展開するために必要な事前作業が求められる。興味関心を持ち自ら積極的に取り組むことが大切となる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	その他（個々の教員とのゼミ方式の個別指導による。）
授業外時間にかかわる情報	各担当教員から指示する。
オフィスアワー	各担当教員による指示に従うこと。
評価方法	担当教員からの個別指導の履行状況：50%、執筆論文：50%
教科書	授業中に紹介する。
参考書	授業中に紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 福祉事務所運営論　　授業コード：S3041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	２単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
林　孝和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　行政組織の仕組み、そこで働く専門職の実態について理解を深め、「福祉事務所」の制度や社会福祉主事等の専門職員の役割を理解する。
授業の概要	福祉事務所の組織や機能、歴史と関連法制度など概要を理解し、特に行政組織の仕組みやそこで働く専門職員の実態から、福祉事務所運の今日的課題等を学ぶものである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	○
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション 【key words】 社会福祉行政の実施主体となるのが福祉事務所である 【授業概要】 社会福祉サービスに関することの中心となる機関である福祉事務所について学ぶための基本的事項を説明する。また、授業概要、授業の実施形態、評価基準等など説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ― 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所の存在を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	福祉事務所とは何か 【key words】 福祉ニーズと社会福祉サービスの相談窓口たる福祉事務所の特徴を知る 【授業概要】 福祉ニーズを取り巻く環境の変化。福祉事務所の法的根拠、設置目的、業務内容などを知る。また、福祉サービスの基本である地域性・総合性・迅速性とは何かについても考察する。 【教科書ページ・参考文献】 P51～70 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉サービスにおける地域性とは何か考察しておく 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	福祉事務所の成立と歴史的展開 【key words】 福祉事務所の大きな役割は国民のセーフティーネット実践の最前線機関である。 【授業概要】 セーフティネットの中心となる困窮対策の流れを時代考証し、主に旧生活保護法や現在の生活保

		護法に至る経緯を学ぶとともに、福祉事務所の設置、社会福祉主事制度の開始に至る法整備の状況についても検証する。 【教科書ページ・参考文献】 P15～50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 我が国の困窮対策の歴史的流れを考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第４回	福祉事務所の専門職と役割 【key words】 福祉事務所の大きな役割は国民のセーフティーネット実践の最前線機関である。 【授業概要】 福祉事務所の役割、勤務する専門職の役割、業務執行体制等など学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P93～101 【課題・予習・復習・授業準備指示】 福祉事務所で働く専門職の種類、業務内容を確認しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	生活保護と福祉事務所１ 【key words】 生活保護　被保護者　被保護世帯　扶養照会　扶助 【授業概要】 生活保護の原理・原則、生活保護の現状と問題点、生活保護の相談から決定までを学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P157～176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護の現状を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第６回	生活保護と福祉事務所２ 【key words】 生活保護　被保護者　被保護世帯　扶養照会　扶助 【授業概要】 生活保護における扶助の内容と具体的なケースを紹介、宿所提供施設について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 P157～176 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護の現状を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第７回	母子及び父子並びに寡婦と福祉事務所 【key words】 母子　父子　寡婦　ドメスティックバイオレンス　売春防止法 【授業概要】 母子自立支援員・婦人相談員の役割、DV（配偶者等による暴力）、相談・一時保護と福祉事務所の業務、役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P75、P183～175 【課題・予習・復習・授業準備指示】 母子、父子、寡婦の現状について考察しておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 120分
	第８回	ケース検討１ 【key words】 就労困難　就労支援　母子　父子　寡婦　ドメスティックバイオレンス　売春防止法 【授業概要】 生活保護世帯、ひとり親世帯のケースを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P182～185 【課題・予習・復習・授業準備指示】 生活保護世帯の内訳を調べておくこと 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第９回	高齢者福祉と福祉事務所 【key words】 老人福祉法、高齢者虐待防止法、介護保険法、介護保険制度 【授業概要】 老人福祉法と措置、高齢者虐待防止法とその支援のあり方などを理解する。また、各種法制度と福祉事務所との関わりを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P173～174 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者福祉の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分

	第１０回　障がい者福祉と福祉事務所 【key words】 身体障害　知的障害　精神障害　発達障害 【授業概要】 障がい者に関連する法律、制度を理解し、その支援のあり方を理解する。また、各種法制度と福祉事務所との関わりを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P74～P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障がい者福祉の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１１回　ケース検討２ 【key words】 高齢者　障がい者　介護問題　貧困　就労支援　稼働能力 【授業概要】 高齢者世帯、精神障がい者世帯のケースを検討する。 【教科書ページ・参考文献】 P103～128 【課題・予習・復習・授業準備指示】 高齢者の介護問題、精神障がい者の就労に関する現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１２回　保育及び児童手当等と福祉事務所 【key words】 保健所　児童手当　児童扶養手当　保育所 【授業概要】 保育に関する相談業務、保育所への入所事務手続き、各種手当（児童、児童扶養）を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P75、P164～170 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童福祉に関する現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１３回　児童相談所と福祉事務所 【key words】 児童相談所　児童虐待　保護 【授業概要】 児童相談所とは、児童虐待の現状、福祉事務所との関わりなどを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P75 【課題・予習・復習・授業準備指示】 児童虐待の現状を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 120分 第１４回　保健センター・地域福祉と福祉事務所 【key words】 保健所　保健センター 【授業概要】 市町村保健センターの役割・主な業務、福祉事務所との関わりなどを理解する。 【教科書ページ・参考文献】 P76 【課題・予習・復習・授業準備指示】 保健センター、保健所の役割を調べておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　試験前オリエンテーション 【key words】 社会福祉推進の第一線機関として抱える諸課題等について整理するとともに、今後の在り方についても検討を試みる 【授業概要】 福祉事務所の今日的課題を見ながら、今後の在り方について総論的に学びを深める。また、試験出題範囲、出題形式、評価基準を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 － 【課題・予習・復習・授業準備指示】 これまで学修してきた中で、課題やそれに対する提言などを整理しておく 【予習復習に必要な想定時間】 120分
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。授業の前に教科書は読んで予習をすること。学びを深めるためにアクティブラーニングを行うので積極的に参加すること。ペットボトルや飲料は机上に置かないこと。私語を慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	チェックイン、チェックアウト時のGoogleフォーム。その他授業内で質問の有無を問うので、積極的に発問すること。
授業外時間にかかわる情報	上記に示した授業以外の学修は、身近な行政機関、福祉事務所や福祉施設を訪れて学習するなど授業外学修をすること。

オフィスアワー	毎週水曜日　午前10：30～12：00（この時間帯以外については要予約）
評価方法	定期試験60%、理解度テスト20%、授業への参画20%
教科書	宇山勝儀/船水浩行編著　『福祉事務所運営論』　［第４版］　ミネルバァ書房　　2016年4月
参考書	授業中に適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 Googleフォームとスマートフォンを利用して、リアルタイムで受講学生の意見を収集・公開して学びを深める。また、チェックアウト時に授業の感想・質問を集め、適宜フィードバックする。

講義科目名称：　子どもの保健Ⅰ　　授業コード：S4041

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子ども、特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患の特徴と対応法および不慮事故の予防知識を身につける。 【到達目標】 　１）子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 　２）子どもの身体の成長や運動機能・生理機能・精神機能の発達について理解できる。 　３）子どもが健康に成長できる環境について考えることが出来る。 　４）子ども保健の講義で学んだことを、社会人（親、保育士）になって、育児・保育の現場で活用して、子供や家族に適切な支援・指導・助言もできる。
授業の概要	子どもの保健は、子どもたちのこころと身体の健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの健康問題を把握し、心身の健康づくりと保健活動の重要性について学ぶ。具体的には、乳幼児期の身体発育・生理機能の発達、子どもの主な病気について学ぶ。また、子どもの精神保健、保育現場における衛生管理・安全対策について理解する。保育者の役割、地域における健康づくり・家庭との連携の必要性について考える。前期では、こどもの身体発育とその評価、生理機能の発達などについて学び、後期では、子どもの主な病気、精神保健と衛生安全管理について学び、理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	オリエンテーション、「子ども」の健康概念 【key words】 子どもの保健、健康，子どもの権利の条約 【授業概要】 子どもの保健Ⅰの概要、目的、授業の注意事項、成績の評価方法、子どもの概念、子どもの健康の定義、子どもの権利の条約について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p８～９、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 　p９～１１ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	「健やか親子21（第２次）」 【key words】 健やか親子21(第２次)、周産期、合計特殊出生率、新生児・乳児死亡率、幼児死亡率 【授業概要】 健やか親子２１（第２次）の課題、周産期、合計特殊出生率、新生児・乳児死亡率、幼児死亡率について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p９～１１、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１２～１４
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　子どもの保健の実践と課題
【key words】
発育、発達、児童虐待

【授業概要】
子どもの発育と発達の保障、社会的育児支援、疾病障害予防、地域における保健活動と児童虐待防止について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１２～１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１５～１８
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　子どもの発育・発達
【key words】
胎内発育、発育期、発育曲線、発育原則
【授業概要】
受精と胎内発育、発育の区分、発育の経過と発育曲線、発育の原則について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１５～１８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１８～２１
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　新生児期の身体発育
【key words】
出生時体重、新生児黄疸、生理的体重減少
【授業概要】
出生時の身体計測、低出生体重児、成熟新生児の身体特徴、新生児黄疸、新生児生理的体重減少について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１８～２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p２１～２３
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　乳児期以降の身体発育
【key words】
乳児期、幼児期、学童期、思春期
【授業概要】
乳児期、幼児期、学童期、思春期の身体発育と特徴について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p２１～２３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p２４～３０
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　乳幼児身体発育の評価
【key words】
乳幼児身体発育曲線、肥満度、カウプ指数、BMI
【授業概要】
乳幼児身体発育曲線、肥満度、カウプ指数、BMIの読み方、判定基準について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p２４～３０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p３１～３４
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　呼吸・循環機能の発達
【key words】
呼吸機能、循環機能
【授業概要】
子どもの呼吸機能の発達、呼吸形式の変化、循環機能を構成する組織、出生後の循環変化、血圧・血液の成分の変化について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p３１～３４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p３４～３８
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　免疫機能・消化機能の発達
【key words】
免疫機能、消化機能
【授業概要】
免疫の概念、免疫のしくみ、消化機能を構成する器官および各々の機能について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p３４～３８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p３８～４１
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　尿排泄機能・水分代謝・体温調節機能の発達
【key words】
尿排泄機能・体温調節機能
【授業概要】
尿排泄機能を構成する組織、尿排泄機能の発達，身体の水分構成、水分必要量、子どもの平熱、体温調節機能の発達について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p３８～４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p４２～４４
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　内分泌機能の発達、睡眠リスム
【key words】
内分泌機能、睡眠リスム
【授業概要】
子どもの内分泌機能の発達、主な内分泌器官と分泌するホルモンの作用、子どもの睡眠・覚醒リズムの変化について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p４２～４４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p４５～４７
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　感覚機能の発達
【key words】
感覚機能
【授業概要】
子どもの皮膚覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚の発達について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p４３～４５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p４５～４８
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　神経機能の発達
【key words】
神経機能、原始反射
【授業概要】
こどもの神経系を構成する組織とその発育、神経機能の発達、原始反射、乳幼児期の運動発達について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p４７～５０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p５１～５８
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　精神機能・情緒・行動の発達
【key words】
精神機能、言語発達、愛着行動、社会性
【授業概要】
子どもの知能の発達、言語の発達、情緒の発達、愛着行動の変化、社会性の発達について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p５１～５８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
いままで配布したプリントの問題を完成する。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　前期のまとめ
【key words】

子どもの正常な発育発達
【授業概要】
前期で学んだ子どもの正常の身体の発育、生理機能の発達について復習する。
【教科書ページ・参考文献】
p９～５６、プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
プリントの問題をしっかりと理解し暗記する。
【予習復習に必要な想定時間】
２４０分

第１６回　後期オリエンテーション、子どもの病気の特徴
【key words】
病気の特徴
【授業概要】
子どもの保健Ⅰ後期の概要、授業の注意事項、成績の評価方法、子どもの病気の特徴について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p５７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p５７～６３
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１７回　ウイルス性感染症
【key words】
感染症、予防接種、ウイルス感染症
【授業概要】
感染症の概念、感染症の分類、感染の経路、予防接種、麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、突発性疱疹、伝染性紅斑、手足口病、日本脳炎、インフルエンザについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p５７～６３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p６３～６５
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１８回　細菌性感染症
【key words】
細菌性感染症
【授業概要】
扁桃炎、溶連菌感染症、破傷風、乳児ボツリヌス症、マイコプラズマ感染症、クラミジア感染症、寄生虫症について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p６３～６５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p６５～６８
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１９回　先天異常
【key words】
先天奇形、先天代謝異常
【授業概要】
先天異常の概念、遺伝子病、染色体異常、外因・環境要因による先天異常について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p６５～６８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p６５～７１
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２０回　アレルギー性疾患
【key words】
アレルギー
【授業概要】
アレルギー反応、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、川崎病について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p６５～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p７１～７５
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２１回　消化器疾患
【key words】
消化器、食中毒
【授業概要】
肥厚性幽門狭窄症、腸重積、鼠径ヘルニア、虫垂炎、食中毒、ウイルス性胃腸炎について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p７１～７５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p７５～７７

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２２回　呼吸器・循環器・血液系の疾患
【key words】
呼吸器、循環器、血液系
【授業概要】
かぜ、グループ症候群、細気管支炎、先天性心疾患、不整脈、貧血、小児白血病について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p７５～７７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p７７～８０
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２３回　神経系・泌尿器・生殖器・皮膚の疾患
【key words】
神経系、けいれん、泌尿器、皮膚
【授業概要】
髄膜炎、脳炎、脳性まひ、けいれん性疾患、けいれん発作時の手当、尿路感染症、包茎、ネフローゼ症候群、水いぼ、伝染性膿痂疹、おむつかぶれについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p７７～８０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p８０～８３
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２４回　眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患
【key words】
眼・耳科、整形外科の疾患、内分泌・代謝性疾患
【授業概要】
目の病気、中耳炎、成長痛、O脚、X脚、低身長、糖尿病、小児期の肥満、先天性代謝異常症について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p８０～８３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p８３～８４
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２５回　人畜共通感染症、乳幼児突然死症候群
【key words】
狂犬病、乳幼児突然死症候群
【授業概要】
狂犬病、乳幼児突然死症候群について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p８３～８４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p８９～９９
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２６回　子どもの心の健康
【key words】
精神保健、虐待
【授業概要】
子どもの精神発達課題、乳児期・幼児期・学齢期・思春期の精神保健、問題行動とその対応、虐待について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p８９～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p９９～１０１
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２７回　発達障害
【key words】
発達障害、広汎性発達障害、注意欠陥発達障害、学習障害
【授業概要】
広汎性発達障害、注意欠陥発達障害、学習障害について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p９９～１０１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１１９～１３３
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第２８回　保育現場における衛生管理と安全対策
【key words】
不慮の事故、事故予防対策
【授業概要】
子どもの不慮の事故、事故の背景・要因と内容、保育所での事故、事故防止と安全対策について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

	p１１９～１３３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 p１３６～１４０ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２９回　主な母子保健対策と保育 【key words】 健康診査、保健指導、療養援護 【授業概要】 母子保健対策における健康診査、保健指導、療養援護について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 p１３６～１４０ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 いままで配布したプリントの問題を完成する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第３０回　後期のまとめ 【key words】 子どもの主な病気、精神保健、衛生安全管理 【授業概要】 配布したプリントの問題を沿って、今まで学んだ子どもの主な病気、精神保健と衛生安全管理について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書p５７～１４０、プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プリントの問題をしっかりと理解し暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 ２４０分
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	期末筆記試験（80%）とノート（20%）を総合して評価する。
教科書	佐藤益子編著　　子どもの保健Ⅰ　　ななみ書房　　最新版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育内容総論　　授業コード： S4101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 遊びや生活を通して総合的に指導するという保育の基本を知り、具体的な乳幼児の姿と関連づけながら、環境を構成し実践するために必要な知識・技術を身に付ける。特に、具体的な幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。 【到達目標】 〇保育内容を総合的に捉える視点を身に付ける。 〇幼児教育の基本を踏まえた指導の考え方を理解する。 〇乳幼児の興味や関心、発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方について理解する。
授業の概要	遊びや生活を通して総合的に指導するという保育の基本を理解し、保育所保育指針・幼稚園教育要領及び、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「保育の内容」の関連について学ぶ。また、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	保育の基本及び保育内容の理解 【key words】 保育の目的 保育の目標 ねらいと内容 【授業概要】 保育の内容を考えるために押さえておくべき保育の基本について学ぶ。子ども一人ひとりの発達のプロセスを総合的、長期的に捉える視点をもち、子どもの主体性を尊重する保育を行うため「保育の目的」「保育の目標」「保育の内容（ねらい及び内容）」の関係をつかむ。 【教科書ページ・参考文献】 P13～24 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P13～23を読んでくること。 《復習》教科書P24の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	保育の全体構造と保育内容 【key words】 養護 教育 5領域 内容の取り扱い 【授業概要】 「養護」及び「教育」に関わる保育内容について学び、「生命の保持」「情緒の安定」「領域」

という考え方と5領域のねらいと内容について理解する。また、ねらいや内容を柔軟に取り扱うと共に、配慮すべき事項について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P25～36
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P25～35を読んでくること。
《復習》教科書P36の振り返りチェックシートをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　保育内容の歴史的変遷とその社会的背景
【key words】
フレーベル
倉橋惣三
幼稚園令
保育要領
幼稚園教育要領
【授業概要】
歴史と共に変わってきた保育内容について、社会的背景を踏まえながら戦前、戦時下、戦後、とその変遷について学ぶ。また、そのような変遷を経て至る現行の保育内容について、不易と流行の視点で見る目をもつ。
【教科書ページ・参考文献】
P37～48
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P37～47を読んでくること。
《復習》教科書P48の振り返りチェックシートをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　子どもの発達や生活に即した保育内容ー乳児保育・1歳以上3歳児未満ー
【key words】
乳児保育
発達の特徴
３つの発の視点と5領域
【授業概要】
乳幼児期は環境への主体的なかかわりによって心身の発達が促され、大人や子ども相互のかかわりを通じて身体的、知的、情緒的、社会的及び道徳的な発達が促されることを理解し、子どもの発達や生活に即した保育内容の充実について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P49～62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P49～61を読んでくること。
《復習》教科書P62の振り返りチェックシートをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　子どもの発達や生活に即した保育内容ー3歳以上児・異年齢ー
【key words】
基本的生活習慣
自己主張と他者受容
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
【授業概要】
基本的な子どもの発達の特性を踏まえ、子どもの育ちにつながる自然な形の保育の在り方について考える。また、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識しながら保育の内容を組織的、計画的に構成していくための留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
P63～75
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P63～74を読んでくること。
《復習》教科書P75の振り返りチェックシートをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第６回　個と集団の発達を踏まえた保育
【key words】
個の発達
集団の発達
協同的な活動
自己抑制力
【授業概要】
子ども一人ひとりが園生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わうと同時に。身近な人と親しみ、かかわりを深め、愛情や信頼感をもつという、個と集団の発達の相互作用について学び、それを育てる保育者の役割について考える。
【教科書ページ・参考文献】
P77～88
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》教科書P77～87を読んでくること。
《復習》教科書P88の振り返りチェックシートをやること。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　保育における観察と記録－子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程－
【key words】
観察の観点
保育の記録
PDCAサイクル
【授業概要】
一人ひとりの子どもの状況や発達について理解し、子どもの育ちを心身両面から支えるため、何

		をどのように観察すればよいのか様々な観察の方法と観点について学ぶ。また、保育内容の基本的な考え方を子どもの実態や子どもを取り巻く状況変化などに即したものにするためのPDCAサイクルについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P89～100 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P77～99を読んでくること。 《復習》教科書P100の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第８回	養護及び教育が一体的に展開する保育 【key words】 養護 教育 一体的に展開する保育 【授業概要】 養護及び教育が一体的に展開する保育について事例等を通して具体的に学び、なぜ、それらが求められるのか考える。 【教科書ページ・参考文献】 P101～112 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P101～111を読んでくること。 《復習》教科書P112の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第９回	環境を通して行う保育 【key words】 環境を通して行う保育 領域「環境」 計画的な環境の構成 【授業概要】 乳幼児期の発達の特性をふまえ、児童期の発達や小学校以降の教育との違いを理解し、保育者が乳幼児期の子どもの発達を促し、子どもが自ら発達を獲得していく手段としての環境を通して行う保育について学び、環境を通して行う保育の実際について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 P113～124 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P113～123を読んでくること。 《復習》教科書P124の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１０回	生活や遊びによる総合的な保育 【key words】 生活や遊び 総合的な保育 主体的な活動 【授業概要】 子どもの主体性を尊重し、生活や遊びを通しての指導を中心とした保育のねらいが総合的に達成されるようにするための留意点と保育者の在り方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P125～136 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P125～135を読んでくること。 《復習》教科書P136の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１１回	生活や発達の連続性に考慮した保育 【key words】 生活の連続性 全体的な計画 教育課程 カリキュラム・マネジメント 【授業概要】 子どもの生活や体験の連続性を視野に入れて全体的な計画や教育課程を作成することの重要性について学び、その実施状況を評価し、改善を図ることを通して、組織的、かつ計画的に保育の質の向上を図っていくカリキュラムマネジメントについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P137～148 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P137～147を読んでくること。 《復習》教科書P148の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第１２回	家庭、地域との連携を踏まえた保育 【key words】 社会資源 保護者支援 子育て支援 【授業概要】 地域のさまざまな社会資源との連携を図り、保護者に対する支援、地域の子育て家庭に対する支援など、保育者の専門性を活かした子育て支援の役割と実際について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

	P149～160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P149～159を読んでくること。 《復習》教科書P160の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　小学校等との連携を踏まえた保育 【key words】 保幼小連携 保育所児童要録 幼稚園幼児指導要録 認定こども園こども要録 【授業概要】 保育所・幼稚園・認定こども園と小学校との相互理解を深めるためになされている職員同士の交流、情報共有、子どもの育ちを支えるための資料の送付などの取り組みの実際について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P161～172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P161～171を読んでくること。 《復習》教科書P172の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　特別な配慮を要する子どもの保育 【key words】 特別支援教育 保護者理解 専門機関との連携 【授業概要】 特別な配慮を要する子どもの保育の基本について学ぶ。障害についての正しい知識を得、一人ひとりの子どもの特性を理解し、保護者との相互理解の中で一緒に子育てを行う保育の専門家としての在り方について考える。 【教科書ページ・参考文献】 P173～184 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P173～183を読んでくること。 《復習》教科書P184の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　多文化共生の保育 【key words】 子どもの最善の利益 多様性 共生社会 【授業概要】 様々な人との共生を求め、子どもの最善の利益に配慮した保育と子育て支援の実現が保育者には求められている。国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を子どもたちに育むための保育における留意点と保育者の在り方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 P185～196 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《予習》教科書P185～195を読んでくること。 《復習》教科書P196の振り返りチェックシートをやること。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	○オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ○ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ○授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ○やむを得ず遅刻、欠席等をする場合には必ず連絡すること。 ○提出物は〆切厳守。 ○受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○シラバスに記載された教科書のページを事前に目を通す。 ○授業後には教科書内の振り返りチェックシートを使って復習すること。 ○参考資料に記載してある解説書の関連ページを予習復習で活用する。
オフィスアワー	初回授業時に連絡する。
評価方法	定期試験（60%）授業内レポート（40%）の総合評価
教科書	「マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論」開 仁志編著　2019.　教育情報出版 厚生労働省「保育所保育指針解説」2018.フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」2018.フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」2018.フレーベル館

参考書	厚生労働省「保育所保育指針」 文部科学省「幼稚園教育要領」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園教諭としての実務経験を活かし、保育内容のねらい及び内容について具体的な事例をもとに解説し、5領域間の相互関係が捉えられるよう授業を展開していく。また、保育を展開していくための方法や技術について、現場で活用されている教材等を提示し活用する際のポイントや留意事項について具体的に講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（幼稚園）　　授業コード： S4182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	4単位(160)	子ども専攻・選択
担当教員			
塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義、演習を通して得た専門的知識・技能を活かし実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図る。 １　幼稚園の保育教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる知 　　識・技能・態度を修得する。 ２　保育教育活動の実践を通して、幼児理解、学級経営等について理解し、人間尊重の精神および保育者としての使命 　　感を養う。
授業の概要	原則として4学年の6月に120時間（3週間）の実習を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回 第１０回 第１１回

	第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	1.教育実習に参加できる要件を備えていること。（必修単位取得） 2.事前ガイダンスの受講および「教育実習の記録」を必須とする。 【実習中止の措置】 本学指導教員および実習先指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことが出来ない。 実習前のオリエンテーションを行っていなければ、実習することは認められない。また、実習中に不適切な言動等があった場合は直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	巡回指導時に対応
授業外時間にかかわる情報	○実習園で弾くピアノ曲（園歌・挨拶の歌・季節の歌　など）を弾けるように、必要に応じて個別レッスンも行う。 ○その他、実習についての不安や悩みについても随時対応する。 ○部分実習や責任実習の指導案の添削や指導も個別に対応する。
オフィスアワー	幼稚園教育実習事前事後指導の授業時間内に指示する。
評価方法	○実習園からの実習評価（70%） ○教育実習の記録の評価（30%）
教科書	「実習ガイドブック」群馬医療福祉大学
参考書	「実習の記録と指導案」ひかりのくに
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園教諭としての実務経験あり。 実習生の評価を実習巡回等で聴取し、それらを実習の改善にすぐに活かせるよう具体的な対応策や対処方法について指導し、より良い実習を行えるようにしていく。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習Ⅱ（保育所）　　授業コード：S4196　S4197　S4198

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(90)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中 輝幸・吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	①保育所の役割や機能について、具体的な実践を通して理解を深める。 ②子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して、保育の理解を深める。 ③既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。 ④保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について、実際に取り組み、理解を深める。 ⑤保育の業務内容や職業倫理について、具体的な実践に結びつけて理解する。 ⑥実習における自己の課題を明確化する。
授業の概要	■実習履修資格者 ①将来、保育士として保育現場または児童福祉の現場で働く意思を強く持っている者。 ②保育及び児童福祉の学習及び実践に対して熱意と意欲があり、健康状態等、実習を行うのに適当と認める者。 ③「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ(保育所)」「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「総合演習Ⅰ・Ⅱ」「ボランティア活動Ⅰ・Ⅱ」の単位を取得しているか取得する見込みのある者。 ■実習時期は原則として3・4年次とする。 ■実習期間は、12日間以上90時間以上とする。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回 第２回 第３回 第４回 第５回 第６回 第７回 第８回 第９回

	第１０回 第１１回 第１２回 第１３回 第１４回 第１５回
受講生に関わる情報および受講のルール	実習上の注意 「実習へのガイドブック」を参照し、実習上の注意事項を遵守すること。 【実習の中止措置】 　実習生の帰すべき責任によって実習継続が困難と判断された次の事態が生じた場合は実習を中止する。 ①重大なルール違反（実習施設の就業規則並びにそれに準ずる実習のルール違反）を行ったとき。 ②利用者への加害行為、人権侵害を行ったとき。 ③心身の事由により、実習継続が困難なとき。 ④守秘義務違反及び信用失墜行為を行ったとき。 ⑤実習指導者が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。 ⑥実習担当教員が実習生に行った指摘に対して適切に対応しなかったとき。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	–
授業外時間にかかわる情報	–
オフィスアワー	–
評価方法	①実習施設による実習評価を傾斜配点し、実習担当教員が総合的に評価（50%） ②巡回での指導状況及び実習態度（10%） ③実習計画、実習日誌（10%） ④実習のまとめ（10%） ⑤実習報告書（10%） ⑥その他の提出物の提出状況（10%） ※実習が終了したとしても提出物が提出されない場合は実習の単位を認定しない。 ※保育実習指導Ⅱ（保育所）の単位を修得出来なかった場合は単位を認定しない。
教科書	群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」　群馬医療福祉大学 2016
参考書	–
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 　保育士　幼稚園教諭 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート 　□グループワーク 　□プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　□課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） 　□情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） 　□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 　□ICTを活用した双方向型の授業の実施 　□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 　□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害児保育Ⅱ　　授業コード：S4211

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
大山　知恵子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	まず、障害を理解することから出発。早期発見、早期治療は発達を促す上で重要です。各種の施設で、障害を持つ幼児の指導や訓練が活発に展開されて、発達援助を日常化させています。保育の現場でも受入れが進む中で、子どもたちの発達に有効な保育実践が求められます。本演習では、実践に役立つ保育の在り方とその方法論について演習考察していく。
授業の概要	障害を理解するということ、すなわち、頭で理解し、障害の質と広がりに気づき、障害の本質を研究、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション　障害児保育とは（総論） 【key words】 「心身機能・身体構造」「活動」「参加」 【授業概要】 国際生活機能分類における障害の分類と障害のとらえ方について。 【教科書ページ・参考文献】 2ページ～4ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 障害児保育とは何かについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第２回	障害とは何か 【key words】 アドボカシー　ノーマライゼーション 【授業概要】 障害を持った子どもをどうとらえていくか。障害児保育の歴史と現状について。 【教科書ページ・参考文献】 5ページ～15ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 アドボカシー、ノーマライゼーションの用語についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第３回	発達とは 【key words】 順序性と方向性　個人差 【授業概要】 子どもの発達過程と重視すべき視点について。脳の構造や働きについて。 【教科書ページ・参考文献】 16ページ～33ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 脳の部位の名称を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分

	第４回	脳の発達と障害 【key words】 肢体不自由　PDD　ADHD　LD 【授業概要】 脳が損傷を受けたことによる様々な機能障害について。身体障害、発達障害等に対する基本的な対応について。 【教科書ページ・参考文献】 34ページ～44ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 PDD　ADHD　LDについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第５回	障害児の理解と保育における発達の援助　感覚統合の発達 【key words】 意識的感覚　無意識的感覚 【授業概要】 固有感覚や前庭感覚、触覚などの感覚統合とはどういうことか、また、感覚統合を発達させる遊びにはどういうものがあるか等について。 【教科書ページ・参考文献】 45ページ～57ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 感覚統合を発達させる遊びについてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第６回	視覚障害児・聴覚障害児・肢体不自由児の理解と援助 【key words】 視力障害　視野障害　色覚障害　全聾　難聴 【授業概要】 視覚障害や聴覚障害とはどういうものか、また、視覚障害児や聴覚障害児にはどのような支援ができるかについて。脳性麻痺の症状の分類や支援の方法について。 【教科書ページ・参考文献】 58ページ～69ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人工内耳ついて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第７回	知的障害児の理解と援助 【key words】 IQ　知的能力　適応能力 【授業概要】 知的障害をもたらすと考えられる３つの原因と、知的障害児の特性と対応、教材の工夫等について。 【教科書ページ・参考文献】 70ページ～81ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 IQと程度別判定について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第８回	発達障害児の理解と援助 【key words】 不器用な子　落ち着きのない子　集団から離れている子 【授業概要】 発達障害児の行動の特徴について。日常生活動作や遊びへの支援の具体的な方法について。 【教科書ページ・参考文献】 82ページ～90ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 OT　ST　PTについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第９回	重症心身障害児・医療的ケア児の理解と援助 【key words】 発達支援　放課後等デイサービス　レスパイトケア 【授業概要】 重症心身障害児の状態像と医療的ケアの実際について。在宅障害児の障害者福祉サービスについて。 【教科書ページ・参考文献】 91ページ～96ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 近隣にある発達支援センターや放課後等デイサービスについて調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
	第１０回	指導計画及び個別の支援計画① 【key words】 健康　人間関係　環境　言葉　表現 【授業概要】 保育所の役割と保育の目標を達成するための方法について。指導計画及び個別計画の作成について。 【教科書ページ・参考文献】 98ページ～115ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 指導計画を作成してする。 【予習復習に必要な想定時間】

	30～45分 第１１回　指導計画及び個別の支援計画② 【key words】 児童虐待　社会的養護 【授業概要】 個別保育目標を立てる時の留意点について。特別な保育ニーズの把握（虐待）について。 【教科書ページ・参考文献】 116ページ～129ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 最近の虐待に関する情報（テレビ・新聞など）を収集する。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１２回　発達を促す生活や遊びの環境① 【key words】 人的環境　物的環境 【授業概要】 感覚を活かした遊び（触れ合い遊び、外遊び、砂遊び、ブランコ、滑り台等）と支援、教材教具の工夫等について。 【教科書ページ・参考文献】 130ページ～148ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 どのような教材教具があるか調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１３回　発達を促す生活や遊びの環境② 【key words】 障害受容 【授業概要】 障害のある子を持った親が障害を受け入れるまでの心の変化と、親や家族への支援の方法について。統合保育と分離保育のそれぞれの特徴について。 【教科書ページ・参考文献】 149ページ～164ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 親や家族への支援として考えられる具体例を考える。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１４回　障害児保育の制度（制度化以前） 【key words】 保護者や家族に対する援助　地域の専門職や機関との連携 【授業概要】 子どもを取り巻く状況の中での課題について。地域の専門機関との連携や、特別支援学校・小学校等との連携について。 【教科書ページ・参考文献】 166ページ～192ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 家族構成の変化についてまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分 第１５回　障害に対する理念の変化　保健・医療における現状と課題 【key words】 自己決定　NICU　ノーマライゼーション・インクルージョン 【授業概要】 障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育の現状と今後の課題について。在宅療養に関わる関係機関などの役割と福祉サービスについて。 【教科書ページ・参考文献】 194ページ～209ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 NICUの役割を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 30～45分
受講生に関わる情報および受講のルール	・人との出会いを大切にする学生。意欲的な態度や豊かな想像力ある学生の態度を望みます。そのために授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為は厳禁。 ・欠席・遅刻者の代返は認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード ノート提出
授業外時間にかかわる情報	障害児保育・教育に関する情報に普段から触れておくこと。（新聞・ニュース等からの情報収集） 保育の現場を知ること（見学・ボランティア等）
オフィスアワー	授業の前後10分間
評価方法	授業への取り組み（コメントカードの内容、発表）（20%） 提出物（ノート）（30%）　定期試験（50%）
教科書	障がい児保育（中山書店） 監修　小橋晶子　　編著　小橋拓真　　著　小山内あかね　竹野内ゆかり
参考書	指定しない
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容

	教員として特別支援教育に携わり、多くの障害児と接してきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 障害児をもつ保護者の方の話を聴く。

講義科目名称： 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法C）　　授業コード：S4261　S4262　S4263

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	子ども専攻・選択
担当教員			
足立　勤一・佃　朋子・峯岸　梓			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育の表現技術Ⅱ（幼児音楽指導法B）までに修得した表現活動指導法の知識・技術やピアノの演奏表現技術を保育現場や初等教育現場にて有意義な活動として実践できる。 【到達目標】 保育現場や小学校において音楽が担っている重要な役割について理解し、表現出来るようになる。弾き歌いやピアノ演奏法の技術・能力を身につける。
授業の概要	有資格者になる者としての倫理や意識を養い、適切で効果的な表現活動・指導ができるようになること。総合的な表現活動技術を向上させることができるよう、個人レッスンを通して、各自の表現活動の指導力を高めるようにする。 授業は５名前後のグループに分かれ保育現場や小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やし、後期には学生主体の音楽会企画を実践する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目（前期）オリエンテーション 【key words】 前期授業概要 【授業概要】 クラス分け・書類記入・学生それぞれの進度に合わせた曲決め 　実習や就職試験の内容に沿った課題を参考に教員と相談する（国歌・園歌・季節の歌・行事の歌・ピアノ曲） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分

	第３回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 ピアノ演奏技術の向上（和声Ⅰ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅴ７をつけて演奏できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第４回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（完全2度上下に移調できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 ピアノ演奏技術の向上（完全2度上下に移調できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第５回	進度に応じたレッスン：ピアノ演奏技術の向上（短3度上下に移調できる） 【key words】 レパートリーを増やす 【授業概要】 　ピアノ演奏技術の向上（短3度上下に移調できる。及び子どもの声域にあった調に移調出来る。） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第６回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第７回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノより声の音量を大きく） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第８回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる 【授業概要】 歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第９回	進度に応じたレッスン：歌唱技術の向上（ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる） 【key words】 レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる

【授業概要】
歌唱技術の向上（弾き歌い：ピアノ伴奏なしの歌のみで指導できる）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１０回　進度に応じたレッスン：弾き歌い技術の向上（歌詞を朗読し感情を表現できる）
【key words】
レパートリーを増やし、演奏レベルを上げる
【授業概要】
弾き歌い技術の向上（歌詞を朗読し感情を表現できる）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１１回　進度に応じたレッスン：弾き歌い技術の向上（強弱をつけて弾き歌いで表現できる）
【key words】
前期試験課題に向けて：試験曲選曲（ピアノ曲1曲又は弾き歌い1曲全コーラスを暗譜）
【授業概要】
弾き歌い技術の向上（強弱をつけて弾き歌いで表現できる）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１２回　進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験課題に向けて：試験曲決定
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
　試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：個人の実力に応じた選曲
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１３回　進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験課題に向けて
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
　試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１４回　進度に応じたレッスン：前期試験にむけて
【key words】
前期試験課題に向けて：リハーサル
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
　試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：試験曲の練習
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１５回　前期実技試験について／前期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する）
【key words】
前期試験課題に向けて：仕上げ
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い
　試験曲の仕上げ
【教科書ページ・参考文献】

バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
試験曲の仕上げ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１６回　科目（後期）オリエンテーション
【key words】
後期授業概要：学生主体の音楽会企画のＤＶＤ鑑賞
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：個人の実力に応じた選曲
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１７回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１８回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第１９回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２０回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】
20分

第２１回　進度に応じたレッスン：総合的な表現技術の向上
【key words】
総合的な表現技術の向上
【授業概要】
ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏）
【教科書ページ・参考文献】
バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００
【課題・予習・復習・授業準備指示】
個別指示：保育現場・小学校に於いて速やかに活用出来るレパートリーを増やすためのコード奏・アレンジ
【予習復習に必要な想定時間】

		20分
	第２２回	進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備①（弾き歌い・ピアノ曲） 【key words】 お楽しみ会準備①（弾き歌い・ピアノ曲） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画① 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２３回	進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備②（弾き歌い・ピアノ曲） 【key words】 お楽しみ会準備②（弾き歌い・ピアノ曲） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画② 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２４回	進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備③（弾き歌い・ピアノ曲） 【key words】 お楽しみ会準備③（弾き歌い・ピアノ曲） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画③ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２５回	進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備④（歌詞を感情移入し朗読で表現する：コーラス） 【key words】 お楽しみ会準備④（歌詞を感情移入し朗読で表現する：コーラス） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画④ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２６回	進度に応じたレッスン：お楽しみ会準備⑤（身体的パフォーマンスで表現する：カップス） 【key words】 お楽しみ会準備⑤（身体的パフォーマンスで表現する：カップス） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い（ピアノ演奏法・歌唱・伴奏） 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・全体指示：総合的練習と音楽会企画⑤ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２７回	お楽しみ会（保育・小学校現場の実際と表現活動指導について）：後期試験にむけて 【key words】 保育・小学校現場の実際と表現活動指導について お楽しみ会本番 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い・コーラス・カップス 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：後期試験準備 【予習復習に必要な想定時間】 20分
	第２８回	進度に応じたレッスン：後期試験にむけて 【key words】 後期試験に向けて：試験曲選曲（ピアノ曲1曲又は弾き歌い1曲全コーラスを暗譜） 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】

	バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示：試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第２９回　進度に応じたレッスン：後期試験にむけて 【key words】 後期試験に向けて 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 個別指示・試験曲の練習 【予習復習に必要な想定時間】 20分 第３０回　後期実技試験について／後期のまとめ（試験は暗譜で公開演奏する） 【key words】 後期実技試験について／後期のまとめ 【授業概要】 ピアノ曲・弾き歌い 　試験曲の仕上げ 【教科書ページ・参考文献】 バイエル・ピアノの森・ブルクミュラー・ソナチネ・ソナタ・こどものうた２００・続こどものうた２００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験曲の仕上げ 【予習復習に必要な想定時間】 20分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 　五線紙を準備すること。予習・復習を行うこと。子どもの表現活動について常に留意すること。表現技術について工夫し、創作やアレンジを行うこと。特に初等教育コースの学生は[学習指導要領（音楽）]を常時持参すること。配布した資料等は、毎回の授業に持参すること。 〔受講のルール〕 　表現技術を習得するため、積極的に授業に取り組むこと。楽譜は各自で準備すること。レッスン受講票を毎回提出すること。ピアノは毎日練習し、疑問点や実技上の問題点等を確認してから受講すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	表現指導技術向上のために計画的に学習すること。歌詞の意味や教育効果等について常に考え、子どもの表現についての知識を高めておくこと。音楽についての知識を高め、各自の良い点を伸ばすように取り組むこと。
オフィスアワー	授業終了後３０分間
評価方法	実技試験70％・授業内評価30％
教科書	初等教育コース：『小学校教科書（音楽）』
参考書	①バイエル『ピアノ教則本』全音楽譜出版社　②田丸信明編『新訂ピアノの森２』GAKKEN　③田丸信明編『新訂ピアノの森３』GAKKEN　④ブルクミュラー『25の練習曲』全音楽譜出版社　⑤『ソナチネアルバム』全音楽譜出版社　⑥『ソナタアルバム』全音楽譜出版社　⑦小林美実編『こどものうた200』チャイルド本社　⑧小林美実編『続こどものうた200』チャイルド本社
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　■PBL(課題解決型学習) 　■ディスカッション・ディベート 　■グループワーク 　■プレゼンテーション 　■実習、フィールドワーク 　□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 　□情報モラルに関する教育 　■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） 　□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） 　■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） 　□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 　□ICTを活用した双方向型の授業の実施

	□e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 家庭支援論　　授業コード： S4331

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	子ども専攻・必修
担当教員			
義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ・社会的養護の目的と実践を学ぶ。 ・現代の家族の特性とその支援を具体的に知る。 ・地域における家庭支援に係る根拠法や体制を知る。 【到達目標】 相談・援助を基盤にした、家族支援のプロセスを修得する。
授業の概要	テキストを軸にして、家族支援、子育て支援に関して、広い視野でつかんでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 抗議の受け方 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 目次 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書を必ず読み返すこと 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第２回　現代社会と家庭 【key words】 ＜key words＞ 家庭の変容、家庭支援、ワーク・ライフ・バランス 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭や地域社会の変容を経時的に見ながら、支援の必要性や意味を知る 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ １－２３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分

	第３回	家庭支援の意義と役割１ 【key words】 ＜key words＞ 家庭支援、家族支援、相談援助技術 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭支援の目的を知り、それに必要な相談技術を概観する。ソーシャルワークに基本を知る 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ２４－４７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第４回	家庭支援の意義と役割２ 【key words】 同上 【授業概要】 同上 【教科書ページ・参考文献】 同上 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第５回	家庭支援と法制度 【key words】 ＜key words＞ 支援に必要な法制度 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭支援を推敲するために知っておきたい法制度について概観する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ４８－７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第６回	家庭を支援する技術１ 【key words】 ＜key words＞ 援助技術、相談技術、スーパービジョン 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 家庭支援で使われる援助技術と相談の組み立てのためのプロセスを学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ７４－１００ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第７回	事例検討 【key words】 ＜key words＞ 事例 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 事例を見ながら、具体的な糧支援の方法をみる 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	家庭を支援する技術２ 【key words】 第６回に同じ 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 事例検討で得た実際の援助プロセスを生かす 【教科書ページ・参考文献】 第６回に同じ

【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書を必ず読み返すこと
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第９回　家庭支援の形態
【key words】
＜key words＞
支援のバラエティ

【授業概要】
＜授業の概要＞
支援のバラエティを見ながら、具体的な支援の展開を見る
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１０１－１２８
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１０回　家庭支援に関わる社会資源
【key words】
＜key words＞
社会資源

【授業概要】
＜授業の概要＞
家庭支援に生かせる専門機関や地域の資源を見ていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１２９－１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　子育て支援政策
【key words】
＜key words＞
次世代育成支援、待機児童、少子化社会対策

【授業概要】
＜授業の概要＞
子育て支援施策の歴史的展開を見ながら、効果等について検証する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１５６－１８２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１２回　保育所の子育て支援機能
【key words】
＜key words＞
保育の中での支援機能

【授業概要】
＜授業の概要＞
保育所における支援の実際を見ていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
１８３－２１４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１３回　保育所における子育て支援サービス
【key words】
＜key words＞
保育サービス

【授業概要】
＜授業の概要＞
保育事業の現状から、支援の課題や問題を掘り起こしていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞
２１５－２４３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】

	３０分 第１４回　特別な配慮の必要な家庭への支援 【key words】 ＜key words＞ 支援の意味、児童虐待、発達障害 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 児童虐待や発達障害等配慮の必要な家庭への支援の方法を考えていく 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ ２４４－２７４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 前回と同様 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１５回　まとめ 【key words】 まとめ 質疑応答 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習、復習をすること ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで必要に応じて伝える
オフィスアワー	授業のなかで必要に応じて伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み　２０％
教科書	浅井春夫・所貞之編著『子ども家庭支援論』建帛社
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育教職実践演習　　授業コード： S4341

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子・塚越　亜希子・吉澤　幸・田中　輝幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 「保育教職実践演習」は、保育・幼児教育の専門職に必要な資質・能力の習得の確認と、その知識や技能を統合した実践力の形成及び定着を目的として、最終学年の後期に履修する「学びの集大成」となる科目である。 なお、本科目は「保育士養成課程を構成する各教科目の目標及び教授内容」と「教職課程認定の手引き」に即した目的・内容を扱う。 【到達目標】 ①保育者としての自己を振り返り、自己課題を明確にする。 ②不足している知識・技能を補完し、保育職（教職）生活をより円滑する力を習得する。 ③保育に関する現代的課題を把握し、その対応を多様な視点から考察する力を習得する。
授業の概要	【到達目標】で述べた内容について、４年間の学びを振り返り、保育士・幼稚園教諭に求められる以下の資質・能力について、自己課題を明確にするとともに実践力を養う。 ①保育士・幼稚園教諭としての使命感や責任感、教育的愛情等 ②社会性や対人関係能力 ③乳幼児の理解や学級経営 ④保育内容の指導力及び関係機関（教育委員会を含む）との連携 ⑤子育て家庭に対する支援の展開 なお、本科目は複数の教員が担当するオムニバス形式で実施する。授業形態は担当教員によって異なるが、講義・演習、討論、実技、観察、ロールプレイなどを通じて学びを深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　＜塚越先生・川端先生＞ 【key words】 「保育士」「幼稚園教諭」「保育者」「保育者像」 【授業概要】 シラバスを用いて、本科目の目的・目標を知り、理想の保育者像について考え、保育者を目指し始めてから今までの思いを各自整理していきます。 【教科書ページ・参考文献】 P1-12、授業概要（プリント） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 〇履修カルテを必ず持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	保育者への歩みと足跡　＜田中先生＞ 【key words】 「保育者像」「省察的実践者」「資質・専門性」「自己課題の明確化」

【授業概要】
保育者に求められる資質・専門性、それを踏まえた実践力・省察力について学び、各自、保育者になるための自己課題についても整理していきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp8-15
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp8-15を読んでくること
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第３回　協同的な学びと育ちへ　＜田中先生＞

【key words】
「協同的な活動」「協同的な学び」

【授業概要】
子どもたちの協同的な学びと育ちを可能にする保育実践について考察し、協同的な学びの意義について理解し子どもが仲間と協同的な活動を展開できるまでの乳幼児期の発達過程を確認していきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp64-74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp64-74を読んでくること
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第４回　子ども理解の方法と実際
＜塚越先生＞

【key words】
「内面の推測」「省察的実践」「保育カンファレンス」
【授業概要】
乳幼児期にふさわしい保育の展開を実現するために必要とされる子ども理解の重要性について学び、模擬保育カンファレンスを通してその具体的な方法を学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp20-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp20-30を読んでくること
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第５回　園の安全管理
＜塚越先生＞

【key words】
「ヒヤリハット」「リスクマネジメント」「避難訓練」「危険予知」

【授業概要】
安全を確保して子どもの命を守り、保育所や幼稚園生活を安心して過ごして学べる場とするための安全管理の内容について理解を深めグループワークを通して考察します。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp112-122
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習課題「保育所・幼稚園・小学校での事故の実態について調べる」
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分

第６回　教育課程および全体的な計画を考える　＜田中先生＞

【key words】
「指導計画」「カリキュラム・マネジメント」「PDCAサイクル」

【授業概要】
「教育課程」及び「全体的な計画」について学びます。また教育（保育）活動の質の向上を図っていく「カリキュラム・マネジメント」「ＰＤＣＡサイクル」についても学んでいきます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp42-51
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp42-51

【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第７回　幼保小の接続　＜吉澤先生＞

【key words】
「小１プログレム」「幼保小の接続」「接続期のカリキュラム」

【授業概要】
幼保小の相違点、幼保小の接続のあり方、課題、接続期のカリキュラム、接続期の実践の工夫について学んでいきます。配布資料によるディスカッション及びグループワークを行います。また、事例を通して幼児・児童への声のかけ方や、対応、支援の方法などを学びます。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp100-110
プリントを配布します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習課題「保幼小の相違点」をまとめておく。
　教科書p103-105（1）幼稚園教育要領（2）保育所保育指針（3）小学校学習指導要領　を読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
50分

第８回　気になる子どもの行動の理解と対応①　基本の確認　＜川端先生＞

【key words】
「気になる子ども」　「必要な配慮」　「発達障害」

【授業概要】
保育所等では、障害をもつ子どもや障害と診断されていなくても個別な配慮が必要とされる気になる子どもも生活しています。
【教科書ページ・参考文献】
プリントを配布します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〇復習：教科書p39の演習課題3を記入しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
復習45分

第９回　気になる子どもの行動の理解と対応②　事例検討　＜川端先生＞

【key words】
「気になる子ども」「必要な配慮」「発達障害」
【授業概要】
特別な配慮が必要とされる子どもの行動をどう理解し、保育者としてどのように援助していけばよいかについて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書　第３章pp32-40の事例
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〇予習：第３章pp32-40を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１０回　保護者および地域との関係づくり　＜吉澤先生＞

【key words】
「保護者との協働」「地域との協働」「関係機関との協働」

【授業概要】
保育者とは、子どもを保育するだけではなく、周囲との「協働」が必要であることを学びます。「保護者」「地域」「専門機関」との協働とは何かを考え、それは具体的にはどのようにしていけばよいのかについて考察する。保護者への対応については、具体例からジグゾー法でのグループ検討を行い、相互理解を深めるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp90-98
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自身が子どものころの「地域」と関連した事柄をピックアップしておく。
「関係機関」にはどのような機関のことなのか調べておく。
【予習復習に必要な想定時間】
50分

第１１回　保育内容と保育方法の研究★（外部講師：県立ぐんま昆虫の森　筒井学先生）　＜塚越先生＞

【key words】
「保育の環境」「自然体験」「昆虫とは」「生命の尊さ」
【授業概要】
近年、都市部を中心に自然が失われたり、子どもたちが屋内の遊びに移行したりする傾向が強まっている。これにより、昆虫に苦手意識を持つ子どもたちもまた増加傾向にある。昆虫と触れ合うことの意味や、苦手意識を緩和するための手立てについて「ぐんま昆虫の森」の昆虫専門員である筒井学先生をお招きして、レクチャーと昆虫との触れ合い体験を行う。
【教科書ページ・参考文献】
当日、資料が配布されます。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
〇予習：領域「環境」において学んだ保育における自然体験の重要性について幼稚園教育要領解説等を読み直しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
〇予習30分

第１２回　子どもの貧困　＜義基先生＞

【key words】
「子どもの貧困」「相対的貧困」「プラットフォーム」「保育ソーシャルワーク」
【授業概要】
2018年の子どもの貧困率（17歳以下）は13.5％と、およそ7人に1人の子どもが貧困状態にあることが報告された。人格形成の土台となる乳幼児期の家庭が貧困状態にあることが及ぼす育ちへの影響を知り、保育所、保育者はどのような役割を担っていけるのかを考察する。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業内で適宜、指示します。
【予習復習に必要な想定時間】
授業内で説明します。

第１３回　保育者の専門性　＜義基先生＞

	【key words】 「省察的実践」「保育者の研修」「新人保育者」「倫理綱領」 【授業概要】 保育者の専門性について、その特質を踏まえ、省察的実践者モデルに基づいて経験知の重要性を検討する。さらに、保育者の専門的成長の機会としての研修や、それを成長につなげる取り組みについて検討し、新人保育士としてのスタート地点における課題とその対処方法を考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp124-134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で適宜、指示します。 【予習復習に必要な想定時間】 授業内で説明します。 第１４回　保育者・幼稚園教諭としての使命感・責任感（外部講師：幼保連携型認定こども園園長）　＜田中先生＞ 【key words】 「保育職・教育職の使命感・責任感」「保育観」「教育観」 【授業概要】 外部講師を招き、「保育者・幼稚園教諭としての使命感・責任感」をテーマに講話を。実際の保育現場での体験を聴き、自身の保育者・教育者像や保育者としての使命感・責任感について考察します。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp136-139 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp136-139を読んでくること 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第１５回　自分の保育者像を目指して　＜全担当教員＞ 【key words】 「保育者像」「保育観」「子ども観」「専門性」「倫理観」 【授業概要】 これまでの学びを振り返るとともに、教科書pp140-147を参考にしながら「私の目指す保育者像」について各自が考えPowerPointを用いて発表する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書pp140-147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○発表準備：「私の目指す保育者像」をPowerPointを使って発表する。形式の詳細は授業内で説明する。 【予習復習に必要な想定時間】 適宜
受講生に関わる情報および受講のルール	○授業開始までに『履修カルテ』を各自仕上げておき、初回授業で提出しなければならない。 ○上記の授業計画は運用上変更になる場合がある。変更の際はwebポータルにて随時履修者に変更内容を提示する。 ○オンライン授業に変更される場合は、学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み替えを行うことがある。また、オンライン授業では、ZoomMeeting・Google・PDF・word・PowerPoint・YouTube等を利用し、ZoomMeetingを行う際はカメラ「ON」でリアルタイルの意見交換の機会を設ける。 ○遅刻や欠席は事前に届け出を行う。やむを得ない理由で欠席した場合は課題や補講が生じることがある。 ○提出物は〆切厳守。 ○受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○保育や幼児教育に関する話題やニュースに関心を寄せる態度を身につけること。
オフィスアワー	初回授業で各教員から伝達します。
評価方法	群馬医療福祉大学の成績基準に準拠し、下記の観点で5名の教員各50点満点で採点した合計点を総合得点100点満点に圧縮して評価を行う。 ①授業への取り組み、参加態度（40％：20点） ②課題・提出物（30％：15点） ③「私の目指す保育者像」の発表（30％：15点）
教科書	「保育教職実践演習　これまでの学びと保育者への歩み」小櫃 智子　矢藤 誠慈郎編著　わかば社 2018
参考書	厚生労働省「保育所保育指針解説」2018.フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」2018.フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」2018.フレーベル館
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士・認定こども園・幼稚園教諭・小学校教諭・障害児支援施設 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク

	■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 地域子育て支援論　　授業コード： S4351

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
義基　祐正			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 子育て家庭に対する社会的支援の意味、および支援のあり方についての理解を深め、具体的かつさまざまな支援方法を知る。 【到達目標】 ①子育てへの社会的支援の具体的方法を知る。 ②社会的支援における多職種連携のあり方を理解する。
授業の概要	テキストを基盤にして、広い観点からさまざまなアプローチを示していく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 ＜key words＞ 講義の受け方 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 講義の受け方、予習復習について、評価方法などについて説明する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２回	子育て支援の理念 【key words】 ＜key words＞ 子育て支援 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 子育て支援は何のためにあるか、経時的に見てその変遷を知る 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第３回	子育て支援の歴史文化的諸相

【key words】
＜key words＞
子育ての歴史的変容、子育て不安

【授業概要】
＜授業の概要＞
子育ての歴史的変容を見ながら、現代の子育て不安の状況を把握する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第４回　幼稚園における子育て支援の取り組み
【key words】
＜key words＞
子育て支援

【授業概要】
＜授業の概要＞
幼稚園の実際の支援例を見ながら、その展開を見ていく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第５回　幼稚園による地域の子育て支援
【key words】
＜key words＞
地域における支援、アウトリーチ

【授業概要】
＜授業の概要＞
幼稚園の地域を対象とした支援の意義と実際を概観していく
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第６回　保育所における子育て支援
【key words】
＜key words＞
保育所保育指針、子育て支援

【授業概要】
＜授業の概要＞
保育所保育指針にある子育て支援の必要性と意味を知る
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第７回　子育てセンターの活動と課題
【key words】
＜key words＞
子育て支援、子育てセンター

【授業概要】
＜授業の概要＞
子育てセンター等支援の具体的な活動内容と課題を考える
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第８回　事例検討
【key words】
＜key words＞
事例検討

【授業概要】
＜授業の概要＞
支援の事例を通して、活動内容の実際を知る

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第９回　地域子育て支援活動１
【key words】
＜key words＞
子育て支援センター、障害家庭

【授業概要】
＜授業の概要＞
どこがどんな役割を持って、また連携をして支援を展開していくかを学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第１０回　地域子育て支援活動２
【key words】
同上
【授業概要】
同上
【教科書ページ・参考文献】
同上
【課題・予習・復習・授業準備指示】
前回と同様
【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第１１回　子育て支援の効果
【key words】
＜key words＞
支援の効果判定

【授業概要】
＜授業の概要＞
子育て意識に基づいた支援の実施と効果の判定について概観する
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第１２回　父親の子育て支援活動
【key words】
＜key words＞
父親支援

【授業概要】
＜授業の概要＞
母親主体の養育から父親の養育参加の支援の方法について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】
＜教科書＞

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
３０分
第１３回　事例検討
【key words】
＜key words＞
事例検討

【授業概要】
＜授業の概要＞
支援の事例を通して、支援内容の実際を知る

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第１４回　子育て支援活動の展望と課題 【key words】 ＜key words＞ 今後の展望と課題 【授業概要】 ＜授業の概要＞ 子育て支援の今後の展開とそこにある課題について見ながら、支援の必要性を協議する 【教科書ページ・参考文献】 ＜教科書＞ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分 第１５回　まとめ 【key words】 まとめ 【授業概要】 質疑応答 補足説明 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・教科書を必ず持参すること ・予習復習を行うこと ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生に迷惑になる行為は行わないこと
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業のなかで適宜伝える
オフィスアワー	授業のなかで伝える
評価方法	期末試験　８０％　　授業への取り組み等　２０％
教科書	「子育て支援の理論と実践」子育て支援プロジェクト研究会編
参考書	授業のなかで必要に応じて伝える
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　人権教育論　　授業コード：S4371

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 第二次世界大戦で敗戦国となった日本は、戦争の惨禍の中から世界に誇れる経済大国にまで成長してきたが、これからは更に、真に人権が確立された新しい日本につくり変えていく努力が必要である。 【到達目標】 人権の面において、新しい日本を創り出すことへと動く勇気ある人になるよう努力することである。
授業の概要	真に人権が確立されることによって、日本社会には画一性ではない、多様性と豊かな自由が齎される真の国際化がなされ、これによっての新しい日本が生まれてくるよう、私達は努力したいものである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	人権教育の推進は真の国際化につながる
	第２回	人格教育のための国連10年
	第３回	“みんな同じ”　という幻想
	第４回	国際的な人格基準の歴史
	第５回	国際交流では本来、対立が生じることになる
	第６回	多様性教育と人格教育の関わり
	第７回	偏見・階級・人権侵害に対するMINORITYの闘い
	第８回	日本の人格教育の特徴
	第９回	日本の政府関係者の取り組みとこれからの課題
	第１０回	真の国際化と間違った国際化
	第１１回	人格文化とは
	第１２回	善意の姿勢

	第１３回　　絶縁社会 第１４回　　江戸時代の子育てについて学ぶ 第１５回　　経済大国にまでなった日本であるが、更に、新しい日本につくり変えていかなければならない
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の国々と関わる日本の人権問題のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 青少年の理解と援助　　授業コード： 4391

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
2021年度未開講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	現代の社会問題の一つになっている青少年について、家庭教育・学校教育・社会教育の視点から分析できるようにする。また、最近の事件をテーマにした話し合いを通して、成熟した青少年のあるべき姿を理解するとともに、学生自身の問題としても意識しながら青少年の正しい見方ができ、的確に援助することができるような力を身につける。
授業の概要	不登校・ひきこもり・少年犯罪・児童虐待・いじめ・キレる青少年・親殺しなどといったことが社会現象になって久しい。そこで、青少年を取り巻く社会環境や学校教育、家庭教育、地域社会教育の実態について教育学的視点から分析し、わかりやすく概説する。また、転校生へのいじめ、地域の縄張り争いのけんか、校内暴力の激しかった時代の映画などを鑑賞しながら、青少年には何が必要なのかをクラスで考えます。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション ： シラバスの読み方と授業の進め方を説明する。
	第２回	青少年と教育の現状について。
	第３回	教育学の復習 ： 教育とは何か。教えることの意味について。
	第４回	学習の意味。
	第５回	青少年の人間形成の過程。青少年の教育環境。
	第６回	DVD鑑賞：「理由なき反抗」転校生を主人公(ジェームス・ディーン）にした､戦後の名画の一つ。
	第７回	DVD鑑賞：「理由なき反抗」（後編）
	第８回	家庭教育の限界と学校の成立。
	第９回	少年期とは。少年のこころとは。無邪気に遊ぶ意味。
	第１０回	DVD鑑賞：「ウエスト・サイド・ストーリー」縄張り争いと人種偏見で有名なニューヨークを舞台にしたミュージカルの傑作。
	第１１回	DVD鑑賞：「ウエスト・サイド・ストーりー」（後編）

	第１２回　　青年期とは。青少年の心に関する話し合い。 第１３回　　DVD鑑賞：「スクールウオーズ」校内暴力からラグビーを通して立ち直った京都の高校の実話の映画化。 第１４回　　DVD鑑賞：「スクールウオーズ」（後編） 第１５回　　青少年の理解と援助のまとめ。
受講生に関わる情報および受講のルール	出席を重視し授業態度を評価するので、積極的な授業参加や鋭敏な反応を期待する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	日頃から青少年に関する事件や情報、文化活動、社会活動等に興味関心を示す態度で生活すること。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験70%、授業への取り組み・レポート提出・小テストなど30%で評価する。
教科書	廣池利邦編著『ワークブック・わかりやすい青少年の理解と援助』あるふあ出版、2008
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習事前事後指導（幼稚園）　　授業コード：S4419

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(30)	子ども専攻・選択
担当教員			
塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 幼稚園における教育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。 【到達目標】 ・子どもの姿のとらえ方、援助の言葉掛け等ができるようにする。 ・環境構成の考え方について知る。 ・実習での指導案、日誌、記録が書けるようになる。 ・運動遊び、製作活動などさまざまな保育実践が行えるようにする。 ・責任実習での1日を想定できるようにする。
授業の概要	事前指導では教育実習（幼稚園）の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに実習日誌の記録方法・指導案立案・保育技術等を習得する。事後指導では実習の総括・評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	教育実習（幼稚園）の意義・目的および実習関係書類作成について 【key words】 幼稚園教育実習の意義・目的 実習生紹介状 【授業概要】 ○教育実習を行うための事前準備のポイントを把握する。 ○実習生紹介票の下書きを書く（自分の長所、短所、実習目的を明確に相手に伝わる文章を書く） 【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブック（該当ページについては授業時間内に指示する） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《復習》「実習生紹介票」の清書を書く準備をしておく 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	教育実習（幼稚園）の実習計画・実習方法と心構え ・ オリエンテーションについて 【key words】 実習計画 心構え オリエンテーション 【授業概要】 ○実習生の心得として、身だしなみや服装、立ち振る舞い、言葉遣い等の説明を受け、準備するものを書き出してみる。 ○実習生紹介票の清書をする。 【教科書ページ・参考文献】 実習ガイドブック（該当ページについては授業時間内に指示する） 【課題・予習・復習・授業準備指示】

《復習》実習園の概要、沿革等を調べ、ノートに書いておくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第３回　実習記録の意義と内容、実習記録の書き方
【key words】
実習記録
【授業概要】
〇実習記録の書き方や、着眼点についての説明を受け、その日の流れを実習日誌にどのように書き込んでいくか理解する。
〇実習記録の書く分量や、相手にとって読みやすい文字の書き方や大きさ、専門用語を使った記述のポイントを把握する。
・オリエンテーションの大切さについて知り、事前の準備をしっかり行っておく。

【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブック（該当ページについては授業時間内に指示する）
「実習の記録と指導案」　ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》参考文献等を参考に実習記録の様式をつかんでおくこと
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　指導計画と指導案の書き方
【key words】
部分実習
責任実習
【授業概要】
〇部分実習・責任実習について学び、それぞれの指導案の書き方と、書く際の留意点について理解する。
〇実習に向けて指導案を立案する。
【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブック（該当ページについては授業時間内に指示する）
「実習の記録と指導案」　ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《復習》立案した部分実習と責任実習の概要について説明できるようにまとめておく。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第５回　部分実習指導案の作成および教材研究
【key words】
指導案作成
絵本の読み聞かせ
手遊び
教材研究
指導技術
【授業概要】
手遊びによる導入から絵本の読み聞かせまでの部分実習指導案を書いてみる。その指導案に合わせて「手遊び」と「絵本の読み聞かせ」をグループ内で発表し、改善点などを互いに出し学び合う。
【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブック（該当ページについては授業時間内に指示する）
「実習の記録と指導案」　ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《準備》手遊び2つ、読み聞かせ用の絵本2冊を各自準備しておくこと。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第６回　部分実習指導案の作成 および指導技術
【key words】
指導技術
製作活動
【授業概要】
〇製作してきた作品について作成のポイントや遊び方などを発表する。また、発表の後には意見交換をしたり、気になるものについて作り方などの詳細を聞きあったりして互いに学び合う。
【教科書ページ・参考文献】
「実習の記録と指導案」　ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《予習》
・実習で使える2つ以上の製作物の見本を作成し持参する。
《復習》
・製作の手順や図などを実習で活用できるよう書いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第７回　運動遊びを中心とした保育実技の実践
【key words】
運動遊び
実技実践
【授業概要】
〇外部講師（やまて幼稚園園長）に子どもが楽しめる運動遊びの実践的な指導をいただき、実習に活かせるよう具体的な指導の方法などをまとめる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
《復習》学習した運動遊びを忘れないよう、図や文章でまとめておく。

【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　これまでの学びを活かした部分実習指導案の作成

【key words】
部分実習指導案の作成
製作活動
運動遊び
【授業概要】
これまでの学びを活かして、中心的活動として活用できる製作活動と運動遊びの部分実習指導案を作成する。

【教科書ページ・参考文献】
「実習の記録と指導案」ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《準備》指導案の作成に必要な参考資料や保育雑誌を持ってくる。
《復習》授業内で書ききれなかった指導案を完成しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　責任実習指導案の作成

【key words】
責任実習指導案
【授業概要】
これまで作成してきた部分実習指導案をもとに、責任実習のための指導案を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
「実習の記録と指導案」ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《復習》授業内で書ききれなかった指導案を完成しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１０回　幼稚園教育実習直前指導

【key words】
実習生の心得
【授業概要】
学長、学部長、子ども専攻児童福祉コース教員から、実習に行くための心得について講話をいただく
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
《準備》制服着用
《復習》本日の講話をまとめてレポート作成する。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１１回　実習に向けた総まとめ

【key words】
実りある実習

【授業概要】
これまでの学びを振り返り、指導案作成、日誌の書き方等についての質疑応答とピアノ技術の指導等を行う。
【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブック
「実習の記録と指導案」ひかりのくに　山本淳子
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《復習》実習に向けて必要な準備を整える。
【予習復習に必要な想定時間】
実習期間中は時間に関わらず継続的に行う

第１２回　実習の自己評価

【key words】
実習お礼状
自己評価
【授業概要】
○お礼状の書き方を学び、実習園にお礼状を書く。
○ワークシートを使い実習の自己評価を行う。

【教科書ページ・参考文献】
実習ガイドブック（該当ページについては授業時間内に指示する）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
《復習》自己評価ワークシートを見直し、文章にまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１３回　実習報告会①

【key words】
実習のまとめ
実習報告
【授業概要】
○責任実習を行った年齢別に分かれ、実習報告のグループワークを行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
《準備》責任実習で使用した指導案を持参すること。
《復習》グループワークで話し合ったことをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】

	60分 第１４回　実習反省会② 【key words】 保育者になるために 【授業概要】 後輩への引継ぎとして実習に向けて準備不足と感じたことや、実習中に困ったことについて意見交換を行い記録に残す。また、そこから保育者になるために今後どんな力をつける必要があるか自己課題を見つける。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《復習》自身の実習内容を振り返り、今後の課題としてまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 実習生評価票 【授業概要】 園から送られてきた実習生評価票に基づき、評価された点や今後の課題に真摯に向き合い、実習での学びを活きた経験とする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 《準備》実習記録を持参する 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	○オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ○ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ○授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。　○幼稚園教諭免許取得を希望する学生は必ず履修し、すべての講義に出席すること ○課せられた課題の提出期限は厳守すること ○欠席、遅刻する場合は、必ず連絡すること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	○実習に向けて、手遊び、絵本の読み聞かせ、製作遊び、運動遊び等いつでも出来るように準備しておくこと。 ○実習指導案を複数立案し、必要に応じて個別に指導を受けること。 ○担当教員よりメールもしくは電話で実習に関わる連絡をすることがある。その際は必ず応じること。
オフィスアワー	初回授業時に連絡する。
評価方法	群馬医療福祉大学の成績基準に準拠し、下記の配分で総合的に評価する。 ①授業への取り組み、参加態度（40%） ②課題・提出物（60%）○授業中に課したレポート、発表および提出物等　５０％
教科書	「実習ガイドブック」群馬医療福祉大学
参考書	「実習の記録と指導案」（ひかりのくに）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 私立幼稚園、公立幼稚園での実務経験を活かし、幼稚園教諭として必要とされる知識、技術、価値、倫理について講じる。また、実習の心構え、実習生としての心得等について現場の声を反映した具体的な指導を行う。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ（保育所）　　授業コード：S4421　S4422

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
田中　輝幸・吉澤　幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 保育実習（保育所）における実習の意義・目的を理解し、有意義で効果的な実習となるために必要な知識と技術を習得する。また責任実習に向け発達年齢に合わせた指導案を作成し実践する力を養っていく。 【到達目標】 ①保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解する。 ②実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育の実践力を習得する。 ③保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解する。 ④保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ⑤実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業の概要	本講義は保育実習Ⅱ（保育所）の事前・事後指導を行う科目である。事前指導では保育実習の意義・目的・内容等、実習の基本的事項を理解するとともに、実習日誌の記録方法・指導案立案、保育実技等を習得する。特に責任実習に向け発達年齢に合わせた指導案を作成し実践する力を養っていく。事後指導として実習の総括と自己評価を行い、新たな学習目標を明確化する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテーション 【key words】 保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）、責任実習 【授業概要】 保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）の流れについて確認する。 実習希望地域ごとに実習先の調整を行なう。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP11～12、P57、配布プリント（実習園調査書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習希望先の情報等を各自調べ、持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第２回　保育実習Ⅱ（保育所）実習先調整 【key words】 保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）、指導案 【授業概要】 保育実習Ⅱ（保育所）の希望園を地域ごとに調整する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP66、配布プリント（実習園調査書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックP66を良く参照すること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第３回　実習課題の明確化

【key words】
実習課題・実習目標、実習の目的
【授業概要】
保育実習Ⅰ・Ⅱ（保育所）での実習課題を、各自、実習へのガイドブックや配布プリントをもとに作成する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP67、配布プリント（実習の目的）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へのガイドブックP67、配布プリントを良く参照すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第４回　実習の心構えと理解
【key words】
専門職、資格取得
【授業概要】
実習を行なうのにあたり、基本的な心構えを確認し、専門職として必要な事項を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
実習へのガイドブックP26～28、配布プリント
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実習へのガイドブックP26～28、配布プリントを良く参照すること。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第５回　保育の全体計画から具体的な計画案を考える① 5歳児のポイント
【key words】
責任実習、導入、指導案
【授業概要】
保育の全体計画から具体的な計画案指導案の書き方についての概要を知る。
各年齢ごとの指導案作成のポイントについて知る。5歳児の指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導、質問等も受け付ける。
【教科書ページ・参考文献】
実習の記録と指導案P8～15、P96～121 配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考えておくこと。資料等も準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第６回　保育の全体計画から具体的な計画案を考える② 4歳児のポイント
【key words】
指導案、導入、展開、まとめ
【授業概要】
各年齢ごとの指導案作成のポイントについて知る。
4歳児の指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導、質問等も受け付ける。
【教科書ページ・参考文献】
実習の記録と指導案P72～95 配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考え記入すること。資料等も準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第７回　保育の全体計画から具体的な計画案を考える③ 3歳児のポイント
【key words】
指導案、導入、展開、まとめ
【授業概要】
各年齢ごとの指導案作成のポイントについて知る。
3歳児の指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導、質問等も受け付ける。
【教科書ページ・参考文献】
実習の記録と指導案P48～71 配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考え記入すること。資料等も準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第８回　保育の全体計画から具体的な計画案を考える④ 未満児のポイント
【key words】
指導案、導入、展開、まとめ
【授業概要】
各年齢ごとの指導案作成のポイントについて知る。
未満児の指導案を実際に書いてみる。時間内に添削指導、質問等も受け付ける。
【教科書ページ・参考文献】
実習の記録と指導案P28～47 配布プリント（指導案）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
各年齢ごとの指導案を考え記入すること。資料等も準備しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第９回　保育実習の具体的内容と実習計画
【key words】
部分実習、責任実習、指導案、反省会、事後指導
【授業概要】
実習の具体的な内容及び実習計画、実習の流れについて理解する。
【教科書ページ・参考文献】
配布プリント、実習へのガイドブックP64
【課題・予習・復習・授業準備指示】
配布プリント、実習へのガイドブックP64を良く参照すること。
【予習復習に必要な想定時間】

	予習30分 第１０回　保育実技について（手作り教材等） 【key words】 視覚的教材、手作り教材 【授業概要】 各自作成した視覚的教材の発表を行なう。発表後、改善点を各自まとめる。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（視覚的教材について） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 視覚的教材について、演じ方も含めて良く練習しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第１１回　保育士の専門性と職業倫理 【key words】 保育士の専門性　職業倫理 【授業概要】 実習に向かうにあたり、保育士の専門性と職業倫理について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント、実習へのガイドブックP44 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックP44 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第１２回　オリエンテーションについて 【key words】 実習記録、園の概要、デイリープログラム、持ち物、責任実習 【授業概要】 実習先でのオリエンテーション時の注意点やポイントを中心に理解する。 【教科書ページ・参考文献】 配布プリント（オリエンテーションについて） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックP28～29を熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第１３回　実習中の注意事項について　守秘義務・個人情報等 【key words】 守秘義務・個人情報、実習記録 【授業概要】 実習中の注意点について、特に守秘義務・個人情報等について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP20～22 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックP20～22を熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第１４回　実習直前指導 【key words】 実習への心構え、報告・連絡・相談、実習関係書類 【授業概要】 実習に向かうにあたり、実習に対する心構え及び注意点を理解する。 園や大学への連絡の仕方についても再度確認する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP26～28　配布プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックP26～28を熟読しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分 第１５回　実習後の書類作成について 【key words】 お礼状　実習自己評価　実習報告書 【授業概要】 実習終了後のお礼状の書き方、実習記録の提出方法について確認する。 実習自己評価、実習報告書の記入及び提出の仕方についても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 実習へのガイドブックP69～71　配布プリント（自己評価票　実習報告書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習へのガイドブックP69～71参照。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
受講生に関わる情報および受講のルール	○上記の授業計画は、実習開始時期により変更になる場合があります。 （各担当教員より指示があります） ○オンライン授業の場合は、講義内容の組み替えを行うことがあります。 ○オンライン授業では、カメラ「ON」でリアルタイルの意見交換の機会を設けます。 ○遅刻や欠席は事前に必ず届け出を行うこと。やむを得ない理由で欠席した場合は補講や課題が生じることがある。 ○提出物の期限は必ず守ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわ	保育や児童福祉に関する話題やニュースを常にチェックしておくこと。

る情報	
オフィスアワー	初回授業で各担当教員から伝達します。
評価方法	授業内での発表・取り組む姿勢（30%）実習関係の書類提出状況（30%）実習レポートの内容（40%）の総合評価
教科書	「実習の記録と指導案」山本淳子 編著 ひかりのくに 「幼稚園・保育園実習まるごとおたすけガイド」徳永満理 編著　チャイルド本社
参考書	「実習へのガイドブック」群馬医療福祉大学 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 保育士　幼稚園教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 幼児理解　　授業コード： S4441

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	児童福祉コース・選択／初等教育コース・必修
担当教員			
塚越　亜希子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 子ども理解は保育のあらゆる営みの基本となるものである。園生活における子どもの遊び及び生活の実態に即して、子どもの発達及び学び並びにその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理及び対応の方法を考え、実践できるようになることを目的とする。 【到達目標】 〇子どもの遊び及び生活の実態に即した子ども理解の意義を理解している。 〇家庭、園、地域等の子どもを取り巻く環境の特質や関連性を捉えることの意義と養護と教育の一体的展開について理解している。
授業の概要	子ども理解の意義と重要性を理解し、保育実践と結びつけて考察する力を身につける。また、子どもの発達や学び及びその過程で生じるつまづき、その要因を把握するための原理や対応の方法について、個と集団の関係や家庭との連携を含めて考える力を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	保育における子ども理解の意義 【key words】 保育 子ども理解 発達の特性 保育の方法 【授業概要】 保育とは何か、子どもを理解するとはどういうことかを理解し、保育者に求められる子ども理解について保育所保育指針や事例を通して考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P10～23 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P10～23を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第２回	子どもに対するかかわりと共感的理解 【key words】 共感的理解 養護と教育 【授業概要】 保育という営みの根幹ともいえる子ども理解の様々な諸相について学ぶ。また、事例を通して共感的理解について考え、養護と教育が一体的に展開される保育における保育者の在り方について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P24～37 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P24～37を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】

		予習30分・復習適宜
	第３回	子どもの生活や遊び 【key words】 基本的生活習慣 生活や遊びと学び 【授業概要】 乳幼児が自らの生命の維持と社会生活を営む上で不可欠な基本的生活習慣を獲得するために保育者として求められる子ども理解について学ぶ。また、生活や遊びにおける子どもの育ちについて事例やワークを通して学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P38～50 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P38～50を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第４回	保育における人的環境としての保育者と子どもの発達 【key words】 保育者の役割 人的環境 相互作用 【授業概要】 子どもの発達を支え、伸ばし、生きる力を育むために保育者に求められる役割について考える。また、保育者と子どものかかわりから生じる相互作用について事例を通して考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P51～66 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P51～66を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜 予習および復習30分
	第５回	子ども相互のかかわりと関係づくり 【key words】 関係づくり 物とのかかわり 【授業概要】 子ども相互のかかわりと関係づくりについて遊びの事例を通して年齢別に理解する。また、物を扱うことを通して友だちと目的を共有して新しい世界を作り上げていく過程を子どもの姿から考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P67～82 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P67～82を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第６回	集団における経験と育ち 【key words】 クラス集団 異年齢集団 保育者の援助 【授業概要】 共同体に属することの楽しさや心地よさはどのように育まれていくのか、また、その育みを支える保育者の援助のあり方について子ども理解の観点から考える。また、異年齢での子どもの育ちについて事例を通して考察する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P83～97 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P83～97を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第７回	発達における葛藤やつまずき 【key words】 葛藤 いざこざ 視点と援助 【授業概要】 子ども同士の葛藤である「いざこざ」について、子どもの発達における意義を理解し、それをポジティブに捉えるための保育者の視点について考える。また、「いざこざ」を子どもの育ちに繋げるための保育者の援助のあり方について事例を通して考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P98～111 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P98～111を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分
	第８回	保育の環境の理解と構成 【key words】 環境構成 主体的 保育指導案 【授業概要】 乳幼児期の発達に必要とされる能動性を発揮して関わり合える適切な環境について考える。また、環境を構成するために必要不可欠とされる子ども理解についてこれまでの学びを通して考察

		する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P112～123 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P112～123を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第９回	環境の変化や移行 【key words】 環境の変化・移行 適応 保護者への援助 【授業概要】 子どもを取り巻く環境の変化や成長に伴う移行について自らの経験をもとに考える。また、そのような時に揺れ動く子どもの気持ちの理解とそれを支える保護者への援助について保育者の立場になって考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P124～134 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P124～134を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第１０回	子ども理解のための観察・記録・省察・評価 【key words】 観察 記録 省察 評価 【授業概要】 乳幼児期にふさわしい保育および教育を行っていく上で欠かせない観察・記録・省察・評価という一連の過程についてその具体的な方法を学ぶ。また、事例を使い、子ども理解の観点で保育者の考えや行動を読み取り、記録を作成する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P135～147 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P135～147を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第１１回	子ども理解のための職員間の対話 【key words】 対話 協働 保育カンファレンス 【授業概要】 子ども理解をより深く、確かなものにするために欠かすことのできない職員間での対話と協働について事例を通して学び、グループワークでその学びを深める。また、模擬保育カンファレンスを行い、その重要性について実感する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P148～160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P148～160を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第１２回	子ども理解のための保護者との情報共有 【key words】 保護者との連携 情報共有 【授業概要】 子どもの生活の安定や発達や育ちの重要な支えとなる保護者との連携や情報共有の重要性について学ぶ。保育における情報共有の方法について具体的事例を通して理解し、ワークに取り組むことでその実際を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P161～172 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P148～160を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
	第１３回	発達の課題に応じた援助と関わり 【key words】 発達過程 発達課題 個人差 発達の最近接領域 【授業概要】 乳幼児の発達過程とはどのようなものであるか、また個人差に配慮するとはどういうことなのかについて子ども理解の観点から学ぶ。加えて、発達課題に応じた援助と関わりについて事例を通して具体的に考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P173～186 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P173～186を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜

	第１４回　特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助 【key words】 特別な配慮を必要とする子ども インクルーシブ保育 【授業概要】 すべての子ども達が日々の生活や遊びを通してともに育ちあうために保育者に求められる状況に応じた適切な配慮について子ども理解の観点から学ぶ。また、様々な保育ニーズに対応した多様性のある保育（インクルーシブ保育）について事例を通して考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P187～201 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P187～201を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜 第１５回　発達の連続性と就学への支援 【key words】 保幼小接続 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 接続期カリキュラム 学びの連続性 【授業概要】 子どもの発達の連続性を保障し、幼児期の「学びの芽生え」の時期から、児童期の「自覚的な学び」の時期への円滑な移行のために保育者に求められる支援や連携について学ぶ。また、事例を通して「幼児期のおわりまでに育ってほしい姿」について理解し、子ども理解の観点から学びの連続性について考える。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P202～215 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：教科書P202～215を読んでくること。 【予習復習に必要な想定時間】 予習30分・復習適宜
受講生に関わる情報および受講のルール	○オンライン授業に変更される場合は学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み換えを行う場合がある。また、オンライン授業の際の資料配付及び講義ではZoomMeeting・Google・PDFファイル・Wordファイル・PowerPointファイル・Youtube等を利用予定。 ○ZoomMeetingを使う際は、ビデオ「ON」の指示をすることがある。 ○授業形態に関わらず、積極的に授業に参加し他の受講生の迷惑となる行為（私語、携帯電話の使用等）は厳禁。 ○やむを得ず遅刻、欠席等をする場合には必ず連絡すること。 ○提出物は〆切厳守。 ○受講者には積極的な参加が求められる。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	○シラバスに記載された教科書のページを事前・事後に目を通す。 ○教科書の各章の終わりに記載されている「さらに学びを深めるために」を復習として読み、各自で学びを深めること。
オフィスアワー	初回授業時に連絡する。
評価方法	①授業への取り組み(グループワークなど授業への参加状況)15% ②授業レポート（内容および提出状況含む）35%③ 定期試験および課題レポート50%
教科書	「子どもの理解と援助」薮中征代・玉瀬友美編著　萌文書林
参考書	厚生労働省「保育所保育指針解説」2018.フレーベル館 文部科学省「幼稚園教育要領解説」2018.フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」2018.フレーベル館
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 幼稚園教諭としての実務経験を活かし、子どもを理解するということについて現場の事例をもとに解説をする。また、子どもの遊びや生活の実態に即した発達の捉え方やそこで生じるつまづきやその要因についても具体的に紹介し、自らの実践に基づいてその対応方法と留意事項を講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等）

	□情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 政治学Ⅰ　　授業コード：S5152

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国の人達にもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	現代の世界が抱える地球的問題 【key words】 ポスト主権、NGO、国連、欧州共同体 【授業概要】 国連組織というものが主権国家同士の関係で動かされていると、国家の段階では存在している民主的な統制が忘れられ、国家間の力学で動かされることになりかねない。そのような状況下でのNGOの成長していく可能性に期待したい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	政治（politics)ということば、政治とことばは切り離せない。 【key words】 Politicsと日本の政治、国民・選挙民 【授業概要】 学問の世界に嘘・誤解が入り込むと虚構になるように、政治も本来はアカデミックなものであるから、同様になる。我が国のリーダーが誰になるとしても、リーダーの条件としては、先ず、真のことばを語る人であるということである。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	平和憲法と社会福祉 【key words】 コスタリカ、紛争の仲介、積極的永世非武装中立宣言、平和憲法 【授業概要】 平和憲法の精神は、コスタリカから学ぶことが多いが、コスタリカの人たちにとって平和とは、戦争がないこと、軍隊が存在しないことではなくて、民主主義・人権・自由・豊かな自然環境、そして、謙虚・寛容等の価値観が統合されている状態である。コスタリカはまた、「積極的永世

非武装中立宣言」を公表した国であるが、それは、どの国にも加担しないが、紛争を終わらせるために仲介者として積極的に介入するということである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　国際ボランティア活動、湾岸戦争後のイラクの弱者に対する救援活動
【key words】
イラク、国際ボランティア活動、経済制裁
【授業概要】
湾岸戦争後、１３回も出かけることになったイラクの乳幼児に対する緊急救援活動を通して、イラクと日本での国際ボランティア活動のスタートから終了までの大事な諸点を紹介し、ボランティア精神の重要性も明らかにする。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　カリタス・ジャパンと社会福祉
【key words】
カリタス・ジャパン、政教分離、アガペー
【授業概要】
アガペー的な愛他行動に源流がある社会福祉（賀川豊彦など）であるが、人間観の世俗化が行き着くところまで行ってるようにも思われる。社会福祉におけるSpiritualityにも触れたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　「感染症」問題
【key words】
都市化、自然の生態系、コロンブス
【授業概要】
都市化やグローバル化が進んできたことや、人間が自然の生態系を破壊し攪乱させてきたことが等が、ヒトにとってまだ免疫が低い新規の病原微生物との接触頻度を増やしていくことになった。今回は感染症の問題を政治学として扱いたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　資源枯渇と環境破壊
【key words】
エネルギー供給、森林・オゾン層・温室効果、地球環境危機
【授業概要】
１　ソフト・エネルギーへの転換が今日ほど求められている時はない。
２　森林消失が、オゾン層破壊が、大気中の二酸化炭素濃度上昇が、どんな物理的作用を私たちに齎すかは、科学的には問題は解けているのに、政治的には解決されていない。そのことは大きな問題である。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　難民の問題
【key words】
難民、基本的人権、ドイツ、日本、グローバル化、シリア難民
【授業概要】
現在、難民こそ実在であり、基本的人権の観点から保護すべきである、ということが言えるであろうか。どうもこの問いは宙に浮いてしまっているようだ。難民の定義そのものが混迷しているからである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　人口問題
【key words】
緑の革命、漁場、水不足、環境破壊、砂漠か
【授業概要】
宇宙船地球号は、現在の技術水準から考えられる収容定員があるようである。ただ、この水準は変動してきたし、今後も変動するようである。この問題を技術的に突破しても、問題が悪化する可能性もあるようだ。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布

【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　宗教紛争（１）
【key words】
排他性、孤立、合理主義、物質主義、選民、イエス
【授業概要】
今日のユダヤ教徒・キリスト教徒・イスラーム教徒間の争いの根にあるものの一つは、三教徒間の根深い偏見、そして特に、神の子イエスの十字架上での死を巡る問題であり、もう一つは、宗教が異なる国家間の富・技術・工業発展などの格差から来るものである。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　宗教紛争（２）
【key words】
教会組織、スンナとシーア、クルアーン、民主主義
【授業概要】
イスラームでは、ローマ・カトリックで見られる教皇・枢機卿・司教・神父・信徒という特別の教階的組織はない。宗教的なヒエラルヒー（教階制）はイスラームではどのように働くのであろうか。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　人種差別問題
【key words】
イタリア、移民、多様性、アメリカ、個性、ローマ帝国
【授業概要】
ユニークであること、クリエイティブであること、人と違うことは、尊重されるべき個性であり、このような違いをあるがままに受け止めるのがイタリア人の姿勢である。人種差別のないイタリア人の視点から今回の問題を検討したい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　中東・中国に対する民主化要求
【key words】
リベラル・デモクラシー、アラブの春、世俗主義、イスラーム
【授業概要】
アラブの春のことに限らず、イスラームと民主主義について考える時には、何よりも先ず、イスラーム社会には、神から離脱することによって民主主義が達成されるという捉え方はない、と言うことである。中国については、新疆ウイグル自治区の問題を扱いたい。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　平和について考える～聖遷（ヒジュラ）と聖家族エジプト避難の旅の今日への問題提起～
【key words】
平和への第一歩、聖遷、聖家族エジプト避難の旅の実際
【授業概要】
自分に敵対する悪行に反抗・敵対することで、真の平和がもたらされるであろうか？ムハンマドや聖家族がとった姿勢は、＜平和的な反一抵抗（敵対）＞あった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　世界と日本の間違い～日本や諸外国を巨視的に捉える～
【key words】
中東、文化交流、カイロ大学文学部日本学科
【授業概要】
近代化１００年のスローガンは「西洋に追い着き追い越せ」であったが、日本人は中東世界については全く欠落していた。１９７３年、オイルショックが起こって初めて、中東世界との文化交流の重要性が認識されはじめることになった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 政治学Ⅱ　　授業コード： S5154

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
久山　宗彦			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的・到達目標】 世界の色々な国の中での日本が、それらの国とどのように関わっていけばよいかに関心を持ち、取り分け、問題を抱えている外国の人達にもどのように関わり、どのようにサポートできるかまで考える。
授業の概要	目下、日本人に求められているのは、地球市民として行動できる人になっていくことではなかろうか。このような原点に立ち返っての問題について、本講義では考えていきたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	２１世紀の世界秩序 【key words】 平和、イスラーム、ハーガ・リッラー、赦し 【授業概要】 平和を巡っての、イスラームの中での「サラーム」と日本の「和」の関わりを中心に、２１世紀の世界秩序について考察したい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	余暇・研究・仕事 【key words】 二つの世界観、受験教育、労働原理、プラトンのアカデメイア、cultとculture 【授業概要】 毎日の重要な睡眠・食事・適度の運動以外に、勉学（研究）・仕事・休息余暇の関わりについて深く考えてみる。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第３回	神の文化と和の文化 【key words】 和、一と多、個人化のプロセス 【授業概要】 神中心の思惟方法に対する和中心の思惟方法について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】

特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　日本・韓国・中国の文化の違い（１）
【key words】
日同一文化圏、漢字文化圏、儒教文化圏
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私達はどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　日本・韓国・中国の文化の違い（２）
【key words】
日・韓・中の比較文化、歴史問題
【授業概要】
日本・韓国・中国の文化の違いを私達はどのように乗り越えていったらよいかについて論じる。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　文明の衝突
【key words】
ハンチントン、八つの文明、パックス・アメリカーナ、テロの時代
【授業概要】
冷戦後の世界からは諸文明の対立・衝突が生じ、これが世界を動かしていくというハンチントン理論を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　聖徳太子・福沢諭吉の方針が日本外交の原点
【key words】
聖徳太子・福沢諭吉・華夷秩序、冊封国家、時事新報
【授業概要】
６０７年に聖徳太子が隋に送った「日出ずる処の天子、書を日没する処の天子に致す。つつがなきや」という、日中対等の姿勢を表す手紙は、日本外交の原点を説いたものと言えるが、この外交方針はその後の歴史を顧みれば、正しかったと言える。近代日本でこの外交の原点を説いたのは福沢諭吉である。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　ユダヤ文明とキリスト教文明の対話
【key words】
ヘブライズム・ヘレニズム、イエス、準備と完成
【授業概要】
クリスチャンはユダヤ人の信仰を、他の信仰の伝統とは違ったものと見做している。キリスト教は自らを、イスラエルの子供たちの信仰の自然的な継続と見ているのである。神がイスラエルの子供たちになした約束は、イエスにおいて成就された、と新約聖書は語っている。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　ロシア（ギリシャ）正教文明～ローマ・カトリック世界と比較しつつ～
【key words】
第二バチカン公会議、教皇皇帝主義・皇帝教皇主義、テオドシウス一世
【授業概要】
キリスト教をローマ帝国の国教にしたテオドシウス一世の死後、この国は西ローマ帝国（ローマ・カトリック教会）と東ローマ帝国（ギリシャ正教会）にわかれ、ギリシャ正教会（東方正教会）はイスラームの影響もあって、聖像禁止令まで出すことになった。
【教科書ページ・参考文献】
授業レジュメを配布
【課題・予習・復習・授業準備指示】
特にはありません。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　キリスト教文明とイスラーム文明の対話（１）
【key words】
モーセ、サリーブ（十字架）と、アッラー・アクバル、共存
【授業概要】
モーセの山（ガバル・ムーサ）の頂上を目指す旅を通じて、ムスリムとクリスチャンの対話を考

	えてみたい。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１１回　キリスト教文明とイスラーム文明の対話（２） 【key words】 クルアーン、ネストリウス派のクリスチャン、ムハンマド 【授業概要】 イスラームの聖典、クルアーンは、旧約・新約聖書のアラビア的陳述であると言われる。「我らはこれをアラビア語のクルアーンにしておいた。お前たちにもわかるように。その内容はすべて我々の手元にある啓典の母体に載っているいと高くいとも賢きもの。」（光まばゆい部屋飾りの章４３：３～４９）対話の第一歩は相互認識だと思う。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１２回　平和について考える（１）～コプトの平和観～ 【key words】 報復の原理、コプトの平和論 【授業概要】 ヘロデ王の幼子イエス殺害計画という攻撃に対してなされた聖家族のエジプト避難の旅には、積極的な反一抵抗（敵対）という極めて能動的な態度が見られるが、これは「汝の敵を愛し、汝の敵を赦すように」というコプトの平和論からきている。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１３回　平和について考える（２）～アッシジの聖フランシスコの平和観～ 【key words】 聖フランシスコと教皇フランシスコ、「平和を求める祈り」 【授業概要】 戦いと平和を巡って、エジプトのスルターンと熱い対話をした聖フランシスコであったが、スルターンの真の回心は望めなかった。これは現在のムスリムとクリスチャンの対話にも通じるものがあるようだ。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１４回　ダブリン（Dublin）のホスピス発祥の地である「聖母ホスピス」を訪ねて 【key words】 ターミナルケア、聖母ホスピス、careとcure 【授業概要】 医療技術は絶えず最新のものでなければならないが、「死」に対する深い精神的な態度は変わるものではない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第１５回　歴史から学ぶ国際政治学と日本の進む道 【key words】 国際政治学、理想主義、現実主義、現状是認主義 【授業概要】 国際政治学は、時代によって平和の到来を大きく捉えたり、現実主義へ回帰していったりしている。歴史の中には因果関係を考える題材が豊富にあるはずである。しかし、体系的な因果関係を考えることはなかなか難しい。また、日本で言われる現実主義は現状是認主義の場合が多く、Realismと区別しなければならない。 【教科書ページ・参考文献】 授業レジュメを配布 【課題・予習・復習・授業準備指示】 特にはありません。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	・授業レジュメは原則として毎回配布する。 ・授業には積極的な態度で臨むように。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	世界の色々な国と関わる日本のニュースに、いつも関心を持っていただきたい。
オフィスアワー	授業後の5分間は対応可能です。また、リアクションペーパーに質問を記していただければ、次回の

	授業後にお答えします。
評価方法	最終試験（70%）、小レポート（20%）、リアクションペーパー（10%）
教科書	教科書は使用しないが、毎回の授業レジュメのほかに時々参考資料を配布する。
参考書	授業時に随時紹介する。久山宗彦著「神の文化と和の文化」（北樹出版）もそのうちの一つである。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　マスメディア論　　授業コード：S5155

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
新井　英司			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　混迷の現代社会の中で、いかに自分の人生を輝かせていくか。そのために、物事を客観的に見ていくには どうしたらよいのだろうか。 　３５年前、群馬県上野村で起きた日航機の墜落という大惨事を多角的に見つめながら、墜落は事故だった のか、それとも事件だったのか、考察してゆきます。 【到達目標】 ①ものの見方、考え方が深められるようになる。 ②客観的な認識の方法と態度について理解する。 ③メディア・リテラシーが磨かれる。 ④複眼で見る大切さを知る。 ⑤なぜ、という問いの重要性を認識する。
授業の概要	日航１２３便の墜落は単独機としては世界最大の犠牲者、５２０人を数えました。しかし、３５年も 経とうとするいま、依然として原因は不明で、墜落の責任はだれ一人とっていません。 　そこで、墜落をめぐる国、自衛隊、警察、日航、米軍等の動きを追いながら、墜落の真相を探ります。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　　オリエンテーション 【key words】 令和の時代と世界 【授業概要】 ・オリエンテーション ・「令和」という時代、どんな風景？ ・ファクト(事実)とフェイク(偽) ・政府はいつも真実を語っているか 【教科書ページ・参考文献】 米国映画『記者たち』と日本映画『新聞記者』➡政府はウソをつく 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ・情報やニュースを批判的に読むことを日日の生活態度にしよう。 ・これ本当か、疑問に思ったら確かな複数の新聞で確認してみよう。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分

第２回　　１９８５年８月１２日、それは起きた！

【key words】
「どうして自分たちは死ななければならなかったのか」
【授業概要】
・あの日に何が見えたのか
・事故原因は圧力隔壁修理ミスか
・多数の腑に落ちない出来事
・新たな真実を求めて

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』の序章
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「日航機の航跡と機内状況」（テキストの第１，２章）
墜落した日航機は羽田を離陸して４４分、細かく追ってみよう。

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第３回　　日航機の航跡と機内状況

【key words】
離陸から４４分間のドキュメント
【授業概要】
・日航１２３便の航跡
・１８時２４分、コックピットは極度の緊張
・事故から３５年、いま遺族は‥

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）
配布資料　「日航機の航跡図」「家族に宛てたメモ」ほか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「圧力隔壁をめぐって」
（テキストの序章、第１、２、３章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第４回　　圧力隔壁をめぐって

【key words】
原因は圧力隔壁の修理ミスか？
【授業概要】
・事故原因を推理してみよう
・全日空雫石事件とは何か
・墜落原因の不徹底な究明
・真相を追って

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
「日航機墜落　今日１５年　圧力隔壁説に？」（毎日新聞）ほか

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺族の気持ち、政治家や日航関係者の発言」
（テキストの序章、第１、２、３章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第５回　　遺族の気持ち、政治家、関係者の発言

【key words】
原因究明への温度差
【授業概要】
・まるで他人事、政治家の動き
・事故原因に触れたがらない日航関係者
・２６万人の署名、究明を求める遺族

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』（序章　第１，２，３章）、
「変わらぬ想い　日航機事故３４年　英国婦人」（2015/08/04　上毛新聞）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「自衛隊、米軍、警察等の動向」
（テキストの序章、第１、２、３、４章）

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第６回　　不可解な救助体制　～自衛隊、米軍、警察等の動向～

【key words】
不可解な救助活動
【授業概要】
・これまでの登場人物を確認しょう　（別紙資料）
・不可解な自衛隊の動向
・墜落時の自衛隊
・米軍の対応
・東京消防庁の対応

・群馬県警察の対応

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４章)
「国産ミサイル本格推進」(1985/08/11　日航機墜落前日の読売新聞)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「地元の小、中学生は見た」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第７回　地元の小、中学生は見た

【key words】
生かされない目撃情報

【授業概要】
・「小さな目、事故に怒り」
・文集が記録した墜落前後の上野村
・真っ赤な飛行機とファントム二機
・未来を見つめて

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
「川上慶子さん　死の直前の妹を励ます」（上毛新聞）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺体に秘められた事実」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第８回　遺体に秘められた事実

【key words】
「死人に口あり」

【授業概要】
・「死人に口あり」
・どうしてなの、完全炭化の遺体
・炭化遺体の不自然な位置
・ガソリンとタールの異臭

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
「５０５名の遺体の位置」(事故調査報告書から作成)

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「遺物、展示品が教えるもの」
(テキストの序章、第１、２、３、４、終章)

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　遺物、展示品が教えるもの

【key words】
第４エンジンのなぞ

【授業概要】
・木っ葉微塵の第４エンジン
・墜落現場にはあり得ない遺物
・編集されたボイスレコーダ

【教科書ページ・参考文献】
『日航１２３便　墜落の新事実』(序章　第１、２、３、４、終章)
参考文献　青山　透子『日航１２３便墜落　遺物は真相を語る』

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「御巣鷹山と高天原山」
墜落現場の上野村の「上野」とは何のこと？

【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　御巣鷹山と高天原山

【key words】
古い信仰に根付いた地域

【授業概要】
・上野村の「上野」とは
・御巣鷹山とはどんな山
・墜落現場、高天原山とは
・「彷徨える魂を救う」

【教科書ページ・参考文献】
配布資料　「山中領」と呼ばれた地域の地図と特徴

【課題・予習・復習・授業準備指示】
次回は「点と線と面と」

		青山　透子　　著者は全体をどう推理したか 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１１回	点と線と面と 【key words】 著者、青山　透子さんの推理 【授業概要】 ・点と線と面と ・墜落にまつわる異例な事態 ・著者、青山　透子さんの推理 ・間違ったことを正す勇気 【教科書ページ・参考文献】 青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「墜落から３５年、いま」 風化していく墜落、次世代への語り部は 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１２回	墜落から３５年、いま 【key words】 我がもの顔の日米地位協定 【授業概要】 ・墜落から３４年、いま ・不平等な日米地位協定 ・次世代に向け、語り部となれ 【教科書ページ・参考文献】 青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) 沖縄では基地内の「水質汚染調査　米軍拒む」(2018/11/25　朝日) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「討論　墜落は事故か事件か」 日航１２３便の墜落をどう見るか、各自の考えをまとめて下さい 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１３回	討論　墜落は事故か事件か 【key words】 事故か事件か 【授業概要】 ・討論　墜落は事故か事件か ・事故ならば‥‥ ・事件ならば‥‥ 【教科書ページ・参考文献】 青山　透子著『日航１２３便　墜落の新事実』(序章～終章) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「急がば回れ」 人は常に選択、判断を迫られる、そこで大切なことは 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１４回	急がば回れ 【key words】 迫られる真偽の判断 【授業概要】 ・公権力によるデータのデタラメ化 ・急がば回れ ・苦労は買ってでも ・迫られる判断、選択 ・「嘘つきは、戦争のはじまり」(2019/01/07　宝島社の朝日新聞への全面広告) ・「ハンマーを持って。バカがまた、壁をつくっている。」 (2020/01/07　宝島社の朝日新聞への全面広告) 【教科書ページ・参考文献】 配布資料「時代を切る宝島社の新聞への全面広告」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次回は「まとめ　客観的認識とは」 最終回はありがとうの心で前進 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第１５回	まとめ　客観的認識とは 【key words】 客観的認識とは 【授業概要】 ・客観的 ・主観と客観 ・客観的認識に大切な三つの視点 ・ありがとうの心で前進

	【教科書ページ・参考文献】 「自分で考える社会を取りもどす」（毎日新聞） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後期の試験に向けて 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
受講生に関わる情報および受講のルール	タイムリーなニュースや話題を取り上げ、意見や感想を発表し合います。その都度、資料も配布しますので、積極的に参加して下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	毎時間授業終了後、３０分は対応可能。
評価方法	筆記試験１００％
教科書	テキストは　青山　透子　著『日航１２３便　墜落の新事実』（河出書房新社　刊）の最新版
参考書	日々の新聞、テレビ等。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 群馬テレビに４１年余り勤務し、この間、報道、制作、編成、営業、事業と各部門を経験、一方、アナウンサー　やプロデューサーとして番組・イベントの企画、制作に携わりました。 また、県域テレビ局の誕生から成長、さらにはテレビのデジタル化という難局に直面し、現場の局員として、あるいは役員、顧問として様々な試練を乗り越えて来ました。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　教職実践演習（小学校）　　授業コード：S5167

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 今までの大学での学習を振り返り、教職科目の省察をし学びの集大成を図るとともに、次年度、教職にスムーズに就けることを目的とする。 【到達目標】 ①履修カルテにより、自己の学習履歴を振り返り、自己課題を見つけ、その解決を図ることができる。 ②教師に求められる力量、学級経営、自己課題、現代的な教育課題等について、考えることができる。
授業の概要	1　次年度、教育現場にたつことを踏まえ、既習の知識技能を総動員して、教師に求められる力量、発達障害、多様な性、 学級経営、現代的な教育課題等について、課題解決学習を行う。 2　まとめや発表方法として、現場で活用できる効果的なＫＪ法、グループワーク、パワーポイント、板書等について学ぶ。 3　自己の学びの軌跡を「履修カルテ」により確認し、次年度、教師として教壇に立つ意欲を高める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、履修カルテの記入、教師に求められる力量①（KJ法により班ごとにまとめる。） 【key words】 オリエンテーション、履修カルテ、教師に求められる力量、ＫＪ法、中教審、相互評価 【授業概要】 ①　本授業の意義とシラバスの説明を聞く。特に、15コマの授業内容と評価方法について理解する。 ②　履修カルテの確認と記入をする。 ③　教師に求められる力量について、ＫＪ法を用いて班ごとにまとめ、発表する。相互評価も行う。 ④　中教審から出ている「教師に求められる力量」に関する資料を読む。 【教科書ページ・参考文献】 ○中教審答申（2005）「新しい時代の義務教育を創造する」、中教審答申（2012）「教職生活の全体を通じた資質能力の総合的な向上方策について」等　　○配付資料（教師自作レジュメ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】３年後期までの「履修カルテ」を記載し、担当が指定する期日までに提出する。 【復】中教審から出ている「教師に求められる力量」に関する資料を熟読する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第２回	教師に求められる力量②（教育者・哲学者の格言<カント・モンテスキュー等>より） 【key words】 教師に求められる力量、教育に関する格言、論文 【授業概要】

		①　教育者・哲学者の「教育に関わる格言」、大村はま著「新編　教えるということ」からを学ぶ。 ②　中教審が述べている教師の力量について知る。 ③　「教師の力量」についての論文を読む。Cinii等の文献検索について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 ○「配付資料（教師自作レジュメ）○CiNii等ネット上の論文、小松・時田他「教育行政学」昭和堂、2013年、「新編　教えるということ」筑摩書房、1996年、 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「教師に求められる力量」についてネット検索をし、授業に臨む。 【復】教育者・哲学者について主著・業績をまとめておく。「新編　教えるということ」を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第３回	映像授業①「発達障害」（映像を見て、グループディスカッション及び全体討議を行う。） 【key words】 発達障害、特別支援教育、グループディスカッション 【授業概要】 ①　発達障害の意味について理解する。 ②　通常学級で見られる発達障害の具体的な指導方法について、グループワークで意見交流を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作レジュメ） ○映像資料「発達障害」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】今までの授業で学修した発達障害に関する事柄を整理し授業に臨む。 【復】発達障害に関する事項を理解し、重要事項は暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第４回	映像授業②「多様な性について（映像を見て、グループディスカッション及び全体討議を行う。） 【key words】 ＬＧＢＴ、多様な性、グループディスカッション 【授業概要】 ①　ＬＧＢＴ、多様な性について理解する。 ②　通常学級で見られる多様な性の課題について、グループワークで意見交流を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○性同一性障害に関する文科省通知H27） ○配付資料（教師自作レジュメ）○映像資料「多様な性」 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】多様な性に関する事柄を整理し、授業に臨む。 【復】多様な性に関する事項を理解し、重要事項は暗記する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第５回	模擬授業①、授業研究会①（道徳：代表学生が教育実習時実施した授業をさらに改善したものを提示する。） 【key words】 模擬授業、道徳の時間、特別の教科道徳 【授業概要】 ①　教育実習で行った「道徳の授業」を見直し、模擬授業の実施（45分間）、授業研究（35分間）を実施する。特に、授業研究会は現場の校内研修で行っているような流れで、学生が進行する。特に授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。 ②　必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。 ③　様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等） 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作レジュメ） ○梅澤・小林・時田他（特別の教科　道徳15講」大学図書出版、2020年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】小学校学習指導要領、特別の教科、道徳の目標・内容を熟読し、授業に臨む。 【復】小学校学習指導要領　特別の教科　道徳「解説」熟読しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第６回	学習指導要領について（アクティブ・ラーニングとカリキュラムマネージメント、道徳・英語の教科化等） 【key words】 アクティブ・ラーニング、カリキュラム・マネージメント、道徳・英語の教科化 【授業概要】 ①　アクティブ・ラーニングの具体的指導事例を理解する。 ②　カリキュラム・マネージメントの具体例を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作レジュメ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】アクティブ・ラーニングの具体事例をメモして授業に臨む。 【復】アクティブ・ラーニングやカリキュラム・マネージメントについて、整理しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第７回	模擬授業②、授業研究会②（外国語活動または外国語科：代表学生の授業提示が無理な場合は、他領域・教科を実施する。） 【key words】 模擬授業、外国語活動、外国語科 【授業概要】 ①　教育実習で行った「外国語活動の授業」を見直し、模擬授業の実施（45分間）、

		授業研究会（35分間）を実施する。授業研究会は、学生が進行する。特に、授業のよい点・改善点を出し、教師は最後に補説・指導をする。 ②　必要に応じ、写真・ビデオ（学生による）撮影をし、客観的に振り返られるよう配慮する。 ③様々な「授業の視点」について話す。（授業者が決めた視点、授業者・抽出児童・板書等に注目した視点等） 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作レジュメ）、「学習指導要領解説外国語活動編及び外国語編」、教材「Let’s Try!1」「Let’s Try!2」及びデジタル教材「We Can!1」「We Can!2」等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】小学校学習指導要領外国語活動及び外国語科の目標・内容を熟読し授業に臨む。 【復】小学校学習指導要領外国語活動及び外国語科の「解説」熟読しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第８回	小学校教育実習報告会（４年生は、教育実習録を提示しながら、後輩に報告する。班別及び全体の協議を行う。１～４年合同） 【key words】 教育実習の実際、教育実習録の記載 【授業概要】 ①　１～３年の初等教育コース学生に向け、４年生が教育実習の報告を口頭で行う。 ②　班別（１～４年混合）になり、協議する。 ③　後輩代表が、お礼を述べる。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作　報告会の流れ） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】パワーポイントスライドを準備し時間内に発表できれうよう練習をし授業に臨む。 【復】ＳＡ制度とからめ、教育実習に関する後輩への指導を行う。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第９回	小学校現場の先輩教師の講話（本学既卒の初任者より志望動機・教採に向けての勉強方法、教育実習、現場１年目の様子等を話してもらう。１～４年合同） 【key words】 学校現場、学級担任、教師の体験談 【授業概要】 ①　本学を卒業した、１年目の初任者教師としての先輩を招へいし、講話と質疑応答を行う。 ②　教員は、事前打ち合わせを十分に行い、講話の内容、パワーポイントの作成、講話の時間等を明確にする。 ③　学生は、要点や質問をメモする。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作レジュメ） ○参考文献：時田詠子「第３章　教職員改革と人事行政～子どもたちの未来を支える教師～」小松茂久編著『教育行政学 ～教育ガバナンスの未来図』昭和堂（2013/04)等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】先輩講師に聞きたい質問をメモして、授業に臨む。 【復】先輩へのお礼状を書き、次回提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
	第１０回	学校・学年・学級経営（学校組織、学級経営案、学級通信） 【key words】 学級経営の意味、学級経営案、学級経営実践例、学級通信 【授業概要】 ①　学級経営の意味、学級経営案の意義や項目について理解する。 ②　学級経営実践例「級友の宝探し」「ゲームを活用した学級作り」「学級通信を活用した保護者との連携」等、教員の体験をもとに、提示された実物を見たりしながら理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作のレジュメ） ○参考文献：時田詠子、他「保育・教職実践演習テキストノート」、自作「学級通信」を提示する。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】学級だよりについて、ネットで情報収集をして、授業に臨む。 【復】学級経営の配付資料（学級の実態）を用い、架空の学級だよりを作成する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１１回	校長が求める教員像（現場の校長先生の招へい　１～４年合同） 【key words】 校長と学校経営、新任教師に求めること 【授業概要】 ①　学校組織について知る。 ②　新任教師のよい面、改善したい面についての話を聞く。 ③　１～３年初等教育コースの学生も参加する。 【教科書ページ・参考文献】 ○外部講師のレジュメ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】校長が行う学校経営について、調べ、授業に臨む。 【復】講話を受けレポートを書き、次回授業で提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第１２回	教師として再確認したい教育制度 【key words】 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、一条校、小学校の教職員組織 【授業概要】 ①　公教育の４原理（教育の機会均等、義務制、無償性、中立性）について、憲法、

	教育基本法、学校教育法での記述を比較する。 ② 一条校（学校教育法第１条）、小学校の教職員組織（同第37条）について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作のレジュメ） ○時田詠子　分担執筆「第６章　学校の制度」「学びを深める教育制度論」大学図書出版、2020年 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】憲法、教育基本法、学校教育法を概観し、授業に臨む。 【復】一条校の９校種、小学校教職員組織での職種等について理解を深める。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１３回　現代的な教育課題①（いじめ、体罰など）、履修カルテの記入 【key words】 いじめ、体罰 【授業概要】 ① いじめ・体罰の定義と現状について知る。（パワーポイント） ② いじめ・体罰の予防・対応について、協議する。その際、学生が司会・板書を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作レジュメ、パワーポイントスライド資料） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】いじめ・体罰の予防・対応について自己の考えを整理し、授業に臨む。 【復】いじめ・体罰に関する法令等を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１４回　現代的な教育課題②（教師のメンタルヘルス、特別支援教育など） 【key words】 教師の多忙感、メンタルヘルス、特別支援教育 【授業概要】 ① 教師の多忙感、メンタルヘルスの現状と課題について知る。（パワーポイント） ② メンタルヘルスを保つための方策について協議する。その際、学生が司会・板書を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作ワークシート、パワーポイントスライド資料） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】教師のメンタルヘルス、特別支援教育を整理しておくこと。 【復】ストレス解消方法をまとめておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第１５回　魅力的な指導者を目指して（決意表明）、履修カルテの提出 【key words】 進路、決意表明、履修カルテ 【授業概要】 ① 来年度の進路について、３分間スピーチを行い、協議する。 ② 履修カルテの最終確認を行い、振り返り、提出する。 【教科書ページ・参考文献】 ○配付資料（教師自作ワークシート） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】履修カルテを完成させる。自己の進路について、３分間スピーチを準備し、授業に臨む。 【復】半年間の授業を振り返り、４月からの仕事や学習に不足している部分を補うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 90～120分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行う。 ・本授業は、対面または遠隔とする。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとる。 ・遠隔授業では、授業の数日前までには授業資料を送信するので、印刷または画面で見られるようにしておく。 ・遠隔授業では、不具合が生じないよう準備する。しかし、遠隔授業中、不具合が生じたらチャット等で担当教員に報告する。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 ・本授業は、対面を原則とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、Webポータル内のスレッドでのコメント（遠隔授業）
授業外時間にかかわる情報	・教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等は目を通す習慣を身に付ける。 ・月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。 ・赴任自治体・着任校が決まったら、そこの地域理解や学校理解を図る。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	・提出物（40%）、授業への取り組み（30%）、模擬授業（30%）
教科書	・授業者担当者が適宜配布する資料をテキストとして、使用する。
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年。 同「基礎からわかる教育課程論」大学図書出版、2019年。 同「特別の教科　道徳15講」大学図書出版、2020年5月。

	同「学びを深める　教育課程論」大学図書出版、2020年10月 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として20年間、教頭職を３年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員への学年・学級経営、初任者研修等の指導を行ってきた。それらの経験を活かし、次年度学校現場に赴任する学生に必要な「実践的な指導力の基礎」を身に付けさせるための総括を行い、理論と実践の融合を目指した指導を行う。 本授業は、実践的・具体的な授業内容となっており、模擬授業、事例研究、ディベート、グループワーク等を学習する。学校現場で行ってきた校内研修での研究授業・授業研究の仕方等を模擬授業の指導でも活かす。 なお、学生は１年次より学期ごとに「履修カルテ」を記載し、担当教員のチェックを受けるようにする。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 小学校教科教育法（社会）　　授業コード：S5611

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
梅山　文秀			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 授業とはどの様なものか学ぶこと。 小学校社会科の指導方法や教材・教具について学ぶこと。 学習評価について学ぶこと。 指導案の作成について学ぶこと。 【到達目標】 授業の組み立てや求められる授業技術について理解する。 求められる資質・能力を育てるための授業について理解する。 主な指導方法や教材・教具について理解する。 地図の基礎的事項を理解し、地図を読むことができるようになること。 学習評価について理解すること。 指導案を作成し、模擬授業・授業研究を行い、授業実践力を養うこと。
授業の概要	授業とはどのようなものなのかについて考え、学習指導者としての観点から授業をとらえられるようにすること。　　様々な学習指導方法や教材・教具について理解すること。 実際に博物館・郷土資料館等を見学し、その活用方法を身につけると。 地図を読むことができるよう、その基礎を学ぶこと。 社会科における学習評価について学ぶこと。 指導案の作成方法を学ぶこと。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、「主体的対話的で深い学び」とは何か。 【key words】 主体的な学び、対話的な学び 【授業概要】 授業の進め方等について知る。「主体的対話的で深い学び」について理解する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	授業とは①・・授業の組み立て。本時の授業をつくる。 【key words】 主役は子どもである。 【授業概要】 授業とはどのように組み立てられているのかを知る。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　授業とは②・・求められる授業技術(発問・板書・ノート)
【key words】
発問、計画的な板書、児童理解の手だてとしてのノート

【授業概要】
求められる授業技術(発問・板書・ノート指導)について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　授業とは③・・動機付け、主体性と指導性
【key words】
動機づけ、主体性と指導性

【授業概要】
学習への動機づけについて考える。児童の主体性と教師の指導性について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　授業とは④・・望ましい学習環境のあり方
【key words】
学習環境

【授業概要】
望ましい学習環境について考える。PC、電子黒板の活用について触れる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　社会科の授業とは①・・社会科の教科目標
【key words】
公民としての資質・能力の基礎の育成

【授業概要】
小学校社会科の目標について知る。
【教科書ページ・参考文献】
P17～P24
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第７回　社会科の授業とは②・・主体的に調べて考える授業
【key words】
問題解決学習

【授業概要】
主体的に調べて考える授業について考える。基礎的基本的な知識や概念を身につける授業について
考える。思考力・判断力・表現力を育てる授業について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　社会科の授業とは③・・能力や技能を育てる授業、社会的な見方や考え方を育てる授業
【key words】
観察・調査、資料活用能力、社会的な見方や考え方

【授業概要】
能力や技能を育てる授業、社会的な見方や考え方を育てる授業について考える。
デジタル教科書を使用した指導例も示す。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　社会科の学習・指導方法①・・個別学習、グループ学習、一斉学習、ごっこ・劇化・構成活動

【key words】
個別学習、グループ学習

【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　社会科の学習・指導方法②・・系統学習、問題解決学習
【key words】
つかむ、調べる。まとめる

【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　社会科の学習・指導方法③・・作業学習・体験学習、プログラム学習
【key words】
体験学習

【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　社会科の学習・指導方法④・・ロールプレイイング、ディベート、シミュレーションゲーム
【key words】
ディベート

【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　社会科の学習・指導方法⑤・・問答・討議法、講義法、支援
【key words】
認識の深化、支援

【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　社会科の学習・指導方法⑥・・表現活動、ティーム・ティーチング、複線型授業
【key words】
表現活動の方法、TTの利点

【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　社会科の学習・指導方法⑦・・見学・調査・観察(社会科見学・地域調査)
【key words】
見学・調査・観察

【授業概要】
様々な指導法や授業形態について知る。社会科見学・地域調査の方法について学ぶ。
事前準備でのICT活用についても触れる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　教材・教具について①・・教科書、学習ノート、郷土資料、現物資料
【key words】
学習ノート、郷土資料

【授業概要】
教材・教具について学ぶ。その種類と意義、用い方
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　教材・教具について②・・統計資料、年表、博物館・郷土資料館の活用、副読本、放送利用、コンピュータ利用
【key words】
統計資料、博物館等の活用

【授業概要】
教材・教具について学ぶ。その種類と意義、用い方
インターネットによる社会科ゲームの体験と授業での活用
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　教材・教具について③・・地図指導　様々地図について知る。地図を読む。
【key words】
地図記号・方位、地球儀

【授業概要】
地図の基礎事項を学ぶ。地図を読む。地球儀について学ぶ。
デジタル教材(地図・地球儀)の活用
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
地図を読む問題に取り組む。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１９回　社会科における学習評価①・・学習評価の分類、評価規準と評価基準、評価計画の作成
【key words】
学習評価、評価規準と評価基準

【授業概要】
学習評価について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　社会科における学習評価②・・観点別学習状況の評価（４観点）
【key words】
3観点

【授業概要】
観点別学習状況の評価について考える。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　社会科における学習評価③・・具体的な評価方法、学習評価の記録法、学習評価の課題
【key words】
具体的な評価方法

【授業概要】
評価方法の実際について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をする。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　指導案の作成①(学習指導案とは・教材研究とは・学習活動研究とは・児童理解とは)

【key words】
教材研究、学習活動研究、児童理解

【授業概要】
学習指導案とは、どのようなものであるか学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をし、指導案作成準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２３回　指導案の作成②(基本的な指導案の作成方法)
【key words】
児童の実態、教材観、教材の系統、単元の目標、評価規準、指導方針、指導と評価の計画

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【授業概要】
基本的な形式、記述内容について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の復習をし、指導案を書き進める。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第２４回　指導案の作成③(模擬授業用略案の作成)
【key words】
児童の実態、本時のねらい、ねらいを達成するための手だて

【授業概要】
模擬授業用略案を作成する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
指導案を完成させる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２５回　模擬授業及び授業研究①　※原則として全員が模擬授業を行い、授業後に授業研究会を実施する。
【key words】

【授業概要】
模擬授業を行い、その授業研究を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業研究会で話し合われた内容をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２６回　模擬授業及び授業研究②
【key words】

【授業概要】
模擬授業を行い、その授業研究を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業研究会で話し合われた内容をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２７回　模擬授業及び授業研究③
【key words】

【授業概要】
模擬授業を行い、その授業研究を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業研究会で話し合われた内容をまとめる。
【予習復習に必要な想定時間】
45分

第２８回　模擬授業及び授業研究④
【key words】

【授業概要】
模擬授業を行い、その授業研究を行う。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第２９回　模擬授業及び授業研究⑤ 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分 第３０回　模擬授業及び授業研究⑥ 【key words】 【授業概要】 模擬授業を行い、その授業研究を行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業研究会で話し合われた内容をまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 45分
受講生に関わる情報および受講のルール	小学校教諭を目指す者としての自覚を持って臨むこと。 社会科概論を履修していること。 配付資料やワークシートは必ず保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	新聞を毎日読むこと。「子どもを理解する」とはどのようなことなのかを常に考えながら学習すること。
オフィスアワー	火曜日の14:30～17:30
評価方法	筆記試験７０％、学習指導案２０％、模擬授業１０％を目安として総合的に評価する。
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　社会編」日本文教出版株式会社
参考書	「小学校指導法　社会」玉川大学出版部
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校教諭 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 小学校教科教育法（理科）　　授業コード：S5631

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
高山　幸延			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目的］ １．児童にとって価値のある教師になるための資質・能力の修得 ２．小学校理科の指導に必要な知識・理解と技能の修得 ３．質の高い授業を立案し実践できる指導力の獲得 ４．学外自然体験施設での実習体験 ［到達目標］ １．理科指導を行ううえで基盤となる教師としての全人的な資質・能力を絶えず磨き続けることができる。 ２．学習指導要領で示された理科の目標・内容・配慮事項等を十分に理解する。 ３．基礎的な学習指導理論の本質を理解し、児童の実態やニーズを十二分に考慮した授業設計を行い、指導に活きる学習評価を加味した優れた授業を実践することができる。 ４．学外自然体験施設での実習で得た知識や経験等を実際の指導に活かすことができる。
授業の概要	１．小学校理科を指導する際に必要な理論面・実践面での基礎・基本を身に付ける。 ①理科を学ぶ意義の確認、②学習指導要領改訂の背景と経緯、③学習指導要領で示された教科と各学年の目標・内容の深い理解、④理科で育成を目指す資質・能力の修得、⑤年間指導計画の意義や計画の立て方とその利用、⑥実験・観察・野外活動の行い方、⑦実験・観察等における配慮など ２．１の理解を基に、「学習指導要領・解説と教科書を利用しての教材研究」「教科書会社の教科書づくりにおける工夫点・改善点や会社間の相違点の深い理解」「優れた授業のあり方」「学習指導案の立案」「模擬授業の実施」等を学ぶことをとおして、質の高い授業を行う。 ３．学外自然体験施設での実習を体験することにより、野外理科施設利用の意義や課題を考え、現場での指導に活かす。 ４．教員採用試験への対応をとおして、優れた教師になるための資質・能力の基盤を学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回　オリエンテーション（年間の講義の概要説明、講義の評価内容・方法の説明など）、アンケートの記入 【key words】 1年間の講義の概要、授業の受け方、講義の評価内容・方法、アンケート 【授業概要】 ①「１年間の講義の方針や内容」「単位認定の内容・方法」等をワークシートや資料を基　に説明する。 ②「個性・特性を理解するためのアンケート」に記入してもらった後、それをもとに対話　形式のクイズを行い、学生・教師相互の理解の深化を図る。 ③講義後の振り返りシートの内容を再確認した後、シートの記入を行う。 【教科書ページ・参考文献】 特になし 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○１年間の講義の方針や内容を再確認する。 ○新理科教科書(東書､大日本)､学習指導要領解説を購入し、内容を見ておく。

		○ワークシートをファイリングするための２穴ファイル等を購入する。 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第２回	１.児童に力が身に付く「理科の授業」を行うためには！ ２.学習指導要領の中身を確認しよう！ ３.３年の学習内容「植物を育てよう１～４」を体験しよう。 【key words】 学習指導要領・解説、年間指導計画、教科書、授業構想 【授業概要】 ①教師が授業前に行うべきことについて、対話形式で確認する。 ②「学習指導要領の記述内容の構成」「目標の構成と内容」を学習指導要領で確認する。 ③３年の学習内容「植物を育てよう１～４」の体験のための準備と具体的方法について考える。 【教科書ページ・参考文献】 ３年の新教科書：Ｐ14～21（東書）、Ｐ16～23(大日本）、学習指導要領・解説(Ｐ12～28、Ｐ118～129) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○家で育てる植物を何にするかを考え、種子等を用意する。 ○観察記録カードの様式をどうするかを考え、パソコン等でカードを作成しておく。 ○観察記録カードを綴じ込むファイルを購入する。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第３回	１.学習指導要領の中身を確認しよう！ ２.年間指導計画を確認しよう！ 【key words】 理科の目標、学年の目標、年間指導計画が必要な理由、年間指導計画の細案と略案 【授業概要】 ①「理科の目標、学年の目標」を確認する。 ②年間指導計画の略案と細案について学ぶ。 ③年間指導計画が必要な理由について考える。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ12～28、Ｐ118～129)、東京書籍Ｗｅｂページの年間指導計画 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物への水くれ等を忘れないこと。 ○植物の成長を観察記録カードに記録すること。 ○理科及び学年の目標を復習しておくこと。 ○略案と細案を教科書会社のサイトからダウンロードし見ておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ７０分
	第４回	１.各学年の「問題解決の力」｛具体目標(2)｝を確認してみよう！ ２.旧教科書と比べ、新教科書が「教科書づくり」で工夫・改善している点(Ｎｏ１)を見つけ確認しよう！ 【key words】 問題解決の力、具体目標、教科書づくりの工夫 【授業概要】 ①「各学年の目標」の「問題解決の力」について再確認する。 ②新教科書の工夫・改善点を見つける。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領・解説(Ｐ12～28、Ｐ118～129)、教科書：全ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○家でしっかりと植物を育てるための水くれや除草等を忘れないこと。 ○植物の成長を観察し、観察記録カードに記録すること。 ○「各学年の目標」の「問題解決の力」を復習し、自分のものにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ５０分
	第５回	１.教科書会社（東京書籍、大日本図書）の工夫・改善点(Ｎｏ２)を見つけ発表しまとめる。 ２.「理科の学び方・進め方」を確認しよう！ 【key words】 教科書会社（東京書籍、大日本図書）の工夫、理科の学び方・進め方 【授業概要】 ①教科書会社の工夫・改善点を見つけてまとめ、発表する。 ②３～６年の教科書を見て、学習過程や「学び方・使い方」を考える。 【教科書ページ・参考文献】 ・教科書会社の工夫・改善点→各社の全ページ ・理科の学び方、使い方→各学年のＰ4～5（東京書籍、大日本図書） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○家でしっかりと植物を育てるための水くれや除草等を忘れないこと。 ○植物の成長を観察し、観察記録カードに記録すること。 ○新教科書の「教科書づくり」での工夫・改善点を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ５０分
	第６回	１.教育実習をふり返って ２.教員採用試験等に向けて 【key words】 教育実習、教育実習の発表の仕方、教員採用一次試験、対策 【授業概要】 ①教育実習の「成果や課題」等をまとめ、仲間と私に発表するための目的・方法を確認する。 ②教員採用試験に関するアンケートに答える。 ③一次試験（教職教養・一般・専門教養）の対策を考えながら学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 一次試験に関する記述のある各種Ｗｅｂページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見て、カードに記録すること。 ○一次試験（教職教養・一般・専門教養）のための勉強を行う。 ○観察記録カードを次時に提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分

第７回　１.二次試験に向けて
【key words】
個人面接、集団面接
【授業概要】
①個人面接
　○事前に、定番と想定外の質問を考える。
　○３人（面接官、受験生、観察官）のグループになり面接を体験し、改善点等を論議する。
②集団面接
　○私が面接官になって質問する。面接をしていないグループは観察し、終了後助言する。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○個人・集団面接の練習で学んだことを復習する
○教育実習の概要の発表に向け、プレゼン資料を作成すること。
【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第８回　１.教育実習のプレゼンテーション
【key words】
教育実習の発表、発表の評価
【授業概要】
①順番に発表する（１人１０分）。
②発表者に対する評価を評価カードに記入する（自分のプレゼンは自分で自己評価する）。
③質疑応答（１人２分）。
　○発表者の「よかったところ、参考になったこと、改善点」を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
特になし
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○教育実習のプレゼン内容でよかったところ等を確認し、自分のものにしておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第９回　１.教育実習のプレゼンテーション(続き)　２.二次試験に向けて　３.観察記録カードについて
【key words】
教育実習の発表、発表の評価、面接試験対策、論文・作文対策、観察記録カードの改善
【授業概要】
①教育実習プレゼン（続き）
②面接試験、論文・作文について
　○資料（面接試験を受けるにあたっての重要ポイント、基本的な小論文・論作文の書き方）で学ぶ。
③提出された、みんなの観察記録カードを見て
　○今後の「観察記録カードの書き方」の改善すべき点を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
面接及び論作文に関する記述のある各種Ｗｅｂページ、３年の新教科書：Ｐ160（東書）、Ｐ18～23(大日本)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○観察記録カードの改善すべき点を学んだので、今後はそれに即してカードを書くこと。
○面接試験や論文・作文対策の復習をしっかりと行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第１０回　１.群馬自然史博物館での学外施設学習（前半）
【key words】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、博物館の歴史と概要
【授業概要】
①博物館の歴史と概要を学ぶ。
②化石のレプリカor海藻ハーバリウム等を作る。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説(Ｐ１02～１03)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１１回　２.群馬自然史博物館での学外施設学習（後半）
【key words】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、バックヤード見学
【授業概要】
①バックヤードを見学し説明を受ける。
②チャレンジノートを使って館内を見学しながら、教師（引率者）の視点で学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説(Ｐ１02～１03)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１２回　１.ぐんま昆虫の森での学外施設学習（前半）
【key words】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、野外観察の仕方、虫取り体験
【授業概要】
①野外観察の仕方を実際に体験したり説明を受けたりする。

②虫取り体験をする。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説（Ｐ102～103）

【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１３回　２.ぐんま昆虫の森での学外施設学習（後半）
【key words】
学外施設学習、学外施設との連携・活用、バックヤード見学
【授業概要】
①バックヤードを見学し説明を受ける。
②館内を見学して、教師（引率者）の視点で展示内容を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説（Ｐ１02～１03）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○学外体験学習レポートを作成し、後期講義の初日に提出すること。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分

第１４回　１．学外施設での体験研修から　２．理科を学ぶ意義・理由について、考えてみよう！
【key words】
学外施設での体験研修、学外施設の具体的な活用方法、学外施設利用の課題と対策、理科を学ぶ意義・理由
【授業概要】
①学外施設で学んだことを発表する。
②学外施設との連携・活用、具体的な活用方法、課題とその対策について考える。
③「理科をなぜ学ぶ必要があるのか」について考える。
【教科書ページ・参考文献】
「学外施設との連携・活用」に関係する教科書のページ、学習指導要領・解説（Ｐ１02～１03）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○他教科を学ぶ意義・理由についても考え、自分なりの考え・答えをしっかりともってお　くこと。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分

第１５回　1.理科（小・中・高）の内容構成を確認してみよう！　2.ものづくりに挑戦してみよう！
【key words】
小学校の内容区分、理科（小・中・高）の内容構成、小・中・高校の内容の系統、ものづくり、ものづくりの大切さ
【授業概要】
①「小学校の内容区分、小・中学校の内容構成、小・中・高校の内容の系統」を学ぶ。
②各学年のものづくりの単元を探す。ものづくりの大切さを学ぶ。作ってみたいおもちゃ等を決める。必要な材料等を考える。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説（Ｐ１～29、Ｐ118～129）、３～６年の教科書のものづくり単元
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○自分が作るおもちゃに必要な材料を次時までに用意すること。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第１６回　1.実際にものづくりに挑戦しよう！
【key words】
ものづくり、ものづくりのための準備・材料、ものづくり報告書、作品評価カード
【授業概要】
①「ものづくり報告書」や「作品評価カード」の説明を受ける。
②実際にものづくりを行う。
③自分の作品をみんなに披露する。
④作品評価カードで評価する。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領・解説（Ｐ１～29、Ｐ118～129）、３～６年の教科書のものづくり単元
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○時間内に作品が完成しなかった場合は、次の講義までに完成させておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１７回　1.小学校教師が苦手と感じている分野の克服法を考えよう！
【key words】
指導が苦手な理科の分野、高学年のエネルギー分野の内容、指導が苦手な分野の克服法
【授業概要】
①小学校教師が苦手だと感じている指導分野を知る。
②苦手な、高学年のエネルギー分野の内容を確認する。
③理科指導で不安に感じている分野の克服法を考える。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー分野、学習指導要領・解説（Ｐ６１～93）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○植物の面倒を見て、カードに記録すること。
○模擬授業をする単元を決め、どんな授業にするか、構想を練っておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
１２０分

第１８回　1.実際に授業を構想し、模擬授業に挑戦しよう！
【key words】

		模擬授業、５・６年のエネルギー分野、素案づくり 【授業概要】 ①５・６年のエネルギー・地球分野で模擬授業にチャレンジする。 ②どの分野のどの単元にするか、考える。 ③実際に授業を構想し、素案づくりを始める。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー分野、学習指導要領・解説（Ｐ６１～93） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見て、カードに記録すること。 ○観察記録カードを次回持ってくること。 ○模擬授業をする単元を決め、どんな授業にするか、構想を練っておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第１９回	１.私の模擬授業を体験しよう！ ２.「優れた授業を行うための１０のチェックリスト」（私の発案）を学ぼう！ 【key words】 模擬授業、優れた授業を行うための１０のチェックリスト、燃焼の仕組み 【授業概要】 ①Ａ区分の（１）燃焼の仕組み（６年）の模擬授業を受ける。 ②「優れた授業を行うためにはどうしたらよいか」を考える。 ③「優れた授業を行うための１０のチェックリスト」の説明や解説を聞きながら、自分のストロングポイントとウィークポイントを考える。 【教科書ページ・参考文献】 ６年の旧教科書Ｐ12～31(東書)、Ｐ10～27（大日本)、学習指導要領・解説(Ｐ75～78) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見て、カードに記録すること。 ○模擬授業と講義を参考に、自分の模擬授業をどうするかを考え、学習指導案を完成させ　ること。 ○学習指導案を、次回人数分印刷して持ってくること。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
	第２０回	１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ１)！ 【key words】 模擬授業、授業説明、授業検討会 【授業概要】 ①模擬授業の行い方、受け方を確認する。 ②模擬授業を行う。授業後、授業説明を行う。 ③授業検討会を行い、その内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー分野 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○植物の面倒を見てカードに記録すること。 ○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。 ○学習指導案を、次回人数分印刷して持ってくること。 【予習復習に必要な想定時間】 １００分
	第２１回	１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ２)！ 【key words】 模擬授業、授業説明、授業検討会 【授業概要】 ①模擬授業を行う。授業後、授業説明を行う。 ②授業検討会を行い、その内容を発表する。 【教科書ページ・参考文献】 ５・６年の教科書のエネルギー分野 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。 ○学習指導案を、次回人数分印刷して持ってくること。 【予習復習に必要な想定時間】 １００分
	第２２回	１.ぐんま天文台での学外施設学習（前半） 【key words】 天文台の役割・仕事、ぐんま天文台の概要、天体観測、星、太陽系、惑星、恒星、銀河、宇宙 【授業概要】 ①ぐんま天文台の概要の説明を受ける。 ②天体観測の仕方を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ３～６年の教科書の地球分野 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○学外体験学習レポートを書き、次回提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分
	第２３回	２．ぐんま天文台での学外施設学習（後半） 【key words】 天体望遠鏡の使い方、天体観測、惑星、恒星、星座 【授業概要】 ①天体望遠鏡の使い方を学び、実際に観測する。 ②施設（バックヤードを含む）を見学し説明を受ける。 【教科書ページ・参考文献】 ３～６年の教科書の地球分野 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○学外体験学習レポートを書き、次回提出すること。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分

第２４回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ３)！
【key words】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業を行う。授業後、授業説明を行う。
②授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。
○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第２５回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ４)！
【key words】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業を行う。授業後、授業説明を行う。
②授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。
○学習指導案（略案）を、次回人数分印刷して持ってくること。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第２６回　１.模擬授業で授業力の向上をめざそう(Ｎｏ５)！
【key words】
模擬授業、授業説明、授業検討会
【授業概要】
①模擬授業を行う。授業後、授業説明を行う。
②授業検討会を行い、その内容を発表する。
【教科書ページ・参考文献】
５・６年の教科書のエネルギー分野
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○仲間の模擬授業の成果と課題を自分のものにするため、ふり返り復習しておくこと。
○学習指導案を、次回人数分印刷して持ってくること。
【予習復習に必要な想定時間】
１００分

第２７回　１.なぜ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ１）！
【key words】
水溶液の性質、なぜ解き、指導力向上
【授業概要】
①６年「水溶液の性質」を題材に、「なぜ解きの面白さ」を味わいながら、「指導力のさ　らなるアップ」をめざす。
　○６種類の無色・透明な水溶液のどれが何の水溶液なのかを３人で手順と方法を考える。
　○教科書は、考えがあって独自の展開で学習を組み立てている。なぜそのような展開に　しているのかを考える。
【教科書ページ・参考文献】
６年の旧教科書(Ｐ168～187＜東書＞、Ｐ104～123＜大日本＞)、学習指導要領・解説(Ｐ78～80)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○６種類の水溶液のどれが何の水溶液なのかを調べるための方策を、班員で考えまとめておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分

第２８回　１.なぜ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ２）！
【key words】
水溶液の性質、なぜ解き、実験計画、実験、結果・結論、まとめと発表
【授業概要】
①自分たちが立てた実験計画に従って、実験を行う。
②実験結果の発表の仕方を考える。
③実際に発表する。評価カードで他班を評価する。
【教科書ページ・参考文献】
６年の旧教科書(Ｐ146～165＜東書＞、Ｐ94～111＜大日本＞)、学習指導要領・解説(Ｐ78～80)
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○発表の準備が終わらなかった班は、次時までに仕上げておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
４０分

第２９回　１.なぜ解きを楽しみながら、指導の力量をアップさせよう（Ｎｏ３）！　２.後期定期試験に向けて
【key words】
水溶液の性質、なぜ解き、教科書での展開、指導力向上
【授業概要】
①実験結果を班ごとに発表する。
②教科書は、考えがあって独自の展開で学習を組み立てている。なぜそのような展開にし　ているのかを考える。
　○自分たちで取り組んだ方法と教科書の展開を比較する。
③教科書の展開の仕方がわかった時点で、そのよさと課題を考える。
④後期定期試験に向けて勉強しておくべきことや留意点等の説明を聞くとともに、聞きた　いことがあれば質問する。
【教科書ページ・参考文献】

	６年の新教科書(Ｐ168～187＜東書＞、Ｐ104～123＜大日本＞)、学習指導要領・解説(Ｐ78～80) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○教科書の授業展開と自分たちの方法を比較し、それぞれのよさと課題を明らかにしておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 ４０分 第３０回　１.「理科（科学）のオモシロ実験」を体験しよう！ ２.１年間の授業をふり返ろう！ 【key words】 オモシロ実験体験、ふり返り、自身の成長と反省、観察記録カードの評価 【授業概要】 ①1年間の理科教育法のまとめとして、「科学の楽しさ・おもしろさ」をさらに体験する。 ○海ほたる(人工イクラ)を作る。 ②１年間講義を受けて、自分が成長したところと課題をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 ScienceLab 冨田塾(http://www.s-lab-tomita.com/) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○1年間で学んだことをワークシートや資料でふり返るとともに、しっかりと復習し、後期試験に備えること。 【予習復習に必要な想定時間】 １２０分
受講生に関わる情報および受講のルール	１.小学校教諭、保育士等、教職を目指す者としての自覚をもち講義に臨むこと。 ２.各課題に対し、自らの考えをしっかりともち積極的に意見を発表するとともに、周りの意見や考えに　謙虚に耳を傾けること。 ３.振り返りシートに、講義の評価、内容の理解、質問、感想等を毎回明記し、提出すること。 ４.毎回配布されるワークシートについては、復習を行うとともにきちんと保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	ふり返りシート・その他（ワークシート）
授業外時間にかかわる情報	・理科（科学）や教育の今日的な課題等に関するテレビ番組やニュース、新聞記事、書籍、ネット情報　に触れる習慣を身に付けておくこと。 ・普段の生活の中で、身の回りの動植物や自然に関心をもち、自ら体験しようとする意欲と習慣を身に　付けること。
オフィスアワー	・質問・要望等は「振り返りシート」に記入する。次回、講師がワークシートで取り上げコメントする。 ・講義後の２０分は対応可能。また、メールでの質疑は随時受け付ける。
評価方法	学期末試験（５０％）、報告書や各種学習カードの内容、プレゼンテーション（３０％）、 授業への取り組み（授業中やグループワーク等での取り組み状況、意見発表、ふり返りシート等の記述内容）（２０％）
教科書	小学校学習指導要領（H29年告示)解説 理科編、小学校理科教科書（東京書籍発行「新しい理科」、大日本図書「たのしい理科」）
参考書	・講義の中で、必要性を感じたときに紹介する。 ・文部科学省ホームページ、国立教育政策研究所ホームページ等、理科(科学)関連のＷｅｂサイトを時々閲覧すること。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ３７年間の義務教育での実務経験｛小学校（５年）、中学校（１４年）、指導主事（６年）、管理職（１２年）｝及び青少年とその関係者の悩み事相談（３年）を活かし、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭として必要とされる知識・技能、授業・学級経営・生徒指導等に関する的確で優れた指導力を身に付けるための方策について講義する。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ・プレゼンテーションソフトを使用しての講義 ・学外施設体験学習（群馬自然史博物館、ぐんま昆虫の森、ぐんま天文台）

	・実験体験学習 ・模擬授業体験学習

講義科目名称：　小学校教科教育法（生活）　　授業コード：S5641

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 児童（1学年・2学年）が身近な人々・自然・社会とのかかわりに関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけることができるための実践的・体験的学習を考案し、実施することができる。その際、日本独自の自然感情に基づく文化についても体得する。 【到達目標】 １）　児童が体験・実践・共同学習をとおして学ぶために効果的なワークシートを作成することができる。 ２）　児童の様々な発語をすくい上げながら授業を展開することができる。 ３）　幼児教育からの接続を意識するとともに、３年生以降の学習への興味につなげる内容を工夫できる。
授業の概要	生活科は、児童が体験や活動を通して自分自身と身近な自然や社会とのかかわりについて学ぶ教科であるため、教師は児童の気づきを育て、それを知的なものとして扱っていかねばならない。そこで実践研究においては、ワークシートに基づき実践体験を行いながら、対象領域を習熟する。また、課題研究においては、実践したことがらをもとに、指導計画を考案し検討する。さらに校外での活動を随時取り入れ、観察力や教員としての注意力を培う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス　（生活科の目標　・生活科の内容） 【key words】 人・社会とのかかわり　自然とのかかわり　自分自身　家族 【授業概要】 生活科の目標について示すとともに、内容（９項目）について詳説する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：『小学校学習指導要領解説生活編』を概観しておく。 復習：配布された資料をよく読み、内容をつかむ。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	実践研究　：　春の景色 【key words】 春の景色　スケッチ 【授業概要】 四季の変化を理解するために、適する場所（定点）を選んで景色をスケッチする。各季節とも同じ景色を描くため、変化がよくわかる場所を選ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

		配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	実践研究　：　植物の栽培と観察（植物の栽培に必要な材料・物品を準備し、実施する）〈開始〉 【key words】 種　土　水やり 【授業概要】 各グループで用意した苗・種と栽培用品を用いて植えつけ・種まきを行う。以後、受講生同士で登板を決めて水やり・手入れを行う。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：栽培に必要な材料・物品をグループ毎に持参する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	実践研究　：　春を探そう（植物） 【key words】 春の植物 【授業概要】 春の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	実践研究　：　春を探そう（生き物） 【key words】 春の生き物 【授業概要】 春になると現れたり、特に春に特徴のある生き物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	実践研究　：　生きものの採集と飼育・観察（学校周辺に生息している生きものについて調べる） 【key words】 春の生き物　鳥　魚　昆虫 【授業概要】 学校周辺に生息している生き物（昆虫）を捕えて調べ、特徴をワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	実践研究　：　植物の栽培と観察 【key words】 発芽　子葉　本葉　開花　水やり　日光 【授業概要】 第３回の授業で種をまいた植物の様子を観察してスケッチし、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	実践研究　：　夏の景色 【key words】 夏の景色　春の景色 【授業概要】 夏の景色をスケッチし（春にスケッチしたのと同じ場所）、ワークシートに記入する。そして、既に描いた春の景色と比較する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第９回	実践研究　：　夏を探そう（植物） 【key words】 夏の植物　春の植物の様子との違い 【授業概要】 夏の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	実践研究　：　夏を探そう（生き物） 【key words】 夏の生き物 【授業概要】 夏に現れたり、夏に特徴があらわれる生き物を探して、スケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	課題研究　：　家族の生活について考えよう（「自分の家族」「家族の中の自分」について気づかせる方法を考える） 【key words】 家族　日常生活　役割（お手伝い） 【授業概要】 「自分の家族」「家族の一員としての自分」に気づかせる方法について話し合い、発表する。 ≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	課題研究　：　自分を取り巻く環境について考えよう 【key words】 家族　先生　友だち　お世話になっている人たち　地域の人々 【授業概要】 学校・地域・自分の活動場所などでお世話になっている人たちを正しく理解し、感謝の気持ちを持つことができるための教育方法について話し合い、発表する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	実践研究　：　地域（学校）マップを作ろう　（調査・計画） 【key words】 通学路　公共の施設　お店　自然 【授業概要】 本学に通ってくる小学生を想定し、学校周辺の生活に関連するお店や公共の施設などを取り入れたマップを作成する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	実践研究　：　地域（学校）マップを作ろう　（製作） 【key words】 通学路　公共の施設　お店　自然 【授業概要】 本学に通ってくる小学生を想定し、学校周辺の生活に関連するお店や公共の施設などを取り入れたマップを作成する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	実践研究　：　植物の栽培と観察のまとめ 【key words】 観察記録 【授業概要】 今まで作成してきた観察記録を集約・検討し、気づいたことや授業づくりのポイントなどを発表し合う。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生の観察記録にコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　生活科の指導計画（指導計画作成の要点と配慮事項・学習の基本課程・単元構成・年間計画等）
【key words】
生活科の特質　配慮事項　指導計画
【授業概要】
指導計画作成の要点と配慮事項・学習の進め方・年間計画と単元計画・評価の観点などについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説生活編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：配布資料を熟読し、内容をしっかり理解すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　実践研究　：　不要になったものを使って遊びの道具を作ろう　（製作）
【key words】
不用品（ペットボトル・牛乳パック・空き箱・段ボールなど）
【授業概要】
生活の中で生じる不用品を用いて大きなおもちゃなどを共同で作る。　≪グループ学習≫

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：製作に必要な材料と道具を持ってくる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　実践研究　：　不要になったものを使って遊びの道具を作ろう　（実践）
【key words】
遊び　工夫
【授業概要】
前回作った大きなおもちゃを使って遊んでみる。他グループが製作したもので遊んだり、新しいあそび方を考える。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：製作したおもちゃの作り方（ワークシート）をまとめる（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　実践研究　：　秋を探そう（植物）
【key words】
秋の風景　秋の植物　秋の生き物のようす
【授業概要】
秋の植物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
日本の秋の自然の情景を体感する。秋の実や葉などを集める。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　実践研究　：　秋を探そう（生き物）
【key words】
秋の風景　秋の生き物　「秋をみつけたよ日記」
【授業概要】
秋に特徴がある生き物を探してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。また、日本の秋の自然と風物を体感する。「秋をみつけたよ日記」を書く。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシート・「秋をみつけたよ日記」にコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　実践研究　：　秋の景色
【key words】
秋の風景
【授業概要】
秋の景色をスケッチし（春・夏にスケッチしたのと同じ場所）、ワークシートに記入する。そして、既に描いた春・夏の景色と比較する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　実践研究　：　秋の植物や実を使った製作
【key words】
木の葉　枝　木の実
【授業概要】
第19回「秋を探そう」で集めた自然の産物を使って、おもちゃ・生活用品・アクセサリーなどを作る。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：第19回の授業で見つけた材料と、製作に必要なものを持ってくる。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　実践研究　：　冬の植物・生きものを探そう
【key words】
冬の植物　冬の生き物　冬の気象現象
【授業概要】
冬に咲く花や実などの植物、冬の生き物の様子・風物などを観察してスケッチするとともに調査・研究を行い、ワークシートに記入する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆・防寒対策をすること。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　課題研究　：　学校生活を楽しく有意義に過ごすための学習指導を考案する
【key words】
学校　先生　友だち　学校を支えている人々
【授業概要】
学校生活を楽しく有意義に過ごすとともに学校を支えている人々や友だちについて分かるための学習指導を考案する。　≪模擬授業≫
模擬授業終了後、ディスカッションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　課題研究　：　植物の栽培についての学習指導を考案する
【key words】
植物　栽培　変化　成長
【授業概要】
植物の栽培についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫
模擬授業終了後、ディスカッションを行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　課題研究　：　動物の飼育についての学習指導を考案する
【key words】
生き物　飼育　変化　成長　生命
【授業概要】
生き物の飼育についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫
模擬授業終了後、ディスカッションを行う。
年間を通じて飼うことができる生き物を選んで、授業を展開する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　実践研究　：　冬の景色　冬の暮らし
【key words】
冬の景色　スケッチ
【授業概要】
冬の景色をスケッチし、既に描いた春・夏・秋の景色と比較する。また、冬ならではの暮らし方・遊び・行事について検討する。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。
準備：クリップボード・クレヨン・色鉛筆
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２８回　課題研究　：　季節の変化と生活についての学習指導を考案する（春夏秋冬のスケッチをもとに）
【key words】

	四季の変化　植物　風物　文化　日本人の美意識 【授業概要】 季節の変化と生活についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説生活編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　課題研究　：　家庭と生活・地域と生活についての学習指導を考案する 【key words】 家族　自分の役割　　地域の人々と暮らし　安全 【授業概要】 家庭と生活・地域と生活について学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（次回提出）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　課題研究　：　公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考案する。　まとめ 【key words】 公共施設　施設を支えている人々　安全　自分の成長　友だち 【授業概要】 公共物や公共施設・自分の成長についての学習指導を考案する。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く（指定された提出日）。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	実践活動を中心に据えている科目であるため、常に積極的に活動し、意欲的に調べること。毎回ワークシートを提出するため、必ず時間内に仕上げること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	植物の栽培や製作などの前には、各自で材料を準備すること。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	実践活動・発表（５０％）、提出物（５０％）・・・全ての提出物は、期限が過ぎたものについては受け付けない。また、返却されたワークシートや配布されたプリントは整理し、1冊のファイルにまとめること（指定された期日に提出）。
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領生活編』 『 どきどきわくわく あたらしいせいかつ』上・『あしたへジャンプ　新しい生活』下、東京書籍、令和2年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（音楽）　　授業コード：S5651

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
平野　恵美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 小学校音楽科の授業を実施するために求められる知識や能力を培い、それらを基に学習指導案を作成し授業実践できることを目的とする。 【到達目標】 ①学習指導要領に基づく小学校音楽科のカリキュラム構造と内容を理解する。 ②「表現（歌唱・器楽・音楽づくり）」・「鑑賞」指導のために必要な知識・技能を習得する。 ③学習指導案の作成や模擬授業を通して実践的指導力を身につける。
授業の概要	小学校音楽科の理論的内容を理解し、的確な教材研究や具体的な指導法を演習を通して学んでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	前期オリエンテーション（到達目標と概要、授業の進め方・課題・評価方法の説明等）　学習指導要領について（音楽科の目標） 【key words】 シラバス、学習指導案、模擬授業、成績評価、学習指導要領 【授業概要】 この授業の目的や到達目標、授業概要、授業計画、評価方法について理解する。 また、学習指導要領における音楽科の目標について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ８～１３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストを購入し、Ｐ８～１３を読んでおく。 ソプラノリコーダーを継続的に使用するので、全員が用意し毎回持参すること。また、鍵盤ハーモニカを持っている人は指定した日に持ってこられるよう用意しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	音楽科の指導内容 【key words】 学習指導要領、児童の発達特性、2つの領域と3つの分野 【授業概要】 学習指導要領における音楽科の各学年の目標について学ぶ。また、音楽科の指導内容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１４～２６ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１４～２６を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	音楽科の指導計画と評価 【key words】 教育計画、教育課程、題材、目標と指導内容、学習指導案、音楽学習の評価

【授業概要】
教育の目的を確認し、学習指導計画の必要性や指導内容及び題材の構成、学習指導案の作成について学ぶ。また、教育評価の意義と目的、音楽学習の評価の観点と評価方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ２７～４２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ２７～４２を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
70分

第４回　授業実践にあたって
【key words】
発達特性、学習特性、教材研究、主体的・対話的で深い学び
【授業概要】
児童期の発達的特性と音楽的発達の特性を踏まえた音楽学習について学ぶ。
また、学習指導要領の重要なキーワードである「主体的・対話的で深い学び」に基づいた音楽科の授業実践について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ４４～５１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ４４～５１を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　歌唱の学習と指導（１）「歌唱」の意義と留意点について
【key words】
範唱、発声、合唱、楽曲の分析、伴奏、歌う喜び
【授業概要】
音楽科における歌唱の意義と留意点について学ぶ。また、教師に必要な歌唱指導のスキルについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５２～５３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ５２～５３を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　歌唱の学習と指導（２）歌唱の指導法について
【key words】
自然で無理のない歌い方、発声、姿勢、呼吸、発音、変声期
【授業概要】
学習指導要領における「自然で無理のない歌い方」を指導するために、声の仕組みと発声、学年に応じた発声指導について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５４～５５，６０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ５４～５５，６０を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第７回　歌唱の学習と指導（３）歌唱教材研究について
【key words】
共通教材、分析と解釈、移動ド唱法
【授業概要】
歌唱共通教材を学習する意義や、歌唱教材の研究の方法と指導方法について学ぶ。
また、移動ド唱法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ５６～５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ５６～５９を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　器楽の学習と指導（１）「器楽」の意義と留意点について、楽器の奏法と指導法について①
【key words】
音楽表現、楽器との出合い、打楽器、和楽器
【授業概要】
音楽科における器楽学習の意義と留意点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６１～６８，Ｐ７４～７９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Ｐ６１～６８，Ｐ７４～７９を読んでおく。
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　器楽の学習と指導（２）楽器の奏法と指導法について②
【key words】
リコーダー、美しい音、タンギング、指づかい
【授業概要】
リコーダーの種類や奏法、指導法について学ぶ。3年生等の担任として音楽を担当した場合に備え、ソプラノリコーダーについての基礎的な知識や初心者に対しての指導法などを詳しく学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ６９～７１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
Ｐ６９～７１を読んでおく。
ソプラノリコーダーを忘れずに持ってくる。
学習したソプラノリコーダーの取り扱い方や奏法を復習し、練習しておく。
【予習復習に必要な想定時間】

50分

第１０回　器楽の学習と指導（３）器楽教材研究について

【key words】
鍵盤ハーモニカ、美しい音、タンギング、指づかい

【授業概要】
鍵盤ハーモニカの種類や奏法、指導法について学ぶ。1年生等の担任として音楽を担当した場合に備え、鍵盤ハーモニカについての基礎的な知識や初心者に対しての指導法などを詳しく学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ７２～７３，Ｐ８０～８３

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ７２～７３，Ｐ８０～８３を読んでおく。
鍵盤ハーモニカを持っている人は、必ず持ってくる。
学習した鍵盤ハーモニカの取り扱い方や奏法を復習し、練習しておく。

【予習復習に必要な想定時間】
50分

第１１回　音楽づくりの学習と指導（１）「音楽づくり」の意義と留意点について

【key words】
音遊び、即興的な表現、〔共通事項〕

【授業概要】
音楽づくりの特徴や〔共通事項〕との関係を理解し、音楽科における音楽づくりの意義と留意点について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８３～８４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ８３～８４を読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
40分

第１２回　音楽づくりの学習と指導（２）音楽づくりの指導法について

【key words】
学習指導要領、音遊び、即興的な表現

【授業概要】
学習指導要領における音楽づくりの各学年の指導内容とその方法について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ８５～９２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ８５～９２を読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
40分

第１３回　鑑賞の学習と指導（１）「鑑賞」の意義と留意点について

【key words】
音楽の聴取、知覚・感受

【授業概要】
音楽鑑賞の特徴を理解し、音楽科における鑑賞指導の意義と留意点について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ９３～９４

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ９３～９４を読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
40分

第１４回　鑑賞の学習と指導（２）鑑賞の指導法、教材研究について

【key words】
指導のステップ、ねらいの焦点化、楽しく聴く活動

【授業概要】
鑑賞指導の組み立て方と各学年の指導法、鑑賞の授業におけるトラブルシューティングについて学ぶ。また、鑑賞教材選択の観点と教材研究について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ９５～１０７

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ９５～１０７を読んでおく。

【予習復習に必要な想定時間】
40分

第１５回　表現と鑑賞との関わり

【key words】
指導の関連、〔共通事項〕

【授業概要】
表現と鑑賞との関連の意義と、〔共通事項〕を活用した実践例について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１０８～１１２

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ１０８～１１２を読んでおく。
今までの学習内容をよく復習して前期試験に臨むこと。

【予習復習に必要な想定時間】
60分

第１６回　後期オリエンテーション（後期の授業概要、授業の進め方・課題・評価方法の説明等）　学習指導案の作成について（１）題材・目標の設定

【key words】
学習指導案、模擬授業、学習指導要領、目標、題材・教材

【授業概要】
後期の授業内容と進め方について理解する。模擬授業の学習の流れや日程を確認する。また、学習指導要領をもとにしながら、学習指導案の題材・目標の設定の仕方を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１

【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ３３～３５の内容を復習しておく。
この講義までに模擬授業で自分が担当する題材について、どんな授業ができるかいくつかの案を考えておく。授業で学んだことをもとに、学習指導案の作成を進めておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１７回　学習指導案の作成について（２）題材の指導と評価の計画
【key words】
題材の目標、題材観、児童観、学習指導要領、評価規準
【授業概要】
教材研究から、題材の指導をどのように進めていくか考え、学習指導案の題材、教材についての記述方法、また題材の評価規準の設定の仕方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で学んだことをもとに、学習指導案の作成を進めておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１８回　学習指導案の作成について（３）学習指導案作成演習
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、評価規準
【授業概要】
題材の目標、教材研究をもとに本時の展開を考え、学習指導案を作成する。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業で学んだことをもとに学習指導案を完成させ、次回の講義で全員提出する。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第１９回　音楽科と他教科との関連
【key words】
目標、活動内容、違いと共有点、カリキュラムマネジメント
【授業概要】
音楽科と他教科、総合的な学習の時間、特別活動との関連と、カリキュラムマネジメントについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ１１６～１２２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
テキストＰ１１６～１２２を読んでおく。
＊模擬授業の学習指導案提出締め切り日。
【予習復習に必要な想定時間】
40分

第２０回　学生による模擬授業（１）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２１回　学生による模擬授業（２）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２２回　学生による模擬授業（３）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】
学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。
【教科書ページ・参考文献】
Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第２３回　学生による模擬授業（４）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討
【key words】
題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応
【授業概要】

		学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２４回	学生による模擬授業（５）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応 【授業概要】 学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２５回	学生による模擬授業（６）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応 【授業概要】 学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２６回	学生による模擬授業（７）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応 【授業概要】 学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２７回	学生による模擬授業（８）学生が選択した題材の模擬授業及び授業検討 【key words】 題材の目標、めあて、学習内容、学習活動、発問、児童の反応 【授業概要】 学生による模擬授業と授業検討会を行うことにより実践的な力を養う。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ３３～３５，Ｐ２２７～２４１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 本時の模擬授業の授業者の学習指導案、資料をよく読み、模擬授業用ワークシートの事前記入欄を書いてくる。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２８回	校種間の連携と音楽科 【key words】 実態、連携、協働、共感、共有、学校段階等間の接続、学習指導要領 【授業概要】 音楽科における、地域と学校、幼稚園と小学校、小学校と中学校との連携について学ぶ。 また、特別支援教育における音楽教育について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２３～１２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１２３～１２７を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第２９回	日本の伝統音楽と諸外国の音楽 【key words】 音楽文化の多様性、異文化理解、教材化、学習指導要領 【授業概要】 日本の伝統音楽の定義や特徴を学び、指導の意義を理解する。また、自国の音楽文化の理解、異文化の理解等の観点から、諸外国の音楽を学ぶ意義を理解し、指導や教材化の方法等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１２８～１３１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１２８～１３１を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 40分
	第３０回	小学校における音楽科の指導法についてのまとめ

	【key words】 学習指導要領、生涯学習、著作権、ＩＣＴ 【授業概要】 音楽科と生涯学習、著作権、音楽科とＩＣＴについて学ぶ。 音楽科の課題、指導等、既習事項振り返りながら1年間の学習のまとめをする。 【教科書ページ・参考文献】 Ｐ１３２～１３４ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 テキストＰ１３２～１３４を読んでおく。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	教員免許取得に関わる講義であることをきちんと理解し、真剣に授業に臨むこと。 リコーダーの実習があるため、ソプラノリコーダーを各自用意し、授業へ毎回持ってくること。 予習、事前準備をしっかりして授業に臨むこと。 課題の提出期限は必ず守ること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	テキスト該当箇所の予習をすること。 歌唱共通教材に親しみ、日ごろから弾き歌いの練習をしておくこと。また、リコーダーの演奏技術向上のため、演習の復習を各自ですること。 様々な音楽に触れ、幅広く音楽に関わるよう心がけること。
オフィスアワー	授業終了後30分間は対応可能
評価方法	筆記試験（５０％）　学習指導案作成と模擬授業及び授業検討会への取り組み（４０％）　実技試験及びレポート課題（１０％）
教科書	「最新　初等科音楽教育法〔改訂版〕　小学校教員養成課程用」　音楽之友社
参考書	小学校学習指導要領解説音楽編　文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校での勤務経験あり。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　小学校教科教育法（家庭）　　授業コード：S5671

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 家庭科は、現在、そして未来の家庭での日常生活をより豊かに営むために設けられている教科であることを理解する。児童が、衣食住などに関する基本的な知識および基礎技能を、楽しく身につけられるよう工夫できる。また、身につけた知識と技能を発揮し、家族の一員として生活をより良くしようと積極的に取り組むための学習指導の工夫ができる。 【到達目標】 １）　実践的・体験的な授業を考案することができる。 ２）　「家庭生活と家族」「衣食住の生活」「消費生活と環境」について,それぞれの領域にまたがる総合的な考え方ができる。
授業の概要	家庭科は、実践学習をとおして問題解決のための思考学習を行うものである。この立場から、ワークシートに基づき実習や実験を行い、知識を確かなものとする。また、仕上げとして教材研究を行い、現代の家庭生活に適合したアイディア豊かな教材開発も行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	ガイダンス 【key words】 衣・食・住・経済（家計）　家庭生活　日常生活 【授業概要】 家庭科とは、より良い家庭生活を営むことを中心に据え、そのための衣・食・住・家庭経済における知識と技能を身につける教科であることを解説する。また、家庭科教育の意義について、家庭科の歴史・家庭科教育の性格・家庭科と他領域との関係・今日の児童と家庭科教育の視点から説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：『小学校学習指導要領解説家庭編』を概観しておくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	家庭科教育の目標 【key words】 家庭　地域社会　現代家族 【授業概要】 家庭科の学習内容（家庭生活と家族・日常の食事と調理の基礎・快適な住まい・身近な消費生活と環境）を現代家族や地域社会との関係でどのように学習させるかについて説明する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』

		配布資料：学習指導要領の要点 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習：配布資料を見ながら、家庭科教育のポイント（目標・内容）をつかんでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第３回	家庭生活と家族　：　家族の生活と役割しらべ 【key words】 家族の生活・家族の仕事・生活時間 【授業概要】 家族のメンバーはどのような日常生活を支える仕事（家事など）をしているかを考え、自分に出来ることを発見するための話し合いを行う。その後、児童の家庭生活の実態を考えながら、授業づくりのポイントについて発表し合う。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第４回	家庭生活と家族　：　ライフコースの作成 【key words】 ライフコース　ライフステージ　ライフサイクル 【授業概要】 ライフステージを念頭に置きながらライフコースを考え、家族のメンバーに思いを寄せる。また、老後の過ごし方についても検討し、人の一生について考える。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 6～9ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシート（ライフコース）にコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第５回	物や金銭の使い方と買い物　：　賢い消費者になるための工夫・環境への配慮 【key words】 買ったにもかかわらず使っていないもの　金銭　買い物　欲しいもの　必要なもの 【授業概要】 購入しても使っていないものについて何故使わないのか、何故買ったのかを考える。また、欲しいものがあったら、それは必要なものかどうかを再考することにより、賢い買い物のしかたを検討する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第６回	衣服への関心　：　衣服の形態・素材の観察 【key words】 TPO　素材　形態　色彩　暖かさ　涼しさ 【授業概要】 衣服には季節や場に合った形態・色・素材などがあることを、それぞれが持ち寄った各種の衣服を検討することにより理解する。　≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 97～107ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：各自好きな衣服を持参する（多種多様なものが望ましい）。 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第７回	衣服への関心　：　洗濯に関する実験 【key words】 洗濯　洗剤 【授業概要】 手洗いで洗濯の実験を行う。「家庭科概論」で学んだ界面活性剤の作用を実践して理解する。 ≪グループ学習≫ 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 127～135ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備指示：「小学校教科教育生活」の植物栽培において使用した汚れた軍手（左右）を持参する。 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第８回	生活に役立つものの製作（計画） 【key words】 家族の生活　生活に役立つ小物　手縫い 【授業概要】 家族の生活に役立つ物を手縫いで製作する。家族の生活を考えながら計画を立て、製作を始める。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】

授業準備指示：裁縫道具・製作材料などを持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　生活に役立つものの製作（実践）
【key words】
家族の生活　生活に役立つ小物　手縫い
【授業概要】
家族の生活に役立つ物を手縫いで製作する。基礎縫いの技法を用いて製作し、作品を仕上げる。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：製作品（完成品）の作り方の手順や工夫をまとめる。
授業準備指示：裁縫道具・製作材料などを持参する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１０回　食事への関心　：　献立作り
【key words】
６つの基礎食品群　栄養　朝食の献立
【授業概要】
栄養のバランスを考えながら、簡単にできる朝食の献立をグループ毎に考える。その結果を発表し共有し合う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
58～63ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習：朝食にふさわしい献立を調べる（主食がパンの場合とご飯の場合の両方）。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１１回　簡単な調理　：　調理実習（計画）
【key words】
簡単な調理（ゆでる・いためる・炊く）　食材　買い物
【授業概要】
グループ毎に第10回で考えた献立の調理実習の計画を立てる。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：野菜・肉加工品・卵の値段を調べる。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１２回　簡単な調理　：　調理実習（実践）
【key words】
材料の洗い方　切り方　加熱　味付け　盛りつけ　準備と後片付け
【授業概要】
第11回で計画した内容を実践する。　≪グループ学習≫
また、各グループの作った料理を試食し合い、全体で反省会を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：調理実習用の身じたくを準備し、食材を購入する。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１３回　住まいへの関心　：　汚れ調べと清掃に関する実験
【key words】
汚れと場所　道具　用具
【授業概要】
どのような場所にどんな汚れがあるかを観察し、それらをきれいにするための実践活動・実験を行う。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：各家庭の清掃道具・用剤について調べる。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１４回　住まいへの関心　：　明るさ・風通し・暖かさ（涼しさ）に関する実験・実践
【key words】
明るさ　暖かさ（涼しさ）　風通し
【授業概要】
学内の各場所に行き、明るさ・暖かさ（涼しさ）・風の通りの違いなどを調べ、それらをもとに、どうすれば快適な環境を作れるかについて考える。　≪グループ学習≫
【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１５回　家庭生活の工夫　：　家族との団らんの工夫
【key words】
家族のメンバー　団らん　おやつ　お茶
【授業概要】
お茶を飲みながら家族と団らんするための工夫を考えるとともに、日本茶の正しい入れ方を実践する。

【教科書ページ・参考文献】
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：日本茶に合うお茶菓子を考え持参する。
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１６回　家庭科教育の特徴をふまえた学習指導①　：　指導の形態（一斉指導・グループ学習・個別学習など）
【key words】
一斉指導　グループ学習　個別学習
【授業概要】
家庭科は、それぞれ異なる家庭背景を持つ児童を対象に実践的・体験的な学習を行う教科である。「家庭科」の各領域における指導形態別の注意事項を説明する。
第21回以降に行う模擬授業の分担を決定する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：授業で説明した内容について、教科書（『小学校わたしたちの家庭科５・６』）の各領域・単元を見て確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１７回　家庭科教育の特徴をふまえた学習指導②　：　様々な学習指導の方法と効果的な領域
【key words】
教育方法　領域の複合
【授業概要】
さまざまな学習指導の方法と、それぞれがどの領域の学習に適しているかについて、具体例をあげて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
復習：授業で説明した内容について、教科書（『小学校わたしたちの家庭科５・６』）の各領域・単元を見て確認しておくこと。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１８回　家庭科教育の学習指導計画①　：　種類と形式・年間指導計画
【key words】
学習指導の種類　年間計画
【授業概要】
各領域の内容をどのように計画的に指導するか、また複合領域の組み合わせ方について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業の準備
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第１９回　家庭科教育の学習指導計画②　：　題材指導計画・時案
【key words】
題材指導計画　時案　実習・実践・実験
【授業概要】
各領域の指導計画の作成方法について解説する。
各領域において模擬授業を行うに際してのポイントを説明する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業の準備
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２０回　家庭科教育の評価　：　目的と対象・手順など
【key words】
自己評価　相互評価
【授業概要】
実践的・体験的学習を行い、かつ家庭背景がそれぞれ異なる児童の学習成果に対しての評価のあり方について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：学習指導要領の要点
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：模擬授業の準備
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２１回　実践研究（１）　：　衣生活についての実践的・体験的学習の指導例を考え、実施する。
【key words】
衣生活　暖かい（涼しい）着方　衣服の手入れ
【授業概要】
衣生活についての実践的・体験的学習の指導例を考え、実践する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫

【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　実践研究（２）　：　被服製作の基礎技能を楽しく身につけるための学習の指導例を考え、実施する。
【key words】
手縫い　ミシン縫い
【授業概要】
被服製作の基礎技能を楽しく身につけさせるための学習指導例を考え、実践する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。
授業準備指示：裁縫道具一式
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　実践研究（３）　：　調理に関する2年間を見通しての学習計画を立案する
【key words】
買い物　価格　ゆでる・いためる・炊く　栄養　食品群
【授業概要】
調理に関する２年間を見通しての学習計画を立案するとともに指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２４回　実践研究（４）　：　体験を通して調理の基礎技能を身につけるための学習指導例を考え、実施する。
【key words】
材料の切り方　加熱　味付け　盛り付け　衛生管理　手順
【授業概要】
調理の基礎技能を、体験を通して見につけさせるための学習指導を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２５回　実践研究（５）　：　住まいや住まい方について問題解決的な学習を行うための指導例を考え、実施する。
【key words】
暖かさ（涼しさ）　明るさ・温度・風通し・騒音　清掃　整理整頓
【授業概要】
住まいや住まい方について問題解決的な学習を行うための指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２６回　実践研究（６）　：　環境に配慮した生活の工夫について体験的学習の指導例を考え、実施する。
【key words】
リサイクル　ゴミの分別　買い物　地球環境
【授業概要】
環境に配慮した生活の工夫について、体験的学習の指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫
【教科書ページ・参考文献】
『小学校学習指導要領解説家庭編』
配布資料：ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２７回　実践研究（７）　：　家庭生活と家族の内容と、日常の食事・調理の基礎の内容とを関連づけた指導例を考え、実施する
【key words】
家族　だんらん　会食　仕事の分担（お手伝い）
【授業概要】

	家庭生活と家族の内容と、日常の食事と調理の基礎の内容とを関連づけた指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２８回　実践研究（８）　：　被服等の製作と、家庭生活と家族の内容を関連させた指導例を考え実施する 【key words】 手縫い　ミシン縫い　家族にとって便利な物　家族の生活 【授業概要】 布を用いた製作学習と、家庭生活と家族の内容を関連させた指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書く。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第２９回　実践研究（９）　：　身近な消費生活と環境について課題意識を持たせるための指導例を考え、実施する。 【key words】 地球環境　リサイクル（再利用）　ゴミの分別　賢い消費者　本当に必要なもの 【授業概要】 身近な消費生活と環境について、問題意識を持たせるための指導例を考え、実施する。その後、ディスカッションを行う。　≪模擬授業≫ 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：提出された他の学生のワークシートにコメントを書き提出。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第３０回　まとめ　：　衣・食・住・家庭経済（家計）の内容を盛り込んだ会食を企画し、実施する。 【key words】 テーブルセッティング　献立　調理　買い物　だんらん 【授業概要】 衣・食・住・家庭経済の内容を盛り込んだ会食を企画・実施する。 【教科書ページ・参考文献】 『小学校学習指導要領解説家庭編』 配布資料：ワークシート 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：１年分のワークシートを整理し、まとめる。 授業準備指示：調理実習の材料を購入する。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	実践活動が中心となる形態の授業なので、積極的に活動すること。ワークシート・製作品・実験レポートの提出が頻繁にあるので期限を厳守して提出するとともに、返却された提出物の管理もきちんと行うこと。また製作に関しては、教師となった際の提示見本とするつもりで作品を仕上げること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	各実習に際しては、各自で材料を準備すること。日々、日常生活に関する知識と技術を身につけるようこころがけること（食事作り・家庭生活に必要な買い物・洗濯・家庭内の整理整頓や清掃などを行うこと）。
オフィスアワー	金曜日　13：00～15：00
評価方法	実践活動・発表（50%）　提出物（50%）・・・全て期限までに提出しなかったものは受け付けない。また、返却されたワークシート・配布された印刷物等は1冊のファイルにまとめること（指定された日時に提出）。
教科書	文部科学省　『小学校学習指導要領家庭編』　／　ワークシートを配布 『わたしたちの家庭科５・６』開隆堂、令和2年
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　初等教育実習事前・事後指導　　授業コード：S5702

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4年次	1単位(90)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 教育実習の準備、実施、省察を行い、「実践的指導力の基礎」を身に付けることを目的とする。 【到達目標】 ①「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の詳細を理解することができる。 ②教育実習後の報告会を通して、教育実習の省察することができる。
授業の概要	1　現場での学習指導、生活指導、学級経営の実際について学ぶ。 2　模擬授業、授業研究等、自己課題について互いに学び合うことができる。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、教育実習の理解（実習の心構え、事務手続き、実習録のファイル作成・記入方法） 【key words】 教育実習の心構え、実習書類 【授業概要】 ①　実習の心構えについて、「実習へのガイドブック」を用いて理解する（特にＳＮＳ、体罰、守秘義務）。 ②　オリエンテーション日程の決定、実習校への提出書類、実習手続きを確実に行うことを理解する。 ③　教員採用試験の志望受験自治体、大学推薦希望有無及び希望自治体について決定し、志願書を書き始める。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」 ○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】実習録の記入できる箇所を書く。教採受験自治体の志願書の下書きをし、授業に臨む。 【復】教採志願書の清書をし、自治体に郵送または送信できるよう準備する。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第２回	教育実習の理解と手続き①（諸注意【特にSNS、体罰、守秘義務】、実習計画、事前打ち合わせ日の決定、実習録の記入１） 【key words】 教育実習の事務手続き、オリエンテーション、実習録 【授業概要】 ①　オリエンテーション内容の確認、実習計画書作成、誓約書等の実習手続きを確実に行う。 ②　教員採用試験の志願手続きを理解し、実際に書類を作成する。 ③　受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。 ④　実習校への送付書類の袋詰めを行い、送付する。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」

		○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】実習校の実態の詳細について調べ、授業に臨む。 【復】教育実習オリテン日時を決定し、実習録でさらに書ける箇所をきさいしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第３回	教育実習の理解と手続き②（参観授業、授業実践、研究授業の方法、三種の挨拶【職員室で、全校の前で、配属学級で】） 【key words】 実習録の記入、参観授業、授業実践、研究授業 【授業概要】 ①　学長先生、学部長先生による実習前の訓話・講話を聞く。 ②　授業実施時数、巡回指導、授業参観記録、お礼状の書き方を理解する。 ③　三種の挨拶（職員室で、全校児童の前で、配属学級の前で）について学ぶ。 ④　小論文の書き方の復習をする。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」 ○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を読み、授業に臨む。 【復】指示された小論文を仕上げ、次回、提出する。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第４回	教育実習の理解と手続き③（実習校の理解：事前に調べておき、実習録該当ページに記入する。） 【key words】 実習校の理解 【授業概要】 ①　指示された実習録の記載可能な頁の記入をする。（実習校の概況、教育実習の予定等） ②　ホームページ等を用い、実習校の理解、地域の理解を図る。 ③　受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は教員と共に提出書類を作成する。 ④　実習オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。 ⑤　ミニテストを受ける。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」 ○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】実習校の地域の実態を調べる。教員養成セミナーの指示された頁を学習し、授業に臨む。 【復】受験自治体合格に向けての学修を行っておく。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第５回	教育実習の理解と手続き④（児童・先生方への対応、休み時間や給食の対応、事前打ち合わせの報告１） 【key words】 教育実習の心得、コミュニケーション力 【授業概要】 ①　「実習へのガイドブック」を活用し、教育実習の心得について学ぶ。 ②　児童・先生方への対応、コミュニケーションについて学ぶ。 ③　教採の論文試験について理解する。 ④　受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は提出書類を作成する。 ⑤　実習オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」 ○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を読み、授業に臨む。 【復】教採論文問題を書き、教員の指導を受ける。また、面接問題の回答を「面接ノート」にまとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 180分
	第６回	教育実習の理解と手続き⑤（実習録の記入２、お礼状の書き方、事前打ち合わせの報告２） 【key words】 教育実習の心得、実習録、お礼状 【授業概要】 ①　実習録の６頁以降の書き方を学ぶ。 ②　お礼状の書き方を学ぶ。 ②　受験自治体の過去問題を解く。大学推薦該当者は提出書類を作成する。 ④　実習オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。 【教科書ページ・参考文献】 ○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」 ○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を読み、授業に臨む。 【復】受験自治体の過去問題を解いておく。 【予習復習に必要な想定時間】 90分
	第７回	教育実習の理解と手続き⑥（褒め方・叱り方、朝の会・帰りの会、事前打ち合わせの報告３）

【key words】
実習トラブル、朝の会・帰りの会
【授業概要】
①　実習におけるトラブルの対応について学ぶ。
②　教員採用試験面接試験の問題（例　学校での様々なトラブル）について考える。
③　受験自治体の過去問題を解く。
④　実習オリエンテーションの報告をクラス全体の前で行う。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】「実習へのガイドブック」の指示された頁を読み、授業に臨む。
【復】受験自治体の過去問題を解いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第８回　教育実習の理解と手続き⑦（トラブルの対応、特別支援教育、事前打ち合わせの報告４）
【key words】
褒め方・叱り方

【授業概要】
①　実習を行った先輩の褒め方・叱り方から学ぶ。
②　実際に褒め方・叱り方のロールプレイングを行い、よい点・課題を自覚する。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】児童の褒め方・叱り方について考え、授業に臨む。
【復】面接ノートをまとめておく。
【予習復習に必要な想定時間】
90分

第９回　教育実習報告会その１（教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと）
【key words】
報告会、自己省察
【授業概要】
①　一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②　特に協議では、友達のよい実践を学んだり、問題点を全員で解決したりする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】報告会のパワーポイントスライドづくり、発表練習をし授業に臨む。
【復】受験自治体の過去問題を解いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１０回　教育実習報告会その２（教育実習でうまくいったこと、改善点、後輩に伝えたいこと）
【key words】
報告会、自己省察
【授業概要】
①　一人ずつ報告をし、全体で協議する。
②　特に協議では、友達のよい実践を学んだり、問題点を全員で解決したりする。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】報告会のパワーポイントスライドづくり、発表練習をし授業に臨む。
【復】受験自治体の過去問題を解いておく。お礼状を書き、実習校に送付（実習後１週間以内）する。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１１回　授業のまとめ、学期末試験
【key words】
自己省察、履修カルテ
【授業概要】
①　授業を振り返り、「履修カルテ」をまとめる。
②　学期末試験を受ける。
【教科書ページ・参考文献】
○群馬医療福祉大学「実習へのガイドブック」、「学習指導要領及び解説」
○時田詠子「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年、その他、講義中に随時紹介。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予】学期末試験の準備勉強をして授業に臨む。
【復】教員採用試験一次試験「受験報告書」を書き期日までにコピー２部を提出できるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
180分

第１２回　教育実習のため授業はなし
【key words】

【授業概要】

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１３回　教育実習のため授業はなし 【key words】 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　教育実習のため授業はなし 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１５回　教育実習のため授業はなし 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関する情報〕 ・学習することが多いので、シラバスを見て、予習・復習を行うこと。 ・本授業は、対面または遠隔とする。 〔受講のルール〕 ・対面授業で配布する資料の予備は保管しないので、欠席者は出席者からコピーをとること。 ・遠隔授業では、授業の数日前までには授業資料を送信するので、印刷または画面で見られるようにしておく。 ・遠隔授業では、不具合が生じないよう準備する。しかし、遠隔授業中、不具合が生じたらチャット等で担当教員に報告する。 ・シラバスを必ず確認し、積極的に授業に臨む。 ・欠席・遅刻・早退は担当教員及び教務課に必ず申し出る。 ・授業中の携帯電話の使用、居眠り、私語は厳禁とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード、Webポータル内のスレッドでのコメント（遠隔授業）
授業外時間にかかわる情報	①　教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。 ②　月３冊以上の読書をする。 ③　就職センターで、先輩の教員採用試験報告書を読んでおく。 ④　希望教採受験自治体の過去問題集を解いておく。 ⑤　月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	・教育実習報告会（30%）、ミニテスト（50%）、授業中への取り組み（20%）
教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任として20年間、教頭職を３年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、現場教員への学年・学級経営、初任者研修等の指導を行ってきた。また、教諭・教務主任・教頭として数多くの教育実習生や初任者を迎え指導助言してきた。 それらの経験を活かし、「実践的な指導力の基礎」を身に付けさせるため、理論と実践の融合を目指した指導を行う。

	アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 教育実習（小学校）　　授業コード：S5731

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
15日間	4年次	4単位(160)	初等教育コース・選択
担当教員			
時田　詠子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	〔授業の目的〕 　教育実習は、教職課程の総括的、実践的意義を持つ教育経験の場である。講義・演習を通して得た専門的知識・技能を活かし、実習に取り組むことにより、教育者としての資質・能力の向上を図ることを目的とする。 ［到達目標］ １　小学校の教育活動の場に臨み、子どもと直接触れ合い、実習指導教員の指導を受けながら、教育者に求められる 　知識・技能を修得することができる。 ２　教科指導や生活指導などの教育実践を通して、児童理解、人間尊重の精神及び教育者としての使命感を養うことが 　できる。 ３　「実習へのガイドブック」を活用し、自ら実習準備やまとめができるようにする。
授業の概要	１　実習校での実習方針や実習計画に則り、実習を実施する。 ２　実習１週目の３日目位までは、「授業観察」「授業参加」を行う。 ３　学習指導は、全教科等を対象とし、実習担当教員との相談により決定する。 ４　「授業実習」と「研究授業」の合計７時間以上を行う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　　実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（管理職の講話、観察が中心） 【key words】 実習計画、実態把握 【授業概要】 ○第１週 ①　実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。 ②　地域や実習校、特に配属学級の実態把握や授業参観をし、次週以降の授業実習に備える。 ③　実習録は、丁寧かつ正確に記録し、実習担当教員に提出し、指導を仰ぐ。 【教科書ページ・参考文献】 実習校の指示に従う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習校の指示に従う。 【予習復習に必要な想定時間】

		実習校の指示に従う。
	第２回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（他学年・領域の観察、朝の会・帰りの会、教科の授業実習が中心） 【key words】 学級経営、学習指導案、授業実習 【授業概要】 ○第２週 ①　朝の会、帰りの会、清掃、クラブ活動、委員会活動などの実践指導をする。 ②　実習校での学習指導案の形式を確認し、学習指導案の立案を始める。国語・算数等の授業実習を 行う。本学実習規定に則り、残りの授業実践を行う。 ③　学級経営や学級事務について、実習担当教員の指導を受けながら、行う。 【教科書ページ・参考文献】 実習校の指示に従う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習校の指示に従う。 【予習復習に必要な想定時間】 実習校の指示に従う。
	第３回	実習校の実習方針・実習計画に則り、実践する。（研究授業の準備、教科・領域の授業実習、研究授業が中心） 【key words】 授業実践、研究授業、授業研究会、学級経営、実習録の整理、お礼状 【授業概要】 ○第３週 ①　実習の総まとめとして、研究授業の実施、授業研究会を開いていただき、実習担当教員以外の管理 職や大学巡回指導教員の指導を仰ぐ。 ②　実習録を期日までに提出し、指導をいただく。実習録の受け取り方法についても、きちんと確認す る。 ③　お礼状を適切な時期に出す。 【教科書ページ・参考文献】 実習校の指示に従う。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 実習校の指示に従う。 【予習復習に必要な想定時間】 実習校の指示に従う。
	第４回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第５回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第６回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第７回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第８回	

		【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第９回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１０回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１１回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１２回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１３回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１４回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第１５回	【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	１　教育実習に参加する要件を備えていること。 ２　事前ガイダンスの受講および「小学校教育実習録」の提出を必須とする。	

	３　本学指導教員及び実習校指導教員の指示に従えない者は、実習を行うことができない。 ４　実習中、不適切な言動があった場合、直ちに実習を中止し、以後の実習を認めない。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	教育実習録
授業外時間にかかわる情報	①　教育に係るニュース、新聞記事、雑誌、書籍等には目を通す習慣を身に付ける。 ②　月３冊以上の読書をする。 ③　「実習へのガイドブック」を携帯し、実習に臨む。 ④　月刊誌「教員養成セミナー」を熟読する。
オフィスアワー	火曜日：9時～12時、水曜日：9時～12時
評価方法	実習校の評価（50%）、「教育実習録」の評価（30%）、実習報告会（20%）
教科書	・群馬医療福祉大学：「実習へのガイドブック」2012年
参考書	・時田詠子その他：「保育・教職実践演習テキストノート」ふくろう出版、2016年 ・その他、講義の中で、随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校学級担任及び教務主任、教育実習生の指導教員として指導等を計20年間、そして、群馬県教育委員会指導主事として４年間、教頭職として３年間、現場教員の全般的な授業の指導を行った。それらの経験を活かし、実習校・実習生、教育委員会等との連絡を密にし、教育実習をみのりあるものとしたい。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 読書指導と文芸　　授業コード： 6032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	選択
担当教員			
2021年度未開講			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 読書の意味と読書指導の方法を、文芸学の視点を通して学び身につける。 【到達目標】 ① 読書指導の方法を説明し、指導できる。　② ブックトークを実演し、指導できる。 ③ 読書ノートが作成できる。　④ 読書会を実施し、指導できる。
授業の概要	幼児・児童・生徒・成人を対象とした読書指導の理論と実際を、具体的な文芸作品とかかわらせながら学ぶ。さらに、読書ノートの作成や読書会を実施し、評価する。また、ブックトークという新しいコミュニケーションの精神と技術の獲得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	◎
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、科目の位置づけとシラバスの説明、評価法、レポート課題など。 授業の目的、到達目標、授業計画の全体像、評価方法等々、受講にかかわる必要情報を学ぶ。
	第２回	読書とは何か―多様な読書論の現在―／読書指導の三原則／読書についての思索 読書の意味を明らかにすると共に多様な読書論の現在について探求する。
	第３回	読書ノートの作成とその評価―読書と図書館―／要約の方法／読書材の読後評価 読書ノートの作成や評価の仕方を学び、読書において図書館が果たす役割を考える。
	第４回	読書指導と発達段階―多様な読書材の選択―／読書のタイプ／読書の構造―読者とは何か― 多様な読書材の選択は、読書能力と読書興味の発達段階に応じて行われることを学ぶ。
	第５回	読書指導の方法―ストーリーテリング・読み聞かせ・ブックトーク・自由読書・ブックリスト・読書ノート・読書会― 読書指導の方法は、さまざまなものがあるが、その主なものの概要について学ぶ。
	第６回	ブックトークの実際① ブックトークのポイント―多様な形態・テーマの多様さ・専門性・プロセス・実践上のヒント― ブックトークとは何かについて理解を深め、その一般的なプロセスや実践上のヒント等を学ぶ。
	第７回	ブックトークの実際② ブックトークのシナリオ作成―タイトル・対象・ねらい・展開（シナリオ）― ブックトークとは統一テーマという呪術が生み出す創造的な演劇空間である。そのシナリオを作成する。
	第８回	ブックトークの実際③ ブックトークの試演・記録・評価 ブックトークを実際に試演し、評価シートにより相互評価を試みて評価の仕方を学ぶ。
	第９回	第１回から第８回までの授業のまとめと課題レポート作成 第1回から第8回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
	第１０回	読書会の実際① 読書会のポイント―多様な形態・対象の多様さ・一般的なプロセス― 読書会は、新しい価値発見や多様な評価法の存在に気づかせてくれる。そのポイントについて学

	ぶ。 第１１回　読書会の実際② 読書会の実施―対象作品を読む・進行者の決定・テーマの確認・記録・評価― 読書会の流れに従って進行し、問題の所在を深める。 第１２回　読書法の指導―ブックスタート・読みの多様さ・読書学の誕生―／読書療法 読書法の原理を学び、読書人格を高める各種の方法を探求する。 第１３回　読書と古典―日本書紀の読み方・西行の読み方・平家物語の読み方・方丈記の読み方・おくの細道の読み方― 古典をどう読むか、日本書記、西行、平家物語、方丈記、おくの細道などにおいて検証する。 第１４回　読書と近代文芸―鴎外を読む・漱石を読む・鬼城を読む・朔太郎を読む・有流を読む― 近代文芸をどう読むか、鴎外、漱石、鬼城、朔太郎、有流などにおいて検証する。 第１５回　第10回から第14回までの授業のまとめと課題レポート作成 第10回から第14回までの授業の内容とポイントをテーマに即してまとめ、レポートを作成する。
受講生に関わる情報および受講のルール	・毎回、次の授業の資料（オリジナルプリントなど）を配布し、授業内容を予告する。 ・出席重視。向上心と問題意識を持って授業に取り組むこと。 ・授業に支障を来たすような行為は厳に慎むこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・シラバスで示した課題については、ワークシート等によるレポートを作成し提出すること。 ・授業テーマに関連した書を読み、読書人としての生活スタイルを確立すること。
オフィスアワー	授業の前後10分程度は対応可能
評価方法	定期試験(レポート)が70%、提出物が30%の総合評価による。 定期試験レポートの評価基準：①課題(テーマ)が適切にまとめられている。(60%)　②文章表現が適切である。(20%) ③オリジナリティーがある。(20%)
教科書	大越和孝・泉宜宏・宮絢子編著『読書』東洋館出版社（2017）
参考書	全国SLAブックトーク委員会編『ブックトーク―理論と実践―』全国学校図書館協議会（2001） 岩波書店編集部編『日本古典のすすめ』岩波書店（2007）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉特講Ⅳ　　授業コード：S8007

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	社会福祉コース・福祉心理コース・学校教育コース・児童福祉コース・選択
担当教員			
富澤　一央・松永　尚樹・川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉特講Ⅲで学習したことを基礎とし、社会福祉士国家試験対策の一環として、特に指定科目の重要な点と学習すべき内容について解説する。各回の講義に加え毎月月例テストを実施し、学生自身が学習進度を確認しながら進め、それぞれの学生が学習の習慣化と学習課題の焦点化を目的とする。 【到達目標】 ①自身の学習状況を振り返り、国家試験受験に向けた学習内容を明確にする。 ②解説や回答演習を通して、個々の学習方法を習慣化する。 ③月例テストや各階の回答演習で国家試験合格水準の正答が導き出せる。
授業の概要	社会福祉士として身に付けることが必要とされる広い範囲の基礎的な知識を学習する。特に、社会福祉士の国家試験の出題基準に対応した範囲の重要な点について焦点化し学習を進める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 第２回　人体の構造と機能及び疾病 第３回　月例テスト 第４回　心理学理論と心理的支援 第５回　社会理論と社会システム 第６回　月例テスト 第７回　現代社会と福祉 第８回　地域福祉の理論と方法 第９回　福祉行財政と福祉計画 第１０回　月例テスト

	第１１回　　社会保障 第１２回　　低所得者に対する支援と生活保護制度 第１３回　　保健医療サービス 第１４回　　権利擁護と成年後見制度 第１５回　　月例テスト 第１６回　　社会調査の基礎 第１７回　　相談援助の基礎と専門職 第１８回　　相談援助の理論と方法 第１９回　　月例テスト 第２０回　　福祉サービスの組織と経営 第２１回　　高齢者に対する支援と介護保険制度 第２２回　　障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第２３回　　児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第２４回　　月例テスト 第２５回　　就労支援サービス 第２６回　　更正保護制度 第２７回　　月例テスト 第２８回　　重要項目解説 第２９回　　重要項目解説 第３０回　　重要項目解説
受講生に関わる情報および受講のルール	自分自身での学習が大切となるため、毎日の積み重ねをすること 各国家試験対策委員が行なう試験対策グループのいずれかに必ず参加すること 過去3年分の国家試験問題の解答・解説を読んでおくこと 模擬試験や国家試験の案内を行うため聞き逃さないようにすること
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	個人での学習とグループ学習を併用し学習へのモチベーションを維持していくこと。
オフィスアワー	0
評価方法	試験（月例テストを含む）（60%）、授業中の課題や提出物及び受講態度（40%）を総合して評価する。
教科書	新・社会福祉士養成講座21　資料編　中央法規出版
参考書	医療情報科学研究所「クエスチョン・バンク 社会福祉士」、中央法規出版「社会福祉士国家試験過去問題集」、社会福祉小六法、社会福祉士用語辞典、（最新版）　その他自分にあった参考書
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 　□実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 　□PBL(課題解決型学習) 　□ディスカッション・ディベート

	□グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 総合演習Ⅱ　　授業コード：S9031　S9032　S9033　S9034　S9035　S9036　S9037

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4年次	2単位(60)	必修
担当教員			
松永　尚樹・長津　一博・新藤　健太・岡野　康幸・川端　奈津子・山岸　裕美子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 本学の建学の精神・教育目的に基づき、３年次で身につけた知見を深める。総合演習Ⅱにおいては、礼儀・挨拶、環境美化活動、課題研究・制作、進路決定等に主体的に取り組み、学士力を養成する。特に、この演習における集大成である課題研究・制作では、自発的なテーマ設定、資（史）料収集、分析・考察を行うが、適切な方法で丹念に調べることや、検討過程を論理的に記述できることを目指す。テーマ設定においては、地域貢献に供する課題をとりあげ、提案や論考を行うことも有効である。 【到達目標】 ①礼儀・挨拶、環境美化活動について、自主的に取り組むことができる。 ②総合演習の集大成である課題研究・制作について、的確な研究方法に基づいて取り組むことができる。 ③自己の適性を把握し、適切な進路決定ができる。
授業の概要	内容を、①建学の精神と実践教育 ②学習統合 ③進路・資格所得 ④地域貢献 ⑤心身の健康 の５つのプログラムから構成する。学年全体での授業では、建学の精神に則り、社会人となるための基礎的スキルの修得、福祉の視点から地域生活をとらえるための講義（外部講師）を予定している。クラス単位での授業では、「課題研究・制作」と題し、４年間の集大成として専門的な知識・技能を活かした論述・制作等を仕上げる。これらの演習を通し、総合的に学士力の向上を図る。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	◎
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	建学の精神と実践教育プログラム①　学長訓話・学部長講話、ディプロマポリシー、演習Ⅱの計画 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第２回	進路・資格プログラム①　「自己表現テスト」 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第３回　心身の健康プログラム①　心身のバランス（親睦スポーツ大会に向けた活動） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第４回　心身の健康プログラム②　心身のバランス・他者との連繋 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第５回　建学の精神と実践教育プログラム②（生活を科学する－雑巾縫いをとおして） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第６回　学習統合プログラム①　課題研究・制作（ガイダンス） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第７回　進路・資格取得プログラム②　「自己表現テスト」のふりかえり 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第８回　学習統合プログラム②　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第９回　学習統合プログラム③　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１０回　学習統合プログラム④　課題研究・制作 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第１１回　学習統合プログラム⑤　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　学習統合プログラム⑥　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１３回　地域貢献プログラム①　「地域での住民と行政サービスとの関わり」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１４回　進路資格取得プログラム③　「エントリー試験」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１５回　建学の精神と実践教育プログラム③　前期総括

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１６回　建学の精神と実践教育プログラム④　学長訓話・学部長講話

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１７回　進路・資格取得プログラム④　「エントリー試験」のふりかえり

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１８回　地域貢献プログラム②　地域のネットワーク作り（クラス内研修）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１９回　地域貢献プログラム③　児童虐待の早期発見について

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２０回　学習統合プログラム⑦　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　心身の健康プログラム③　「ストレス社会をどう生きるか」

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　地域貢献プログラム④　「昌賢祭」での実践活動について

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　地域貢献プログラム⑤　「昌賢祭」実践活動

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　学習統合プログラム⑧　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　学習統合プログラム⑨　課題研究・制作

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　学習統合プログラム⑩　課題研究・制作（クラス内発表会①）

【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　学習統合プログラム⑪　課題研究・制作（クラス内発表会②）

【key words】

	【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２８回　学習統合プログラム⑫　課題研究・制作（学年全体発表会） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　心身の健康プログラム④　１年のまとめ（クラス裁量） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　建学の精神と実践教育プログラム⑤　後期総括 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	１　総合演習は、本学の人間教育の要である。そのことに深く留意して取り組むこと。 ２　遅刻・欠席をしないことはもとより、折り目正しく熱意のある受講態度で臨むこと。 ３　全体オリエンテーション等の「学校行事」には、必ず出席すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業計画に示されている内容を事前に把握し、わからない部分については授業にて解決するよう努力すること。課題研究・制作に共同で取り組む際は、まず綿密な計画を立て、進捗状況を確認しあうこと。また、不明な箇所については担当者に相談すること。
オフィスアワー	各担当者に確認すること。
評価方法	課題研究・制作（40%）、演習への取り組み・内容等（30%）、提出物（30%）の総合点とする。
教科書	『咸有一徳』中央法規、『初編 伝習録』明治書院、『知のナヴィゲーター』くろしお出版
参考書	講義の中で適宜紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： サービス・ラーニングⅠ　　授業コード：S2001　S2003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	2単位(60)	必修
担当教員			
ボランティア委員会教員（主担当）・1学年教員（副）			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学近隣の地域の様々なフィールドで行われる実践活動と課題、そして学生らに期待されている事柄を知り、興味関心を持ったフィールドにおける課題解決のための取り組みを企画することを通じて、地域社会の様々な実践に触れ、その経験を他の授業にフィードバックさせて学生自身の学修を深化させること、様々な人々と関わる経験からコミュニケーション能力・社会性・協調性・行動力といった能力を培うことを目的とする。 【到達目標】 ①本学カリキュラムにおけるサービス・ラーニングの位置づけを理解し、説明することが出来る ②大学近隣で実践される様々な団体・機関の活動について理解し、説明することが出来る ③地域の課題の調査分析、解決方法の提案、企画化の手順を体験し、実践することが出来る ④グループワークやプレゼンテーションのプロセスや留意点を学び、実践することが出来る
授業の概要	身近な地域で行われている実践を知り、そこでの課題を見つけ、その解決に向けた調査・分析から解決のためのプロジェクトの企画立案と提案、実行と振り返りまでを2年間かけて実施する。この1年目にあたるこの講義では、全学ディプロマポリシーである『真心(思いやり・いつくしむ心)を育て、人の道を行う(正しい行い)「仁」を建学の精神とし、人格的な資質を育むとともに、社会的常識、およびそれらに支えられた豊かな教養により醸成された人間性を身につける』基礎を育むものとして、前期・後期の年間を通じた講義を実施する。 具体的には、学生にとって身近な大学近隣地域の社会福祉・教育等の現場をフィールドとし、前期は地域の社会福祉や教育の現場で行われている実践やその機関についての知識と学生としてこれらの地域と関わるための社会的常識やマナーを座学と演習を通じて学ぶ。後期は、各自の興味関心に応じたグループを作成し、グループ単位で地域の実践の場における取り組みへの見学・参加を通じて、自分たちに何ができるのかを学び取り、次年度の実践活動につながるプロジェクトを企画立案する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	△
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	△
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	○
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	◎
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回　科目オリエンテーション 【key words】 知行合一，ボランティア活動，サービス・ラーニング，社会人基礎力 【授業概要】 これまでの「地域・団体からの依頼に受講生が参加・協力する」から「学生が主体となって地域の身近な問題を見つけ，その解決に向けて調査・分析から解決策の提示を行う」という，より能動的な活動を目指す本講義について，その導入経緯と意義の説明を行う。その後，全30回の授業の概要と各回の流れ，授業の中で必要となる姿勢等についての説明と簡単な演習を行う予定である。 【教科書ページ・参考文献】 参考資料01ボランティアとは（小倉常明・松藤和生（編著） 2004 「いちばんはじめのボランティア」樹村房，p2-3.） 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習：参考資料01を一読しておくこと。 課題：次回までにWS02に自分の考えを書いておくこと

【予習復習に必要な想定時間】
15-30分

第２回　サービス・ラーニングとボランティア活動の理念、歴史

【key words】
ボランティア活動，ボランティア活動の原則，サービス・ラーニング
【授業概要】
今後，地域での活動を考えていく際の基盤となる「ボランティア」の理念について，その歴史と合わせて解説を行う。その後，前回のワークシートを用いたグループワークを行い，ボランティアや地域で学ぶことに対するお互いの考えを共有し，理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
参考資料02ボランティアの歴史性格理念（小倉常明・松藤和生（編著） 2004 「いちばんはじめのボランティア」樹村房，p4-17.）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第３回　大学から募集・依頼のあるボランティア活動の紹介と意義，その参加方法

【key words】
地域連携センター，ボランティア活動，地域貢献活動
【授業概要】
サービス・ラーニングの中で学外での活動の際に支援をいただく地域連携センターの紹介と学年や専攻単位で参加する行事ボランティアや地域貢献活動の意義と内容について解説を行う。特に，地域から大学に募集や依頼のあったボランティア活動に個人での応募・参加する際の方法の説明を受け，各個人で申し込みが行えるようになる。
【教科書ページ・参考文献】
参考書：ボランティア活動ハンドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備：配布されている場合にはボランティア活動ハンドブックを講義に持参すること。
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第４回　昨年度の活動紹介

【key words】
サービスラーニング，令和2年度の実践，ニーズ調査
【授業概要】
昨年度の1年生が「サービスラーニングⅠ」で行った活動について紹介を行い，今後の授業で行う活動についてのイメージづくりを行う。可能であれば，2年次の学生に協力を求め，各班からの活動紹介を行う（もしくは動画視聴で代える）。
【教科書ページ・参考文献】
授業内で指示
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第５回　高齢者を対象とした活動の実際

【key words】
高齢者，社会福祉施設でのボランティア活動
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に高齢者を対象とした活動の実際，そこでの課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として大学近隣の社会福祉法人より職員の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第６回　障害者を対象とした活動の実際

【key words】
障害者，障害者スポーツ，余暇支援
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に障害を持つ方を対象とした活動の実際，そこでの課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として県内の障害者をもつ方への活動（スポーツ、余暇支援）の普及・運営等に関わる法人より職員の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第７回　子どもを対象とした活動の実際①保育・児童福祉

【key words】
保育園・幼稚園・認定子ども園，児童福祉施設，病児保育
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に幼児教育，児童福祉領域における活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として幼稚園や子育て支援、保護者支援を行う機関の方を講師の方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】

配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第８回　子どもを対象とした活動の実際②学校・教育
【key words】
小学校，中学校，高等学校，特別支援学校，教育委員会
【授業概要】
近隣地域における団体・機関の実践活動として，主に教育現場における活動を取り上げ，その活動の実際，課題，受講生をはじめとした地域の若者に期待していること等について講義を通じて知識を学び，受講生同士のグループワークを通じて理解を深める。また，講師として学内外で教員養成に関わる方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第９回　活動紹介の振り返り
【key words】
グループワーク，興味関心
【授業概要】
これまでの講義を経て抱いた自分の興味関心についてまとめたWS09を用いてグループワークを行い，自他の興味関心を整理する。また，後期のグループ活動でサポートいただくことができる学内教員のリストを確認する予定である。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシート2種類を完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-40

第１０回　学外での活動に向けて必要になる準備
【key words】
社会人基礎力，メールの作法，電話の作法
【授業概要】
学内の教員や学外機関に連絡を行う場合の方法や手続きについて説明を行う。具体的には，メールの書き方や電話のかけ方，研究室の訪問方法などを指す。
【教科書ページ・参考文献】
参考資料03マナー（旧ボランティア活動ハンドブックp16-23）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１１回　地域で活動する団体と活動内容の紹介①
【key words】
社会福祉協議会，ボランティアセンター，福祉のまちづくり
【授業概要】
自分たちが興味関心をもった領域での活動を調べたり，活動を見学する際の拠点となる地域の団体として、社会福祉協議会の活動紹介を行う。講師として群馬県または前橋市社会福祉協議会のボランティアセンターに関わる方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料や提示資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１２回　地域で活動する団体と活動内容の紹介②
【key words】
公民館，社会教育，地域振興
【授業概要】
自分たちが興味関心をもった領域での活動を調べたり，活動を見学する際の拠点となる地域の団体として、公民館の活動紹介を行う。講師として前橋市東公民館に関わる方をお招きする可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料や提示資料を中心に実施予定
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：配布されたワークシートを完成させ，次回講義の際に持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１３回　予備日①（講義／フィールドワーク／振り返り／学年として参加する地域貢献活動等）
【key words】
後日案内
【授業概要】
これまでの講義の進捗状況や社会情勢の動向を踏まえて内容を決定する。学内外の方を講師に招いての講義や、学内外でのフィールドワーク、学外での活動が実施される可能性がある。
【教科書ページ・参考文献】
後日案内
【課題・予習・復習・授業準備指示】
後日案内
【予習復習に必要な想定時間】
後日案内

	第１４回	予備日②（講義／フィールドワーク／振り返り／学年として参加する地域貢献活動等） 【key words】 後日案内 【授業概要】 これまでの講義の進捗状況や社会情勢の動向を踏まえて内容を決定する。学内外の方を講師に招いての講義や、学内外でのフィールドワーク、学外での活動が実施される可能性がある。 【教科書ページ・参考文献】 後日案内 【課題・予習・復習・授業準備指示】 後日案内 【予習復習に必要な想定時間】 後日案内
	第１５回	前期のまとめ／後期の活動説明 【key words】 ふりかえり、ポートフォリオまとめ 【授業概要】 前期に紹介を受けた諸活動について振り返りを行い，後期からの興味関心に基づくグループ分けとそこでの活動について説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料を中心に実施予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内で指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１６回	後期オリエンテーション／概要説明、領域分け 【key words】 グループ活動，興味関心 【授業概要】 後期の取り組みについて確認を行い，自分の興味関心のある領域とキーワード3つをまとめたワークシートに基づくグループワークを行う。授業終了時に，後期の活動希望をまとめた用紙を提出し、後期のグループ活動班を決定する予定である。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料を中心に実施予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業内課題：グループ所属希望調査 【予習復習に必要な想定時間】
	第１７回	班活動準備①班編成と自己紹介、アイスブレイク 【key words】 チームで働く力，役割，自己紹介 【授業概要】 学生の興味関心で作成されたグループを呈示し，グループごとに自己紹介とアイスブレイク，役割の決定を行う予定である。その後、ポートフォリオ（後期）に沿って、「自分たちの興味関心を持った領域でどのようなニーズがあるのか」を調べるための4回分の活動計画を班ごとに立案し、発表資料にまとめる。その第1回となる予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオを配布予定 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１８回	班活動準備②活動期間の計画立案 【key words】 計画立案，アイディアの発信，統合 【授業概要】 ポートフォリオ（後期）に沿って、「自分たちの興味関心を持った領域でどのようなニーズがあるのか」を調べるための4回分の活動計画を班ごとに立案し、発表資料にまとめる。その第2回となる予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオを持参 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第１９回	班活動準備③活動期間の計画立案 【key words】 計画立案，アイディアの発信，統合 【授業概要】 ポートフォリオ（後期）に沿って、「自分たちの興味関心を持った領域でどのようなニーズがあるのか」を調べるための4回分の活動計画を班ごとに立案し、発表資料にまとめる。その第3回となる予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオを持参 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】
	第２０回	班活動準備④活動期間の計画立案 【key words】 振り返り，プレゼンテーション準備 【授業概要】 ポートフォリオ（後期）に沿って、「自分たちの興味関心を持った領域でどのようなニーズがあるのか」を調べるための4回分の活動計画を班ごとに立案し、発表資料にまとめる。その第4回として発表練習までを行う予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオを持参 【課題・予習・復習・授業準備指示】

課題：適宜指示
【予習復習に必要な想定時間】

第２１回　活動計画発表会
【key words】
プレゼンテーション，振り返り
【授業概要】
全体で集合し，各班の発表担当より、それぞれの計画をまとめたパワーポイントを使用し、班ごとに5分未満で発表予定。
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオを持参
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第21回の翌日よりグループでの活動期間に入る。学外活動の場合には活動前後で地域連携センターに報告を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２２回　活動期間①
【key words】
グループ活動
【授業概要】
班ごとに作成した計画に沿って学内外で活動を行う（第一週目）
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオを持参
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学外活動の場合には活動前後で地域連携センターに報告を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２３回　活動期間②
【key words】
グループ活動
【授業概要】
班ごとに作成した計画に沿って学内外で活動を行う（第二週目）
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオを活用すること
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学外活動の場合には活動前後で地域連携センターに報告を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２４回　活動期間③
【key words】
グループ活動
【授業概要】
班ごとに作成した計画に沿って学内外で活動を行う（最終週）
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオを活用すること
【課題・予習・復習・授業準備指示】
学外活動の場合には活動前後で地域連携センターに報告を行うこと。
【予習復習に必要な想定時間】

第２５回　活動報告会の説明およびお礼状指導
【key words】
プレゼンテーション、お礼状
【授業概要】
全体で集合し、活動期間の取り組みを通じて見出したニーズと自分たちに何ができるかの企画について発表を行う発表会の説明を行った後，学内外でお世話になった方へのお礼状の書き方や提出期限について講義を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオおよびボランティア活動ハンドブック
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：お礼状の下書きの作成
【予習復習に必要な想定時間】

第２６回　発表会準備・お礼状作成①
【key words】
振り返り、企画立案、お礼状作成
【授業概要】
グループごとに話し合って定めた時限・教室等に集合し，発表会準備とお礼状（下書き・添削後の清書）の作成として活動を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：実施の前後で授業担当に連絡を行うこと。また、学内で集まる場合には前日までに教務課にて教室を借りること。
【予習復習に必要な想定時間】

第２７回　発表会準備・お礼状作成①
【key words】
振り返り、企画立案、お礼状作成
【授業概要】
グループごとに話し合って定めた時限・教室等に集合し，発表会準備とお礼状（下書き・添削後の清書）の作成として活動を行う予定である。また、次回の成果発表会に向けてプレゼンtネーションの練習等を行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
グループ活動ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業準備指示：実施の前後で授業担当に連絡を行うこと。また、学内で集まる場合には前日までに教務課にて教室を借りること。
【予習復習に必要な想定時間】

	第２８回　活動報告会① 【key words】 プレゼンテーション、企画提案、成果発表 【授業概要】 全体で集合し，グループそれぞれによる企画発表を行う。各班10分前後の予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 お礼状の清書の提出／完成 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　活動報告会② 【key words】 プレゼンテーション、企画提案、成果発表 【授業概要】 全体で集合し，グループそれぞれによる企画発表を行う。各班10分前後の予定。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　サービス・ラーニングⅠ振り返りとⅡに向けた説明 【key words】 サービス・ラーニング 【授業概要】 全体で集合し，全体の振り返りを行った後に次年度に向けた作業の確認を行う。 【教科書ページ・参考文献】 グループ活動ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 グループ活動ポートフォリオの提出 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・配布資料やポートフォリオの保管用として配布されたファイルを毎回持参すること ・講師を大学外から招くことや学外に出る機会があり得るため、実習に順ずる態度・身だしなみで取り組むこと。 ・クラスやコース、専攻を超えたグループワークが多く行われる予定であるため、真摯な態度でのぞむこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。 ・特に後期は各グループで教室や時限が異なる可能性があるため、担当教員との連絡、掲示板の確認を密に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にウェブポータルのスレッドやコメントカード（またはシャトルカード）のやり取りを行う予定
授業外時間にかかわる情報	・前期：各回でワークシートの作成等が課題として課される。 ・後期：各グループでの活動が多くなる。活動ごとのポートフォリオ記入に加え、担当教員の指示を確認すること。
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	P/D評価である。各回のワークシートの作成・提出（50%）、とポートフォリオの作成・完成（50%）で評価を行い、基準を超えた場合に単位を認定する予定である。
教科書	使用しない。各回で資料の配布等を行うため、配布されたファイルに保管すること。
参考書	ボランティア活動ハンドブック（鈴木利定・監修）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉や教育における各領域での実践経験のある教員が関わっている。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援

	□その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 障害児保育　　授業コード： S4212

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
川端　奈津子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　現在の保育所・幼稚園には、診断の有無にかかわらず様々な発達課題をもつ子どもが在籍している。それら発達的ニーズがある子どもの特性を理解し、その支援方法を知るとともに、インクルーシブ保育の意義や家族への支援について基礎的知識と態度を身につけることを目的とする。 【到達目標】 　①保育場面で出会うことの多い障害の特性と基本的な支援方針や配慮について説明できる。 　②保護者支援の基本的態度および関係機関との連携の重要性を説明できる。 　③インクルーシブ保育の意義について説明できる。 　④障害をもつ子の保育に関わる医療・保健・福祉・教育との連携の重要性を理解している。
授業の概要	障害のある子への保育形態を理解した上で、保育場面で出会うことの多い障害について特性や支援について学び、個々の状態に合わせた支援提供のための取り組みや家族・関係機関との連携についても理解を深める。また、２学年後期の保育実習指導Ⅰ（施設）の基盤となる科目の一つでもあり、基礎的知識の定着は必須である。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	△
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	○
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション・障害児保育とは 【key words】 児童福祉法、保育所保育指針 【授業概要】 ①なぜ障害児保育を学ぶのか ②障害児保育の実践的意義 【教科書ページ・参考文献】 資料を配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○課題「NHKハートネットへの書き込み：障害のある幼児のお母さんの悩み」を読んでの感想をノートに書く 【予習復習に必要な想定時間】 課題に３０分
	第２回	障がいの概念 【key words】 国際生活機能分類（ICF）、国際障害分類（ICIDH）、医学モデルと社会モデル 【授業概要】 ①「日常生活の困難さ」の考え方 ②ICFの概念を学ぶ ③障害のある子どもの捉え方について考察する 【教科書ページ・参考文献】 第１章pp2-6 【課題・予習・復習・授業準備指示】

○予習：教科書pp2-6を読み、関心のあるところに下線を引いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習60分

第３回　障害児保育の歴史的変遷
【key words】
ノーマライゼーション、障害者権利条約、障害者差別解消法、インクルーシブ保育、合理的配慮
【授業概要】
①戦前から現在までの障害児保育
②障害児保育の現状（インクルージョン・合理的配慮）
【教科書ページ・参考文献】
第1章pp7-14
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第４回　発達（development）とは
【key words】
順序性、方向性、個人差、応答的なかかわり、発達過程
【授業概要】
①発達を理解する上で大切なことを確認し、０～６歳の発達過程を学ぶ。
②思考の土台となる、言葉の発達を促すかかわり方を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp16-22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp16-22を読み、関心のあるところに下線を引いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習45分

第５回　脳の発達と構造
【key words】
概念形成、情動の発達、脳の働きと構造、神経ネットワーク
【授業概要】
①脳の構造や働き（特に脳神経のネットワークの仕組み）を学ぶ。
②子どもの遊びの意義や概念形成を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp23-33
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○課題：復習プリント
【予習復習に必要な想定時間】
復習30分

第６回　脳の発達と障害
【key words】
脳機能障害、肢体不自由、発達障害
【授業概要】
①脳の働きと障害について学ぶ
②肢体不自由（脳性麻痺）の特徴と対応
③発達障害の特徴と対応
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp34-44
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第７回　視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助①
【key words】
視力障害、視野障害、色覚障害、伝音難聴、感音難聴、言語障害、構音障害、吃音
【授業概要】
「みる」「きく」「はなす」は、身の回りの世界をとらえ、世界とつながるための重要な機能である。これらの機能における障害は対人コミュニケーションの困難にとどまらず、知的発達や運動発達にも大きく影響する。それぞれの障害の特性や援助の視点について学び、保育における課題へお理解を深めるための関連事項を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章：pp58-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：教科書、資料等を整理しておいてください
【予習復習に必要な想定時間】
復習30分
予習30分

第８回　視覚・聴覚・言語障害児の理解と援助②
【key words】
視力障害、視野障害、色覚障害、伝音難聴、感音難聴、言語障害、構音障害、吃音
【授業概要】
「みる」「きく」「はなす」は、身の回りの世界をとらえ、世界とつながるための重要な機能である。これらの機能における障害は対人コミュニケーションの困難にとどまらず、知的発達や運動発達にも大きく影響する。それぞれの障害の特性や援助の視点について学び、保育における課題へお理解を深めるための関連事項を紹介する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp58-62
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第９回　肢体不自由児の理解と援助

【key words】
肢体不自由、脳性麻痺
【授業概要】
①肢体不自由とは
②脳性麻痺とは
③生活・遊びの支援
【教科書ページ・参考文献】
第２章：pp63-69
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp63-69を読み、関心のあるところに下線を引いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１０回　重症心身障害児・医療的ケア児の理解と援助
【key words】
重症心身障害、大島分類、医療的ケア
【授業概要】
障害児保育における課題の１つに、障害の重度化と多様化への対応があげられる。本講では、重度化の問題として重症心身障害児と医療的ケア児を取り上げ、その状態像を知り、在宅福祉サービスを含む支援体制や課題を考える。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp91-95
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第１１回　知的障害児の理解と援助①
【key words】
知的障害、発達検査、ダウン症候群、スモールステップ
【授業概要】
知的障害の捉え方について、原因や症状、援助の観点について学ぶ。知的障害のある子どもが保育所で質の高い生活を送るために保育士にはどのような関わりが求められるだろうか。知的障害の特徴を概説するとともに、実際の関わり方の理解を深めていく。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp70-81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○課題：障害のある幼児が楽しく遊べる玩具をインターネット等で調べてくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１２回　知的障害児の理解と援助②
【key words】
知的障害、発達検査、ダウン症候群、スモールステップ
【授業概要】
知的障害の捉え方について、原因や症状、援助の観点について学ぶ。知的障害のある子どもが保育所で質の高い生活を送るために保育士にはどのような関わりが求められるだろうか。知的障害の特徴を概説するとともに、実際の関わり方の理解を深めていく。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp70-81
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第１３回　発達障害児の理解と援助（１）　～ASDを中心に～
【key words】
ASD、構造化、TEACCHプログラム
【授業概要】
３回シリーズで発達障害の特性と援助について理解を深める。1回目では発達障害の定義や、代表的なASD,ADHD,LDの特徴を概観するとともに、その特性に基づいた保育の工夫について学ぶ。また、たんぽぽ学園での実践活動で、どのように子どもたちと関わるかまで発展させる。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp82-90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：授業内容を復習しておく
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第１４回　発達障害児の理解と援助（2）　～ASDを中心に～
【key words】
ASD、構造化、TEACCHプログラム
【授業概要】
３回シリーズで発達障害の特性と援助について理解を深める。1回目では発達障害の定義や、代表的なASD,ADHD,LDの特徴を概観するとともに、その特性に基づいた保育の工夫について学ぶ。また、たんぽぽ学園での実践活動で、どのように子どもたちと関わるかまで発展させる。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp82-90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第１５回　発達障害児の理解と援助（3）　～ADHDを中心に～
【key words】
注意欠陥多動性障害、学習障害、二次障害
【授業概要】
ADHDの特性をもつ子どもへの保育を検討するための演習を行う。また、ADHDの子どもが成長して

いくプロセスのなかで二次障害を併発するものが少なくないことから、子どもの自己肯定感が損なわれないような経験を積める保育。教育のあり方について考える。授業内で、第１５回の内容の確認プリントを行う。
【教科書ページ・参考文献】
第２章pp82-90
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：前期試験にむけて教科書・授業ノートや資料・基礎知識確認テストを中心に全範囲の復習を行う。
【予習復習に必要な想定時間】
復習120分

第１６回　指導計画及び個別の支援計画①
【key words】
個別の指導計画、個別支援計画
【授業概要】
個別の支援計画や指導計画とは何か、どのような内容が記載されるのかを理解するために、さまざまな自治体や保育所で作成されている様式を見比べたり、実際に自分なりに支援計画や指導計画を作成したりする。
【教科書ページ・参考文献】
第３章pp98-129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○課題：提示された事例を読んでくる
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第１７回　指導計画及び個別の支援計画②
【key words】
個別の指導計画、個別支援計画
【授業概要】
個別の支援計画や指導計画を作成後に必要なことを理解して、課題の事例について個別の指導計画を作成してみる。計画作成にあたって留意するポイントを示すとともに、計画実施のモニタリングやカンファレンスの重要性を学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
第３章pp98-129
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第１８回　発達をうながす生活や遊びの環境①　感覚を活かした遊びの支援
【key words】
感覚統合アプローチ　前庭覚と固有覚　ボディイメージ
【授業概要】
障害のある子ども一人ひとりの発達をうながすとともに、子ども同士がかかわり、育ちあう生活や遊びの環境とはどのようなものか考える。１回目では、感覚を活かした遊びの支援にはどのような工夫があるか、環境との相互作用に焦点を当てて考察する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章130-137、第２章pp45-57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp45-57を読み、関心のあるところに下線を引いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習45分

第１９回　発達をうながす生活や遊びの環境②　設定や教材教具の工夫
【key words】
参加型紙芝居、触って楽しむ絵本、パネルシアター
【授業概要】
児童文化教材である紙芝居や絵本などにも、障害のある子どもたちが参加できるような工夫や、遊びの中で発達を促すための教材づくりも重要である。実例を見ながらイメージを広げ、その意義を考察する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章pp138-148
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○課題：（大学入学前の）障害のある子どもや大人との関わり体験について感想も含めて400字以内でノートに書いてくる
【予習復習に必要な想定時間】
課題45分

第２０回　発達をうながす生活や遊びの環境③　子ども同士のかかわり合いと育ち合い
【key words】
統合保育、分離保育、
【授業概要】
①障害児保育の形態
②「遊んでくれてありがとう」の映像を観て、課題についてグループで話し合い、発表する。

【教科書ページ・参考文献】
第３章pp158-163
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第２１回　発達をうながす生活や遊びの環境④　保育者とのかかわり
【key words】
個別支援、集団保育、職員間の協力関係、加配保育士
【授業概要】
子どもの世界をスモールステップで広げる保育者のかかわりと集団保育における配慮を、事例検

討中心で考える。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付します。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：配付資料を読み、内容を把握しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２２回　フィールドワーク（たんぽぽ学園での実践）
【key words】
療育、児童発達支援センター、保護者支援、就学支援
【授業概要】
たんぽぽ学園を訪問し、午前中の療育活動に参加するなかで、学生は担当する幼児とペアになり、活動に参加する。
【教科書ページ・参考文献】
なし。学園の概要資料を配布。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実践活動をするための身だしなみや態度、及び障害のある子どもと関わる際の原則を確認しておく。事前に学園のホームページで概要を閲覧しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第２３回　保護者や家族に対する援助①
【key words】
障害受容、きょうだいへの支援、ペアレントメンター、有事より平時
【授業概要】
①障害のある子どもの保護者や家庭、きょうだいに対する支援の必要性について考える
②演習や事例をもとに障害のある子どもの保護者を支援するための態度や具体的な方法について考える
③当事者同士の交流や支え合いを理解する
【教科書ページ・参考文献】
第３章pp149-157
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○課題：もし将来、あなたの子どもに障害があることがわかったらどのような気持ちになりますか？
【予習復習に必要な想定時間】
課題30分

第２４回　保護者や家族に対する援助②
【key words】
障害受容、きょうだいへの支援、ペアレントメンター、有事より平時
【授業概要】
①障害のある子どもの保護者や家庭、きょうだいに対する支援の必要性について考える
②演習や事例をもとに障害のある子どもの保護者を支援するための態度や具体的な方法について考える
③当事者同士の交流や支え合いを理解する
【教科書ページ・参考文献】
第４章pp166-182
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。
【予習復習に必要な想定時間】
復習60分

第２５回　地域の専門職や機関との連携①　母子保健分野との連携
【key words】
妊婦健康診査、乳幼児健康診査、保健センター、こんにちわ赤ちゃん事業
【授業概要】
障害の早期発見、早期支援のための「つなぎ役」としての保育者の役割を担うために理解しておくべき、地域の機関や専門職、制度について演習課題に取組みながら学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
資料を配付します
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：あなたの住む市町村では乳幼児健康診査が何歳何ヶ月で行われているか、ホームページで調べてきてください。
【予習復習に必要な想定時間】
予習45分

第２６回　地域の専門職や機関との連携②　就学前の連携機関
【key words】
児童発達支援センター、児童発達支援事業、保育所等訪問支援
【授業概要】
就学前に子ども・保護者・保育者を支援する専門職や機関について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp190-192、資料配付
【課題・予習・復習・授業準備指示】
○予習：教科書pp190-192を読み、関心のあるところに下線を引いておく。
【予習復習に必要な想定時間】
予習30分

第２７回　地域の専門職や機関との連携③　小学校との連携
【key words】
就学とは、就学相談、就学時健康診断、、特別支援コーディネーター、校内委員会
【授業概要】
子どもたちは保育所・幼稚園から小学校への入学（就学）を体験する。本講では、小学校との連携の中でも、より現実的で最も重要な「就学の際の支援」、いわゆる移行支援に注目し①就学に関する基本的事項、②移行支援の実際と課題、③移行支援の新たな取り組みと連携の重要性の３つを取り上げる。
【教科書ページ・参考文献】

	教科書pp183-186 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○予習：教科書pp183-186を読み、関心のあるところに下線を引いておく。 ○復習：次回、基礎知識確認テストをするのでしっかり復習しておいてください。 【予習復習に必要な想定時間】 復習60分 第２８回　事例検討① 【key words】 問題解決学習 【授業概要】 今後、保育者はどのような障害をもつ子ども達と出会うのだろうか。エピソードをもとに今後求められる保育実践を考える。 【教科書ページ・参考文献】 事例資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第２９回　事例検討② 【key words】 問題解決学習 【授業概要】 今後、保育者はどのような障害をもつ子ども達と出会うのだろうか。エピソードをもとに今後求められる保育実践を考える。 【教科書ページ・参考文献】 事例資料配付 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第３０回　障害児に関わる現状と課題 【key words】 保育所等訪問支援、児童発達支援センター、放課後等児童デイサービス 【授業概要】 ①地域とのコミュニケーション ②重症心身障害児のケア ③在宅療養にかかわる関係機関の役割と福祉サービスについて学ぶ。 ④就学後の放課後支援のあり方と学校や家庭との連携の重要性を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 第５章pp199-207 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ○復習：後期試験にむけて、テキスト・授業ノートや資料・基礎知識確認テストを中心に全範囲の復習を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 復習（適宜）
受講生に関わる情報および受講のルール	①オンライン授業に変更される場合は、学修内容の効果性を鑑み、講義内容の組み替えを行うことがあります。また、　オンライン授業の際の資料配付及び講義は、ZoomMeeting・Google・PDFファイル・wordファイル・PowerPointファイル・YouTube等を利用。なお、ZoomMeetingを使う際は、ビデオOnでリアルタイムの意見交換の機会を設けます。 ②保育士資格必須科目であるため、遅刻、欠席等は大学のルールに則り対応し、無断欠席はしないでください。 ③授業中には、教科書、ノートを持参してメモを取ること。 ④無許可でのスマートフォンの使用、提出物の遅れ、などは減点となります。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード
授業外時間にかかわる情報	・障害のある子どもと接することができるボランティアに積極的に参加し、授業で習ったことを確認する機会として下さい。 ・授業内「知識確認テスト」を実施する際には出題範囲の復習をしっかりして臨んで下さい。
オフィスアワー	初回授業で伝達します。
評価方法	筆記試験（７０％）小テスト（３０％）。総合評価は、筆記試験で６０％以上得点できていることを前提として、群馬医療福祉大学の成績評価基準に準じて総合的に評価します。
教科書	障がい児保育　中山書店　2019
参考書	授業の中で適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 ・群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）にて１５年間、入所児童や地域の児童への療育に携わるとともに、保育所・幼稚園等へのコンサルテーションの経験をもとに、インクルーシブ保育の考え方や保育方法について事例も交えて講じる。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 外国語概論　　授業コード：S5591

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年次	2単位(30)	初等教育コース・選択
担当教員			
上原　修			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な基本的知識・技能を身に付けることを目標とする。具体的な授業の到達目標は、①授業実践に必要な英語力を身に付けることができる、②授業実践のために必要な知識を身に付けることができる、の2点である。
授業の概要	小学校の外国語活動、外国語の授業実践に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本（学習指導要領及び解説の理解、外国語活動・外国語科誕生の背景、授業実践に必要な5領域である聞く力・話す力〈やり取り〉・話す力〈発表〉・読む力・書く力、ＡＬＴとのＴ・Ｔ、指導法等）を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業概要、評価方法）、学習指導要領「外国語活動」「外国語」の目標と内容 【key words】 オリエンテーション（英語教育概論、学習指導要領（小学校）、授業概要、評価方法等） 【授業概要】 ○オリエンテーション ・自己紹介 ・第１回～１５回までの授業の概要について説明する。また、１単位時間の授業のながれ（導入、展開、ま　とめ、振り返りの過程）についても説明し、それぞれの過程ではどのような学習が行われるがについて　も説明する。 ・評価については、評価の仕方や評価する際の重点について説明する。 ・学習指導要領（小学校）の概要の説明。特に、小学校における外国語学習が必要に至った経緯、目的や目　標などについて説明する。教科書については、その活用について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第２回	異文化理解（生活や習慣、年中行事等） 【key words】 文化の捉え方、異文化理解とは、外国語教育における異文化理解 【授業概要】 ○文化の捉え方 ・各民族のもつ行動様式や価値観などを文化という視点から再確認し、文化の捉え方について考察する。 ○異文化理解 ・異文化理解の捉え方や異文化を理解する上での留意点などについて学習する。 ○外国語教育における異文化理解 ・日本と外国との生活や習慣、行事などの違いを知り、多様な考え方があることに気づくなど、外国語を学　習する上での異文化理解の重要性を知り、異文化への興味や関心を高める。 【教科書ページ・参考文献】

		学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第３回	英語の文字 【key words】 英語の文字の特徴、アルファベットの発達の経緯、活字書体と手書き書体 【授業概要】 ○英語の文字の特徴 ・英語の文字の特徴である、母音字、子音字、書体方向や分かち書きなどについて理解する。 ○アルファベットの発達 ・２１文字で始まった初期アルファベットから中世期には２６文字となるまでのアルファベットの発達につ　いて理解する。 ○書体の推移 ・文字は手書き文字から発達し、１５世紀に活版印刷が発達し活字書体となり、その後ローマン体やイタ　リック体へと発達していく過程等を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第４回	英語の音声 【key words】 英語の音素、母音や子音、子音連鎖、プロソディー、音変化 【授業概要】 ○英語の母音、子音などについて ・音素や母音、子音などについて理解する。また発音する際の口や唇、口腔内の特徴などについても理解　し、実際に発音練習し、理解を深める。 ○プロソディーについて ・イントネーション、アクセント、リズムなどのプロソディーについて、個々の事項を理解しながら、日本　語との使用の違いを知る。 ○音変化 ・音変化については、英語の音の特徴である、脱音、同化、連結など、基本的な事項を理解する。また、日　本語にはない音連鎖についても発音したりして、理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０程度
	第５回	英語の発音と綴りとの関係 【key words】 音と文字・綴りのずれ、綴りと発音の関係、母音字と子音字の発音、重子音字や音節構造等 【授業概要】 ○英語の音と文字のずれ ・英語の綴りを理解しにくくしているのが、音（発音）と綴りのずれである。このずれを理解するための規　則性や約束事を理解する。 ○母音字や子音字の発音について ・母音字や子音字の発音について理解し、実際に発音しさらに理解を深める。また、語末のeの働きや重子　音字などについても理解する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第６回	英語の書き方 【key words】 英語の記号の書き方や使い方、段落・書体・配置や行間など 【授業概要】 ○日本語との使い方の違いを理解 ・ピリオドやコンマなど、日本語と英語では使い方が異なることを理解したり、ハイフンやダッシュ、マイ　ナスの記号などの使い方についても理解する。 ○その他の記号の理解 ・省略記号や文末記号、引用符やアポストロフィーなどの基本的な使い方の理解をする。また、英語の特徴　である分かち書きについては、歴史的背景やふれつをの効果などにふれつつ理解していく。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第７回	英語の文法及び語彙（１） 【key words】 名詞と動詞の語形変化、冠詞、疑問文、文法事項の留意点など 【授業概要】 ○小学校英語学習で扱われることの多い文法事項の理解について ・名詞が複数形になるとsが付いたり、主語が３・単・現の場合に動詞にsが付いたりするなど、日本語に　はない語形変化が重要となる。また、be動詞や一般動詞も主語により変化するなど、児童が英語を学習　する際に確実に身に付けさせたい基本的な事項を理解する。学習の

際には、演習したり発音したりする。
・冠詞や疑問文など、基本的な文法事項を演習を通して再確認していく。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第８回　英語の文法事項及び語彙（２）
【key words】
他言語との関わりの中での英語の位置づけ、英語の平易化
【授業概要】
○英語の位置づけ
・言語としての英語の位置づけを歴史的視点から捉え、他の言語との相違や類似について理解する。例えば、比較を表現する場合、er,estを付ける形とmore,mostを付ける形がある。これは前者がゲルマン系で、後者がフランス系である。など、英語に関わる歴史や語彙についての理解を深める。
○英語に影響を及ぼした言語
・英語は現在に至るまで、３回他言語の影響を受けている。古い順にケルト語、古ノルト語（バイキング語）、フランス語であり、それぞれの影響を受けた基本的な語彙についても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第９回　第二言語習得理論（１）
【key words】
第二言語習得過程、臨界期仮設、統語の習得順位、情意面や母語への影響
【授業概要】
○音声や語彙の習得過程、臨界期仮設、音声や語彙の習得、統語の習得順位、情緒面や母語への影響
・第二言語を習得する上での仮設や音声・語彙の習得について理解する。また、第二言語を習得することによって母語や情緒面への影響などについても理解する。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第10回　第二言語習得理論（２）
【key words】
習慣形成、インプット・アウトプット・インタラクション、自動化、社会文化理論、用法基礎理論、第二言語を習得する際の学習者の要因
【授業概要】
○第二限度習得に関わる理論の紹介
・外国語活動や外国科を指導する上で関係の深い習得理論について理解し、実際の授業でどのように活用することが有効かなどについて理解する。
○習得をより確実にするための学習者の要因
・習得理論を活用しての指導を実施する際に、より学習効果を高めるたには、学習者の要因が大切であることを例を基にしながら理解する。
【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第11回　コミュニケーション能力（１）
【key words】
コミュニケーション能力とは、コミュニケーションモデル、異文化コミュニケーション、CEFRモデルの理解
【授業概要】
○コミュニケーション能力の理解
・コミュニケーション能力について理解するとともに、コミュニケーション能力を付けるための機能要素についても理解する。特に、その要素であるコンテクストやメッセージ、シンボルなどについて理解を深めるようにする。
○コミュケーション能力モデル
・コミュニケーション能力についての諸説について理解する。各言語学者が提唱しているモデルについて、その主要なモデルを理解し、実践に役立てるようにする。

【教科書ページ・参考文献】
学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第12回　コミュニケーション能力（２）
【key words】
話す、聞く、読む、書く　の各技能の理解
【授業概要】
○各技能の理解及び実践演習
・小学校において英語を指導する際に必要な、話す、聞く、読む、書く　の各技能について理

	解する。ま　　た、場面に応じた表現や活動について演習を通して理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第13回　担任（単独）授業、ALTやJTEとのTT授業おける留意点 【key words】 単独授業とTT授業について 【授業概要】 ○授業を組み立てる際に関わる留意事項 ・子供の実態について、十分に把握しておく。前時に授業の習熟の程度を子供一人ひとりについて分析して　　おく。また、各過程（導入、展開、まとめ、振り返り等の各過程）における指導項目、言語活動、評価方　　法などについて十分に吟味しておく。（教材研究の大切さ） ・ALTやJTEとのTT指導を行う場合においては、事前の打ち合わせが大事であり、各活動での役割分担、評　　価などを確認する。それら活動の実効を高めるために子供の実態について共通理解しておく。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第14回　英語の絵本の活用法 【key words】 絵本を選ぶ視点、外国語活動に有効な絵本の紹介 【授業概要】 ○絵本を選ぶ視点について ・選ぶ視点として、リズムや音韻があり、日常使われている単語がある。また、子供の生活体験に近く、学　　習者の読める力に近い。文とイラストが合っていること。などについて理解する。 ○外国語活動への有効活用 ・異文化理解や他者共感に適した絵本、長く親しまれてきた絵本などを紹介し、その有効活用などについて　　理解する。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 資料に基づいて予習、復習をする。特に復習時においては自作資料の内容を再確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第15回　授業のまとめ、考査 【key words】 授業のまとめ、考査 【授業概要】 ○授業内容について、資料を基に復習し、内容を理解に努める。 ○考査を行い、理解の程度を確認し、その後の学習に役立てるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 学習指導要領（小学校）、令和２年度使用小学校英語科教科書、自作資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自作資料を基に授業内容を復習し、理解を深めておく。 【予習復習に必要な想定時間】 数時間程度
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は、３年生次に行われる教育実習の本実習の基礎的講義に位置づけられており、遅刻や欠席は事前に必ず届出 ること。欠席や遅刻の多い学生（３回の欠席で実習を認めない）や授業態度の悪い学生は、教育実習の中止も有り得る　ため、熱心な受講態度を求める。 ２　外国語（英語）教育に関わる概論は、３年生次で講義である外国語（英語）指導法の基礎的・基本的な内容であり、 指導法をより深く理解するための講義である。次年度も見据え熱心に学習すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	自己評価カード、コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１　模擬授業を行う場合には、前週までに必要な要件を記入して提出すること。（指導案等が必要な場合には、事前に項 目説明や内容の的確性について説明する。）授業者の学生は、発表により気付いた点、成果と課題、改善に向けての視 点等、必要項目を記述し、次回授業日までに提出すること。 ２　授業を行った生徒は、自己評価及び他の生徒らの観察記録や感想等をまとめ、教材への理解を深めたり、学習への意 欲を付けたりする。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験　学期末試験（筆記試験）を行う。また、随時、ミニテストも行う。 学期末試験（50%）、レポート（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　外国語活動編」開隆堂 文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　外国語編」開隆堂

参考書	・文部科学省：小学校外国語活動教材「Let's Try!1」「Let's Try!2」、小学校外国語教材「We Can!1」「We Can!2」、それらのデジタル教材（DVD） ・児童用外国語教科書、その他、講義の中で随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校の教員として、１１年、中学校教員として１７年、群馬県教育委員会指導主事として４年、安中市教育委員会学校教育課指導担当として３年、この間、英語教育や英語指導の実務を担当してきた。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会福祉法制（関連行政論）　　授業コード：S3301

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	選択
担当教員			
森田　隆夫			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　社会福祉は、憲法25条にその根拠を置くが、その多くは、憲法25条を具体化した福祉六法等の社会福祉に関する法律に基づいて運営される。従って、社会福祉をはじめとする相談援助を志す者は、この社会福祉に関する法律を知り、理解することが不可欠である。この授業は、社会福祉法制の歴史を踏まえた上で社会福祉に関する法律を理解し、法的な面からの社会福祉の考察を目指す。 【到達目標】 ①社会福祉と法の通史的観点を身につける。 ②六法で条文を調べることができる。 ③社会福祉六法等につきその重要な概念、制度等を説明することができる。 ④法を解釈するという思考方法をとることができる。
授業の概要	社会福祉法制の歴史、憲法との関わりを明らかにした上、社会福祉法及び社会福祉6法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、介護保険法、そして、障害者自立支援法などを例にとり、概説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	◎
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーション、社会福祉法制の意義と体系 【key words】 社会福祉法制　社会保障　社会福祉　公的扶助 【授業概要】 社会福祉法制の意義と体系について説明をする。 個々の社会福祉概念につき説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 プリント１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp1~2、資料pp12~15 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第２回	社会福祉の法と行政のあゆみⅠ 【key words】 鰥寡条　目盲条　恤救規則 【授業概要】 古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント２pp1~2、資料pp12~15 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】プリント２pp3~4、資料pp16~19 【予習復習に必要な想定時間】 60分
	第３回	社会福祉の法と行政のあゆみⅡ

【key words】
鰥寡条　目盲条　恤救規則
【授業概要】
古代から現代にいたる社会福祉の歴史を概観する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント２pp3~4、資料pp16~19
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】プリント３
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第４回　日本国憲法と社会福祉
【key words】
幸福追求権　生存権　公的助成　地方自治
【授業概要】
社会福祉法制の基礎となる日本国憲法について、特に関連する事項について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
プリント３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp27～32、pp67～68
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第５回　社会福祉法Ⅰ（理念・目的、定義、実施機関・専門職務者など）
【key words】
目的・理念　社会福祉事業　福祉事務所
【授業概要】
社会福祉法の目的・理念、定義、福祉事務所等の実施機関・専門職務者などについて説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp27～32、pp67～68
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp32～67
【予習復習に必要な想定時間】

第６回　社会福祉法Ⅱ（社会福祉法人、社会福祉事業、地域福祉の推進など）
【key words】
社会福祉法人　社会福祉事業　福祉サービス
【授業概要】
社会福祉法人について説明する。
社会福祉事業の主体、経営準則、福祉サービスの制度等につき説明する。
【教科書ページ・参考文献】
pp32～67
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書 pp98～104
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第７回　生活保護法Ⅰ（目的・理念、原理・原則、実施機関と専門職務者、収入認定など）
【key words】
目的・理念　原理・原則　福祉事務所、収入認
【授業概要】
生活保護法の目的・理念　原理・原則を説明する。
福祉事務所といった実施・現業機関や専門職務者に就き説明をする。
保護決定のための収入認定について説明をする。

【教科書ページ・参考文献】
pp98～104
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp104～120
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第８回　生活保護法Ⅱ（保護の決定・実施、保護の種類・範囲・方法、保護施設、被保護者の権利義務など）
【key words】
保護の決定・実施　保護の種類・範囲・方法　保護施設　被保護者の権利義務
【授業概要】
保護の決定・実施、それに基づく保護の種類・範囲・方法、保護施設について説明をする。
保護を受ける被保護者の権利および義務について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
pp104～120
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp168～248
【予習復習に必要な想定時間】
60分

第９回　児童福祉法
【key words】
児童　児童相談所　児童福祉事
【授業概要】
児童福祉法の基本理念、対象、実施期間、事業・施設について説明をする。
【教科書ページ・参考文献】
pp168～248
【課題・予習・復習・授業準備指示】
【予習】教科書　pp308～321　資料(教育基本法、少年法)
【予習復習に必要な想定時間】
60分

	第１０回　母子及び父子並びに寡婦福祉法、教育基本法、少年法（刑法との関連から） 【key words】 母子等　寡婦　児童福祉審議会、教育基本法、少年法、刑法 【授業概要】 母子及び父子並びに寡婦福祉法の目的、定義、サービス等を説明する。 児童・未成年保護の観点から教育基本法、少年法（刑法との関連して）についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp308～321　資料(教育基本法、少年法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp617～627 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１１回　身体障害者福祉法 【key words】 身体障害者　身体障害者更生相談所　身体障害者福祉司　身体障害者手帳　身体障害者更生施設 【授業概要】 身体障害者福祉法の目的・理念、定義、実施機関等について、身体障害者手帳、身体障害者福祉法のサービス・施設について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp617～627 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp654～681 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１２回　知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 【key words】 知的障害者　療育手帳　精神障害者　精神障害者保健福祉手帳 【授業概要】 知的障害者福祉法と精神保健及び精神障害者福祉に関する法律を比較しつつ、それぞれの目的、定義実施機関等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp654～681 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１３回　障害者総合支援法、労働三法、労働安全衛生法 【key words】 目的・理念　障害者　応能負担、労働三法、労働安全衛生法 【授業概要】 障害者総合支援法の目的、基本理念、定義、サービス等を説明する。 就労支援に関連して労働三法、労働安全衛生法についても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 pp559～602　資料(労働三法、労働安全衛生法) 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習】教科書　pp323～336、pp377～513 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１４回　老人福祉法、介護保険法 【key words】 老人福祉法、介護保険法、老人、被保険者、要支援、要介護 【授業概要】 老人福祉法、介護保険法の目的、定義、サービス等を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 pp323～336、pp377～513 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書（主だった条文）、プリントの見直し 【予習復習に必要な想定時間】 60分 第１５回　まとめ 【key words】 社会福祉法制の体系　社会福祉法制のあゆみ　福祉六法　障害者総合支援法　介護保険法 【授業概要】 社会福祉法制に関し、特に重要と思われる事項につき再度説明をし、復習をしてもらう。 【教科書ページ・参考文献】 教科書（主だった条文）、プリントの見直し 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・可及的に多くの情報を提供したいので、予習復習は必ず行うこと。 ・授業シラバスを必ず確認し積極的に授業に臨むこと。 ・社会福祉を志す者として、出席時間の厳守し、態度や身だしなみ等を整えること。 ・授業の流れや雰囲気を乱したり、他の受講生の迷惑になる行為（私語、携帯電話の使用）は厳禁する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教科書で予習・復習すること、根拠条文を確認しておくことが、絶対に必要です。　また、別掲の参考書での学習も、お勧めします。

オフィスアワー	火曜　10時半～12時、　木曜　16時～17時半
評価方法	定期試験（６０％）、授業時間に行う小テスト（４０％）を総合して評価する。
教科書	ミネルヴァ書房編集部 編「社会福祉六法」ミネルヴァ書房，2019年
参考書	宇山勝義 他 編「社会福祉行政論」ミネルヴァ書房，2010年 河野正輝 他 編「社会福祉法入門 第3版」有斐閣，2015年
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 心理学と心理的支援（心理学概論）　　授業コード：S1052

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース／福祉心理コース／児童福祉コース／初等教育コース・必修／学校教育コース・選択
担当教員			
大島　由之			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人間行動について，科学としての心理学の視点で，科学的客観的に観察するための基礎知識の習得を目指す。さまざまな領域の心理学を学びながら、人間に対する視野を広げることを目的とする。 【到達目標】 ①人の心の基本的な仕組みと機能を理解し、環境との相互作用の中で生じる心理的反応を 理解する。 ②人の成長・発達段階の各期に特有な心理的課題を理解する。 ③日常生活と心の健康との関係について理解する。 ④心理学の理論を基礎としたアセスメントの方法と支援について理解する。
授業の概要	はじめて心理学を専門的に学ぶ講義として，知覚・認知・学習・発達・適応・臨床の分野に分け，心理学の主要領域について，広く概説を行う。また，心理学の基礎的な知識の習得を通じて，社会福祉士・精神保健福祉士・幼小中高特別支援学校教諭・保育士・公認心理師などをはじめとする対人援助職を目指す上で基本となる心理学的な観点からの人間理解・支援の方法について学ぶことを目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	心理学の歴史と心理学の研究法 【key words】 授業についてのガイダンス，心理学の歴史と対象，心理学の種類、心を探求する方法の発展 【授業概要】 授業開始にあたっての連絡事項を説明する。続いて，科学としての心理学の誕生から現在の心理学までの経緯，心理学の研究法や心理学の種類を学習する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第1章 心理学の視点」p1-17. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第2回	外部環境をとらえる 【key words】 感覚の種類と特徴，視知覚，対比，錯視，プレグナンツの法則，運動の知覚、感覚・知覚 【授業概要】 外部環境のとらえ方，網膜に写る像とは異なる形で知覚される人間の視知覚について学習し，実際に簡単な知覚の実験も行う。また，アニメーションの原理であるベータ運動とファイ現象についても確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第3節 感覚・知覚」p45-53. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分

	第3回	内部環境の調整ー神経系の仕組み 【key words】 神経伝達物質とホルモン，中枢神経系の仕組み，脳の構造と機能、心の生物学的基盤 【授業概要】 感覚器官から入った刺激は中枢神経系に入る。脳の神経回路を用いて推理し判断する。中枢系の構造と機能について学習確認する 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第1節 心の生物学的基盤」p20-28. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第4回	発達１ 【key words】 心の発達の基盤、発達とライフサイクル，生涯発達について，ハヴィガーストとエリクソンの発達理論 【授業概要】 人間の発達を生涯という観点から捉えたハヴィガーストとエリクソンの発達理論を学習する。現代社会での生涯発達を考えていく。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第3章 第1節 生涯発達」p98-106. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第5回	発達２ 【key words】 情動の発達，自律と依存，援助行動，認知思考の発達とピアジェの発達理論，恐怖と不信感，現代の発達病理 【授業概要】 人間の発達の中でも，情動・自律と依存・援助行動といった対人関係に関わる発達，心の理論の発達，更にピアジェの認知発達について学習していく。心の理論課題を実際に体験する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第3章 第2節 心の発達の基盤」p107-123. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第6回	学習，欲求と動機づけ 【key words】 古典的条件づけとオペラント条件づけ，感情・動機づけ・欲求，技能の学習における集中と分散、学習・行動 【授業概要】 古典的条件づけとオペラント条件づけの違い，様々な動機づけ，技能学習における集中と分散の効果の違いについて学習を進める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第2節 感情・動機づけ・欲求」p29-44、「第2章 第4節 学習・行動」p54-63 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第7回	認知と記憶 【key words】 記憶，認知、記銘の方略，情報の検索と忘却，問題解決，記憶障害と認知症 【授業概要】 短期記憶と長期記憶の違い，エラーフリーや記憶のコード化等の記憶方略，情報の検索と忘却，問題の解決について学習を進める。記憶障害について，記憶のコード化の課題作成練習を行う。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第5節 認知」p64-74. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第8回	知能 【key words】 知能と知能テスト，知能検査と知能の表示法，知的障害と発達障害、個人差 【授業概要】 知能の定義と様々な知能検査について確認する。また実際に知能検査結果から知能指数を算出する。知的障害と発達障害の違いを確認する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書「第2章 第6節 知能・パーソナリティ」p75-85、「第5章 第1節 心理アセスメント」p152-163. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分
	第9回	パーソナリティ 【key words】 パーソナリティとその測定，心理検査の信頼性と妥当性，性格の形成，テストバッテリー 【授業概要】 パーソナリティとその測定方法である心理検査の違いを確認していく。さまざまなテストを組み合わせるテストバッテリーについて説明する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書「第2章 第6節 知能・パーソナリティ」p75-85、「第5章 第1節 心理アセスメント」p152-163.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第10回　適応の問題１
【key words】
適応とストレス，正常と異常，適応と不適応，ストレスが身体に及ぼす影響、健康生成論
【授業概要】
正常と異常の違い，適応と不適応の違いを確認する。ストレスが身体に与える影響について，心理学的理論と個体差、レジリエンス、首尾一貫感覚などについて取り上げ学習を進める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第4章 日常生活と心の健康」p124-151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第11回　適応の問題２
【key words】
乳幼児期・児童期の適応困難，思春期・青年期の不適応，青年期・成人の適応困難
【授業概要】
乳幼児期・児童期からの適応困難として，学習障害・注意欠陥／多動性障害・自閉症スペクトラム障害について学習を進める。思春期・青年期の不適応として，摂食障害・家庭内暴力・不登校などを取り上げる。青年期・成人の適応困難として，神経症と心身症，及び精神病，特に双極性障害（躁うつ病）と統合失調症についてその違いと対応について説明する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第6章 第1節 子ども・家庭福祉」p75-85、「同第3節 障害児・者福祉」p208-213、「同第4節 精神保健福祉」p214-218.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第12回　高次脳機能障害
【key words】
注意障害，記憶障害，遂行機能障害，失認失行，病識，
【授業概要】
頭部外傷や脳血管症などによる高次脳機能障害の主なものについて，その機序を説明し，その対応についても取り上げる。
【教科書ページ・参考文献】
「医学概論（人体の構造と機能及び疾病）」の教科書を用いる予定。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第13回　心理臨床とカウンセリング、公認心理師
【key words】
アセスメントの諸技法，面接法，心理療法におけるアセスメントと介入技法、マイクロカウンセリング
【授業概要】
心理臨床にとって必要なアセスメントの諸技法，面接法・観察法・検査法を確認する。更に面接法での基本的スキルを概説する。様々な心理療法（精神分析、認知行動療法、ブリーフセラピー、家族療法など）についても概説していく。また、公認心理師について概説する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第5章 第2節 心理的支援の基本的技法～第4節 心理の専門職」p162-197.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第14回　対人関係１
【key words】
非言語的コミュニケーション，好意の獲得，対人距離
【授業概要】
対人関係における非言語的コミュニケーションの役割，対人効果の決定因，パーソナルスペース等，対人関係の取り方，その意味について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第1章 第7節 社会のなかでの心理」p86-97.また、参考資料を別途指定予定。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習課題：授業内で指示・配布を行う事前課題を完成させて次回持参すること。
【予習復習に必要な想定時間】
30-60分

第15回　対人関係２，社会と文化，対人交流とコミュニケーション
【key words】
対人関係における親和欲求，コミュニケーションスキル，社会と文化におけるグローバルコミュニケーション、集団・組織
【授業概要】
対人関係における親和欲求，効果的なコミュニケーションスキル，社会と文化におけるグローバルコミュニケーション，文化，ジェンダーの問題を取り上げ，学習を進めていく。
【教科書ページ・参考文献】
教科書「第1章 第7節 社会のなかでの心理」p86-97.また、参考資料を別途指定予定。
【課題・予習・復習・授業準備指示】

	試験準備として授業内での指示・案内に沿って各自で準備を行うこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60-90分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・出欠管理や提出物の返却を効率的に行うために毎回座席の指定があるものとお考え下さい。指定する座席は，事前にウェブポータル等で連絡するか各教室の入口に貼り出します。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布します。後述する「事前学習の課題」とあわせて、各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管するようにしてください。 ・このプリントは各回の授業前後にウェブポータルにアップロードを予定しています。プリントを紛失／汚損してしまった場合には，各自でウェブポータルからダウンロード／印刷するようにしてください。 ・「事前学習の課題」に備えて，図書館やPC室／LL室，コピー機等の利用が可能な状態にしておいてください。 ・講義時間内に，「事前学習の課題」を用いたグループワークを行うことがあります。その際のグループは基本的に教員がランダムに指定します。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参してください。 ・授業時間中は、講義に集中するため、私用での携帯電話、スマートフォン、タブレット端末は使用せず、卓上にも置かないでください。もちろん，各自の個別の事情（例：授業中に保護者や実習先からの連絡がある）で確認が必要な場合には卓上に置くことを認めます。その際は，授業開始前に担当教員にご相談ください。 ・遅刻／欠席する際には，大学のルールに則り，講義開始前までに事務局に連絡を行ってください。受講生への伝言等による連絡は，『言った／言わない』のトラブルを防ぐために行わないようにしてください。 ・事務局への事前連絡があった遅刻／欠席の場合のみ，その回の課題を後日に提出することを認めます。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	シャトルカード（またはウェブポータルのスレッド機能やアンケート機能）を使用予定
授業外時間にかかわる情報	「事前学習の課題」として，次回内容の予習にあたる用語調べや事例検討を課すことが多くあります。そのため，シラバスの記載内容や授業内での指示をよく確認するようにしてください。この「事前学習の課題」を用いて、授業時間中のグループワークを行うため，各自の積極的かつ真摯な取り組みを望みます。また，提出後に評価・返却を受けた「事前学習の課題」の定期試験への持ち込みを許可する予定です（詳しくは初回に説明）。
オフィスアワー	金曜5限（16:00-17:30）
評価方法	事前学習の課題／授業内課題の提出：25%，提出された課題内容／取り組みの評価：25%，定期試験：50%（詳細は初回講義時に説明）
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟(編)『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2 心理学と心理的支援』中央法規出版,2021年.
参考書	各回で適宜紹介します。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 福祉施設や教育機関でのカウンセラーとしての勤務経験。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 社会学と社会システム　　授業コード：S1074

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	社会福祉コース・必修／福祉心理コース／学校教育コース／児童福祉コース／初等教育コース・選択
担当教員			
白石　憲一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 人口構造の変化、経済の低成長、グローバル化、技術進歩などによって生じている現在の大きな社会変動や社会問題について、マクロ、ミクロ、メゾレベルから整理することにより、社会学のエッセンスを解説することを目的とする。 【到達目標】 「社会を見る眼」を養い、社会問題の改善のための処方箋を模索する力を身につけることを到達目標とする。 ①現代社会の特性を理解する。 ②生活の多様性について理解する。 ③人と社会の関係について理解する。 ④社会問題とその背景について理解する。
授業の概要	個別的な問題領域について、統計資料や研究事例を紹介するとともに、社会学の理論的・抽象的な概念について整理する。授業では小テストを適宜実施して、学生の理解の確認も行っていく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	△
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	科目オリエンテ-ション 【key words】 社会学 【授業概要】 講義で扱う内容について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 2頁～237頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第2回	ジェンダー 【key words】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数 【授業概要】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の解釈の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 110頁、158頁、235頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジェンダー開発指数、ジェンダーエンパワメント指数の統計を調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第3回	貧困問題 【key words】

		貧困線、相対的貧困 【授業概要】 貧困の種類、健康格差について、統計数値を用いて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 51頁～56頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 貧困率の統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第4回	格差 【key words】 ジニ係数 【授業概要】 不平等の指数について、統計数値を用いて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 51頁～56頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ジニ係数の統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第5回	福祉国家 【key words】 イギリス、アンデルセン 【授業概要】 イギリスの福祉の歴史とアンデルセンの福祉国家レジーム論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 85頁～87頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 諸外国の社会保障制度について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第6回	虐待 【key words】 児童・障害者・高齢者虐待、DV 【授業概要】 虐待の種類と対応を中心に学習する。 【教科書ページ・参考文献】 220頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第7回	人口からみた社会変動 【key words】 合計特殊出生率、人口オーナス 【授業概要】 人口に関係する指標について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 72頁～85頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 人口統計について確認する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第8回	社会集団と組織 【key words】 官僚、集団の類型 【授業概要】 集団の諸類型について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 164頁～175頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第9回	社会関係資本 【key words】 社会関係資本、パットナム 【授業概要】 社会関係資本の理論について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 187頁～197頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
	第10回	社会問題と福祉 【key words】 社会問題、福祉 【授業概要】 社会問題と福祉の関係について、実例に基づいて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 224頁～225頁

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第11回　社会的ジレンマ 【key words】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマ 【授業概要】 囚人のジレンマ、社会的ジレンマの具体例、社会的ジレンマ解消の方法について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 176頁～186頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第12回　児童虐待 【key words】 児童虐待 【授業概要】 現場での児童虐待の対応について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 220頁～223頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第13回　生活の質 【key words】 幸福感 【授業概要】 幸福感の決定要因について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 99頁～104頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 幸福感の統計について調べる。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第14回　家族 【key words】 マードック、ウォーナー、オグバーン、パーソンズ 【授業概要】 家族の機能、制度としての家族について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 105頁～119頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間 第15回　日本社会と社会問題 【key words】 マルクス、オグバーン、ウェーバー、マートン 【授業概要】 日本の社会問題と社会学における思想とのかかわりについて学習する。 【教科書ページ・参考文献】 211頁～225頁 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書の該当ページを通読する。 【予習復習に必要な想定時間】 4時間
受講生に関わる情報および受講のルール	新聞、ニュースなどで最新の経済の情報について確認すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習を毎回行い、質問があればコメントカードを活用すること。
オフィスアワー	木曜日4限
評価方法	試験（60%）と授業中の課題（40%）によって評価
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会学と社会システム」（中央法規出版株式会社）
参考書	いとう総研資格取得支援センター「見て覚える！社会福祉士国試ナビ」（中央法規）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素

	□PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： プログラミングの基礎　　授業コード：S1143

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	選択
担当教員			
藤本　壱			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 基本的なプログラミングを通して、物事を順序立てて考えられるようになることを目的とする 【到達目標】 ①プログラミングの基本的な考え方を理解できる ②基本的なプログラムを自分で作ることができる ③機械学習の基本を理解することができる
授業の概要	様々な用途に利用できるプログラミング言語の「Python」を使い、プログラミングの基本を解説する。 また、Pythonは人工知能関連のプログラミングでもよく使われているので、人工知能のごく基本の部分（画像認識）も解説する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	○
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第1回	オリエンテーションと初めてのPython 【key words】 Python、IDLE 【授業概要】 Pythonの導入部分を解説する ・授業のオリエンテーション ・Pythonの概要 ・IDLEの起動 ・1行だけのプログラムを入力する 【教科書ページ・参考文献】 12～41ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自宅のパソコンにPythonをインストールしてIDLEで復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第2回	複数行のプログラム 【key words】 ファイル 【授業概要】 複数行からなるプログラムを作成する ・ファイルの作成や保存 ・プログラムの入力と実行 ・プログラムの入力例 【教科書ページ・参考文献】 42～53ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 プログラムの入力から実行までの流れを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分

	第3回	変数と計算 【key words】 変数、計算 【授業概要】 プログラムの中で情報を記憶するための「変数」を解説する ・変数の基本 ・データの型 ・変数の計算 ・文字列の操作 【教科書ページ・参考文献】 66～83ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 変数を使って計算するプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第4回	条件によって処理を分ける 【key words】 if、論理演算子 【授業概要】 条件を判断してその後の処理を分ける方法を解説する ・条件判断の基本 ・条件を表す式の書き方 ・条件判断の書き方 【教科書ページ・参考文献】 92～97ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 条件によって処理が分かれるプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第5回	処理の繰り返し 【key words】 for、range 【授業概要】 同じ処理を何度も繰り返して実行する方法を解説する ・一定回数の繰り返し ・条件を満たすまで繰り返す ・繰り返しのネスト ・繰り返しを途中で抜ける 【教科書ページ・参考文献】 98～105ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 繰り返しを含むプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第6回	リストによるデータの処理 【key words】 リスト、for 【授業概要】 同じ系統のデータを多数扱う際に便利なリストを解説する ・リストの概要 ・リストにデータを代入する ・リストからデータを順に取り出す 【教科書ページ・参考文献】 84～89ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 リストを含むプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第7回	辞書によるデータの処理 【key words】 辞書 【授業概要】 リストと並んでよく使うデータ構造である辞書を解説する ・辞書の概要 ・辞書にデータを代入する ・辞書の活用 【教科書ページ・参考文献】 スライド資料 【課題・予習・復習・授業準備指示】 辞書を活用したプログラムを自分で作ってみる 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第8回	関数の利用 【key words】 関数、引数、戻り値 【授業概要】 処理を関数にまとめることで、同じような処理を何度も書かずに効率良くすることができる。この回では既存の関数を使う方法を解説する ・関数の概要 ・組み込み関数とユーザー定義関数 ・よく使う組み込み関数

【教科書ページ・参考文献】
スライド資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
関数を使ったプログラムを自分で作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第9回　関数の作成

【key words】
関数、def
【授業概要】
プログラムの中で同じような処理が複数回出てくる場合、それを関数にまとめると効率が良くなる。この回では関数を作る方法を解説する。
・関数を作る手順
・引数と戻り値の扱い方

【教科書ページ・参考文献】
106～111ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
自分で関数を作る練習をする
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第10回　モジュールの基本

【key words】
モジュール、import
【授業概要】
関数を集めてモジュールにすると、他のプログラムでも使いまわすことができる。この回では、既存のモジュールを使う方法や、自分でモジュールを作る方法を解説する
・モジュールの概要
・モジュールのインストール
・モジュールの作成
・モジュールのインポート
・モジュール内の関数の呼び出し

【教科書ページ・参考文献】
112～118ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
モジュールを使ったプログラムを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第11回　モジュールの活用

【key words】
モジュール
【授業概要】
既存のモジュールがいろいろあるので、便利なものを紹介する
・グラフの作成（matplotlib）
・Webページのスクレイピング（Requests、BeautifulSoup）

【教科書ページ・参考文献】
114～115ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
モジュールを活用したプログラムを作ってみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第12回　アプリを作ってみる(1)

【key words】
アプリ、tkinter
【授業概要】
画像を扱うアプリを作ることを通して、画像の処理やアプリづくりの実際を学ぶ
ユーザーからの入力を受け付けて動作するアプリを作る
・画面にボタンを配置する
・ボタンがクリックされたときに反応するようにする
・アプリの中身を作る
【教科書ページ・参考文献】
122～129ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
アプリの中身を書き換えて動作を試してみる
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第13回　アプリを作ってみる(2)

【key words】
pillow、画像
【授業概要】
画像を扱うアプリを作ることを通して、画像の処理やアプリづくりの実際を学ぶ
・アプリを使ってみる
・画像の扱い方
・画像ファイルの選択
・アプリの機能追加
【教科書ページ・参考文献】
130～148ページ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
piloowの他の機能を調べて自分で改造してみる
【予習復習に必要な想定時間】

	30分 第14回　機械学習の基本(1) 【key words】 scikit-learn 【授業概要】 Pythonは機械学習のライブラリが充実しているが、その中の1つである「scikit-learn」を使って、機械学習の基本を学習する ・機械学習の考え方 ・scikit-learnのインストール ・サンプルデータの扱い方 【教科書ページ・参考文献】 150～169ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 機械学習の仕組みを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第15回　機械学習の基本(2) 【key words】 scikit-learnを使って手書きの数字を認識するところまでを学習する 【授業概要】 ・手書き文字認識の仕組み ・手書き文字認識をアプリ化する 【教科書ページ・参考文献】 170～187ページ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 手書き文字認識の仕組みを復習する 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	[受講生に関わる情報]　配布資料は当授業のホームページから各自ダウンロードすること。 [受講のルール] 積極的に授業に臨むこと。 演習形式の授業なので、話を聞くだけでなく、手を動かしてパソコンの操作を身につけること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード方式
授業外時間にかかわる情報	配布資料を使って復習する プログラミングに必要なソフトは自分でパソコンにインストールする
オフィスアワー	授業前後20分
評価方法	筆記試験
教科書	Python1年生、森巧尚著、翔泳社
参考書	なし
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 プログラム開発経験豊富 プログラミング関連の書籍を多数執筆 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク ■アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 ■その他 その他の具体的内容 授業を録画して後日YouTubeで配信

講義科目名称： 医学概論（人体の構造と機能及び疾病）　　授業コード：S2032

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山﨑　博幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉専門職（又は医療専門職）に求められる基本的な医学知識・医学用語を正しく理解する。 人体の構造と機能及び疾病を理解する。疾病・障害とその支援について理解する。具体的には以下の点について理解する。 ①人のライフステージにおける心身の変化と健康課題について理解する。 ②健康・疾病の捉え方について理解する。 ③人の身体構造と心身機能について理解する。 ④疾病と障害の成り立ち及び回復過程について理解する。 ⑤公衆衛生の観点から、人々の健康に影響を及ぼす要因や健康課題を解決するための対策 を理解する。 【到達目標】 基礎的な人体の構造、疾病について説明することができる。 生命の尊厳を知り、人体への畏怖の念を持つことができる。 医療、福祉分野において危機管理能力の形成がなされる。
授業の概要	社会福祉専門職(又は医療専門職）に必要な基本的な医学知識・医学用語を学び、次に人体の構造と機能、さらに疾病・障害とその支援について学んでいく。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	ライフステージにおける心身の特徴、心身の加齢・老化 【key words】 成長、発達、発育、思春期、青年期、成人期、加齢、老化 【授業概要】 ・乳幼児期・学童期の成長、思春期・青年期の心身の特徴について学習する ・成人期の心身の特徴について学習する ・加齢と老化の違い、臓器の加齢変化について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p2～14 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第2回	ライフステージ別の健康問題、健康と疾病の概念、国際生活機能分類 【key words】 ライフステージ、健康、疾病、ICIDH、ICF 【授業概要】 ・ライフステージ別の現代的課題について学習する ・健康と疾病の概念及び国際生活機能分類について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p15～31

【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第3回　人体部位の名称
【key words】
骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、皮膚、血液
【授業概要】
・人体の体表における区分や各部位の名称を学習する
・人体を構成する器官系と、各器官系を構成する臓器系の名称を学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p32～46
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第4回　器官系と臓器の役割
【key words】
骨格系、筋系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系、皮膚、血液
【授業概要】
・各器官系の機能および人体における役割の全体像を学習する
・各器官系を構成する臓器系の機能を学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p47～57
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第5回　疾病の発生原因と成立機序
【key words】
外的要因、内的要因、炎症、変性、虚血、発がん、免疫反応
【授業概要】
・疾病の発生原因について学習する
・病変の成立機序について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p58～74
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第6回　リハビリテーションの概要と範囲
【key words】
リハビリテーション、ノーマライゼーション、ADL、QOL、IADL、高次脳機能障害、廃用症候群、ロコモティブシンドローム、チーム医療
【授業概要】
・リハビリテーションの定義、概念、目的について学習する
・ADLとQOLについて学習する
・リハビリテーションの対象及び方法について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p75～91
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第7回　感染症、神経疾患、認知症、高次脳機能障害
【key words】
インフルエンザ、ノロウィルス、エイズ、COVID-19、ウイルス性肝炎、アルツハイマー病、パーキンソン病
【授業概要】
・主な感染症の概要及び感染対策について学習する
・代表的な神経疾患の症状、検査、診断、治療について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p92～107
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第8回　脳血管疾患、心疾患
【key words】
脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、CT、MRI、虚血性心疾患、心不全、弁膜疾患、不整脈、大動脈疾患、高血圧
【授業概要】
・脳血管疾患の概要、後遺症について学習する
・虚血性心疾患の病態について学習する
・高血圧症の基準や治療について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p108～121
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第9回　内分泌・代謝疾患、呼吸器疾患
【key words】
糖尿病、コレステロール、甲状腺、気管支喘息、COPD、肺炎、肺がん
【授業概要】
・糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患、下垂体疾患、副腎疾患の概要について学習する。
・高齢者に多い肺疾患について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p122～137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第10回　腎・泌尿器疾患、消化器・肝胆膵疾患、骨・関節の疾患
【key words】
腎不全、透析、腎移植、肝炎、ヘリコバクターピロリ、骨粗鬆症、関節リウマチ
【授業概要】
・腎不全、泌尿器疾患について病態を学習する
・肝疾患、胆嚢疾患、すい臓疾患について概要・検査・治療・予防法を学習する
・高齢化に伴い増加する骨・関節の疾患の特徴を理解する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p138～156
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第11回　血液・免疫・アレルギー疾患、眼科疾患、視覚障害、耳鼻咽喉科疾患、聴覚障害、平衡機能障害
【key words】
貧血、造血器腫瘍、アレルギー、白内障、緑内障、難聴、メニエール病
【授業概要】
・貧血、造血器腫瘍、造血不全の概念について学習する。
・再生不良性貧血、全身性エリトマトーデスについて学習する
・主要な眼科疾患、耳鼻咽喉疾患について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p157～176
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第12回　口腔疾患、婦人科・産科
【key words】
う蝕、歯周疾患、生殖器腫瘍、妊娠、合併症、更年期障害
【授業概要】
・歯・歯周組織の構造、疾患について学習する
・生殖器悪性腫瘍と良性腫瘍について学習する
・妊娠・分娩の一連の流れを学習する
・育児放棄、特定妊婦について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p177～189
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第13回　精神疾患、精神障害、発達障害、小児科疾患、肢体不自由、知的障害、高齢者に多い疾患
【key words】
DSM-5、自閉症スペクトラム、ADHD、統合失調症、先天性疾患、肢体不自由、知的障害、ダウン症候群、老年症候群、フレイル
【授業概要】
・代表的な精神疾患について学習する
・小児疾患の特徴、要因について学習する
・高齢者に多く出現する病態・疾病の特徴について学習する

【教科書ページ・参考文献】
教科書　p190～208
【課題・予習・復習・授業準備指示】
授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。
【予習復習に必要な想定時間】
30分

第14回　生活習慣病（総論）、内部障害、悪性腫瘍と緩和ケア
【key words】
メタボリックシンドローム、内部障害、緩和ケア
【授業概要】

	・生活習慣病の病態と予防の概要を学習する ・内部障害の概要を学習する ・悪性腫瘍とその治療の概略について学習する ・緩和ケアの対象者とその概要について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p209～219 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第15回　公衆衛生 【key words】 予防医学、健康の社会決定要因、健康増進 【授業概要】 ・公衆衛生とは何かについて学習する ・公衆衛生の目的である健康の保持・増進、寿命の延長、疾病の予防について学習する ・公衆衛生の各ライフステージの保健対策について学習する ・公衆衛生の疾病対策について学習する 【教科書ページ・参考文献】 教科書　p220～232 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業開始前日までに、指定の教科書のページを読んで予習をすること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
受講生に関わる情報および受講のルール	スライドで映した重要事項や口述した内容はノートに筆記していく事。 将来医療福祉分野に携わる者としてふさわしい知識を会得する事。 講義毎に前回の講義のおさらいを行う。各自、復習をすること。 手を動かすことによって記憶の定着が促進される。ノートのみではなく、積極的に教科書にも書き込みを行ってください。 〔受講のルール〕 私語、スマホの使用、その他授業の妨害行為を禁止とする。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する。
オフィスアワー	授業終了後３０分。
評価方法	定期試験（100%）
教科書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集 『最新・社会福祉士養成講座　『医学概論』最新版　中央法規
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保健医療と福祉　　授業コード： S2043

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
山﨑　博幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。 ②ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。 ③保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。 ④保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。 【到達目標】 医療倫理を含む保健医療に係る倫理について説明することができる。保健医療の動向について説明することができる。保健医療に係る政策・制度・サービスの概要について説明することができる。保健医療領域にお ける専門職の役割と連携について説明することができる。保健医療領域における支援の実際について説明することができる。
授業の概要	ソーシャルワークに必要な保健医療と福祉について以下の点を概説する。 ・保健医療の課題をもつ人の理解 ・医療倫理 ・保健医療の動向 ・保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスに関する知識 ・保健医療領域における専門職の役割と連携 ・保健医療領域における支援の実際

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	病者の理解 【key words】 疾病、健康、ICIDH、ICF、岡村重夫、ナラティブモデル、パーソンズ、キューブラ―ロス、スティグマ 【授業概要】 ・初回なので、授業の進め方やルールについて説明する。 ・健康の定義、疾病の概念、等について解説する。 ・病ももつことによって生じる諸問題について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 第１章　p2-12 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第2回	家族の理解 【key words】 家族の多様化、世帯、ダブルケア、五大疾病、家族支援、スピリチュアルペイン 【授業概要】

・家族構成の変遷とその弊害について解説する。
・疾病・障害が家族に与える影響について解説する。
・家族支援について、事例をあげて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第１章　p13-22
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第3回　患者の権利
【key words】
患者の権利法をつくる会、パターナリズム、患者の権利章典、リスボン宣言、インフォームドコンセント、インフォームドアセント
【授業概要】
・患者の権利という概念が生まれてきた経緯について解説する。
・インフォームドコンセント、インフォームドアセントについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第１章　p23-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第4回　医療倫理と倫理的課題
【key words】
倫理、規範、法令遵守、医療倫理の4原則、ニュルンベルク綱領、生殖医療、移植医療、終末期医療
【授業概要】
・医療倫理の基礎、4原則について解説する。
・現代における医療倫理の課題について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章　p34-41
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第5回　患者の意思決定をめぐる課題
【key words】
パターナリズム、ICモデル、IDモデル、SDMモデル、アドバンスケアプランニング、人生会議
【授業概要】
・医療における意思決定支援のモデルについて解説する。
・アドバンスケアプランニング、アドバンスディレクティブ、ポルストについて解説する。
・意思決定支援をめぐる諸問題について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
第２章　p42-50
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第6回　疾病構造の変化
【key words】
疾病構造、人口転換、慢性疾患、非感染性疾患（NCDs）、健康の社会決定要因、疾病負荷
【授業概要】
・死因別にみた疾病構造に変化について解説する。
・戦後日本の人口構成及び高齢化について解説する。
・非感染性疾患（生活習慣病）について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　p52-61
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第7回　入院医療から在宅医療/病院完結型医療から地域完結型医療へ
【key words】
社会的入院、老人保健法、後期高齢者医療制度、在宅医療、地域包括ケアシステム
【授業概要】
・高齢者医療制度の変遷について解説する。
・地域包括ケアシステムの概要について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
第３章　p62-73
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第8回　保健医療における福祉的課題

【key words】
難病、ターミナルケア、老人ホーム、依存症、ICD、認知症、自殺企図、虐待防止
【授業概要】
・難病と福祉的課題について解説する。
・認知症、ターミナルケアと福祉的課題について解説する。
・自殺企図、虐待防止と福祉的課題について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第３章　p74-83
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第9回　保健医療の政策・制度および保健医療サービスの提供

【key words】
保健医療制度、国民医療費、医療法、医療事故、医療提供施設、在宅医療サービス
【授業概要】
・保健医療の政策・制度について全体像を概説する。
・医療提供施設、在宅医療サービスと医療提供体制について解説する。

【教科書ページ・参考文献】
第４章　p86-103
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第10回　医療費の保障およびその他の政策・制度

【key words】
医療保険、労災歩保険、被用者保険、地域保険、高額療養費制度、難病法、精神保健福祉法、診療報酬、介護保険
【授業概要】
・医療費保障制度の体系を解説する。
・社会保険、公費負担医療、無料低額診療、診療報酬制度について解説する。
・介護保険制度について解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第４章　p105-125
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第11回　保健医療領域における専門職と院内連携

【key words】
専門職、チームモデル、場所の論理、SECIモデル、暗黙知、アンティシペーション・ダイアログ
【授業概要】
・保健医療領域のソーシャルワーカーが連携することになる専門職について解説する。
・３つのチームモデルについて解説する。
【教科書ページ・参考文献】
第５章　p128-137
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第12回　地域の関係機関との連携の実際

【key words】
地域共生社会、地域連携クリティカルパス、医療ソーシャルワーカー業務指針
【授業概要】
・医療を取り巻く社会環境、地域の関係機関との連携について解説する。
・いくつかの事例をあげて、地域の関係機関との連携について学習する。
【教科書ページ・参考文献】
第５章　p138-149
【課題・予習・復習・授業準備指示】
事前に教科書指定のページを読んでおくこと。
授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第13回　医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門の構築

【key words】
スクリーニング、カンファレンス、電子カルテ、スーパーバイザー、バーンアウト、キャリアラダー、ワークライフバランス、マネジメント
【授業概要】

	・医療機関におけるソーシャルワーカーが所属する部門に位置づけについて解説する。 ・情報共有の仕組みについて解説する。 ・組織における管理体制について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 第５章　p150-160 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第14回　保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割 【key words】 医療ソーシャルワーカー業務指針、グリーフワーク、アドバンスケアプランニング、退院援助、ソーシャルワークの歴史、マネージドケア、生江孝之、清水利子、浅賀ふさ、吉田ますみ、出淵みや子 【授業概要】 ・医療ソーシャルワーカー業務指針について解説する。 ・ソーシャルワークの歴史について解説する。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　p162-174 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定のページを読んでおくこと。 授業中はノートをとって、講義後にまとめて復習すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30分 第15回　保健医療領域にお ける支援の実際 【key words】 回復期リハ、自宅退院、在宅医療、終末期ケア、救急現場、周産期、認知症、災害現場 【授業概要】 事例１～８までのうち、各自１つのシナリオを読んでレポートを作成する。 レポートに書くべき課題内容は、前の週に知らせる。 【教科書ページ・参考文献】 第６章　p175-222 【課題・予習・復習・授業準備指示】 事前に教科書指定ページの事例１から８までを読んでおくこと。 【予習復習に必要な想定時間】 60分
受講生に関わる情報および受講のルール	予習・復習を必ず行うこと。授業だけではなく、日頃から新聞・ニュース・インターネット等から保健医療に関する情報に接すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時に指示する
オフィスアワー	授業終了30分。又は、随時（事前に要連絡）。
評価方法	定期試験　80%　　レポート　20%
教科書	日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集　最新・社会福祉士養成講座　『保健医療と福祉』最新版　中央法規
参考書	講義の中で適宜紹介していく。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他

	その他の具体的内容

講義科目名称： 高齢者福祉　　授業コード：S2063

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1年次	4単位(60)	社会福祉コース／福祉心理コース／学校教育コース・必修／児童福祉コース／初等教育コース・選択
担当教員			
林　孝和			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 高齢化が著しい我が国において、高齢者を取り巻く環境は大きく変化してきていることを理解し、高齢者が活き活きとその人らしい生き方を実現するための各種施策を理解する。また、介護を必要とする高齢者も増加することが予測されていることから、介護保険制度を中心に介護を社会で支えるということはどのようなことかを知る。 【到達目標】 ①高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境につ いて理解する。 ②高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解する。 ③高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。 ④高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解す る。
授業の概要	我が国の高齢者を取り巻く環境は大きく変容している。そこで高齢化の現状を把握するとともに、高齢者の特性の理解や高齢者のニーズについての理解を高める。また、具体的な支援方策の論拠となる介護保険制度をはじめとした諸制度をしっかり理解する。このことにより、専門職である社会福祉士として高齢者に対するより適切な支援が可能となり、高齢者の自立した生活と生活の質の向上に資するものである。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第1回	オリエンテーション（授業の進め方等概説） 【key words】 高齢者に対する支援を学ぶにあたって、「高齢者」と一括りにすることなく一人ひとりを尊厳をもって対応することが基本。 【授業概要】 高齢者に対する支援と介護保険制度を学ぶにあたって、学生の高齢者への意識やイメージについて確認し、それはどうしてなのかを自らの言葉で語れるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	高齢者の定義と特性（社会的理解・身体的理解） 【key words】 高齢者と老いを検証する 【授業概要】 高齢期における生活の変化や家族と社会との関係、生きがいや安全安心の確保、高齢者差別など様々な課題・問題が発生している。その原因を探るために社会的理解や身体的機能の変化等を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第3回　高齢者の特性（精神的理解・総合的理解）

【key words】
高齢者個々に特性がある
【授業概要】
高齢者の身体的理解をする。ここでは加齢に伴う身体機能の変化や外見から見た高齢化と内面から見た変化について検証するとともに、加齢に伴う基礎的運動機能の変化などから高齢者を総合的に理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　高齢者の生活実態、少子高齢化と社会的問題

【key words】
人生５０年時代から人生９０年時代へ
【授業概要】
我が国の高齢化は先進国に例を見ない速さで進行しており、その酔及びその大きな原因となった少子高齢化等の動向について現状認識をする。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　高齢者を取り巻く諸問題

【key words】
高齢化は重層的な課題を社会に投げかける
【授業概要】
高齢者を取り巻く諸問題とは何か、例えば健康問題や介護の門外、更には経済的な問題等々多くの問題の派生が懸念されている。それらについて具体的な事例を含めて検証する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　高齢者保健福祉の起源と生成

【key words】
老いを歴史から考える
【授業概要】
我が国の高齢者の定義はどのように変遷してきたのか。高齢者（老人）に対する福祉サービスはどのようになされてきたのか、奈良時代までさかのぼってその起源から現代にいたるまでを検証する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　高齢者保健福祉制度の発展

【key words】
護の社会化とは何かを考え整理する
老年人口の急増とその対応は
【授業概要】
第二次世界大戦後、我が国の福祉制度は児童や障害者、貧困者に対する対応を中心に充実されてきた。そうした中で、新たな課題として老年人口の急増が表出し、その対応を図るため老人福祉法が制定された。その経緯と現在の状況について歴史的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　高齢者保健福祉の法体系

【key words】
高齢者は一律に支えられる人ではない
【授業概要】
高齢者保健福祉推進の基本的考え方を示した「高齢社会対策基本法」や「高齢社会対策大綱」について、その理念や国等が行うべき施策について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　高齢者支援の関係法令　老人福祉法

【key words】
老人は敬愛される存在だけか？
【授業概要】
歴史的な救済制度等について学んできた中で、社会の変化に伴い「老人福祉法」が制定されるが、その基本的な理念や法の構成とその役割について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第10回　高齢者の医療の確保に関する法律
【key words】
高齢者と医療は切っても切れない
【授業概要】
高齢化に伴い多くの人々が加齢による身体機能の衰えや精神的課題を生じる。その対応を図るための医療制度について基本的なことを学ぶ。また、高齢者の支援に関連して近年表出してきた高齢者虐待や住宅問題等の課題への対策などについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第11回　高齢者虐待防止法・その他の関係法規　　「小テスト」
【key words】
高齢者を取り巻く環境は社会の縮図
【授業概要】
高齢者虐待や高齢者の住みやすい街づくり、更には高齢者の住まいの問題と様々な分野において高齢者の生活支援が求められている。そう言った分野についても知識を修得する。
「第１回から第１０回までを振り返り、その成果を小テストで評価する。」
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第12回　介護保険制度の全体像
【key words】
「介護を社会で支える」とはどういったことなのかの基本的な理解をする
【授業概要】
介護保険制度の最も初歩的・基本的事項である「サービス利用の方法」「サービス内容」「全体の仕組み」さらには目的と理念について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第13回　法改正と背景と方向性
【key words】
新たな高齢者介護の在り方を考える
【授業概要】
介護保険制度の理念の把握と共に、介護保険制度創設から最近の制度改正に至る原因、改正内容について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第14回　保険財政と保険者・被保険者
【key words】
安定したサービス供給のために
【授業概要】
制度の基本である財源の基本的な分野とともに、主体となる保険者・被保険者について、より詳細な把握を行う。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第15回　前期授業の総括
【key words】
介護の普遍化
授業概要　　第１回から第１４回までの講義を総括する
課題等　　夏季休業中に高齢者福祉のポイントや介護保険制度についてしっかりと復習しておくこと
【授業概要】
第１回から第１４回までの講義を総括する
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　介護保険制度の仕組みとプロセス
【key words】
要介護認定とは保険給付とは何かを知る
【授業概要】
介護保険サービスを受けるには要介護認定の流れを理解し、介護保険サービス該当者になる条件等を理解する。また、その給付対象者や要介護認定のプロセスについて理解するとともに、受けられるサービスメニューを把握する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　介護報酬と地域支援事業
【key words】
介護サービス事業者には介護報酬が支払われる。またサービスは地域での実施が主体となる
【授業概要】
サービス事業者に支払われる介護報酬について学ぶとともに、新たなサービスとしてセリされた地域支援事業創設の背景等について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　地域包括支援センターと介護保険事業計画
【key words】
地域包括支援センターの創設と介護保険の計画的実施
【授業概要】
制度改正により創設された地域包括支援センターの役割や人員配置等について学ぶ。更には、介護保険制度を計画的に推進するための計画や組織等についても学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　介護保険制度総括
【key words】
サービスは質の確保が肝要
【授業概要】
高齢者福祉サービスの主流となった介護保険制度の基本的事項についての整理を行う。また、サービスの質の確保等に関して求められる情報の公表や苦情への対応、更には「福祉サービス運営適正化委員会」「介護保険審査会」等の役割を知る。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　介護保険サービスにおける専門職の役割と実際
【key words】
サービスの基本はなにか
【授業概要】
サービスの対象者の変化や専門職の役割と実際について、特に中心となる各種職種ごとの具体的な業務や課題、専門職の資格取得要件等について学ぶ
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　居宅サービスと施設サービス
【key words】
居宅と施設サービスの両立
【授業概要】
専門職のフォローを行うとともにサービスメニューの主体となる「居宅サービス」「施設サービス」には多くのサービス形態が存在しており、その内容について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　介護予防サービスと地域密着型サービス　　「小テスト」
【key words】
介護予防は元気な高齢者を創る
【授業概要】
介護予防の必要性と、どのようjな予防サービスが実施されているかを学ぶ。また、法改正により新たなサービスとして「地域密着型サービス」が創設されたころから、その概要についても学ぶ。
第１２回から第２１回までの理解度等について把握するため「小テスト」を実施する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　高齢者と家族等を支援する組織と役割　行政の役割
【key words】
実施主体は市町村
【授業概要】
高齢者が安心して暮らし続けられる地域社会の仕組みづくりを推進するために、国や都道府県、市町村等がそれぞれの役割を分担している、それらの役割について理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第24回	高齢者と家族を支援する組織と役割　地域包括支援センターの組織体系と役割 【key words】 地域を主体としたサービス体系の構築 【授業概要】 地域における高齢者サービスの中心的機関である「地域包括支援センター」の組織体系と役割について知るとともに地域における民間の中核組織である「社会福祉協議会」や「NPO法人」の役割についても理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第25回	高齢者支援の方法 【key words】 高齢者もパワーを有している 【授業概要】 高齢者を多方面的にアセスメントし、高齢者の持つ弱さや強さを理解する。そこから、支援と共に家族との関連や家族の果たす役割、地域のグループを活用した相談援助等について考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第26回	高齢者支援の方法と実際 【key words】 ストレス耐性の脆弱性を支える 【授業概要】 高齢者を支えるケアマネジメントは、どのように発展したのか。その意義や実践面での対応等について学ぶ。また、各種事例からサービスの利用と地域連携等について検証する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第27回	高齢者を支援する専門職の役割と実際 【key words】 専門職によるチームケアで効果を 【授業概要】 高齢者サービスにおいて多くの専門職がかかわることになるため、それぞれの職種について基本的理解と他職種連携についてその必要性ににについてその必要性と実践の展開について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第28回	高齢者領域における社会福祉士の役割 【key words】 社会福祉士の役割 【授業概要】 高齢者領域における社会福祉士の役割について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第29回	高齢者と家族等に対する支援の実際 【key words】 地域包括ケアシステム、多職種連携、介護予防 【授業概要】 地域包括ケアシステムにおける認知高齢者支援について学ぶ。介護予防における支援について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第30回	後期の総括 【key words】 介護の社会化を実現するために 【授業概要】 高齢者への支援にあたっては、介護サービスは勿論のこと、医療や保健、住宅、街づくりまで広範にわたることを改めて理解するとともに、特に今後の認知症対策や終末期ケアまで含めた今後予想される超高齢社会への様々な対応についても検証する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	座席を指定する。私語厳禁。ペットボトルは机上に置かないこと。	
毎回の授業に関する	授業内で示すGoogleフォーム	

質問や学習の進捗状況の確認方法	
授業外時間にかかわる情報	予習をして授業に臨むこと。わからない部分についてはチェックアウト時に質問するか、授業中若しくは授業終了後に遠慮なく行うこと。新聞やニュースなどを確認し、高齢者関係情報については必ず目を通すように心がけること。
オフィスアワー	毎週水曜日　午前10：30～12：00（この時間帯以外については要予約）
評価方法	定期試験60％、理解度テスト20％、授業への参画20％
教科書	最新・社会福祉士養成講座 2 『高齢者福祉』中央法規
参考書	関係資料は適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） ■情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 Googleフォームとスマートフォンを利用して、リアルタイムで受講学生の意見を収集・公開して学びを深める。また、チェックアウト時に授業の感想・質問を集め、適宜フィードバックする。

講義科目名称：　ソーシャルワークの基盤と専門職（共通）　　授業コード：S2123

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 社会福祉士の役割と意義を学び、ソーシャルワークの概念を知るとともに、ソーシャルワークの形成過程を時代背景とともに理解することを目的とする。さらに、相談援助の理念、専門職倫理としての「倫理綱領」などについて学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて理解する。 ②ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について理解する。 ③ソーシャルワークの価値規範と倫理について理解する。
授業の概要	社会福祉士及びソーシャルワーカーの役割と意義を知り、ソーシャルワークの構成要素やの形成過程、理念、倫理的ジレンマなどについて学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション（授業計画説明、予習復習の説明、評価方法の説明など） 【key words】 講義の受け方 【授業概要】 講義の受け方、予習・復習について、評価方法、などについて説明をする。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	社会福祉士及び介護福祉士法における位置づけ 【key words】 社会福祉士、名称独占、認定社会福祉士制度 【授業概要】 社会福祉士及び介護福祉士法における社会福祉士の位置づけについて学ぶ。資格の特性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	精神保健福祉士法における精神保健福祉士の役割と意義、現代社会とは 【key words】 精神保健福祉士、現代社会とは、産業構造の変化、雇用形態の変化、人口減少、少子化、高齢化、世帯人数、認知症高齢者 【授業概要】 精神保健福祉士の役割と意義について学ぶ。現代社会はどのような社会かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　現代の社会福祉士及び精神保健福祉士に求められる専門性

【key words】
地域、福祉課題、総合的かつ包括的な相談援助、ソーシャルワークの本質、生活困窮者自立支援法

【授業概要】
広範化と深刻化する問題状況のなかで、それらに対応できるだけの専門性を高めるだけではなく、地域を基盤としたソーシャルワークの必要性について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　ソーシャルワーク専門職のグローバル定義

【key words】
グローバル定義、IFSW、IASSW、ウェルビーイング

【授業概要】
国際的な合意に基づくソーシャルワーク専門職のグローバル定義に関して詳しく学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　ソーシャルワークの原理、ソーシャルワーク実践の判断と価値、価値・理念・原則、ソーシャルワーク専門職として身につける価値

【key words】
価値、理念、原則、人権、社会正義、集団的責任、多様性尊重、尊厳の保持、利用者本位、当事者主権、平等、民主主義

【授業概要】
価値はソーシャルワークの判断に影響を与えるということを学ぶ。ソーシャルワーク専門職としてグローバル定義に示されている人権、社会正義、集団的責任、多様性尊重を身につける価値であることの理由を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　ソーシャルワークの理念、地域生活支援という視座、ノーマライゼーション、社会的包摂

【key words】
ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン、ソーシャルエクスクルージョン、糸賀一雄、地域生活支援、バンク・ミケルセン、ニィリエ、

【授業概要】
地域を基盤とした支援を展開するための重要概念としてのノーマライゼーションについて学ぶ。ノーマライゼーションの歴史を学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　権利擁護が必要とされる背景、深刻な人権侵害の顕在化、権利擁護の概念、権利擁護の態様、ソーシャルワーク実践としての権利擁護

【key words】
基本的人権、社会権、生存権、自由権、契約、判断能力、虐待、搾取、権利擁護の介入レベル

【授業概要】
権利擁護が必要とされる背景について学ぶ、。現代社会における権利擁護とは何か、ソーシャルワークが果たす権利擁護とは何かについて学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　ソーシャルワークの形成過程、ソーシャルワーク前史、慈善組織協会、

【key words】
慈善、四箇院、聖徳太子、行基、エリザベス救貧法、産業革命、新救貧法、ブース、ラウントリー、社会調査、横山源之助、COS

【授業概要】
ソーシャルワークが体系化される以前は宗教的な価値観に基づき慈善活動が行われていたことを学ぶ。COSが組織化される背景と目的について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　セツルメント、青少年団体

【key words】
セツルメント運動、バーネット、トインビー・ホール、隣保館、ハル・ハウス、YMCA、YWCA、ボーイスカウト、ガールスカウト、キングスレーホール

【授業概要】
セツルメント運動の成立過程と役割について学ぶ。青少年活動の役割と意義について学ぶ。

	【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　ケースワークの確立、専門化するソーシャルワーク、世界恐慌・大不況とソーシャルワーク 【key words】 リッチモンド、友愛訪問、社会診断、医療ソーシャルワーク、キャボット、キャノン、ミルフォード会議、ジェネリックソーシャルワーク、グループワーク、コミュニティーオーガニゼーション 【授業概要】 リッチモンドによりケースワークが体系化された過程を学ぶ。医療ソーシャルワークの歴史を学ぶ。ミルフォード会議でどのような議論があったのかを学ぶ。世界大恐慌とソーシャルワークの関係性について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　診断主義学派と機能主義学派、グループワークの形成、コミュニティーオーガニゼーション、日本での発展 【key words】 診断主義学派、フロイト、ハミルトン、機能主義学派、ランク、タフト、ロビンソン、ぐるーうワーク、コイル、ニューステッター、コミュニティーオーガニゼーション、ロスマン 【授業概要】 診断主義学派と機能主義学派の相違を学ぶ。グループワークとコミュニティーオーガニゼーションの形成過程を学ぶ。第二次世界大戦後の日本におけるソーシャルワークの発展過程について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　社会不安とソーシャルワーク、問題解決アプローチ、ソーシャルワークモデルの乱立 【key words】 貧困の文化、貧困戦争、公民権運動、パールマン、問題解決アプローチ、四つのP、ワーカビリティー、心理社会的アプローチ、ホリス、医学モデル、生活モデル、ソーシャルワークトリートメント 【授業概要】 第二次世界大戦後のアメリカの経済状況、社会問題とソーシャルワークの関係性について学ぶ。問題解決アプローチが登場したことによるソーシャルワークへの影響について学ぶ。1960年代以降のソーシャルワークのモデルについて学び、日本の動向について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　ソーシャルワークの統合化とジェネラリストアプローチの成立、ジェネラリストアプローチからジェネラリストソーシャルワークへ 【key words】 ソーシャルワークの統合化、ミルフォード会議、シーボーム報告、システム理論、ジェネラリストソーシャルワーク、エコロジカル・ソーシャルワーク、インターフェイス、相互作用 【授業概要】 ケースワーク、グループワーク、コミュニティーオーガニゼーションが統合していく段階を学び、ジェネラリストソーシャルワークの成立過程を学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　専門職倫理と倫理的ジレンマ 【key words】 ソーシャルワーク実践にあたっては、あらゆる場面で専門職としての判断が求まられる。そのようなときに 必要なのが専門職倫理である。 【授業概要】 専門職には何故「専門職倫理」が求められるのか。また、どういったことが「専門職倫理」なのかを考察する。そういったときに必要となるのが専門職団体の示す「倫理綱領」であり、その必要性と倫理綱領の意義と内容について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること。予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード

授業外時間にかかわる情報	予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。
オフィスアワー	月曜日8時20分～10時30分　水曜日8時20分～10時30分
評価方法	定期試験またはレポート60%、課題への取り組み40%とする。課題は1回の講義に対して①用語調べ3点、②授業メモ3点、③「本日のまとめ」（講義まとめ）4点で計10点の配点である。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座　（中央法規）　最新版 山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版
参考書	適宜、紹介する
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　ソーシャルワークの基盤と専門職（社福）　　授業コード：S2124

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	2単位(30)	必修
担当教員			
新木　惠一			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ジェネラリストソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、などについて学ぶことを目的とする。 【到達目標】 ①社会福祉士の職域と求められる役割について理解する。 ②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解する。 ③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解す る。 ④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解する
授業の概要	地域を基盤とした総合的かつ包括的な相談援助の全体像、理論、概念と範囲及び専門的機能について学び、さらに、ジェネラリストソーシャルワークについて理解を深める。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	ソーシャルワーク専門職の概念、ソーシャルワーク専門職の範囲 【key words】 専門職の成立条件、職能団体、専門職 【授業概要】 社会的に専門職であると認知されるための成立条件とは何かについて学ぶ。専門職の職能団体にはどのような団体があるのか、また、その役割について学ぶ。ソーシャルワーク専門職にはどのような職業があるのかを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	社会福祉士が求められる領域（行政機関、福祉関係、医療関係、司法関係、独立事務所、職域拡大） 【key words】 社会福祉士の領域 【授業概要】 現代社会において、社会福祉士が求められる領域、場（行政機関、福祉関係、医療関係、司法関係、独立事務所、職域拡大）　について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	福祉行政等における専門職 【key words】 福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司

【授業概要】
福祉行政等における専門職としてどのような職名で働いているのかについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第4回　民間の施設・組織に おける専門職
【key words】
施設長、生活相談員、社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員、スクールソーシャルワーカー、医療ソーシャルワーカー
【授業概要】
民間組織においてソーシャルワーカーがどのような職名で働いているのか学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第5回　相談援助専門職の範囲、諸外国の動向
【key words】
相談援助の専門職、イギリスの動向、アメリカの動向、スウェーデンの動向など
【授業概要】
ソーシャルワーク専門職にはどのような職業があるのかを学ぶ。諸外国のソーシャルワークをめぐる動向について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第6回　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象
【key words】
ミクロ・メゾ・マクロレベルの対象
【授業概要】
ミクロ・メゾ・マクロレベルの意味と対象について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第7回　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの介入、支援の実際
【key words】
ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
【授業概要】
ミクロ・メゾ・マクロレベルへのそれぞれの介入方法、支援の実際について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第8回　価値とは、専門職として共有する価値と個人の価値観
【key words】
価値の内在化、自己覚知、非審判的態度、受容
【授業概要】
価値の持ついくつかの意味について学ぶ。ソーシャルワーカーは専門職として共有する価値を基盤に実践していくことを学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第9回　自己決定、自立支援、エンパワメントとストレングス視点
【key words】
自己決定、利用者本位、インフォームドコンセント、ノーマライゼーション、自己決定権、依存的自立、自立支援、エンパワメント、ストレングス
【授業概要】
自己決定概念の成立過程、自己決定と自己責任の関係性、自立の概念整理、エンパワメントとストレングス視点について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第10回　ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容、動向とその背景、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座
【key words】

【授業概要】
わが国のソーシャルワークは「課題別」から「地域割」による実践へと変化していることを踏まえ、地域を基盤としたソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助とは何かを学ぶ。地域を基盤とした相談援助における4つのパラダイムシフトについて学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

	【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　総合的かつ包括的な相談援助の全体像、地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座、地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能 【key words】 広範なニーズへの対応、本人の解決能力の向上、連携と協働、個と地域の一体的支援、予防的支援、支援困難事例への対応、権利擁護活動、ソーシャルアクション 【授業概要】 地域を基盤としたソーシャルワークの8つの機能、個と地域の一体的支援とは何かについて学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第12回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視点、ジェネラリストの視点に基づく多職種連携及びチームアプローチの意義と内容 【key words】 ジェネラリストソーシャルワーク、地域を基盤としたソーシャルワーク、総合的かつ包括的な相談援助、 【授業概要】 ジェネラリストソーシャルワークにより地域を基盤としたソーシャルワークや総合的かつ包括的な相談援助の実践が可能となることを学ぶ。機関・団体間の合意形成と相互関係について学ぶ。利用者、家族の参画について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質 【key words】 点と面の融合、システム思考とエコシステム、本人主体、ストレングス・パースペクティブ、マルチシステム 【授業概要】 ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質として、点と面の融合、システム思考とエコシステム、本人主体、ストレングス・パースペクティブ、マルチシステムがあることを学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　予防機能、新しいニーズへの対応機能、総合的支援機能 【key words】 総合的かつ包括的な相談援助、地域を基盤としたソーシャルワーク、個と地域の一体的支援機能、予防機能、新しいニーズ、総合的支援機能 【授業概要】 現代ソーシャルワーク実践の特質を反映する機能として、個と地域の一体的支援機能、予防機能、新しいニーズ、総合的支援機能について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　多問題家族への支援、権利擁護機能、社会資源開発機能、講義まとめ 【key words】 家族システム、エコシステム、権利擁護、ケースアドボカシー、コーズアドボカシー、資源開発 【授業概要】 現代ソーシャルワーク実践の特質を反映する機能として、多問題家族への支援、権利擁護機能、社会資源開発機能について学ぶ。講義まとめを行う。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	ノートは板書を写すだけでは不十分であり、それ以外に口頭で解説したことなどをまとめて記述すること。予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	予習として次回授業の該当部分を一読し、不明な用語などを調べ、調べた用語をノートにまとめる。また、予習の段階で質問があれば、予めノートに記述しておくこと。授業後は復習すること。
オフィスアワー	月曜日8時20分～10時30分　水曜日8時20分～10時30分
評価方法	定期試験またはレポート60%、課題への取り組み40%とする。課題は1回の講義に対して①用語調べ3点、②授業メモ3点、③「本日のまとめ」（講義まとめ）4点で計10点の配点である。
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座　『　』（中央法規）最新版 山縣ら編『社会福祉用語辞典』（ミネルヴァ書房）最新版
参考書	適宜紹介する

実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　ソーシャルワーク演習Ⅰ（共通）　　授業コード：S2171　S2172　S2173　S2174　S2175

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年次	1単位(30)	社会福祉コース／児童福祉コース・必修／福祉心理コース／学校教育コース／初等教育コース・選択
担当教員			
富澤　一央・柳澤　充・安留　孝子・松永　尚樹・大久保　圭介			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 ①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士として求められる基礎的な能力を涵養する。 ②ソーシャルワークの価値規範と倫理を 実践的に理解する。 ③ソーシャルワークの実践に必要なコミ ュニケーション能力を養う。 ④ソーシャルワークの展開過程において 用いられる、知識と技術を実践的に理解する。 【到達目標】 ①自己覚知について説明することができる。 ②基本的なコミュニケーション技術について説明することができる。 ③基本的な面接技術について説明することができる。 ④ソーシャルワークの展開過程について説明することができる。 ⑤ソーシャルワークの記録について説明することができる。 ⑥グループダイナミクスの活用の仕方について説明することができる。 ⑦プレゼンテーション技術について説明することができる。
授業の概要	ソーシャルワーク等の実習と関連づけながら、福祉専門職として必要な基本的な視点や原則、姿勢、態度についての理解を深め、援助技術として、ソーシャルワークの役割や価値基盤の理解、専門職としての自己覚知、他者理解、基本的なコミュニケーション技法の習得を目指し、ロールプレイやグループワークによる実践的・体験的な演習方法で学ぶ。いくつかの事例を通して、ソーシャルワークの展開過程について学ぶ。ソーシャルワークにおける記録、グループダイナミクス、プレゼンテーションについて学ぶ。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	○
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	◎
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	△
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	○
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	オリエンテーション　ソーシャルワーク演習の意義・目的及び位置づけ　授業の進め方　授業に参加する上での注意事項 【key words】 演習の概要　相談援助実習規定 【授業概要】 演習の位置づけを理解し演習に参加することができる。 ソーシャルワーク実習の規定を理解し、相談援助実習に向かう姿勢の基礎を構築する。 自己紹介を通して自分自身の振り返り、人の話を聞く態度を学 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第２回	自己覚知 【key words】 自己理解と他者理解

【授業概要】
自己覚知のための、自己理解と他者理解について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第３回　基本的なコミュニケーション技術　言語的技術　質問、促し
【key words】
質問、促し
【授業概要】
言語的技術 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第４回　基本的なコミュニケーション技術　言語的技術　感情の反映、繰り返し、要約
【key words】
感情の反映、繰り返し、要約
【授業概要】

言語的技術について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第５回　基本的なコミュニケーション技術　言語的技術まとめ
【key words】
質問、促し、言い換え、感情の反映、繰り返し、要約
【授業概要】
言語的技術（質問、促し、言い換え、感情の 反映、繰り返し、要約等） について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第６回　基本的なコミュニケーション技術　非言語技術
【key words】
表情、態度、身振り、位置取り 等
【授業概要】
非言語技術(表情、態度、身振り、位置取り 等） について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第7回　基本的な面接技術　　面接の構造化
【key words】
面接の構造化
【授業概要】
面接の構造化について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第８回　基本的な面接技術　場の設定
【key words】
場の設定
【授業概要】
場の設定(面接室、生活場面、自宅等)について学ぶ。
ツールの活用（電話、e-mail 等)について、それぞれの特徴を理解する。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
30分

第９回　ソーシャルワークの展開過程　児童
【key words】
ソーシャルワークの展開過程
【授業概要】
事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について

		学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１０回	ソーシャルワークの展開過程　高齢 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１１回	ソーシャルワークの展開過程　障害 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１２回	ソーシャルワークの展開過程　生活困窮 【key words】 ソーシャルワークの展開過程 【授業概要】 事例を通して、ソーシャルワークの展開過程（ケースの発見 ・インテーク ・アセスメント ・プランニング ・支援の実施 ・モニタリング ・支援の終結と事後評価 ・アフターケア）について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１３回	ソーシャルワークの記録 【key words】 支援経過の把握と管理 【授業概要】 ソーシャルワークの記録について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１４回	グループダイナミクスの活用 【key words】 グループワークの構成、グループワークの展開過程 【授業概要】 グループワークの構成(グループリーダー・ コリーダー・グループメンバー) 、・グループワークの展開過程(準備期・開始 期・作業期・終結期) について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 30分
	第１５回	プレゼンテーション技術 【key words】 個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション 【授業概要】 個人プレゼンテーション ・グループプレゼンテーション について学ぶ 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 今までの演習で考えたことを振り返り、まとめる。 【予習復習に必要な想定時間】 30分

受講生に関わる情報および受講のルール	(1)履修上の注意 グループワーク等に積極的に参加すること。無断欠席、無断遅刻はグループワークを乱すものであることを自覚すること。また、無断欠席、無断遅刻は実習に多大な影響を及ぼすことから、実習出来なくなる場合がある。 (2)学習上の助言 福祉専門職として必要な実践力を習得するために、自ら考え、気付くことが重要である。 (3)予備知識や技能 「ソーシャルワークの基盤と専門職」と深い関わりがある科目であることから、講義内容を十分に理解することが重要である。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	演習で学んだ内容や援助技術等を意識しながらボランティア活動に参加することが重要である。また、ボランティア活動を通して自己理解を深め、あるいは他者理解に努め、その都度振り返ることが求められる。
オフィスアワー	各教員より授業時に伝える
評価方法	試験またはレポート（40%）、提出物・リアクションペーパー・課題への取り組み（60%）
教科書	適宜、配布する。
参考書	社会福祉六法（出版社は問わない）、社会福祉用語辞典
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 障害者団体、病院、在宅介護支援センター、ホームレス支援施設などでソーシャルワーカーとしての実務経験があり、現在も社会福祉士事務所代表として成年後見受任事業などを行っている。群馬県立しろがね学園（障害児入所施設）における１５年の勤務と、児童相談所での５年の勤務をとおして、障害児・者、要保護児童などの処遇に携わった経験を活かした現場の実践感覚を大切にした授業展開を行っている。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　サービス・ラーニングⅡ　　授業コード：S2004　S2006

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年次	2単位(60)	必修
担当教員			
大島・他２学年担任　サービスラーニング・ゼミ担当者			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 大学近隣の地域の様々なフィールドで行われる実践活動と課題、そして学生らに期待されている事柄を知り、興味関心を持ったフィールドにおける課題解決のための取り組みとして昨年度に企画立案したプロジェクトの実施を通じて、地域社会の問題解決に挑み、その経験から社会福祉・教育の専門職としてのキャリアを形成する土台となる体験基盤を主体的・実践的学習活動を通して構築する。 【到達目標】 ①地域社会にある課題を見つけ出し、その解決に向けた道筋を描き出すことができる。 ②課題解決に向けた具体的な地域貢献・社会貢献のための活動を計画することができる。 ③計画した活動について、地域社会への提案と具体的な実践をすることができる。 ④実践を通じて得た学びから、専門職としてのキャリアを考える体験基盤をつくることができる。
授業の概要	身近な地域で行われている実践を知り、そこでの課題を見つけ、その解決に向けた調査・分析から解決のためのプロジェクトの企画立案と提案、実行と振り返りまでを2年間かけて実施する。この2年目にあたる本講義では、全学ディプロマポリシーである『地域貢献するための社会性を備えた能力を有し、多様な地域課題を把握し、マネージメントを含めた地域実践』を行う場として、年間を通じてグループ単位での実践活動を行う。 具体的には、昨年度に各グループの企画案に基づき、前期は大学近隣地域の社会福祉・教育等の現場への提案とそこでの協議を通じ、企画の具体化に向けた準備を行う。後期はグループで企画した活動の実践活動を展開する。最終的にはそれぞれが活動した内容をポートフォリオとして記録に残し、全体での報告会によって知識と体験を共有する。これらを全体を通して、一人一人がそれぞれの進路や具体的な学習課題と向き合う上で、土台となる体験基盤を得られるよう、積極的な関与を求めたい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	科目オリエンテーション 【key words】 サービス・ラーニング、授業予定、ポートフォリオ 【授業概要】 全体で集合して実施する。今年度に取り組む予定（前期：企画立案・依頼・調整、後期：実践と振り返り、発表）を説明後、昨年度のグループごとに取り組みの振り返りと、昨年度に他の受講生から受けたフィードバックを確認し、今年度の活動について自分の興味関心をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 昨年度のポートフォリオと配布資料等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 授業準備：完成済の「昨年度のポートフォリオ」を必ず持参すること。 【予習復習に必要な想定時間】 30-60分（以下分単位）
	第２回	活動準備①学内外での活動および、各自で行うボランティア活動の手続きの説明 【key words】

ボランティア活動（継続・依頼・行事）、地域貢献活動、学生事故補償制度
【授業概要】
全体で集合して実施する。今後の学内外でのグループ単位での活動に向けた事務手続きについて、地域連携センターと事務局（学生課・教務課）より説明を受ける。また、昨年度はCOVID-19の影響で実施できなかった各個人でのボランティア活動を行う際の手続きや記録の方法についても説明を受ける。最後に、今年度に助言・指導を受けることが可能な教員の紹介等を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
（当日配布予定のボランティア活動ハンドブック・ボランティア活動記録簿
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第３回　活動準備②グループ編成
【key words】
アイスブレイク、サービス・ラーニング
【授業概要】
昨年度の実践および現在の興味関心に沿ってグループを編成し、今年度の活動に向けた顔合わせと興味関心の共有、アイスブレイク、活動可能な日時の調整等を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料（ポートフォリオ予定）
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回の活動予定日時・場所の報告
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第４回　●活動準備③グループ活動1
【key words】
情報収集、調べ学習、研究室訪問、企画立案
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。自分たちの興味関心と昨年度に自他が調査・発表したニーズに沿って、グループごとに情報収集、調べ学習、企画案出、教員の研究室訪問等を行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第５回　企画準備④企画の検討
【key words】
企画立案、地域ニーズ
【授業概要】
全体で集合して実施する。学内外に企画を提案する際の様式について説明を行う。その後、グループごとに企画立案と具体化を進める。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回の活動予定日時・場所の報告
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第６回　●活動準備⑤グループ活動2
【key words】
情報収集、調べ学習、研究室訪問、企画立案
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。自分たちの興味関心と昨年度に自他が調査・発表したニーズに沿って、グループごとに企画の立案、情報収集、教員の研究室訪問等を行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第７回　企画準備⑥他の班との情報共有
【key words】
グループワーク、コミュニケーション、情報共有
【授業概要】
全体で集合して実施する。他のグループの受講生との間で、自分の班で検討されている企画案や進捗状況について発表・共有する。その後、各グループに戻り、改めてグループの企画・今後のスケジュール等を確認する。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・配布資料・ワークシート
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：グループワークの感想や学びなどの提出
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第８回　●活動準備⑥グループ活動3
【key words】
企画立案、社会人基礎力
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。前回のグループワークでの学びを参考に、グループごとの企画立案を進めること。また、企画を依頼／持ち込む学外機関への訪問や見学を行う際には、既定の事務手続きをとること。

【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第９回　●活動準備⑦グループ活動4
【key words】
企画立案、社会人基礎力
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。前回のグループワークでの学びを参考に、グループごとの企画立案を進めること。また、企画を依頼／持ち込む学外機関への訪問や見学を行う際には、既定の事務手続きをとること。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１０回　●活動準備⑧グループ活動5
【key words】
企画立案、社会人基礎力
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。前回のグループワークでの学びを参考に、グループごとの企画立案を進めること。また、企画を依頼／持ち込む学外機関への訪問や見学を行う際には、既定の事務手続きをとること。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１１回　企画準備⑨企画発表会および企画書説明
【key words】
プレゼンテーション、グループワーク
【授業概要】
全体で集合して実施する。前期の企画発表会の発表内容や形式等の説明および、発表会までに完成・提出する企画書の様式について説明を行う。説明終了後は、グループごとに発表準備や企画書の作成を行う。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・配布資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

第１２回　●活動準備⑩グループ活動6
【key words】
企画調整、プレゼンテーション
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。主に企画発表会に向けた準備、企画を持ち込む先の調整や検討等を想定している。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１３回　●活動準備⑪グループ活動7
【key words】
企画調整、プレゼンテーション
【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。主に企画発表会に向けた準備、企画を持ち込む先の調整や検討等を想定している。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１４回　企画発表会①
【key words】
プレゼンテーション
【授業概要】
全体で集合して実施する。グループごとに企画発表を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・発表資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：発表の感想記録
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１５回　企画発表会②・前期振り返り
【key words】
プレゼンテーション

【授業概要】
全体で集合して実施する。グループごとに企画発表を行う予定である。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ・発表資料
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：発表の感想記録
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１６回　後期オリエンテーション
【key words】
地域での実践活動、サービス・ラーニング
【授業概要】
全体で集合して実施する。後期は前期に立案した企画に基づき、地域での実践活動と振り返りを行う予定であり、その流れや手続きについて確認を行う。
【教科書ページ・参考文献】
ボランティア活動ハンドブック、配布資料、ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回に向けた準備学習を指示予定
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１７回　地域での実践活動に向けた準備
【key words】
社会人基礎力、マナー・態度、報告様式
【授業概要】
全体で集合して実施する。改めて地域で求められるマナーや態度について各自の考えや意見をもとにグループワークを行い、次回以降の実践活動に備えた準備を行う。
【教科書ページ・参考文献】
配布資料、ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：次回以降の活動予定日時・場所の報告
【予習復習に必要な想定時間】
15-30

第１８回　●地域での実践活動①
【key words】

【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第１９回　●地域での実践活動②
【key words】

【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第２０回　●地域での実践活動③
【key words】

【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第２１回　●地域での実践活動④
【key words】

【授業概要】
全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。
【教科書ページ・参考文献】
ポートフォリオ
【課題・予習・復習・授業準備指示】
課題：ポートフォリオに基づく活動報告
【予習復習に必要な想定時間】
30-60

第２２回　後期中間報告
【key words】

		グループワーク、コミュニケーション、情報共有 【授業概要】 全体で集合して実施する。他のグループの受講生との間で、自分のグループで実施している活動について発表・共有する。その後、各グループに戻り、改めてここまでのグループの活動について振り返りを行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：グループワークの感想や学びなどの提出 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２３回	●地域での実践活動⑤ 【key words】 【授業概要】 全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２４回	●地域での実践活動⑥ 【key words】 【授業概要】 全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２５回	●地域での実践活動⑦ 【key words】 【授業概要】 全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２６回	●地域での実践活動⑧ 【key words】 【授業概要】 全体では集合せず、グループごとに立てた計画に沿って実施する。助言・指導を仰ぐ教員の指示に沿いながら、学内外の活動における既定の事務手続きを順守して行うこと。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオに基づく活動報告 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２７回	企画報告会／お礼状等の説明 【key words】 社会人基礎力、お礼状 【授業概要】 全体で集合して実施する。企画報告会の内容や形式を説明後、実践活動に関連して対応いただいた方へのお礼状の作成について説明を行う。 【教科書ページ・参考文献】 配布資料、ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：お礼状の下書き作成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60
	第２８回	報告会 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 実践した活動について、グループごとの報告を順次実施していく。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料・ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：お礼状の下書き作成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60

	第２９回　報告会 【key words】 プレゼンテーション 【授業概要】 実践した活動について、グループごとの報告を順次実施していく。 【教科書ページ・参考文献】 発表資料・ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 課題：ポートフォリオの完成 【予習復習に必要な想定時間】 30-60 第３０回　全体振り返り 【key words】 振り返り、職業観 【授業概要】 これまでの学修全体を振り返っての学びや今後のキャリアについての検討を行う。 【教科書ページ・参考文献】 ポートフォリオ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ポートフォリオの提出 【予習復習に必要な想定時間】 30-120
受講生に関わる情報および受講のルール	＜受講生に関わる情報＞ ・授業時間として設定された時限以外でのグループ活動が中心となるため、メンバー同士で協力し合い、活動がうまく動いていくように、各自積極的に役割を担っていくこと。 ・講義内やグループ活動ごとに、ポートフォリオへの記入や小レポートの作成、メールやウェブポータル上での報告を求める。各自が期限を厳守し、真摯な態度で臨むこと。 ・大学外での活動が中心となるため、実習に順ずる態度・身だしなみで取り組むこと。 ・わからないことなどがあれば、遠慮なく担当教員をはじめとした学内の教員、地域連携センターに相談をすること。一人で解決しようとせず、人に力を借りることも学ぶこと。 ＜受講のルール＞ ・遅刻／欠席については大学のルールに則り、教務課に連絡を行うこと。 ・特に後期は各グループで教室や時限が異なる可能性があるため、担当教員との連絡、掲示板の確認を密に行うこと。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	毎回の授業後にウェブポータルのスレッド／アンケートやコメントカード（またはシャトルカード）のやり取りを行う予定
授業外時間にかかわる情報	・前期：各回でワークシートの作成等が課題として課される。 ・後期：各グループでの指導となるため、担当教員の指示を毎回確認すること。
オフィスアワー	授業内で案内する
評価方法	P/D評価である。各回でのワークシート等の作成・提出（50%）、とポートフォリオの作成・完成（50%）で評価を行い、基準を超えた場合に単位を認定する。
教科書	使用しない。各回で資料の配布等を行うため、配布されたファイルに保管すること。
参考書	適宜紹介
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション ■実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 保育教育課程論　　授業コード： S4003

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	4単位(60)	児童福祉コース・初等教育コース・必修
担当教員			
関本　仁			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	保育所保育を含む幼児教育に関する教育課程・カリキュラムについて学習する。幼児期の教育と教育課程の基礎的・基本的理念を知る。その上で具体的に教育課程・保育課程の編成、指導計画の作成を行う。 到達目標 ①教育課程・保育課程の在り方と意義について説明できる。 ②保育目標を達成するために必要な、教育課程・保育課程の編成ができる。 ③乳幼児の発達の特徴を理解した指導計画の作成ができる。
授業の概要	幼稚園・保育園・認定こども園における教育課程・保育課程の意義や編成について学び、子どもたちの主体性を活かした保育・教育課程の在り方について考察する。保育・教育課程の編成と乳幼児の発達年齢に合わせた指導計画を行うことにより具体的に理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回　オリエンテーション 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第2回　保育における計画の意義 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第3回　保育における評価の意義 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第4回　日本におけるカリキュラムの基礎理論　カリキュラムの類型について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第5回　幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第6回　教育課程・保育課程の編成　幼稚園における教育課程の編成に関する法令 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第7回　保育所における保育課程の編成に関する法令　認定こども園における全体的な計画編成における法令 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第8回　カリキュラム・マネジメントについて（教育課程の編成・実施・評価・改善） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第9回　指導計画の作成　長期の指導計画　短期の指導計画　日案の例 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第10回　幼稚園における教育課程の意義　教育課程・指導計画の実際 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第11回　教育課程の実際例　アクティブラーニングについて 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第12回　保育所における保育課程・指導計画の実際（3・4・5歳児）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第13回　保育所における保育課程・指導計画の実際（0・1・2歳児）
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第14回　認定こども園における全体的な計画の実際
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第15回　前期のまとめ
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第16回　後期オリエンテーション
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第17回　保育の評価　記録の意義
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第18回　保育の評価　計画・実践・反省（評価）・改善と記録
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第19回　小学校との連携　就学前教育との接続について
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第20回　小学校との連携　アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第21回　指導計画作成のための基本　乳児の発達過程と指導計画
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第22回　指導計画作成のための基本　3歳児から6歳児の発達過程と指導計画
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第23回　指導計画作成のための基本　見通しと連続性をもった計画立案　行事に関する留意点
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第24回　春の指導計画（4・5・6月）春における子どもの活動（姿）と援助の視点
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第25回　夏の指導計画（7・8月）夏における子どもの活動（姿）と援助の視点
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第26回　秋の指導計画（9・10・11月）秋における子どもの活動（姿）と援助の視点
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】
第27回　冬の指導計画（12・1・2・3月）冬における子どもの活動（姿）と援助の視点
【key words】

【授業概要】

【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】

【予習復習に必要な想定時間】

	第28回　日案の作成　指導計画　カリキュラム 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第29回　日案の作成　環境の構成・再構成 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第30回　後期のまとめ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・意欲的な学習態度であること ・教師としての在り方について、常に意識をもって学生生活を行えること。 ・授業で配布する資料についてファイルして保管すること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育をとりまく社会状況、現場状況、教育改革等に関する情報の事象をとらえ、それを分析・考察することによって客観的に検証・考察する。
オフィスアワー	金曜・第2時限
評価方法	筆記試験60%　授業への取組・授業時に課すレポート40%　総合評価は筆記試験、平常点ともに60%を超えていることが前提となる。
教科書	教育課程・保育課程論　基本保育シリーズ⑭　千葉武夫　那須信樹　編　中央法規出版
参考書	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 （平成21年4月～平成25年12月）国立市役所子ども家庭部子育て支援課（現 児童青少年課児童･青少年係）嘱託員[非常勤] （平成26年4月～平成29年3月）公益財団法人 荒川区自治総合研究所　研究員 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　子どもの健康と安全　　授業コード：S4052

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	1単位(30)	児童福祉コース・必修／初等教育コース・選択
担当教員			
李　英姿			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】 　子どもの心身の健康増進と健やかな生活の確立をめざし、実際の保育現場で実践できる子どもの保健に関する知識や技能の習得を目的とする。 【到達目標】 　①小児各期における発育や発達に応じた保育・養護の知識・技術を身につける。 　②小児の病状を観察し、適切な救急処置・看護することができる。 　③保育における安全な環境を提供することができる。
授業の概要	子どもの発育の観察と評価、健康的な日常生活習慣形成のための適切な養護、安全で衛生的な保育環境整備の方法、病気やけがの適切な対処ができる知識と技術を習得し、保育の現場で実現できる能力を養う。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回　オリエンテーション、日常の保育における健康観察 【key words】 授業の目的、注意事項、健康・発育観察 【授業概要】 授業の位置づけ、目的、授業の評価方法、注意事項、子どもの日常保育における健康観察、発育観察について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１１～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ３０～４２ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分 第２回　発育の観察 【key words】 発育の観察、身体測定、発育の評価 【授業概要】 身体発育の観察と評価、身体計測の方法、発育・栄養状態や体格の評価方法 【教科書ページ・参考文献】 ｐ３０～４２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ４２～４９ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分

	第３回	生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価 【key words】 生理、感覚、運動、精神機能 【授業概要】 生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ４２～４９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ５０～５８、ｐ６８～７２ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第４回	子どもの健康増進と保健環境 【key words】 健康増進、保育環境、生活リズム、抱き方、寝かせ方、おんぶひもの使い方 【授業概要】 保育環境の条件、保育環境の整備、１日の生活リズム形成のための生活習慣、生活習慣形成のための支援技術について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ５０～５８、ｐ６８～７２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ５８～６５、ｐ７２～８２ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第５回	健康的な生活習慣形成のための支援技術（１）食事、排泄 【key words】 食事習慣、排泄習慣、授乳・離乳、おむつ交換 【授業概要】 食の役割、食事習慣形成における留意点、排泄の意義、排泄習慣形成における留意点、授乳・離乳方法、おむつ交換方法について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ５８～６５、ｐ７２～８２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ６５～６７、ｐ８２～９１ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第６回	健康的な生活習慣形成のための支援技術（２）衣服着脱、清潔 【key words】 衣服着脱、清潔、入浴 【授業概要】 衣服の意義、着脱習慣形成における留意点、清潔保持の意義、清潔習慣形成の留意点、乳児の服の着せ方、入浴の方法、浴後ケアの習慣形成について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ６５～６７、ｐ８２～９１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ９４～１０１ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第７回	子どもの病気の特徴、起こりやすい症状とケア 【key words】 発熱、嘔吐、下痢、腹痛、咳、けいれん、発疹、便秘、薬の与え方 【授業概要】 発熱、嘔吐、下痢、腹痛、咳、けいれん、発疹、便秘の原因と観察・ケア、薬の与え方について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ９４～１１２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 ｐ１１２～１１９ 【予習復習に必要な想定時間】 ６０分
	第８回	子どもの疾病と適切な対応 【key words】 てんかん、脳性まひ、心室中隔欠損、ネフローゼ症候群、糖尿病、喘息、食物アレルギー、発達障害 【授業概要】 先天性疾患、慢性疾患、発達障害のある子どもへの適切対応について学ぶ。 【教科書ページ・参考文献】 ｐ１１２～１１９

【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１２０～１３７
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第９回　事故防止および健康安全管理
【key words】
子どもの事故、安全保育、災害時
【授業概要】
子どもの事故の特徴、保育における安全教育、災害時等の対応について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１２０～１３７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１３８～１４３
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１０回　保育の場における救急蘇生法
【key words】
救急蘇生法、反応、呼吸、大出血、体位、体温、救急車
【授業概要】
救急蘇生法の概念と目的、アルゴリズム、観察ポイント、体位管理、体温管理、救急車の要請方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１３８～１４３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１４３～１５５
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１１回　子どもにおける一次救命処置
【key words】
意識・呼吸確認、胸骨圧迫、人工呼吸、AED、気道異物

【授業概要】
一次救命処置の意義、ガイドライン、手順、留意点、気道異物の除去方法について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１４３～１５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１５５～１７０
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１２回　起こりやすい事故と応急手当
【key words】
外傷、熱中症、溺水、異物の誤飲・誤嚥

【授業概要】
外傷、熱中症、溺水、異物の誤飲・誤嚥など起こりやすい事故と応急手当について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１５５～１７０
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１７１～１９２
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１３回　予防すべき感染症
【key words】
感染症、予防接種

【授業概要】
保育園・幼稚園・学校において予防すべき感染症と発生時の対応、予防接種について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
p１７１～１９２
【課題・予習・復習・授業準備指示】
p１９２～１９７
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１４回　予防接種、保育の場で行う感染の予防
【key words】
保育の場、感染症予防

【授業概要】
手の清潔、保育室・教室の消毒と清掃、トイレ・おむつ交換台のの清潔、屋外の清潔の確保について学ぶ。

【教科書ページ・参考文献】
p１９２～１９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
期末まとめ
【予習復習に必要な想定時間】
６０分

第１５回　まとめ
【key words】
健康発達観察、保健環境整備、生活習慣形成、病気予防、事故防止、救急蘇生法、感染症の予防

	【授業概要】 子どもの健康発達の観察、保健環境の整備、生活習慣形成の支援、病気の予防と対応、事故防止、救急蘇生法、感染症の予防について復習する。 【教科書ページ・参考文献】 プリント 【課題・予習・復習・授業準備指示】 期末試験の準備 【予習復習に必要な想定時間】 ２４０分
受講生に関わる情報および受講のルール	教科書を中心として、プリント、スライドを使用して講義をする。ノートをきちんととること。実習の準備から実施、後片付け、清掃まで積極的な態度で取り込むこと。携帯電話・スマートフォンは机の上に置かずにバッグにしまっておくこと。私語厳禁。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業時の指示する
オフィスアワー	授業終了後３０分まで
評価方法	筆記試験（80%）、ノート（20%）
教科書	今井七重　編著　　子どもの保健Ⅱ　　（株）みらい　　最新版
参考書	講義に必要な資料、プリントなど適宜配布する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク □プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等) □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等) □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等) □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 道徳の理論及び指導法　　授業コード：S5085

英文科目名称： Moral theory and teaching methods

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
岡野　康幸			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	【授業の目的】道徳心をどのように育てていくのかを建学の精神と関連しながら、「小学校・中学校道徳化指導に必要な知識・技能の習得」をすることで学んでいく。 【到達目標】①「道徳科学習指導要領の目標と内容及び解説」について理解することができる。②教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業や授業研究会の実践を通して、道徳科の実践的指導力を身に付けることができる。
授業の概要	小学校・中学校道徳化指導に必要な教師の理論面・実技面での基礎基本を身に付ける。その基礎基本の力量を活用して、教材研究の仕方、学習指導案の作成、模擬授業、授業研究会等を行う。児童・生徒が日常的に経験する事例から道徳の端緒を探り、どのように拡充していくか考察する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	◎
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第1回	オリエンテーション（授業概要、評価方法等）、道徳の本質・意義 【key words】 道徳の本質 【授業概要】 授業の進め方や概要を説明します。また道徳の本質とはどういうことなのか。教育の視点から考察する。 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第2回	建学の精神「仁」から、道徳心について考える 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第3回	道徳教育の歴史、学習指導要領の目標と内容 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】

	第4回	子どもの心の成長と道徳性の発達について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第5回	現代社会における道徳教育の課題について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第6回	道徳科指導計画：全体計画、年間指導計画、教育活動全体を通じた指導について 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第7回	様々な指導法（ティーム・ティーチング、ロールプレイング、ペープサートや場面絵、類型化、板書、説話等） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第8回	評価方法（記述による評価、個人内評価、ポートフォリオ評価、座席表・通知票の評価、組織を生かした評価等） 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第9回	学習指導案の基本的な作成方法 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第10回	学習指導案の作成・模擬授業の準備① 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
	第11回	学習指導案の作成・模擬授業の準備② 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】

	【予習復習に必要な想定時間】 第12回　学習指導案の作成・模擬授業の準備③ 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第13回　模擬授業①、授業研究会① 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第14回　模擬授業②、授業研究会② 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 第15回　日常の事例から改めて道徳について考える 【key words】 【授業概要】 【教科書ページ・参考文献】 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】
受講生に関わる情報および受講のルール	・周囲の迷惑になるので私語は慎むこと。注意をしてもやめない時は退室を命ずる。 ・本人の責に帰す遅刻早退は認めない。 ・不明な用語に当たったら、辞典類で調べること。 ・臨機応変の対応ができるよう、15回の講義中に１人１分で発表をしてもらいます。 ・シラバスは講義の進行状況によって変わることもある。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	教育に関する新聞記事等の情報を常に把握していること。
オフィスアワー	火曜日16時～18時
評価方法	筆記試験50%、学習指導案の作成30%、小テスト・レポート20%
教科書	文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　特別の教科　道徳編」廣済堂あかつき、文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　特別の教科　道徳編」教育出版、貝塚茂樹・林泰成『道徳教育論』放送大学教育振興会、2021年3月
参考書	・文部科学省「わたしたちの道徳（小学校1・2・3・4年、5・6年）各文渓堂、教育出版、廣済堂あかつき2015年6月。文部科学省「私たちの道徳（中学校）」廣済堂あかつき、2015年6月、文部科学省「私たちの道徳」活用のための指導資料。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等）

	□情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　特別活動の指導法　　授業コード：S5101

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動・学校行事・クラブ活動の目標･内容等を理解し、小･中・高等学校教師として、特別活動を指導できる資質や能力の育成を図る。
授業の概要	特別活動の内容構成と教育的意義、特別活動の目標と基本的な性格、学級（ＨＲ）活動・児童会（生徒会）活動･学校行事・クラブ活動の目標･内容等を講義やグループ協議を通して理解する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション　特別活動とはどんな学習活動か 【key words】 思い出に残る特別活動　集団活動 【授業概要】 オリエンテーション、シラバス、学習活動としての集団活動の特質を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ８～１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１８～２９ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	特別活動の教育上の特性 【key words】 教科教育　課外活動　世界の学校　日本の学校教育　特別活動の位置づけ 【授業概要】 特別活動の教育上の特質を知り、これからの日本の学校教育における特別活動について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１８～２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３０～３８ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	特別活動の目標と主な内容 【key words】 特別活動の目標　学級活動・ＨＲ活動　児童会活動･生徒会活動　クラブ活動　学校行事　国旗･国歌の取り扱い 【授業概要】 特別活動の目標と主な内容を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ３０～３８ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３９～４６

【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　特別活動の教育課程上の位置づけ
【key words】
各教科との関連　道徳教育との関連　総合的な学習の時間との関連　学級経営との関連　生徒指導･キャリア教育との関連
【授業概要】
特別活動の教育活動全体における意義を知り、各教科・外国語活動・道徳教育・総合的な学習の時間や学級経営・生徒指導･キャリア教育との関連を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３９～４６
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４７～６４
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　特別活動で教師に求められる力量
【key words】
教師の指導力　ガイダンスとカウンセリング　構成的グループエンカウンター　ＣＳＳ
【授業概要】
特別活動で教師に求められる力量について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４７～６４
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ６５～７５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　特別活動と学級経営　学級集団の心理学
【key words】
学習指導要領　学級風土　学級集団づくり
【授業概要】
特別活動と学級経営の関係を知り、学級集団の心理学について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６５～７５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７６～８７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　特別活動の全体計画と指導計画
【key words】
全体計画　年間指導計画　教師のリーダーシップ
【授業概要】
特別活動の全体計画と年間指導計画について知り、教師のリーダーシップの重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７６～８７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８８～９７
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　学級活動・ホームルーム活動とは
【key words】
学級活動　ホームルーム活動
【授業概要】
小・中学校における学級活動の目標や学習過程、内容や指導計画について理解する。
高等学校のホームルーム活動について理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８８～９７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ９８～１１５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　学級活動の指導の実際
【key words】
学級会　学年オリエンテーション　クラス会議　キャリア教育
【授業概要】
小中学校の学級活動の指導の実際を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９８～１１５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１６～１２１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　児童会・生徒会活動とは
【key words】
生徒会活動　児童会活動
【授業概要】
児童会活動・生徒会活動の成立と展開、目標と内容、指導計画、指導上の留意点を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１１６～１２１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２２～１３２
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

	第１１回　児童会･生徒会活動の指導の実際 【key words】 指導計画　指導内容　荒れの見られる集団 【授業概要】 児童会･生徒会活動の児童計画や指導内容を知り、指導の実際について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１２２～１３２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１３３～１４５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　クラブ活動の内容と指導の実際 【key words】 クラブ活動　位置づけ　年間指導計画　部活動 【授業概要】 クラブ活動の内容と指導の実際を理解する。また、荒れの見られる集団で行うクラブ活動や部活動の指導のポイントも理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１３３～１４５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４６～１５２ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　学校行事とは 【key words】 学校行事　内容　指導計画 【授業概要】 学校行事の目標や学習過程、内容について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４６～１５２ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１５３～１６１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１４回　学校行事の指導の実際 【key words】 指導のポイント　指導事例 【授業概要】 学校行事の指導の実際を理解する 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１５３～１６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１６２～１７３ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　特別活動における評価　まとめ 【key words】 評価の意義　評価の方法　評価の具体 【授業概要】 特別活動における評価の意義や方法を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６２～１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けてまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験（８０％）　授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	河村茂雄編著　特別活動の理論と実際　図書文化　２，２００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領　特別活動編（文部科学省）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小・中学校の教諭経験　公立小学校の管理職経験 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション

	□実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　生徒指導・進路指導の理論と方法　　授業コード：S5131

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・必修／児童福祉コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	いじめ、不登校、自殺、体罰、暴力、万引き等の問題行動を示す児童生徒をはじめとして、規範意識の低下、人間関係の希薄化等、様々な課題が学校教育にはある。教師としてこれらの生徒指導上の諸課題に適切に対応できる基礎的･基本的な資質･能力を備えた教師の育成を図ることを目的としている。
授業の概要	小･中･高校教諭として求められる生徒指導に関する基礎的知識や援助・指導方法等について、講義やグループワーク、話し合いを通して習得する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	△
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	△
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	○
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	△
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画	第１回	生徒指導とは 【key words】 生徒指導　日本の学校教育の特徴 【授業概要】 日本の学校教育の特徴を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１０～２１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２２～３５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	現代の子どもとこれからの生徒指導 【key words】 発達課題　対人関係 【授業概要】 子どもの発達課題や対人関係の変化を知り、現代の子どもとこれからの生徒指導のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２２～３５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ３６～６１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	教育活動における生徒指導 【key words】 教育活動　子どもの理解　資料 【授業概要】 学習指導と生徒指導の関係を知り、教育活動における生徒指導の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ３６～６１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ６２～７３

【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第４回　生徒指導体制と組織的な取組
【key words】
学級担任　教科担任　校務分掌　年間指導計画
【授業概要】
学級担任や教科担任等の校務分掌を知り、生徒指導体制の確立と組織的な取組の重要性を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６２～７３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ７４～８１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　生徒指導に関する主な法令
【key words】
法令　懲戒　校則　体罰　中途退学
【授業概要】
生徒指導に関する主な法令を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ７４～８１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８２～９９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　進路指導･キャリア教育とは
【key words】
進路指導　キャリア教育
【授業概要】
進路指導・キャリア教育の内容と指導の実際を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８２～９９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１００～１１３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　現代の子どもを取り巻く問題
【key words】
社会の変化　子どもの変化
【授業概要】
現代の子どもを取り巻く生徒指導上の課題を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１００～１１３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１４～１２５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　不登校の理解と対応
【key words】
不登校
【授業概要】
不登校の現状と対応についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１１４～１２５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１２６～１４１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　いじめの理解と対応
【key words】
いじめ　実態調査
【授業概要】
いじめの全般的傾向を知り、対応についての理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１２６～１４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１４２～１５９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　非行の理解と対応
【key words】
非行　対応事例
【授業概要】
非行の理解と対応について知る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ１４２～１５９
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１６０～１７３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　学級崩壊･授業崩壊の理解と対応

	【key words】 学級崩壊　授業崩壊　予防 【授業概要】 学級集団が崩壊する際の学校種ごとの特徴を知り、学級崩壊や授業崩壊を予防する指針を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６０～１７３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１７４～１８３ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　家庭･地域･関係機関との連携 【key words】 地域社会　関係機関　教育センター 【授業概要】 地域社会と学校との関係を知り、家庭･地域･関係機関とのよりよい連携を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１７４～１８３ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１８４～１９７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　特別支援教育と生徒指導 【key words】 特別支援教育　障害特性 【授業概要】 特別支援教育における生徒指導のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１８４～１９７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書１９８～２０９ 【予習復習に必要な想定時間】 第１４回　進路指導・キャリア教育の展開 【key words】 進路指導　キャリア教育　ガイダンス　ポートフォリオ 【授業概要】 ガイダンスの機能を生かした進路指導･キャリア教育のあり方を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１９８～２０９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２１０～２１７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　高等学校中途退学問題の理解と対応　まとめ 【key words】 中途退学 【授業概要】 高等学校教育に内在する諸問題を知り、中途退学の現状と相談･指導のポイントを理解する。 試験に向けてのまとめ 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２１０～２１７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 試験に向けてまとめ 【予習復習に必要な想定時間】 ５時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験（８０％）　授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	河村茂雄編著　生徒指導･進路指導の理論と実際　図書文化　２，２００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領（文部科学省）　生徒指導提要（文部科学省）
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小･中学校教諭　公立小学校管理職 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク

	□アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　総合的な学習の時間の指導法　　授業コード：S5135

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
青木　美穂子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	総合的な学習の時間の特徴である、探求的な見方･考え方･総合的･横断的な学習の仕方を理解し、各教科等の見方･考え方を総合的に活用して、児童生徒一人一人の豊かな学びの実現に向けた指導力を身に付ける。
授業の概要	小学校･中学校･高等学校の各学校段階における総合的な学習の時間に必要な知識･技能（学習指導要領･解説の理解、年間指導計画･単元計画の作成、各教科等の関連性、評価方法等）を身に付ける。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	△
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	△
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	○
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	○
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	△

授業計画	第１回	オリエンテーション　　進化し、教育課程の中核を担う総合的な学習の時間 【key words】 アクティブ･ラーニング　学びの地図　カリキュラムデザイン 【授業概要】 教育課程の中核を担う総合的な学習の時間の重要性を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ８～１５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１６～２１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第２回	資質･能力の三つの柱と目標の改訂 【key words】 三つの柱　横断的・総合的　探求 【授業概要】 改訂された資質･能力の三つの柱と目標を理解する。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１６～２１ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２２～２７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第３回	目標と内容のポイント 【key words】 総合的な学習の時間の目標と内容　資質･能力 【授業概要】 同号的な学習の時間の目標と内容を理解し、育成を目指す資質・能力を知る。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ２２～２７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ２８～３１ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
	第４回	他教科等で育成を目指す資質･能力との関連　日常生活や社会との関わりの重視

【key words】
他教科との関連　日常生活とのかかわり
【授業概要】
他教科等で育成を目指す資質･能力との関連を理解する。
日常生活や社会との関わりを重視していることを理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ２８～３１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ３２～４１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第５回　探求課題の解決
【key words】
探求課題　横断的･総合的な課題　地域や学校の特色　興味・関心
【授業概要】
横断的･総合的な課題や地域や学校の特色に応じた課題等、探求的な課題について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ３２～４１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ４２～５５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第６回　指導計画
【key words】
全体計画　年間計画　単元計画
【授業概要】
全体計画や年間計画･単元計画について理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ４２～５５
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ５６～６５
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第７回　学習指導（比較･分類、ＩＣＴ活用、体験活動）
【key words】
比較･分類　ＩＣＴ　体験活動
【授業概要】
比較･分類、関連図蹴る技法の活用やＩＣＴの活用、体験活動の充実等の指導方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ５６～６７
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ６８～８３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第８回　学習指導（指導体制・地域教材･学習環境の活用、調査活動、プログラミング）
【key words】
指導体制」地域教材　プログラミング
【授業概要】
指導体制の工夫や地域教材の活用、調査活動やプログラミング体験の充実等の指導方法を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ６８～８３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ８４～９３
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第９回　評価
【key words】
評価の基本　児童の評価　教師の評価　指導計画の評価
【授業概要】
評価の基本や児童の評価、教師の評価、指導計画の評価等を理解する。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ８４～９３
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ９４～１１１
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１０回　新授業プラン（３年生）　授業プラン作成の計画
【key words】
授業プラン（３年生）
【授業概要】
３年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プラン作成の計画を立てる。
【教科書ページ・参考文献】
教科書Ｐ９４～１１１
【課題・予習・復習・授業準備指示】
教科書Ｐ１１２～１２９
【予習復習に必要な想定時間】
１時間

第１１回　新授業プラン（４年生）
【key words】
授業プラン（４年生）
【授業概要】

	４年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成に取りかかる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１１２～１２９ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１３０～１４７ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１２回　新授業プラン（５年生） 【key words】 授業プラン（５年生） 【授業概要】 ５年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成を進める。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１３０～１４７ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 教科書Ｐ１４８～１６５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１３回　新授業プラン（６年生） 【key words】 授業プラン（６年生） 【授業概要】 ６年生の授業プラン例を学習し、自分の授業プランの作成をまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１４８～１６５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 中学校教科書Ｐ１１２～１６５ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１４回　新授業プラン（中学生） 【key words】 授業プラン（中学生） 【授業概要】 中学１・２・３年生の授業プラン例を学習し、自分の学習プラン作成を仕上げる。 【教科書ページ・参考文献】 教科書Ｐ１１２～１６５ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間 第１５回　授業プラン発表 【key words】 授業プラン発表 【授業概要】 作成した授業プランの発表する。 発表を聞いて互いに学びあう。 【教科書ページ・参考文献】 まとめ 【課題・予習・復習・授業準備指示】 まとめ 【予習復習に必要な想定時間】 １時間
受講生に関わる情報および受講のルール	誠意ある態度での受講を求めます。講義や実習等を妨げる態度や私語を慎んで下さい。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	授業中に指示します。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	レポート（授業プラン）作成と発表（８０％）　授業態度（２０％）を総合して評価します。
教科書	田村学編著　小学校新学習指導横領の展開　総合的な学習　明治図書　１８００円＋税
参考書	小･中･高等学校学習指導要領　総合的な学習の時間編　文部科学省
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 公立小･中学校教諭　公立小学校管理職 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育

	■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） ■情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称：　特別支援教育論　　授業コード：S5421　S5422

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3年次	2単位(30)	学校教育コース・初等教育コース・選択
担当教員			
小林　義信・鈴木　淳			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害等、様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒の授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるようう、子供たちの学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な基礎的な知識や支援方法を理解する。
授業の概要	テキストをもとに、特別支援教育の制度、内容、発達障害等の障害特性、通常学校における特別支援教育、学級経営、生活指導、授業づくり、教育課程、個別の教育支援計画、個別の指導計画、特別支援教育コーディネーターの役割、家庭や地域との連携、支援体制、外国籍の児童生徒等への支援について学習する。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	◎
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	○
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	◎
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	△
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	○

授業計画

第1回　オリエンテーション、本講義の目的　特別支援教育の概要

【key words】
特別支援教育、重複障害、盲聾、点字。指文字
【授業概要】
オリエンテーションを受けることで本講義の概要、目的、評価方法等を理解し、各自の学修の見通しをもつ。重複障害教育の実践映像を視聴することで、特別支援教育の実際に触れる。
【教科書ページ・参考文献】

【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバスや教科書の目次等を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第2回　特別支援教育の変遷　　統合教育　　インクルーシブ教育　　特別支援教育の現行制度

【key words】
特別支援教育の理念　統合教育　　インクルーシブ教育　　特別支援学校　特別支援学級　通級指導教室
【授業概要】
教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P10～P23
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第3回　障害特性の理解と学習指導・生活指導①　視覚障害

【key words】
視機能　盲　弱視　触覚特性　ブラインディズム
【授業概要】
視覚の生理と病理、視機能、盲と弱視、視覚障害児の心理特性、視覚障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P152～P165
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第4回　障害特性の理解と学習指導・生活指導②　聴覚・言語障害
【key words】
ことばの鎖　言語習得　speechとlanguage　構音障害　吃音
【授業概要】
聴覚・言語の生理と病理、言語発達、聴覚・言語障害の臨床類型、聴力レベルと聴覚保障、聴覚・言語障害児の言語と心理、聴覚・言語障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P166～P181、P134～P151
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第5回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導③　肢体不自由(運動機能障害)、摂食嚥下障害
【key words】
姿勢　運動　感覚　摂食嚥下　リスク管理
【授業概要】
四肢・頭頚部体幹、運動と感覚の生理・病理、運動発達、肢体不自由児の心理特性、肢体不自由児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、摂食嚥下障害における食事介助とリスク管理 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P182～P195
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第6回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導④　知的障害
【key words】
IQ　社会適応行動 知的発達　運動発達　重複障害
【授業概要】
知的精神活動と大脳機能、AAIDD(旧AAMR)による知的障害の定義、知的障害児の心理特性、知的障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P210～P219
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第7回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導⑤　病弱・身体虚弱(内部障害)
【key words】
学習空白　自己管理支援　自尊感情　医療的ケア　特定行為
【授業概要】
代表的な内部障害の病態とそれに伴う生活制限、病弱・身体虚弱児の心理特性、病弱・身体虚弱児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、特別支援教育における医療的ケア について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P196～P209
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第8回　障害特性の理解音と学習指導・生活指導⑥　発達障害、情緒障害
【key words】
発達障害者支援法　学習障害　注意欠陥多動性障害　自閉症スペクトラム障害　情緒障害
【授業概要】
発達障害者支援法、発達障害の臨床特性(LD、ADHD、ASD)、発達障害児に対する教科指導と生活指導の基本的な配慮事項、情緒障害の特徴と教育的・福祉的配慮事項 について学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書P78～133
【課題・予習・復習・授業準備指示】
シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。
【予習復習に必要な想定時間】
受講のルール参照

第9回　障害はないが特別な教育ニーズがある子どもたちの学習上または生活上の困難とその対応
【key words】

		外国につながる子ども、国籍、就学義務　日本語教室　絶対的貧困　相対的貧困　子どもの権利条約　児童相談所　虐待 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P220～P235 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第10回	特別支援学校における教育の仕組みとその実際（教育課程　各教科・各教科等を合わせた指導　自立活動）① 【key words】 特別支援学校（視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱）　障害の程度と特性、特別支援学校の教育課程 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P46～P52 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第11回	特別支援学校における教育の仕組みとその実際（教育課程　各教科・各教科等を合わせた指導　自立活動）①　　自立活動　② 【key words】 準ずる教育、特別な教育課程　生活科　日常生活の指導　遊びの指導　生活単元学習　作業学習　自立活動　特別支援教育のセンター的機能 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P51～P58 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第12回	個別の教育支援計画及び個別の指導計画　作成の意義と方法 【key words】 個別の教育支援計画　個別の指導計画　関係機関との連携　教育目標　手立て　評価 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P28～P31 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第13回	小・中学校における特別支援教育の仕組（特別支援教育コーディネーター　関係機関・家庭との連携） 【key words】 特別支援学校のセンター的機能　特別支援教育コーディネーター　発達障害（LD、ADHD、広汎性発達障害） 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P24～P33、P58～P59 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、内容を確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
	第14回	特別支援学級や通級による指導の仕組みとその実際 【key words】 特別支援学級　通級による指導　対象とする障害種　教育課程　自立活動 【授業概要】 教科書の内容を中心に説明をしていく。その過程で、必要に応じて学生に質問をし、理解度を確認する。キーワードについては、内容を理解し説明できるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 教科書P36～P45 【課題・予習・復習・授業準備指示】 シラバス、教科書を読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。キーワードについては、説明できるようにしておく。 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照

	第15回　　まとめ 【key words】 行動の理解と対応 【授業概要】 提示された事例をもとに、事例が示す行動の理解とその対応について考え、レポートにまとめる。 【教科書ページ・参考文献】 シラバスを読んでおく。日頃から新聞、インターネット等で特別支援教育関係の記事の情報収集をしておく。これまでの学修を整理し、特別な支援を必要とする子どもへのかかわりのポイントを確認しておく。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 【予習復習に必要な想定時間】 受講のルール参照
受講生に関わる情報および受講のルール	1　教科書を事前に読んで予習をしておくこと。（1時間程度） 2　学修の過程でに生じた疑問等は積極的に質問して、内容理解に努める。 3　授業後復習することで内容理解に努める。　（1時間程度） 4　やむを得ず授業を欠席する場合には、メール等で必ず講師に連絡する。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	授業中に質問できなかった事項については、コメントカードやメール等を利用して早めに担当教員にコンタクトを取り、疑問のまま放置しない。学習の進捗状況については、コメントカード、授業中の質問、ワークシート等で確認する。
授業外時間にかかわる情報	1　特別支援教育に関する情報を日頃から新聞記事やインターネット等で収集に努める。
オフィスアワー	小林　火・水　（17:00～18:00）　2号館 2階 高等教育支援センター室 鈴木淳　水　（17:00～19:00）　1号館 2階 204研究室
評価方法	レポート　30%　　試験　70%
教科書	大塚玲編著　「教員をめざすための特別支援教育入門」萌文書林
参考書	湯浅恭正編　「よくわかる特別支援教育」第2版　ミネルヴァ書房 文部科学省　特別支援学校　幼稚部教育要領、小学部・中学部学習指導要領 河合康・小宮三弥編著　「わかりやすく学べる特熱支援教育と障害児の心理・行動特性」北樹出版
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 （小林） 群馬県立の特別支援学校（知的特別支学校・肢体不自由特別支援学校）での教諭としての勤務年数31年間、教頭としての勤務年数2年間、副校長としての勤務年数1年間、校長としての勤務年数3年間をもとに、特別支援学校における教育実習の基礎的知識（教育実習の意義、学校組織、生徒理解、学習指導案の作成、授業研究の仕方等）について指導する。 （鈴木） 主に大学病院等で言語聴覚士として、乳幼児から高齢者まで広くリハビリテーション臨床に37年間従事してきた実務経験を有する。これには、機能回復訓練習（治療）の他、家族支援、就学・復学・復職支援、多職種連携等含む。また、特別支援教育コーディネーターと協働して支援対象幼児・児童・生徒および担任教諭への専門アドバイスも行ってきた。大学では障害学生学修支援室支援コーディネーター教員も兼任している。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) □ディスカッション・ディベート □グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： 小学校教科教育法（外国語）　　授業コード：S5691

英文科目名称： 小学校外国語に関わる指導法の講義

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	3年次	2単位(60)	初等教育コース・選択
担当教員			
上原　修			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	この講義は、小学校の外国語（英語）教育法・指導法を学習するすることを目的とする。教育実習、その後の教師として授業をする際に基礎・基本等となる講義内容であり、自信をもって授業に臨める内容としたい。
授業の概要	講義の主な内容としては、「外国語活動と外国語科との相違と言語材料」「指導者の役割と資質及び研修」「指導過程と学習指導案づくり」「領域別等の指導方法」「クラスルームイングリッシュの使い方」「教材研究」「指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例」「評価の在り方、進め方」「児童の関心や意欲を高める指導」「授業づくり、模擬授業」「（中間時）のまとめテスト」等である。 実際に授業をすることを常に念頭に置いた講義としたい。授業の際の基本となる知識及び技能を身に付けられる内容であり、まとめのテストや模擬授業・授業準備などを重視したい。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	

授業計画	第１回	オリエンテーション（授業概要、評価方法）、学習指導要領「外国語活動」「外国語」の目標と内容 【key words】 外国語指導法、年間、１講義の授業の流れ、評価方法等 【授業概要】 ○オリエンテーション ・自己紹介（講義への抱負等） ・第１～３０回までの授業の概要について説明する。また、１講義あたりの授業の流れ（導入、展開、まと　め、振り返りの過程）についても説明し、それぞれの過程ではどのような学習が行われるかについて説明　する。 ・評価の仕方や評価する際の重点について説明する。 ・講義の主な内容についての説明、例えば、授業づくり、教材研究、年間指導計画、指導過程、模擬授業な　ど、小学校で外国語を指導する際に基礎となる内容についてその概要を説明する。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第２回	外国語指導法、学習指導要領との関わり 【key words】 学習指導要領の特徴及び法的根拠、育成すべき資質・能力、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方、指導形態等 【授業概要】

		○教育に関わる法律という視点で、法規を憲法から学習指導要領に至るまでを構造的に捉える。それぞれの法　的特徴を考察するとともに、学習指導要領の法的根拠を確認する。 ○児童に育むべき資質・能力についての確認（①学びに向かう力・人間性等の涵養、②知識・技能の習得、　③思考力・判断力・表現力等の育成） ○外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方について説明する。（①外国の文化や社会、人間　とのかかわり方などについて知り、②外国語の　文法、語彙、文の構造、表現方法等を「話すこと」や　　「聞くこと」の活動を通して学び、③身に付けた知識や技能等（＝文法、語彙、文の構造、表現方法等）　を活用して、自分の考えや持っている情報などを、目的や場面、状況等に応じて伝え合う。） ○授業形態について概説する。等 【教科書ページ・参考文献】 復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書等 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第３回	第３回　第二言語習得について 【key words】 第二言語習得過程、臨界期仮説、統語の習得順位、情意面や母語への影響 【授業概要】 ○音声や語彙の習得過程、臨界期仮説、音声や語彙の習得、統語の習得順位、情緒面や母語への影響 ・第二言語を習得する上での仮説や音声・語彙の習得について理解する。また、第二言語を習得することに　　よって母語や情緒面への影響などについても理解する。 ○第二限度習得に関わる理論の紹介 ・外国語活動や外国科を指導する上で関係の深い習得理論について理解し、実際の授業でどのように活用す　　ることが有効かなどについて理解する。 ○習得をより確実にするための学習者の要因 ・習得理論を活用して指導を実施する際に、学習効果をより高めるたには、学習者の要因が大切であること　　について例を基にしながら理解する。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第４回	外国語活動と外国語科との相違と言語材料等 【key words】 外国語活動と外国語科との相違点や共通点、外国語活動と外国語科とのそれぞれの言語材料、言語活動、望ましい発問について等 【授業概要】 ○外国語活動と外国語科との相違点 ・外国語活動と外国語科との相違点について概説する。相違点を確認し、授業づくりの際の留意点について概　説する。 ○外国語活動と外国語科の共通点 ・外国語活動と外国語科に共通する３点について考察する。また、文字、語彙などに関わる指導や文構造、　　言語の使用場面の働きについても説明する。 ○外国語活動・外国語科の言語材料 ・今回の学習主導要領で取り上げられている言語材料は、「音声」、「文字及び符号」、「語、連語及び慣　　用表現」、「文及び文構造」などの４つであり、それぞれについて概説する。 ○望ましい発問 ・気付きを促す、理解度を確認する、考えや気持ちを引き出すなど、目的別に発問の方法などについて学習　　する。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第５回	小学校４年間の授業デザインの基礎・基本 【key words】 小学校４年間を見通した指導計画の在り方と考え方、到達段階時の児童像の明確化及び共通理解、バックワードデザインによる各学年の目標の明確化、児童ルーブリック（評価基準表）やＣＡＮ―ＤＯ評価 【授業概要】 ○小学校４年間を見通した指導計画の在り方と考え方 ・小学校の「外国語活動」「外国語科」の４年間の指導を通して、児童に必要な資質や能力について考察す　　るとともに、授業の指導計画の立て方や立てる際の留意点などについて概説する。 ○バックワードデザインによる各学年の目標の明確化 ・指導計画を立てる場合には、６学年修了時の目指す児童像（到達目標）から始め、第５学年修了時の児童　　像、第４年学年修了時の児童像と、学年を遡って目標を定めることが大切なので、その際の重点について　　学習する。 ○単元のデザイン ・単元のデザインのために、単元の目標、タスク（課題）、ルーブリック（評価基準表）を準備することが　　必要であることや、CAN-DOリストについても概説する。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】

		予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第６回	指導者の役割と資質及び研修 【key words】 外国語教育の指導者の役割や指導形態、外国語の指導者に求められている資質や能力、よりよい外国語教育の指導者を目指すための研修等 【授業概要】 ○外国語を指導する際の指導者の役割（学級担任の役割） ・外国語学習では学級担任単独、学級担任＋ＡＬＴ、学級担任＋特別非常勤講師などの指導形態が一般的で　あり、それぞれの形態について概説する。 ○指導者に求められる資質や能力 ・外国語指導に関する知識や実践力 ①小学校外国語教育の意義や目的などについて理解している。 ②指導目標や領域別目標を作成し、その目標に則して年間指導計画や学習指導案の作成ができる。など　について学習する。 ・英語運用能力 ①音声、語彙、文法、言語の働き等について、知識や理解のレベルでは、高校卒業程度の英語力、運用 レベルでは、中学校程度の英語力が、必要であることを理解し、向上させつための手立て等についても　学習する。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第７回	指導目標、領域別目標、年間指導計画の立て方と具体例 【key words】 指導目標、領域別目標、年間指導計画の設定、国際理解教育の目標、学習指導要領のおける外国語活動、外国語科の目標の確認、地域や学校の条件や特色、年間指導計画の立て方 【授業概要】 ○指導目標、領域別目標、年間指導計画の設定 ・指導目標、領域別目標、年間指導計画の設定に必要な、「学習指導要領改訂の趣旨」や「国際理解教育の目　標」などについて概説する。 ○国際理解教育の目標 ・国際理解教育を進める上で、国際社会で求められている３つの態度や能力などについて概説する。 ○領域別目標 ・小学校から高等学校まで、一貫してコミュニケーション能力の育成を図るために設定された領域別目標に　ついて概説する。 ○地域や学校の条件や特色 ・各学校においては、地域や学校の条件等を十分に配慮して、指導目標や年間指導計画の設定等を行う必要　がある。その際の重点や留意点について学習する。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	８回	指導方法、理論と授業での活かし方 【key words】 各指導法（理論）についての概説、指導法を活かした授業づくり、指導法の選択、学習形態、学習過程 【授業概要】 ○児童の資質や能力を育む小学校外国語の授業づくり ・小学校における外国語活動及び外国語科で求められている資質や能力を育成ための授業づくりについて概　説する。 ○指導法（理論）と授業での活かし方 ・Communicative Language Teaching（CLT伝達中心の指導法）、The Natural Approach（ナチュラル　アプローチ）、Content-Based Instruction（CBI　内容中心の指導法）、Content and Language Integrated Learning（CLIL、内容言語統合型学習）などの指導法の特徴や授業での活かし方について概説する。 ○授業づくりに際しての指導法の選択 ・指導法の選択に当たっては、児童の発達段階と英語の学習段階のバランスを考えることが重要であり、各　種指導方法を選択する際の留意点について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
	第９回	まとめテスト① 【key words】 第１回～第８回までの講義内容の理解や習得についての確認

【授業概要】
○第１回～第８回までの講義内容について、特に、重要なポイントにつてまとめのテストを行う。
【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１回～第８回までの資料等をよく読んで理解してください。
【予習復習に必要な想定時間】
理解が確認できる時間
理解できる時間

第１０回　教材の構成と内容

【key words】
教材の役割と使用法、教材、テキスト作成の基本方針、題材配列（シラバス）、文法・構造シラバス、題材（話題・場面）シラバス、タスクシラバス等、日本で使用される教科書の構成と内容
【授業概要】
○教材の役割と使用法
・授業における教材の役割、特に教材の中心である教科書や他の教材の役割、その使用方法などについて説　明する。
○教材、テキスト作成の基本方針
・学習者に身に付けさせたい知識や技能、態度などを効果的に、無理なく学習をさせるための重要なポイン　トや留意点について考察する。特に、基本方針や題材配列（シラバス）などについて概説する。
○日本で使用されている教科書の構成と内容
・小学校で使用されている教科書や教材は、「複合型シラバス」に基づいて作成されていることや、以前の　教材と比べると、言語活動をさらなる充実させたり、表現や語彙数を増加させたりして、レベルが高くな
っていることなどについて、外国語活動の早期化や教科化と関連付けて概説する。
【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第１１回　いろいろな教材、教具の活用方法

【key words】
教材や教具の選定の視点（①音声や基本的な表現に慣れ親しませる、②主体的コミュケーションを図ろうとする態度の育成）、実物・模型・写真・パペットなどの作成、ＣＤ・ＤＶＤ・タブレットなどの活用方法等
【授業概要】
○教材、教具の選定の視点
・授業構想で大切にしたい視点について概説する。（視点①音声や基本的な表現に慣れ親しませる、視点　②主体的コミュケーションを図ろうとする態度の育成）
○実物、模型、写真、パペットなどの教材・教具の活用について
・食べ物の名称を導入する際に使える模型や、月の名前を紹介する場合のカレンダー（日本のものと外国の　ものがあれば一層興味深い）、数字の紹介にも使える外国語紙幣等、具体物の効果的な使い方等について　概説する。
○ＣＤ、ＤＶＤ、タブレットなどの活用について考察する。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第１２回　教材研究（１）

【key words】
望ましい活動の条件と活動の選択、開発の視点、具体的な指導例（歌、チャンツ、ライム、クイズやゲーム等）
【授業概要】
○望ましい活動の条件と活動の選択、開発の視点
・児童が、楽しく学習することができるように、また、学習する（した）表現や語彙を使っての歌やチャン　ツ、クイズやゲーム等について、選択や開発の視点を踏まえ考察する。
○歌、チャンツ、ライム、クイズやゲーム等を活用する際の準備の仕方や重点について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第１３回　教材研究（２）

【key words】
コミュニケーション・自己表現活動、国際理解活動
【授業概要】
○コミュニケーション・自己表現活動を行う際の条件や留意点
・これらの活動をする際に備えておくべき条件や留意点等（自己と伝える内容に関連性がある。他者と関わ　り合いを持つ必然性が内包されている。ことなど）について概説する。
○改善・開発の視点
・児童に、より質の高い、望ましい活動を提供するためには、文科省の共通教材や教科書、市

販の教材に示　　されている活動に改善を加えたり、独自に新しい活動を開発したりすることが大切であり、その際に留意　　すべき点にについて学習する。
○国際理解活動
　・国際理解活動について、その目標や具体的な活動について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第１４回　教材研究（３）
【key words】
プロジェクト活動、国際交流活動、絵本等のそれぞれの具体的な活動内容や活動する際の留意点
【授業概要】
○プロジェクト活動
　・プロジェクト活動の理解やその具体例について概説する。（理想の給食づくり、自己紹介絵本の作成等）
○国際交流活動
　・国際交流活動の具体的な活動、交流会、ＴＶ会議、インタビュー活動、文通等、様々な方法があることを　　紹介するとともに、その意義について概説する。
○絵本
　・この項目は、「外国語概論」でも学習したが、この講義では、絵本選択のポイントや指導上の留意点に重　　点等について概説する。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第１５回　領域別等の指導方法（１）
【key words】
文字の導入、文字の認識、文字と音声とをつなぎ方、Small Talkの作り方
【授業概要】
○文字の導入
　・アルファベットの文字について、その導入の方法について概説する。「文字の認識」、「文字と音声とを　　つなぐ」、「文字を書く」など、このような手立ての順に学習を進めることについて説明する。。
○Small Talkの作り方
　・スモールトーク(Small Talk）の内容や作り方、活用方法や留意点などについて説明する。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次時の前期考査の準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
前期考査の準備が整う時間

第１６回　領域別等の指導方法（２）
【key words】
ペア・グループ活動の取り入れ方、ＩＣＴ教材の活用方法と視聴覚教材の利用法、特別な支援が必要な児童への指導法、ユニバーサルデザイン
【授業概要】
○ペア、グループ活動の取り入れ方
　・ペア活動やグループ活動は、主体的で深い学び（アクティブラーニング）の指導には欠かせない手法であ　　ることを理解するとともに、それぞれの活動を取り入れる際の留意点について概説する。
○ＩＣＴ教材の活用方法と視聴覚教材の利用法
　・ＩＣＴの活用能力は、教師にとって不可欠な資質として求められる。そこで、ＩＣＴ機器の活用の仕方や　　留意点等について概説する。
○特別な支援が必要な児童への指導法
　・障害のある児童への学習活動を行う際の障害の程度の確認、留意点などについて概説する。
○ユニバーサルデザイン
　・児童一人ひとりの学習を保障するユニバーサルデザインとい考えを基に、児童の英語学習について考察す　　る。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第１７回　授業づくり
【key words】
授業前の準備、単元における本時の位置付けの明確化、教材研究、学習指導案（本時の展開部分）の作成、単元の評価規準に基づき本時に行う評価活動と評価方法の確認、指導過程の留意点
【授業概要】
○授業前の準備
　・授業前の準備として、学習指導案を作成、指導内容や指導手順を明確化、学習のねらいなどの確認など、　　自信をもって授業に臨むための留意点などについて概説する。

○単元における本時の位置付けの明確化や教材研究
・本時の単元内での位置付けの明確化や教材研究などを進めることにより、児童にとって分かりやすい、ま　た指導者にとって明確な学習過程となるよう、要点や留意点について説明する。
○学習指導案（本時の展開部分）の作成や評価活動と評価方法の確認
・学習指導案の作成にあたっては、「ねらいに合った活動や活動形態を選択する」「児童が興味・関心を持　ち、互いの個性に気付く活動を取り入れる」など、作成する際の留意点や評価活動についても概説する。
○指導過程全体や各指導過程における留意点
・指導過程に関わる留意点について説明し、理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第１８回　児童の興味・関心、意欲を高める指導
【key words】
児童の学習意欲の喚起、学習に対する動機付け、期待・自己効力、英語学習に対する関心・意欲・態度の育成と持続、中学年の児童への動機付けのための
指導、高学年の児童への動機付けのための指導

【授業概要】
○児童の学習意欲の喚起
・児童の「やる気」「学習意欲」「動機付け」についての諸研究を紹介するとともに、理解を促す。
○学習に対する動機付け
・学習に対して価値を見出していることが学習意欲に影響することについて概説する。
○英語学習に対する関心・意欲・態度の育成と持続
・英語学習に対する関心や意欲を高める工夫について学習する。
○中学年、高学年の児童への動機付けのための指導
・中学年、高学年の児童への動機付けのための指導について学習し、留意点についての理解を深める。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第１９回　指導過程と学習指導案
【key words】
学習指導案の位置付け及び役割、指導過程、学習指導案の構成と作り方、指導案例
【授業概要】
○学習指導案の位置付け
・単元における各単位時の位置付けを明確にし、学習指導案を作成することが大事であり、学習指導案の意　義や位置付けについて概説する。
○学習指導案の役割
・学習指導案の役割としては、「学習指導・授業の設計図としての役割」や「授業研究の資料としての役　割」などがあり、それぞれについて説明する。
○指導過程
・45分を１単位時間とする指導過程において、どのような活動が行われるかについて、活動ごとに概説す　る。
○学習指導案の構成と作り方
・学習指導案は、学級担任が作成するが、外国語教育ではＴＴの指導形態が多いため、ＡＬＴや特別非常勤　講師等と、役割や個々の指導内容について明確にしておく必要である。基本的な学習指導案やＴＴの指導　案の作成について説明する。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

第２０回　４技能に係る指導方法及び留意点（１）
【key words】
「聞くこと」の指導、「話すこと」の指導
【授業概要】
○「聞くこと」の指導
・言語教育において、「聞くこと」は４技能の中でも基本となるものである。これは母語を身に付ける過程　からも理解できる。これと同様に小学生が初めて英語に触れるとき、最も大切なことは日本語と英語の音　の相違に気付かせことが重要であることなど、「聞くこと」の指導事項について学習する。
○「話すこと」の指導
・「話すこと」は、「やり取り」と「発表」の２つの領域に分かれている。それぞれの指導における重要事　項について学習する。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】

復習、模擬授業の準備をする。
【予習復習に必要な想定時間】
模擬授業の準備が整う時間

２１回　模擬授業（外国語活動）
【key words】
指導案づくり、模擬授業、話し合い、授業改善
【授業概要】
グループに分かれ、外国語活動についての指導案を書き、それぞれのグループが指導者役となり模擬授業をする。授業後に、その授業に対して、課題や改善などについて、全体で話し合い、より質の高い授業となるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、英語活動に係る資料、小学校英語科教科書等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次時の模擬授業の準備をする。授業をした者は模擬授業について課題や改善について再度確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
模擬授業の準備が整う時間

２２回　模擬授業（外国語活動）
【key words】
指導案づくり、模擬授業、話し合い、授業改善
【授業概要】
グループに分かれ、外国語活動についての指導案を書き、それぞれのグループが指導者役となり模擬授業をする。授業後に、その授業に対して、課題や改善などについて、全体で話し合い、より質の高い授業となるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、英語活動に係る資料、小学校英語科教科書等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次時の模擬授業の準備をする。授業をした者は模擬授業について課題や改善について再度確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
模擬授業の準備が整う時間

２３回　模擬授業（外国語活動）
【key words】
指導案づくり、模擬授業、話し合い、授業改善
【授業概要】
グループに分かれ、外国語活動についての指導案を書き、それぞれのグループが指導者役となり模擬授業をする。授業後に、その授業に対して、課題や改善などについて、全体で話し合い、より質の高い授業となるようにする。
【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、英語活動に係る資料、小学校英語科教科書等
【課題・予習・復習・授業準備指示】
次時の模擬授業の準備をする。授業をした者は模擬授業について課題や改善について再度確認しておく。
【予習復習に必要な想定時間】
模擬授業の準備が整う時間

２４回　まとめテスト②
【key words】
第１６回～第２０回までの講義内容の理解や習得についての確認
【授業概要】
○第１６回～第２０回までの講義内容について、特に、重要なポイントにつてまとめのテストを行う。
【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
第１６回～第２０回までの資料等をよく読んで理解してください。
【予習復習に必要な想定時間】
理解が確認できる時間

２５回　４技能に係る指導方法及び留意点（２）
【key words】
「読むこと」の指導、「書くこと」の指導
【授業概要】
○「読むこと」の指導
・アルファベットの文字を読む際には、「聞くこと」をしっかり指導した後に、文字を読ませるようにする　　ことが大事であり、過度に読むことを強いることは英語嫌いを生み出すことになりかねないなど、「読む　　こと」についての指導法や留意点などについて学習する。
○「書くこと」の指導
・高学年で扱う「書くこと」の指導については、児童にとって最も難しく、抵抗感のある技能である。書く　　活動を積極的に、楽しく取り組めるように指導の方法や工夫などについて概説する。

【教科書ページ・参考文献】
自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書
【課題・予習・復習・授業準備指示】
予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。
【予習復習に必要な想定時間】
３０分程度

２６回　評価の在り方、進め方（１）
【key words】
評価の意義、評価の進め方、評価規準の作成、学習評価の進め方、さまざまな評価方法と進め方
【授業概要】
○評価の意義

	・評価については、順位付けや優劣を付けるための評価ではなく、指導改善のための評価、目標に沿った評　　価であることが望ましい。評価の持つ意義や指導との関わりなどについて説明する。 〇評価の進め方 ・単元おける評価の進め方や評価方法、内容のまとまりごとに評価規準を作成することなど、授業展開と関　　連付け、評価の進め方について概説する。 〇評価方法 ・絶対評価や相対評価、個人内評価など、個々の評価方法について理解を深める。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書 【課題・予習・復習・授業準備指示】 予習は特にありません。復習時に、今回学習した内容について確認し、理解を深めるようにする。 【予習復習に必要な想定時間】 ３０分程度
２７回	評価の在り方、進め方（２） 【key words】 児童の発表や行動観察による評価、自己評価、パフォーマンス評価、ポートフォリオ評価、評価の活かし方と留意点 【授業概要】 〇児童の発表や行動観察による評価 ・授業中の学習活動の様子をよく観察し、できたこと、頑張ったことを取り上げ、肯定的に評価するなど、　　児童の学習意欲を高めるためにも適切な評価が大事であることなど、評価方法について概説する。 〇パフォーマンス評価やポートフォリオ評価など ・それぞれの評価の特徴や実際の授業での活用の仕方など、具体的に学習する。特に、児童の意欲や変容な　　どを評価する際の重点や留意点について理解を深める。 〇評価の活かし方 ・外国語活動や外国語科では、他の教科同様、ねらいや指導と評価を一体化させることが大事であることな　　ど、評価の活かし方や留意点について説明する。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 復習、模擬授業の準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 模擬授業の準備が整う時間
２８回	模擬授業（外国語科） 【key words】 指導案づくり、模擬授業、話し合い、授業改善 【授業概要】 グループに分かれ、外国語科についての指導案を書き、それぞれのグループが指導者役となり模擬授業をする。授業後に、その授業に対して、課題や改善などについて、全体で話し合い、より質の高い授業となるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次時の模擬授業の準備をする。授業をした者は模擬授業について課題や改善について再度確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 模擬授業の準備が整う時間
２９回	模擬授業（外国語科） 【key words】 指導案づくり、模擬授業、話し合い、授業改善 【授業概要】 グループに分かれ、外国語科についての指導案を書き、それぞれのグループが指導者役となり模擬授業をする。授業後に、その授業に対して、課題や改善などについて、全体で話し合い、より質の高い授業となるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次時の模擬授業の準備をする。授業をした者は模擬授業について課題や改善について再度確認しておく。 【予習復習に必要な想定時間】 模擬授業の準備が整う時間
３０回	模擬授業（外国語科） 【key words】 指導案づくり、模擬授業、話し合い、授業改善 【授業概要】 グループに分かれ、外国語科についての指導案を書き、それぞれのグループが指導者役となり模擬授業をする。授業後に、その授業に対して、課題や改善などについて、全体で話し合い、より質の高い授業となるようにする。 【教科書ページ・参考文献】 自作資料、学習指導要領（小学校）、小学校英語科教科書等 【課題・予習・復習・授業準備指示】 次時の後期考査の準備をする。 【予習復習に必要な想定時間】 後期考査の準備が整う時間
受講生に関わる情報および受講のルール	１　本講義は、教育実習の際に役に立つ知識や情報、技能等についての基礎・基本となるものである。 ２　遅刻や欠席は事前に必ず届出ること。また、教育実習との関わりから、欠席は３回以上の場合は

	実習が認められない　こと。また、遅刻が多いことや授業中の態度が悪い場合も、教育実習が中止となることを認識し、熱心な受講態度を求　める。 ３　本講義である外国語（英語）指導法をより充実させるためにも、随時、２年生で学習した外国語（英語）教育に関わ　る概論を見直しをすること。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	自己評価カード、コメントカード
授業外時間にかかわる情報	１　模擬授業を行う場合には、前週までに必要な要件を記入して提出すること。（指導案等が必要な場合には、事前に項 目説明や内容の的確性について説明する。）授業者の学生は、発表により気付いた点、成果と課題、改善に向けての視 点等、必要項目を記述し、次回授業日までに提出すること。 ２　授業を行った生徒は、自己評価及び他の生徒らの観察記録や感想等をまとめ、教材への理解を深めたり、学習への意 欲を付けたりする。
オフィスアワー	授業終了後３０分
評価方法	定期試験　学期末試験（筆記試験）を行う。また、随時、ミニテストも行う。 学期末試験（50%）、レポート（30%）、ミニテスト（20%）
教科書	文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　外国語活動編」開隆堂 文部科学省：「小学校学習指導要領（平成29年3月公示）解説　外国語編」開隆堂
参考書	・文部科学省：小学校外国語活動教材「Let’s Try!1」「Let’s Try!2」、小学校外国語教材「We Can!1」「We Can!2」、それらのデジタル教材（DVD） ・児童用外国語教科書、その他、講義の中で随時紹介する。
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 □実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 小学校の教員として、１１年、中学校教員として１７年、群馬県教育委員会指導主事として４年、安中市教育委員会学校教育課指導担当として３年、この間、英語教育や英語指導の実務を担当してきた。 アクティブラーニング要素 ■PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 □情報モラルに関する教育 □課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） □情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 □ICTを活用した双方向型の授業の実施 □e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容

講義科目名称： カウンセリング（心理演習）　　授業コード：S3182

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4年次	2単位(30)	社会福祉コース・学校教育コース・児童福祉コース・初等教育コース・選択／福祉心理コース・必修
担当教員			
植原　美智子			
添付ファイル			

授業の目的・到達目標	［授業の目標］ 　社会福祉士や精神保健福祉士、公認心理師に代表される対人援助職の援助技法として，カウンセリング技法やアセスメント結果、支援計画の伝達等の基本的技能と研鑽の方法についてロールプレイを通じて理解し，一定の水準で技法を意図的に使用できるようになること。 ［到達目標］ ①カウンセリングにおける「聴くこと」に関する基礎的な技能を修得すること。 ②対人援助場面における「伝えること」に関する基礎的な技能を修得すること。 ③自分の「聴き方」「伝え方」の特徴を把握し，その振り返りと自己研鑽の計画が立てられるようになること。
授業の概要	対人援助において、目の前の相手との間に信頼関係を築き、その語りに耳を傾け、求めている援助ニーズを的確に捉え、支援計画や情報を伝えることは重要な課題である。本講義では、こうしたコミュニケーションの基本的な技法について確認した上で、カウンセリングの中核である「聴くこと」と「伝えること」の実践的なトレーニングを行う。講義は演習とロールプレイを中心に進める予定であり、受講生間でのロールプレイの実施、振り返り、記録の作成を通じて技能の習得を目指す。

各学科、専攻、コースにおけるDP	科目における重要度
(社会福祉)社会福祉・福祉心理・学校教育から求められる専門職としての高い知識及び技能を修得している。	
(社会福祉)社会福祉サービス等を必要としているクライエントのニーズに応えるための熱い志を有している。	
(社会福祉)様々なニーズに的確に応え、実践へと繋げるより高い能力・技術力を有している。	
(社会福祉)関連領域の専門機関・専門職との連携を図りクライエントの幸福度の向上に資する行動がとれる。	
(社会福祉)常に倫理綱領を基本とし、社会福祉に関する専門職としての資質向上のための探究心を有している。	
(社会福祉)クライエントの満足度向上に資するための強靭な精神力を有している。	
(社会福祉)常に社会の動向を把握し、そこから得られる知見を積み重ね専門職としてのキャリアアップに心がけられる。	◎
(社会福祉)新たな政策の提言等によりクライエントの幸福度のさらなる向上に資する能力を有している。	
(社会福祉)既存の制度の十分な活用ができるとともに、新たな支援を創造することができる。	
(子ども)子どもの福祉・教育に関する知識・技能を習得し、子どもをとりまく課題について考察できる。	
(子ども)子どもの発達上の課題を見出し、その支援方法を言語化・文章化できる。	
(子ども)子どもの最善の利益を尊重できる専門職としての職業倫理を身につけている。	
(子ども)子どもの発達に影響を与える家庭や地域の課題を見出し、その解決に向けた支援を行う意欲を持っている。	
(子ども)修得した知識・技能・態度を役立て、子どもの支援に対し協働して臨むことができる。	◎

授業計画	第１回	科目オリエンテーションと授業契約及びカウンセリングとは 【key words】 カウンセリングの技法、理論的背景 【授業概要】 ・講師および授業内容の紹介、成績評価の説明 ・これまでに学んでいる相談援助技術と「カウンセリング技法」との関連について理解し、この授業での学びについてイメージを深める。 ・グループワーク等の試行。 【教科書ページ・参考文献】 教科書：p1-12. 【課題・予習・復習・授業準備指示】 講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
	第２回	カウンセリング技法の理論的背景・効果・機能するための条件 【key words】 カウンセリング技法の大別、人間性中心理論、社会的影響条件 【授業概要】 カウンセリングの技法の理論的背景、技法に期待される効果、技法がその機能を発揮するための条件について理解する。 【教科書ページ・参考文献】

教科書：p1-12.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第３回　クライエントの観察技法
【key words】
身振り、表情、生理反応や容姿、声と話し振り、スペースと時間
【授業概要】
カウンセリングの基盤となるクライエントの観察技法について、非言語要素ごとの特徴とその検討について講義と演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p13-23.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第４回　傾聴技法①全体説明と明確化
【key words】
傾聴技法、理解とフィードバック、ラポール形成、明確化
【授業概要】
カウンセリング技法の中心となる傾聴技法の目的を理解し、傾聴技法についてイメージを持つ。また、明確化技法についての講義・演習を行う。

【教科書ページ・参考文献】
教科書：p25-30
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第５回　傾聴技法②明確化と感情反映
【key words】
明確化、感情反映、感情と生理的変化、感情の背景にある動機と欲求
【授業概要】
傾聴技法「明確化」と「感情反映」について講義・演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p27-35.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第６回　傾聴技法③言い換えと要約
【key words】
思考と事実、発言の簡略化、フィードバック、意図的
【授業概要】
傾聴技法とは何か、聴き方の基礎技術を学ぶ。その上で、傾聴技法「言い換え」と「要約」について講義・演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書：p35-40.
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第７回　カウンセリング技法の訓練方法
【key words】
ロールプレイ、スキル、模倣学習、抵抗の処理
【授業概要】
カウンセリング技法の訓練方法について講義と演習を通じて理解を深める。さらに、いくつかの技法をロールプレイにおいて、繰り返し使ってみる。カウンセリングにおける有効な技法とは何か、技法を効果的にするカウンセラーの態度とはどのようなものか、体験的に学ぶ。
【教科書ページ・参考文献】
教科書pp129-139.
参考書：氏原寛・藤田博康（2014）「ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ」創元社
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第８回　カウンセリング技法を実践・振り返る①傾聴技法
【key words】
ロールプレイ、明確化、感情反映、言い換え、要約
【授業概要】
これまでに取り上げた4つの傾聴技法を用いた模擬面接（ロールプレイ）を受講生間で実施し、傾聴技法の理解の度合いについて知識と実践から振り返る。クライエントのあいまいな思考や感情・行動・態度をはっきりさせていく明確化によって、カウンセラーの理解をクライエントに確認することを体験する。

【教科書ページ・参考文献】
教科書p25-40
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第９回　活動技法①探索と矛盾提示
【key words】
活動技法、探索（開放型／閉鎖型）、情報収集、クライエントの言動の不一致
【授業概要】
傾聴技法によるラポール形成の次の段階であるクライエントのより深い理解を目的としたカウンセリング技法として、4つの活動技法を学ぶ。また、この4つの活動技法のうち，探索と矛盾提示を取り上げ、演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p41-49
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１０回　活動技法②解釈と情報提供
【key words】
高度な共感、仮説の提起、心理教育、意図的応答
【授業概要】
活動技法はクライエントに深い洞察や情報を与えることを目的としている。探索・矛盾提示・解釈・情報提示の4技法を使うことにより、クライエントが認識しない感情、行動のパターを明らかにすることができる。本講義では活動技法の「解釈」と「情報提供」について講義・演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p49-58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１１回　カウンセリング技法を実践・振り返る②傾聴技法と活動技法
【key words】
ロールプレイ、傾聴技法、活動技法
【授業概要】
これまでに取り上げた傾聴技法と活動技法を用いた模擬面接（ロールプレイ）を受講生間で実施し、それぞれの技法の理解について実践から振り返る。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p25-40，41-58
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１２回　さまざまなカウンセリング技法
【key words】
リフレーミング、語調反射、自己開示、反復、沈黙
【授業概要】
これまでに学んだ傾聴技法、活動技法には分類されていない技法について、講義と演習を通じて理解を深める。
【教科書ページ・参考文献】
教科書p59-80
【課題・予習・復習・授業準備指示】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１３回　模擬面接①実施
【key words】
傾聴技法、活動技法、観察技法
【授業概要】
これまでに講義で取り上げた技法について各自の目標を設定し、模擬面接を行う。
【教科書ページ・参考文献】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。
【課題・予習・復習・授業準備指示】
実施した模擬面接の振り返り（例：逐語録またはワークシートなど）の完成
【予習復習に必要な想定時間】
30～60分

第１４回　模擬面接②振り返り
【key words】
傾聴技法、活動技法、観察技法
【授業概要】
前回行った模擬面接の振り返りについてグループディスカッションを行う。グループで話し合った結果を報告し、フィードバックを受ける。
【教科書ページ・参考文献】
講義前にテキスト該当群を読み、内容・用語調べをして、まとめる。レポート提出する。授業終

	了後は復習し、次回の予習を行うこと。授業の冒頭でミニテストを行うことがある。 【課題・予習・復習・授業準備指示】 適宜指示 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分 第１５回　まとめ 【key words】 傾聴技法、活動技法、観察技法 【授業概要】 全15回講義の振り返りを行う。分析的理論による技法、実存・人間主義的理論による技法、認知理論による技法、行動理論による技法、システム理論による技法、特定の障害の治療を目的とした技法などの総括を行う。 【教科書ページ・参考文献】 適宜指示 【課題・予習・復習・授業準備指示】 定期試験に向けて復習をする。 【予習復習に必要な想定時間】 30～60分
受講生に関わる情報および受講のルール	〔受講生に関わる情報〕 ・受講生間でロールプレイやグループワークを行う講義であるため，遅刻／欠席については厳密に連絡を行うこと。 ・携帯電話やタブレット端末等は講義中、指示があった場合を除き、原則として使用しないこと。個別の事情がある場合には、各回の講義開始前に申し出ること。 ・教科書以外に、補助教材としてプリントを配布することが多いため、前述の課題とあわせて各自でA4版のフラットファイル等を用いて保管することが望ましい。 〔受講のルール〕 ・教科書を毎回持参すること。 ・遅刻／欠席については大学のルールに則り，事務局に講義開始前に連絡すること。 ・受講生への伝言等による連絡はトラブルを避けるため認めない。 ・事前に規定の方法で連絡があった欠席の場合のみ，配布資料やワークシートの再配布を行う。
毎回の授業に関する質問や学習の進捗状況の確認方法	コメントカード
授業外時間にかかわる情報	・参考図書や関連書籍を読み、授業内に解説したキーワードについて理解を深めること。 ・各授業の学習成果を確認するため，小レポートやミニテストを適宜行う予定である。復習をしっかりしておくこと。 ・各回の演習内容の振り返りをレポートとして課すため，授業内の指示に留意すること
オフィスアワー	火曜日　15:00～18:00 これ以外の時間は応相談
評価方法	■定期試験50%　■ミニテスト30%　■事前学習10%　■レポート課題の提出10%
教科書	大谷 彰（著）　カウンセリングテクニック入門 二瓶社（2004）.
参考書	氏原 寛・藤田博康（著）　ロールプレイによるカウンセリング訓練のかんどころ 創元社（2014）.
実務者経験/アクティブラーニング/リテラシー教育	授業担当教員 ■実務経験のある教員が担当している 具体的な実務経験の内容 臨床心理士・公認心理師として、精神科病院における心理面接・心理療法・心理アセスメント等の心理担当職員、教育機関のスクールカウンセラー、児童養護施設における心理療法担当職員など20年の実務経験を活かし，公認心理師・臨床心理士に必要な知識・技術・価値・倫理について講じる。また社会福祉士としてソーシャルワークにおける心理的援助について講じる。 アクティブラーニング要素 □PBL(課題解決型学習) ■ディスカッション・ディベート ■グループワーク ■プレゼンテーション □実習、フィールドワーク □アクティブラーニングは実施していない 情報リテラシー教育 ■情報モラルに関する教育 ■課題解決のために必要な情報を探索するもの（図書館利用法・文献探索・データベース活用法等） □情報を分析評価し整理するもの（情報処理、情報整理法等） ■情報のアウトプットに関するもの（レポート・論文の書き方、プレゼンテーション技法等） □情報リテラシー教育は実施していない ICTの活用 ■ICTを活用した双方向型の授業の実施 ■e-ラーニングなどICTを活用した自主学習支援 □その他 その他の具体的内容 ■コメントカードの実施。授業後、コメントカードを記入してもらい次回の授業で全員に説明する（質問提供者は匿名、授業の質問のほかに希望すること、問題点など）。 ■授業は基本的に双方向型。次回の授業についての事前学習をして授業に臨み、各グループでま

	とめ、代表者が発表する。コメントをもらう。